

令和2年度
授 業 概 要
(シラバス)

家政学部家政学科
家政学部生活美術学科



東北生活文化大学

シラバス項目の内容

項 目	内 容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の到達目標	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。 学位授与の方針との関連は、次のページを参照してください。
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内容を記載しています。
事前学習	授業時間外の予習について記載しています。
事後学習	授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能、履修したほうがよい関係科目、或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか、加味される要素を具体的に記載しています。 ただし、総授業回数の1/3をこえて欠席した場合はその時点で不合格となりますので、注意してください。
教科書	授業で使用する、受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。
参考書	参考書籍がある場合記載しています。

ナンバリング：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階、順序等をあらわします。



大分類：学科をあらわします。

中分類：科目の区分

小分類：科目群

A・・・服飾文化専攻

1・・・大学共通教養科目

B・・・健康栄養学専攻

2・・・基幹科目

C・・・生活美術学科

3・・・学科専攻科目

K・・・大学共通

4・・・教職に関する科目

5・・・博物館に関する科目

家政学科各専攻の学位授与の方針

服飾文化専攻

<知識・理解>

1. 基礎的な知識・学習能力を身につけること
2. 社会人として幅広い教養と専門的な知識を身につけること
3. 家政学の体系を理解するとともに、被服分野における高度な専門知識を身につけ、その知識体系の意義と社会生活を関連付けて服飾文化を理解できること

<汎用的技能>

4. 社会に貢献できる専門的スキル・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること
5. 主に服飾産業における様々な分野で活躍するために必要となるスキル・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること

<態度・志向性>

6. 社会で自律的に活動するために必要な自己教育力・倫理観・責任感・生涯学習力を身につけること
7. 演習・実習・実験等の実践的授業を通して、社会で自律的に活動するために必要な自己教育力・倫理観・責任感・生涯学習力を身につけること

<統合的な学習経験と創造的思考力>

8. これまでに獲得した知識・スキル・態度等を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につけること
9. これまでに獲得した知識・スキル・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけること

健康栄養学専攻

<知識・理解>

1. 基礎的な知識・学習能力を身につけること
2. 社会人としての幅広い教養と専門的な知識を身につけること
3. 家政学の体系を理解するとともに、健康・栄養・食物分野における高度な専門知識を身につけ、その知識体系の意義と社会生活を関連付けて理解できること

<汎用的技能>

4. 社会の貢献できる専門的スキル・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること
5. 医療・福祉領域における管理栄養士又は食品業界における健康・栄養の専門家として活躍するために必要なスキル・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること

<態度・志向性>

6. 社会で自律的に活動するために必要な自己管理能力・倫理観・責任感・生涯学習能力を身につけること
7. 演習・実習・実験等の実践的授業を通して、社会で自律的に活動するために必要な自己管理能力・プレゼンテーション能力・倫理観・責任感・生涯学習力を身につけること

<統合的な学習経験と創造的思考能力>

8. これまでに獲得した知識・スキル・態度等を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につけること
9. これまでに獲得した知識・スキル・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけること

生活美術学科の学位授与の方針

<知識・理解>

1. 基礎的な知識・学習能力を身につけること。
2. 社会人として幅広い教養と専門知識を身につけること。
3. 家政学の体系を理解するとともに、生活美術分野における高度な専門知識を身につけ、その知識体系の意味と美術を学ぶ意義を、文化・自然・社会とを関連付けて理解できること。

<汎用的技能>

4. 社会に貢献できる専門的スキル・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること。
5. 美術・工芸・デザインに関する職業や創造活動において、社会の問題に柔軟に対応し解決することができるコミュニケーション能力、論理的思考力、創造力・表現力を身につけること。

<態度・志向性>

6. 社会で自立的に活動するために必要な自己管理能力・倫理観・責任感・生涯学習能力を身につけること。
7. 生活と美の融合を志向し、自立的主体的に、他と協働責任を果たして地域社会の一員として責任を果たし、倫理観、生涯学習力を身につけること。

<統合的な学習経験と創造的思考力>

8. これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につけること。
9. これまでに獲得した知識・技能・態度および卒業研究等によって培った創造的思考力を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にこれらを適用しその課題を主体的に解決する能力を身につけること。

「実務経験のある教員による授業科目」一覧

服飾文化専攻

科目名	担当者
キャリア開発Ⅰ	水谷 浩
キャリア開発Ⅱ	水谷 浩
消費生活論	水谷 浩
ファッションビジネス実務実習	水谷 浩
マーケティング論	水谷 浩
起業・会社経営論	水谷 浩
情報処理Ⅰ	水谷 浩
情報処理Ⅱ	水谷 浩
家政特別講義Ⅳ	水谷 浩
服飾ビジネス特別演習	水谷 浩
専門研究Ⅰ	水谷 浩
課題研究Ⅱ	水谷 浩
基礎調理学実習Ⅰ	深澤 律子
基礎調理学実習Ⅱ	深澤 律子
食文化論	深澤 律子
キャリア開発Ⅲ	内海 陽子
色彩学	内海 陽子
ファッションビジネス論	内海 陽子
ファッション販売論	内海 陽子
コーディネート論	内海 陽子
アパレルCADⅠ	佐藤 理恵
アパレルCADⅡ	佐藤 理恵

健康栄養学専攻

科目名	担当者
解剖生理学Ⅰ	曾根 正彦
解剖生理学Ⅱ	曾根 正彦
病理学	曾根 正彦
解剖生理学実験	曾根 正彦他
臨床医学概論Ⅰ	曾根 正彦
臨床医学概論Ⅱ	曾根 正彦
微生物学	黒川 優子
食品衛生学	黒川 優子
基礎調理学実習Ⅰ	深澤 律子他
基礎調理学実習Ⅱ	深澤 律子他
応用調理学実習Ⅰ	深澤 律子他
応用調理学実習Ⅱ	深澤 律子他
学校栄養指導論	深澤 律子
臨床栄養学Ⅰ	高橋 文
臨床栄養学Ⅱ	高橋 文
臨床栄養指導論Ⅰ	高橋 文
臨床栄養指導論Ⅱ	高橋 文
臨床栄養学実習Ⅰ	高橋 文
臨床栄養学実習Ⅱ	高橋 文
臨床栄養学臨地実習Ⅰ	高橋 文
臨床栄養学臨地実習Ⅱ	高橋 文
健康栄養学総合演習Ⅰ	半澤真喜子・高橋文他
健康栄養学総合演習Ⅱ	半澤真喜子・高橋文他
健康栄養学総合演習Ⅲ	半澤真喜子・高橋文他
給食管理学	半澤 真喜子
給食経営学	半澤 真喜子
給食管理実習Ⅰ	半澤 真喜子
給食管理実習Ⅱ	半澤 真喜子
給食管理臨地実習Ⅰ	半澤 真喜子
給食管理臨地実習Ⅱ	半澤 真喜子
情報処理Ⅰ	水谷 浩
消費生活論	水谷 浩
学校食育概論	大槻 友子

「実務経験のある教員による授業科目」一覧

教科名	担当者
漆芸Ⅲ	井上 直美
技法研究Ⅱ	井上 直美
卒業研究Ⅰ	井上 直美
卒業研究Ⅱ	井上 直美
技法研究Ⅱ	森合 暢子
卒業研究Ⅰ	森合 暢子
卒業研究Ⅱ	森合 暢子
ガラスアートⅢ	山口 綾子
卒業研究Ⅰ	山口 綾子
卒業研究Ⅱ	山口 綾子
人形Ⅲ	福田 一実
技法研究Ⅱ	福田 一実
マンガⅢ	安孫子 三和
写真Ⅰ	飯沢 耕太郎
写真Ⅱ	飯沢 耕太郎

目 次

大学共通 教養科目

ナンバリング	科目名	開講期	対象学科・専攻・年	担当者	頁
K-1-a-01-1	化学Ⅰ	前期	服1	菅野 修一	1
B-1-a-01-1	化学Ⅰ	前期	健1	鈴木 裕行	2
K-1-a-02-2	化学Ⅱ	後期	服1	菅野 修一	3
B-1-a-02-2	化学Ⅱ	前期	健1	鈴木 裕行	4
K-1-a-03-1	有機化学Ⅰ	後期	服1	菅野 修一	5
B-1-a-03-1	有機化学Ⅰ	後期	健1	菅野 修一	6
K-1-a-04-2	有機化学Ⅱ	前期	服2	菅野 修一	7
B-1-a-04-2	有機化学Ⅱ	前期	健2	菅野 修一	8
K-1-a-05-1	生物学Ⅰ	前期	服・健1	堀江 佐知子	9
K-1-a-06-2	生物学Ⅱ	後期	健1・服4	堀江 佐知子	10
K-1-a-07-1	環境学	後期	服・健2	黒川 優子	11
K-1-a-08-1	統計学	後期	健1	池田 展敏	12
K-1-a-09-2	数学	前期	服・健1	池田 展敏	13
K-1-b-01-1	経済学	前期	服1・健4	星 雅博	14
K-1-b-02-1	社会学Ⅰ	前期	健4	庄司 一平	15
K-1-b-03-2	社会学Ⅱ	後期	健4	庄司 一平	16
K-1-b-04-1	歴史Ⅰ	前期	服1	栗原 伸一郎	17
K-1-b-05-2	歴史Ⅱ	後期	服1	栗原 伸一郎	18
K-1-b-06-1	日本国憲法	前期	服・健1	横田 尚昌	19
K-1-b-07-2	法学概説	後期	服1	横田 尚昌	20
K-1-c-03-2	心理学Ⅰ	前期	服・健1	植松 公威	21
K-1-c-04-2	心理学Ⅱ	後期	服・健1	植松 公威	22
K-1-c-06-1	生活文化論	前期	服1	今林 直樹	23
K-1-d-01-1	英語Ⅰ	前期	服・健1	佐藤 恵	24
K-1-d-02-2	英語Ⅱ	後期	服・健1	佐藤 恵	25
K-1-d-03-1	英会話Ⅰ	前期	服・健1	上之原 博子	26
K-1-d-04-2	英会話Ⅱ	後期	服・健1	上之原 博子	27
K-1-d-05-1	仏語Ⅰ	前期	健1	村山 茂	28
K-1-d-07-1	中国語	前期	健1	清水 浩一郎	29
K-1-d-08-1	日本語基礎	前期	服・健1	佐藤 深雪	30
K-1-d-09-2	国語表現法	後期	服・健1	佐藤 深雪	31
K-1-d-10-1	情報基礎学	前期	服・健2	松尾 広	32
K-1-e-02-2	スポーツ	通年	服1	池田信文・沼澤隆	33
K-1-e-02-2	スポーツ	通年	健1	沼澤隆・池田信文	34
K-1-e-03-3	武道	前期	服1	佐藤 淳一	35
A-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	服1	1年次担任 他 教職員	36
B-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	健1	1年次担任 他 教職員	37
K-1-f-02-2	ライフデザイン	後期	服・健1	佐々木 晃	38
A-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	後期	服1	水谷 浩	39
A-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	後期	服2	水谷 浩	40
B-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	前期	健1	鈴木 裕行	41
A-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	前期	服2	水谷 浩	42
B-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	前期	健2	川俣 幸一	43
A-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	前期	服3	内海 陽子	44
B-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	前期	健3	健康栄養学専攻全教員	45
A-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	後期	服3	水谷 浩	46
B-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	前期	健4	健康栄養学専攻全教員	47
C-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ (集中講義)	後期	生美3	川俣 正	48
K-1-f-07-1	キャリアサポートⅠ	通年	服・健・生美3	佐藤 淳一 他 教職員	49-50
K-1-f-08-2	キャリアサポートⅡ	前期	服・健・生美4	佐藤 淳一 他 教職員	51

家政学部基幹科目

ナンバリング	科目名	開講期	対象学科・専攻・年	担当者	頁
K-2-a-01-1	家政学原論	前期	服・健1	八巻 美智子	52
K-2-a-02-1	家族関係学	後期	服・健1	八巻 美智子	53
K-2-a-03-1	家庭経営学(家庭経済学を含む。)	前期	服・健1	前田 修也	54

服飾文化専攻科目

ナンバリング	科目名	開講期	担当者	頁
A-3-a-01-1-2	消費生活論	前期	水谷 浩	55
A-3-a-02-1-2	社会福祉論	後期	伊藤 常久	56
A-3-a-03-1-1	地域文化論	後期	栗原 伸一郎	57
A-3-a-04-2-1	美術史 I	前期	瀬戸 典彦	58
A-3-a-05-3-1	美術史 II	後期	瀬戸 典彦	59
A-3-b-01-1-1	被服学	前期	菊地 紗代	60
A-3-b-02-1-2	色彩学	後期	内海 陽子	61
A-3-b-03-1-2	日本服装史	前期	川又 勝子	62
A-3-b-04-2-2	染織文化史	後期	川又 勝子	63
A-3-c-01-1-1	被服機構・衛生学	後期	久慈 るみ子	64
A-3-c-02-1-1	スタートアップソーイング	前期	菊地 紗代	65
A-3-c-03-1-1	アパレル製図法 I (平面)	前期	菊地 紗代	66
A-3-c-04-2-1	アパレル製図法 II (応用)	後期	菊地 紗代	67
A-3-c-05-2-2	被服造形実習 I	前期	菊地 紗代	68
A-3-c-06-3-2	被服造形実習 II	後期	菊地 紗代	69
A-3-c-07-4-3	被服造形実習 III	通年	菊地 紗代	70
A-3-c-10-2-2	被服平面造形実習 I	前期	川又 勝子	71
A-3-c-11-3-2	被服平面造形実習 II	後期	川又 勝子	72
A-3-c-12-1-1	ファッションデザイン	後期	岡本 はるみ	73
A-3-c-13-2-3	ファッションデザイン画	前期	岡本 はるみ	74
A-3-c-14-2-2	アパレル設計論	後期	玉田 真紀	75
A-3-c-15-3-3	アパレル生産実習	後期	井上 美紀	76
A-3-c-16-1-4	アパレル企画設計演習	通年	菊地 紗代	77
A-3-c-17-2-2	アパレルCAD I	後期	佐藤 理恵	78
A-3-c-18-3-3	アパレルCAD II	前期	佐藤 理恵	79
A-3-c-19-3-2	服飾工芸・造形(服飾手芸) I	前期	横田 美和	80
A-3-c-20-3-2	服飾工芸・造形(服飾手芸) II	後期	横田 美和	81
A-3-c-21-3-4	服飾工芸・造形(織物) III	前期	横田 美和	82
A-3-d-01-1-1	被服繊維学	前期	菅野 修一	83
A-3-d-02-1-1	被服繊維学実験	後期	井上 美紀	84
A-3-d-03-2-1	被服材料学	後期	菅野 修一	85
A-3-d-04-2-2	被服材料学実験	前期	井上 美紀	86
A-3-d-05-2-2	被服整理学	前期	井上 美紀	87
A-3-d-06-3-2	被服整理学実験	後期	井上 美紀	88
A-3-d-07-2-2	染色加工学	後期	井上 美紀	89
A-3-d-08-3-3	染色加工学実験	前期	井上 美紀	90
A-3-d-09-3-3	染色学実習	通年	川又 勝子	91
A-3-d-10-2-3	テキスタイルデザイン I	後期	川又 勝子・横田 美和	92
A-3-d-11-3-4	テキスタイルデザイン II	後期	川又 勝子	93
A-3-e-01-1-2	ファッションビジネス論	前期	内海 陽子	94
A-3-e-02-4-3	アパレル品質管理論	後期	井上 美紀	95
A-3-e-03-3-3	アパレル消費科学	前期	井上 美紀	96
A-3-e-05-1-2	ファッション販売論	後期	内海 陽子	97
A-3-e-06-2-3	コーディネート論	前期	内海 陽子	98
A-3-e-07-1-1	ファッションビジネス実務実習	通年	水谷 浩	99
A-3-e-08-2-3	マーケティング論	前期	水谷 浩	100
A-3-e-09-3-3	起業・会社経営論	後期	水谷 浩	101
A-3-e-11-1-2	被服心理学	集中	内藤 章江	(集中講義) 102
A-3-e-12-2-3	情報処理 I	前期	水谷 浩	103
A-3-e-13-3-3	情報処理 II	後期	水谷 浩	104
A-3-f-01-2-2	食品学総論	前期	八巻 美智子	105
A-3-f-02-2-3	食品学各論	前期	佐藤 靖子	106
A-3-f-03-1-2	基礎栄養学	後期	鈴木 裕行	107
A-3-f-14-1-4	調理科学論	前期	佐藤 靖子	108
A-3-f-04-1-1	基礎調理学実習 I	前期	深澤 律子	109
A-3-f-05-1-1	基礎調理学実習 II	後期	深澤 律子	110
A-3-f-06-2-4	食文化論	後期	深澤 律子	111
A-3-f-07-1-2	食生活論	後期	小野 真実	112
A-3-f-08-1-3	住居学(製図を含む。)	前期	崎山 俊雄	113

A-3-f-09-1-4	住居デザイン	後期	山本 佳美	114
A-3-f-10-1-4	住文化論	前期	崎山 俊雄	115
A-3-f-11-1-3	保育学(実習及び家庭看護を含む。)	後期	香曾我部 琢	116
A-3-f-12-1-3	家庭電気・機械	後期	門田 和雄	117
A-3-f-13-4-3	家庭科教材研究	後期	植松 公威	118
A-3-g-01-1-1	家政特別講義 I	前期	植松 公威	119
A-3-g-01-1-2	家政特別講義 I	前期	植松 公威	
A-3-g-02-4-4	家政特別講義IV	通年	水谷 浩	120
A-3-g-03-2-2	家政特別演習(研修旅行)	通年	菅野 修一	(集中講義) 121
A-3-g-04-3-3	服飾ビジネス特別演習	通年	水谷 浩	122
A-3-g-05-3-3	服飾生活特別演習	通年	井上 美紀	123
A-3-g-06-4-3	専門研究 I	通年	菅野 修一	124
A-3-g-06-4-3	専門研究 I	通年	植松 公威	125
A-3-g-06-4-3	専門研究 I	通年	井上 美紀	126
A-3-g-06-4-3	専門研究 I	通年	川又 勝子	127
A-3-g-06-4-3	専門研究 I	通年	水谷 浩	128
A-3-g-06-4-3	専門研究 I	通年	宮前 理	129
A-3-g-06-4-3	専門研究 I	通年	宮澤 孝子	130
A-3-g-07-5-4	課題研究 II	通年	植松 公威	131
A-3-g-07-5-4	課題研究 II	通年	井上 美紀	132
A-3-g-07-5-4	課題研究 II	通年	水谷 浩	133

健康栄養学専攻科目

ナンバリング	科目名	開講期	担当者	頁
B-3-a-01-1-1	社会福祉論	後期	伊藤 常久	134
B-3-a-02-2-3	公衆衛生学Ⅰ	前期	伊藤 常久	135
B-3-a-03-3-3	公衆衛生学Ⅱ	後期	伊藤 常久	136
B-3-a-04-2-1	健康管理概論	前期	伊藤 常久	137
B-3-b-01-3-1	解剖生理学Ⅰ	後期	曾根 正彦	138
B-3-b-02-3-2	解剖生理学Ⅱ	前期	曾根 正彦	139
B-3-b-03-3-2	運動生理学	前期	川俣 幸一	140
B-3-b-04-1-2	微生物学	前期	黒川 優子	141
B-3-b-05-1-1	生化学Ⅰ	後期	鈴木 裕行	142
B-3-b-06-2-2	生化学Ⅱ	前期	鈴木 裕行	143
B-3-b-07-3-2	病理学	後期	曾根 正彦	144
B-3-b-08-3-3	解剖生理学実験	後期	川俣 幸一・曾根 正彦	145
B-3-b-09-3-3	生化学実験	前期	鈴木 裕行	146
B-3-b-10-3-3	臨床医学概論Ⅰ	前期	曾根 正彦	147
B-3-b-11-3-3	臨床医学概論Ⅱ	後期	曾根 正彦	148
B-3-c-01-2-2	食品学総論	前期	八巻 美智子	149
B-3-c-02-2-2	食品学各論	後期	佐藤 靖子	150
B-3-c-03-1-1	食品学実験Ⅰ	前期	八巻 美智子	151
B-3-c-04-2-1	食品学実験Ⅱ	後期	八巻 美智子	152
B-3-c-05-3-3	食品機能学	後期	村本 光二	153
B-3-c-06-3-3	食品加工学	後期	佐藤 靖子	154
B-3-c-07-3-3	食品加工実習	後期	佐藤 靖子	155
B-3-c-08-1-3	食品衛生学	前期	黒川 優子	156
B-3-c-09-2-3	食品衛生学実験	後期	鈴木 裕行	157
B-3-c-10-2-2	調理科学論	後期	佐藤 靖子	158
B-3-c-11-2-3	調理科学実験	前期	佐藤 靖子	159
B-3-c-12-1-1	基礎調理学実習Ⅰ	前期	平本 福子・深澤 律子	160
B-3-c-13-2-1	基礎調理学実習Ⅱ	後期	平本 福子・深澤 律子	161
B-3-c-14-3-2	応用調理学実習Ⅰ	前期	宮地 洋子・深澤 律子	162
B-3-c-15-4-2	応用調理学実習Ⅱ	後期	宮地 洋子・深澤 律子	163
B-3-c-16-3-2	食文化論	後期	宮地 洋子	164
B-3-d-01-1-1	基礎栄養学	後期	鈴木 裕行	165
B-3-d-02-1-2	栄養生化学	後期	鈴木 裕行	166
B-3-d-03-1-2	栄養学実験	前期	鈴木 裕行	167
B-3-e-01-2-2	応用栄養学Ⅰ	前期	川俣 幸一	168
B-3-e-02-2-2	応用栄養学Ⅱ	後期	川俣 幸一	169
B-3-e-03-2-2	栄養管理論	後期	川俣 幸一	170
B-3-e-04-2-2	応用栄養学実習Ⅰ	前期	川俣 幸一	171
B-3-e-05-2-2	応用栄養学実習Ⅱ	後期	川俣 幸一	172
B-3-f-01-1-1	食生活論	後期	小野 真実	173
B-3-f-02-2-2	栄養教育論	前期	小野 真実	174
B-3-f-03-2-2	栄養指導論	後期	小野 真実	175
B-3-f-04-1-3	保健栄養学	前期	栗山 孝雄	176
B-3-f-05-3-2	栄養情報処理演習	後期	小野 真実	177
B-3-f-05-3-3	栄養情報処理演習	前期	小野 真実	
B-3-f-05-3-4	栄養情報処理演習	前期	栗山 孝雄	178
B-3-f-06-3-3	栄養指導論実習	前期	小野 真実	179
B-3-g-01-3-2	臨床栄養学Ⅰ	前期	高橋 文	180
B-3-g-02-3-2	臨床栄養学Ⅱ	後期	高橋 文	181
B-3-g-03-3-3	臨床栄養指導論Ⅰ	前期	高橋 文	182
B-3-g-04-4-3	臨床栄養指導論Ⅱ	後期	高橋 文	183
B-3-g-05-1-3	臨床栄養学実習Ⅰ	前期	高橋 文	184
B-3-g-06-2-3	臨床栄養学実習Ⅱ	後期	高橋 文	185
B-3-h-01-2-3	公衆栄養学	前期	栗山 孝雄	186
B-3-h-02-2-3	公衆栄養学実習	後期	栗山 孝雄	187
B-3-h-03-3-4	地域栄養活動演習Ⅰ	前期	栗山 孝雄	188
B-3-h-04-3-4	地域栄養活動演習Ⅱ	後期	栗山 孝雄	189
B-3-i-01-1-2	給食管理学	前期	半澤 真喜子	190
B-3-i-02-1-4	給食経営学	前期	半澤 真喜子	191

B-3-i-03-2-2	給食管理実習 I	後期	半澤 真喜子	192
B-3-i-04-3-2	給食管理実習 II	後期	半澤 真喜子	193
B-3-j-01-1-3	健康栄養学総合演習 I	前期	栗山孝雄・半澤真喜子・高橋文	194
B-3-j-02-2-3	健康栄養学総合演習 II	後期	栗山孝雄・川俣幸一・小野真実・半澤真喜子・高橋文	195
B-3-j-03-3-4	健康栄養学総合演習 III	後期	栗山孝雄・川俣幸一・小野真実・半澤真喜子・高橋文	196
B-3-k-01-5-3	給食管理臨地実習 I	前期	半澤 真喜子 (臨地実習)	197
B-3-k-02-5-3	給食管理臨地実習 II	前期	半澤 真喜子 (臨地実習)	198
B-3-k-03-5-4	臨床栄養学臨地実習 I	前期	高橋 文 (臨地実習)	199
B-3-k-04-5-4	臨床栄養学臨地実習 II	後期	高橋 文 (臨地実習)	200
B-3-k-05-5-4	公衆栄養学臨地実習 I	通年	栗山 孝雄 (臨地実習)	201
B-3-k-06-5-4	公衆栄養学臨地実習 II	通年	栗山 孝雄 (臨地実習)	202
B-3-l-01-1-1	被服学	前期	菊地 紗代	203
B-3-l-02-1-2	被服造形実習 I	前期	菊地 紗代	204
B-3-l-03-2-2	被服造形実習 II	後期	菊地 紗代	205
B-3-l-04-1-3	住居学(製図を含む。)	前期	崎山 俊雄	206
B-3-l-05-1-3	保育学(実習及び家庭看護を含む。)	後期	香曾我部 琢	207
B-3-l-06-1-3	家庭電気・機械	後期	門田 和雄	208
B-3-l-07-2-3	情報処理 I	前期	水谷 浩	209
B-3-l-08-1-2	消費生活論	前期	水谷 浩	210
B-3-l-09-4-3	学校栄養指導論	後期	深澤 律子	211
B-3-l-10-1-3	学校食育概論	前期	大槻 友子	212
B-3-m-01-3-3	セミナー I	後期	健康栄養学専攻教員	213
B-3-m-02-4-4	セミナー II	後期	健康栄養学専攻教員	214
B-3-m-03-1-1	家政特別講義 I	通年	川俣幸一・高橋文	215
B-3-m-04-2-2	家政特別講義 II	後期	小野真実・八巻美智子	216
B-3-m-05-3-3	家政特別講義 III(臨地栄養学演習)	後期	栗山孝雄・半澤真喜子・高橋文	217
B-3-m-06-4-4	家政特別講義 IV(臨地栄養学演習)	前期	栗山孝雄・高橋文	218
B-3-m-07-5	課題研究 平成29年度入学生	3年後期~4年通年	鈴木 裕行	219
B-3-m-07-5	課題研究 平成29年度入学生	3年後期~4年通年	佐藤 靖子	220
B-3-m-07-5	課題研究 平成29年度入学生	3年後期~4年通年	曾根 正彦	221
B-3-m-07-5	課題研究 平成29年度入学生	3年後期~4年通年	小野 真実	222
B-3-m-07-5	課題研究 平成29年度入学生	3年後期~4年通年	栗山 孝雄	223
B-3-m-07-5	課題研究 平成29年度入学生	3年後期~4年通年	半澤 真喜子	224
B-3-m-07-5	課題研究 平成29年度入学生	3年後期~4年通年	川俣 幸一	225
B-3-m-07-5	課題研究 平成29年度入学生	3年後期~4年通年	深澤 律子	226
B-3-m-07-5	課題研究 平成29年度入学生	3年後期~4年通年	八巻 美智子	227
B-3-m-07-5	課題研究 平成29年度入学生	3年後期~4年通年	宮澤 孝子	228

生活美術学科専攻科目

ナンバリング	科目名	開講期	担当者	頁
C-3-a-05-3-3	洋画Ⅲ	前期	北折 整	229
C-3-a-08-3-3	日本画Ⅲ	前期	安住 英之	230
C-3-a-11-3-3	版画Ⅲ	前期	大堀 恵子	231
C-3-a-14-3-3	壁画Ⅲ	前期	森 敏美	232
C-3-b-05-3-3	彫刻Ⅲ	前期	佐藤 淳一	233
C-3-c-08-3-3	陶芸Ⅲ	前期	立花 布美子	234
C-3-c-11-3-3	漆芸Ⅲ	前期	井上 直美	235
C-3-c-14-3-3	染織Ⅲ	前期	佐々木 輝子	236
C-3-d-07-3-3	視覚デザインⅢ	前期	三上 秀夫	237
C-3-d-10-3-3	情報デザインⅢ	前期	鶴巻 史子	238
C-3-e-01-1-3	地域工芸論	後期	今林 直樹	239
C-3-f-03-2-3	ガラスアートⅢ	前期	山口 綾子	240
C-3-f-06-2-3	人形Ⅲ	前期	福田 一実	241
C-3-f-09-2-3	マンガⅢ	前期	安孫子 三和	242
C-3-f-12-2-3	図学Ⅰ	前期	湯目 俊彦	243
C-3-f-13-2-3	図学Ⅱ	後期	湯目 俊彦	244
C-3-f-14-1-3	写真Ⅰ	前期	飯沢 耕太郎 (集中講義)	245
C-3-f-15-1-3	写真Ⅱ	後期	飯沢 耕太郎 (集中講義)	246
C-3-g-01-1-3	美術教諭試験対策講座Ⅰ	後期	佐々木 晃	247
C-3-g-02-2-4	美術教諭試験対策講座Ⅱ	前期	佐々木 晃	248
C-3-g-03-1-3	アート支援Ⅰ	前期	瀬戸 典彦 (集中講義)	249
C-3-g-04-2-3	アート支援Ⅱ	後期	瀬戸 典彦 (集中講義)	250
C-3-h-01-4-3	技法研究Ⅰ-a	前期	生活美術学科全教員	251
C-3-h-02-4-3	技法研究Ⅱ	後期	北折 整 洋画	252
	技法研究Ⅱ	後期	佐藤 淳一 彫刻	253
	技法研究Ⅱ	後期	森 敏美 壁画	254
	技法研究Ⅱ	後期	三上 秀夫 視覚デザイン	255
	技法研究Ⅱ	後期	瀬戸 典彦 論文	256
	技法研究Ⅱ	後期	鶴巻 史子 情報デザイン	257
	技法研究Ⅱ	後期	大堀 恵子 版画	258
	技法研究Ⅱ	後期	佐々木 輝子 染織	259
	技法研究Ⅱ	後期	立花 布美子 陶芸	260
	技法研究Ⅱ	後期	安住 英之 日本画	261
	技法研究Ⅱ	後期	井上 直美 漆芸	262
	技法研究Ⅱ	後期	森合 暢子 グラスアート	263
	技法研究Ⅱ	後期	福田 一実 人形	264
	技法研究Ⅱ	後期	鹿野 明子 マンガ	265
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ	前期	北折 整 洋画	266
	卒業研究Ⅰ	前期	佐藤 淳一 彫刻	267
	卒業研究Ⅰ	前期	森 敏美 壁画	268
	卒業研究Ⅰ	前期	三上 秀夫 視覚デザイン	269
	卒業研究Ⅰ	前期	瀬戸 典彦 論文	270-271
	卒業研究Ⅰ	前期	鶴巻 史子 情報デザイン	272
	卒業研究Ⅰ	前期	大堀 恵子 版画	273
	卒業研究Ⅰ	前期	佐々木 輝子 染織	274
	卒業研究Ⅰ	前期	立花 布美子 陶芸	275
	卒業研究Ⅰ	前期	落合 里麻 木工	276
	卒業研究Ⅰ	前期	鈴木 専 洋画	277
	卒業研究Ⅰ	前期	安住 英之 日本画	278
	卒業研究Ⅰ	前期	井上 直美 漆芸	279
	卒業研究Ⅰ	前期	森合 暢子 グラスアート	280
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ	前期	山口 綾子 グラスアート	281
	卒業研究Ⅱ	前期	福田 一実 人形	282
	卒業研究Ⅱ	前期	鹿野 明子 マンガ	283
	卒業研究Ⅱ	前期	安孫子 三和 マンガ	284
	卒業研究Ⅱ	後期	北折 整 洋画	285
	卒業研究Ⅱ	後期	佐藤 淳一 彫刻	286
	卒業研究Ⅱ	後期	森 敏美 壁画	287
	卒業研究Ⅱ	後期	三上 秀夫 視覚デザイン	288
	卒業研究Ⅱ	後期	瀬戸 典彦 論文	289-290
	卒業研究Ⅱ	後期	鶴巻 史子 情報デザイン	291
	卒業研究Ⅱ	後期	大堀 恵子 版画	292
	卒業研究Ⅱ	後期	佐々木 輝子 染織	293
	卒業研究Ⅱ	後期	立花 布美子 陶芸	294
	卒業研究Ⅱ	後期	落合 里麻 木工	295
卒業研究Ⅱ	後期	鈴木 専 洋画	296	
卒業研究Ⅱ	後期	安住 英之 日本画	297	
卒業研究Ⅱ	後期	井上 直美 漆芸	298	
卒業研究Ⅱ	後期	森合 暢子 グラスアート	299	
卒業研究Ⅱ	後期	山口 綾子 グラスアート	300	

	卒業研究Ⅱ	後期	福田 一実	人形	301
	卒業研究Ⅱ	後期	鹿野 明子	マンガ	302
	卒業研究Ⅱ	後期	安孫子 三和	マンガ	303
C-3-h-06-5-4	卒業研究特別講義Ⅰ	前期	立花 布美子・落合 里麻		304
C-3-h-07-5-4	卒業研究特別講義Ⅱ	後期	立花 布美子・落合 里麻		305
C-3-i-05-1-3	生活美術特別講義Ⅴ (集中講義)	前期	佐藤 寛知・鶴巻 史子		306
C-3-i-06-1-3	生活美術特別講義Ⅵ (集中講義)	後期	小野寺 良枝		307

教職に関する科目

	科目名	開講期	学年	担当者	頁
K-4-b-01-2	教育原理	前期	家政・美表2	宮澤 孝子・山沢 智樹	308
K-4-a-01-1	教職概論	後期	家政・美表1	笠間 賢二	309
K-4-b-02-2	教育心理学	前期	家政・美表2	宮前 理	310
K-4-b-03-3	教育制度論	前期	家政・生美3	宮澤 孝子	311
K-4-c-01-2	教育課程論	前期	家政・美表2	中島 夏子・宮澤 孝子	312
K-4-c-02-3	家庭科教育法Ⅰ	通年	家政3	佐藤 郷美	313-314
K-4-c-03-4	家庭科教育法Ⅱ	通年	家政4	深澤 律子	315-316
C-4-b-01-2	美術科教育法Ⅰ	通年	生美3	加美山 裕子	317-318
C-4-b-01-2	美術科教育法Ⅱ	通年	生美4	加美山 裕子	319-320
C-4-b-01-2	工芸科教育法	通年	生美3	瀬戸 典彦	321-322
K-4-c-04-2	道徳教育の指導法	前期	家政・生美3	加美山 裕子	323
K-4-c-05-2	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	前期	家政・美表2	須藤 由子	324
K-4-c-06-3	教育方法論	後期	家政・美表2	清水 禎文・松尾 広	325
K-4-d-01-3	生徒指導の理論と方法A(進路指導の理論及び方法を含む。)	後期	家政・生美3	沼山 博・佐々木 晃	326
B-4-d-02-3	生徒指導の理論と方法B	前期	健専3	沼山 博・佐々木 晃	327
K-4-d-02-2	教育相談	後期	家政・生美3	宮前 理	328
K-4-f-01-5	教職実践演習(中・高)	後期	家政・生美4	宮前 理・植松 公威・宮澤 孝子	329
B-4-f-02-5	教職実践演習(栄養教諭)	後期	健専4	宮前 理・植松 公威・宮澤 孝子	330

博物館に関する科目

	科目名	開講期	学年	担当者	頁
K-5-a-01-2	生涯学習概論	後期	服専・美表1	伊藤 優	331
K-5-a-02-2	博物館概論	前期	服専・美表1	伊藤 優	332
K-5-a-03-4	博物館経営論	前期	服専・生美3	笠原 信男	333
K-5-a-04-3	博物館資料論	後期	服専・美表2	菊地 逸夫	334
K-5-a-05-3	博物館資料保存論	前期	服専・美表2	及川 規	335
K-5-a-06-4	博物館展示論	後期	服専・生美3	笠原 信男	336
K-5-a-07-3	博物館情報・メディア論	後期	服専・美表2	佐藤 泰美	337
K-5-a-08-2	博物館教育論	後期	服専・美表1	伊藤 優	338
K-5-a-09-5	博物館実習Ⅰ(学内・見学実習を含む。)	通年(前)	服専・生美3	菊地 逸夫	339
	博物館実習Ⅰ(学内・見学実習を含む。)	通年(後)	服専・生美3	三上 秀夫	340

大学 共通 教養 科目

授業科目名	化学 I				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	菅野 修一	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服1年						
授業概要															
<p>私たちの衣・食・住すべてに化学物質が関与しており、化学の知識なくしては現代の快適な生活はあり得ない。化学 I では、生活全般に密接に結び付いた化学の基礎的な内容を紹介する。さらに、身の回りを化学の目で見ると習慣が身につくよう、化学の面白さや興味深さについても紹介する。さらには、原始時代から今日に至るまでの人間生活の進歩が、化学の発展の歴史と明確にリンクしていることの理解を深めることで、今日の日常生活の奥深さを認識させ、その一つのベースとなっている化学の幅の広さについても繰り返し説明する。</p>															
授業の到達目標					学位授与の方針との関連										
					1	2	3	4	5	6	7	8	9		
物質についての基本的理解（原子・分子の本質）					○	○	○		○					○	
生活と化学の関係の理解					○	○	○								○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）										
1. 科学と化学の関係					教科書指定ページの熟読。										
2. 物質とは何か、物質を粒子としてみる					教科書指定ページの熟読。										
3. 元素の周期表と原子の構造					教科書指定ページの熟読。										
4. 量子力学の歴史と基本的な概念					教科書指定ページの熟読。										
5. 電子と化学結合					講義ノートの総まとめ（1回目）。										
6. 身の回りの物質、無機物と有機物					教科書指定ページの熟読。										
7. 身の回りの物質、混合物と化合物					教科書指定ページの熟読。										
8. 混合物と化合物					教科書指定ページの熟読。										
9. 原子・分子の世界におけるモルの概念					教科書指定ページの熟読。										
10. 物質の状態と温度、状態変化とエネルギー					講義ノートの総まとめ（2回目）。										
11. 化学反応と電子					教科書指定ページの熟読。										
12. 電子の不思議（粒子としての電子・波としての電子）					教科書指定ページの熟読。										
13. 水の化学					課題を指定。										
14. 環境と化学、分析化学の紹介					教科書指定ページの熟読。										
15. 身の回りの高分子化合物					講義ノートの総まとめ（3回目）。										
履修上の注意															
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。															
成績評価方法・基準															
小テスト 30%、課題レポート 30%、課題プレゼンテーション 40%を総合的に評価する。小テストは毎回添削。															
教科書 [教養としての化学入門] [Kimberley Waldron] [化学同人] [3000 円]															
参考書 必要に応じて個別に紹介する。															
備考															
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。															

授業科目名	化学 I			単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)							
担当者	鈴木 裕行	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健 1 年						
授業概要															
健康栄養学専攻の管理栄養士養成課程で履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の学修は、栄養素／食品成分の構造・性質・機能を理解することが基本であり、そのためには「物質の構造・性質と変化」を取り扱う学問である化学の基礎知識が不可欠である。この授業では、各受講者の化学についてのこれまでの履修状況・理解度に合わせて、ごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して、今後の専門科目の理解に必要な基礎力の向上を図る。															
授業の到達目標					学位授与の方針との関連										
					1	2	3	4	5	6	7	8	9		
1. 化学一般の基礎的な知識を身につける。					○		○								
2. 関連する練習問題を解答できるようにする。					○		○								
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)										
1. 健康・栄養・食品と化学					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…①										
2. 物質を構成する粒子															
3. 元素の周期律と周期表															
4. 原子の構造															
5. イオンと分子															
6. イオン性化合物～化学式の書き方															
7. 物質質量：原子量・分子量・モルとは					①に加え、これまでの授業内容(練習問題)を全て復習する。										
8. [中間試験]、物質質量：原子量・分子量・モルの計算					①に加え、試験でできなかったところをよく復習する										
9. 試験の解説、原子価と電子式															
10. 化学反応と反応式の作り方					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…①										
11. 化学反応式を用いた計算															
12. 化学結合と分子構造：共有結合・イオン結合・水素結合															
13. 化学結合と電気陰性度															
14. 酸と塩基					①に加え、これまでの授業内容(練習問題)を全て復習する										
15. [期末試験]、中和反応					①に加え、試験でできなかったところをよく復習する										
16. 試験の解説、中和反応と塩の生成															
履修上の注意															
今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。															
成績評価方法・基準															
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点(受講態度・提出物)・・・10%															
教科書 ゼロからはじめる化学、立屋敷 哲、丸善(株)出版事業部、2,200円+税															
参考書 無し															
備考															
「キャリア開発 I」がこの授業に関連した問題演習の授業なので、併せて履修することが強く望まれる。試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。															

授業科目名	化学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	菅野 修一	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服1年				
授業概要													
<p>化学Ⅰで学んだ基礎をもとに、我々の生活を支える多くの化学物質、生命を支える食料としての物質、エネルギーに関する物質、さらに地球のこれまでの進化と環境に関連する大気や水や土壌に関連する化学について述べ、その反応と諸現象との関連を講義する。合わせて、暮らしを豊かにしてくれる化学について概観する。一方、原始時代から今日に至るまでの人間生活の進歩が、化学の発展の歴史と明確にリンクしていることの理解を深めることで、今日の日常生活の奥深さを認識させ、その一つのベースとなっている化学の幅の広さについても繰り返し説明する。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
自然界と化学の関係の理解。					○	○		○				○	○
生活と化学の関係の理解。					○	○		○				○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
2. 気体の圧力と沸騰					教科書指定ページの熟読。								
2. 蒸発と沸騰、気化熱					教科書指定ページの熟読。								
3. 水に溶けるものと油に溶けるものの違い					教科書指定ページの熟読。								
4. 過冷却、融解熱の実験					教科書指定ページの熟読。								
5. 化学反応熱などの熱とエネルギー					講義ノートの総まとめ（1回目）。								
6. 塩析と生体の機能					教科書指定ページの熟読。								
7. 酸と塩基、水素イオン濃度、酸塩基の強さ、中和反応					教科書指定ページの熟読。								
8. 酸化数、身の回りの酸化剤、還元剤					教科書指定ページの熟読。								
9. 角砂糖の燃焼と生体エネルギー					教科書指定ページの熟読。								
10. 酸化と還元、活性酸素					講義ノートの総まとめ（2回目）。								
11. 電子の移動と電池、燃料電池など各種電池					教科書指定ページの熟読。								
12. 太陽エネルギーと光合成					教科書指定ページの熟読。								
13. 光、波と粒子としての性質、電波と光					課題を指定。								
14. 物質の色、炎色反応					教科書指定ページの熟読。								
15. 高分子化合物、酸素の性質					講義ノートの総まとめ（3回目）。								
履修上の注意													
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。													
成績評価方法・基準													
小テスト 30%、課題レポート 30%、課題プレゼンテーション 40%を総合的に評価する。小テストは毎回添削。													
教科書 [教養としての化学入門] [Kimberley Waldron] [化学同人] [3000円]													
参考書 必要に応じて個別に紹介する。													
備考													
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。													

授業科目名	化学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)							
担当者	鈴木 裕行	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健1年						
授業概要															
健康栄養学専攻の管理栄養士養成課程で履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の学修は、栄養素／食品成分の構造・性質・機能を理解することが基本であり、そのためには「物質の構造・性質と変化」を取り扱う学問である化学の基礎知識が不可欠である。この授業では、化学Ⅰに引続き各受講者の化学についてのこれまでの履修状況・理解度に合わせて、ごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して、今後の専門科目の理解に必要な基礎力の向上を図る。															
授業の到達目標					学位授与の方針との関連										
					1	2	3	4	5	6	7	8	9		
化学一般の基礎的な知識・考え方を身につける。					○		○								
関連する計算問題を解答できるようにする。					○		○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）										
1. 中和反応と濃度計算					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…①										
2. 水素イオン濃度とpH															
3. 酸化と還元															
4. 酸化数と酸化還元反応															
5. 酸化剤・還元剤															
6. 金属元素のイオン化列と電池															
7. 物質の三態、気体の性質、気体の法則					①に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。										
8. [中間試験] 気体の状態方程式					①に加え、試験でできなかったところをよく復習する										
9. 試験の解説、気体の計算															
10. 溶液の性質					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…①										
11. 浸透圧、化学反応と熱・熱化学方程式															
12. 熱量変化の計算															
13. 有機化合物の基礎：構造式の書き方					①に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する										
14. 有機化合物の種類															
15. [期末試験]、生体の有機化合物															
16. 試験の解説、有機化合物の反応															
履修上の注意															
今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。															
成績評価方法・基準															
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%															
教科書 ゼロからはじめる化学、立屋敷 哲、丸善(株)出版事業部、2,200円＋税															
参考書 無し															
備考															
「キャリア開発Ⅰ」がこの授業に関連した問題演習の授業なので、併せて履修することが強く望まれる。試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。															

授業科目名	有機化学 I				単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)						
担当者	菅野 修一	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服1年						
授業概要															
<p>有機化学の基礎として、各原子の電子配置から解説する。特に炭素原子の $sp \cdot sp^2 \cdot sp^3$ の各混成軌道をはじめとする電子軌道の形が、分子の形に直接影響することを認識させ、それをベースに様々な基本となる有機化合物を紹介する。さらには、有機化合物の構造式から読み取れる様々な情報を読み取れるようにし、高分子化合物を含むより複雑な化合物の理解にまでつなげる。講義の適切な個所では、繰り返し有機電子論に触れ、有機化学反応と電子の関係に触れ、有機化学の奥深さも伝える。</p>															
授業の到達目標					学位授与の方針との関連										
					1	2	3	4	5	6	7	8	9		
原子と電子配置について理解。					○	○		○							
有機化合物の分子レベルでの理解。					○	○	○								○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)										
1. 日常生活における有機化学の重要性の認識について					教科書指定ページの熟読。										
2. 元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素					教科書指定ページの熟読。										
3. アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス					教科書指定ページの熟読。										
4. 分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手					教科書指定ページの熟読。										
5. 原子番号と電子の配列、イオン結合の復習					講義ノートの総まとめ (1回目)。										
6. 原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用					教科書指定ページの熟読。										
7. 分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体					教科書指定ページの熟読。										
8. 中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造					教科書指定ページの熟読。										
9. 炭素の二重結合、三重結合、種々の分子式					教科書指定ページの熟読。										
10. 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質					講義ノートの総まとめ (2回目)。										
11. 不飽和炭化水素、共有結合 (電子対結合)、電子対					教科書指定ページの熟読。										
12. 非共有電子対、配合結合、金属結合、不対電子					教科書指定ページの熟読。										
13. メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、 δ 結合、 π 結合					課題を指定。										
14. 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基					教科書指定ページの熟読。										
15. 分岐炭化水素とその命名法、慣用名					講義ノートの総まとめ (3回目)。										
履修上の注意															
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。															
成績評価方法・基準															
毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。小テストは毎回添削。															
教科書 [有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]															
参考書 必要に応じて個別に紹介する。															
備考															
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。															

授業科目名	有機化学 I				単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)										
担当者	菅野 修一	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健1年										
授業概要																			
<p>生命現象を分子レベルで理解するため、生体を構成している物質の分子構造、およびそれを組み立てている結合のしくみを知る事は必須である。化学 I・II で学んだことをもとに有機化学の基本概念を述べ、それらの分子の反応性を化学結合、とりわけ共有結合の電子の配置から説明し、それをもとに官能基の性質について講義する。一方、講義の適切な個所では、化学の基本となる量子論の考え方にも触れ、有機化学の奥深さも伝える。</p>																			
授業の到達目標					学位授与の方針との関連														
					1	2	3	4	5	6	7	8	9						
生体構成物質を理解する基礎となる簡単な有機化合物の理解。					○	○	○	○											○
化学結合と電子の関係の理解。					○				○	○									
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)														
1. 健康栄養学における有機化学の重要性の認識について					教科書指定ページの熟読。														
2. 元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素					教科書指定ページの熟読。														
3. アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス					教科書指定ページの熟読。														
4. 分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手					教科書指定ページの熟読。														
5. 原子番号と電子の配列、イオン結合の復習					講義ノートの総まとめ (1回目)。														
6. 原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用					教科書指定ページの熟読。														
7. 分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体					教科書指定ページの熟読。														
8. 中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造					教科書指定ページの熟読。														
9. 炭素の二重結合、三重結合、様々な分子式					教科書指定ページの熟読。														
10. 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質					講義ノートの総まとめ (2回目)。														
11. 不飽和炭化水素、共有結合 (電子対結合)、電子対					教科書指定ページの熟読。														
12. 非共有電子対、配合結合、金属結合、不對電子					教科書指定ページの熟読。														
13. メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、 δ 結合、 π 結合					課題を指定。														
14. 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基					教科書指定ページの熟読。														
15. 分岐炭化水素とその命名法、慣用名					講義ノートの総まとめ (3回目)。														
履修上の注意																			
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。																			
成績評価方法・基準																			
毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。																			
教科書 [有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]																			
参考書 必要に応じて個別に紹介する。																			
備考																			
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。																			

授業科目名	有機化学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)											
担当者	菅野 修一	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服2年											
授業概要																				
<p>有機化学Ⅰの講義を理解していることをベースに、有機化学の基礎として知っておく必要のある典型的な有機化合物を個別に解説していく。ここでは繰り返し化合物をボンドラインフォーミュラ・ダッシュフォーミュラ・コンデンスドフォーミュラで書けるよう説明し、さらには構造式から読み取れる化合物の性質を理解できるようにする。さらに、講義の適切な個所では、化学の基本となる量子論の考え方にも触れ、有機化学の奥深さも伝える。</p>																				
授業の到達目標					学位授与の方針との関連															
					1	2	3	4	5	6	7	8	9							
基本的有機化合物の理解。					○	○	○		○											○
有機化学反応の基礎の理解。					○	○	○													○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）															
1. 有機化合物の官能基、化合物の名称					教科書指定ページの熟読。															
2. アルコール、エーテル、エステルの一般的性質					教科書指定ページの熟読。															
3. アンモニア、アミン、アミノ酸の構造と性質					教科書指定ページの熟読。															
4. ケトン、カルボン酸の構造と性質、その関連性					教科書指定ページの熟読。															
5. アルデヒドの構造、還元性としての性質、アルコールとの関係					講義ノートの総まとめ（1回目）。															
6. 生体内のケトン体としての構造とその存在の意味付け					教科書指定ページの熟読。															
7. 芳香族炭化水素、アロマの語源、ナフタリン					教科書指定ページの熟読。															
8. 中間試験、アルカンの誘導體、ハロアルカン、トリハロメタン					教科書指定ページの熟読。															
9. 共有結合の分極、フロンガスとオゾン層の破壊					教科書指定ページの熟読。															
10. 求核的置換反応、脱離反応					講義ノートの総まとめ（2回目）。															
11. アミンの分類と性質、アンモニアの塩基性の意味					教科書指定ページの熟読。															
12. 第二級アミンと亜硝酸からニトロソアミンの生成およびその意味					教科書指定ページの熟読。															
13. アルコールの構造、多価アルコール、トリアシングリセロール					課題を指定。															
14. 不飽和有機化合物の性質と反応性					教科書指定ページの熟読。															
15. 共鳴と共鳴構造、酸の強弱との関係					講義ノートの総まとめ（3回目）。															
履修上の注意																				
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。																				
成績評価方法・基準																				
小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。																				
教科書 [有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]																				
参考書 必要に応じて個別に紹介する。																				
備考																				
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。																				

授業科目名	有機化学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)									
担当者	菅野 修一	必・選	管栄（必）	形態	講義	学期	前期	対象	健2年						
授業概要															
人間の生命維持に関連する現象は体内のタンパク質・糖質・脂質などが関連する代謝、つまりは複雑な化学反応によりもたらされる。生体の主構成物質の有機化合物の化学構造を理解し、さらにはその基本的有機化学反応について説明する。有機化合物の構造式から読み取れる様々な情報を読み取れるようにし、高分子化合物を含むより複雑な化合物の理解にまでつなげる。代謝に関する詳しい学習は生化学に譲るが、生化学の講義を理解するためには、この講義を理解することが前提となる。															
授業の到達目標					学位授与の方針との関連										
					1	2	3	4	5	6	7	8	9		
有機化学反応の基礎の理解。					○	○	○		○					○	
基礎となる有機化合物の理解。					○	○	○	○							○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）										
1. 有機化合物の官能基、化合物の名称					教科書指定ページの熟読。										
2. アルコール、エーテル、エステルの一般的性質					教科書指定ページの熟読。										
3. アンモニア、アミン、アミノ酸の構造と性質					教科書指定ページの熟読。										
4. ケトン、カルボン酸の構造と性質、その関連性					教科書指定ページの熟読。										
5. アルデヒドの構造、還元性としての性質、アルコールとの関係					講義ノートの総まとめ（1回目）。										
6. 生体内のケトン体としての構造とその存在の意味付け					教科書指定ページの熟読。										
7. 芳香族炭化水素、アロマの語源、ナフタリン					教科書指定ページの熟読。										
8. 中間試験、アルカンの誘導体、ハロアルカン、トリハロメタン					教科書指定ページの熟読。										
9. 共有結合の分極、フロンガスとオゾン層の破壊					教科書指定ページの熟読。										
10. 求核的置換反応、脱離反応					講義ノートの総まとめ（2回目）。										
11. アミンの分類と性質、アンモニアの塩基性の意味					教科書指定ページの熟読。										
12. 第二級アミンと亜硝酸からニトロソアミンの生成およびその意味					教科書指定ページの熟読。										
13. アルコールの構造、多価アルコール、トリアシングリセロール					課題を指定。										
14. 不飽和有機化合物の性質と反応性					教科書指定ページの熟読。										
15. 共鳴と共鳴構造、酸の強弱との関係					講義ノートの総まとめ（3回目）。										
履修上の注意															
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。															
成績評価方法・基準															
毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。															
教科書 [有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]															
参考書 必要なプリント配布															
備考															
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。															

授業科目名		生物学 I			単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)					
担当者	堀江 佐知子	必・選	必(健) 選(服)	形態	講義	学期	前期	対象	服・健 1年					
授業概要														
<p>生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。そして、その不思議さが進化した背景には、何らかの合理的な理由があると考えられる。</p> <p>地球が誕生し、その地球上で生命が受け継がれてきた道筋を学ぶことで、生き物の不思議さが進化してきた理由を探る講義であり、今までと違う新たな視点で生き物の不思議さを見ることができるようになること、「生物」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指す講義である。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。					○									
学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。										○		○		
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 講義内容および進め方や評価方法の説明					生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。									
2. 原始地球の誕生					地球の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
3. 地球と生命の誕生と進化					生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
4. 魚の進化					魚の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
5. 植物の進化 (植物の誕生)					植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
6. 植物の進化 (裸子植物の進化)					裸子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
7. 植物の進化 (被子植物の進化)					被子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
8. 哺乳類の誕生					哺乳類の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
9. 哺乳類の進化					哺乳類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
10. 鳥の進化					鳥の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
11. 昆虫の進化 (昆虫の誕生)					昆虫の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
12. 昆虫の進化 (昆虫の情報戦略)					昆虫の情報戦略について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
13. 昆虫の進化 (昆虫の共進化)					昆虫の共進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
14. 人類の進化					人類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
15. 講義のまとめ					講義内容をまとめる。									
16. 試験														
履修上の注意														
特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。														
成績評価方法・基準														
課題、レポート及び学期末の試験 (50%)、受講態度 (50% : 講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する) により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。														
教科書 無し														
参考書 無し														
備考														
質問等については、講義の終了時に受付ける。														

授業科目名		生物学 II			単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)					
担当者	堀江 佐知子	必・選	必 (健) 選 (服)	形態	講義	学期	後期	対象	健 1年 服 4年					
授業概要														
生物学は生物や生命現象を学ぶ自然科学である。本講義で扱う対象は細胞内の分子のようなマイクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで様々な生命現象を対象とする。本講義では、生命誕生から生物の一種として、ヒトの生物学的特徴を分子遺伝学や生理学、生態学等様々な視点から学んで行くことを通して、ヒトの普遍性や特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、生物学を多様な視点からとらえ、「生命」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指し講義を行う。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。					○									
学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。										○		○		
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 講義内容および進め方や評価方法の説明					生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。									
2. 生命の誕生					生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
3. ヒトの設計図、遺伝子					遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
4. 骨・筋肉					骨や筋肉について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
5. 肝臓					肝臓について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
6. 胃・腸					胃や腸について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
7. 心臓・血管					心臓や血管について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
8. 免疫					免疫について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
9. 脳と心 (知覚)					脳 (知覚) について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
10. 脳と心 (記憶)					脳 (記憶) について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
11. 脳と心 (こころの進化)					脳 (こころの進化) について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
12. 遺伝子 (日本人のルーツ)					遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
13. 遺伝子 (精神の設計図)					遺伝子 (精神の設計図) について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
14. 生物多様性と保全					生物多様性について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
15. 講義のまとめ					講義内容をまとめる。									
16. 試験														
履修上の注意														
特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。														
成績評価方法・基準														
課題、レポート及び学期末の試験 (50%)、受講態度 (50% : 講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する) により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う														
教科書 無し														
参考書 無し														
備考														
質問等については、講義の終了時に受付ける。														

授業科目名	環境学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)									
担当者	黒川 優子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健2年								
授業概要																	
日本各地で公害問題が多発した 1960～1970 年代の高度経済成長期から約半世紀が経過した今日では、法的な規制、汚染物質の浄化技術の発達、そして人々の環境に関する意識の向上のため、見た目の環境はかなり良くなったが、地球温暖化をはじめ、地球レベルで対策を講じなければならない課題も少なくない。したがって、環境問題に関する基礎的な知識を習得し、「環境を保全、修復するために何をすべきか」について理解を深めることが大切であり、これまでに取り組んできた調査・研究の成果を説明しながら講義を進める。																	
授業の到達目標						学位授与の方針との関連											
						1	2	3	4	5	6	7	8	9			
環境に関する基礎的知識を身に付ける。						○	○			○							
環境との関わり方の大切さについて理解を深める。						○	○			○							
環境問題に関する分野で興味を持った内容について調べ、レポートを提出する。						○	○			○							
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）											
1. 人間活動と環境とのかかわり						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。											
2. 環境変化に伴う異変						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。											
3. 化学物質汚染研究の基礎						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。											
4. 大気汚染						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。											
5. 水質汚染						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。											
6. 土壌汚染						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。											
7. 化学物質による汚染						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。											
8. 放射能汚染						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。											
9. 汚染物質の毒性と生体内での代謝						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。											
10. 内分泌攪乱物質						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。											
11. アセスメント手法						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。											
12. 飲料水と食品に関する今後の課題						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。											
13. ごみと廃棄物						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。											
14. エネルギー資源と環境問題						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。											
15. 環境活動の実践と環境倫理						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。											
16. 試験						授業内容を総復習して試験に臨むこと。											
履修上の注意																	
日頃から環境に関心・興味を持つように心がけ、新聞、テレビ、インターネット、書籍等で環境に関する情報について調べておく。																	
成績評価方法・基準																	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み（30%）、調査とレポートへの取り組み（30%）、試験（40%） ・提出された課題については、後日、添削して返却する。 																	
教科書																	
〔環境科学入門 第2版－地球と人類の未来のために〕〔川合真一郎・張野宏也・山本義和〕〔化学同人〕〔2,300円〕																	
参考書																	
<ul style="list-style-type: none"> ・〔川合真一郎〕〔環境ホルモンと水生生物〕〔成山堂書店〕〔1,600円〕 ・〔沈黙の春〕〔レイチェル・カーソン著、青樹築一訳〕〔新潮社〕〔766円〕 ・〔新装版 苦海浄土（くがいじょうど） わが水俣病〕〔石牟礼道子〕〔講談社〕〔690円〕 ・〔森は海の恋人〕〔島山重篤〕〔文芸春秋〕〔640円〕 																	
備考																	
<ul style="list-style-type: none"> ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。 																	

授業科目名	統計学				単位 (授業時間+自習時間)	2 (30+60)								
担当者	池田 展敏	必・選	必 (健)・選 (服)	形態	講義	学期	後期	対象	健1年					
授業の概要														
前半では、集団の性質を大局的にとらえるための基礎となる記述統計（度数分布、代表値、散布度、特に標準偏差、相関係数など）の初歩的事項について解説し、簡単な例で計算練習する。中盤では、統計学の応用のために不可欠な確率と確率分布（正規分布、t 分布、カイ二乗分布など）について説明する。後半では、確率論の応用として推定や検定など推測統計の考え方について説明する。特に、疫学研究に欠かせないクロス表集計の考え方について言及する。														
授業の目的(到達目標)					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
平均、標準偏差、相関係数などの意味と定義を理解し、その計算ができるようになる。					○									
就職試験に出題されるような、簡単な確率や数え上げの問題が解けるようになること。					○									
確率分布の種類について理解し、区間推定に応用できる。					○									
統計的検定の考え方を理解し、特定の例題が解ける。					○									
授業計画の内容					事前・事後学修の内容									
1. 序章：ガイダンス、統計学のイメージと概要（記述と推測）					教科書該当ページを読む。									
2. 1章：資料の整理（データと度数分布）					教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。									
3. 1章：資料の整理（ヒストグラム、データの代表値）					教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。									
4. 1章：資料の整理（散布度、偏差、分散、標準偏差、データの標準化）					教科書該当ページを読む。計算例の確認。									
5. 1章：資料の整理（散布図、共分散、相関係数）					教科書該当ページを読む。計算例の確認。									
6. 2章：確率（統計的確率と数学的確率、コイン投げ）					教科書該当ページを読む。散布図、計算例の確認。									
7. 2章：確率（順列や組み合わせなどの場合の数と確率）					教科書該当ページ、および、配布資料の復習									
8. 2章：確率（確率に関する演習）					教科書該当ページを読む。計算例の確認。									
9. 2章：確率（確率変数、確率分布、離散型の場合の平均値の定義）					該当ページを読む。									
10. 2章：確率（確率変数、連続型の場合の平均値の定義、分布表の使い方、%点）					1章の全体復習。1・2章提出課題に取り組む。 確率分布表の使い方確認									
11. 3章：なぜ正規分布が必要か。中心極限定理					教科書該当ページを読む。確率分布表の使い方確認。									
12. 4章：平均値の区間推定（分散既知の場合とそうでない場合）					教科書該当ページを読む。									
13. 4章：区間推定の演習問題					教科書該当ページを読む。ノートの復習。									
14. 5章：検定とはどんなものか（平均値の検定）					教科書該当ページを読む。プリントの復習。									
15. 5章：検定の具体例（クロス表を使ったカイ2乗検定）					教科書該当ページを読む。2~5章の課題の提出。									
16. 試験					提出課題を復習して臨むこと。									
履修上の注意 ：電卓が必要な時があるので持参すること。														
成績評価方法・基準 期末テスト（59%）。問題レポート（41%） レポートは後日添削して返却する。試験は試験後に解答例を配布する。														
教科書 後日指示する。														
参考書 なし														
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。														

授業科目名	数学				単位（授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	池田 展敏	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健1年					
授業の概要： 数学は自然科学だけでなく、文系の分野でも幅広く利用される道具としての意味もある。授業では、集合論、代数学、解析学、幾何学など数学の体系を説明する。特に、集合と写像が数学理論の出発点となり、2項演算の導入により代数学が、変換群の導入により幾何学が発展することを述べていく。加えて、微分・積分は現代社会において欠かせないツールになっていることも説明する。また、数学の理論と中学・高校で教えられる基礎的数学の関連性を、演習問題を通じ学習するようにする。														
授業の目的(到達目標)					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
数学に関する教養（歴史、分野、応用など）を修得する。						○								
集合の記法、写像の概念、関数のグラフ化、方程式の作り方や解き方を理解する。					○									
就職試験などで出題されるレベルの数学に慣れ、解ける。					○									
授業計画の内容					事前・事後学修の内容									
1. ガイダンス：数学の歴史と構成					板書の復習									
2. 集合と写像：集合の元の個数を比べるために集合から集合への写像を考える。					配布プリントの復習									
3. 無限集合の元の個数を比べること。					配布プリントの復習									
4. 集合に関する記法等の基礎事項					配布プリントの復習。									
5. 数と数直線。整数、有理数、無理数、実数					配布プリントの復習。集合と数の演習問題を解く。									
6. 移動と回転で幾何学模様を分類する。					配布プリントの復習。対称性の演習問題を解く。									
7. 回転操作と演算表。群の定義（代数学入門）					配布プリントの復習									
8. 2項演算と代数学。方程式が解けるために必要なこと。					配布プリントの復習。命題と論理に関する演習問題を解く。									
9. 一次方程式を作ったり解いたりする演習					配布プリントの復習。方程式に関する演習問題									
10. 速さと時間、距離。グラフを書く練習					配布プリントの復習									
11. 微分の定義					配布プリントの復習									
12. 数列と簡単な関数（一次関数、2次関数）の演習					配布プリントの復習。関数に関する演習問題									
13. 積分の意味					配布プリントの復習。									
14. 図形の面積、立体の体積					配布プリントの復習。幾何学に関する演習問題									
15. いろいろな幾何学。同じ図形とは何なのか考える。ユークリッド幾何、射影幾何、トポロジー					配布プリントの復習。全体レポートの提出									
履修上の注意：電卓が必要な時があるので持参すること。														
成績評価方法・基準 テーマごとに出す宿題の提出（40%）。レポート（60%）。問題プリントは後日添削して返却し、一部を授業中に解説する。レポートは、後日解答例を配布する。														
教科書 パワーポイントの資料を配布する。														
参考書 なし														
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。														

授業科目名	経済学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)							
担当者	星 雅博	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服1・健4年						
授業概要															
<p>日本は、戦後奇跡的な経済成長を遂げ、経済大国となった。だが、近年、近隣諸国の経済成長に伴い相対的に日本の国際的な経済力が低下してきており、国際的、多角的な視点で経済の動きを読める能力がますます求められてきている。また、日本は世界の中で最も早く高齢化が進んでいる国でもあり、生産人口の減少による経済成長率の鈍化が懸念されている。このような、内外の経済問題に対応するための知識を一国経済と国民の日常生活との関わりを通じて、講義では、経済学の基礎知識をもとに解説する。</p>															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
経済学を学習する上で必要な基礎知識を身につける。						○									
社会人としての専門的な知識を身につける、							○								
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス（経済学とは何か。）						経済学の考え方をまとめ次回提出する。									
2.社会の変容と経済理論の変遷、需要と供給						需要と供給の内容を次回提出する。									
3.消費者の選択と消費需要の決定						消費者選択の過程を次回提出する。									
4.企業の生産行動						生産行動の過程を次回提出する。									
5.余剰、企業の集中、市場の失敗						市場の失敗の具体例を次回提出する。									
6.国民所得とは						国民所得の定義をまとめ次回提出する。									
7.景気						景気の種類をまとめ次回提出する。									
8.財政						財政のしくみを次回提出する。									
9.金融						金融のしくみを次回提出する。									
10.財政・金融政策						財政・金融政策の効果を次回提出する。									
11.国際収支統計、国際通貨制度、貿易に関する基礎理論						国際通貨制度のしくみを次回提出する。									
12.国際経済機構と地域経済連携、EPAとODA						機構と連携の社会への影響を次回提出。									
13.戦後の国際経済制度						国際経済制度の変遷を次回提出する。									
14.日本経済の変遷						日本経済の変遷を次回提出する。									
15.経済史と経済学史						歴史から学ぶこれからの経済を提出。									
履修上の注意															
常に、新聞（経済・社会）に目を通し、現実の経済動向が講義の内容のどこに関連するかを意識する。															
成績評価方法・基準															
平常点80%（平常点は、授業への参加状況およびミニットペーパー等で総合的に判断する。）レポート20%（必ず提出すること。未提出の場合評価の対象外とする。）															
ミニットペーパー、レポートについては授業中にフィードバックを行う。															
教科書 ：事前にプリントを配布します。															
参考書 ：なし															
備考															
質問等については、授業終了時に受付けます。															

授業科目名	社会学 I					単位 (総授業時間+自習時間)	2(30+60)								
担当者	庄司 一平	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	健 4 年						
授業概要															
<p>各回 1 つのテーマについて、根本から考えなおす社会学入門。社会と個人に関する知識社会学の考え方を参考にしつつ、各トピックについて概説する。時代的变化という縦軸と、多様性という横軸とを組み合わせながら、近現代におけるさまざまな社会現象の歴史的因果関係と構造的特性を考える。基礎知識の習得だけでなく、〈社会学的なもの見方〉を用いることにより、自己と現代社会に対して批判的・多面的な問いかけを行うことを目的とする。</p>															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
社会に関する幅広い教養を身につける						○	○								
社会的コミュニケーション論をふまえた表現力を身につける									○						
社会学的なもの見方をふまえた思考力・判断力を養う											○		○		
授業計画の内容						事前学修：次回のキーワードを調べる									
						事後学修：配布資料を見直す									
1. イントロダクション						「社会」という言葉									
2. 自己と他者の社会学						アイデンティと役割理論									
3. 常識の社会学						制度・規範・統制・階層									
4. 自殺の社会学						社会的自殺とアノミー									
5. 経済の社会学						贈与と交換、資本主義と職業倫理									
6. 政治の社会学						権力と権威、自由・平等・正義									
7. 教育の社会学						学校化、再生産、科学と知識									
8. 家族の社会学						婚姻制度、近代家族論									
9. つながりの社会学						コミュニケーション論、社会関係資本論									
10. 倫理の社会学						基本的人権とヒューマニズム									
11. 宗教の社会学						呪術と儀礼、信念と信仰									
12. 不安の社会学						不安と恐怖、安心と安全									
13. 対立の社会学						連帯と分断、価値とイデオロギー									
14. 歴史の社会学						市民社会とさまざまな近代化									
15. まとめ						全体の振り返り									
履修上の注意： マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用し、時事問題や身近に起こった出来事、人々との関わりに普段から注意を向けておくこと。															
成績評価方法・基準： ①授業の理解度 (ミニットペーパー) [50%]、②レポート [50%] により総合的に評価する。①については授業中に適宜振り返りを行う。															
教科書： 使用しない。プリントを配布する。															
参考書															
① ピーター・L・バーガー『社会学への招待』ちくま学芸文庫、1,200 円+税。															
② ピーター・L・バーガー／トーマス・ルックマン『現実の社会的構成—知識社会学論考』新曜社、2,900 円+税。その他授業中に適宜紹介する。															
備考： 質問等は授業終業時に受け付ける。															

授業科目名	社会学Ⅱ					単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)						
担当者	庄司 一平	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	健4年						
授業概要															
人間としての生活と人生を、「時間」を手掛かりに社会的に考える。一日・一年・一生という時間の単位に基礎づけられた諸文化には、「年中行事」と「人生儀礼」が必ず存在する。「暦（こよみ）」にもとづいた生活のリズムや、「年齢」とともに変化する人生の諸段階について、伝統社会（民俗社会）と現代社会（市民社会）を対比しつつ解説する。さまざまな行動様式や価値観を客観的に理解し、生と死をめぐる諸問題について、主体的に考えることができるように講義をする。															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
社会に関する幅広い教養を身につける						○	○								
社会的想像力をふまえた表現力を身につける									○						
社会的想像力をふまえた思考力・判断力を養う											○		○		
授業計画の内容						事前学修：次回のキーワードを調べる				事後学修：配布資料を見直す					
1. イントロダクション						辞典における「時間」の語義									
2. さまざまな時間の考え方						直線的時間論・円環的時間論									
3. 諸宗教の時間論						起源と終末、聖と俗、祭祀と儀礼									
4. 暦						四季、新暦と旧暦、祝祭日									
5. 年齢と人の一生						年齢という制度・規範、年祝い									
6. こどもの社会学						祈願と祝いごと、学校の文化									
7. 若者の社会学						通過儀礼と「一人前」									
8. おとなの社会学						結婚と出産、家事と育児									
9. 老いの社会学						老いと文化、超高齢社会における人生									
10. 病気の社会学						創られた概念としての「病気」「健康」									
11. 医療とケアの社会学						医療化、キュアとケア									
12. 死の社会学（1）～死とは何か～						死の多義性、終末期と「お迎え」									
13. 死の社会学（2）～死の文化～						葬送と墓制、供養と悲嘆ケア									
14. 死後の社会学						他界観と信仰									
15. まとめ						全体の振り返り									
履修上の注意： マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用すること。身近な行事や儀礼、季節の変化や人々の時間の過ごし方に普段から注意を向けておくこと。															
成績評価方法・基準： ①授業の理解度（ミニットペーパー）[50%]、②レポート [50%] により総合的に評価する。①については授業中に適宜、振り返りを行う。															
教科書： 使用しない。プリントを配布する。															
参考書： 新谷尚紀・湯川洋司・波平恵美子（編）『暮らしの中の民俗学』1～3（吉川弘文館、2003年）、各2,600円＋税。その他授業中に適宜紹介する。															
備考： 質問等は授業終業時に受け付ける。															

授業科目名	歴史 I				単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)				
担当者	栗原 伸一郎	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服 1 年				
授業概要													
歴史資料は、過去にあった出来事を明らかにし、考えるための材料や根拠になるものである。本講義では、伊達政宗といった仙台ゆかりの人物に関する歴史資料をはじめ、仙台に関するさまざまな歴史資料を取り上げて、そこから明らかになる内容について説明する。その際、個々の歴史資料の特徴、作成された時代的背景や作成者の意図などに注目することで、歴史資料を読解するポイント、歴史を考える方法について講義する (単純な事項の暗記ではない)。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
①歴史に親しみ、さまざまな歴史資料があることを理解する。					○	○				○		○	
②歴史資料の性格を考え、そこから読み取ることができる内容を理解する。					○	○				○		○	
③歴史資料から歴史的事実を明らかにするための方法や留意点を理解する。					○	○				○		○	
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1. ガイダンス～講義の概要～					配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。								
2. 歴史資料に親しむ①伊達政宗の手紙①					配布プリントを再読し、『仙台市史』(資料編)などの書籍で政宗の手紙について調べる。								
3. 歴史資料に親しむ②伊達政宗の編纂記録					これまでの配布プリントを通読し、一次史料と編纂史料について整理する。								
4. 歴史資料に親しむ③地図					配布プリントを再読し、古地図に描かれた場所に足を運ぶ。								
5. 歴史資料に親しむ④新聞					配布プリントを再読し、過去の新聞について理解を深める。								
6. 歴史資料に親しむ⑤実物を見る					見学時、印象に残った歴史資料についてまとめ、提出する。								
7. 歴史資料を読み解く①公文書					宮城県公文書館に出向き、実際に公文書について調べる。								
8. 歴史資料を読み解く②石碑					配布プリントを再読し、身の周りに残る石碑について調べる。								
9. 歴史資料を読み解く③伊達政宗の手紙②					これまでの配布プリントを通読し、読解のポイントを整理する。								
10. 歴史資料を読み解く④日記					配布プリントを再読し、紹介した歴史資料の時代的な特徴について理解を深める。								
11. 歴史資料と人物像①伊達政宗と伝記					これまでの配布プリントを通読し、人物の伝記に目を通す。								
12. 歴史資料と人物像②伊達政宗と位					これまでの配布プリントを通読し、紹介した歴史資料の背景について理解を深める。								
13. 歴史資料と人物像③伊達政宗と祭					これまでの配布プリントを通読し、近代における政宗の捉え方について理解を深める。								
14. 歴史資料と人物像④伊達政宗と現代					これまでの配布プリントを通読し、インターネットで政宗がどのように取り上げられているのか確認する。								
15. 補論と総括～歴史資料を考える～					これまでの配布プリントを通読し、歴史資料を利用する際の留意点を考えてみる。								
16. 試験					試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。								
履修上の注意													
歴史Ⅱを受講する場合は、この講義を受講することが望ましい。地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。													
成績評価方法・基準													
平常点 (毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する) 30%													
小レポート (博物館の展示見学に関するもの) 20%													
期末試験 (論述形式、課題は事前に発表する) 50%													
ミニットペーパーや小レポートで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。													
教科書 毎回プリントを配布する。													
参考書 講義中に紹介する。													
備 考													
質問等は授業終了時に受け付ける。授業 1 回分として、博物館の展示見学を予定している。													

授業科目名	歴史Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	栗原 伸一郎	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服1年				
授業概要 歴史的事実の捉え方や評価は固定されているものではなく、同じ出来事や人物であっても、多様な叙述が可能であり、様々な歴史イメージを描くことができる。本講義では、日本における変革期である幕末維新时期に注目して、それが明治時代から現代までどのように認識され、語られてきたのかについて説明する。その際、人物像の時代的な変化について取り上げ、地域の視点でも歴史を捉えることで、多様な歴史イメージ、歴史を考える方法について講義する（単純な事項の暗記ではない）。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
①歴史事象は多様な解釈ができることを理解する。					○	○				○		○	
②歴史像が形成される過程や背景を理解する。					○	○				○		○	
③歴史事象を多角的に捉え、考える能力を身につける。					○	○				○		○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス～講義の内容～					配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。								
2. 幕末維新の歴史イメージ①時代劇					配布プリントを再読し、幕末維新に関する時代劇を観賞する。								
3. 幕末維新の歴史イメージ②教科書					配布プリントを再読し、高校の教科書や参考書などに目を通す。								
4. 幕末維新の歴史イメージ③一般書					配布プリントを再読し、現在どのような一般書が発行されているか確認する。								
5. 歴史像の形成①明治時代					配布プリントを再読し、明治政府の方針について理解を深める。								
6. 歴史像の形成②昭和戦前戦後					配布プリントを再読し、歴史観の変遷についてまとめる。								
7. 歴史像の形成③近代の東北地方					配布プリントを再読し、地域の歴史書に目を通す。								
8. 幕末維新の人物像①白虎隊					配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、白虎隊がどのように取り上げられているのか調べる。								
9. 幕末維新の人物像②新選組					配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、新選組がどのように取り上げられているのか調べる。								
10. 幕末維新の人物像③坂本龍馬					配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、坂本龍馬がどのように取り上げられているのか調べる。								
11. 幕末維新の人物像④玉虫左太夫					配布プリントを再読し、講義で取り上げた他の人物との相違について考える。								
12. 東北地方と幕末維新①幕末の政争と仙台藩					配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍で、仙台藩について理解を深める。								
13. 東北地方と幕末維新②新政府の誕生と戊辰戦争					配布プリントを再読し、書籍などで戊辰戦争に至る大まかな流れを確認する。								
14. 東北地方と幕末維新③奥羽越列藩同盟					配布プリントを再読し、奥羽越列藩同盟が結成される背景などについて理解を深める。								
15. 補論と総括～さまざまな歴史像～					初回からの配布プリントを再読し、歴史像が形成された背景を再確認し、歴史を捉える際の留意点について考えてみる。								
16. 試験					試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。								
履修上の注意 メディア等で幕末維新时期がどのように取り上げられているのか関心を持ち、高校で日本史を学んでいる場合は教科書を再読すること。受講する場合は、歴史Ⅰを受講することが望ましい。また、地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する可能性がある。													
成績評価方法・基準 平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）30% 期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）70% ミニットペーパーで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。													
教科書 毎回プリントを配布する。													
参考書 『仙台市史』（通史編）。その他は講義中に紹介する。													
備考 質問等は授業終了時に受け付ける。													

授業科目名		日本国憲法			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)					
担当者	横田 尚昌	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服・健1年					
授業概要														
憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールを定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利について判例の事実と裁判所の判断をみながら解説していきたい。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。						○								
憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。						○	○							
憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。							○							
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. 概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）						近代立憲主義の基本原則が日本国憲法のなかになかにどのように生きているのかを確認する。								
2. 天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）						日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）								
3. 選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）						選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。								
4. 国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）						国家とは、「国権の最高機関」とであると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。								
5. 内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）						政府の形態のいくつかの類型があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。								
6. 裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）						裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。								
7. 地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）						地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。								
8. 人権とは（1789年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）						そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のあり方を理解する。								
9. 人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）						憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する								
10. 幸福追求権と法の下での平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。）						幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。								
11. 内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。）						思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する								
12. 表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。）						表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。								
13. 経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。）						職業選択の自由と財産権の保障のあり方をみることを通じて日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。								
14. 生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。）						福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかに保障されているのか、またその限界について把握する。								
15. 参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。）						参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。								
履修上の注意 身近なところで、憲法にかかわる問題が日々生じていることを念頭に授業を進めますので、みなさんもニュースを継続的に見るように心がけてください。5回を超えて欠席（6回以上欠席）した場合は、理由のいかんを問わず単位修得ができないので注意すること。														
成績評価方法・基準 平常点40%（平常点は、授業時間中の勉強姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60%（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。														
教科書 特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）														
参考書 授業中に指示する。														
備考 オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。														

授業科目名	法学概説				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）					
担当者	横田 尚昌	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服1年					
授業概要														
この講義は、1年生を対象として様々な法分野のごく基本的な知識を提供することを目指すものです。我が国は法治国家といわれますが、実際にいかなる法令がどのように私たちをそして社会を規律しているのかについて詳らかに知ることは困難です。ただ、そうした中であっても、生活していくうえで、ちょっと知っておくと役立つ法律の知識というものがあります。そうしたことを、この講義では毎回ごとに最初に事例を掲げて、みなさんと問題意識を共有しながら解説していきます。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
法学一般の考え方が身についている。					○									
社会問題を法学という視点から考えることができる。					○	○								
さまざまな紛争をルールによって解決しようとする際に生ずる問題点について説明できる。						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. オリエンテーション														
2. みんなの法とわたしの法？					公法と私法の違いを把握したうえで、公法、私法それぞれの基本理念を整理し理解する。									
3. どうして約束は守らないといけないの？					自分の意思と相手方の信頼との関係を念頭におきつつ「約束を守らなければならない理由」を議論する理由を考える。									
4. 電車が遅れても切符の料金は戻ってこないの？					附合契約とは何かを把握したうえで、約款による契約を締結する際の注意点を整理する。									
5. どうして事故を起こしたら責任を負わされるの？					過失責任とは何かについて把握したうえで、無過失責任を設けるべき理由について考える。									
6. 子どものしつけと虐待はどこが違うの？					「しつけ」と「児童虐待」の違いを把握し、児童虐待があった場合の法的措置について理解する。									
7. 校長先生の決定には従わないといけないの？					日本国憲法が保障する信教の自由の意義について理解する。									
8. マンガやアニメを規制してもいいの？					青少年条例と憲法が保障する言論の自由との関係性を考える。									
9. どうして悪いことをした人に権利があるの？					被疑者や被告人に黙秘権が認められる理由について説明できるようにする。									
10. ギャンブルってやっちゃいけないの？					賭博(とばく)のような被害者なき犯罪を処罰する理由を整理する。									
11. 仕事ができないとクビにされるの？					解雇権濫用法理が問題となる場面を考えながら解雇規制について整理し理解する。									
12. 手で掴めないものにも権利があるの？					著作権の意義を理解し、私的複製に対する法的規制の在り方を把握する。									
13. 損害保険と生命保険のちがって何？					わずかな保険料(掛け金)を支払うだけで、保険事故を被ったときに多額の保険金を受け取ることが何故できるのかを整理し、保険の種類とそれぞれのしくみについて理解しておく									
14. 自動車保険のしくみ					自賠責保険と任意保険の関係と、任意保険には様々な保障が用意されていることを把握する。									
15. 株式会社って何？					株式会社の法的構造の基本となるところ、土台となるところを把握する。									
履修上の注意														
私たちの生活のどのようなところで、どのような法規制がどのような効果をもたらしているかを、日頃から気を付けてみておいてください。欠席数が明らかに多いと認められる者には単位を与えない。														
成績評価方法・基準														
平常点40%（平常点は、授業時間中の勉強姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60%（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。														
教科書 特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）														
参考書 授業中に指示する。														
備考														
オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。														

授業科目名	心理学 I			単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)						
担当者	植松 公威	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健1年					
授業概要														
心理学では経験的事実の観察や実験によって仮説の検証を行い、心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学が目指している目標や研究の特色、とりわけ条件操作的な仮説検証プロセスの意義について、実際の研究事例を紹介しながら解説する。後半では現代の心理学の背景として、行動主義心理学や社会的学習理論、精神分析学などを取り上げ、それぞれの理論を説明する。また、記憶の実験を体験することを通して記憶のメカニズムについて考える。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1 条件操作的な実験による仮説検証プロセスがこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようになる。					○	○								
2 行動主義心理学、社会的学習理論、精神分析学の各理論の人物名とキーワードを理解する。					○	○								
3 記憶のメカニズムについて感覚的記憶、短期記憶、長期記憶の関係を理解し、説明できるようになる。					○	○								
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. ガイダンス (教授内容と教育目標)					シラバスを熟読すること。									
2. 条件操作的な実験の重要性についてー「利口な馬ハンス」の話などー					資料を熟読し、要点をまとめること。									
3. 心理学の目標と研究のプロセス					資料やノートを復習し、要点をまとめること。									
4. 説得における「一面 (片面) 提示」と「二面 (両面) 提示」の効果ー					実験の結果を理解し、考察ついてまとめること。									
5. 認知的不協和理論について					実験の結果を理解し、考察ついてまとめること。									
6. 現代の心理学の背景① 行動主義心理学 (ワトソンの理論)					資料とノートを復習し、要点をまとめること。									
7. 現代の心理学の背景② 行動主義心理学 (スキナーの理論)					資料とノートを復習し、要点をまとめること。									
8. 現代の心理学の背景③ 社会的学習理論 (バンデュラの理論)					資料とノートを復習し、要点をまとめること。									
9. 現代の心理学の背景④ 精神分析 (フロイトの理論)					資料とノートを復習し、要点をまとめること。									
10. 精神分析における自我防衛のメカニズム					資料を熟読し、専門用語を理解すること。									
11. 自我防衛のメカニズムに関する練習問題と解説					資料を熟読し、練習問題に取り組むこと。									
12. まとめの小テスト					あらかじめ復習してテストに臨むこと。									
13. 記憶の実験 ー系列位置曲線と系列位置効果ー					実験結果の考察を考え、レポートすること。									
14. 記憶のしくみ ー感覚的記憶・短期記憶・長期記憶ー					ノートを見直し、専門用語を理解すること。									
15. エビングハウスの忘却曲線について					資料とノートを見直し、感想をまとめること。									
16. 試験					試験対策の学習をすること。									
履修上の注意														
毎回、ミニットペーパーに感想やわかったこと、わからなかったことなどを書いて提出すること。														
成績評価方法・基準														
レポート課題 20%、試験 80%														
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。														
各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う予定である。														
授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。														
教科書 授業の中で資料 (プリント) を配布する。														
参考書 授業の中で適宜、紹介する。														
備考														
質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。														

授業科目名		心理学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)						
担当者	植松 公威	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健1年						
授業概要															
「性格はどのようにして測定されるか」、「性格は変えることができるか」というテーマについて講義する。とりわけ、性格検査（心理テスト）の種類とそれぞれの長所・短所について実習をとりいれながら講義する。また、性格検査を使わずに他者の性格を推測するときに注意すべきことや陥りやすい誤った判断について解説する。性格を変えるための認知療法や交流分析といった心理療法についても実習形式で学べるようにする。講義を通して心理学には性格に関する唯一絶対の理論はなく、様々な理論や方法があることを学べるようにする。															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1 質問紙法，作業検査法，投影法それぞれの長所と短所を理解する。						○	○								
2 認知療法の「7つのコラム法」が気分（感情）の改善に効果があるのはなぜか，説明できるようになる。						○	○								
3 交流分析における「エゴグラム」を作成し，その意味について理解し，自己の性格をどのように改善していけばよいか分析できるようになる。						○	○								
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス（教授内容と教育目標）						シラバスを熟読すること。									
2. 質問紙法の性格検査（YG 性格検査）の実施方法						資料とノートを復習し，実施方法を理解すること。									
3. 質問紙法の性格検査（YG 性格検査）の判定方法（尺度判定）						資料やノートを復習し，判定方法を理解すること。									
4. 質問紙法の性格検査（YG 性格検査）の判定方法（類型判定）と問題点						資料などを復習し，判定方法や要点を理解すること。									
5. 作業検査法（内田クレペリン精神検査）の特色と問題点						実施方法，判定方法，問題点を理解すること。									
6. 投影法の種類－ロールシャッハ・テストを中心に－						ロールシャッハ・テストの要点をまとめること。									
7. 集団式のロールシャッハ・テストの判定方法と問題点						資料を見直し，判定方法と問題点を理解すること。									
8. 他者の性格を推論するときに注意すべきこと －認知のゆがみなど－						資料とノートを復習し，専門用語を理解すること。									
9. 性格は変わるかという問題について考える						資料をよく読み，要点をレポートすること。									
10. 認知療法の基本的な考え方（人間観）						資料とノートを復習し，要点をまとめること。									
11. 認知療法の7つのコラム法の作成方法について						資料を復習し，実際にコラムを作成すること。									
12. 交流分析における基本的な考え方（人間観）－5つの自我状態－						資料とノートを見直し，要点を理解すること。									
13. 交流分析におけるエゴグラムの作成						資料やノートを見直し，実際に作成すること。									
14. 交流分析における基本的な考え方（人間観）－ストロークとは－						資料やノートを見直し，要点をまとめること。									
15. 交流分析における基本的な考え方（人間観）－幼児決断とは－						ノートを見直し，考え方を理解すること。									
16. 試験						試験対策の学習をすること。									
履修上の注意															
毎回，ミニットペーパーに感想やわかったこと，わからなかったことなどを書いて提出すること。															
成績評価方法・基準															
レポート課題 20%，試験 80%。 レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。 各回の授業でのミニットペーパーについては，次回の授業内でフィードバックを行う予定である。															
教科書 授業の中で資料（プリント）を配布する。															
参考書 授業の中で適宜，紹介する。															
備考															
質問等については，ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ，説明します。また，授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。															

授業科目名	生活文化論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	今林 直樹	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服1年					
授業概要														
<p>生活文化について、言語、衣食住、芸能、祭礼に焦点をあて、主として文献資料を用いて具体的に理解させるとともに、歴史的背景や社会的背景を踏まえて学ばせる。具体的には、伝統的な生活文化が現代に生きる沖縄を対象として取り上げる。</p> <p>また、課題（授業時提出）をとおして沖縄の生活文化についての考察や感想などを述べさせる。課題については、翌週の授業で解説する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
沖縄の生活文化について理解できる。					○	○								
生活文化の歴史的、社会的背景について理解できる。					○	○								
今後の生活文化の課題について考察できるようになる。					○	○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.生活文化とは何か・沖縄概説					生活文化と沖縄を調べる									
2.沖縄の言葉(1) 生活言語としての「うちなあぐち」					沖縄の言葉の概要を整理する									
3.沖縄の言葉(2) 「うちなあぐち」は言語か方言か					沖縄の言葉の社会的意味を整理する									
4.沖縄の言葉(3) 「うちなあぐち」の保存と継承					沖縄の言葉の現在と将来を整理する									
5.沖縄の「衣」(1) 紅型					紅型について調べる									
6.沖縄の「衣」(2) ミンサー織					ミンサー織について調べる									
7.沖縄の「食」(1) 沖縄そば					沖縄そばについて調べる									
8.沖縄の「食」(2) チャンプルー					チャンプルーについて調べる									
9.沖縄の「住」(1) 赤瓦の家					沖縄の住景観について調べる									
10.沖縄の「住」(2) 風水					沖縄の住思想について調べる									
11.沖縄の芸能(1) 古典芸能					琉球古典芸能について調べる									
12.沖縄の芸能(2) 八重山芸能					八重山芸能について調べる									
13.沖縄の祭(1) 信仰との関係—御嶽・ニライカナイ—					沖縄の信仰について調べる									
14.沖縄の祭(2) 豊年祭					沖縄の豊年祭について調べる									
15.沖縄の祭(3) 種取祭					沖縄の種取祭について調べる									
16.期末試験														
履修上の注意														
必要のない私語は慎むこと。														
成績評価方法・基準														
期末考査 80%、課題（授業時提出） 20%によって評価する。														
教科書 授業前に資料を配布する														
参考書 [沖縄の歴史・政治・社会][今林直樹][大学教育出版][2200 円]														
備考														
質問等については授業終了後に受け付ける。														

授業科目名		英語 I			単位 (総授業時間+自習時間)			2(30+60)									
担当者	佐藤 恵	必・選	必(服・健)	形態	講義	学期	前期	対象	服・健1年								
授業概要																	
世界の食文化を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を解説しながら、英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。各テーマをテキストに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、英文読解と英作文の技能を身につけさせる。簡易な英文であれば理解することができ、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。英語 I では Chapter 3 Let's Taste the World's Cuisine を取り上げる。																	
授業の到達目標						学位授与の方針との関連											
						1	2	3	4	5	6	7	8	9			
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。						○	○										
世界の食文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。							○										
授業計画の内容						自習 (事前・事後学修の内容)											
1. ガイダンス						前期の学習内容について確認する。											
2. Chinese Cuisine ① Bear Paw						熊の手について読み、ノートをまとめる。											
3. Chinese Cuisine ② Cantonese Cuisine						広東料理について読み、ノートをまとめる。											
4. Chinese Cuisine ③ Diversity						中国料理の多様性について読み、ノートをまとめる。											
5. Chinese Cuisine ④ Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。											
6. French Cuisine ① Florentine Cuisine						フィレンツェ料理について読み、ノートをまとめる。											
7. French Cuisine ② The Medici Family						メディチ家の影響について読み、ノートをまとめる。											
8. French Cuisine ③ <i>Nouvelle Cuisine</i>						新様式仏料理について読み、ノートをまとめる。											
9. French Cuisine ④ Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。											
10. American Cuisine ① Barbecue						バーベキューについて読み、ノートをまとめる。											
11. American Cuisine ② Traditional American Cuisine						伝統的米料理について読み、ノートをまとめる。											
12. American Cuisine ③ Hamburger & Hot Dog						ハンバーガー等について読み、ノートをまとめる。											
13. American Cuisine ④ Chowder						チャウダーについて読み、ノートをまとめる。											
14. American Cuisine ⑤ Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。											
15. まとめ						ノートや小テストを見て前期の学習内容を振り返る。											
16. 期末試験						総復習をして試験に臨む。											
履修上の注意																	
テキストとともに必ず辞書 (スマホ携帯は不可) を持参して授業に臨むこと。																	
成績評価方法・基準																	
平常点 40% (授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。) 学期末試験 60% 毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。																	
教科書 [A Global Tour of Dietary Culture] [大橋久利 他著] [成美堂] [1,700 円]																	
参考書 なし																	
備考																	
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) に受け付ける。																	

授業科目名		英語Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)							
担当者	佐藤 恵	必・選	必（健） 選（服）	形態	講義	学期	後期	対象	服・健1年							
授業概要																
世界の食文化を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を解説しながら、英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。各テーマをテキストに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、英文読解と英作文の技能を身につけさせる。簡易な英文であれば理解することができ、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。英語Ⅱでは Chapter 4 Varieties of Staple Foods を取り上げる。																
授業の到達目標						学位授与の方針との関連										
						1	2	3	4	5	6	7	8	9		
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。						○	○									
世界の食文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。							○									
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）										
1. ガイダンス						前期の学習内容について確認する。										
2. 主食について						主食について理解し、覚える。										
3. The Sphere of Bred Culture ① Ancient Method						古来製法について読み、ノートをまとめる。										
4. The Sphere of Bred Culture ② The History of Bread						パンの歴史について読み、ノートをまとめる。										
5. The Sphere of Bred Culture ③ Preserved Food						保存食としてのパンについて読み、ノートをまとめる。										
6. The Sphere of Bred Culture ④ Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。										
7. Noodles of the World ① Instant <i>Ramen</i>						ラーメンについて読み、ノートをまとめる。										
8. Noodles of the World ② The Sphere of Noodle Culture						麺文化圏について読み、ノートをまとめる。										
9. Noodles of the World ③ Pasta						パスタについて読み、ノートをまとめる。										
10. Noodles of the World ④ Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。										
11. The Potato ① The Origin of Potato						ジャガイモの起源について読み、ノートをまとめる。										
12. The Potato ② The Sphere of Potato Culture						ジャガイモ文化圏について読み、ノートをまとめる。										
13. The Potato ③ Varieties of Root Crops						イモ類の多様性について読み、ノートをまとめる。										
14. The Potato ④ Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。										
15. まとめ						ノートや小テストを見て前期の学習内容を振り返る。										
16. 期末試験						総復習をして試験に臨む。										
履修上の注意																
テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。																
成績評価方法・基準																
平常点 40%（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。） 学期末試験 60% 毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。																
教科書 [A Global Tour of Dietary Culture] [大橋久利 他著] [成美堂] [1,700 円]																
参考書 なし																
備考																
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。																

授業科目名		英会話 I			単位 (総授業時間+自習時間)				1(30+15)					
担当者	上之原 博子	必・選	必 (服、健)	形態	演習	学期	前期	対象	服・健1年					
授業概要														
<p>中学、高校で学んだ英語を基礎にして、簡単な挨拶、自己紹介等ができるように繰り返し指導する。テキストを用い、読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、英語で楽しくコミュニケーションがとれるようにします。グループワークとして、ロールプレイ、さらには実際に英語の会話文を作り、英語を楽しみながら学ぶことを目指します。また、授業を通して異文化を理解するよう指導します。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1. 基礎的な会話で他者とのコミュニケーションがはかれる。					○			○						
2. 自分自身に関する事柄について説明できる。										○				
3. グループ活動を通して、責任感、自己管理能力を身につける。										○	○			
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. ガイダンス。挨拶と自己紹介。自分のライフスタイルを話す。					自分の好きな事を考えてくる。									
2. 好きなスポーツや遊びについて話す。					予習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
3. 相手に依頼の仕方と答え方を学ぶ。					予習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
4. 自分の趣味や興味のあることを話す。					予習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
5. 自分に起きたことを話す。					予習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
6 私達の大事なお祝いについて話す。					予習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
7. 1～6の復習。					復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
8. 食べ物や飲み物について英語で説明する。					予習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
9. 身の回りのルールについて話す。					予習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
10. 行ってみたい場所や国について話す。					予習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
11. ケガや病気を英語で説明する。					予習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
12. いろいろな事を比べてみよう。					予習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
13. 現代社会について話す。					予習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
14. 7～13の復習。					復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。									
15. これまで学んだことを使い、自分の事をより詳しく表現する。					復習プリントを確認し提出する。									
履修上の注意														
<p>授業には積極的に参加し英語を話す事と、クラスメイトや講師とのコミュニケーションには積極的な態度で取り組むこと。授業ごとの復習プリントは、必ず次の授業で提出する事。課題文は暗記する事。</p>														
成績評価方法・基準														
<p>授業態度 30%、毎回の課題提出 40%、学期末の試験 (英語の会話文の発表) 30% で評価します。</p>														
教科書 [Breakthrough Plus 2(Level 2) Student Book] [Miles Craven] [Macmillan Language House] [2,700 円 (税別)]														
参考書 ：特になし。														
備考														
<p>質問等については、授業終了時に受付けます。</p>														

授業科目名	英会話 II				単位 (総授業時間+自習時間)	1 (30+15)							
担当者	上之原 博子	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	服・健1年				
授業概要													
前期で身につけた英語力を使って、外国人に簡単な英語で対応する基本的な表現や、日本文化の説明の仕方を学びます。また、演習を通して、実際に英語が使えるようになることを目指します。身近なトピック、自己紹介や趣味、自分のふるさと等は簡単な英語で話せるように指導します。授業は学生の学習進捗状況により進めていきます。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 他者とのコミュニケーション能力を身につける。					○			○				○	
2. 様々な分野で活躍するために自分の意見をまとめて、話せるようにする。					○	○			○	○			
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1. 交通案内：様々な交通機関について外国人への説明の仕方を学ぶ。					日本の交通機関を調べる。								
2. 日本の旅館について説明する。(入浴の仕方等)					旅館の特徴を考える。								
3. 観光地について学ぶ。					自分の身近な観光地を調べる。好きな場所を考えてみる。								
4. 街歩きのための道案内ができるようにする。					お勧めの場所を考える。								
5. 日本の年中行事を紹介する。自分のふるさとの行事を紹介する。					紹介したい年中行事を調べる。ふるさとの行事を調べる。								
6. 日本食の紹介①代表的な日本料理。自分の好きな日本食を紹介する。					代表的な日本料理を調べる。好きな日本食を考える。								
7. 日本食の紹介②気軽に楽しめる日本料理 郷土料理を紹介する。					気軽に楽しめる日本食を調べる。好きな郷土料理を考える。								
8. 国内旅行をアレンジする。					国内旅行をアレンジしてみる。								
9. 英語の絵本に親しむ。					興味のある絵本を調べる。								
10. 日本の伝統文化やポップカルチャーを紹介する。					紹介したい行事やポップカルチャーを調べる。								
11. 自分の日本文化体験を紹介する。スピーチ：私の日本文化体験					体験した日本文化について調べる。								
12. 日本のお土産を紹介する。					日本のお土産を考える。日本の良いところを考える。								
13. ケガや病気の対応について。					病名や気分を表す単語を調べる。								
14. これまで学んだことを、オリジナルのテキストにしてみる。					必要な単語、フレーズなどをまとめる。								
15. 学期を振り返る。													
履修上の注意 ：積極的に授業に参加することを求める。													
成績評価方法・基準													
平常点30% (授業への参加態度で判断する。) 課題の提出 30% 学期末試験40% 調べてきた原稿は回収し、後日添削して返却する。													
教科書 配布するプリントを使用する。													
参考書 ：特になし。													
備考													
質問等については、授業終了時に受付けます。													

授業科目名	仏語 I				単位 (総授業時間+自習時間)	1(30+15)							
担当者	村山 茂	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	健1年				
授業概要													
発音の基礎から始め、簡単なあいさつや自己紹介はもちろん、初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。さらにフランスにまつわる様々な情報を盛り込み、多方面からのフランス語理解に努める。外国語を学ぶということは、単に異国の言語や文化に触れるだけでなく、自国の言語と文化を見直し、自身の言語感覚と教養をみがくことになるのだということを理解してもらう。授業中の積極的挙手や練習問題の正答率はポイントとして成績に反映する。受講生全体のレベルに合わせて進行する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
初級フランス語入門レベルの文を理解し、表現できるようになる。					○	○				○		○	
フランスの文化に触れ、国際的視野が身につく。					○	○				○		○	
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1.授業方針。アルファベ。					アルファベの復習が必要。								
2.アルファベ復習。発音の規則1。					P78の復習が必要。								
3.発音の規則2。					P79の復習が必要。								
4.発音の規則小テスト。フランスについて。数字1。					事前に小テスト準備、数字の復習が必要。								
5.数字2。簡単なあいさつの表現。					P5の復習が必要。								
6.パリに着いた!(空港)1.解説と会話文。					P8の復習が必要。								
7.パリに着いた!(空港)2.文法。					P9の復習が必要。								
8.パリに着いた!(空港)3.練習問題。					P10~P11の予習、復習が必要。								
9.ホテルに着いた!(フロント)1.解説と会話文。					P14の復習が必要。								
10.ホテルに着いた!(フロント)2.文法。					P15の復習が必要。								
11.ホテルに着いた!(フロント)3.練習問題。					P16~P17の予習、復習が必要。								
12.アロー、アロー(郵便、電話)1.解説と会話文。					P20の復習が必要。								
13.アロー、アロー(郵便、電話)2.文法。					P21の復習が必要。								
14.アロー、アロー(郵便、電話)3.練習問題。					P22~P23の予習、復習が必要。								
15.まとめの講義					事後に最終試験のための準備が必要。								
16.試験													
履修上の注意													
私語を慎み、積極的に授業に参加すること。辞書については初回、教室にて指示する。													
成績評価方法・基準													
最終回に行う確認のための筆記試験(70~80%)に20~30%の平常点(積極性などのポイント)を加えて算出し、評価する。試験答案は、添削して後日返却する。													
教科書 [はじめてのパリー新・改訂版] [大津、瀧川、藤井著] [朝日出版社] [2,400円]													
参考書 : 特にないが、必要に応じてプリントを配布する。													
備考													
質問等については、授業終了時または電子メールにて受け付ける。													

授業科目名	中国語				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)					
担当者	清水 浩一郎	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	健1年					
授業概要														
この授業の目標は、中国語でコミュニケーションを取る際に必要とされる基礎的な事項を学修することにあります。中国語には日本語にない発音や発声の抑揚があります。まずは発声練習をおこない、これらを正しく身につけましょう。次に、会話の練習や練習問題に取り組み、これらを通じて自己紹介や挨拶、簡単な日常会話などを習得しましょう。また、中国の文化や習慣、旅行で役立つ情報なども、随時紹介いたします。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
正確な中国語の発音が身につく					○									
中国語で簡単な会話ができるようになる					○									
中国の文化や習俗についての知識が身につく						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス：中国や中国語の基礎知識					教科書を購入して目を通す。									
2.発音編 1回目：声調と単母音・複合母音の発音練習					事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。									
3.発音編 2回目：子音（声母）の発音練習					同上									
4.発音編 3回目：要注意な発音と声調変化の練習					同上									
5.発音編 4回目：発音のおさらい					同上									
6.第一課：数を含んだいくつかの表現 発声練習・練習問題					同上									
7.第二課：いろいろなあいさつ① 発声練習					同上									
8.第二課：いろいろなあいさつ② 発声練習・練習問題					同上									
9.第三課：“お目にかかれてとても嬉しいです” 発声練習・練習問題					同上									
10.第四課：“あなたは中国語を勉強中ですか” 発声練習・練習問題					同上									
11.第五課：“何人家族ですか？” 発音練習・練習問題					同上									
12.第六課：“どのお茶を飲みますか？” 発音練習・練習問題					同上									
13.第七課：“一緒に行ってもいい？” 発声練習・練習問題					同上									
14.第八課：“田中さんは来た？” 発声練習・練習問題					同上									
15.発声・文法のまとめ／発音のテスト					学習した部分を全体的に復習する。									
16.文法のテスト					テストの準備をする。									
履修上の注意														
発音の練習が非常に大切です。そのため、発音練習ではしっかりと声を出してください。また、進行状況によっては、授業計画の通りに進まない場合があります。														
成績評価方法・基準														
平常点 30%（授業への参加状況や発声練習の様子などを総合的に評価します） 発音テスト 20% 文法テスト 50%														
教科書〔週1回1年間で学ぶ中国語の基礎〕〔上野恵司 著〕〔白帝社〕〔2,200円＋税〕														
参考書 なし														
備考														
質問等については、授業終了後に受け付けます。														

授業科目名	日本語基礎				単位 (総授業時間+自習時間)	2(30+60)								
担当者	佐藤 深雪	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健1年					
授業概要														
<p>本講義では、まず「日本語とはどういう言語か」その特徴を解説する。言葉集めや言葉遊びといった言語活動を実際に行い理解させる。次に、語から文のレベルにおける「基礎的文章表現スキル」について演習問題を通して理解させる。学んだスキルを活かして「200字作文」を書く言語活動を行う。「200字作文」の合評会を行い推敲する。スキルの理解、作文(活用)、合評会(相互評価)、推敲という文章作成の過程を通して、社会人として要求される日本語運用能力を身に付けることを目指す。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
日本語の特徴、文章表現技術についての基礎的な知識を得る。					○									
学生あるいは社会人として要求される日本語運用能力を習得する。					○	○								
自己評価・相互評価に意欲的に取り組み推敲する習慣を身に付ける。					○	○								
授業計画の内容					自習(事前・事後学修の内容)									
1. オリエンテーション: 授業の概要と目的, 課題の説明 「言葉」の意義と機能 言葉の働きについて					資料「日本語の魅力」を読んでもくる									
2. 日本語の特徴について 「日本語の魅力」を読む					同音異義語、多義語を集める									
3. これまでの文章表現について振り返る 文の書き方①					授業で課せられた作文を仕上げ提出									
4. 200字作文を書く(自己紹介) 文の書き方②					授業で課せられた作文を仕上げ提出									
5. 200字作文を書く(大好物) 文の書き方③					授業で課せられた作文を仕上げ提出									
6. 200字作文を書く(人物) 文の書き方④					授業で課せられた作文を仕上げ提出									
7. 200字作文を書く(風景) 文の書き方⑤					授業で課せられた作文を仕上げ提出									
8. 200字作文を書く(ある日の出来事) 文の書き方⑥					授業で課せられた作文を仕上げ提出									
9. 推敲と合評会 推敲する					授業で課せられた作文を仕上げ提出									
10. 推敲と合評会 推敲して書き直す					推敲して書き直す									
11. 「時事評論文」を書く 構想 主張 アウトライン					授業で課せられた作文を仕上げ提出									
12. 「時事評論文」を書く					授業で課せられた作文を仕上げ提出									
13. 推敲と合評会 推敲する					授業で課せられた作文を仕上げ提出									
14. 推敲と合評会 推敲して書き直す					推敲して書き直す									
15. 文章表現学習を振り返る.					文集原稿を清書する									
履修上の注意														
<p>授業の中で課せられた作文は、時間内に書き終わらない場合、次回までの宿題とする。 後期に開講される「国語表現法」を続けて履修することが望ましい。</p>														
成績評価方法・基準														
<p>全8作の課題作文と合評会の取り組み状況の評価する。提出課題については、授業の中で適宜フィードバックする。200字作文・評論文(60%10点×6) 振り返り作文(20%10点×2) 合評会(20%10点×2)</p>														
教科書 授業でワークシートを配布する。														
参考書 [二百字作文練習] [金子泰子著] [溪水社] [1,800円]														
備考														
<p>質問等については、授業終了時、オフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)あるいは、学習支援センター(予約制)で受け付ける。受講人数等の事情によりシラバスの修正が生じる可能性がある。</p>														

授業科目名	国語表現法				単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)							
担当者	佐藤 深雪	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健1年						
授業概要															
<p>本講義は、実社会で必要とされる実用的な文章を書く技術を習得させることを目的としている。ここでは、主にパラグラフィティング、及び文章構成について指導する。授業計画2～6回では、設定した目標スキルに関する演習問題を解き、毎回、学習したスキルを活かして小論文を書く活動を行う。その後、応用として、意見文や自己PR・エントリーシート、依頼文、詫び状などを書く活動を実施する。互いの文章を読み合い相互評価する合評会の時間を設ける。</p>															
授業の到達目標					学位授与の方針との関連										
					1	2	3	4	5	6	7	8	9		
学生あるいは社会人として要求される実用的な文章表現の基礎を習得する。					○	○									
実社会で活用できるコミュニケーション能力を総合的に身に付ける。					○	○									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）										
1. 授業の概要と目的、課題の説明					自分の文章表現について振り返る										
2. ①パラグラフの組み立て方					授業で課せられた作文を仕上げて提出										
3. ②トピック文を生かして書く					授業で課せられた作文を仕上げて提出										
4. ③必要十分なサポート文を書く					授業で課せられた作文を仕上げて提出										
5. ④主張・データ・論拠					課題について論点を考え書き出す										
6. ⑤事実と意見を書き分ける					授業で課せられた作文を仕上げて提出										
7. 「意見文を書く」⑥論点					授業で課せられた作文を仕上げて提出										
8. 「意見文を書く」⑦要約・引用					授業で課せられた作文を仕上げて提出										
9. 合評会 ⑧批評文の書き方					授業で課せられた作文を仕上げて提出										
10. 推敲と合評会 推敲して書き直す					推敲して書き直す										
11. 自己PR・エントリーシートを書く					授業で課せられた作文を仕上げて提出										
12. 推敲と合評会 推敲して書き直す					授業で課せられた作文を仕上げて提出										
13. 詫び状を書く					授業で課せられた作文を仕上げて提出										
14. 依頼文を書く（詫び状）合評会					授業で課せられた作文を仕上げて提出										
15. （依頼文）合評会 文章表現学習を振り返る					自分の文章表現について振り返る										
履修上の注意															
<p>授業の中で課せられた作文は、時間内に書き終わらない場合、次回までの宿題とする。課題作文は全て評価の対象となるので必ず提出すること。</p>															
成績評価方法・基準															
<p>課題作文と合評会の取り組み状況の評価する。提出課題については、授業の中で適宜フィードバックする。未提出がある場合評価の対象としないことがある。課題作文70%、合評会及び授業への取り組み状況30%で評価する。</p>															
教科書 授業でワークシートを配布する。															
参考書 講義の中で適宜紹介する															
備考															
<p>質問等については、授業終了時、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）あるいは、学習支援センター（予約制）で受け付ける。受講人数等の事情によりシラバスの修正が生じる可能性がある。</p>															

授業科目名	情報基礎学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	松尾 広	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健 2年					
授業概要														
データの集計・加工、グラフ作成、写真の加工を行い、それらを組み合わせて体裁の整った文書を作成したり、プレゼンテーションしたりできることを目標に、文書作成、表計算、プレゼンテーション、情報検索、簡単な画像処理などのコンピュータリテラシーについて解説する。またデータを整理、蓄積、利用する方法として簡単なデータベースの作成やほかのアプリケーションとの連携方法、データ処理の方法を論理的に考えることを目的としたプログラミングについての演習を行うことで、情報処理技術の理解を深め、ステップアップを図る。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
Word、Excel、PowerPoint を使って体裁が整った文書を作成できる。					○									
簡単な画像処理ができる。					○									
情報を処理するアルゴリズムを理解し、プログラムで表現できる。					○									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス					学習する内容を確認する。									
2. Word による文書作成（ビジネス文書作成、表の作成）					学習内容を確認し、反復する。									
3. Word による文書作成（図形の扱い）					学習内容を確認し、反復する。									
4. Word による文書作成（セクション、ヘッダー・フッター、段組み）					学習内容を確認し、反復する。									
5. Excel による表計算（計算式、関数）					学習内容を確認し、反復する。									
6. Excel による表計算（統計データの加工、グラフの作成）					学習内容を確認し、反復する。									
7. Excel による表計算（データベース、差し込み印刷）					学習内容を確認し、反復する。									
8. PowerPoint によるプレゼンテーション（シンプルなスライドの作成）					学習内容を確認し、反復する。									
9. PowerPoint によるプレゼンテーション（アニメーションの利用）					学習内容を確認し、反復する。									
10. PowerPoint によるプレゼンテーション（練習問題）					学習内容を確認し、反復する。									
11. 簡単な画像処理					学習内容を確認し、反復する。									
12. 簡単な動画の作成					学習内容を確認し、反復する。									
13. プログラミング（アニメーション、タートルグラフィックス）					学習内容を確認し、反復する。									
14. プログラミング（シンプルなゲーム）					学習内容を確認し、反復する。									
15. まとめの課題					学習内容を振り返る。									
履修上の注意														
プリントを保存しておくこと。														
成績評価方法・基準														
受講態度・毎回の授業で提出するファイル 40%、まとめの課題 60%														
提出されたファイルは授業中にフィードバックします。														
教科書 事前にプリントを配布する。														
参考書 なし														
備考														
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名	スポーツ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60+30)						
担当者	池田信文・沼澤 隆	必・選	選	形態	実技	学期	通年	対象	服1年					
授業概要														
年間を通して複数のスポーツ・運動を実施する。団体競技の場合には、受講者を戦力がほぼ均等になるよう偶数チームに班分けをし、リーグ戦等を行う。団体競技の面白みとチームワークの大切さ等を学ばせる。また、勝利チームや各人の競技中における課題達成度または所属チームへの貢献度等に応じて加点する方法も取り入れ、各人に奮起を促す。個人競技においては、個々人の基礎的運動能力の向上ならびにその運動・スポーツ特有の技術習得に向け努力することの大切さを学ばせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
スポーツ・運動実践を通し、体力づくりの重要性に気づく。					○									
団体・個人競技を通し礼儀や協働の大切さ等を身につける。						○		○						
今後共にスポーツ・運動を実践していける人材に成長する。										○		○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1～2. ガイダンス身体計測・体力測定（個人票作成等）					測定結果に基づき今後の自身の目標を設定する									
3～5. ソフトボール（池田）					ルール等の予習、及び技術の向上									
6～13. バレーボール&バスケットボール&フットサル（池田）					同 上									
14. スポーツ実技試験（池田）					復習及び自己鍛錬									
15. レポート作成【オリンピックの歴史と特徴】（池田）					予習およびレポート作成									
16～18. ターゲットバードゴルフ（沼澤）					ルール等の予習、及び技術の向上									
19. バドミントン（沼澤）					同 上									
20. ミニテニス&卓球（沼澤）					同 上									
21～26. バドミントン&ミニテニス&卓球（沼澤）					同 上									
27. スポーツ実技試験（沼澤）					復習及び自己鍛錬									
28. ラジオ体操の基本と応用の練習（沼澤）					ラジオ体操の予習と復習及び練習									
29. ラジオ体操の応用の実技試験（沼澤）					試験の内容をまとめ次回提出									
30. まとめ及びレポート作成【健康と生涯スポーツ】（沼澤）					本授業に関する自己評価及び授業評価レポート作成									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、運動のできる服装（ウェア）とシューズ等を完備した上で授業に臨むこと。 ・正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。 ・遅刻3回で欠席1回と見なすので注意すること。 ・レポート・課題等については授業内でフィードバックする。 														
成績評価方法・基準														
個人の運動能力・技術は勿論のこと、授業に取り組む姿勢や随時課すレポートの内容等を基に総合的に評価する。その内訳は、受講態度25%、レポート25%、実技試験等50%とする。														
教科書 ：なし														
参考書 ：なし														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・当日の天候等により、シラバス通りの運動ができないこともあります。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受付けます。 														

授業科目名	スポーツ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60+30)						
担当者	沼澤 隆・池田信文	必・選	選	形態	実技	学期	通年	対象	健1年					
授業概要														
年間を通して複数のスポーツ・運動を実施する。団体競技の場合には、受講者を戦力がほぼ均等になるよう偶数チームに班分けをし、リーグ戦等を行う。団体競技の面白みとチームワークの大切さ等を学ばせる。また、勝利チームや各人の競技中における課題達成度または所属チームへの貢献度等に応じて加点する方法も取り入れ、各人に奮起を促す。個人競技においては、個々人の基礎的運動能力の向上ならびにその運動・スポーツ特有の技術習得に向け努力することの大切さを学ばせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
スポーツ・運動実践を通し、体力づくりの重要性に気づく。					○									
団体・個人競技を通し礼儀や協働の大切さ等を身につける。						○		○						
今後共にスポーツ・運動を実践していける人材に成長する。										○		○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1～2. ガイダンス身体計測・体力測定（個人票作成等）					測定結果に基づき今後の自身の目標を設定する									
3～5. ターゲットバードゴルフ（沼澤）					ルール等の予習、及び技術の向上									
6. バドミントン（沼澤）					同 上									
7. ミニテニス&卓球（沼澤）					同 上									
8～13. バドミントン&ミニテニス&卓球（沼澤）					同 上									
14. スポーツ実技試験（沼澤）					復習及び自己鍛錬									
15. レポート作成【オリンピックの歴史と特徴】（沼澤）					予習およびレポート作成									
16～18. ソフトボール（池田）					ルール等の予習、及び技術の向上									
19～26. バレーボール&バスケットボール&フットサル（池田）					同 上									
27. スポーツ実技試験（池田）					復習及び自己鍛錬									
28. ラジオ体操の基本と応用の練習（池田）					ラジオ体操の予習と復習及び練習									
29. ラジオ体操の応用の実技試験（池田）					試験の内容をまとめ次回提出									
30. まとめ及びレポート作成【健康と生涯スポーツ】（池田）					本授業に関する自己評価及び授業評価レポート作成									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、運動のできる服装（ウェア）とシューズ等を完備した上で授業に臨むこと。 ・正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。 ・遅刻3回で欠席1回と見なすので注意すること。 ・レポート・課題等については授業内でフィードバックする。 														
成績評価方法・基準														
個人の運動能力・技術は勿論のこと、授業に取り組む姿勢や随時課すレポートの内容等を基に総合的に評価する。その内訳は、受講態度25%、レポート25%、実技試験等50%とする。														
教科書：なし														
参考書：なし														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・当日の天候等により、シラバス通りの運動ができないこともあります。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。 														

授業科目名	武道				単位（総授業時間＋自習時間）	1(30+15)								
担当者	佐藤 淳一	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	服1年					
授業概要														
現代武道の1つで世界36カ国に普及し世界統一組織である少林寺拳法を、講義と実技で教授します。単に身体が丈夫になるだけではなく、心と体を調和させながら、他人と競い合う強さではなく、自己と向きあい何事にも負けることのない本当の強さ（自己確立）を体得します。呼吸法や、座禅を行うことにより心身の調整法を学び、どのように相手が攻撃してきても、力の大小、性別に関わらず自分や大切な人を守ることでできる少林寺拳法の護身の技術と心を、少林寺拳法七段で全国指導員の担当教員が伝授します。財団法人少林寺拳法連盟に全員所属して、前期で6級（緑帯）取得を目標に教授します。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
少林寺拳法の基礎的技術を体得する					○	○				○				
自己確立について理解することができる					○	○				○				
他と協働しながら楽しく修練できる							○			○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.少林寺拳法について、ガイダンス、技術体験					シラバスを読む。鍛錬法修得									
2.基本、講義、座禅、構え、運歩法、突き、蹴り基本					正中線鍛錬法実践									
3.基本、講義、座禅 受身、各種構え、攻撃法、防御法					丹田鍛錬法実践									
4.基本、講義、座禅、各種受身、上受け、内受け					鍛錬法実践									
5.基本、講義、座禅、上段、中段直突き、蹴り上げ					体幹鍛錬法 四股									
6.基本、講義、座禅、柔法（小手抜き、守法）					体幹鍛錬法 四股									
7.基本、講義、座禅、柔法（腕十字固め）					体幹鍛錬法 四股									
8.基本、講義、座禅、柔法（寄り抜き）					体幹鍛錬法 振り子突き									
9.基本、講義、座禅、剛法（流水蹴り）					体幹鍛錬法 振り子突き 中段									
10.基本、講義、座禅、単独演武天地拳第一					体幹鍛錬法 振り子突き 下段									
11.基本、座禅、単独演武竜王拳第一					体幹鍛錬法 蹴り									
12.基本、座禅、剛法（内受け突き）					体幹鍛錬法 まわし蹴り									
13.基本、座禅、剛法（下受け蹴り）					昇級レポート作成準備									
14.基本、座禅、柔法（逆小手）					昇級レポート作成準備									
15.6級昇級試験準備					昇級レポート作成、提出									
履修上の注意														
自他の安全に留意し、授業時間内にできない部分を積極的に自習すること。教員が指導します。														
成績評価方法・基準														
実技評価 40%、授業態度（集中して修練しているか 20%、学んだことが礼儀等態度に現われているか 20%）昇級レポート 20%（評価して返却します）														
教科書 少林寺拳法級拳士副読本、科目表（財団法人少林寺拳法連盟）														
参考書 はじめよう少林寺拳法（ベースボールマガジン社）														
備考														
1回目から修練します。運動のできる服装で来てください。修練前後の清掃は毎回おこないます。2回目から雑巾を持参してください。授業外での質問はオフィスアワーで受け付けます。														

授業科目名	スタディスキルズ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)					
担当者	大学教職員	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	服専1年					
授業概要														
<p>本科目では、本学の教育内容、大学での学びの基本的な姿勢について教授する。主な授業内容は、以下の通りである。</p> <p>① 大学での学習の土台となる「基礎学力」の定着を目指す。具体的には、プレイスメントテストによる基礎学力の把握、入学前に取り組んだ“e-learning”の復習など、基礎学力の定着、ならびに学修した内容の理解の向上を目指した演習を行う。</p> <p>② 「学修ポートフォリオ」を用いて、各自の学習目標、学習への取り組みについて助言する。</p> <p>③ 学内の施設を活用した学習方法について教授する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
大学での学習方法を身につける。					○									
自宅で学習する習慣を身につける。					○									
大学生として必要な基礎学力を身につける。					○									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. プレイスメントテスト（実力テスト）その1(植松)					e-learning の学習をしてくること。									
2. プレイスメントテスト（実力テスト）その2(植松)					e-learning の学習をしてくること。									
3. 大学での学び方について（学部長）					大事な点をノートに記録すること。									
4. 図書館の活用①（村山）					施設の利用について理解する。									
5. 情報処理教育センターの活用 [新 OA 室]（松尾）					施設の利用について理解する。									
6. 「学ぶ」とはどういうことか(植松)					考えながらわかったことを自分で作り上げること。									
7. 学修ポートフォリオの作成（植松）					学修目標を理解する。									
8. 研究倫理について（栗山）					復習し、研究倫理について理解する。									
9. 図書館の活用②（村山）					復習し、授業内容を理解する。									
10. 学修ポートフォリオ 中間評価（植松）					学修目標の達成度合いを点検する。									
11. 基礎学力向上 e-learning 基礎編 [新 OA 室]（植松）					e-learning の学習をしてくること。									
12. 基礎学力向上 e-learning 応用編 [新 OA 室]（植松）					e-learning の学習をしてくること。									
13. 基礎学力向上 文章の読解・作成 基礎編（植松）					復習し、授業内容を理解する。									
14. 基礎学力向上 文章の読解・作成 応用編（植松）					復習し、授業内容を理解する。									
15. まとめ(植松)					15回の授業の復習を行う。									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。 ・事情により、担当教員の変更、授業順序の変更が生じることがある。その場合は掲示板で連絡する。 														
成績評価方法・基準														
<p>授業の取り組みに対する意欲と姿勢（50%）、提出物（50%）により評価する。</p> <p>提出物については、後日フィードバックを行う。</p>														
教科書 [入学前課題学習記録ノート（e-learning の教材）] [入学前に配布済み]														
参考書 なし。授業の中で各担当の教員が指示する。														
備考														
質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。														

授業科目名	スタディスキルズ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)					
担当者	栗山孝雄 他教職員	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	健専1年					
授業概要														
<p>本科目では、本学の教育内容、大学での学びの基本的な姿勢について教授する。主な授業内容は、以下の通りである。</p> <p>① 大学での学習の土台となる「基礎学力」の定着を目指す。具体的には、プレイスメントテストによる基礎学力の把握、入学前に取り組んだ“e-learning”の復習など、基礎学力の定着、ならびに学修した内容の理解の向上を目指した演習を行う。</p> <p>② 「学修ポートフォリオ」を用いて、各自の学習目標、学習への取り組みについて助言する。</p> <p>③ 学内の施設を活用した学習方法について教授する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
大学での学習方法を身につける。					○									
自宅で学習する習慣を身につける。					○									
大学生として必要な基礎学力を身につける。					○									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 大学で学ぶということ（栗山）					オリエンテーションで実施。									
2. プレイスメントテスト①（栗山）					基礎学力を確認する。									
3. プレイスメントテスト②（栗山）					基礎学力を確認する。									
4. 図書館の活用①（村山）					施設の利用について理解する。									
5. 学修ポートフォリオの作成（栗山）					学修目標を理解する。									
6. 専攻での学びについて（栗山）					1回目の授業内容を復習しておくこと。									
7. 情報処理教育センターの活用 [新 OA 室]（松尾）					施設の利用について理解する。									
8. 研究倫理について（栗山）					復習し、研究倫理について理解する。									
9. 図書館の活用②（村山）					施設の利用について理解する。									
10. 基礎学力向上 e-learning① [新 OA 室]（栗山）					e-learning の学習をしてくること。									
11. 学修ポートフォリオ 中間評価（栗山）					学修目標の達成度合いを点検する。									
12. 基礎学力向上 文章の読解・作成①（栗山）					復習し、授業内容を理解する。									
13. 基礎学力向上 e-learning② [新 OA 室]（栗山）					e-learning の学習をしてくること。									
14. 基礎学力向上 文章の読解・作成②（栗山）					復習し、授業内容を理解する。									
15. まとめ					15回の授業の復習を行う。									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。 ・ 事情により、担当教員の変更、授業順序の変更が生じることがある。その場合は掲示板で連絡する。 														
成績評価方法・基準														
<p>授業の取り組みに対する意欲と姿勢（50%）、提出物（50%）により評価する。</p> <p>提出物については、後日フィードバックを行う。</p>														
教科書 [入学前課題学習記録ノート（e-learning の教材）] [入学前に配布済み]														
参考書 なし。授業の中で各担当の教員が指示する。														
備考														
質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。														

授業科目名	ライフデザイン			単位（総授業時間＋自習時間）					1(30+15)				
担当者	佐々木 晃	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	服・健1年				
授業概要													
<p>自分の今後の将来設計を描くにあたって、確かな勤労観を持ち、有為な社会人として活躍できる基本的な資質・能力を身に付ける。本学の開学理念である「人間生活を科学し、より良い生活へ」の具現化・体現化を目指して、現在の大学生生活を振り返り、今後の大学生生活を充実させるための手立て、できたことをノートにまとめ、具体的なライフプランを実現させるための方法、それらをグループで学びあい、集団討議させることでより確かなライフデザインを描けるようにする。知力、実践力、提案力、コミュニケーション力を兼ね備えた人間力を培う。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
ライフデザインを学修する上で必要な基礎知識を身に付ける					○	○				○		○	
学修した情報を整理・要約できる技術を身に付ける					○	○				○		○	
学修した知識・技能・態度を社会で総合的に活用できる。					○	○				○		○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス、ライフデザインを学ぶ意義の説明					より良い生活のために何が必要か考える								
2.自分史作成 ～自己を知る～					自らの埋もれた価値を見出す視点を学ぶ								
3.自己分析・自己理解・自己管理					各種の分析を用いて人間性を科学する								
4.学生生活のデザイン					生活を見直しより豊かな生活を見通す								
5.時事問題理解力、思考力、表現力					情報を取捨選択して活用する能力を培う								
6.社会人に求められるもの					社会に必要な行動・思考・協働を学ぶ								
7.社会で働くための資質・能力					採用担当が重視する社会人基礎力を学ぶ								
8.業界・企業研究					最新の経済動向を踏まえた学びを深める								
9.課題発見能力・協調性・提案力					現状に満足せず次を考える学びを深める								
10.ビジョン構築力					自分や組織の本来的使命を理解する								
11.ライフステージとライフイベント					人生の節目にどんな役割があるかを学ぶ								
12.ライフデザインとライフプラン					両者の概念の違いを予習し把握する								
13.ライフデザインの作成					表現内容を簡潔にまとめる工夫を行う								
14.ライフデザインの発表					内容を平易に伝えるための工夫を行う								
15.キャリア開発に向けて					学修全体を振り返り今後役に立てる								
履修上の注意													
<p>本学キャリア教育の1年次としての自覚を持ち受講すること。</p>													
成績評価方法・基準													
<p>平常点30%（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）レポート70%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）</p> <p>・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。</p>													
教科書 [シンプルリスト] [ドミニック・ローホー] [講談社] [630円]													
参考書 なし													
備考													
<ul style="list-style-type: none"> ・ ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。 ・ 質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。 													

授業科目名	キャリア開発 I (色彩検定 UC 級)			単位 (総授業時間+自習時間)				1(15+30)				
担当者	水谷 浩	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	服専 1 年			
授業概要 (目的)												
<p>昨今, SNS(Social Networking Service)で発信力のある個人 (インフルエンサー) の情報は, 消費者の購買行動や企業のコミュニケーション戦略のなかで最も注目されている。とりわけ, ファッション業界では, 情報の分かりやすさ (伝わりやすさ) に関しての知識や技能が求められる。</p> <p>本授業では, 消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント (第 46 期)』や『UC (ユニバーサルカラー) アドバイザー』としての経歴を活かし, 色彩検定協会主催『色彩検定 UC 級』の試験対策を教授するとともに「視覚情報のユニバーサルデザイン」に関する基礎知識の修得をめざしている。</p>												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
・「視覚情報のユニバーサルデザイン」の重要性を認識できる				○	○	○				○		
・多様な見え方に配慮した色づかいについて理解できる							○	○	○	○		
・見えづらい例を示し,改善点を分かりやすく説明できる				○	○	○	○	○	○	○		
授業計画の内容				自習 (事前・事後学修の内容)								
1. オリエンテーション (多様な見え方を知る) 色のユニバーサルデザインについて学ぶ				<p>授業計画や事前配布資料などを参考にして予習すること。 講義ノートを読み直し, 学習内容の振り返り (復習) を行うこと。</p>								
2. 「光と色の関係は？」 色が見えるしくみを学ぶ												
3. 「色を表すには？」 ①色相・明度・彩度,②色相とトーンについて学ぶ												
4. 「多様な見え方と色覚特性を知る」 色覚特性と混同しやすい色,色覚検査法を学ぶ												
5. 「高齢者の見え方を知る」 加齢と見え方の変化について学ぶ												
6. 「誰もが見やすい配慮を知る」 視覚情報のユニバーサルデザインについて学ぶ												
7. 「色のユニバーサルデザインを実践するには？」 視覚情報のユニバーサルデザイン化 (修正) について学ぶ												
8. 検定試験 色彩検定 UC 級の受験				過去問題を何度も解くことで,試験対策を怠らないこと。								
9. まとめ 色彩検定 UC 級の振り返り				試験後は,解答解説を踏まえて,自己採点を行うこと。								
履修上の注意												
<p>受講にあたり「色彩検定 UC 級」の受験申し込み (自己負担:1,500 円) が必要となる</p> <p>3/4 以上の出席がない場合には, 単位を取得することはできない。</p>												
成績評価方法・基準												
<p>平常点・授業への参加態度(50%)+課題の提出状況(25%)+面接準備シート(25%)にもとづき評価する。</p> <p>なお, 課題については, 次回の授業内にフィードバックします。</p>												
教科書 [色彩検定 UC 級公式テキスト] [財色彩検定協会] [財色彩検定協会] [2,300 円]												
参考書 必要に応じて紹介する。												
備考												
<p>【事後もしくは同時に受講して欲しい講義】 「色彩学」</p> <p>【質問・相談など】 質問や相談などは, オフィスアワー (日時は掲示で確認のこと) に受けつけます。</p>												

授業科目名	キャリア開発 I (消費者力検定)				単位 (総授業時間+自習時間)				1(15+30)				
担当者	水谷 浩	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	服専 2年				
授業概要 (目的)													
<p>私たちは、さまざまな商品やサービスを購入し、それらを利活用 (消費) しながら、日々暮らしている。そうしたなか「消費者が経済的に効率良く、かつ地球環境にも配慮した消費生活を営むには、合理的な意思決定を行うための智慧 (消費者力) が不可欠となる。</p> <p>本講義では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント (第 46 期)』としての経歴を活かし「現代社会を生きていくために知っておくべきこと、暮らしに役立つこと」という視点から、一般財団法人日本消費者協会主催『消費者力検定』の試験対策を教授するとともに、賢い消費者としての実践力の修得をめざしている。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・ 全ての人に関わる知識として消費者力を認識、理解できる					○	○	○			○			
・ 消費者行政の役割や消費者トラブルについて理解できる							○	○	○	○			
・ 日常生活に役立つ消費者情報について説明できる					○	○	○			○			
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1. オリエンテーション (消費者力検定の概要説明, 衣生活) 衣服の機能・表示・管理, 繊維と布地の種類などを学ぶ					教科書 (ワークブック) と講義ノートの内容を読み直し, 学習内容の振り返りを行う。また, 事前配布の資料は, 授業前に読んでおくこと。								
2. 食生活 食品加工と保存, 食品安全行政, 食品の表示などを学ぶ													
3. 住生活 住生活基本法, 住まいの取得・賃貸契約などを学ぶ													
4. 消費者契約と法律 民法, 消費者契約法, 特定商取引法などを学ぶ													
5. 契約と消費者トラブル 消費生活相談の実態や悪質商法などを学ぶ													
6. 環境 環境問題や環境に配慮した消費行動などを学ぶ													
7. サービス インターネット取引やそのトラブル事例などを学ぶ													
8. 検定試験 消費者力検定の実施					過去問題を何度も解くことで, 試験対策を怠らないこと。								
9. まとめ 消費者力検定の振り返り					試験後は, 解答解説を踏まえて, 自己採点を行うこと。								
履修上の注意													
<p>受講にあたり「消費者力検定 (基礎コース)」の受験申し込み (自己負担:950 円) が必要となる。 3/4 以上の出席がない場合には, 単位を取得することはできない。</p>													
成績評価方法・基準													
<p>平常点・授業への参加態度(50%)+検定試験の結果(50%)にもとづき評価する。 なお, 課題については, 次回の授業内にフィードバックをします。</p>													
教科書 [消費者力検定ワークブック] [(財)日本消費者協会] [(財)日本消費者協会] [756 円]													
参考書 授業中にプリントを配布する。													
備考													
【事前もしくは同時に受講して欲しい講義】													
「消費生活論」													
【質問・相談など】													
質問や相談などは, オフィスアワー (日時は掲示で確認のこと) に受けつけます。													

授業科目名	キャリア開発 I		単位 (総授業時間+自習時間)					1(30+15)										
担当者	鈴木 裕行	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	健専 1 年									
授業概要																		
<p>化学 I・II の授業で取り扱った内容に関連する基礎的な問題の演習を主とし、個々の学生の理解度に合わせて、解法を担当教員および学習支援員 (学生) により個別に指導する。また授業で出題された練習問題についての解説を行う。さらに将来にむけて管理栄養士の業務の実際についての説明、および 4 年次に受験する予定の管理栄養士国家試験の概要と対策について、また学習している化学との関連についても解説する。</p>																		
授業の到達目標					学位授与の方針との関連													
					1	2	3	4	5	6	7	8	9					
化学の練習問題を解けるようにする。					○		○											
管理栄養士の業務の概要を理解する。					○		○											
管理栄養士国家試験の概要と、化学の学習との関連を理解する。					○		○											
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)													
1. 物質の構成に関連する問題演習と解説					授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。… Ⓐ													
2. 周期表に関連する問題演習と解説																		
3. 原子・イオン・分子に関連する問題演習と解説																		
4. 化学式に関連する問題演習と解説																		
5. 物質量: 原子量・分子量の計算に関連する問題演習と解説																		
6. 管理栄養士の仕事について、モルの計算に関連する問題演習と解説					Ⓐ および管理栄養士の仕事についての説明をまとめレポートを作成する。													
7. 化学反応式に関連する問題演習と解説					授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。… Ⓐ													
8. 化学結合に関連する問題演習と解説																		
9. 酸・塩基、中和に関連する問題演習と解説																		
10. 水素イオン濃度と pH に関連する問題演習と解説																		
11. 管理栄養士国家試験について、酸化と還元に関連する問題演習と解説					Ⓐ および管理栄養士国家試験についての説明をまとめレポートを作成する。													
12. 酸化数と酸化還元反応に関連する問題演習と解説					授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。… Ⓐ													
13. 気体の性質に関連する問題演習と解説																		
14. 溶液の性質に関連する問題演習と解説																		
15. 化学反応と熱に関連する問題演習と解説																		
履修上の注意																		
特に教員・学習支援員に積極的に質問して不明な点を極力残さないような取り組みを求める。																		
成績評価方法・基準																		
平常点 (試問・課題)・・・80%、レポート提出・・・20%																		
教科書 ゼロからはじめる化学、立屋敷 哲、丸善(株)出版事業部、2,200 円+税																		
参考書 無し																		
備考																		
<p>選択科目であるが、化学の学力向上を目指したもので、化学 I・II の授業と特に関連が深く、かつ管理栄養士関連の情報提供も行うので履修することが望ましい。提出物へのフィードバックとして、コメントを後日提示する。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。</p>																		

授業科目名	キャリア開発Ⅱ（色彩検定 UC 級）			単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+30)							
担当者	水谷 浩	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	服専 2 年						
授業概要（目的） 昨今，SNS(Social Networking Service)で発信力のある個人（インフルエンサー）の情報は，消費者の購買行動や企業のコミュニケーション戦略のなかで最も注目されている。とりわけ，ファッション業界では，情報の分かりやすさ（伝わりやすさ）に関しての知識や技能が求められる。 本授業では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第 46 期）』や『UC（ユニバーサルカラー）アドバイザー』としての経歴を活かし，色彩検定協会主催『色彩検定 UC 級』の試験対策を教授するとともに「視覚情報のユニバーサルデザイン」に関する基礎知識の修得をめざしている。															
授業の到達目標				学位授与の方針との関連											
				1	2	3	4	5	6	7	8	9			
・「視覚情報のユニバーサルデザイン」の重要性を認識できる				○	○	○				○					
・多様な見え方に配慮した色づかいについて理解できる							○	○	○	○					
・見えづらい例を示し，改善点を分かりやすく説明できる				○	○	○	○	○	○	○					
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）											
1.オリエンテーション（多様な見え方を知る） 色のユニバーサルデザインについて学ぶ				授業計画や事前配布資料などを参考にして予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。											
2.「光と色の関係は？」 色が見えるしくみを学ぶ															
3.「色を表すには？」 ① 色相・明度・彩度，②色相とトーンについて学ぶ															
4.「多様な見え方と色覚特性を知る」 色覚特性と混同しやすい色，色覚検査法を学ぶ															
5.「高齢者の見え方を知る」 加齢と見え方の変化について学ぶ															
6.「誰もが見やすい配慮を知る」 視覚情報のユニバーサルデザインについて学ぶ															
7.「色のユニバーサルデザインを実践するには？」 視覚情報のユニバーサルデザイン化（修正）について学ぶ															
8.検定試験 色彩検定 UC 級の受験										過去問題を何度も解くことで，試験対策を怠らないこと。					
9.まとめ 色彩検定 UC 級の振り返り										試験後は，解答解説を踏まえて，自己採点を行うこと。					
履修上の注意 受講にあたり「色彩検定 UC 級」の受験申し込み（自己負担：1,500 円）が必要となる 3/4 以上の出席がない場合には，単位を取得することはできない。															
成績評価方法・基準 平常点・授業への参加態度(50%)+課題の提出状況(25%)+面接準備シート(25%)にもとづき評価する。 なお，課題については，次回の授業内にフィードバックします。															
教科書 〔色彩検定 UC 級公式テキスト〕〔財色彩検定協会〕〔財色彩検定協会〕〔2,300 円〕															
参考書 必要に応じて紹介する。															
備考 【事後もしくは同時に受講して欲しい講義】 「色彩学」 【質問・相談など】 質問や相談などは，オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。															

授業科目名	キャリア開発Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)					
担当者	川俣 幸一	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	健専2年					
授業概要														
<p>2017年1月よりセルフメディケーション税制が開始され、今後は症状の軽い病気（生活習慣病を含む）は病院ではなく市販薬対応として世の中がシフトしていくと考えられている。また2018年11月の内閣府の経済財政諮問会議で薬剤師と管理栄養士の融合が話題となる中で、これからは薬局に勤務できるような薬に詳しい管理栄養士のニーズが高まるものと想定される（薬局栄養士）。</p> <p>登録販売者とは薬の知識を生かし薬局などで医薬品の販売を行うことのできる国家資格である。この授業では薬に詳しい管理栄養士を目指すため、8月下旬に実施される登録販売者試験の合格を目標とした試験対策講座を行う。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
基本的なOTC医薬品の作用機序について理解できる							○		○					
薬局栄養士についての職務内容・将来性が理解できる					○									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 概要／人体の構造と働き・薬の働く仕組み					事前学習としてテキストの目次を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。									
2. 医薬品の基本的な知識・副作用					事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。									
3. 薬の作用を知るための重要なポイント① （アドレナリン様作用、抗コリン作用など）					事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。									
4. 薬の作用を知るための重要なポイント② （抗ヒスタミン作用、プロスタグランジンの作用など）					事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。									
5. OTC 医薬品① （風邪薬、アレルギー薬、催眠鎮静薬など）					事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。									
6. OTC 医薬品② （鎮暈薬、痔疾用薬など）					事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。									
7. OTC 医薬品③ （胃腸薬・滋養強壮保健薬など）					事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。									
8. OTC 医薬品④ （皮膚薬、毛髪薬など）					事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。									
9. OTC 医薬品⑤ （目薬、歯痛薬など）					事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。									
10. OTC 医薬品⑥ （一般用検査薬、公衆衛生用薬）					事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。									
11. OTC 医薬品⑦ （生薬成分と漢方処方）					事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。									
12. 薬事関係法規					事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。									
13. 医薬品の販売制度					事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。									
14. 医薬品の適正使用					事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。									
15. 医薬品の安全対策					事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。									
履修上の注意														
登録販売者試験の日程に合わせて日程や時間割を調整する事がある。														
成績評価方法・基準														
課題レポート・・・90%														
受講態度・・・10%														
提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。														
教科書 7日間であかる！登録販売者テキスト [堀美智子著] [日本経済新聞出版社] [1944円]														
参考書 なし（適宜プリントを配布する）														
備考														
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。														

授業科目名	キャリア開発Ⅲ				単位 (総授業時間+自習時間)				1(15+30)					
担当者	内海 陽子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専3年					
授業概要														
<p>本講義では、AFT 色彩検定 2 級の試験対策講座を行う。色彩は、被服をはじめとする日常生活のあらゆる分野に関連する。特に、ファッション業界やインテリア業界、グラフィック業界、企業のデザイン・宣伝部門など、幅広い分野で活用される「色」についての専門知識について取り上げることで、知識の深化を図り、色彩を活用するための実践力を養う。これらの専門知識を身につけながら、AFT 色彩能力検定 2 級を目指す。当講義では、大手アパレルメーカーで、年間 30 億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
色彩についての基礎知識を身につける。					○									
色彩を活用し実践するための専門知識を身につける。						○								
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 生活と色、光と色					教科書を熟読し、練習問題を学習する。									
2. 色の表示					教科書を熟読し、練習問題を学習する。									
3. 色彩調和、配色イメージ					教科書を熟読し、練習問題を学習する。									
4. ヴィジュアルデザインと色彩、プロダクトデザインと色彩					教科書を熟読し、練習問題を学習する。									
5. ファッションと配色					教科書を熟読し、練習問題を学習する。									
6. インテリアデザインと色彩					教科書を熟読し、練習問題を学習する。									
7. エクステリアデザインと色彩					教科書を熟読し、練習問題を学習する。									
8. AFT 色彩検定の試験対策					教科書を熟読し、練習問題を学習する。									
履修上の注意														
<p>AFT 色彩検定 3 級の内容を十分に復習して授業に臨むこと。事前に教科書を熟読し、配布する練習問題を十分に学習してくること。AFT 色彩検定 2 級を受験すること。</p>														
成績評価方法・基準														
課題レポート (50%)、事前・事後学習を含む授業姿勢 (50%) で総合評価。														
教科書 [AFT 色彩検定 公式テキスト 2 級編] [AFT 対策テキスト編集委員会] [A・F・T 企画] [¥3,240]														
参考書 使用せず														
備考														
質問等については、授業終了後受け付ける。														

授業科目名		キャリア開発Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)									
担当者	健康栄養学専攻教員	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	健専3年									
授業概要																		
<p>管理栄養士として働くためには、栄養士免許の取得と管理栄養士国家試験に合格することが必要条件である。特に、管理栄養士国家試験に合格するためには、出題内容を把握した上での継続的な学習が不可欠である。本科目は、管理栄養士国家試験の受験対策として、以下の内容を扱う。</p> <p>① 管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。</p> <p>② 出題分野（科目）ごとに試験範囲、頻出事項について解説する。</p>																		
授業の到達目標					学位授与の方針との関連													
					1	2	3	4	5	6	7	8	9					
国家試験受験に必要な知識を身につける。					○	○	○											
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）													
1. ガイダンス（鈴木、栗山）、基礎栄養学（鈴木）①					予習・復習を行い、知識を整理する。													
2. 基礎栄養学（鈴木）②					不得意箇所の克服に努める。													
3. 基礎栄養学（鈴木）③					学習した内容全体を復習する。													
4. 応用栄養学（川俣）①					予習・復習を行い、知識を整理する。													
5. 応用栄養学（川俣）②					不得意箇所の克服に努める。													
6. 応用栄養学（川俣）③					学習した内容全体を復習する。													
7. 食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）①					予習・復習を行い、知識を整理する。													
8. 食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）②					不得意箇所の克服に努める。													
9. 食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）③					学習した内容全体を復習する。													
10. 食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）④					予習・復習を行い、知識を整理する。													
11. 食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）⑤					不得意箇所の克服に努める。													
12. 食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）⑥					学習した内容全体を復習する。													
13. 給食経営管理論（半澤）①					予習・復習を行い、知識を整理する。													
14. 給食経営管理論（半澤）②					不得意箇所の克服に努める。													
15. 給食経営管理論（半澤）③					学習した内容全体を復習する。													
16. ミニテスト（栗山）					学習した内容全体を復習する。													
履修上の注意																		
<ul style="list-style-type: none"> 管理栄養士国家試験受験を希望する者は履修すること。 毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席や遅刻がないように注意すること。 																		
成績評価方法・基準																		
<ul style="list-style-type: none"> 平常点 50%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する）、ミニテスト 50%の結果で評価する。 提出物やミニテストは、後日フィードバックを行う。 																		
教科書 〔管理栄養士国家試験 問題集〕〔大学作成〕 〔クエスチョンバンク 2021〕〔メディックメディア〕（7月発売予定）																		
参考書 各授業で使用した教科書など（各担当の教員が指示する）。																		
備考																		
質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。																		

授業科目名	キャリア開発Ⅳ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+30)				
担当者	水谷 浩	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	服専3年				
授業概要（目的） 昨今、H&M、GAP、ZARA、ユニクロなどのファストファッション、そしてWEBサイトでの販売を展開するZOZOTOWNなどの新興勢力が台頭し、ファッション・ビジネスは新たな局面を迎えている。とりわけ、SNS(Social Networking Service)の普及は、ファッション関連分野の可能性を多彩に広げ、働き方も大きく変容・拡大しつつある。 本授業では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし「将来、服飾関連分野で働く」という視点から、将来のキャリア形成に向けて、具体的な目標設定（エントリーシートの作成）を指導するとともに『ニュース時事能力検定2級』試験対策の教授により、社会人基礎力のひとつ「課題発見力」や「状況把握力」などの修得をめざしている。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・「課題発見力」「状況把握力」の重要性を認識、実践できる					○	○	○				○		
・多様な人々と協力し、働くために必要な能力を理解できる								○	○	○	○		
・将来のキャリア形成にむけて、具体的な目標を説明できる					○	○	○	○	○	○	○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.オリエンテーション（授業の進め方・評価など） 就職活動に不可欠な時事問題の傾向と対策を学ぶ					授業計画や事前配布資料などを参考にして予習すること。 また『ニュース時事能力検定2級』対策として、 <u>毎日、新聞の記事や社説、コラムから題材を1つ選び、その題材についてコメントや見出しを書き、さらに要約すること。</u> <u>なお、これらのワークシートは、ノートにまとめ、最終授業の時に提出すること。</u>								
2.業界研究 ファッション関連分野の現状と新たな可能性を学ぶ													
3.企業・職種研究 世界的に代表的な企業や仕事の内容などを学ぶ													
4.履歴書（エントリーシート）作成 「自分を知る。相手を知る」を学ぶ													
5.ニュース時事能力検定対策① 小学校・中学校社会科の「地理」や「歴史」の振り返り													
6.ニュース時事能力検定対策② 高校の「現代社会」や「政治・経済」の振り返り													
7.ニュース時事能力検定対策③ 世界的・歴史的な視点で現代社会を見る目を学ぶ													
8.模擬試験 「ニュース時事能力検定2級」の模擬試験の実施													
9.まとめ 模擬試験の振り返り										試験後は、解答解説を踏まえ、自己採点を行うこと。			
履修上の注意 3/4以上の出席がない場合には、単位を取得することはできない。													
成績評価方法・基準 平常点・授業への参加態度(50%)+課題の提出状況(25%)+模擬試験の結果(25%)にもとづき評価する。 なお、課題については、次回の授業内にフィードバックします。													
教科書 [2020年度版ニュース検定公式テキスト発展編] [日本ニュース時事能力検定協会監修] [毎日新聞出版] [1,650円]													
参考書 必要に応じて紹介する。													
備考 【事前もしくは同時に受講して欲しい講義】 「キャリアサポートⅠ」「キャリア開発Ⅰ」「消費生活論」「経済学」「歴史Ⅰ」 【質問・相談など】 質問や相談などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。													

授業科目名	キャリア開発Ⅳ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	健康栄養学専攻全教員	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	健専4年				
授業概要													
<p>本科目は、4年次の管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。</p> <p>① 管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。</p> <p>② 応用問題のように、出題分野（科目）を横断する内容の問題について、特徴や要点を説明する。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
国家試験受験に必要な知識を身につける。					○	○	○					○	
授業計画の内容 （全教員：鈴木、伊藤、佐藤、曾根、栗山、川俣、小野、半澤、深澤、高橋、八巻）					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス（鈴木、栗山）					学習目標を確認する。								
2. 模擬試験①（栗山、川俣）					知識の修得状況を把握する。								
3. 問題解説（全教員、外部講師）①					予習・復習を行い、知識を整理する。								
4. 問題解説（全教員、外部講師）②					予習・復習を行い、知識を整理する。								
5. 問題解説（全教員、外部講師）③					不得意箇所の克服に努める。								
6. 問題解説（全教員、外部講師）④					不得意箇所の克服に努める。								
7. 模擬試験②（栗山、川俣）					知識の修得状況を把握する。								
8. 問題解決（全教員、外部講師）⑤					予習・復習を行い、知識を整理する。								
9. 問題解説（全教員、外部講師）⑥					予習・復習を行い、知識を整理する。								
10. 問題解説（全教員、外部講師）⑦					不得意箇所の克服に努める。								
11. 問題解説（全教員、外部講師）⑧					知識の修得状況を把握する。								
12. 模擬試験③（栗山、川俣）					知識の修得状況を把握する。								
13. 問題解説（全教員、外部講師）⑨					予習・復習を行い、知識を整理する。								
14. 問題解説（全教員、外部講師）⑩					予習・復習を行い、知識を整理する。								
15. 問題解説（全教員、外部講師）⑪					不得意箇所の克服に努める。								
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。 ・ 模擬試験の開催日時、問題解説の内容については、掲示で連絡する。 													
成績評価方法・基準													
<ul style="list-style-type: none"> ・ 平常点 50%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する）、模擬試験の結果 50%で評価する。 ・ 提出物や模擬試験は、後日フィードバックを行う。 													
教科書 〔管理栄養士国家試験 問題集〕〔大学作成〕 〔クエスチョンバンク 2020〕〔メディックメディア〕※3年次に購入済み													
参考書 各授業で使用した教科書など（各担当の教員が指示する）。													
備考													
質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。													

授業科目名	キャリア開発Ⅳ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+15)					
担当者	川俣 正	必・選	選	形態	集中講義	学期	後期	対象	生美3年					
授業概要														
現代美術の発表活動を中心に、それを取り巻く社会との繋がりについてキャリアという視点で体験し、考えることができる授業である。アートとはどういうコトで、どういう効力・効果があるかということ、せんだいメディアテークの企画展を中心に進め、体験することができるよう指導を行う。どのようなコンセプトで企画され、どのような表現（造形作品、身体表現、映像、音楽、文学、建築など）があり、何が必要で、どのように準備し、実行され終了するか。またその成果はどのようなことがあるかを基礎からレクチャーし、実際に企画者（キュレーター）とアーティスト、事務局（会計、広報、デザインなど）、批評や展評などに分かれ展覧会を企画する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
現代美術の基本的知識や学習態度を身につけることができる。					○									
自らが立てた新たな課題に、創造的思考力を適用し、主体的に解決する能力を身につけることができる。														○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 授業の概要と流れについて					情報を集める。									
2. 課題の設定とその展開について					調査をする。									
3. 課題1 課題説明 調査内容を発表					修正を加え再提出する。									
4. 検討・制作					プリントを完成させ提出する。									
5. 発表、提出					課題を完成させ提出する。									
6. フィードバック					プレゼンの準備をする。									
7. プレゼンテーション					授業を振り返り、ポイント等を整理する。									
8. まとめ					調査をする。									
9. 課題2 課題説明 調査内容を発表					修正を加え再提出する。									
10. 検討・制作					プリントを完成させ提出する。									
11. 発表、提出					課題を完成させ提出する。									
12. フィードバック					内容を復習し、課題を進める。									
13. 検討・制作					課題を完成させる。									
14. プレゼンテーション					プレゼンの準備をする。									
15. プレゼンテーション 今後の展開とまとめ					授業を振り返り、ポイント等を整理する。									
履修上の注意														
実施時期・講義内容の詳細について掲示で知らせる。各自内容を確認し履修登録を行うこと。また、必要な材料等の準備物についても掲示にて知らせる。必ず提出すること。														
成績評価方法・基準														
授業態度、取り組みの姿勢など 50%、課題とプレゼンテーションの内容 50%で評価する。課題については、授業内でフィードバックを行う。														
教科書 授業時に資料を配布する。														
参考書 適宜指示する。														
備考														
質問については、授業時、授業終了後に受け付ける。														

授業科目名	キャリアサポート I				単位 (総授業時間+自習時間)				1(30+15)					
担当者	佐藤淳一他教職員	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服・健・生美3年					
授業の概要														
<p>インターンシップが採用選考のプロセスに組込まれ、年々早期化が進行している現在の就職活動では、早い段階から活動を開始し、幅広い視野に立ち活動しながら将来の進路を考え決定する力を身に付ける必要がある。そこで、幅広い視野と判断力を養うため、ライフプランニングの基本的な考え方、情報収集力、分析力、論理的思考力等の基礎知識と、ツールを活用した業界・企業研究法、SPI、エントリーシートの書き方、面接、ビジネスマナー等の実践的な知識・スキルを教え、学生のより良い進路選択が実現出来るよう指導して行く。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
① 幅広い視野で進路を考え、選択決定する力を身に付ける						○								
② 自分の考え・意見を分かり易く文章や言葉で表現する力を身に付ける					○									
③ 就職試験に合格する力を身に付ける								○						
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1.就活準備スタートアップセミナー (授業がダブッス・就活の進め方等)					これからやるべきことを理解すること									
2.これからの生き方・働き方を考えるセミナー					変化の時代におけるライフプランを考えること									
3.進路選択を考えるセミナー (将来を見据えた進路選択の有り方)					幅広い視野で自身の進路選択を考えること									
4.情報の読み方セミナー (情報収集と分析)					世の中の動きを論理的思考力で理解すること									
5.自己分析セミナー (性格テストを活用した自己分析)					自分の強み・興味関心を理解すること									
6.業界・企業研究セミナー (業界地図と就職四季報の活用法)					進路選択の幅を広げる手法を理解すること									
7.インターンシップセミナー (映像で理解するインターンシップの内容)					インターンシップ = 採用選考の現状を理解すること									
8.インターンシップ用エントリーシート対策セミナー					インターンシップに積極的に参加すること									
9.データセキュリティセミナー					就活前に情報を守る基礎を身に付けること									
10.SPI ミニテスト&非言語基礎セミナー					SPIの問題形式と必要な対策を理解すること									
11. SPI 非言語対策基礎編① (割合・損益計算) 注1					配布するテキストを繰り返し復習し、限られた時間内で非言語問題を解く実力を身に付けること 注1: 理解度に応じて柔軟に対応する									
12. SPI 非言語対策基礎編② (速さ・確率) 注1														
13. SPI 非言語対策応用編① (推論・グラフの領域) 注1														
14. SPI 非言語対策応用編② (数表・比率) 注1														
15.ビジネスマナーセミナー ～就活は第一印象で決まる～					学んだことを忘れずに実践し身に付けること									
履修上の注意														
<p>学んだことを繰り返しの復習や普段の生活の中で実践し確実に身に付けるようにすること ミニットペーパーを活用して論理的思考力を身に付けるよう心掛けること また、授業のほか開催するセミナーにも積極的に参加して実力向上を図ること</p>														
成績評価方法・基準														
ミニットペーパーによる授業内容の理解 (60%) 出席 (40%)														
教科書 授業の際に資料を配布する														
参考書 会社四季報業界地図 東洋経済新報社 1,300円 (税別) 就職四季報 総合版又は女子坂 東洋経済新報社 1,900円 (税別)														
備考														
質問、相談等はオフィスアワー以外でも常時受け付ける。														

授業科目名	キャリアサポート I				単位 (総授業時間+自習時間)	1(30+15)								
担当者	佐藤淳一他教職員	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服・健・生美3年					
授業の概要														
インターンシップが採用選考のプロセスに組込まれ、年々早期化が進行している現在の就職活動では、早い段階から活動を開始し、幅広い視野に立ち活動しながら将来の進路を考え決定する力を身に付ける必要がある。そこで、幅広い視野と判断力を養うため、ライフプランニングの基本的な考え方、情報収集力、分析力、論理的思考力等の基礎知識と、ツールを活用した業界・企業研究法、SPI、エントリーシートの書き方、面接、ビジネスマナー等の実践的な知識・スキルを教え、学生のより良い進路選択が実現出来るよう指導して行く。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
① 幅広い視野で進路を考え、選択決定する力を身に付ける										○				
② 自分の考え・意見を分かり易く文章や言葉で表現する力を身に付ける											○			
③ 就職試験に合格する力を身に付ける									○					
授業計画の内容						自習 (事前・事後学修の内容)								
16.SPI 模擬試験						弱点を把握し今後の勉強に活かすこと								
17.楽しく学ぶ小論文対策セミナー①						様々な問題に対する考えや意見を分かり易い文章で表現出来るようにすること								
18.楽しく学ぶ小論文対策セミナー②														
19.SPI 模擬試験振り返りセミナー (頻出問題の再確認)						頻出問題を確実に得点出来るようにすること								
20.就活準備中間レビュー (自己PRの土台づくり)						面接・ESで必ず訊かれる自己PRを完成させること								
21.プレゼンテーションセミナー (プレゼンの基礎)						学んだことを普段から実践して身に付けること								
22.就活本番用エントリーシート対策セミナー① (企業分析から始める自己理解)						自分自身の興味・関心・強みと企業の求める人材像とを重ね合わせてエントリーシートを作成できるようにすること								
23.就活本番用エントリーシート対策セミナー② (ESを作成してみる)														
24.就活本番用エントリーシート対策セミナー③(振り返り)														
25.面接試験対策セミナー① (集団面接ワーク)						ロールプレイを通じ面接試験を突破するための実践力を身に付けること								
26.面接試験対策セミナー② (個人面接ワーク)														
27.人事担当者セミナー						人事担当者の話を聴き企業研究の参考にする事								
28.労働法基礎セミナー (労働法の基礎と求人票の見方)						働く者の権利と義務を理解すること								
29.振り返りセミナー (就活の流れとこれからやるべきこと)						就活でやるべきことを実践すること								
30.内定者報告会						内定に至るプロセスを理解すること								
履修上の注意														
学んだことを繰り返しの復習や普段の生活の中で実践し確実に身に付けるようにすること ミニットペーパーを活用して論理的思考力を身に付けるよう心掛けること また、授業のほかに開催するセミナーにも積極的に参加して実力向上を図ること														
成績評価方法・基準														
ミニットペーパーによる授業内容の理解 (60%) 出席 (40%)														
教科書 授業の際に資料を配布する														
参考書 会社四季報業界地図 東洋経済新報社 1,300円 (税別) 就職四季報 総合版又は女子坂 東洋経済新報社 1,900円 (税別)														
備考														
質問、相談等はオフィスアワー以外でも常時受け付ける。														

授業科目名	キャリアサポートⅡ				単位(総授業時間+自習時間)	1(30+15)								
担当者	佐藤淳一他教職員	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	服・健・生美4年					
授業概要														
4年生に進級した直後の4月1日時点における企業の採用活動と全国的な学生の就職活動状況を説明し、現状を理解させる。その上で、学生の採用選考がスムーズに進捗するよう面接等の就職試験の頻出問題である時事問題を絡めた実践的な小論文対策セミナーと、エントリーシート・履歴書の復習セミナーを実施する。また、企業を学内にお呼びして会社説明会兼一次選考会の実施等学生の手間と時間の省いた実践的な内容で就職活動をサポートして行く。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
① 現在の就職環境を理解すること						○								
② 小論文やES・履歴書に対応する文章力を身に付けること								○						
③ 学内会社説明会に参加し企業を見る目を養うこと										○				
授業計画の内容					自習(事前・事後学修の内容)									
1.就職環境セミナー(企業及び学生の動向)					就職環境を理解した上で活動すること									
2.小論文対策セミナー実践編①					決められた時間内で小論文を書けるようにすること									
3.小論文対策セミナー実践編②														
4.ES・履歴書復習セミナー①					自分の強みと企業の求める人材像をマッチングさせたESを完成できるようにすること									
5.ES・履歴書復習セミナー②														
6.学内単独会社説明会(会社名は後日発表)					直接企業の人事担当者から、会社の業績・仕事の内容・教育制度・キャリアプラン・給与、休日、労働時間、福利厚生等の労働条件・選考方法等の話を聴き、企業を見る目を養うこと									
7. //														
8. //														
9. //														
10. //														
11. //														
12. //														
13. //														
14. //														
15. //														
履修上の注意														
自ら選択した進路実現のため、授業で学んだことを実際の就職活動で繰返し実践すること														
成績評価方法・基準														
ミニットペーパーによる授業内容の理解(60%)出席(40%)														
教科書 授業の際に資料を配布する														
参考書 なし														
備考														
質問、相談等はオフィスアワー以外でも常時受け付ける。														

家政学部基幹科目

授業科目名	家政学原論				単位(総授業時間+自習時間)	2(30+60)								
担当者	八巻 美智子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服・健1年					
授業概要														
「家政学とは何か」について学ぶ。近代以降家政学がどのように扱われてきたか、また現在、私たちが抱えている生活の問題点について概説する。家政学部で各自が所属する学科で専攻科目を学びながら人間生活と生活に関わる家政学の独自性に気づきその根本について説明する。さらに、実際に生活する上でいかに家政学が重要かを理解するとともに、各自が自立しよりよく生きるための力を身につけることの重要性を理解させる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
家政学の独自性に気づき、その根本について理解する事。					○	○	○			○				
実際に生活する上でいかに家政学が重要かを理解する。					○	○	○			○				
自立しよりよく生きるための力を身につける。						○	○			○		○		
授業計画の内容					自習(事前・事後学修の内容)									
1.ガイダンス					日頃から生活の諸問題に対し自分の意見を持ち行動する事。									
2. 家政学とは					家政学とは何か理解し学ぶ大切さを実感すること。									
3. 家政学をなぜ学ぶのか					家政学をなぜ学ぶのかを理解し、重要性に気が付くこと。									
4. 家政学の特質、対象					家政学の対象の広さを知り、身近な学問と理解する事。									
5. 家政学史 本学の歴史について					家政学の歴史などについて自分なりに調べる。									
6. 我が国の家政学史(1) 学制以前～					家政学の歴史などについて自分なりに調べてレポート・発表する。									
7. " (2) 昭和時代～					家政学の歴史などについて自分なりに調べてレポート・発表する。									
8. 諸外国の家政学について(ヨーロッパ)					プリントを見ながら復習すること。									
9. " (アメリカ)					プリントを見ながら復習し憶える。									
10. ここまでのまとめ(テスト)					プリントを見ながら復習し憶える。									
11. 生活上の諸問題(家庭、衣生活)					講義で学んだことを生かしレポートする題目を決める。									
12. " (食生活)					レポート内容を決める。									
13. " (住生活環境、消費生活)					レポート内容について調べる。									
14. " (福祉、高齢化社会)					レポートをまとめる。									
15. まとめ 今後の家政学					レポートしたことを発表する。									
履修上の注意														
出席を重視。私語は厳禁。														
成績評価方法・基準														
テスト40%、レポート・発表30%、授業態度(提出物やその内容、教員の指示に対応しているか)30% テスト、レポート等については授業中にフィードバックをします。解答例を配布する場合があります。														
教科書 :プリント配布														
参考書 :〔家政学原論〕〔朝倉書店〕〔3,132円〕														
備考														
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付けます。														

授業科目名	家族関係学				単位(総授業時間+自習時間)	2(30+60)							
担当者	八巻 美智子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健1年				
授業概要 「家族とは何か」について概説する。これまでの家族やその在り方、現在や今後の家族やその在り方について解説する。身近な存在である家族は特に成長過程において、大切な存在であることを理解させる。また、家族をめぐる諸問題やその背景にある社会の変化について、いろいろなデータも取り入れて講義する。そのデータを客観的に科学的に考察することで、さまざまな諸問題に対し自発的に解決できる能力を養うことの重要性を理解させる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
さまざまな家族について理解する事。					○	○				○		○	
家族を取り巻く諸問題について客観的に理解を深める事。					○	○				○		○	
変化する社会と家族について問題点を見つけ改善していく能力を身に付ける事。					○	○				○		○	
授業計画の内容					自習(事前・事後学修の内容)								
1.ガイダンス					家族について考える								
2.家族とは,家族の種類と分類					家族の存在について考える								
3.自分と家族					行事と家族について考える								
4.家族の多様化(生活スタイル)					行事と家族について考える								
5.小テスト これまでのまとめ					小テストに向けて学修する								
6.結婚と家族					家族について自分なりの考えをまとめる								
7.家族関係と法律					家族関係と法律について理解を深める								
8.新しい生命の誕生と家族					生命の誕生と家族のかかわりについて理解を深める								
9.子どもの成長と家族					生命の誕生と家族のかかわりについて理解をより深める								
10.様々な環境で育つ子ども					さまざまな環境下で育つ子どもについて理解する								
11.高齢社会における家族					小テストに向けて学修する								
12.小テスト これまでのまとめ					レポート課題に取り組む								
13.家族のこれからの在り方					レポート課題に取り組む								
14.家族のこれからの在り方					図表を見て客観的に理解する								
15.まとめの講義					図表を見て客観的に理解する								
履修上の注意 出席を重視。私語は厳禁。													
成績評価方法・基準 授業参加状況(提出物、授業に積極的に参加しているかなど) 20%、小テスト 50%、レポート課題 30% テスト、レポート等については授業中にフィードバックをします。解答例を配布する場合があります。													
教科書: 変化する社会と家族 建帛社 定価 2000円+税													
参考書: 講義時に指示する													
備考 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付けます。 講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。													

授業科目名	家庭経営学（家庭経済学を含む。）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)						
担当者	前田 修也	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健1年					
授業概要														
<p>家庭生活を取り巻く環境は大きく変化している。社会のあらゆる面における国際化、少子・高齢化、情報化などである。本講義では、このような変化に対応した家庭経営のあり方を、「家計」という視点から解説する。その中で、現代の日本経済が直面している諸問題を社会保障制度などの基礎知識を織り交ぜながら、国民経済の中の家庭経済の位置と役割や家庭経済の基礎である世帯の変化など家政学の基本的視点を講義する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
現代の日本経済が直面している諸問題を理解することができる					○	○								
社会保障制度などの基礎的知識を獲得することができる					○	○								
家政学の基本的視点を理解することができる					○	○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス：講義内容についての概要の説明					1 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）									
2.家庭経済とは何か①（家庭の経済活動）					2 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）									
3.家庭経済とは何か②（家庭経済の特質）					3 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）									
4.国民経済の中の家庭経済①（家庭経済と国民経済との関係）					4 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）									
5.国民経済の中の家庭経済②（国民経済における家庭経済の収支）					5 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）									
6.国民経済の中の家庭経済③（家庭経済の経済活動と国民経済）					6 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）									
7.家庭経済の基礎としての世帯①（世帯規模と世帯構造の変動）					7 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）									
8.家庭経済の基礎としての世帯②（核家族化）					8 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）									
9. 家庭経済の基礎としての世帯③（少子高齢化）					9 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）									
10.収支と支出①（世帯の所得）					10 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）									
11.収支と支出②（世帯の消費構造）					11 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）									
12.収支と支出③（消費支出に影響を与える要因）					12 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）									
13.物価①（物価とは何か）					13 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）									
14.物価②（消費者物価指数の見方）					14 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）									
15.振り返り					振り返りの授業内容に関してノートを中心にまとめておく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）									
履修上の注意														
私語を慎み、授業への積極的な参加を望みます。														
成績評価方法・基準														
おおむね、振り返り（40%）、ノートの内容（30%）とレポートの内容（30%）で評価します。それぞれフィードバックを行います。														
教科書 ：〔一番わかりやすい日本経済入門〕〔塚崎公義〕〔河出書房新社〕〔902円〕														
参考書 ：毎回授業で提示します														
備考 ：オフィスアワーに関しては、開講時に話します。														

服飾文化專攻專攻科目

授業科目名	消費生活論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	水谷 浩	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服専2年					
授業概要（目的）														
<p>私たちは、誰もが「消費者」である。さまざまな商品やサービスを購入し、それらを利用（消費）し、暮らしている。そうしたなか「経済的に効率良く、地球環境にも配慮し、暮らしていくためには、合理的な意思決定を行うための智慧（消費者力）が求められる。</p> <p>本講義では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし、消費者問題の歴史の変遷を解説するとともに、消費者・行政・企業の事例研究を通じて「現代社会を生きていくために知っておくべきこと、暮らしに役立つこと（消費者力）」の修得をめざしている。</p>														
授業の到達目標				学位授与の方針との関連										
				1	2	3	4	5	6	7	8	9		
・現代社会に欠かせない智慧として、消費者問題を理解できる				○	○									
・全ての人に関わる問題と認識し、消費者問題を説明できる								○	○					
・今後の消費者・行政・企業のあるべき姿について説明できる							○			○				
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）										
1. オリエンテーション（授業のすすめ方・評価、消費者力） 現代社会を生きていくための智慧とは？				授業計画やテキストなどを参考にして、予習すること。 講義ノートを読み直し、学習内容の振り返り（復習）を行うこと。										
2. 消費者政策の歴史 消費者保護基本法から消費者基本法へ転換した理由は？														
3. 消費者政策の理念と歴史 消費者の4つの権利から6つの権利へ発展した理由は？				「消費者の4つの権利」と「消費者の6つの権利」についてA4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめ提出。										
4. 消費者行政と消費者関係法 消費者に役立つ様々な法律を学ぶ														
5. 消費生活の安全の確保 消費生活相談員の役割を学ぶ														
6. 広告・表示の適正化 景品表示法関連法令と事例について学ぶ														
7. 消費者契約の適正化 消費者契約法と重要説明事項を学ぶ				インターネット取引における広告・表示規制について調べ、A4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめ提出。										
8. 企業と業界団体の責務 消費者・顧客志向の経営を学ぶ														
9. 消費者対応部門の役割と機能 企業の消費者対応を学ぶ				東北地域の企業・業界団体の消費者対応を調べ、その概要をまとめるとともに、その取り組みに対する所感についてA4用紙2枚（1,600字以上）のレポートを作成し、提出。ただし、取り上げる企業・業界団体は3社以上とする。										
10. 業界団体の消費者対応 通販110番や訪問販売110番などの事例について学ぶ														
11. 消費者教育 国民生活センターや日本消費者協会を事例について学ぶ				「現代社会を生きていくために知っておくべきこと、暮らしに役立つこと」の視点から、これまでの授業のなかで、最も印象に残ったことについて要約し、考察を加え、A4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめ提出。										
12. 消費生活における情報の重要性 合理的な意思決定とは？														
13. 消費生活情報の現況Ⅰ 暮らしに役立つ情報を見極めるには？														
14. 消費生活情報の現況Ⅱ 賢い消費行動の実践に向けて														
15. まとめ（消費者力検定の紹介）														
履修上の注意														
2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできない。														
成績評価方法・基準														
平常点・授業への参加態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価する。 なお、課題については、授業中にフィードバックをします。														
教科書 〔消費生活論〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔1,600円〕														
参考書 授業中に適宜指示する。														
備考														
質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。														

授業科目名	社会福祉論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)				
担当者	伊藤 常久	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専2年				
授業の概要													
<p>国民が健康で自立した安心できる生活を送ることができるよう支援することは、社会福祉の目的の一つである。講義では、日本や諸外国における社会福祉の歴史と発展について取り上げながら、社会福祉の理念や考え方について紹介する。また、少子高齢化が一層進みつつある我が国の高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉の仕組み（法・制度）と現状と合わせ、現在生じているさまざまな課題等について、私たちの生活と関連付けて解説する。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
社会福祉の理念や概念について理解する。					○	○							
社会福祉に関連する法・制度を理解する。					○	○							
社会福祉の現状や課題について考える力を身につける。					○	○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出								
2. 日本における社会福祉の歴史と発展					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出								
3. 諸外国における社会福祉の歴史					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出								
4. 諸外国における社会福祉の現状とその制度（VTR）					VTRの内容をまとめ、感想と共に次回提出								
5. 社会福祉のニーズとは					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出								
6. 社会福祉に携わる専門職					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出								
7. ボランティア					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出								
8. 社会福祉援助技術					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出								
9. 障害者福祉①概念とその歴史					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出								
10. 障害者福祉②身体障害者補助犬法					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出								
11. 高齢者福祉					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出								
12. 児童福祉					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出								
13. 子どもの権利条約					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出								
14. 貧困問題と社会福祉					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出								
15. これからの社会福祉、まとめ、授業評価アンケート					配布プリントの復習と講義内容の振り返り								
16. 試験					筆記試験に向けた復習								
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。 講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。 													
成績評価方法・基準													
<ul style="list-style-type: none"> 期末試験（70%）、受講態度：主としてミニットペーパーの提出状況より判断する（30%）。 各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。 試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。 													
教科書 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。													
参考書 [新版 社会福祉概論] [金子光一編著] [建帛社] [2,484円]													
備考													
<ul style="list-style-type: none"> 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。 													

授業科目名	地域文化論				単位（総授業時間＋自習時間）			2(30＋60)					
担当者	栗原 伸一郎	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専1年				
授業概要													
<p>本学が立地している仙台や東北といった地域に注目し、江戸時代から現代までの歴史・文化についてみていくことで、自分たちが立脚する地域の特徴や形成過程を確認する。具体的には、城下町・仙台および都市・仙台的成り立ちや、江戸時代の仙台人が認識した「日本」内外の政治・社会・文化の特徴、近世近代移行期の「東北」地方をめぐる地域内外の動き、などについて教授する。また、地域の歴史・文化を次代に継承していく方法や活動について紹介する。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
① 仙台や東北の歴史・文化について理解できる。											○		○
② 地域の歴史・文化を継承していく活動について理解できる。											○		○
③ 上記について関心を持ち、その意味を考える。											○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス～講義の概要～					配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。								
2. 仙台の歴史・文化①伊達政宗の生涯					配布プリントを再読し、書籍などで政宗について調べる。								
3. 仙台の歴史・文化②仙台城					配布プリントを再読し、仙台城址を見学する。								
4. 仙台の歴史・文化③城下町・仙台					配布プリントを再読し、旧仙台城下（市内中心部）を散策する。								
5. 仙台の歴史・文化④杜の都・仙台					配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍に目を通す。								
6. 仙台藩士の異文化体験①蝦夷地					配布プリントを再読し、蝦夷地について書籍などで調べる。								
7. 仙台藩士の異文化体験②アメリカ					配布プリントを再読し、幕末期の対外関係について書籍などで調べる。								
8. 仙台藩士の異文化体験③アメリカと日本					配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍に目を通す。								
9. 可変的な地域①幕末維新期の東北					配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍に目を通す。								
10. 可変的な地域②近代の東北・仙台					配布プリントを再読し、本学が立地する行政区域の変遷を調べる。								
11. 地域の歴史・文化の継承①歴史・文化を伝えるもの					配布プリントを再読し、自分の出身地にある「歴史資料」「文化財」について調べてみる。								
12. 地域の歴史・文化の継承②NPOと資料保存					配布プリントを再読し、現在住んでいる地域にある「歴史資料」「文化財」について調べてみる。								
13. 地域の歴史・文化の継承③災害と資料保存					配布プリントを再読し、インターネットなどで、災害と資料保存をめぐる現状を調べる。								
14. 地域の歴史・文化の継承④行政と資料保存					配布プリントを再読し、博物館や資料館に出向く。								
15. 地域の歴史・文化の継承⑤公文書と資料保存					配布プリントを再読し、宮城県公文書館に出向き、実物を読んでみる。								
16. 試験					試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。								
履修上の注意													
<p>歴史Ⅰと歴史Ⅱは、この講義と関連し、理解する上で参考になる。講義の進展状況等によっては、内容を一部変更する場合がある。</p>													
成績評価方法・基準													
<p>平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）30％ 期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）70％ ミニットペーパーで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。</p>													
教科書 毎回プリントを配布する。													
参考書 『仙台市史』（通史編）。その他は講義中に紹介する。													
備考													
質問等は授業終了時に受け付ける。													

授業科目名	美術史 I			単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)						
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専1年					
授業概要														
①ヴァインドルフのビーナスから近代に至る西洋美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性について教授する。②それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させる「つくる美術史のテキスト」と「美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集」、「美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説集」を用い理解の深化を図る。③西洋の美術史における「オリジナリティー」の意味と価値について考察を促す。④作品と作品、美術家と美術家の関係性の中で歴史の脈絡が形成され、その流れの中で価値が構築されることを示唆する。														
授業の到達目標				学位授与の方針との関連										
				1	2	3	4	5	6	7	8	9		
19世紀までの西洋美術史の脈絡について、自分の言葉で説明できる。				○	○									
作品間、美術家間の関係を説明できる。				○	○									
授業計画の内容				自習 (事前・事後学修の内容)										
1. 美術史における「個人」について				「つくる美術史のテキスト」による予習										
2. メソポタミア文明以前の美術				「クイズ集」、「解答・解説集」1~9 復習										
3. エジプト文明の美術				「クイズ集」、「解答・解説集」10~13 復習										
4. ギリシャ文明化～ヘレニズム時代の美術				「クイズ集」、「解答・解説集」14~23 復習										
5. エトルリア美術～初期キリスト教美術				「クイズ集」、「解答・解説集」24~28 復習										
6. ビザンティン美術				「クイズ集」、「解答・解説集」29~31 復習										
7. 初期中世美術				「クイズ集」、「解答・解説集」32~35 復習										
8. 中間テスト				中間テストの復習										
9. ロマネスク・ゴシックの美術				「クイズ集」、「解答・解説集」36~40 復習										
10. ルネッサンス				「クイズ集」、「解答・解説集」41~47 復習										
11. ルネッサンスとベネチア派				「クイズ集」、「解答・解説集」48~53 復習										
12. マニエリスム～北方ルネッサンス				「クイズ集」、「解答・解説集」54~59 復習										
13. バロック・ロココ				「クイズ集」、「解答・解説集」60~65 復習										
14. 新古典主義・ロマン主義・写実主義の美術				「クイズ集」、「解答・解説集」66~69 復習										
15. 産業革命と美術				「クイズ集」、「解答・解説集」70~74 復習										
16. 試験				テキスト、参考書を用いて自己採点										
履修上の注意														
毎回、クイズを課す。(必ず提出してから退出すること) 中間テスト、期末試験を行う。														
成績評価方法・基準														
中間テスト:20%(フィードバックを行う) 期末試験:70%、クイズ提出:10%(フィードバックを行う) 期末試験では「つくる美術史のテキスト」の参照を認める。但し、その場合は、満点を 80 点とする。(参照なしの解答については、満点を 120 点とする)														
教科書 [つくる美術史のテキスト] [瀬戸典彦] [自費出版] [無料]														
参考書 [美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集] [瀬戸典彦] [自費出版] [無料] [美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説] [瀬戸典彦] [自費出版] [無料]														
備考 オフィスアワー:2時間/1週(曜日/時間については、初回授業の際に連絡する)														

授業科目名	美術史Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専1年					
授業概要														
①縄文土器から浮世絵に至る日本美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性について教授する。②仏教美術の概要に触れ、日本美術への影響について理解を促す。③釈迦の思想と仏教美術の関係に触れ、仏教思想の体現としての仏教美術のあり方とその乖離について考察を促す。④それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させるワークシートとクイズ、解答例を用い理解の深化を図る。⑤日本の美術史における変化の背景について考察を促す。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
日本美術史の流れについて説明できる。					○	○								
東洋美術史と日本美術史の関係について説明できる。					○	○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. オリエンテーション（縄文人が築いたもの-弥生人が築いたもの）					ワークシートによる予習									
2. 縄文時代					クイズ（解答例）1~12 復習									
3. 弥生時代・古墳時代の美術					クイズ（解答例）13~24 復習									
4. 仏教、仏像について					クイズ（解答例）25~30 復習									
5. 飛鳥時代の美術					クイズ（解答例）31~45 復習									
6. 奈良（白鳳）時代の美術					クイズ（解答例）46~52 復習									
7. 奈良（天平）時代の美術1（塑像等）					クイズ（解答例）53~81 復習									
8. 中間テスト					中間テスト復習									
9. 奈良（天平）時代の美術2（乾漆像等）					クイズ（解答例）82~103 復習									
10. 密教美術 1（仏像）					クイズ（解答例）104~116 復習									
11. 密教美術 2（曼荼羅）					クイズ（解答例）117~119 復習									
12. 平安時代の美術（立体）					クイズ（解答例）120~132 復習									
13. 平安時代の美術（平面）					クイズ（解答例）133~151 復習									
14. 鎌倉時代・南北朝時代・室町時代の美術					クイズ（解答例）152~157 復習									
15. 桃山・江戸時代以降の美術					クイズ（解答例）157~162 復習									
16. 試験					ワークシート、配布資料を用いて自己採点									
履修上の注意														
毎回、クイズを行います。中間テスト、期末試験を行います。														
成績評価方法・基準														
中間テスト:20%(フィードバックを行う) 期末試験:70%、クイズ提出:10%(フィードバックを行う) 期末試験では「つくる美術史のテキスト」の参照を認める。但し、その場合は、満点を80点とする。(参照なしの解答については、満点を120点とする)														
教科書 〔つくる美術史のテキスト 日本・東洋編〕〔瀬戸典彦〕〔自費製作〕〔無料〕														
参考書 〔つくる美術史のテキスト-クイズ集 日本・東洋編〕〔瀬戸典彦〕〔自費製作〕〔無料〕 〔つくる美術史のテキスト-解答・解説集 日本・東洋編〕〔瀬戸典彦〕〔自費製作〕〔無料〕														
備考														
オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）														

授業科目名	被服学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	菊地 紗代	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服専1年					
授業概要														
被服は人間の生活に大きな役割を果たしてきた。私たちを取り巻く社会環境は変化していくため、対応できるように被服について考えていく必要がある。そこで本講義では、健康・安全・快適性をキーワードに衣生活について概説する。人間の着用を中心におきながら、社会性、素材、品質と管理について取り上げる。さらに、消費、環境についても触れ、これからの衣生活を向上させるために必要な知識を習得させ、実践能力が高められるよう指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
衣服の機能について理解できる。					○									
社会と被服の関係について理解できる。						○								
環境に配慮した衣生活を送るために必要な知識を身につける。							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.被服学とは、人はなぜ装うのか					装いの機能についてまとめる。									
2.気候風土と装い					民族服についてまとめる。									
3.衣服のかたちの変遷①洋装					洋装についてまとめる。									
4.衣服のかたちの変遷②和装					和装についてまとめる。									
5.装いと健康					快適性についてまとめる。									
6.装いによる気候調節					温度調節についてまとめる。									
7.動きやすさと衣服					動きやすさについてまとめる。									
8.衣服の素材					素材についてまとめる。									
9.衣服の加工、品質					性能・加工、表示についてまとめる。									
10.衣服の管理					洗濯、管理についてまとめる。									
11.人の成長とからだつき、アパレル産業と既製服					体型、既製服についてまとめる。									
12.装いのコミュニケーション					色、流行、個性についてまとめる。									
13.ユニバーサルデザインと装い					ユニバーサルデザインについてまとめる。									
14.装いと生活環境					再利用についてまとめる。									
15.まとめ					レポートを作成する。									
履修上の注意														
遅刻・欠席をしないこと。 日頃から被服に関することに興味関心を持つこと。														
成績評価方法・基準														
提出物（ワークシート・レポート）60％，受講状況（ミニットペーパー等）40％で評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。） 提出物については、授業中にフィードバック，又は後日添削して返却する。														
教科書 〔ビジュアル衣生活論〕〔岡田宣子編著〕〔建帛社〕〔2,530円〕														
参考書 無し（適宜，プリントを配布する）														
備考														
ルーブリック評価については、第一回目の授業で説明する。 質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。														

授業科目名	色彩学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)			
担当者	内海 陽子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専2年			
授業概要												
<p>色彩の基本理論、知識を学び、色彩に関わる諸問題を調整・解決するための色のスペシャリストファッションコーディネーター色彩能力検定3級受験に対応できる理論の習得を目的としており、色彩の基礎知識を身につける。</p> <p>アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。</p> <p>当講義では、大手アパレルメーカーで、年間30億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。</p>												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
6月に行われるAFT色彩能力検定3級合格の実力をつける				○	○	○					○	○
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）								
1.光と色・色彩心理				教科書を熟読する								
2.色の表示① 色の分類と三属性 PCCS 言葉による色表示				教科書を熟読し練習問題を学習する								
3.色彩効果と生活・ファッションと色彩				教科書を熟読する								
4.インテリアと色彩・色の見え方と色覚の仕組み				教科書を熟読する								
5.色彩調和①配色の基本的な考え方 色相から配色を考える				教科書を熟読し練習問題を学習する								
6.色彩調和②トーンから配色を考える				教科書を熟読し練習問題を学習する								
7.AFTの色彩能力検定3級の試験対策				練習問題を学習する								
8.AFTの色彩能力検定3級の試験対策 過去問題集				練習問題を学習する								
9.さまざまな色覚タイプや高齢者の色の見え方				教科書を熟読する								
10.色彩調和③配色カード演習 色相から調和を考える				教科書を熟読し練習問題を学習する								
11.色彩調和④配色カード演習 トーンから調和を考える				教科書を熟読し練習問題を学習する								
12.色彩調和⑤配色カード演習 アクセントカラー				教科書を熟読し練習問題を学習する								
13.色彩調和⑥配色カード演習 グラデーション				教科書を熟読し練習問題を学習する								
14.色彩の効果				教科書を熟読し練習問題を学習する								
15.色彩の応用				教科書を熟読し練習問題を学習する								
履修上の注意												
事前に教科書を熟読し、配布する練習問題を十分に学習してくること												
成績評価方法・基準												
課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価												
教科書 [色彩能力検定対策テキスト3級編] [(社)全国服飾教育連合会] [2,835円]												
参考書 なし												
備考												
質問等については、授業終了後受け付ける。												

授業科目名	日本服装史				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	川又 勝子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専2年					
授業概要														
縄文時代から近代までの日本人の生活と服装の変遷について概説する。その際、服飾関連資料だけでなく、絵画・彫刻・文学・法令等と関連付けて読み取ることで、それぞれの時代の日本人の装いについて理解を深められるようにする。また、美術館・博物館での学外研修や本学資料室・図書館での研修を随時取り入れることで、実物の歴史資料や服飾関連資料を見る目を養い、それらについて考察する能力を身に付ける機会を設ける。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
日本人の生活と服装の変遷について理解できる。							○							
図像資料や文字資料について考察できる能力を身につける。					○									
日本文化について理解を深める。						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. オリエンテーション					次回キーワードについて調査する									
2. 縄文～弥生時代の服装					ワークシートの完成、次回キーワードの調査									
3. 古墳時代の服装					ワークシートの完成、次回キーワードの調査									
4. 飛鳥時代の服装					ワークシートの完成、学外研修の事前調査									
5. 学外研修：博物館・美術館等での研修					研修レポートの作成、次回キーワードの調査									
6. 奈良時代の服装					ワークシートの完成、次回キーワードの調査									
7. 平安時代の服装					ワークシートの完成、次回キーワードの調査									
8. 中世の服装（小袖の変遷を中心に）					ワークシートの完成、学外研修の事前調査									
9. 学外研修：博物館・美術館等での研修					研修レポートの作成、次回キーワードの調査									
10. 近世の服装1：安土桃山時代～江戸初期まで					ワークシートの完成、次回キーワードの調査									
11. 近世の服装2：町人の服飾					ワークシートの完成、次回キーワードの調査									
12. 近世の服装3：身分と美意識					ワークシートの完成、学外研修の事前調査									
13. 図書館での調査：小袖意匠についての調査					研修レポートの作成、次回キーワードの調査									
14. 近代の服装：きものの移り変わり					ワークシートの完成、資料室研修の事前調査									
15. 資料室での研修：本学所蔵の服飾関連資料について					研修レポートの作成									
履修上の注意														
遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけること。学外研修の費用は自己負担とします。														
成績評価方法・基準														
提出物（ワークシート・レポート等）による評価を55%、受講状況（ミニットペーパー・参加状況）を45%として評価します。なお提出物やミニットペーパーは添削して後日返却します。														
教科書 [[きものと裂のことば案内] [長崎巖] [小学館] [1,944円]														
参考書 [日本服飾史辞典] [増田美子 他] [東京堂出版] [25,920円]														
備考														
博物館・美術館等の展示内容により、シラバスの順番が前後することがあります。また、質問等は、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）時に受け付けます。														

授業科目名	染織文化史				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)					
担当者	川又 勝子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専2年					
授業概要														
<p>原始から現代までの日本における染織技術について、服飾関連資料・染織関連資料・絵画・文書等と関連付けて読み取りながら、日本が世界に誇る染織技術について概説する。さらに、東北地方の伝統的な染織技術や衣服素材、その歴史についても取り上げることで地域の服飾文化についても理解を促す。また、歴史資料や服飾・染織関連資料を目にするために、博物館・美術館・図書館・本学資料室における研修を随時取り入れることで、染織文化についての理解を深めさせる。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
染織技法や染織品の変遷について理解できる。							○							
図像資料や染織資料から衣生活やそれを作り出した技術を考察できる。											○			
日本の文化について理解を深める。						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. オリエンテーション					次回キーワードについて調査する									
2. 原始の染織					ワークシートの完成、次回キーワードの調査									
3. 上代の染織 1（古墳時代～飛鳥時代）					ワークシートの完成、次回キーワードの調査									
4. 上代の染織 2（奈良時代）					ワークシートの完成、次回キーワードの調査									
5. 中古の染織					ワークシートの完成、学外研修の事前調査									
6. 学外研修：博物館・美術館等での研修					研修レポートの作成、次回キーワードの調査									
7. 中世の染織					ワークシートの完成、次回キーワードの調査									
8. 近世の染織 1（安土桃山時代～江戸前期）					ワークシートの完成、次回キーワードの調査									
9. 近世の染織 2（江戸中期～江戸末期）					ワークシートの完成、次回キーワードの調査									
10. 近代の伝統染織 1（明治時代～大正時代）					ワークシートの完成、次回キーワードの調査									
11. 近代の伝統染織 2（昭和時代）					ワークシートの完成、図書館研修の事前調査									
12. 染織技法と文様の変遷のまとめ（図書館での研修）					研修レポートの作成、次回キーワードの調査									
13. 東北の伝統染織 1（北東北の染織）					ワークシートの完成、次回キーワードの調査									
14. 東北の伝統染織 2（南東北の染織）					ワークシートの完成、資料室研修の事前調									
15. 本学資料室での研修					研修レポートの作成									
履修上の注意														
遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけること。学外研修の費用は各自で負担していただきます。														
成績評価方法・基準														
提出物（ワークシートやレポート等）による評価を55%、受講状況（ミニットペーパー・参加状況）を45%として評価します。なお、提出物やミニットペーパーは添削して後日返却します。														
教科書 〔きものと裂のことば案内〕〔長崎巖〕〔小学館〕〔1,944円〕														
参考書 〔日本服飾史辞典〕〔増田美子 他〕〔東京堂出版〕〔25,920円〕														
備考														
博物館・美術館等の展示内容により、シラバスの順番が前後することがあります。また、質問等は、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）時に受け付けます。														

授業科目名	被服機構・衛生学			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）						
担当者	久慈 るみ子	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	服専1年					
授業概要 衣服は常に人の皮膚表面を覆う最も身近な環境で、しかも皮膚と接触するものであることから、人の生理・心理・健康に大きな影響を及ぼす。そこで衣服のあり方を人体の生理衛生、運動機能の視点から理解し、健康に適した衣服とはどのような条件を備えたものであるか学修する。また機能性衣服についても、そのメカニズムを理解する。授業ではディスカッションやグループワークを交え日常生活に活かせる衣服の基礎から進化する衣服までを教授する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
人体の生理・運動機能の基礎知識を身につけることができる。					○		○							
衣服素材・構造・機能性を理解し、的確な選択ができる。							○	○	○					
ライフステージを考慮した選択と着装ができる。							○					○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 環境としての被服					事前：シラバスに目を通し授業の概要を把握する。事後：ノートを整理する。									
2. 気候と体温調節					事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。									
3. 暑さ・寒さと人体生理					事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。									
4. 被服の気候調節能力：被服材料					事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。									
5. 被服の気候調節能力：着衣の熱抵抗					事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。									
6. 被服の気候調節能力：着衣の蒸発抵抗					事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。									
7. 運動への適応：人体構造と動作機能					事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。									
8. 運動への適応：衣服圧の発生要因と人体への影響					事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。									
9. 運動への適応について、グループディスカッションを通して理解を深める					事前：これまでのノートを確認する。事後：ディスカッションの内容をまとめる。									
10. 皮膚の生理・衛生					事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。									
11. 衣服の安全性（衣料障害）					事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。									
12. 進化する衣服：寒冷対策・暑熱対策					事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。									
13. 高齢社会における衣服					事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。									
14. 子供服					事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。									
15. 衣生活と環境についてグループディスカッションを行う					事前：これまでのノートを確認する。事後：ディスカッションの内容をまとめる。									
履修上の注意														
配布された資料は毎回持参してください。														
成績評価方法・基準														
健康で快適な衣服について理解し日常生活へ応用できること。それを自分の言葉で説明できることを評価の基準とします。期末試験（60%）、授業、ディスカッションへの参加度（40%）。														
教科書 授業前にプリントを配布します。														
参考書 〔衣環境の科学〕〔田村照子編〕〔建帛社〕他、授業内で指示します。														
備考														
質問はミニツツペーパーに記入し、提出してください。次回授業の始めに解説します。														

授業科目名	スタートアップソーイング			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)						
担当者	菊地 紗代	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	服専1年					
授業概要														
被服造形分野に不可欠な基礎知識と、縫製技術の基礎・基本を習得させる。縫製に使われる用具、布地の扱い方、手縫いの基礎、ミシン・アイロンの使い方などについて取り上げる。布地と副資材の選び方では、仙台市内の店舗にて学外研修を実施する。課題制作は基礎的事項を重視した内容であり、縫製方法を正しく習得させ、応用展開につながる技術と実践力を身に付けさせる。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
被服造形分野の基礎的知識と技術、実践力を身につける。					○				○					
自己管理能力、倫理観、課題解決能力を身につける。											○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.被服製作の基礎知識，用具確認，練習用布地裁断					教科書に目を通す。									
2.基礎縫い：手縫い①（並縫い，しつけ）					指定箇所まで作業を終わらせる。									
3. 手縫い②（まつり）					指定箇所まで作業を終わらせる。									
4. 手縫い③（留め具付け）					指定箇所まで作業を終わらせる。									
5. ミシン縫い①（直線ミシン使い方）					指定箇所まで作業を終わらせる。									
6. ミシン縫い② （縫い代始末，ロックミシン使い方）					基礎縫いを完成させる。									
7.課題制作：ハーフパンツ・定規ケース作図，用布の見積もり					指定箇所まで作業を終わらせる。									
8.布地，副資材の選び方（学外研修）					研修内容を見直す。									
9.課題制作：型紙カット，地直し					指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
10. 裁断，印付け					指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
11. 本縫い①定規ケース					指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
12. ②ハーフパンツ：脇，裾					指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
13. ③ 股ぐり					指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
14. ④ ウエスト，提出					作品を完成させ，制作ノートをまとめる。									
15.まとめ，発表					全行程を振り返る。									
履修上の注意														
遅刻・欠席をしないこと。授業に必要な裁縫用具一式を毎回持参すること。 課題制作の材料費は各自負担。														
成績評価方法・基準														
提出物 60%，受講状況（作業状況，制作ノート）を 40%として評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。） 課題については，授業中にフィードバック，又は後日添削して返却する。														
教科書 〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎 文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔2,850 円〕														
参考書 〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2,750 円〕														
備考														
演習内容や課題は，作業の進行状況等により，変更する場合がある。 ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。 質問等については，授業時間内または授業終了後に受け付ける。														

授業科目名		アパレル製図法 I (平面)			単位 (総授業時間+自習時間)				1(30+15)					
担当者	菊地 紗代	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	服専1年					
授業概要														
人体とパターンの関係を理解し、身頃のパターンの作図と展開法の基本理論を習得する。原型の作図、シーチングモデルの製作、試着、補正を通し、各自のサイズに合った原型を製作する。標準寸法原型を用い、ダーツの移動・操作、衿ぐり・衿、袖などパーツ別に学修させ、各種デザインにパターン展開ができることを理解させる。また、男子の原型について取り上げる。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
身頃原型を作図することができる。					○		○							
身頃原型のダーツ移動・操作により、パターン展開できる。					○		○							
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 身頃原型：作図 標準寸法 (1/4) 身頃					指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。									
2. 袖 /採寸, 人体形態					課題を完成させる。復習する。									
3. 男子原型 標準寸法 (1/4)					課題を完成させる。復習する。									
4. 各自サイズ (実寸)					課題を完成させる。復習する。									
5. 型紙カット, シーチング準備					指定箇所まで作業を終わらせる。									
6. シーチング裁断, 印入れ					指定箇所まで作業を終わらせる。									
7. 仮縫い					指定箇所まで作業を終わらせる。									
8. 試着・補正					課題を完成させる。復習する。									
9. 小テスト：身頃原型作図 標準寸法 (1/4)					小テスト対策の学習をする。									
10. ダーツの移動と分散 (1/4) 胸ぐせダーツ					課題を完成させる。復習する。									
11. 肩・ウエストダーツ					課題を完成させる。復習する。									
12. 袖の展開 (1/4)					課題を完成させる。復習する。									
13. 衿・衿ぐり (1/4)					課題を完成させる。復習する。									
14. ブラウス (1/4)					課題を完成させる。復習する。									
15. シャツ (1/4)					課題を完成させる。									
履修上の注意														
授業に必要な用具一式を毎回持参すること。遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、次回までに終わらせておくこと。														
成績評価方法・基準														
提出物 60%, 受講状況 (作業状況) を 20%, 小テスト 20% として評価する。(未提出がある場合は評価対象としないことがある。)														
課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。														
教科書 [アパレル設計実習 アパレル生産実習] [日本衣料管理協会] [2,750 円]														
参考書 [文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎] [文化出版局] [2,805 円] プリント配布 [文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③ ブラウス・ワンピース/服飾造形講座⑨メンズウェア I] [文化出版局] [1,870 円/2,805 円] より														
備考 演習内容や課題は、作業の進行状況等により、変更する場合がある。 ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。														

授業科目名	アパレル製図法Ⅱ（応用）			単位（総授業時間＋自習時間）					1(30+15)					
担当者	菊地 紗代	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	服専1年					
授業概要														
アパレル製図法Ⅰの原型作図・操作を踏まえ、ボトムやワンピース・ジャケットの作図法を総体的に学び、応用展開できる製図法の習得を目指す。基本形のスカートは各自のサイズのパターンを製作し、今後につなげる。基本形のスカートから各種デザインスカートへの展開方法を習得させる。また、原型と基本形スカートの立体裁断を取り上げ、平面裁断との違いについて実習を通して理解させる。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
スカート原型を作図し、パターン展開することができる。					○		○							
各アイテムの基本パターンを作図することができる。					○		○							
立体裁断と平面裁断の違いを理解することができる。									○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. スカート原型：作図 標準寸法（1/4）					課題を完成させる。復習する。									
2. 各自サイズ（実寸）					課題を完成させる。復習する。									
3. 展開（1/4）①セミタイト、フレア					課題を完成させる。復習する。									
4. ②ゴアード、プリーツ					課題を完成させる。復習する。									
5. 小テスト：スカート作図 標準寸法（1/4）、子供服について					小テスト対策の学習をする。									
6. ワンピース（1/4）プリンセスライン					課題を完成させる。復習する。									
7. パンツ（1/4）基本形					課題を完成させる。復習する。									
8. ジャケット（1/4）基本形 身頃					課題を完成させる。復習する。									
9. 衿・袖					課題を完成させる。復習する。									
10. 立体裁断：身頃原型①ドレーピング					課題を完成させる。復習する。									
11. ②トレース					課題を完成させる。復習する。									
12. スカート①ドレーピング					課題を完成させる。復習する。									
13. ②トレース					課題を完成させる。復習する。									
14. 応用作品パターン（実寸）①ブラウス・ボトムなど					指定箇所まで作業を終わらせる。									
15. ②縫い代つけ					課題を完成させる。									
履修上の注意														
授業に必要な用具一式を毎回持参すること。遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、次回までに終わらせておくこと。														
成績評価方法・基準														
提出物 60%、受講状況（作業状況）を 20%、小テスト 20%として評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。）課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。														
教科書 [アパレル設計実習 アパレル生産実習] [日本衣料管理協会] [2,750 円]														
参考書 [文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座② スカート・パンツ] [文化出版局] [1,870 円] プリント配布 [文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③ブラウス・ワンピース/④ジャケット・ベスト] [文化出版局] [1,870 円/1,870 円] より														
供え 公														
演習内容や課題は、作業の進行状況等により、変更する場合がある。ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。														

授業科目名	被服造形実習 I			単位 (総授業時間+自習時間)				1(45+30)					
担当者	菊地 紗代	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	服専2年				
授業概要													
服飾造形に関する基本的な縫製知識・技術の習得を目指す。課題として綿素材の長袖ブラウスを製作する。ブラウスの製図は、原型のダーツ移動・操作を理解させパターン展開し、衿・袖の展開についても取り上げる。採寸、デザインに合った布地の選択、裁断、印つけ、仮縫い・補正、布地・副資材の取り扱いなどについて学び、製作を通して衣服の基本的構造の理解を深めさせる。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が指導する。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
ブラウスの製図、デザイン展開ができる。						○		○					
基本的な縫製知識・技術を身につける。				○		○		○					
授業計画の内容				自習 (事前・事後学修の内容)									
1. ブラウスについて、製図：ブラウス (1/4) 提出				課題を完成させる。復習する。									
2. 製図：ダーツ移動・操作 (1/4) 提出				課題を完成させる。復習する。									
3. 衿、袖の展開 (1/4) 提出				課題を完成させる。復習する。									
4. 採寸、製図：各自サイズ (実寸)、提出、用布の見積もり				課題を完成させ、制作ノート作成。材料の準備をする。									
5. パターン確認・カット、表地：地直し				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
6. 表地：裁断・印付け				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
7. 仮縫い				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
8. 試着・補正、縫い代整理				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
9. 衿裁断、芯：裁断・接着、印付け、縫製工程確認				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
10. 本縫い①ダーツ・ポケット・肩				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
11. ②衿作り・衿付け				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
12. ③脇・裾・カフス作り				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
13. ④袖作り・袖付け				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
14. ⑤ボタンホール・ボタン付け、仕上げ 提出				課題・制作ノートを完成させる。									
15. 試着、発表				全行程を振り返る。									
履修上の注意													
授業に必要な裁縫用具一式を毎回持参すること。遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、次回までに終わらせておくこと。材料費は各自負担。													
成績評価方法・基準													
提出物 60%、受講状況 (作業状況、制作ノート) を 40%として評価する。(未提出がある場合は評価対象としないことがある。) 課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。													
教科書 [文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③ ブラウス・ワンピース 文化服装学院編] [文化出版局] [1,870 円]													
参考書 [アパレル設計実習 アパレル生産実習] [日本衣料管理協会] [2,750 円]													
備考													
演習内容や課題は、作業の進行状況等により、変更する場合がある。ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。													

授業科目名	被服造形実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+30)					
担当者	菊地 紗代	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	服専2年				
授業概要													
衣服製作の一連の工程を通し、衣服の基本的構造、制作過程を学び、専門的な知識・技術の習得を目指す。課題としてウール素材の裏付きスカートを作成する。スカートの製図は、基本形パターンから各種デザイン展開させ、工業用（縫い代付き）パターンとする。採寸、裁断、仮縫い・補正、布地・副資材の取り扱い、ファスナー・ベルトの縫製方法などについて取り上げ、理解を深めさせる。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が指導する。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
スカートの製図、デザイン展開ができる。						○		○					
専門的な縫製知識・技術を身につける。						○		○					
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）									
1. スカートについて、製図：基本形、標準寸法（1/4）提出				課題を完成させる。復習をする。									
2. 採寸、製図：基本形、各自サイズ（実寸）提出				課題を完成させる。復習をする。									
3. 製図：デザイン展開（1/4）、デザイン決定				課題を完成させる。復習をする。制作ノート作成。									
4. デザイン展開（実寸）提出、用布の見積もり				課題を完成させる。材料の準備をする。									
5. 確認・カット、表地：地直し・裁断・印付け				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
6. 仮縫い				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
7. 試着・補正、縫い代整理				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
8. 裏地：裁断・印付け、縫製工程確認				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
9. 本縫い①表地ロックミシン、ダーツ・後ろ中心ミシン				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
10. 部分縫い：コンシールファスナー付け				部分縫いを完成させる。									
11. 本縫い②コンシールファスナー付け				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
12. ③脇ミシン、裾始末				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
13. ④ベルト作り・付け				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
14. 前カン付け、仕上げ 提出				課題・制作ノートを完成させる。									
15. 試着、発表				全行程を振り返る。									
履修上の注意													
被服実習Ⅰを履修していること。授業に必要な裁縫用具一式を毎回持参すること。遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、次回までに終わらせておくこと。材料費は各自負担。													
成績評価方法・基準													
提出物 60%、受講状況（作業状況、制作ノート）を 40%として評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。）課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。													
教科書 〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座② スカート・パンツ 文化服装学院編〕 〔文化出版局〕〔1,870 円〕													
参考書 〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2,750 円〕													
備考													
演習内容や課題は、作業の進行状況等により、変更する場合がある。ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。													

授業科目名	被服造形実習Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）				2（90+60）				
担当者	菊地 紗代	必・選	選	形態	実習	学期	通年	対象	服専3年			
授業概要												
<p>これまで被服造形実習Ⅰ・Ⅱなどを履修して習得してきた知識や縫製技術をさらに向上させ、応用発展させることを目的とする。課題として、ウール地を用いた基本的な総裏付きジャケットを製作する。ジャケットの製図は、衿や見返し・裏地の展開についても取り組み、工業用（縫い代付き）パターンとする。表地・裏地・副資材の取り扱い、アイロンによるくせとり方法、二枚袖の縫製、各種ポケットの縫製方法など、より専門的な技術の習得を目指す。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が指導する。</p>												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
ジャケットの製図、パターン展開ができる。						○		○				
高度で専門的な縫製知識・技術を身につける。						○		○		○		
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）								
1. ジャケットについて、採寸				教科書に目を通す。復習する。								
2. 製図：各自サイズ（1/4）提出				課題を完成させる。復習する。								
3. 各自サイズ（実寸）①身頃				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
4. ②衿、袖 提出				課題を完成させる。制作ノート作成。								
5. パターン確認・カット、シーチング準備				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
6. シーチング：裁断、印付け				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
7. 仮縫い①身頃				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
8. ②衿、袖、ポケット				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
9. 試着、補正				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
10. 製図：見返し・衿・裏地の展開、用布の見積もり				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
11. 表地：地直し、裁断				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
12. 芯：裁断・接着、印付け、テープ貼り、くせとり				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
13. 裏地：裁断、印付け、縫製工程確認				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
14. 本縫い①身頃（表地）				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
15. ②身頃（裏地、見返し）				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
16. 部分縫い①パッチポケット				部分縫いを完成させる。制作ノート作成。								
17. ②箱ポケット				部分縫いを完成させる。制作ノート作成。								
18. ③フラップポケット 提出				部分縫いを完成させる。制作ノート作成。								
19. 本縫い③ポケット付け				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
20. ④肩、脇				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
21. ⑤衿つけ				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
22. ⑥見返し返し				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
23. ⑦袖作り				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
24. ⑧袖付け（表地）				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
25. ⑨衿わた・パット付け				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
26. ⑩袖付け（裏地）				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
27. ⑪裾				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
28. ⑫ボタンホール、ボタン付け				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。								
29. 仕上げ、提出				課題・制作ノートを完成させる。								
30. 試着、発表				全行程を振り返る。								
履修上の注意 被服実習Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、次回までに終わらせておくこと。材料費は各自負担。												
成績評価方法・基準 提出物60%、受講状況（作業状況、制作ノート）を40%として評価する。課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。												
教科書 〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④ ジャケット・ベスト〕〔文化出版局〕〔1,870円〕												
参考書 〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2,750円〕												
備考 受講生の進度によりシラバス内容が前後することがある。ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。課題が未提出、実施されない場合には評価の対象としないことがある。質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。												

授業科目名	被服平面造形実習 I				単位 (総授業時間+自習時間)				1(45+45)					
担当者	川又 勝子	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	服専 2 年					
授業概要														
日本固有の衣服である和服の製作方法について指導する。和服の素材や文様には日本の伝統文化が凝縮されていると言われていたが、縫製方法にも伝統的技術が生かされている。この実習では、被服平面造形学で学んだ和服についての基礎知識と手縫いの基礎技術を発展させて、大裁女子単衣長着（ゆかた）の製作方法を指導する。この製作を通して、小裁単衣長着（一つ身）と女子用単衣長着の違いについて理解させるとともに、和服製作の知識・技術の向上をねらう。また、最終回には着実習を行う。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
和服の基本的な知識について理解できる。							○							
女子用和服の構成を理解し、着実・帯結びができる。									○					
和服縫製の基礎知識と基本的技術を習得する											○			
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 基礎学習 (構成・材料・採寸)					ワークシート完成、運針練習									
2. 裁ち切り平面図・折り積り図の作成、丸み型紙作り					ワークシート完成、運針練習、材料準備									
3. 柄合わせ、折り積り、裁断					ワークシート完成、運針練習									
4. 袖の標付け、袖縫い、袖口留め					ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
5. 袂丸み、袖の始末と飾り襷					ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
6. 身頃の標付け、背縫い、肩当て作り					ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
7. 衿の標付け、衿下三つ折り衿付け、肩当て付け、居敷当て作り					ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
8. 居敷当て付け、衿付け、衿縫い代の始末					ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
9. 衿・共衿付け準備、衿付け					ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
10. 三つ衿芯、衿先、衿衿け					ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
11. 共衿掛け、脇縫い					ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
12. 脇縫い代始末、袷角作り					ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
13. 裾の始末、袖付け					ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
14. 袖縫い代の始末、肩当ての始末					ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
15. 仕上げ					ワークシート完成、仕上げ、着付け小物準備									
16. 授業のまとめと着実習					提出期限までに不備を修正する、着付けの復習									
履修上の注意 ： 遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけること。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。ワークシートもその都度きちんとまとめてください。反物・縫い糸については初回に説明するので、各自で準備してください。実習費として 300 円程度を徴収します。														
成績評価方法・基準 ： 提出物（ワークシートや製作品等）による評価を 55%、受講状況（ミニットペーパー）を 45%として評価します。なお、提出物やミニットペーパーはコメントを付して後日返却します。														
教科書 〔和 裁〕〔斎藤輝子・細目しげ子・大塚 静子〕〔東北生活文化大学三島学園女子短期大学和裁研究室〕〔非売品〕														
参考書 なし（その都度プリント等を配布します）														
備考 ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名	被服平面造形実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(45＋45)	
担当者	川又 勝子	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	服専2年	
授業概要										
日本固有の衣服である和服の製作方法について指導する。和服の素材や文様には日本の伝統文化が凝集されていると言われていたが、縫製方法にも伝統的技術が集約されている。この実習では、前期の被服平面造形実習Ⅰで習得した和服についての基礎知識と手縫いの基礎技術を発展させて、大裁男子単衣長着製作方法を指導する。この製作を通して、男子用と女子用の長着の違いについて理解させるとともに、素材に適した仕立て方の違いについて理解させる。										
授業の到達目標				学位授与の方針との関連						
				1	2	3	4	5	6	7
和服の基本的な知識について理解できる。						○				
男子用和服の構成を理解し、着装・帯結びができる。							○			
和服縫製の基礎知識と基本的技術を習得する。								○		
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）						
1. 基礎学習(構成・材料・採寸)、裁ち切り平面図・折り積り図の作成				ワークシート完成、運針練習、材料準備						
2. 裁断				ワークシート完成、運針練習						
3. 袖の標付け、袖縫い、袖口留め				ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる						
4. 袂丸み、人形、袖口の始末				ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる						
5. 後身頃・内揚げの標付け				ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる						
6. 前身頃・衿の標付け、衿下三つ折り衿				ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる						
7. 背縫い、内揚げ縫い				ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる						
8. 肩当て作り、肩当て付け、居敷当て付け				ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる						
9. 衿付け、衿縫い代の始末				ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる						
10. 共衿付け準備、衿付け、衿先布付け				ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる						
11. 三つ衿芯、衿先、衿衿				ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる						
12. 共衿掛け、脇縫い				ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる						
13. 脇縫い代始末、袷角作り				ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる						
14. 裾の始末、袖付け留め、袖付け				ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる						
15. 袖縫い代の始末、仕上げ				ワークシート完成、提出期限までに不備を訂正する						
16. 着装実習、授業のまとめ				提出期限までに不備を修正し、着付けを復習する						
履修上の注意 被服平面造形実習Ⅰの単位を修得していること。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけること。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。ワークシートもきちんとまとめてください。反物・縫い糸については初回に説明するので、各自で準備してください。実習費として300円程度を徴収します。										
成績評価方法・基準 提出物（ワークシートや製作品等）による評価を55%、受講状況（参加状況・ミニットペーパー）を45%として評価します。なお、提出物やミニットペーパーはコメントを付して後日返却します。										
教科書 〔和 裁〕〔斎藤輝子・細目しげ子・大塚 静子〕〔東北生活文化大学三島学園女子短期大学和裁研究室〕〔非売品〕										
参考書 なし（その都度プリント等を配布します）										
備考 ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。										

授業科目名	ファッションデザイン				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+15)											
担当者	岡本 はるみ	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専1年											
授業概要																				
<p>人の第一印象とは、視覚と感覚や物腰から得る印象であるが、衣服は瞬時にその人となりを判断する視覚ツールそのものでありファッションである。授業では、衣服の必要性とファッションが果たす役割を教授し、女性の服飾史を通して、時代の政治や文化、気候風土など服装に与える多々の影響がファッションとなっていく様子を学ばせる。デザインの基礎としてデザインディテール名称と服飾用語を学ばせ、ベーシックプロモーション・デザイン画の描き方を指導する。</p>																				
授業の到達目標					学位授与の方針との関連															
					1	2	3	4	5	6	7	8	9							
・ファッションに関心を持ち観察力をつける。																			○	
・ディテール名称と服飾用語を学ぶ。					○	○	○													
・プロポーションベーシックを描くことができる。								○	○			○								○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）															
1. 苦手意識をなくす「デザイン画は設計図である」					デザイン画を描く事についての考えとファッションへの関心度をレポートにまとめて提出する。															
2. 時代と共に変化するファッション																				
3. プロポーション・ベーシック（Ⅰ）																				
4. プロポーション・ベーシック（Ⅱ）																				
5. ボトムズ（パンツとスカート）の名称と描き方レッスン					所有するボトムズを描いておく（7.の授業で使用する）															
6. プロポーション・重身移動による軸足の位置					時間内に仕上がらなかった作品等は次回までに完成させて提出する。															
7. プロポーション・重身移動による描き方レッスン																				
8. 衿ぐりと衿について					順次添削して返却するので、チェックしてより良い作品が。描けるようにする。															
9. プロポーション・頭部と手・足の描き方レッスン																				
10. プロポーション・着装（布の厚みとゆとり）レッスン																				
11. デザイン画(1)下絵																				
12. デザイン画(2)線入れ					ホームワークで復習すること。															
13. デザイン画(3)彩色																				
14. シルエットとラインについて																				
15. 8大感性と服飾用語					重要用語を覚える。															
16. 試験					採点后返却。															
履修上の注意																				
常に衣服のデザインや素材に関心を持つように心掛ける。作画に必要な、定規、鉛筆等指定された道具を準備する。																				
成績評価方法・基準																				
筆記試験 50%、提出作品 50%いずれも採点后、添削後返却する事でフィードバックとする。																				
教科書 授業前にプリントを配布する																				
参考書 なし																				
備考 ファッションデザインの基礎をしっかりと習得させるので、個々の能力進度により授業計画通りに進まない場合がある。質問があれば授業中に受け付ける。																				

授業科目名	ファッションデザイン画				単位 (総授業時間+自習時間)				1(30+15)					
担当者	岡本 はるみ	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	服専3年					
授業概要														
ファッションデザイン画を学ぶにあたり、ファッションが持つ「意味」と「力」と「必要性」を認識させ、おしゃれを楽しむ自分を意識させる。個々人の美意識の違いを“感性”として捉え、その“イメージ”をメッセージ性のある個性的なデザイン画に表現できるように指導する。また、衣服の構成とパターンを考察してデザイン画を描くことも大切であり、そのために画法だけでなく、シルエット・ディテール・カラー・素材などの専門的知識を教授する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・テキスタイルとデザインの関連性を学ぶ。							○	○						
・製図をみてデザイン画が描ける。									○					
・イメージ・インスピレーションを作品(デザイン画)にする											○		○	
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. ファッションの発生と波及・今昔について					自分流ファッション考察のレポート提出									
2. プロポーション・ベーシックを描く					時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。									
3. プロポーション・ポージングを描く					時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。									
4. デザイン画<スカート部にデザインのあるワンピース>					時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。									
5. デザイン画<スカート部にデザインのあるワンピース>					時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。									
6. ディテール・テクスチャーについてと描き方レッスン					時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。									
7. 製図を見てデザイン画を描く・スカート					時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。									
8. 製図を見てデザイン画を描く・衿と袖					時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。									
9. 製図を見てデザイン画を描く・ジャケット					時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。									
10. 8大感性とデザインへ進む行程					それぞれの感性イメージをまとめてレポート提出する									
11. デザイン画<オリジナルデザイン>イメージMAP					イメージMAPから選択したテイストを図案化しておく									
12. デザイン画<オリジナルデザイン>ラフデザイン					ファッションスタイル画に添える、デザインポイント、素材等の仕様書を作成する									
13. デザイン画<オリジナルデザイン>下描き					授業内に指導されたところはデザイン画に反映させておく									
14. デザイン画<オリジナルデザイン>彩色					図案化したイメージMAP、仕様書、デザイン画の3点を、次回の最終授業で、揃えて提出できるように用意しておく									
15. デザイン画<オリジナルデザイン>仕上げ					それぞれの感性イメージをまとめてレポート提出する									
履修上の注意														
SNS等の情報だけに頼らず、ショップで実際に布地の質感や色調をチェックする作図に必要な用具を持参する。														
成績評価方法・基準														
提出書類100%、提出課題・作品は添削し返却することでフィードバックとする。														
教科書 授業前にプリントを配布する														
参考書 なし														
備考 ファッションは流動的である事と演習授業であるため、授業計画通りに進まない場合がある。質問があれば授業中に受け付ける。														

授業科目名	アパレル設計論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	玉田 真紀	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専2年					
授業概要														
アパレル産業とは、その歴史的変遷と商品分類を考えた上で、アパレル生産の2つの工程（注文服と既製服）について、商品企画・素材選定から生産段階まで、特徴と課題を解説する。さらに、アパレル設計に必要な人体形態（個体差）を把握するための計測方法と、既製服の設計に必要な JIS 衣料サイズ規格について解説する。また、パターン設計を習得するための基礎である原型と様々な立体化技法への展開方法についても演習を通して解説する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
アパレル設計・生産の専門知識が身につく								○		○		○		
アパレル業界で活躍するために必要な思考力が身につく								○		○		○		
アパレル商品を客観的に見る力が身につく							○	○		○		○		
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.アパレル産業とは：歴史的変遷とアパレルの商品分類						アパレルの類似語について調べる								
2.アパレル生産の2つの工程（1）注文服の生産工程						注文服の生産工程の特徴をまとめる								
3.アパレル生産の2つの工程（2）既製服の生産工程						既製服の生産工程の特徴をまとめる								
4.注文服と既製服生産の比較						利点と問題点について考える								
5.人体の構造と計測方法						人体各部の名称を復習する								
6.衣服設計のための人体の採寸方法（1）成人女子						採寸方法を復習する								
7.衣服設計のための人体の採寸方法（2）成人男子						採寸方法を復習する								
8.衣料サイズ規格（1）体格調査の変遷（2）衣料サイズの種類						衣料サイズ表示を調べてみる								
9.衣料サイズ規格（3）JIS 成人男子と成人女子衣料サイズ						JIS 衣料サイズの復習をする								
10.衣服設計の基礎となる布地の立体化技法、動作性と設計						立体化技法が利用された例を探す								
11.パターン設計（1）立体裁断と平面作図（2）原型とは						原型の種類と特徴を復習する								
12.パターン設計（3）見ごろ原型の展開						原型からの展開を復習する								
13.パターン設計（4）袖原型と動作性（5）袖原型の展開						袖原型と動作性を復習する								
14.パターン設計（6）衿の種類（7）衿型紙の展開						衿のパターンを復習する								
15.加齢に伴う体型変化とパターンの補正						体型変化と補正を復習する								
16.試験														
履修上の注意														
遅刻3回で1回欠席扱い、1/3以上欠席者は原則として不合格にする。														
講義には教科書を使用する。適宜、プリントを配布するのでファイルに整理する。														
授業後に疑問点や質問事項を書くこと。できるだけ次回に解答するようにする。														
成績評価方法・基準														
授業後の感想や質問の書き込み内容（10%）試験（90%）（試験は教科書、ノート、プリント全て持込み可）授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。														
教科書 [アパレル設計・生産論] [衣料管理協会] [2,300円]														
参考書 授業前にプリントを配布する。参考書も回覧し紹介する。														
備考 質問があれば授業後に受け付けます。														

授業科目名	アパレル生産実習				単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+15)					
担当者	井上 美紀	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	服専3年					
授業概要														
<p>実習を通じて、アパレル設計生産論で学んだ知識を深め、さらに、品質の良い製品を効率的に工業生産するための工業生産方式に関連する事柄について教授する。特に実習では、工業生産に関わる工程の中で、工業用パターンメイキング、縫製仕様書の作成と縫製仕様書に従った作業等を行い、全体の仕組みと流れを教授する。生産工程では、検反から縫製作業・製品評価についての事項と技術も教授する。さらに、作業効率化のための工程分析や近年注目されている IOT や AI・PRA 等の活用についても触れる。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
工業生産に必要な知識と技能、思考力を身につける。								○	○					
課題解決能力を身につける。											○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. はじめに：実習の進め方、縫製見本の作成					縫製見本を完成させる。									
2. 生産工程と分析 1. 縫製機器の理解、見本の作成					縫製の文献資料収集と課題の取組。									
3. 生産工程と分析 2. 作業工程分析とパターン分析					生産の文献資料収集と課題の取組。									
4. 生産工程と分析 3. 作業工程表の作成					課題を完成させる。									
5. 縫製仕様書の作成 1. 分析結果を基に作成					仕様書と工程分析の内容を振り返る。									
6. 縫製仕様書の作成 2. 校正					課題に取り組む。									
7. 縫製作業工程分析表の作成 1. 工程分析を基に作成					課題に取り組む。									
8. 縫製作業工程分析表の作成 2. 校正					課題を完成させる。									
9. 工業用パターンの作成 1. パターンの作成					工業用パターンの文献収集と課題の取組。									
10. 工業用パターンの作成 2. 工業用パターンへの展開					課題に取り組む。									
11. 工業用パターンの作成 3. グレーディング、マーキング					課題を完成させる。									
12. 縫製機器レイアウト、工場での Iot・AI・PRA の活用					課題に取り組み、内容を振り返る。									
13. プレゼンテーション（課題の提示、資料作成）					課題に取り組む。									
14. プレゼンテーション（プレゼン資料作成）					課題に取り組み完成させる。									
15. おわりに：発表、課題の振り返り、授業のまとめ					全範囲を振り返る。課題を完成させる。									
履修上の注意 遅刻・欠席をせず、課題を計画通りに進めること。必要な道具を（テキスト、洋裁セット一式、ノート、ファイル、衣服等）を毎回持参する。分解しても構わない衣服を準備する。														
成績評価方法・基準														
課題の取り組み状況、進度等の受講状況 50%、課題・提出物 50%														
教科書 繊維製品の基礎知識シリーズ、アパレル設計生産論、日本衣料管理協会 入学時と2年次に購入済														
参考書 必要に応じて紹介する。														
備考														
<p>実習の作業状況、機器の台数の都合により、授業計画の順番や内容の変更を行う場合がある。質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。評価や進め方は1回目の授業で説明する。課題は、授業中にフィードバック、または後日添削して返却する。課題が未提出、実施されない等の際には、評価の対象としないことがある。分解する衣服は、襟・カフス付きシャツ・ブラウスとし各自用意する。また製図用紙 4-5 枚も用意する。</p>														

授業科目名	アパレル企画設計演習				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60+30)					
担当者	菊地 紗代	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服専4年					
授業概要														
<p>これまでの被服分野の専門科目で習得した知識・技術を発展させる。まず始めに規定のテーマに沿ったアパレル製品の企画・分析・設計・プレゼンテーションを実施する。次に現在の衣生活の中の問題点を見つけて解決のためのテーマを設定し、企画・設計・さらに実際に製作し、プレゼンテーションを実施することで理解を深める。問題解決方法を探り、論理的に考察し、再びアパレルとして還元する企画能力が身につくよう指導する。オーダー・お直し・服飾教育現場に携わった講師が担当する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
衣生活の問題点を把握し、考察する能力を身につける。							○							
課題解決方法を探り、実行し、プレゼンテーションができる。									○		○	○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.オリエンテーション					アパレル関連の授業を振り返る。									
2.課題1：企画					テーマについて調べる。									
3. 目的、対象					資料・情報収集し、検討する。									
4. 調査、分析					資料・情報収集し、検討する。									
5. 環境・機能性検討					資料・情報収集し、検討する。									
6. 色彩・付属品検討					資料・情報収集し、検討する。									
7. プレゼンテーション					事前準備をする。									
8. 相互評価					結果を考察する。									
9.課題2：衣服の問題点の把握、整理					衣生活上の課題をまとめる。									
10. 現状調査					資料・情報収集、市場調査をする。									
11. 問題解決のためのテーマ決定					テーマを決定する。									
12. 問題解決のための情報収集、解決方法検討					資料・情報収集し、解決方法を検討する。									
13. 製作①縫製方法・作業工程分析					製作計画を立てる。									
14. 製作②パターン制作					資料収集し、パターンを作成する。									
15. 製作③材料選定					材料を調達する。									
16. 製作②シーチング：裁断					試作する。									
17. 製作③ 仮縫い					試作する。									
18. 製作④ 試着、補正					試作し、補正する。									
19. 製作⑤表地：地直し、裁断					裁断する。									
20. 製作⑥裏地・芯：裁断					裁断する。									
21. 製作⑦本縫い					製品を縫製する。									
22. 製作⑧本縫い					製品を縫製する。									
23. 製作⑨本縫い					製品を縫製する。									
24. 製作⑩本縫い					製品を縫製する。									
25. 製作⑪本縫い、付属品付け					製品を縫製する。									
26. 製作⑫仕上げ、検品					製品を完成させる。									
27.プレゼンテーション準備					準備を整える。									
28.プレゼンテーション					課題に取り組む。									
29.相互評価、新たに出了問題点の把握					結果を考察する。									
30.まとめ					全行程を振り返る。									
履修上の注意 日頃からアパレル製品に興味を持ち、市場調査をしておくこと。材料費は各自負担。														
成績評価方法・基準 提出物 60%，受講状況（作業状況）を 40%として評価する。 課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。														
教科書 各自のテーマに応じて指示する。														
参考書 [アパレル設計実習 アパレル生産実習] [日本衣料管理協会] [2,750円] 適宜、プリントを配布														
備考 受講生の進度によりシラバス内容が前後することがある。 課題が未提出、実施されない場合には評価の対象としないことがある。 質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。														

授業科目名	アパレル CAD I				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	佐藤 理恵	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	服専 2年				
授業概要													
<p>●数々の国内メーカーの型紙や縫製仕様、工業用パターン製作に携わった経験を、アパレル CAD の講義及び実技演習を通じて指導する。</p> <p>●アパレル CAD（パターンメイキング、工業用パターンメイキング、マーキング、グレーディング）とは何か。</p> <p>●企業でのアパレル CAD の役割（服作りとしての知識の把握、設計や生産工程の効率化等）。</p> <p>●アパレル CAD でどのようなことが出来るのか基本操作を中心に説明し、演習（身頃の原型、スカートの原型のパターン作成）を行う。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. アパレル CAD の基本操作を学ぶ。					○	○	○		○	○			
2. アパレル CAD で原型を作成する技術を習得する。					○	○	○		○	○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. オリエンテーション													
2. 基本操作①（CAD ソフトの開始・終了、直線、曲線等）					基本操作①の復習								
3. 基本操作②（コピー・移動、ファイルに保存、印刷等）					原型の書き方を予習復習し理解する								
4. 作図①（身頃の原型作成：新文化式）					作図①の復習								
5. 講義（身頃の原型を利用して工業用パターンとは何かを学ぶ）					スカート原型の書き方を予習復習し理解する								
6. 作図②（スカートの原型作成：新文化式）					作図②の復習								
7. 作図③（スカートの原型から工業用パターンへと展開する為に必要な情報を加える）マーキングについて					作図③、マーキングについて復習								
8. まとめ、試験					まとめを復習								
履修上の注意													
<p>基礎的な製図知識は履修前に確認しておくこと。初回の講義で説明する履修上の注意を厳守すること。</p> <p>アパレル CAD II を選択することが望ましい。</p>													
成績評価方法・基準													
<p>遅刻・欠席をしないこと</p> <p>試験 80%、平常点 20%（平常点は授業への総合的な取り組みで判断する。）</p> <p>試験は採点后、後日返却する。</p>													
教科書 使用せず													
参考書 [CAD パターンメイキング] [文化服装学院編] [文化出版局] [2,754 円]													
備考 ・ルーブリック評価については第 1 回目の授業で説明します。													
・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付けます。													

授業科目名	アパレル CAD II			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	佐藤 理恵	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専3年			
授業概要												
<p>●数々の国内メーカーの型紙や縫製仕様、工業用パターン製作に携わった経験を、アパレル CAD の講義及び実技演習を通じて指導する。</p> <p>●アパレル CAD（パターンメイキング、工業用パターンメイキング、マーキング、グレーディング）とは何か。</p> <p>●企業でのアパレル CAD の役割（服作りとしての知識の把握、設計や生産工程の効率化等）を説明。</p> <p>●アパレル CAD でどのようなことが出来るのか基本操作及び応用について講義し、演習（身頃の原型、スカートの原型、ブラウスのパターン作成）を行う。</p> <p>●自由作図（ワンピース・パンツ・ベスト・ジャケット・コート等のパターン作成）を行う。</p>												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1.アパレル CAD の基本操作からの応用技術を学ぶ。				○	○	○		○	○	○	○	○
2.アパレル CAD で多種多様なアイテムを作成し専門技術を身に着ける。				○	○	○	○	○	○	○	○	○
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）								
1. オリエンテーション												
2. 基本操作の復習（CAD ソフトの開始・終了、直線、曲線等）				基本操作の復習								
3. 作図①（身頃の原型作成：新文化式）				原型の書き方を予習復習し理解する								
4. 作図②（身頃のダーツの展開と分散）				作図②の復習								
5. 作図③（身頃のダーツのデザイン展開）				作図③の復習								
6. 作図④（身頃の原型からブラウスパターンへ展開：原型操作）				プリント配布するので記載内容を予習								
7. 作図⑤（身頃の原型からブラウスパターンへ展開：身頃の作図）				作図⑤の復習								
8. 作図⑥（ブラウスのパターンから工業用パターンへと展開する為に必要な情報を加える）				作図⑥の復習								
9. 作図⑦（スカートの原型作成、スカートの原型から工業用パターンへと展開する為に必要な情報を加える）				スカート原型の書き方を予習復習し理解する								
10. 作図⑧（ダーツの展開：原型からフレアスカートとマーメイドスカートのパターンへ）				作図⑧の復習 自由作図デザインのレポート								
11. 作図⑨（自由作図）ワンピース等を作図する。				作図⑨の復習								
12. 作図⑩（自由作図） 同上				作図⑩の復習								
13. 作図⑪（自由作図）⑩で作図した型紙を用いて縫製仕様書を作成				作図⑪の復習								
14. 作図⑫（自由作図）作図した型紙を 1/2 サイズと実寸で印刷。				作図⑫の復習								
15. まとめ、試験												
履修上の注意												
<p>基礎的な製図知識は履修前に確認しておくこと。初回の講義で説明する履修上の注意を厳守すること。</p> <p>アパレル CAD I を選択していることが望ましい。</p>												
成績評価方法・基準												
試験 70%、課題（自由作図、レポート、縫製仕様書）30% 試験、課題は採点后、後日返却する。												
教科書 使用せず												
参考書 [CAD パターンメイキング] [文化服装学院編] [文化出版局] [2,754 円]												
備考												
<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。 ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付けます。 												

授業科目名	服飾工芸・造形（服飾手芸）Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+30)						
担当者	横田 美和	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	服専2年					
授業概要														
刺繍とは生地に針と糸で装飾を施す手芸のひとつである。その中のフランス刺繍は基本のステッチが一通りできる刺繍の種類である。														
前半では生地扱い方や針や糸の扱い方、多様なステッチの技法を教授する。後半ではオリジナル作品（バックなどの小物）を制作する。その為のデザイン、材料選び等の準備を通して作業工程の理解を深め完成度を高めるための技術を身につけられるように教授する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
刺繍の基本ステッチの技法を身につける。									○		○			
習得した技法を応用作品に活かせる。									○		○			○
制作、用途に合わせた素材、技法の選び方を身につける。									○		○			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.「授業内容と進め方」「用具と材料」の説明。 基本ステッチ①「布端裁ちかがり」「図案写し」					次回から基本ステッチができるように図案を写し終わっておく									
2.基本ステッチ②「布の扱い方」「刺繍糸の扱い方」					時間内に終わらない時は終わらせておく									
3.基本ステッチ③ No.1 からNo.6					時間内に終わらない時は終わらせておく									
4.基本ステッチ④ No.7 からNo.11					時間内に終わらない時は終わらせておく									
5.基本ステッチ⑤ No.12 からNo.17					時間内に終わらない時は終わらせておく									
6.基本ステッチ⑥ No.18 からNo.22					時間内に終わらない時は終わらせておく									
7.基本ステッチ⑦ No.23 からNo.28					時間内に終わらない時は終わらせておく									
8.基本ステッチ⑧ No.29 からNo.31					時間内に終わらない時は終わらせておく									
9.基本ステッチ⑨「布端の始末」					時間内に終わらない時は終わらせておく									
10.基本ステッチ⑩「仕上げの仕方」「提出」					仕上げをして提出する									
11.オリジナル作品「デザイン」「布・糸の準備」					次回から使用する布と糸を準備する									
12.オリジナル作品 基本ステッチから選んでステッチ					時間内に終わらない時は終わらせておく									
13.オリジナル作品 基本ステッチから選んでステッチ					時間内に終わらない時は終わらせておく									
14.オリジナル作品 基本ステッチから選んでステッチ					時間内に終わらない時は終わらせておく									
15.オリジナル作品「縫製」「仕上げ」「提出」					仕上げをして提出する									
履修上の注意														
材料費（布と糸）600円。丁寧な制作を心がけ、遅れた場合は次回までに終わらせておく。														
成績評価方法・基準														
課題作品 60%・受講態度 40%														
※課題が未提出の際には評価の対象としないことがあります。提出物は添削して後日返却します。														
※受講態度はその時間の作業工程を理解・クリアしているかの状況を見て評価します。														
教科書 ：授業前にプリントを配布														
参考書 ：無し														
備考														
都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。														
質問等については授業終了後に受け付けます。														

授業科目名	服飾工芸・造形（服飾手芸）Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+30)				
担当者	横田 美和	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	服専2年			
授業概要												
編み物（手編み）の中には、複数の棒針を使って編む「棒針編み」と、鉤状のかぎ針1本を使って編む「かぎ針編み」がある。 前半では、かぎ針編みでコースターとミニドイリーを、後半では、2本の針を用いて棒針編みの基本の編み方でマフラーを制作する。制作しながら糸の種類や太さに合ったかぎ針、棒針の「道具の選び方」「編み目記号図の見方」「道具の使い方」「編み方」等の基礎を教授する。												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
編み物の「編み目記号」「記号図の見方」を身につける。								○		○		○
「糸と針の使い方」「編み方」等の基礎を身につける。								○		○		○
制作に合わせた素材を選び編み物ができる。								○		○		○
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）								
1.「授業内容と進め方」「用具と材料」の説明。 かぎ針編み①「糸と針の持ち方」「作り目の作り方」				次回から使用するかぎ針と糸を各自準備する								
2.かぎ針編み②コースター「記号図の見方と編み方」				時間内に終わらない時は終わらせておく								
3.かぎ針編み③コースター「編み方」「仕上げ」「提出」				これまでの工程をまとめ、提出する								
4.かぎ針編み④ミニドイリー「編み方」				時間内に終わらない時は終わらせておく								
5.かぎ針編み⑤ミニドイリー「編み方」				時間内に終わらない時は終わらせておく								
6.かぎ針編み⑥ミニドイリー「編み方」				時間内に終わらない時は終わらせておく								
7.かぎ針編み⑦ミニドイリー モチーフを繋げて仕上げ提出				モチーフを繋げて提出する								
8.棒針編み①「糸と針の持ち方」「作り目の作り方」				次回から使用する棒針と糸を各自準備する								
9.棒針編み②マフラー「記号図の見方と編み方」				時間内に終わらない時は終わらせておく								
10.棒針編み③マフラー「編み方」				時間内に終わらない時は終わらせておく								
11.棒針編み④マフラー「編み方」				時間内に終わらない時は終わらせておく								
12.棒針編み⑤マフラー「編み方」				時間内に終わらない時は終わらせておく								
13.棒針編み⑥マフラー「編み方」				時間内に終わらない時は終わらせておく								
14.棒針編み⑦マフラー「編み方」「目の止め方」				時間内に終わらない時は終わらせておく								
15.棒針編み⑧マフラー フリンジを付けて仕上げ提出				フリンジを付けて提出する								
履修上の注意												
材料（糸と針）は各自準備する。丁寧な制作を心がけ、遅れた場合は次回までに終わらせておく。												
成績評価方法・基準												
課題作品 60%・受講態度 40%												
※課題が未提出の際には評価の対象としないことがあります。提出物は添削して後日返却します。												
※受講態度はその時間の作業工程を理解・クリアしているかの状況を見て評価します。												
教科書 ：授業前にプリントを配布												
参考書 ：無し												
備考												
都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。 質問等については授業終了後に受け付けます。												

授業科目名	服飾工芸・造形（織物）Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+15)				
担当者	横田 美和	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	服専4年			
授業概要												
<p>卓上織機を使用し織物を制作するための知識や技術を教授する。 前半はテキスタイルデザインⅠで学んだ作業工程と道具の使い方等を振り返る。また、織物の三原組織（平織、綾織、縹子織）の他にもある変化組織についても、組織図の見方・書き方を教授し制作につなげる。 後半ではオリジナル作品を制作する。そのためのデザイン・材料選び等の準備を通して、より作業工程の理解を深め更に織物製品としての完成度を高めるための技術を身につけられるように教授する。</p>												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
織物に関する技術を身につける。								○		○		
織物の組織についての知識を身につける。								○		○		
織物制作を通して布製品の扱い方を身につける。						○				○		
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）								
1.「授業内容と進め方」の説明と織物組織・道具類の確認				三原組織・変化組織を調べておく								
2.「設計表作り」と「整経」作業				時間内に終わらない時は完成させておく								
3.「経巻」と「小拵え」作業				時間内に終わらない時は完成させておく								
4.「織る」作業（前半）				時間内に終わらない時は完成させておく								
5.「織る」作業（後半）				時間内に終わらない時は完成させておく								
6.仕上げと講評				これまでの工程をまとめておく								
7.オリジナル作品のデザインと設計表作り。				オリジナル作品のデザインを考えておく								
8.「整経」作業				時間内に終わらない時は完成させておく								
9.「経巻」作業				時間内に終わらない時は完成させておく								
10.「小拵え」作業				時間内に終わらない時は完成させておく								
11.「織る」作業（前半）				時間内に終わらない時は完成させておく								
12.「織る」作業（中間）				時間内に終わらない時は完成させておく								
13.「織る」作業（後半）				時間内に終わらない時は完成させておく								
14.仕上げ				時間内に終わらない時は完成させておく								
15.講評・まとめ				これまでの工程をまとめておく								
履修上の注意												
<p>オリジナル作品で使用する糸は各自で購入のこと。 講義一回で一工程進むため遅れた場合は次回までに終わらせておく。</p>												
成績評価方法・基準												
<p>課題作品 60%・受講態度 40%</p> <p>※課題が未提出の際には評価の対象としないことがあります。提出物は添削して後日返却します。 ※受講態度はその時間の作業工程を理解・クリアしているかの状況をみて評価します。</p>												
教科書 ：授業前に資料を配布する。												
参考書 ：無し												
備考												
<p>都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。 質問等については授業終了後に受け付けます。</p>												

授業科目名	被服繊維学				単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)								
担当者	菅野 修一	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服専1年					
授業概要														
被服繊維の観点から高分子化学について講述する。繊維の性質や製造法について理解を深めることをとおして、高分子化学に関する学問体系全体の概念に接することを重視するが、より具体的には、繊維の分子構造に由来する繊維特性について詳しく解説する。一方、原始時代から今日に至るまでの繊維の歴史が、科学技術発展の歴史と明確にリンクしていることの意味を深めることで、日常にげなく当たり前で使用している被服の奥深さを認識させ、そのベースとなっている学問の幅の広さについても繰り返し説明する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
高分子の概念の理解。					○	○	○		○					○
繊維の体系的な理解。					○	○	○		○					○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 高分子とは何か：高分子の特徴と分子量					教科書指定ページの熟読。									
2. " : 環境と高分子					教科書指定ページの熟読。									
3. 高分子鎖のかたち：コンホメーションとコンフィグレーション					教科書指定ページの熟読。									
4. 繊維としての高分子化合物					教科書指定ページの熟読。									
5. 天然繊維：植物繊維（種子毛繊維）					講義ノートの総まとめ（1回目）。									
6. " : "（靱皮繊維と葉脈繊維）					教科書指定ページの熟読。									
7. " : 動物繊維（繭繊維）					教科書指定ページの熟読。									
8. " : "（獣毛繊維）					教科書指定ページの熟読。									
9. 化学繊維：再生繊維・半合成繊維					教科書指定ページの熟読。									
10. " : 合成繊維					講義ノートの総まとめ（2回目）。									
11. " : 最新の合成繊維					教科書指定ページの熟読。									
12. 高分子の合成：付加重合					教科書指定ページの熟読。									
13. " : 重縮合					課題を指定。									
14. 高分子の合成反応速度論					教科書指定ページの熟読。									
15. 機能性ポリマー：様々な最新のポリマー					講義ノートの総まとめ（3回目）。									
履修上の注意														
理解をより深めるため、有機化学Ⅰ・Ⅱ及び化学Ⅰ・Ⅱの受講が望ましい。														
成績評価方法・基準														
小テスト 30%、レポート 30%、課題プレゼンテーション 40%を基準として総合的に評価する。 (小テストは直後に答え合わせをする。)														
教科書 [繊維製品の基礎知識シリーズ第1部] [日本衣料管理協会刊行委員会] [日本衣料管理協会] [1800円]														
参考書 必要なプリント配布														
備考														
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。														

授業科目名	被服繊維学実験				単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+15)					
担当者	井上 美紀	必・選	必	形態	実験	学期	後期	対象	服専1年					
授業概要														
被服繊維学で学んだ知識について実験を通してさらに理解を深められるように、繊維の鑑別実験、繊維の製造実験、繊維の取出し実験、繊維から糸・糸から織物の制作実験、糸の番手・表示実験を主に教授する。特に繊維の鑑別実験では、各繊維の特徴をとらえることができるように実験方法と分析方法についても解説する。また、はじめての科学的な実験になるため、実験の進め方や器具の使い方、溶液の調整方法、レポートのまとめ方、実験データの考察の仕方についても教授する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
繊維、糸等に関する高度な知識・技術を身につける。							○							
実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。									○		○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. はじめに：概要、進め方、グループ構成、器具の使い方					器具の名称を覚える。									
2. 溶液調整、注意、レポート、鑑別実験 1 外観・手触り					溶液の調整法とレポート書式を覚える。									
3. 鑑別実験 2 各種試薬に対する溶解性					レポートを作成しプリントに目を通す。									
4. 鑑別実験 3 燃焼特性					レポートを作成しプリントに目を通す。									
5. 鑑別実験 4 染色性・呈色反応					レポートを作成しプリントに目を通す。									
6. 鑑別実験 5 顕微鏡による形態観察					レポートを作成しプリントに目を通す。									
7. 鑑別実験 6 赤外線吸収スペクトル					配布プリントに目を通す。									
8. 鑑別実験のまとめ					レポートを作成しプリントに目を通す。									
9. 繊維の製造 合成繊維					レポートを作成しプリントに目を通す。									
10. 天然繊維の取り出し 1 絹					配布プリントに目を通す。									
11. 天然繊維の取り出し 2 綿、紡績					レポートを作成しプリントに目を通す。									
12. 糸に関する実験 番手・撚り・表示					レポートを作成しプリントに目を通す。									
13. 織布の制作 1 手織					織り作業を終わらせる。									
14. 織布の制作 2 織機（基本組織）					配布プリントに目を通す。									
15. おわりに：実験のまとめ、レポートの整理					レポートの校正した箇所を振り返る。									
履修上の注意														
安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。必要に応じ電卓を持参する（√機能付電卓、携帯電話不可）。レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。														
成績評価方法・基準														
実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し 50%														
事前準備をしてグループで協力しながら実験結果を出すことにに対し 50%														
教科書 繊維製品の基礎知識シリーズ 日本衣料管理協会 入学時購入済														
参考書 授業前にプリントを配布する														
備考														
実験作業状況等の都合により、授業計画の順番等を変更することがある。														
質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。														
評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する。														
レポートは後日添削して返却する。レポートが未提出の際には、評価の対象としない。														

授業科目名	被服材料学				単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)								
担当者	菅野 修一	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	服専1年					
授業概要														
主にケミストリーの観点から被服材料について論述する。被服材料について科学的に理解を深めることをとおして、科学に関する学問体系全体の概念に接することに主眼をおく。より具体的には、関連物質を化学式で理解し、その特性との因果関係を解説する。さらには、原始時代から今日に至るまでの繊維の歴史が、科学技術発展の歴史と明確にリンクしていることの意味を深めることで、日常なにげなく当たり前で使用している被服の奥深さを認識させ、そのベースとなっている学問の幅の広さについても繰り返し説明する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
被服材料及び関連物質を化学式で理解。					○	○	○	○	○					○
織物と編物の基礎知識の習得。					○	○	○		○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 被服材料としての繊維の歴史					教科書指定ページの熟読。									
2. 被服材料としての繊維とは何か質					教科書指定ページの熟読。									
3. セルロースと植物繊維					教科書指定ページの熟読。									
4. タンパク質と動物繊維					教科書指定ページの熟読。									
5. 原油と合成繊維					講義ノートの総まとめ（1回目）。									
6. 糸の分類					教科書指定ページの熟読。									
7. 糸の製造プロセス					教科書指定ページの熟読。									
8. 糸の構造と性質					教科書指定ページの熟読。									
9. 織物の分類と製造法					教科書指定ページの熟読。									
10. 織物の組織					講義ノートの総まとめ（2回目）。									
11. 織物の構造と性質					教科書指定ページの熟読。									
12. 編物の分類と製造法					教科書指定ページの熟読。									
13. 編物の組織					課題を指定。									
14. 編物の構造と性質					教科書指定ページの熟読。									
15. 環境保全の観点からの繊維のリサイクルについて					講義ノートの総まとめ（3回目）。									
履修上の注意														
理解をより深めるため、有機化学Ⅰ・Ⅱ及び化学Ⅰ・Ⅱの受講が望ましい。														
成績評価方法・基準														
小テスト 30%、レポート 30%、課題プレゼンテーション 40%を基準として総合的に評価する。 (小テストは直後に答え合わせをする。)														
教科書 [繊維製品の基礎知識シリーズ第1部] [日本衣料管理協会刊行委員会] [日本衣料管理協会] [1800円]														
参考書 必要なプリント配布														
備考														
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。														

授業科目名	被服材料学実験				単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+15)					
担当者	井上 美紀	必・選	必	形態	実験	学期	前期	対象	服専2年					
授業概要														
被服材料学で学んだ知識について、実験を通してさらに理解を深められるように、織物・編物の構造分析、被服材料の性能に関わる消費性能試験を主に教授する。織物の基本構造と分析では、織布の作成方法について教授し、様々な織物への展開方法を解説する。布の消費性能試験では、各種強度、風合い、快適性に関わる実験の測定方法について教授し、さらに試験結果のまとめ方、分析方法、評価についても教授する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
被服材料に関する高度な知識・技術を身につける。							○							
実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。									○		○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. はじめに：概要、グループ構成 織物の基本構造と展開					織物の基本組織を見直す。									
2. 織物の構造と展開、織機での織布の作製1（基礎）					編物の組織と織物の変化組織を見直す。									
3. 織機での織布の作製2（応用）、編物の構造分析					プリントに目を通す。									
4. 消費性能試験1 進め方、引張強伸度					レポートを作成しプリントに目を通す。									
5. 消費性能試験2 摩耗・破裂・引裂強度					レポートを作成しプリントに目を通す。									
6. 消費性能試験3 剪断特性・曲げ剛性					レポートを作成しプリントに目を通す。									
7. 消費性能試験4 防しわ性、剛軟性1					レポートを作成しプリントに目を通す。									
8. 消費性能試験5 剛軟性2、ドレープ性					レポートを作成しプリントに目を通す。									
9. 消費性能試験6 通気性、保温性					レポートを作成しプリントに目を通す。									
10. 消費性能試験7 吸水性・透湿性					レポートを作成しプリントに目を通す。									
11. 消費性能試験8 データの整理、性能試験のまとめ					レポートを作成しプリントに目を通す。									
12. 消費性能と造形性1 試料作成					プリントに目を通す。									
13. 消費性能と造形性2 性能測定、データ解析					レポートを作成しプリントに目を通す。									
14. 外部研修 実施できない場合、消費性能と造形性3に変える					レポートを作成しプリントに目を通す。									
15. おわりに：本実験のまとめ、レポートの整理					レポートの校正した箇所を振り返る。									
履修上の注意														
安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。必要に応じ電卓を持参する（√機能付電卓、携帯電話不可）。レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。														
成績評価方法・基準														
実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し50%														
事前準備をしてグループで協力しながら実験結果を出すことにに対し50%														
教科書 繊維製品の基礎知識シリーズ 日本衣料管理協会 入学時購入済														
参考書 授業前にプリントを配布する														
備考														
実験作業状況等の都合により、授業計画の順番等を変更することがある。														
消費性能試験1-7、消費性能と造形性12-13は、機器の台数の関係で、班ごとに授業順番が変わる。														
質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。														
評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する。														
レポートは後日添削して返却する。レポートが未提出の際には、評価の対象としない。														

授業科目名	被服整理学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	井上 美紀	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服専2年					
授業概要														
被服の消費段階に行われる被服整理について教授する。特に洗濯用洗剤の主成分である界面活性剤、ビルダーと添加剤の作用、洗浄理論、各種繊維製品に適した洗濯方法、仕上げ方法、保管方法について主に教授する。表示では、取扱い絵表示の基本を教授するとともに、各製品に対する最適な表示の選択についても解説する。洗濯では、家庭洗濯と商業洗濯の実際について教授する。さらに被服の適切な取扱い方法や被服整理の環境との関連性、安全性についても解説する。一部グループワーク（GW）を実施する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
被服整理に関する基礎的な知識を身につける。							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. はじめに：被服整理とは、被服整理の意義、被服の汚れ					テキスト1章を読む。									
2. 汚れの付着機構、洗浄の型					テキスト1章を読む。ミニットペーパーを見直す。									
3. 洗剤の種類と成分、用途					テキスト2章を読む。ミニットペーパーを見直す。									
4. 界面活性剤の分類、製法と作用					テキスト3章を読む。ミニットペーパーを見直す。									
5. ビルダー・添加物の機能					テキスト、ミニットペーパーと中間テストを見直す。									
6. 洗濯用水と影響					テキスト2章を読む。ミニットペーパーを見直す。									
7. 洗浄の理論					テキスト3章を読む。ミニットペーパーを見直す。									
8. 洗浄方式、洗濯機					テキスト4.6.7章を読む、ミニットペーパーを見直す。									
9. 漂白・増白					テキスト8章を読む。ミニットペーパーを見直す。									
10. 柔軟加工・糊加工・仕上げ加工					テキスト10章ミニットペーパー中間テストを見直す。									
11. 家庭洗濯の実際					テキスト5章を読む。ミニットペーパーを見直す。									
12. 商業洗濯の分類と方法					テキスト12章を読む。ミニットペーパーを見直す。									
13. 表示と適切な取り扱い（GW）					テキスト13章を読む。ミニットペーパーを見直す。									
14. 保存と管理・適切な取り扱い（GW・プレゼン）					テキスト11章を読む。ミニットペーパーを見直す。									
15. 被服整理の課題、おわりに：本講義のまとめ					テキスト2章ミニットペーパー中間テストを見直す。									
16. 本試験					全範囲を振り返る。									
履修上の注意														
ミニットペーパーを授業最初と最後に行い、単元毎に中間テストを行うので振り返りを大切にします。														
成績評価方法・基準														
ミニットペーパー・中間試験・グループワーク等の受講態度に対し50%、本試験50%（持ち込み不可）														
教科書 被服整理学 日本衣料管理協会 1,200円														
参考書 繊維製品の基礎知識シリーズ 日本衣料管理協会 入学時購入済 授業前にプリントを配布する。														
備考														
質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。														
評価やミニットペーパー、中間テスト等は1回目の授業で説明する。														
ミニットペーパーは後日添削して返却し、中間テストは授業内でフィードバックする。														
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。														

授業科目名	被服整理学実験			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+15)						
担当者	井上 美紀	必・選	必	形態	実験	学期	後期	対象	服専2年					
授業概要														
被服整理学で学んだ基礎的な理論について実験を通してさらに理解を深められるように、洗濯用洗剤の主成分である界面活性剤に関する実験、ビルダーや添加剤に関する実験、洗濯用水に関する実験、洗浄実験、漂白・増白実験、柔軟加工・糊加工・仕上げ加工実験について主に教授する。特に界面活性剤に関する実験では、製造方法、用途、洗浄作用についても取り上げ教授する。商業洗濯に対する理解を深めるため、関連施設で外部研修も行う。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
被服整理に関する高度な知識・技術を身につける。							○							
実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。									○		○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. はじめに：概要、実験上の注意、器具の使い方、汚れ定量					実験器具の使い方を見直す。									
2. 界面活性剤の製造 1 陰イオン系合成界面活性剤					被服整理学の内容について見直す。									
3. 界面活性剤の製造 2 石けん洗剤					レポートを作成しプリントに目を通す。									
4. 界面活性剤の分類と用途					レポートを作成しプリントに目を通す。									
5. 界面活性剤の性質と汚れの除去作用					プリントに目を通す。									
6. 表面張力の測定、臨界ミセル濃度の推定					レポートを作成しプリントに目を通す。									
7. 洗濯用水の硬度、ビルダーと添加剤の作用					レポートを作成しプリントに目を通す。									
8. 洗浄実験 1 洗浄準備、洗浄					プリントに目を通す。									
9. 洗浄実験 2 洗浄力の測定、データの整理					プリントに目を通す。									
10. 洗浄実験 3 洗浄力の測定、データの整理と解析					レポートを作成しプリントに目を通す。									
11. 漂白実験 1 漂白剤の型の分類と用途					プリントに目を通す。									
12. 漂白実験 2 漂白力の測定、増白実験					レポートを作成しプリントに目を通す。									
13. 商業洗濯 外部研修 都合により実施できない場合は実験で変える					レポートを作成しプリントに目を通す。									
14. 仕上げ加工 1 柔軟加工、糊加工、アイロン仕上げ					レポートを作成しプリントに目を通す。									
15. 仕上げ加工 2 測定、おわりに：まとめ、レポートの整理					レポートの校正した箇所を振り返る。									
履修上の注意														
安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。必要に応じ電卓を持参する（√機能付電卓、携帯電話不可）。レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。														
成績評価方法・基準														
実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し 50% 事前準備をしてグループで協力しながら実験結果を出すことに 50%														
教科書 被服整理学 日本衣料管理協会 1200 円														
参考書 必要に応じて授業内で紹介、授業前にプリントを配布する														
備考														
実験作業状況等の都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。 評価と実験の進め方は 1 回目の授業で説明する。 レポートは後日添削して返却する。レポートが未提出の際には、評価の対象としない。 学外施設での外部研修は都合により実験に代わることもある。														

授業科目名	染色加工学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	井上 美紀	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専2年					
授業概要														
ほとんどの繊維製品には染色と加工が施されているので、繊維製品に関する染色加工について主に教授する。染色では染色理論、天然染料、合成染料、測色と表色、染色堅牢度、染色加工における事故等について解説する。また日本の伝統的な染色についても取り上げる。加工では、風合い改良、機能性付与・性能向上を目的とする加工、仕上げ加工等、様々な加工方法を教授する。さらに、染色加工に関連する安全性や環境への影響についても教授する。一部グループワーク（GW）を実施する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
染色・加工に関する基礎的な知識を身につける。							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. はじめに：生活の中の色、色材、染色加工の歴史					プリントを見直す。									
2. 染色プロセス					テキストを読む。									
3. 染色理論 染着機構					テキスト、ミニットペーパープリントを見直す									
4. 染料 1. 合成染料					テキスト、ミニットペーパープリントを見直す									
5. 代表的な合成染料と各種繊維の染色方法、染色条件					テキスト、ミニットペーパープリントを見直す									
6. 染料 2. 天然染料、代表的な天然染料と染色方法					プリント、ミニットペーパーを見直す。									
7. 工業染色技術、染色機					テキスト、ミニットペーパー中間テストを見直す。									
8. 捺染					テキストを読む。ミニットペーパーを見直す。									
9. 伝統的な染法・文様					プリントを見直す。									
10. 測色、染色堅牢度 1 試験項目と試験方法					テキストを読む。ミニットペーパー、プリントを見直す。									
11. 染色堅牢度 2 評価 GW					テキストを読む。ミニットペーパー、プリントを見直す。									
12. 事件事例品の原因追及と対策 GW					プリントを見直す。									
13. 整理仕上げ加工、特殊加工 1 外観・風合い改善加工等					テキストを読む。ミニットペーパー、プリントを見直す。									
14. 特殊加工 1、2 機能性付与加工等					テキストを読む。ミニットペーパー、プリントを見直す。									
15. 染色加工と安全性、おわりに：本講義のまとめ					テキストを読む。ミニットペーパー、プリントを見直す。									
16. 試験					全範囲を振り返る。									
履修上の注意														
授業終了時にミニットペーパー、中間テストを単元毎に行うので振り返りを大切にする。選択科目であるが、TA 取得希望者は必ず履修する。必要に応じ、√機能付電卓を持参する。（携帯電話不可）														
成績評価方法・基準														
ミニットペーパー、中間テスト等の受講態度に対し 50%、本試験 50%（持ち込み可）														
教科書 染色加工学 日本衣料管理協会（新刊により価格未定）														
参考書 繊維製品の基礎知識シリーズ 日本衣料管理協会 入学時購入済 授業前にプリントを配布する。														
備考														
質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。 評価やミニットペーパー、中間テスト等は 1 回目の授業で説明する。 ミニットペーパーは後日添削して返却し、中間テストは授業内でフィードバックする。 進行上、またテキストが新刊により、シラバスの授業計画の順番等を変更することがある。														

授業科目名		染色加工学実験			単位 (総授業時間+自習時間)				1(45+15)					
担当者	井上 美紀	必・選	選	形態	実験	学期	前期	対象	服専3年					
授業概要 染色加工学で学んだ知識をさらに理解を深められるように、染色実験、染色堅牢度試験、加工実験を主に教授する。特に工業的な量産の視点で実験を行う。染色実験では、染料の合成、天然染料による染色方法、合成染料による染色方法、測色、染着率の測定方法について教授する。また染色堅牢度試験では、染色堅牢度の測定方法とその評価方法について、加工実験では風合い改善、性能向上等、繊維の特性に応じた加工方法について教授する。関連施設での外部研修も行う。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
染色加工に関する高度な知識・技術を身につける。							○							
実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。									○		○			
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 概要、進め方、グループ構成 染料の合成実験					染色加工学の学習範囲を見直す。									
2. 天然染料による染色 1 染料の抽出と染色・媒染					レポートを作成しプリントに目を通す。									
3. 天然染料による染色 2 特殊な染色① 作業の都合上、					プリントに目を通す。									
4. 天然染料による染色 3 特殊な染色② 3-4は同時進行					レポートを作成しプリントに目を通す。									
5. 合成染料による染色 1 各種繊維の染色性、染色条件					レポートを作成しプリントに目を通す。									
6. 合成染料による染色 2 代表的な染料と染色、染色見本作成					プリントに目を通す。									
7. 合成染料による染色 3 測色 作業の都合上、6-7は同時進行					レポートを作成しプリントに目を通す。									
8. 染着率の測定、染色堅牢度試験 1 試料の準備					プリントに目を通す。									
9. 染色堅牢度試験 2 概要、染色堅牢度の測定と評価					レポートを作成しプリントに目を通す。									
10. 捺染実験 1 染色と捺染の比較、製版とプリント					プリントに目を通す。									
11. 捺染実験 2 プリント、製品への展開					レポートを作成しプリントに目を通す。									
12. 外部研修 (染色工場にて) 都合により実施できない場合は実験に変える					レポートを作成しプリントに目を通す。									
13. 加工実験 1 繊維の溶解性を利用した加工					プリントに目を通す。									
14. " 2 繊維の特性や加工剤を利用した加工					レポートを作成しプリントに目を通す。									
15. 加工実験 3 応用実験、実験のまとめ、レポート整理					レポートの校正した箇所を振り返る。									
履修上の注意 安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。必要に応じ電卓を持参する (√機能付電卓、携帯電話不可)。レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。選択科目ではあるが、TA 資格取得希望者は必ず履修すること。														
成績評価方法・基準 実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し 50% 事前準備をしてグループで協力しながら実験結果を出すことに対し 50%														
教科書 繊維製品の基礎知識シリーズ 日本衣料管理協会 入学時購入済														
参考書 授業前にプリントを配布する。必要に応じて紹介します。														
備考 実験作業状況等の都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) で受け付ける。 評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する。 レポートは後日添削して返却する。レポートが未提出の際には、評価の対象としない。 学外施設での研修は都合により実験に代わることもある。外部研修のための費用 (1,500 円程度)														

授業科目名		染色学実習			単位（総授業時間＋自習時間）				2(90+30)					
担当者	川又 勝子	必・選	選	形態	実習	学期	通年	対象	服専3年					
授業概要														
日本の伝統的染色技法は、世界的にみても類のない繊細で巧みな技術が駆使されているものである。本実習では、各種の伝統的染色技法の中から、絞り染め・ろうけつ染め・友禅染・型染め・描き更紗・藍染めを取り上げ、染色作品制作の基礎を指導する。これまでに習得した繊維や染料についての知識を生かしながら、前期は主に浸染の技法、後期は捺染の技法を行うことで、それぞれの染色技法の特徴を理解させ、伝統工芸への理解を深めさせる。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本の伝統的染色技法の基本的技法を習得する。												○		
伝統工芸への理解を深める。										○				
これまでに習得した繊維や染料に関する知識を応用できる。														○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. ①ガイダンス、②伝統的染色技法、③染色用具・染料・助剤、④図案						板書内容を復習する、絞り染め基礎作品の下絵作成								
2. 工芸染色① 浸染—絞り染めの基礎（縫い絞り）						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
3. " " (直接染料による浸染)						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
4. " " (仕上げ・有松絞り DVD 鑑賞)						ファイルまとめ、絞り染め応用作品の下絵作成								
5. 工芸染色② 絞り染め応用作品制作（縫う）						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
6. " " (絞る)						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
7. " " (反応染料による浸染)						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
8. " " (仕上げ)						ファイルまとめ、ろうけつ染め基礎作品の下絵作成								
9. 工芸染色③ 浸染—ろうけつ染めの基礎（防染）						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
10. " " (建染染料による浸染)						ファイルまとめ、ろうけつ染め応用作品の下絵作成								
11. 工芸染色④ ろうけつ染め応用作品制作（ろう描き）						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
12. " " (反応染料による彩色)						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
13. " " (ろう伏せ)						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
14. " " (建染染料による浸染)						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
15. " " (脱ろう・仕上げ)						ファイルまとめ								
16. 工芸染色⑤ 捺染—友禅染の基礎・京友禅 DVD 鑑賞・下絵						レポート作成、友禅染作品の下絵作成								
17. " " 手描き友禅作品制作（青花・糸目糊）						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
18. " " (彩色)						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
19. " " (糊伏せ)						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
20. " " (地染め)						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
21. " " (蒸し・水元・仕上げ)、型染め DVD 鑑賞						ファイルまとめ、レポート作成型絵染めの下絵作成								
22. 工芸染色⑥ 捺染—型染の基礎・型絵染作品制作（型彫り）						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
22. " " 型絵染作品制作（型彫りつづき）						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
23. " " (紗張り・型置き)						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
24. " " (彩色・糊伏せ)						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
25. " " (引き染)						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
26. " " (蒸し・水元・仕上げ)、更紗の作品鑑賞						ファイルまとめ、描き更紗作品の下絵作成								
27. 工芸染色⑦ 捺染—描き更紗作品制作（彩色）						制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる								
28. " " (蒸し・水元・仕上げ)						制作ノート記入、ファイルまとめ								
29. 工芸染色⑧—藍の浸染						制作ノート記入、ファイルまとめ								
30. 授業のまとめ・各種染色技法と繊維製品の取り扱い・授業のまとめ						ファイルまとめ								
履修上の注意 染色加工学の単位を修得していることが望ましい。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけること。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。制作ノートはその都度きちんとまとめてください。材料費として2,000円程度を徴収します。														
成績評価方法・基準 提出物（制作物・ファイル）による評価を55%、受講状況（制作ノート・参加状況）を45%として評価します。なお、提出物や制作ノートはコメントを付して後日返却します。														
教科書 なし														
参考書 [きものたのしみ] [全日本きもの振興会 編] [世界文化社] [2,160円]														
備考 ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する場合があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名	テキスタイルデザイン I				単位 (総授業時間+自習時間)				1(45+45)					
担当者	川又勝子・横田美和	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	服専3年					
授業概要														
<p>衣服の企画・設計にあたっては、使用目的や用途にあった物性・風合い・色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択できる能力が不可欠である。そこで本実習では、被服繊維学・被服材料学・色彩学・染色加工学等で習得したテキスタイルに関する基礎知識をもとに、パソコン・布帛用インクジェットプリンタを用いたテキスタイルデザイン実習と、卓上手織り機による織布実習を通して、目的・用途に応じた織物および色柄の形成方法について指導する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
用途や目的に合った物性・風合い・色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択するための知識と技術を身に付ける。									○		○			
これまでに習得した基礎知識をテキスタイルに応用できる。							○							○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. テキスタイルデザインの概要 (川又)					配布プリントを熟読する									
2. 繊維素材とテキスタイルデザイン、ドロフトの基本操作 (川又)					制作ノート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
3. 織編と編物、ドロフトによる基本的なリピート柄作成 (川又)					制作ノート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
4. 布地の風合い、フォトタッチによる織柄表現 (川又)					制作ノート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
5. 代表的な織物の名称と組織(専用ソフト使用) (川又)					制作ノート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
6. テキスタイルデザイン専用ソフトによる布帛の企画 (川又)					制作ノート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
7. 布帛用インクジェットプリンタによる布帛の捺染 (川又)					制作ノート完成、終わらなかった作業を終わらせる									
8. テーブルセンター制作: デザイン・織物計画 (横田)					プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる									
9. テーブルセンター制作: 糸密度・糸の太さと織物の関係、糸巻き (横田)					プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる									
10. " : 糸の種類・組織と風合いの関係、整経 (横田)					プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる									
11. " : 箆通し (横田)					プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる									
12. " : 綜統通し・張力調整 (横田)					プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる									
13. " : 織り(平織り) (横田)					プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる									
14. " : 織り(綾織) (横田)					プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる									
15. " : 仕上げ (横田)					プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる									
履修上の注意														
<p>遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけること。実習費として実費(1,000円程度)を徴収します。宿題がある場合や、時間内に進められなかった箇所は必ず次回までに行ってください。</p>														
成績評価方法・基準														
<p>提出物(制作物等)による評価を55%、受講状況(制作ノート・プリント)を45%として評価します。なお、提出物や制作ノートは添削して後日返却します。</p>														
教科書 授業時にプリントを配布する														
参考書 [テキスタイル用語辞典] [成田典子] [テキスタイルツウ] [3,600円]														
備考 ループリックを配布するので、学習目標としてください。受講生の習熟度によりシラバス内容を変更する事があります。なお、質問等については、オフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付けます。														

授業科目名	テキスタイルデザインⅡ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+45)					
担当者	川又 勝子	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	服専4年					
授業概要														
衣服の企画・設計にあたっては、使用目的や用途にあった物性・風合い・色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択できる能力が不可欠である。そこで本実習では、テキスタイルデザインⅠで習得したテキスタイルデザインに関する基礎知識と基本的な技術を発展させるために、主にコンピュータグラフィックスによる手法を取り上げ、使用目的に応じたテキスタイルを企画・製作する方法、デジタルデータを活かした布地のデザイン方法について指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
用途や目的に合った物性・風合い・色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択するための知識と技術を身に付ける。									○		○			
これまでに習得した基礎知識をテキスタイルに応用できる。							○							○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 授業の進め方、テキスタイルの製作方法					配布プリントを熟読する									
2. リPEAT柄の基本					制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる									
3. リPEAT柄の応用①（汎用ソフトによる）					制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる									
4. リPEAT柄の応用②（テキスタイル専用ソフトによる）					制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる									
5. 課題制作① リPEATパターン布帛のデザイン・型紙作成					制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる									
6. 課題制作② 用布の出力（デジタルプリント）					制作ノート作成、材料準備									
7. 課題制作③ 縫製・仕上げ					制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる									
8. 先染め柄の基本					制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる									
9. 先染め柄の応用①（汎用ソフトによる）					制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる									
10. 先染め柄の応用②（テキスタイル専用ソフトによる）					制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる									
11. 課題制作① 先染めパターン布帛のデザイン・型紙作成					制作ノート作成、材料準備									
12. 課題制作② 用布の出力（デジタルプリント）					制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる									
13. 課題制作③ 縫製・仕上げ					制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる									
14. 学外研修 } 山形県のテキスタイル製造関連施設にて					学外研修の事前調査、レポート作成									
15. 学外研修 } (都合により行えない場合はフェルティングか昇華転写捺染実習に変更)					学外研修の事前調査、レポート作成									
履修上の注意 テキスタイルデザインⅠの単位を修得していること。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけること。実習費として実費（2,000円程度）を徴収します。宿題がある場合や、時間内に進められなかった箇所は必ず次回までに行ってください。														
成績評価方法・基準 提出物（作品等）による評価を55%、受講状況（参加状況・制作ノート等）を45%として評価します。なお、提出物や制作ノートはコメントを付して後日返却します。														
教科書 授業時にプリントを配布する。														
参考書 [テキスタイル用語辞典] [成田典子] [テキスタイルツウ] [3,600円]														
備考 ループリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。受講生の習熟度や研修先の都合によりシラバス内容を変更する事があります。なお、質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名	ファッションビジネス論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	内海 陽子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専2年					
授業概要														
<p>アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。</p> <p>ファッションビジネスの特性と歴史、その構成産業の構造を理解し、アパレルメーカーとアパレル小売業の現状と問題点を国内外から分析し、今後の展望を考察する。</p> <p>当講義では、大手アパレルメーカーで、年間30億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。</p>														
授業の到達目標				学位授与の方針との関連										
				1	2	3	4	5	6	7	8	9		
ファッションビジネスの特性、構造について理解でき、また考察することが出来る。						○		○		○				
アパレルメーカー・アパレル小売業の現状について理解でき、考察することが出来る。						○		○		○				
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）										
1.ファッションビジネスの特性（企業戦略）				指定された店舗に行き観察する										
2.ファッションビジネスの特性（消費行動）				指定された店舗に行き観察する										
3.ファッション史 ①（海外ブランド）				海外ブランドについて調べる										
4.ファッション史 ②（日本ブランド）				国内ブランドについて調べる										
5.ファッション史 ③（日本ブランド）				国内ブランドについて調べる										
6.ファッションビジネスの職種 ①（マーケティング）				講義内容を復習する										
7.ファッションビジネスの職種 ②（マーチャндаイジング）				講義内容を復習する										
8.ファッションビジネスの職種 ③（営業・ロジスティック）				講義内容を復習する										
9.ファッション素材産業の概要				講義内容を復習する										
10.アパレル産業の概要 ①（海外ブランド）				指定された店舗に行き観察する										
11.アパレル産業の概要 ②（国内大手ブランド）				指定された店舗に行き観察する										
12.アパレル産業の概要 ③（SPA）				指定された店舗に行き観察する										
13.アパレル産業流通の仕組み ①（SPA）				講義内容を復習する										
14.アパレル産業流通の仕組み ②（インターネット通販）				講義内容を復習する										
15.日本のファッションビジネス環境の課題と展望				講義内容を復習する										
履修上の注意														
ファッションビジネスは日々変化しています。実社会において即実践できる内容で講義を構成しているので講義で学んだことを常に意識しつつ感性を磨き続けること。														
成績評価方法・基準														
課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価														
教科書〔ファッションビジネス論〕〔日本衣料管理協会〕〔1,300円〕														
参考書 なし														
備考														
質問等については、授業終了後受け付ける。														

授業科目名	アパレル品質管理論				単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+30)					
担当者	井上 美紀	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	服専3年					
授業概要														
<p>繊維製品に関する品質管理について主に教授する。品質管理の基本、品質管理に使う様々な道具と使い方、繊維製品に関連する法令についても解説する。また、繊維製品についての品質管理は、企画設計から流通に至る各工程で行われるため、工程管理の手法や、製品検査についても解説する。さらに授業では、事例研究も取り入れ、繊維製品に関連する問題の原因究明の仕方、解決のための手順、問題や苦情発生の未然防止策などについても教授する。この授業は一部グループワーク（以下GW）を交えて進める。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
品質管理に関する高度な専門知識を身につける。							○							
論理的思考力やコミュニケーション能力、倫理観、責任感等を身につける。									○		○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. はじめに：品質とは、良い商品づくりと品質管理 GW					テキスト第3部6章全範囲を読む。									
2. 繊維製品に関連する法令、品質管理の実際1 管理の基本					プリント、小テストを振り返る。									
3. 品質管理の実際2 QCの7つ道具 GW					プリントと課題を振り返る。									
4. 品質管理の実際3 新QCの7つ道具 GW					プリントと課題、小テストを振り返る。									
5. 品質管理の実際4 繊維製品に関連する手法・検査					課題を振り返り練習する。									
6. 繊維製品に関連する事例研究1 原因究明 GW					文献情報を収集し、プリントに目を通す。									
7. 繊維製品に関連する事例研究2 再発防止策、品質保証					プリント、課題、小テストを振り返る。									
8. 製品設計と品質管理 おわりに：本講義のまとめ					テキスト第3部6章と全範囲を振り返る。									
履修上の注意					テキストに目を通して授業に臨むこと。小テストを単元毎に行う。√機能付電卓（携帯電話不可）、実験ノート、定規、色ペン、メジャー、衣服（上下）を持参する。掲示にて詳細は指示する。									
成績評価方法・基準					課題取組み状況等の受講態度に対し50%、小テスト・課題の内容に対し50%									
教科書					繊維製品の基礎知識シリーズ 日本衣料管理協会 入学時購入済									
参考書					必要に応じて紹介、授業前にプリントを配布する									
備考					<p>質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。 評価、小テスト、課題は1回目の授業で説明する。 都合により授業計画の順番を変更することがある。 小テストと課題内容は授業内でフィードバックする。 課題が未提出、小テストを受験しない際には、評価の対象としない。</p>									

授業科目名	アパレル消費科学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	井上 美紀	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専3年				
授業概要													
アパレル消費科学では、衣生活の課題やその対応、今後の衣生活のあり方について主に教授する。特に、衣生活を通して循環型社会の構築や持続可能な社会の構築を目指し、現在私たちが直面している衣生活の課題を把握でき、これからの衣生活での消費行動を考察できるようにする。衣生活の課題では、SDGs、地球環境と被服整理、環境配慮型の繊維製品、製品エコロジーと消費、ユニバーサルデザイン、災害時の消費行動・防災等の課題について解説する。さらに各自が衣生活の課題を設定し解決や対策方法を立案するまでの手段についても教授する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
アパレル消費科学に関する知識を身につける。									○				
コミュニケーション能力、論理的思考力を身につける。								○					
倫理観、責任感を身につける。											○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. はじめに、消費と消費科学・意義、消費者行動の変化					プリントを見直す。								
2. 循環型社会・持続可能な衣生活、課題の提示					SDGsを調べる。課題に取り組む。								
3. SDGs					被服整理の課題を調べる。課題に取り組む。								
4. 衣生活の課題と消費のあり方①地球環境と被服整理					環境配慮型製品を調べる。課題に取り組む。								
5. 衣生活の課題と消費のあり方②地球環境配慮型の繊維製品					3Rを調べる。課題に取り組む。								
6. 衣生活の課題と消費のあり方③製品エコロジーと消費					ユニバーサルデザイン製品を調べる。								
7. 衣生活の課題と消費のあり方④ユニバーサルデザイン					プリントを見直す。								
8. 衣生活の課題と消費のあり方⑤災害時の消費行動・防災					プリントを見直す。								
9. 今後の衣生活と繊維産業、課題設定と情報収集（図書館で実施）					プリントを見直す。課題に取り組む。								
10. 課題解決までのプロセス、情報収集（図書館で実施）					計画をたてる。課題に取り組む。								
11. 衣生活における課題の解決（検討・分析）					課題に取り組む。								
12. 衣生活における課題の解決（プレゼン資料作成）					課題に取り組み完成させる。								
13. プレゼンテーションとディスカッション①（Aグループ）					課題を振り返る。								
14. プレゼンテーションとディスカッション②（Bグループ）					課題を振り返る。								
15. おわりに、授業の振り返りとまとめ					プリントを見直す。								
履修上の注意													
遅刻・欠席をせず、課題は計画通りに進めて次時の授業に臨むこと。日頃より衣生活の課題について情報収集するように心がけること。服飾生活特別演習の履修学生は履修することが望ましい。													
成績評価方法・基準													
課題の進行状況等の受講態度に対し50%、課題の内容と提出物50%													
教科書 繊維製品の基礎知識シリーズ 日本衣料管理協会 入学時購入済													
参考書 授業前にプリントを配布する。													
備考													
質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。評価や提出物等は1回目の授業で説明する。提出物は後日添削して返却しフィードバックする。都合により、授業計画の順番等を変更することがある。提出物が未提出の場合は評価の対象としない。													

授業科目名	ファッション販売論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	内海 陽子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専2年					
授業概要														
<p>アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。</p> <p>前期で学んだ「ファッションビジネス論」を基本に応用範囲を広げ、商品の仕入れから販売までの流れを学び、ファッション小売業の現状と課題を読み取り、今後の展望を考察する。</p> <p>当講義では、大手アパレルメーカーで、年間30億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
商品の仕入れから販売までの基礎知識を身につける。							○		○		○			
ファッション小売業の現状と課題を読み取り、今後の展望を考察する。							○		○		○			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ファッション小売業の役割と歴史					講義内容を復習する									
2.ファッション小売業の構造①（百貨店と量販店）					指定された店舗に行き観察する									
3.ファッション小売業の構造②（ショッピングセンター）					指定された店舗に行き観察する									
4.ファッション小売業の構造③（SPA,セレクトショップ）					指定された店舗に行き観察する									
5.ファッション小売業の構造④（無店舗販売）					講義内容を復習する									
6.ファッション小売業の職種					講義内容を復習する									
7.ファッション小売業の経営戦略①（事業計画と出店戦略）					講義内容を復習する									
8.ファッション小売業の経営戦略②（マーケティング）					講義内容を復習する									
9.ファッション小売業の販売①（販売の基礎）					指定された店舗に行き観察する									
10.ファッション小売業の販売②（販売の技術）					指定された店舗に行き観察する									
11.ファッション小売業の売り場演出①（VMDの基礎）					指定された店舗に行き観察する									
12.ファッション小売業の売り場演出②（VMDの基礎）					指定された店舗に行き観察する									
13.ファッション小売業の売り場演出③（VMDの応用）					指定された店舗に行き観察する									
14.ファッション小売業の仕入れと計数					講義内容を復習する									
15.ファッション小売業の商品開発とプロモーション戦略					講義内容を復習する									
履修上の注意														
ファッションビジネスは日々変化しています。実社会において即実践できる内容で講義を構成しているので講義で学んだことを常に意識しつつ感性を磨き続けること。														
成績評価方法・基準														
課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価														
教科書 〔新版ファッション販売論〕〔日本衣料管理協会〕〔1,300円〕														
参考書 なし														
備考														
質問等については、授業終了後受け付ける。														

授業科目名	コーディネート論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	内海 陽子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専3年					
授業概要														
<p>アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。</p> <p>ファッションコーディネートとはあらゆるモノの組み合わせに伴う調整・調和などの技術提案でありファッションコーディネートに必要な基本的な知識と技術を学び、コーディネートプランを作成する。</p> <p>当講義では、大手アパレルメーカーで、年間30億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
ファッションコーディネートの基礎知識を学ぶ							○							
ファッションコーディネートの基礎的な技術を学び、実際にコーディネートプランを作成する											○		○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ファッションコーディネートとは					講義内容を復習する									
2.ファッションコーディネート スペシャリストの特性					講義内容を復習する									
3.ファッションと流行					トレンドについてリサーチする									
4.ファッショントレンドサイクル					トレンドについてリサーチする									
5.ファッション情報① ファッション情報の種類					講義内容を復習する									
6.ファッション情報② 時系列フロー					講義内容を復習する									
7.ファッション情報③ 発信機関 イベント					講義内容を復習する									
8.ファッション情報④ 20世紀のファッション史					講義内容を復習する									
9.コーディネートの基本的な知識と技術					講義内容を復習する									
10.イメージに視点を置いたコーディネート					講義内容を復習する									
11.素材に視点を置いたコーディネート					講義内容を復習する									
12.ライフスタイルに視点を置いたコーディネート					講義内容を復習する									
13.色彩に視点を置いたコーディネート					講義内容を復習する									
14.アクセサリ・体型カバーに視点を置いたコーディネート					講義内容を復習する									
15.ファッションコーディネートのまとめ					講義内容を復習する									
履修上の注意														
<p>ファッションビジネスは日々変化しています。実社会において即実践できる内容で講義を構成しているので講義で学んだことを常に意識しつつ感性を磨き続けること。</p>														
成績評価方法・基準														
課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価														
教科書〔コーディネートテクニク 演出篇〕〔文化服装学院編〕〔学校法人文化学園文化出版局〕〔2,754円〕														
参考書 なし														
備考														
質問等については、授業終了後受け付ける。														

授業科目名	ファッションビジネス実務実習			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+15)					
担当者	水谷 浩	必・選	選	形態	実習	学期	通年	対象	服専1年				
授業概要（目的）													
<p>ファッションビジネスは、私たちの暮らしや社会と深く関わりながら存在する。今後、これらの分野で社会人として働くためには、現場（仕事）で必要な能力を理解していくことが求められる。</p> <p>本授業では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』などとしての経歴を活かし、①事前指導・②5日間程度の学外研修（講義＋職場見学、就業体験）・③事後指導を通じて、職場や地域社会で多様な人々と働くために必要な基礎的な力（社会人基礎力）のなかでも、1)前に踏み出す力、2)考え抜く力、3)チームで働く力の修得をめざしている。</p>													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・前に踏み出す力を理解、実践できる						○		○					
・考え抜く力の必要性を認識、実践できる						○		○					○
・チームで働くことの重要性を認識、実践できる						○		○					
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）									
1. オリエンテーション（実習の概要・評価など）				事前に、業界や研修先企業の情報を収集しておく。 研修後、講義や職場見学の内容についてA4用紙2枚（1,600字）のレポートにまとめ、提出。									
2. 企業研修Ⅰ：令和2年8月上旬予定 講義「ファッションビジネスの実際」を学ぶ													
3. 企業研修Ⅱ：令和2年8月上旬予定 職場見学「現場のナマの声」を学ぶ				自己分析や企業研究を踏まえ、履歴書に必要な事項を記入し、提出。									
4. 履歴書作成Ⅰ 作成上の留意点を学ぶ				講義ノートを読み直し、学習内容の振り返り（復習）を行うこと。									
5. 履歴書作成Ⅱ 自己分析、企業研究（情報収集分析・店舗調査）を学ぶ													
6. 事前指導 実習ノートの書き方・心構え・マナーを学ぶ				<p>《企業での就業体験》</p> <p>①期間 令和3年2～3月予定 ※受入先企業の指定日時</p> <p>②内容 接客販売、品質管理など</p> <p>③注意事項 受入先企業の面談結果によっては、受入可否の条件</p> <p>就業体験を通じて「学んだこと・気づいたこと」について実習ノートに毎日記入して、事業所(担当者の方)に提出。</p>									
7. 就業体験Ⅰ 3つの実践力を学ぶ													
8. 就業体験Ⅱ 〃													
9. 就業体験Ⅲ 〃													
10. 就業体験Ⅳ 〃													
11. 就業体験Ⅴ 〃													
12. 就業体験Ⅵ 〃													
13. 就業体験Ⅶ 〃													
14. 就業体験の振り返り・礼状作成 実践の振り返りと課題の整理				受入先企業への礼状および報告会の発表資料を作成し、提出。									
15. まとめ（報告会）				発表を通じて、全体の振り返りを行う。									
履修上の注意													
原則的に全出席（ただし、課題の未提出、実習中の態度不良や遅刻・欠席した場合、単位を取得できない） 事業所までの移動手段は、公共交通機関を利用し、交通費をはじめ諸経費は自己負担となります。													
成績評価方法・基準													
企業研修・課題(30%)+就業体験・実習ノート(50%)+報告会(20%)にもとづき評価する。													
教科書 なし													
参考書 なし													
備考													
開講日時は、掲示にて指示します。課題や実習ノートは、授業中あるいは後日添削し、返却します。 質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。													

授業科目名	マーケティング論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	水谷 浩	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専3年			
授業概要（目的） マーケティング論では、社会・経済の変化、消費者の購買行動やファッション・トレンドなどを調査・分析し、それらの結果をビジネスに活かすための考え方や手法などについて学びます。 本講義では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし「顧客との関係に、価値を創造し、〈コミュニケーションにより〉価値を伝え、価値を届ける」という観点から、アパレル・ビジネス分野のマーケティング活動に求められる基礎的な知識の教授を通じて、ビジネス（時代）感覚の修得をめざしている。												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
・マーケティングの仕組みを理解し、説明できる						○		○		○		
・新たな時代の価値創造の担い手としての役割を理解できる						○		○		○		
・今後のアパレル・ビジネスのあるべき姿を説明できる						○		○		○		
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）								
1. オリエンテーション（授業のすすめ方・評価など）				授業計画やテキストなどを参考にして、予習すること。 講義ノートを読み直し、学習内容の振り返り（復習）を行うこと。								
2. アパレル・ビジネスの仕組み アパレル・ビジネスの特徴（業種・業態）を学ぶ												
3. アパレルとマーケティング マーケティングの歴史の変遷を学ぶ												
4. マーケティング戦略 なぜ、市場創造から顧客価値の重視に転換した理由は？												
5. 市場変化とその予測 日本のアパレル・ビジネスの盛衰に学ぶ				自分の好きなファッション・ブランドの出店戦略についてA4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめ提出。								
6. 小売店出店戦略 他店舗戦略と限定出店戦略の違いを学ぶ				インターネットを利用し、今年の秋・冬のファッション・トレンドについて調べ、A4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめ提出。								
7. 価値の創造 対象顧客の重要性について学ぶ												
8. 商品企画 商品企画の必要性を学ぶ				自分の好きなファッション・ブランドの実店舗の品揃え・プライスゾーンを調べ、その取り組みに対する所感についてA4用紙2枚（1,600字）のレポートを作成し、提出。								
9. 店舗の品揃え 商品構成とコーディネート性の汎用性を学ぶ												
10. 顧客満足と品揃え プライスゾーンとプライスラインを学ぶ												
11. 情報収集・分析と品揃え 情報収集・分析に基づく品揃えの重要性について学ぶ				「新たな時代の価値創造の担い手」という視点から、これまでの授業のなかで、最も印象に残ったことについて要約し、自らの考察を加えた上で、A4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめて提出。								
12. 価値のコミュニケーション 企業のコミュニケーションについて学ぶ												
13. 価値のデリバリー イメージ価値の創造と伝達とは？												
14. ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）戦略 売り場づくりの工夫について学ぶ												
15. まとめ（顧客満足とクレーム対応）												
履修上の注意 2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできない。												
成績評価方法・基準 平常点・授業への参加態度(35%)＋課題の提出状況(30%)＋レポート試験の成績(35%)に基づき評価する。 なお、課題については、授業中にフィードバックをします。												
教科書 [マーケティング論] [(社)日本衣料管理協会] [(社)日本衣料管理協会] [1,300円]												
参考書 授業中に適宜指示する。												
備考 質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。												

授業科目名	起業・会社経営論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)			
担当者	水谷 浩	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専3年			
授業概要（目的） 起業・会社経営論では、環境問題や地域再生をはじめ、社会的課題を解決するための手段のひとつとして、ソーシャルビジネスの考え方や手法などについて学びます。 本講義では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし「より良い社会づくりのためのマネジメント」という観点から、様々な事例研究を通じて、起業や会社経営に求められる基礎的な知識の教授を通じて、ビジネス（時代）感覚の修得をめざしている。												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
・会社経営の仕組みを理解し、説明できる						○		○		○		
・新たな時代の価値創造の担い手としての起業を理解できる						○		○		○		
・今後の起業や会社経営のあるべき姿を説明できる						○		○		○		
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）								
1.オリエンテーション（授業のすすめ方・評価など）				授業計画やテキストなどを参考にして、予習すること。 講義ノートを読み直し、学習内容の振り返り（復習）を行うこと。 自分自身にとって、身近な社会的課題を1つ選び、それを解決するためのNPO活動やソーシャルビジネスを構想し、A4用紙2枚（1,600字）のレポートにまとめて提出。 「これからの時代の地域創造の担い手」という視点から、この授業で、最も印象に残ったことについて要約し、自らの考察を加えた上で、A4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめて提出。								
2.ソーシャルビジネスとは ソーシャルビジネスの活動領域や歴史・社会的背景を学ぶ												
3.ソーシャルビジネスの担い手Ⅰ NPOの概要や意義について学ぶ												
4.ソーシャルビジネスの担い手Ⅱ NPOの歴史や特徴について学ぶ												
5.ソーシャルビジネスの担い手Ⅲ 社会的企業や社会起業家について学ぶ												
6.ソーシャルビジネスのマネジメントⅠ 仕事の達成感（やりがい）重視の人的資源について学ぶ												
7.ソーシャルビジネスのマネジメントⅡ 財源（資金のやりくり）について学ぶ												
8.ソーシャルビジネスのマネジメントⅢ 資金調達（クラウドファンディング）について学ぶ												
9.ソーシャルビジネスのマネジメントⅣ NPO・企業・行政・大学との協働について学ぶ												
10.ソーシャルビジネスのマネジメントⅤ プライスゾーンとプライスラインを学ぶ												
11.ソーシャルビジネスを支える社会の仕組み 特定非営利活動促進法(NPO法)や諸制度について学ぶ												
12.ソーシャルビジネスを創るⅠ 環境分野での先進事例について学ぶ												
13.ソーシャルビジネスを創るⅡ 医療・福祉分野での先進事例について学ぶ												
14.ソーシャルビジネスを創るⅢ 地域再生分野での先進事例について学ぶ												
15.まとめ（ソーシャルビジネスのあるべき姿）												
履修上の注意 2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできない。												
成績評価方法・基準 平常点・授業への参加態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価する。 なお、課題については、授業中にフィードバックをします。												
教科書 [社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門] [駒崎弘樹著] [PHP出版] [902円]												
参考書 授業中に適宜指示する。												
備考 質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。												

授業科目名	被服心理学				単位 (総授業時間+自習時間)				2 (30+60)				
担当者	内藤 章江	必・選	選	形態	集中講義	学期	前・後	対象	服専2年				
授業概要													
<p>私たちが日ごろから行っている着せ行動は、様々な心理的あるいは社会的要因の影響を受けている。本授業では、ファッションが着用者本人だけでなく、対人、集団、社会・文化とどのような関わりを持ち、どのような心理的効果・影響を及ぼすか、具体的な研究事例や身近にある現象を取り上げて多角的な視点から教授する。さらには、ファッションが及ぼす効果や影響をどのように測定するのか、また、どのように応用・活用可能かについても教授する。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
ファッションが及ぼす効果や影響を理解する。						○	○		○	○			
ファッションが及ぼす効果や影響を測定する方法を理解する。						○	○		○	○			
ファッションが及ぼす効果や影響を応用・活用する方法を提案する。												○	○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1.被服心理学とは (ガイダンス)					教科書を購入・準備する。								
2.欲求・選択動機とファッション					教科書-1章:欲求・選択動機と装い (p1-9) をよく読みこんでおく。								
3.ファッションと感覚・感情					教科書-2章:感覚・感情と装い (p10-20) をよく読みこんでおくこと。								
4.自己概念とファッション					教科書-3章:自己概念と装い (p21-29) をよく読みこんでおくこと。								
5.印象形成・対人認知とファッション					教科書-4章:印象形成・対人認知と装い (p30-38) をよく読みこんでおくこと。								
6.場とファッション					教科書-5章:場と装い (p39-47) をよく読みこんでおくこと。								
7.前半まとめ					これまで(前半)に学んだ内容を振り返り、指定されたテーマでレポートを作成し、指定された期限までに提出すること。								
8.集団とファッション					教科書-6章:集団と装い (p48-57) をよく読みこんでおくこと。								
9.社会的役割・社会規範とファッション					教科書-7章:社会的役割と装い (p58-65) をよく読みこんでおくこと。								
10.流行とファッション					教科書-9章:流行と装い (p74-83) をよく読みこんでおくこと。								
11.化粧の心理					教科書-10章:化粧の心理 (p84-91) をよく読みこんでおくこと。								
12.購買行動とファッション					教科書-11章:装いと購買行動・心理 (p92-100) をよく読みこんでおくこと。								
13.ファッションがもたらす心理的効果の測定方法					教科書-付録 (p110-120) をよく読みこんでおくこと。								
14.ファッションがもたらす心理的効果の応用・活用					教科書-12章:心のケアと装い (p101-109) をよく読みこんでおくこと。								
15.後半まとめ					これまで(後半)に学んだ内容を振り返り、指定されたテーマでレポートを作成し、指定された期限までに提出すること。								
履修上の注意													
<p>本授業は集中講義で開講する。前半(1~7回目)は8月、後半(8~15回目)は12月に開講するため、日程に注意して受講すること。講義中心の授業であるが、理解を深めるためにグループワークやペアワークを実施する。授業には積極的に参加し、発言すること。また、初回授業時に必ず指定された教科書を持参すること。</p>													
成績評価方法・基準													
<p>平常点(授業態度、授業参加度)30%、レポート(前半、後半の2回)70%を基準として総合的に評価する。レポートはコメントをつけて返却する。</p>													
<p>教科書 [装いの心理と行動 被服心理学へのいざない] [小林茂雄、藤田雅夫、内田直子、孫 珠熙、内藤章江] [(株)アイ・ケイコーポレーション] [1500円+税]</p>													
参考書 授業中に適宜指示する。													
備考 質問等に関しては授業内で回答する。													

授業科目名	情報処理 I			単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)						
担当者	水谷 浩	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	服専3年					
授業概要 (目的) 近年、情報通信技術 (ICT : Information and Communication Technology) の進展にともなって、ファッション・ビジネスに求められる知識や技能は大きく変わりつつある。とりわけ、SNS(Social Networking Service)で発信力のある個人(influencer)のファッション情報は、消費者の購買行動や企業のコミュニケーション戦略で最も注目されている。 本授業では、民間シンクタンクの研究者や情報システム担当者としての実務経験を活かし、ビジネス文書作成や統計処理、PC を用いたプレゼンテーション技法などを教授することにより、最先端のファッション・ビジネスに欠かせない情報リテラシーの修得をめざしている。														
授業の到達目標				学位授与の方針との関連										
				1	2	3	4	5	6	7	8	9		
・ソフトウェアを利・活用し、文章表現や統計計算ができる							○	○	○					
・情報倫理に配慮し、情報の収集・加工・表現・発信ができる							○	○	○					
・ICT の仕組みと原理を理解し、説明できる							○	○	○					
授業計画の内容				自習 (事前・事後学修の内容)										
1. オリエンテーション (授業のすすめ方・評価, 情報倫理)				学生便覧の「ソーシャルメディア利用のガイドライン」および「OA 実習室・OA 教室利用案内」を必ず熟読しておくこと。 授業計画やテキストを参考にして、Word の諸機能を確認 (予習) すること。テキストや講義ノートを読み直し、Word の諸機能について振り返り (復習) を行うこと。										
2. 日本語文書処理 I Microsoft Word の基本 (入力・書式変更) を学ぶ														
3. 日本語文書処理 II Microsoft Word の応用① (見やすい文書作成) を学ぶ														
4. 日本語文書処理 III Microsoft Word の応用② (画像・グラフ挿入) を学ぶ														
5. 日本語文書処理 IV Microsoft Word の応用③ (描画機能) を学ぶ														
6. 日本語文書処理 V これまでの授業の振り返り (課題作成)														
7. 表計算 I Microsoft Excel の基本 (表・グラフの作成) を学ぶ				授業計画やテキストを参考にして、Excel の諸機能を確認 (予習) すること。テキストや講義ノートを読み直し、Excel の諸機能について振り返り (復習) を行うこと。										
8. 表計算 II Microsoft Excel の応用① (表・グラフの加工) を学ぶ														
9. 表計算 III Microsoft Excel の応用② (データベース機能) を学ぶ														
10. 表計算 IV Microsoft Excel の応用③ (関数の使い方) を学ぶ														
11. 表計算 V これまでの授業の振り返り (課題作成)														
12. プレゼンテーション I Microsoft PowerPoint の基本 (スライド作成) を学ぶ				授業計画やテキストを参考にして、Power Point の諸機能を確認 (予習) すること。テキストや講義ノートを読み直し、Power Point の諸機能について振り返り (復習) を行うこと。										
13. プレゼンテーション II Microsoft PowerPoint の応用 (オブジェクト作成) を学ぶ														
14. プレゼンテーション III これまでの授業の振り返り (課題作成) を行う														
15. まとめ (課題発表)				5 分以内に発表できるように練習する										
履修上の注意 2/3 以上の出席がない場合には、単位を取得することはできない。														
成績評価方法・基準 平常点・授業への参加態度(35%)+課題の提出状況(30%)+課題発表(35%)にもとづき評価する。 なお、課題については、授業中にフィードバックをします。また、実習費 (1,000 円) を徴収します。														
教科書 [Windows10・Office2016 による情報処理入門] [高橋敏夫監修] [実教出版] [2,200 円]														
参考書 授業中に適宜指示する。														
備考 質問などは、オフィスアワー (日時は掲示で確認のこと) に受けつけます。														

授業科目名	情報処理Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(15+30)					
担当者	水谷 浩	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	服専3年					
授業概要（目的）														
本授業では、民間シンクタンクでの研究員や情報システム担当者としての実務経験を活かし「ビジュアル・マーチャンダイジング（Visual Merchandising）戦略に不可欠な企画・演出などのための資料作成」という視点から、グラフィックソフト（Illustrator, Photoshop）の設定や操作方法を教授することにより、ファッションの出版・広告、売場づくりや商品ディスプレイの効果的なレイアウトや配色など、視覚伝達の基本の修得をめざしている。														
授業の到達目標				学位授与の方針との関連										
				1	2	3	4	5	6	7	8	9		
・ソフトウェアを利活用し、グラフィック画像を制作できる							○	○	○					
・情報倫理に配慮し、情報の収集・加工・表現・発信ができる							○	○	○					
・視覚伝達の基本を理解し、説明できる							○	○	○					
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）										
1. オリエンテーション（授業のすすめ方・評価、視覚伝達の基本） 分かりやすく伝えるとは？				学生便覧「 <u>OA 実習室・OA 教室利用案内</u> 」を必ず熟読しておくこと。										
2. ベクトル系ソフトⅠ Illustrator の基本①（図形や線を描く方法）を学ぶ														
3. ベクトル系ソフトⅡ Illustrator の基本②（オブジェクト選択と変形）を学ぶ				授業計画やテキストを参考にして、Illustrator の諸機能について確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し、Illustrator の諸機能の振り返り（復習）を行うこと。										
4. ベクトル系ソフトⅢ Illustrator の基本③（色と透明度の設定）を学ぶ														
5. ベクトル系ソフトⅣ Illustrator の基本④（オブジェクトの編集と合成）を学ぶ														
6. ベクトル系ソフトⅤ Illustrator の基本⑤（線と文字の設定）を学ぶ														
7. ベクトル系ソフトⅥ Illustrator の振り返り（覚えておきたい機能と課題作成）														
8. ラスター系ソフトⅠ Photoshop の基本①（レイヤー操作と色調補正）を学ぶ				授業計画やテキストを参考にして、Photoshop の諸機能について確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し、Photoshop の諸機能の振り返り（復習）を行うこと。										
9. ラスター系ソフトⅡ Photoshop の基本②（選択範囲の作成と色の設定）を学ぶ														
10. ラスター系ソフトⅢ Photoshop の基本③（レイヤーマスクを使う）を学ぶ														
11. ラスター系ソフトⅣ Photoshop の基本④（文字・パス・シェイプ）を学ぶ														
12. ラスター系ソフトⅤ Photoshop の基本⑤（画像の修正・加工）を学ぶ														
13. ラスター系ソフトⅥ Photoshop の基本⑥（フィルターとレイヤースタイル）を学ぶ														
14. ラスター系ソフトⅦ Photoshop の振り返り（覚えておきたい機能と課題作成）				提出期限内に課題を完成させること。										
15. まとめ（授業全体の振り返り）				授業で分からなかったことを再確認する										
履修上の注意														
2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできない。														
成績評価方法・基準														
平常点・授業への参加態度(35%)+課題の提出状況(30%)+課題作品(35%)にもとづき評価する。 なお、課題については、授業中にフィードバックをします。また、実習費（1,000円）を徴収します。														
教科書 〔これからはじめる Illustrator&Photoshop の本〕〔黒野明子〕〔技術評論社〕〔2,280円〕														
参考書 授業中に適宜指示する。														
備考														
質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。														

授業科目名	食品学総論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）					
担当者	八巻 美智子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服専2年					
授業概要														
食品はヒトの生活にとって必須のものであり、食品について正しい情報を持つことは食品を利用するうえで重要である。そこで、化学、生化学、基礎栄養学などの知識を基礎として、食品を構成する各成分の化学的特性と食品における役割、栄養と健康とのかかわりについて講義する。また、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのか解説する。食品学を学ぶことで関連する他分野への興味関心も高められることの重要性を理解させる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
食品を構成する各種成分について理解する					○	○								
食品の各成分の栄養特性と物理特性についての知識を習得する					○	○								
美味しく栄養バランスのとれた食事について科学的に考える力を身に付ける。					○	○				○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.食品の定義および分類、食品の成分と機能、食品と環境					事前：教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。（以下の回も同様）									
2.水分 水の構造と性質、食品中での役割、食品成分表について					事後：教科書、ノートを見直して講義内容を理解し、									
3.炭水化物 糖の構造と種類					理解が不十分な点については教員に質問するなど									
4.炭水化物 糖の性質、糖の反応と炭水化物としての糖					して問題点を解決する。（以下の回も同様）									
5.脂質 脂肪酸の構造と性質					小テストに向けて学修する									
6.脂質 油脂の酸化、油脂の栄養					教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。									
7.タンパク質 タンパク質の構造と構成アミノ酸					教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。									
8.タンパク質 タンパク質の性質と栄養価					小テストに向けて学修する									
9.脂溶性ビタミン					教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。									
10.水溶性ビタミン					教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。									
11.ミネラル					教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。									
12.食品の呈味成分、色素、香気成分					小テストに向けて学修する									
13.食品の官能評価					教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。									
14.食品の機能性成分、食品の物性と美味しさ					試験に向けて学修する									
15.これまでのまとめ					試験に向けて学修する									
16.試験					試験に向けて学修する									
履修上の注意														
遅刻、欠席は厳禁（遅刻3回で欠席1回とする）。講義に集中し、ノートを作製する。予習で生じた疑問点について解決できるようにする。														
成績評価方法・基準														
授業態度、小テストの成績等（20%）、試験（80%）等の割合で評価する。 小テスト、試験については解答例を配布することでフィードバックとする。														
教科書〔食品学総論〕〔著者名：森田潤司、成田宏使 編〕〔出版社名：化学同人〕〔価格：2800円＋税〕														
参考書〔講義時に指示する〕														
備考														
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。 講義の順番や内容は前後または変更する可能性があります。														

授業科目名	食品学各論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	佐藤 靖子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専3年					
授業概要														
食品材料である植物性食品、動物性食品その他食品について、図鑑および写真等の資料を実物投影機を用いることにより、食品の外観および内部構造の特徴を理解しやすいようにする。さらに、食品材料の生産上および生物学上の特徴による分類、食材に含まれる成分および旬を含む食材の成長による成分変化等についての基礎知識を学修することにより、食品に対する選択能力を高めるとともに、食生活と健康との関連を習得できるようにする。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1 食品材料の特徴を知る					○		○							
2 食品材料の分類ができる						○	○							
3 食品の選択能力を身につける					○		○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス 食品の分類・スローフード					授業後成分表により分類を確認する									
2.植物性食品の特徴					教科書をよく読み授業に臨む									
3.穀類：コメ、コムギの特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する									
4.穀類：トウモロコシ、ソバの特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する									
5.イモ類の種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する									
6.マメ類：乾燥豆および野菜としての種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する									
7.野菜類：葉菜類の種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する									
8.野菜類：茎菜類の種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する									
9.野菜類：根菜類の種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する									
10.野菜類：果菜類・花菜類の種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する									
11.果実類：種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する									
12.動物性食品の特徴					教科書をよく読み授業に臨む									
13.魚介類の種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する									
14.畜肉類の種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する									
15.その他の食品について					教科書をよく読み分類・特徴を把握する									
16.試験														
履修上の注意 ：出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で1回の欠席とする ミニットペーパーを課した場合は、提出確認後返却して加点対象とする。														
成績評価方法・基準														
期末試験 70%、受講態度・提出物 30%														
試験問題は、教科書およびノートからの出題です。解答は教科書・ノートで各自確認すること														
教科書 書名：品学各論 著者名：瀬口正晴・八田 一 出版社：化学同人 価格 2,400 円														
参考書 書名：原色食品図鑑 著者名：井上四郎・菅原龍吉 出版社名：建帛社 価格：2,900 円														
備考 配布プリントは、講義ノートに張り付けるか転載しておくこと 都合（出張等）により授業計画が変更されることがある 質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける														

授業科目名	基礎栄養学		単位（総授業時間＋自習時間）						2(30+60)					
担当者	鈴木 裕行	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専2年					
授業概要														
ヒトをはじめ生物が外界の物質を体内に取り入れ、それをエネルギー源や体構成の材料として利用する「栄養」という現象は生命維持に不可欠である。ヒトの食欲を調節するしくみ、摂取した食物の消化と栄養素の吸収に携わる消化器官系の各臓器の構造と機能、消化（食品成分の分解反応）・吸収の機構、また、栄養素の種類と各栄養素の化学構造・性質、体内での代謝・機能と欠乏症・過剰症、および栄養素同士の関わりについて説明する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
健康の保持・増進における栄養の役割を説明できる					○	○	○							
消化・吸収における各消化器官の役割を説明できる					○	○	○							
各栄養素の代謝とその生理的意義を説明できる					○	○	○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 栄養とは、遺伝形質と栄養					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㉠									
2. 食欲の調節、食事のタイミング														
3. 消化器の構造														
4. 消化器の機能														
5. 消化吸収率、たんぱく質の消化吸収、														
6. たんぱく質・アミノ酸の体内代謝														
7. たんぱく質の量と質の評価										㉠に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。				
8. [中間試験]、糖質の消化吸収、糖質代謝の概要					㉠に加え、試験でできなかったところをよく復習する									
9. 試験の解説、食後・食間の糖質代謝														
10. 血糖の調節、エネルギー源としての作用					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㉠									
11. 脂質の消化吸収、脂質代謝の概要														
12. 脂質のエネルギー代謝、コレステロール代謝														
13. 脂質の量と質の評価														
14. ビタミンの分類・構造と機能					㉠に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する									
15. [期末試験]、ミネラルの種類と体内分布					㉠に加え、試験でできなかったところをよく復習する									
16. 試験の解説、ミネラルの機能														
履修上の注意														
他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。														
成績評価方法・基準														
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%														
教科書 基礎栄養学、駒井三千夫 他、アイ・ケイコーポレーション、2,400円＋税														
参考書 栄養の生化学 1-2-3 改訂第3版、遠藤克己、南江堂、2,000円＋税														
備考														
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。														

授業科目名	調理科学論				単位（総授業時間＋自習時間）				2 (30+60)					
担当者	佐藤 靖子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専4年					
授業概要														
食品材料は、生食および加熱など様々な調理操作を経て食される。調理操作の種類や方法の確認を行いながら、食品素材の色調変化、組織の軟化、香りの発現などについて基礎的な知識を学習する。さらに基本的な調理方法の役割および食品の物理的・化学的变化について科学的視点を身につける。また、主菜・副菜の調理で使用される香辛料や香草については、可能な限り実物を用意して風味を学修する機会を与え、利用性について理解する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1 基本的調理操作を理解できる					○	○								
2 調味料の種類と特徴を理解できる					○	○								
3 食品の調理特性を科学的に理解する能力を身につける							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス、調理科学の定義					ノートを整理しておく									
2. 調理と嗜好性					教科書をよく読み授業に臨む									
3. 調理操作 非加熱調理					授業内容を教科書・ノートで確認する									
4. " 加熱調理 煮る・蒸す					授業内容を教科書・ノートで確認する									
5. " 加熱調理 揚げる・焼く					授業内容を教科書・ノートで確認する									
6. 調味料の種類と特徴					授業内容を教科書・ノートで確認する									
7. 香辛料の種類と特徴					授業内容を教科書・ノートで確認する									
8. スパイスの風味を体験する					次週の授業開始までにスパイス、ハーブに関する特徴・献立のレポート提出する									
9. ハーブおよび食塩の風味を体験する														
10. 油脂・油脂性食品の調理特性					授業内容を教科書・ノートで確認する									
11. 炭水化物質性食品の調理特性					授業内容を教科書・ノートで確認する									
12. タンパク質性食品の調理特性：食肉、魚介類					授業内容を教科書・ノートで確認する									
13. " : 卵、牛乳					授業内容を教科書・ノートで確認する									
14. 成分抽出性食品の調理特性：デンプン					授業内容を教科書・ノートで確認する									
15. " : ゼラチン、寒天その他					授業内容を教科書・ノートで確認する									
16. 試験														
履修上の注意 出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で1回の欠席とする ミニットペーパーを課した場合は、採点後に返却し加点对象とする。														
成績評価方法・基準 期末試験 65%、受講態度・レポート提出 35% 試験問題は、教科書およびノートからの出題です。試験後解答例を掲示する。 レポートは、提出後返却します														
教科書 書名：調理科学 著者名：森高初恵、佐藤恵美子 出版社：建帛社 価格：2500円														
参考書 調理のためのベーシックデータ（他の授業で購入済み）														
備考：出張等の都合により授業計画が変更されることがある 質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける														

授業科目名	基礎調理学実習 I				単位 (総授業時間+自習時間)				1 (15+30)				
担当者	深澤 律子	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	服専 I 年				
授業概要													
調理学実習を通して、食品衛生の衛生管理全般（食品取扱者の健康管理等）について学び、衛生習慣を身につける。日本・西洋・中国料理の春から夏の日常食と行事食、郷土料理の献立を通して食事の文化的側面についての知識と理解を深め、盛り付け、配膳などの基本を修得する。食材や調理法についての知識、調理操作のポイントを科学的に理解する能力を身に付け自分の食生活で実践し、自己評価または家族の評価をもとに課題を考える。栄養、嗜好、食環境など多様な側面から食べる人にとって望ましい食事を計画し、食事として作り上げる技術を修得する。高等学校の家庭科教員の経験を活かしてこの授業を進めていく。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
① 食材や調理法についての基礎的な知識と技能を修得する。					○		○		○	○			○
② 修得した知識をもとに、実際の調理技術を修得する。					○		○		○	○			○
③ 調理学実習を通して衛生管理の知識と技術を修得する。					○		○		○	○			○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1.オリエンテーション・美味しさと健康 (衛生管理と個人衛生、健康管理)					P245～249 を読み、重要な箇所にアンダーラインを引く。								
2.講義・調理の基本 (計量・調味パーセント、廃棄率)、実習計画表の記入のしかた					P87～97 を読み、調味パーセント、廃棄率をレポートにまとめ、提出。電卓の準備。実習計画表の記入。								
3.調理の基礎技術 1 (日本料理) : 文化鍋でご飯を炊く。鯛めし、潮汁、アスパラの和え物					P11～12 飯の炊き方、貝類の扱い方をレポートにまとめ提出。								
4.調理の基礎技術 2 調理技能の実技試験 (野菜の切り方 1～12 まで短冊切り、千切り、ささがき等)					P8 1～12 小口切りからみじん切りまで家庭で野菜の切り方を練習する。実習計画表の記入								
5.調理の基礎技術 3 (日本料理) 筍飯、若竹汁、だし巻き卵					P12 味付け飯、出汁のとり方、P105 筍の部位と用途をレポートにまとめ提出。実習計画表の記入								
6.調理の基礎技術 4 (中国料理) 中華粽、春捲、玉米湯					P218 鶏湯 (たん) の取り方、P232 粽の作り方をまとめ提出。実習計画表の記入								
7.調理の基礎技術 5 (西洋料理) コンソメジュリエンス、鮭のムニエル、タルタルソース、グリーンサラダ、紅茶のゼリー					P44～45 ブイヨン、P39 野菜の切り方の名称、卵の特性、マヨネーズ、ゼラチンの扱いをまとめ提出。実習計画表の記入								
8.調理の基礎技術 6 (日本料理) さくら飯、鯨の塩焼き、小松菜のお浸し、ひじきの煮物、水ようかん					P12 味付け飯、P18～19 焼き物をレポートにまとめ提出。実習計画表の記入								
9.調理の基礎技術 7 (中国料理) 麻婆豆腐、涼拌三絲、杏仁豆腐					P230～231 を読んで、まとめ提出。実習計画表の記入								
10.調理の基礎技術 8 (西洋料理) ハンバーグステーキ、コンビネーションサラダ、コーンポタージュ、ブラマンジェ					コーンスターチ、ブラマンジェについて調べ、P164、P177、P152、P191 を読んでまとめ、提出。実習計画表の記入								
11.調理の基礎技術 9 (日本料理) 鶏の竜田揚げ、切り干し大根の煮物、いんげんの胡麻和え、赤だし、グレープフルーツ寒					P123 竜田揚げ、寒天の扱い方、乾物の扱い、味噌の種類、P127、P108、を読んでまとめ提出。実習計画表の記入								
12.調理の基礎技術 10 (日本料理) セタそうめん、フルーツ白玉					P103、P99、P136 を読んでまとめ提出。実習計画表の記入								
13.調理の基礎技術 11 (西洋料理) 夏野菜ドライカレー、シーザーサラダ、レモンスカッシュ					P186、P175、P202 を読んでまとめ提出。実習計画表の記入								
14.調理の基礎技術 12 (郷土料理) おくずかけ、三色おはぎ、千草漬け					P147、P102、P99、P130 を読んでまとめ提出								
15.調理の理論 前期のまとめ					野菜の切り方、実習で学んだ料理の要点等を実習ノートにまとめ提出。								
16.筆記試験													
履修上の注意 前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子、タオルハンカチを準備する。調理室内ではボールペン使用。調理室に入室したら手洗い消毒を済ませ、衛生点検表に記入し、教員の点検を受ける。配布資料はファイルに保管する。出席することが重要である。調理技術の習得のためには、自宅で実践する。													
成績評価方法・基準													
実技試験 30%、実習レポート提出 30%、衛生管理点検表の記入 10%、筆記試験 20%、授業態度 10% (早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等) で評価する。実技試験、筆記試験は終了後フィードバックを行う。													
教科書 [改定新版調理学実習おいしさと健康] [早坂千枝子監修] [アイ・ケイコーポレーション] [3,300 円]、[日本食品成分表 2018 7 訂 本表編] [医歯薬出版] [1400 円] *教科書は最新版のものを 1 回目の講義で配布します。													
参考書 [調理学] [柳沢幸江 柴田圭子 編著者] [アイ・ケイコーポレーション] [2,700 円]													
備考													
<ul style="list-style-type: none"> ・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示する。 ・季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがある。 ・事前・事後学習で、教科書の改訂により、上記のページ数と異なることがある。 ・ルブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照する。 ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) に受付ける。 													

授業科目名		基礎調理学実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1（15+30）					
担当者	深澤 律子	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	服専Ⅰ年					
授業概要														
調理学実習を通して、食品衛生の衛生管理全般（食品取扱者の健康管理等）について学び、衛生習慣を身につける。日本・西洋・中国料理の秋から冬の日常食と行事食、郷土料理の献立を通して食事の文化的側面についての知識と理解を深める。季節の行事食についての知識と理解を深め、食品の選択、食品の調理技術、盛り付け、配膳などの基本を習得する。栄養教育のツールとして、人々に一食分の適量や栄養バランスを伝えるための方法（3・1・2 弁当箱法）についての知識と技術を修得する。高等学校の家庭科教員の経験を活かしてこの授業を進めていく。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
① 食材や調理法についての基礎的な知識と技能を修得する。					○		○		○	○				○
② 修得した知識をもとに、実際の調理技術を修得する。					○		○		○	○				○
③ 調理学実習を通して衛生管理の知識と技術を修得する。					○		○		○	○				○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 講義 夏休みの課題「家族への食事作りのレポート」を発表する。「3・1・2 弁当箱法」についての講義					レポートにまとめ、発表の準備を行う。配布テキストを読み、レポート提出。「3・1・2 弁当箱法」の実習計画書の提出。									
2. 実習 1 栄養教育ツール「3・1・2 弁当箱法」の実習					配布テキストを読み、レポート提出。次回（1回目）実習計画書の提出。									
3. 調理の基礎技術 1（西洋料理）スパゲティミートソース、蒸し野菜サラダ、カスタードプリン					P187、P199、P157 をまとめ次回提出。2 回実習計画書の提出。									
4. 調理の基礎技術 2（日本料理）：郷土料理を取り入れた秋の献立、はらこ飯、茶碗蒸し、味噌がんづき					配布プリントを読み、レポートにまとめ次回提出。3 回実習計画書の提出。									
5. 調理の基礎技術 3（中国料理）：実技試験：胡瓜の蛇腹切り（包丁の扱いを習熟する）、炒飯、胡瓜の蛇腹切りの和物					P227 配布プリントを読み、レポートにまとめ次回提出。4 回実習計画書の提出。									
6. 調理の基礎技術 4（西洋料理）マカロニグラタン、コールスローサラダ、南瓜のカップケーキ					P100、P110、P126 配布プリントを読み、まとめ提出。5 回実習計画書の提出。									
7. 調理の基礎技術 5（日本料理）炊きおこわ、さばの味噌煮、菊花豆腐の吸い物、亥の子餅					P123～124、P96、P104、P137 をまとめ提出。6 回実習計画書の提出。									
8. 調理の基礎技術 6（中国料理）鶏粥、青椒炒牛肉絲、鶏蛋					P227、P211、P236 配布プリントを読み、まとめ提出。7 回実習計画書の提出。									
9. 調理の基礎技術 7（西洋料理）ビーフシチュー、クッキー					P159、P175、P196 をまとめ、次回提出。8 回実習計画書の提出。									
10. 調理の基礎技術 8（中国料理）五目あんかけ焼きそば、肉まん、					P233 を読み、レポートにまとめ次回提出。9 回実習計画書の提出。									
11. 調理の基礎技術 9（西洋料理）行事食の献立 1：クリスマスの献立、ローストチキン、温野菜サラダ、クリスマスケーキ					スポンジケーキ、ローストチキンの要点をまとめ、10 回実習計画書の提出。									
12. 調理の基礎技術 10（日本料理）行事食の献立 2：正月の献立 おせち料理 お雑煮					教科書、配布プリントを読み、レポートにまとめ次回提出。11 回実習計画書の提出。									
13. 調理の基礎技術 11（日本料理）行事食の献立 3：のり巻き、かきたま汁、豆大福					厚焼き玉子、すし飯の作り方をレポートにまとめ次回提出。									
14. 実技試験					かきたま汁、茶わん蒸しの実技試験にむけて練習する。									
15. 調理の理論、後期のまとめ					実習で学んだ料理の要点をノートにまとめ次回提出。									
16. 筆記試験														
履修上の注意 前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子、タオルハンカチを準備する。調理室内ではボールペン使用。調理室に入室したら手洗い消毒を済ませ、衛生点検表に記入、教員の点検を受ける。配布資料はファイルに保管する。出席することが重要である。調理技術の習得のためには、自宅で実践する。														
成績評価方法・基準 実技試験 30%、実習レポート提出 30%、衛生管理点検表の記入 10%、筆記試験 20%、授業態度 10%（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等）で評価する。実技試験、筆記試験終了後フィードバックを行う。														
教科書 〔改定新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,300 円〕、〔日本食品成分表 2018 7 訂 本表編〕〔医歯薬出版〕〔1400 円〕*教科書は最新版のものを 1 回目の講義で配布する。														
参考書 〔調理学〕〔柳沢幸江 柴田圭子 編著者〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2,700 円〕														
備考 ・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示する。 ・季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがある。 ・事前・事後学習で、教科書の改訂により、上記の頁数が異なることがある。 ・ルーブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照する。 ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。														

授業科目名	食文化論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）				
担当者	深澤 律子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専4年				
授業概要 2013年12月、ユネスコ無形文化遺産に「和食；日本人の伝統的な食文化―正月を例として―」が登録された。提案書では、和食文化の実践者はすべての日本人であるとされ、日本の食文化を学び、実践する意義は大きい。日本人は古代よりその土地の気候風土に合った農耕や狩りや漁をして、安全で美味しい食物を摂取するための努力を重ねてきた。歴史の中で外国から来た食材や料理を取り入れ、米と大豆、魚や野菜を中心に発酵食が発達した。食文化の変遷をたどり、現在の日本人の食生活と健康について科学的な根拠をもとに考察する。家庭科教員としての経験を活かしてこの講義を進めていく。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
① 食べ物と人との関わりを歴史の変遷、食の嗜好性、食文化の観点から説明できる。					○	○				○	○	○	○
② 現在の食生活と健康の問題点を提起し、解決方法を見出し考察できる。										○	○	○	○
③ 日本の食文化を理解し、年中行事と行事食、郷土料理、食事の作法の基礎知識を身につける。					○	○				○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス、「和食」日本人の伝統的な食文化、DVD 視聴					「 <small>てんぞきょうくん</small> 典座教訓」「精進料理」「和食」に関することを調べてレポートにまとめ提出。								
2. 世界の食物史と日本の食文化					世界の食文化と日本の食文化についてまとめ提出。								
3. 世界の食文化の形成、粉食文化と粒食文化					P22～29 を読み、感想を書き提出。								
4. 日本の食文化形成と展開 米（稲作の伝播と調理）					P32～39 を読み、感想を書き提出。								
5. 異文化接触と受容（古代～近世、南蛮文化、欧米文化）					P42～49 を読み、感想を書き提出。								
6. 主食の文化（木の実と芋類）（米）（大麦・小麦・雑穀）					興味のある食品について調べて提出。								
7. 副食の文化（魚介類）（豆類、大豆）（肉、乳、卵）					興味のある食品について調べて提出。								
8. 副食の文化（野菜、果物、きのこ、海藻）					興味のある食品について調べて提出。								
9. 調味料（塩と砂糖）発酵調味料（酒と酢）（みそと醤油）、					興味のある食品について調べて提出。								
10. 油脂、だし、香辛料					興味のある食品について調べて提出。								
11. 菓子（和菓子、洋菓子）、茶、酒					興味のある食品について調べて提出。								
12. 日本料理の形成と発展（本膳料理、懐石料理、会席料理）					P92～99 を読み、感想を書き提出。								
13. 食物に関わる年中行事					年中行事と行事食をまとめて提出。								
14. 行事食と郷土食					地場産品と地元の郷土料理を調べて提出。								
15. 儀礼と食べ物、食事の作法（箸の作法）					箸の作法を調べてまとめ提出								
16. 筆記試験													
成績評価方法・基準 筆記試験 50%、毎時間のレポート提出 40%、受講態度 10%（感想・レポート内容・熱心さ等） 提出されたレポートは、後日添削して返却し、フィードバックする。													
教科書 〔日本の食文化「和食」の継承と食育 新版〕〔江原絢子・石川尚子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2500 円〕													
参考書 〔日本のしきたりがまるごとわかる本〕〔沢井竜太〕〔普遊舎〕〔680 円〕													
備考 ・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示します。 ・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。 ・ループリックを授業中に配布するので、学修目標として参照してください。 ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名	食生活論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	小野 真実	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専2年				
授業概要													
家庭科教諭等、栄養・食に関わる専門職になるための専門教科を学習することに先立ち、食の成り立ち、健康的な食生活（食生活と健康の関連）、食育の推進、食と環境の関わり、食生活の歴史や文化など、その多様かつ広範な側面について、理解を深めることをねらいとする。また、それらを通じ、栄養・食に関わる専門職の役割や重要性を理解するとともに、自身の健康的な食生活を営む基礎的知識および能力を身につける。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
食生活と健康の関連について理解できる。				○	○								
自身の食生活を見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を身につける。				○	○				○	○			○
食生活の歴史や文化とともに現状の課題について理解できる。				○	○								
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス、食生活の概念				事前学習は教科書の該当箇所を読むこと。事後学習は学習内容を整理すること。									
2. 健康的な食生活とは				//									
3. “食生活指針”による自身の食生活の見直し				//									
4. 食物の階層構造				//									
5. 食事バランスガイド				//									
6. 食品成分表と食品群				//									
7. 食生活と健康（子ども）				//									
8. 食生活と健康（思春期・若年期）				//									
9. 食生活と健康（生活習慣病）				//									
10. 食生活と社会環境				//									
11. 食育の推進				//									
12. 食生活と安全				//									
13. 日本の食文化・日本型食生活				//									
14. 健康・食情報を読み解くポイント				//									
15. まとめ				//									
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から健康・栄養情報を収集し、積極的に知識を深めること。 ・遅刻、早退は慎むこと。遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・印刷に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自用意すること。 													
成績評価方法・基準													
<ul style="list-style-type: none"> ・期末レポート（40%）、課題・ミニットペーパー・小テスト（40%）、受講態度（20%）で評価する。 ・授業内での課題、小テスト等は当日、もしくは後日の授業内でフィードバックする。 													
教科書 〔栄養科学シリーズNEXT 食育・食生活論〕〔山本茂，他〕〔講談社サイエンティフィック〕〔2,400円〕その他、適宜資料を配布する。													
参考書 〔七訂食品成分表2020〕〔香川明夫〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,512円〕													
備考													
<ul style="list-style-type: none"> ・都合により授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。 													

授業科目名	住居学（製図を含む。）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	崎山 俊雄	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専3年					
授業概要														
住居は、人間生活の基本的な空間であると同時に、社会環境や生活様式、それが建つ地域の風土や文化とも密接に関係している。本講義では、住居や住生活に関する基礎的知識を習得し、文化的・社会的観点から、住宅や住生活についての理解を深める。前半は、住まいについて、風土・機能・空間・生活などの観点を設定して論じ、後半は、前半で身につけた考え方を応用して、独立住宅を設計する。後半の設計演習は、学生の考えや理解度を確認しながら対話型の形式で進めていく。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
住居や住生活を考える上で必要な基礎知識を身につける。					○	○		○						
よりより住空間について自ら考え、表現し、自分の考えを他者に説明する技術を身につける。								○		○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 授業内容と進め方、評価方法の説明、住生活に関する概説					住居や建築を、その構成や成り立ちを意識して観察する。									
2. 住宅の構成要素					同上									
3. 家族生活と住宅					同上									
4. 風土と住宅					同上									
5. 日本の住まいの特徴					同上									
6. 独立住宅の計画					配布資料を参考にして、事例を収集する									
7. 集合住宅の計画					同上									
8. 図面表現					繰り返し練習して図面表現を習得する									
9. 住宅の計画（1）必要な室と広さ					設計案を練り、授業時に持参する									
10. 住宅の計画（2）室の配置と動線計画					授業を踏まえて、設計案を改良する									
11. 住宅の計画（3）空間構成					同上									
12. 製図（1）配置図・平面図					配置図・平面図を完成させる									
13. 製図（2）立面図・断面図					立面図・断面図を完成させる									
14. プレゼンテーション技術					プレゼンテーションを仕上げる									
15. 課題の提出、プレゼンテーションと講評、まとめ					授業を通して得た内容をまとめる									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・講義中の指示にしたがい、必要な予習・復習を確実に行って、知識の定着に努めること。 ・後半の設計演習では、毎回、設計案を持参すること。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> ・制作物（60%）、プレゼンテーション（20%）、および受講態度（授業への参加態度、提出物、20%）により評価する。 ・持参した設計案や提出物、プレゼンテーションに対しては、授業中にフィードバックする。 														
教科書														
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて資料を配布する。 														
参考書														
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で紹介する。 														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー：授業終了後 														

授業科目名	住居デザイン				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	山本 佳美	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専4年					
授業概要														
<p>私たちがあたりまえに住まう住居。住居を構成する環境や材料についての基礎を理解し学んでほしい。講義内容については住居を構成する内装材、窓、建具、設備、インテリアを構成する照明、窓装飾、家具等の日常生活に必要な構成材の基本的な特徴を学び、空間に対する寸法感覚を養い、インテリアデザインの独創性を身につける。インテリアプレゼンテーションの方法についてパース、作図方法、平面プランニング等の技法を解説する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・住居を構成するインテリアの基礎知識を身につける。					○	○								
・住居・インテリア空間の寸法について寸法感覚を養う。					○	○								
・インテリアデザインについての技法を身に着ける。					○	○			○					○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.インテリアデザインの種類、インテリアスタイルの種類を学ぶ					自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。									
2.建築家のデザインを紹介し世の中にあふれるデザインを学ぶ					自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。									
3.インテリアの歴史①西洋インテリアと家具を学ぶ					自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。									
4.インテリアの歴史②日本のインテリアと家具を学ぶ					自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。									
5.インテリアの構成①内装					インテリアの構成①～⑤で行う内容に									
6.インテリアの構成②窓装飾					沿った課題を与え、プランニングボード									
7.インテリアの構成③照明					を作成するにあたり、授業で学んだ成果									
8.インテリアの構成④家具					を課題で表現する。									
9.インテリアの構成⑤設備・その他														
10.部屋別インテリアのスタイルとポイント														
11.インテリアレイアウト														
12.インテリアカラー														
13.課題：私の好きなインテリア コラージュ														
14.インテリアコーディネート演習														
15.プレゼンテーション														
履修上の注意 インテリアに興味を持とう！														
成績評価方法・基準														
課題提出。提出された課題に対し、授業で学んだポイントに沿った内容となっているか確認し、内容によっては再提出といたします。														
教科書 プリント使用。カタログ配布。														
参考書 なし														
備考 質問については授業中、または授業終了時に受付いたします。														

授業科目名	住文化論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	崎山 俊雄	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専4年						
授業概要															
わが国における建築文化の特質を理解するためには、わが国の建築が、どのようにして生まれ、どのように変遷してきたのかを理解する必要がある。															
本講義では、日本の先史時代から近現代までの各時代における建築の特徴を、住宅を中心に、具体的な事例を取り上げて解説する。わが国の住文化について理解するための基礎的な力を涵養するとともに、先人の営為を未来に伝える「文化財」という考え方についても紹介する。															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
古代から近現代に至るわが国の住宅の歴史の流れ（ストーリー）として理解できるようになる。						○	○								
歴史的な建築に接したときに、それらの存在の意味を考えられるようになるための基礎知識を習得する。						○	○								
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）									
1. 授業内容と進め方、評価方法の説明、住文化に関する概説						身近な歴史的建築を調べる。									
2. 先史時代の生活と建築						先史時代の遺跡について調べる。									
3. 古代神社の形式						伊勢神宮・出雲大社・住吉大社の本殿について調べる									
4. 導入期の寺院建築						奈良の仏教建築遺構について調べる									
5. 古代の都城と内裏						平城京と平安京について調べる									
6. 平安時代の住宅（寝殿造）						寝殿造について調べる									
7. 新様式の伝来と在来建築の変容						大仏様と禅宗様について調べる。									
8. 鎌倉時代・室町時代の住宅						書院造について調べる									
9. 近世の住宅（主殿、広間、書院）						仙台城の建築について調べる。									
10. 茶室と数寄屋						身近な武士住宅遺構について調べる。									
11. 近世民家						身近な近世民家遺構について調べる。									
12. 近代の住宅（1）欧米文化の流入						身近な近代西洋建築について調べる。									
13. 近代の住宅（2）近代和風						身近な近代和風建築について調べる。									
14. 歴史的建造物の保存						身近な文化財建造物についてまとめる。									
15. 歴史的建造物の活用						歴史的建築の活用事例について調べる。									
履修上の注意															
・毎回、歴史用語や建築の専門用語が多数出てくるので、その都度覚えること。															
成績評価方法・基準															
・授業内で実施する小テスト（30%）、提出課題（50%）および受講態度（20%）により評価する。															
・小テストは解答例を配布してフィードバックする。提出課題は後日添削して返却する。															
教科書															
・必要に応じて資料を配布する。															
参考書															
・授業の中で紹介する。															
備考															
・オフィスアワー：授業終了後															

授業科目名	保育学(実習及び家庭看護を含む。)			単位(総授業時間+自習時間)				2(30+60)				
担当者	香曾我部 琢	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専3年			
授業概要												
<p>本科目では、まず、家庭科教育の「A 家族生活と家族」分野の内、保育領域に焦点を当て、その指導に必要とされる基本的な知識と技能を身につける。次に、基本的な知識と技能を基盤として、生涯発達の視点に立ち、最新の脳神経科学や大規模縦断研究の知見をもとに、人の発達や生活における諸様相とその特徴を理解した上で、現代社会において求められる適切な保育者・養育者の援助や環境構成の在り方について検討を行い、専門的知識と技能の修得を目指す。また、これらの専門的知識や技能を身につける際に、アクティブラーニングを実施し、他者や社会との相互作用の中で、自立的にそれらの知識や技能を適応させて問題解決する力を身につける。</p>												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
「A 家族生活と家族」分野における保育領域の指導に必要とされる基本的な知識と技能を習得する。				○								
生涯発達の視点に立ち、人の発達や生活における諸様相とその特徴を理解することで、専門的知識と技能を学ぶ。					○		○					
身につけた知識と技能を、他者や社会との相互作用の中で総合的、適応的に用いる能力を身につける。							○		○		○	
授業計画の内容				自習(事前・事後学修の内容)								
1. オリエンテーション：発達とは何か・保育とは何か				教科書の目次を読んで、授業の概要について把握する。								
2. 新生児、乳児期の発達と発育の特徴				教科書をよく読み、新生児から乳児までの発達の概要を把握する。								
3. 幼児期の発達と発育の特徴				教科書をよく読み、幼児期までの発達の概要を把握する。								
4. 児童期～成人期の発達、生涯発達とは				教科書をよく読み、児童期から青年、成人までの発達の概要を把握する。								
5. 言語と概念の発達				教科書をよく読み、新生児から乳児までの言語と概念発達の概要を把握する。								
6. 社会的認知の発達				教科書をよく読み、新生児から乳児までの社会的認知に関する発達の概要を把握する。								
7. 他者との関係発達				教科書をよく読み、発達における社会の相互作用の影響について概要を把握する。								
8. 生涯発達の視点から捉える自己形成のプロセス				教科書をよく読み、生涯発達の概念について理解する。								
9. 五感の発達：共感覚の発達を知る				教科書をよく読み、共感覚について知る。								
10. 脳神経科学の視点で発達を捉える				教科書をよく読み、脳神経科学の最新の知見について把握する。								
11. 社会・文化心理学の視点で発達を捉える				教科書をよく読み、社会・文化心理学における発達の概念の特徴を知る。								
12. 比較行動学・進化心理学の視点で発達を捉える				教科書をよく読み、ヒト以外の動物の学習や認知の発達について、その概要を把握する。								
13. 発達理論の歴史的変遷				教科書をよく読み、ヒトの発達を捉える概念の歴史的変遷を把握する。								
14. 遊びの発達				教科書をよく読み、遊びが幼児の心身の発達に与える影響を把握する。								
15. 生活習慣の育ちを知る				教科書をよく読み、乳幼児期に生活習慣を身につける意義を把握する。								
履修上の注意												
遅刻3回で欠席1回とする。												
成績評価方法・基準												
授業ごとのリアクションペーパー(40%)、基礎的な知識に関する小テスト(30%)、平常点(30%) リアクションペーパーと小テストの未提出は評価の対象としないことがある。 リアクションペーパーや小テストについては後日添削して返却する。												
教科書 [子ども理解のメソドロジー] [中坪史典] [ナカニシヤ出版] [2,160円]												
参考書 [発達心理学をアクティブに学ぶ] [山本真由美] [北大路書房] [2,376円]												
備考												
<ul style="list-style-type: none"> ・ループリック評価については、第1回目の授業で説明します。 ・質問等については、授業終了後に受け付けます。 												

授業科目名	家庭電気・機械			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)										
担当者	門田 和雄	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専3年									
授業概要																		
日常生活では多種多様な家庭電気機器が利用されている。そして、これらの機械的しくみ及び電気回路、制御方法などを理解し、合理的、創造的な生活態度を身につけることが現代人にとって不可欠となっている。本講義では家庭電気・機械の理解に必要な機械工学（機械の動くしくみであるリンク機構やカム機構、また代表的な機械要素であるねじや歯車など）と電気工学（電気回路や電子回路、制御回路など）の基礎的事項を学ぶとともに、身の回りの家庭電気機械の保守点検についても解説する。																		
授業の到達目標						学位授与の方針との関連												
						1	2	3	4	5	6	7	8	9				
機械工学の基礎知識を身につける。						○	○											
電気工学の基礎知識を身につける。						○	○											
家庭電気機器の簡単な保守・点検ができる。						○	○											
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）												
1.エネルギー変換に関する技術						エネルギーとは何か												
2.機械エネルギーと熱エネルギー						機械とは何か、熱とは何か												
3.電気エネルギーを作るしくみ：さまざまな発電方式						発電方式の種類について												
4.電気エネルギーを供給するしくみ：送電・配電						直流と交流について												
5.電気回路の基礎：オームの法則、直列・並列						オームの法則について												
6.家庭電気機器のしくみ1：アイロン、照明器具						熱エネルギー、光エネルギーの利用												
7.家庭電気機器のしくみ2：炊飯器、電子レンジ						電磁波のエネルギー												
8.家庭電気機器のしくみ3：洗濯機、掃除機、ミシン						電気モータの種類について												
9.電気機器の安全な使い方：ブレーカ、アース						電気部品の定格												
10.電気機器の保守・点検：テスターの使い方						テスターとは												
11.機械要素とそのはたらき1：ねじ						家庭電気機器に用いられるねじ												
12.機械要素とそのはたらき2：歯車、ベルト、チェーン						家庭電気機器に用いられる歯車												
13.機械要素とそのはたらき3：軸受、軸接手、ばね						家庭電気機器に用いられるばね												
14.機械要素とそのはたらき4：リンク機構、カム機構						家庭電気機器に用いられるリンク機構												
15.まとめ						全体的な復習												
16.試験																		
履修上の注意																		
毎回、小テストを実施する。																		
成績評価方法・基準																		
期末試験（60%）、小テスト（20%）、事前・事後学習を含む授業姿勢（20%） 提出された課題は、後日添削して返却する。																		
教科書 授業時にプリントを配布する																		
参考書 [新しい技術・家庭] [技術分野] [東京書籍] [価格]																		
備考																		
質問等は、授業終了後受け付けます。																		

授業科目名	家庭科教材研究			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）						
担当者	植松 公威	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	服専3年					
授業概要														
<p>実際に家庭科の教材作りを通して、学習者にとってわかりやすく、学習者の理解を促進できる教材の内容と授業の方法について検討する。まず、この授業を履修する学生は教師としてではなく、学習者として家庭科の単元を学ぶ必要がある。「学ぶ」とは受け身的に情報を受け取るのではなく、学習者が主体的に、自らがもっている知識、経験を新しい情報と統合させながら知識を構成し直すことである。こうしたアクティブな「学び」をベースにして、納得するまで知識を探究できるように教材研究を指導する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
アクティブな「学び」を身につける					○	○	○			○				
学習者の理解を促進できるような教材作りを目指すことができる								○	○		○	○	○	
自らの教育活動について評価ができるようになる					○	○				○	○			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 「学ぶ」とは何かー構成主義による見方ー					新しい考え方、見方について考えること									
2. 「評価」とは何か					新しい考え方、見方について考えること									
3. 家庭科の教科書を開くーわからない点、疑問点を出すー					どんな小さな疑問でも指摘すること									
4. わからない点、疑問点について情報を集め、問題解決を図る					納得できるまで調べ、問題や疑問を解決できるようにする									
5. チームで実際に家庭科の教材を作る（パート1）					教育目標を立て、評価課題を作成する									
6. チームで実際に家庭科の教材を作る（パート1）					教科書の穴埋めだけでなく、教科書には書かれていない補足の情報も伝えること									
7. チームで作成した教材を発表し、議論する					気づいた点は何でも質問すること									
8. チームで教材を印刷し、学内でデータを集める					3～5名程度に実験をする									
9. チームで結果を発表する					質疑応答により議論すること									
10. 学習者は、なぜ理解できないのか、何が足りないのか、どう教えればよいのか、ブレインストーミングで創造的に考える					正解はないので、自由に活発に意見を述べること									
11. チームで実際に家庭科の教材を作る（パート2）					教育目標を決め、評価課題を作る									
12. チームで実際に家庭科の教材を作る（パート2）					調べてわかったこと、新しく工夫したことを盛り込むこと									
13. チームで作成した教材を発表し、議論する					気づいた点は何でも質問すること									
14. チームで教材を印刷し、学内でデータを集める					3～5名程度に実験をする									
15. チームで結果を発表する					質疑応答により議論すること									
履修上の注意														
チームで教材研究するため、無断で休まないこと。														
成績評価方法・基準														
授業への取り組み 40%、発表の際の質疑応答 30%、まとめとしてのレポート課題 30%（内容や結果についてフィードバックできるようにする）														
教科書 授業前に中学校、高校での家庭科の教科書を配布する														
参考書 授業の中で紹介する														
備考														
相談や質問等については各回の授業中、終了後、あるいはオフィスアワーに受け付ける。														

授業科目名		家政特別講義 I				単位 (総授業時間+自習時間)			2 (30+15)					
担当者	植松 公威	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	服専 1・2 年					
授業概要														
「新聞記事から学ぶ私たちの生活文化」をテーマに課題解決に取り組む。新聞記事は生活文化の宝庫である。しかし、記事を鵜呑みにし、受身的に受け取るだけでは不十分である。記事を能動的に、批判的に処理することが重要である。そこで、例えば読者の理解を促進するためには、どのような援助や工夫が有効であるか仮説を立てて検証したり、記事に記されている事柄は実際に起こりうる事例であるかどうかを検証したり、記事の主張は妥当であるか、など読者の立場から課題を見つけ、課題解決能力の育成を図る。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 新聞記事の読解を通して様々な課題を発見できるようになる。											○	○		○
2 私たちの生活文化を紹介した新聞記事に関する課題について、どのようにすれば解決ができるか、チームで検討できるようになる。											○	○		○
3 課題解決のために関連する文献の収集や地域からの協力・援助によって、実験や調査を計画・準備し、結果をまとめ、考察できるようになる。											○	○		○
授業計画の内容						自習 (事前・事後学修の内容)								
1. ガイダンス (年間の予定と教育目標)						シラバスを熟読すること。								
2. 新聞記事の要約 (生活, 文化, 社会面)						新聞記事を熟読し, 主体的に考えること。								
3. 新聞記事について疑問点を出す (生活, 文化, 社会面)						新聞記事を熟読し, 意見や考えをまとめること。								
4. 新聞記事について調べたいことを出す (生活, 文化, 社会面)						新聞記事を熟読し, チームで意見を交換すること。								
5. 新聞記事について調べたいことの計画を立てる (生活, 文化, 社会面)						新聞記事を熟読し, ワークシートに意見や考えをまとめること。								
6. 新聞記事の選択と批判的な学びのまとめ						記事を熟読し, 批判的な考えを出し合うこと。								
7. 課題の設定に向けた準備 (新聞などからの発見)						授業で取り上げた記事を集め, 作成したワークシートに再度, 目を通すこと。								
8. 興味・関心を得た新聞記事の選択						チームで話し合い, 新聞記事を絞り込むこと。								
9. 選んだ新聞記事の要約と発見した課題の発表・共有						発見した課題についてレポートし, 発表すること。								
10. 発見した課題から自分たちの研究テーマを決め, 研究目的を定める						チームの中でよく話し合い, 目標を定めること。								
11. 課題解決への道筋を計画する (どこで何をするか計画案を立てる)						チームの中で協力しながらスケジュールを立てる。								
12. 課題解決に向けて行動する (実験, 調査の構想を立てる)						チームの中で協力しながら役割分担を決める。								
13. 課題解決に向けて行動する (実験, 調査の準備をする)						チームの中で話し合いながら準備を進める。								
14. 課題解決に向けて行動する (実験, 調査を行う)						チームで協力しながらデータを表や図にまとめる。								
15. 発表 (プレゼンテーションと質疑応答)						今後に向けて改善点などを出し合い, 共有すること。 感想を述べ, 皆で共有すること。								
履修上の注意														
毎回, 休まず出席すること。欠席する場合は必ず連絡を入れること。積極的に学び, チーム内で協力して自主的に作業を進めること。わからない点は相談すること。報告・連絡・相談を忘れずに。														
成績評価方法・基準: 熱心に準備をしているか, 協力して取り組んでいるか等, 態度に関して 50%, 成果に関して 50%。取り組みの課題については, その都度フィードバックしながら指導する。														
教科書 課題に応じて, テーマに沿って指示する。														
参考書 課題に応じて, テーマに沿って指示する。														
備考														
質問等については, いつでもお答えします。各セッションの中で, または終了時, あるいはオフィスアワーを利用して, 質疑応答をすることも可能です。														

授業科目名	家政特別講義Ⅳ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	水谷 浩	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服専4年				
授業概要（目的）													
<p>本授業は、消費生活協同組合や調査研究機関での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし、様々な時事的な課題を取り上げ、家政学(服飾文化)に関しての知見が深まるように指導する。また、外部講師や卒業生を招聘し、学生一人ひとりが、より良い将来への方向性を見出せるよう、キャリア形成の目標設定や考え方などについて教授する。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・課題解決能力や応用力、倫理観の重要性を認識、実践できる					○	○	○				○		
・多様な人々と協力し、働くために必要な能力を理解できる								○	○	○	○		
・将来のキャリア形成にむけて、具体的な目標を説明できる					○	○	○	○	○	○	○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.オリエンテーション（授業の進め方・評価など） 今後の進路目標を確認し、その傾向と対策を学ぶ					<u>毎回の授業内容および所感は、レポートにまとめ、指定された期限内に提出すること。</u>								
2.生活・安全の講話（外部講師,水谷） 学生生活を安心・安全に過ごすための注意点を学ぶ													
3.OB/OGの講話①（外部講師,水谷） 卒業生の就職活動の経験やファッションの仕事を学ぶ													
4.OB/OGの講話②（外部講師,水谷） 卒業生の教員採用試験の経験や家庭科教員の仕事を学ぶ													
5.家政学（服飾文化）の課題① 家政学(服飾文化)に関しての時事的な課題を学ぶ													
6.家政学（服飾文化）の課題② 家政学(服飾文化)に関しての時事的な課題を学ぶ													
7.家政学（服飾文化）の課題③ 家政学(服飾文化)に関しての時事的な課題を学ぶ													
8.OB/OGの講話③（外部講師,水谷） 卒業生の就職活動の経験やファッションの仕事を学ぶ													
9.OB/OGの講話④（外部講師,水谷） 卒業生の教員採用試験の経験や家庭科教員の仕事を学ぶ													
10.家政学（服飾文化）の課題④ 家政学(服飾文化)に関しての時事的な課題を学ぶ													
11.家政学（服飾文化）の課題⑤ 家政学(服飾文化)に関しての時事的な課題を学ぶ													
12.家政学（服飾文化）の課題⑥ 家政学(服飾文化)に関しての時事的な課題を学ぶ													
13.家政学（服飾文化）の課題⑦ 家政学(服飾文化)に関しての時事的な課題を学ぶ													
14.家政学（服飾文化）の課題⑧ 家政学(服飾文化)に関しての時事的な課題を学ぶ													
15.まとめ これまでの学生生活の振り返り													
履修上の注意 3/4以上の出席がない場合には、単位を取得することはできない。													
成績評価方法・基準 平常点・授業への参加態度(50%)+課題の提出状況(50%)にもとづき評価する。 なお、課題については、次の授業内にフィードバックします。													
教科書 なし													
参考書 必要に応じて紹介する。													
備考 レポート課題(7回分のすべて)が未提出の場合には、評価の対象とはならない。 質問や相談などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。													

授業科目名	家政特別演習（研修旅行）				単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)									
担当者	菅野 修一	必・選	必	形態	集中講義	学期	通年	対象	服専2年						
授業概要															
服飾をはじめ家政学，美術・工芸に関わる博物館，企業，工場などの施設を見学し，授業で学んだ知識や技能を基にした，服飾や家政学に関する実際的な知識を体験的に習得する。あらかじめ，事前学習により知りたいこと，疑問に思うことなどを明確にした上で，現地で説明を聞いたり，展示物を見たりすることによって課題解決を図ることが望ましい。研修で学んだことはその後の学習や進路選択，就職活動に生かせるようにする。															
授業の到達目標					学位授与の方針との関連										
					1	2	3	4	5	6	7	8	9		
・生産，流通に関わる企業の活動に対する理解を深めることが出来る。						○	○								
・博物館や企業の資料館の展示物を見ることにより，歴史的，文化的，社会貢献に関する知識を深めることが出来る。						○	○								
・将来の進路（職業選択）を考える基礎を身につける。						○	○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）										
1. ガイダンス					研修先，スケジュールの確認										
2. 事前学習（研修先である博物館や資料館，企業，工場などに関する説明と各自の事前の調査）					説明をよく聞き，訪問する施設についての情報を調べること										
3. 事前学習（各施設で調べたいこと，知りたいこと，見たいものなどを明確化する）					あらかじめ，疑問点や学びたいこと，目的などを明確にして，記録しておくこと										
4. 事前学習（上記3の整理と発表・共有）					研修で何を学ぶのか，皆の前で発表し，意識を高めるとともに，研修の目的を確立させること										
5. 研修旅行（3泊4日）					事故やけががないように慎重に行動すること										
6. レポートの作成					施設の資料や写真やメモ（記録）を参考に，見たこと，聞いたこと，わかったこと，わからなかったことを振り返り，整理し，レポートすること										
7. 研修のまとめ					皆で感想を共有すること										
履修上の注意															
研修先では社会人としてふさわしい言動，規律ある行動をするように留意すること。事前にしっかりと研修計画を立て，何を学ぶのかという目的を明確化することが実りある研修につながるため，事前の学習にも力を入れるように。															
成績評価方法・基準															
事前学習での調査状況 20%，研修中の活動状況 50%，研修レポートの内容 30%で評価する。レポートは講評のうえ返却する。															
教科書					使用しない										
参考書					研修施設に応じて指示する										
備考															
質問，相談は各セッションの中で，または終了時，オフィスアワーで受け付けるが，随時来室（不在のときあり）してコミュニケーションしてもよい。															

授業科目名	服飾ビジネス特別演習			単位（総授業時間＋自習時間）				2(45+15)					
担当者	水谷 浩	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服専3年				
授業概要（目的） ファッションビジネスは、私たちの暮らしや社会の情報化の発展と深く関わりながら存在する。今後、これらの分野で働くためには、デジタルコンテンツを統合・体系的に管理するためのシステム(Content Management System)の理解が求められる。 本授業は、民間シンクタンクでの研究員や情報システム担当者としての実務経験を活かし、WEBコンテンツの構築・管理・運用を理解するため、各自仮想企業を設定し、WordPress(CMS)環境の構築により、ファッションビジネスに求められる情報発信力の向上をめざす。また、実践的な知識を学ぶため、外部講師の招聘も予定している。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・服飾ビジネスで求められる知識や技能を理解、実践できる						○		○					
・仮想サーバ上で、WordPress(CMS)環境を構築できる						○		○					○
・適切なテーマ(テンプレート)とプラグインを導入できる						○		○					
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）									
1 オリエンテーション（授業の進め方・評価など）				学生便覧の「ソーシャルメディア利用のガイドライン」と「OA 実習室・OA 教室利用案内」を必ず熟読しておくこと。 ①仮想企業の概要、②障がい者へ配慮点、③企業で求められる情報発信力の要点について、講義ノートに記録すること。									
2 WEB サイト作成の準備 仮想サーバ + WordPress の設定と操作の基本													
3 仮想企業の設定 実在の企業を参考にして、会社名(業種、取扱商品)を決定する													
4-6 情報のユニバーサルデザインへの配慮 障がい理解を通じて、情報のユニバーサルデザインを学ぶ													
7-9 情報集積：ファッションデザインについての知見を広げる。 (外部講師・水谷) 実践・ワークショップ形式：ファッションモデリング (テキストスタイルを活かす創造的造形) (外部講師・水谷) 実践：シューティング、プレゼンテーション、講評 (外部講師・水谷)													
16-18 WEB サイト制作の基本Ⅲ 会社概要(固定ページ)を作成・更新する													
19-21 WEB サイト制作の基本Ⅳ お問い合わせのフォームを作成する													
21-23 WEB サイト制作の基本Ⅴ メニューやサイドバーの設定を変更する													
24-26 WEB サイト運用の基本Ⅰ セキュリティ対策やアクセス状況分析を学ぶ													
27-29 WEB サイト運用の基本Ⅱ SNS 連携とデータの保存・復旧方法を学ぶ													
30 まとめ 制作した WEB サイトの発表および講評				発表までに全てのページを完成させる									
履修上の注意 原則的に全出席（また、課題の未提出、実習中の態度不良や遅刻・欠席した場合、単位を取得できない） WordPress は設定や操作が複雑です。システムの不具合が発生したとき、それを解決するまで、あきらめず何度も挑戦する学習姿勢が求められます。													
成績評価方法・基準 平常点・授業への参加態度(35%)+課題の提出状況(30%)+課題作品(35%)にもとづき評価する。													
教科書 [小さなお店&会社の WordPress 超入門] [星野邦敏 他 2 名著] [技術評論社] [2,178 円]													
参考書 授業中に適宜指示する。													
備考 質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。 外部講師による授業の場合は、集中講義期間に実施する。													

授業科目名		服飾生活特別演習			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+30)					
担当者	井上 美紀	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服専3年					
授業概要 生活者として衣生活の課題を見出し、情報収集と分析を行い、その解決策を模索する PBL 型授業を行う。授業では情報収集の仕方、解決までのプロセスなど、課題解決に必要な知識や手法を教授する。特に、解決策や対応策として実際に資料を作成する、制作物を作製する、情報機器を活用する、情報発信する等、課題内容に応じて取り組むが、このために必要な知識や手法も教授する。授業は PBL 型方式を主に取り入れ、グループワーク（以下 GW）やディスカッションを交えて進める。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
課題解決のために必要な知識や手法を身につける。							○							
実践力と社会人として必要な基礎力・倫理観を身につける。									○	○	○	○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. はじめに：授業概要、授業の進め方、課題の提示					課題について情報収集する。									
2. 課題の情報収集と情報分析（一部図書館で実施）					文献資料を収集する。									
3. 情報分析と課題解決のプロセス案の策定（一部図書館で実施）					情報を整理し、課題に取り組む。									
4. コンセプトの策定 GW					課題に取り組む。									
5. 事業計画の策定① 素案 GW					課題に取り組む。									
6. 事業計画の策定② 本案、試料準備					試料を検討する。課題に取り組む。									
7. 役割分担、進行計画の策定 進捗状況に応じて同時進行					試料入手手段を検討する。									
8. 試料の入手（外部で実施の場合有）					計画に沿って課題に取り組む。									
9. 課題内容に応じた取り組み②（制作や資料作成等 GW）					計画に沿って課題に取り組む。									
10. 課題内容に応じた取り組み③（制作や資料作成等 GW）					計画に沿って課題に取り組む。									
11. 課題内容に応じた取り組み④（制作や資料作成等 GW）					計画に沿って課題に取り組む。									
12. 課題内容に応じた取り組み⑤（制作や資料作成等 GW）					計画に沿って課題に取り組む。									
13. 課題内容に応じた取り組み⑥（制作や資料作成等 GW）					課題を完成させる。									
14. 課題内容に応じた取り組み⑦（制作や資料作成等 GW）					前期を振り返り、課題を見出す。									
15. 前期の総括、後期に向けての課題の整理と進行計画策定					全範囲を振り返る。計画を把握する。									
16. 取り組み内容と後期の進行計画の確認					▼ 取り組み内容を振り返る。									
17. 課題内容に応じた取り組み①（制作や資料作成等 GW）					計画に沿って課題に取り組む。									
18. 課題内容に応じた取り組み②（制作や資料作成等 GW）					計画に沿って課題に取り組む。									
19. 課題内容に応じた取り組み③（制作や資料作成等 GW）					計画に沿って課題に取り組む。									
20. 課題内容に応じた取り組み④（制作や資料作成等 GW）					計画に沿って課題に取り組む。									
21. 課題内容に応じた取り組み⑤（制作や資料作成等 GW）					課題を完成させる。									
22. 情報集積：ファッションデザインについての知見を広げる。（外部講師・井上）					情報収集する。									
23. 実践・ワークショップ形式：ファッションモデリング（テキスタイルを活かす創造的造形）（外部講師・井上）					情報収集する。									
24. 実践：シューティング、プレゼンテーション、講評（外部講師・井上）					授業内容を整理する。									
25. 情報発信の方法、計画					必要な情報機器を準備する。									
26. 情報発信の準備①（資料作成 GW）					計画に沿って課題に取り組む。									
27. 情報発信の準備②（資料の作成 GW・完成）					計画に沿って課題に取り組み完成させる。									
28. 情報発信 GW（外部で実施の場合有）					プレゼンの準備を終わらせる。									
29. 成果の報告会（プレゼンテーション）、検討会 GW					後期の取り組みを振り返る。									
30. おわりに：取り組みの評価、本演習のまとめ					全内容を振り返る。									
履修上の注意 履修者同士で協力して取り組むことが多いので 協調性等、社会人としてのマナーを心掛け積極的に取り組むこと。遅刻・欠席せず、課題を計画通り進めて次時の授業に臨むこと。服飾生活コースの選択学生は履修すること。授業に必要な道具は事前に準備して持参すること。														
成績評価方法・基準 事前準備をし、協力して積極的に課題に取り組んでいるかに対し 50%、課題の内容・成果 50%														
教科書 内容に応じて指示する。														
参考書 必要に応じて紹介する。														
備考 質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。 評価や演習の進め方、事業での連携内容は 1 回目の授業で説明する。 課題は授業内でフィードバックする。 作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間等を変更することがある。 課題が未提出、実施されない等の際には、評価の対象としないことがある。 試料入手や情報発信等、課題内容に応じて外部で授業を行う場合もある。（交通費などは各自負担となる） 外部講師による授業の場合は、集中講義期間に実施する。														

授業科目名	専門研究 I				単位 (総授業時間+自習時間)				4(60+60)				
担当者	菅野 修一	必・選	必	形態	演習	学期	通年	対象	服専 3年				
授業概要													
<p>大学生生活の集大成としてポリマーケミストリーの観点からテーマを選定し、現象に対する科学的に理解を深めることをとおして、科学に関する学問体系全体一端に触れる。より具体的には、参考文献の収集・実験技術の習得・実験データのまとめ方・論文作成の手法・研究発表の手法に関する基礎を習得できる。</p> <p>具体的テーマは各個人の単位履修状況及び興味などを考慮して決定する。研究のペースも、各個人の単位履修状況を考慮して進める。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
研究目的を理解し、深い専門知識を身につける。										○	○	○	○
研究成果を発表し、論文としてまとめることが出来る。										○	○	○	○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1～2. 研究の動機づけと、研究室の選択					担任の植松先生指導。								
1～6.文献調査					指定文献の熟読。								
7～10.精製実験					データを見直す。								
11～20.合成実験					データを見直す。								
21～24.分析実験					データを見直す。								
25～29.データ整理 (学会発表準備・学内口頭発表準備)					論文作成。								
30.課題研究 I 発表会					論文作成。								
履修上の注意													
理解をより深めるため、有機化学 I・II 及び化学 I・II の受講が望ましい。													
成績評価方法・基準													
実験をしてデータを出すことに対して 50%、得られたデータを論文としてまとめプレゼンテーションをおこなうことに対して 50%を基準として総合的に評価する。論文は繰り返しフィードバックして指導する。													
教科書					多くの参考文献や専門書は必要に応じて配布あるいは貸し出す。								
参考書					必要なプリント配布								
備考													
質問はオフィスアワーはもちろん、常時受けつける。													

授業科目名	専門研究Ⅰ（教授学習心理学）	単位（総授業時間＋自習時間）	4（60＋30）										
担当者	植松 公威	必・選	必	形態	演習	学期	通年	対象	服専3年				
授業概要													
この授業では「教授学習心理学」の分野の研究活動に取り組む。目標としては、「教授学習心理学」に関する研究テーマを先行研究から選び、追試研究を行うことを目指す。選んだ先行研究をよく理解した上で、先行研究の実験方法などを模倣する形で新たな実験を準備、実施し、データを集計し、論文を作成する。特に、複数の要因に関して表や図を作成したり、結果を読み取ったりする訓練を行う。一連の活動を通して研究に必要なリテラシーやプレゼンテーション力を習得できるように教授する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 ワードやエクセルを用いてデータの集計と図表の作成、読み取りが行えるようになる。										○	○	○	○
2 教授学習心理学の研究に必要な基礎的なリテラシー（読み書き能力）を身につける。										○	○	○	○
3 教授学習心理学の研究に興味をもち、今後の課題を見つけ、新たな仮説を立てられるようになる。										○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. はじめに：専門研究の進め方（年間の予定と教育目標）					シラバスを熟読すること。								
2. 研究室の割り振り，研究倫理					あらかじめ質問内容を考えておくこと。								
3. 過去の研究テーマの調査					教授学習心理学の研究テーマを自主的に調べる。								
4. 研究テーマの選定					興味のある研究テーマをいくつか絞る。								
5. 研究論文の構成について学ぶ					論文の構成とそれぞれの意味について理解する。								
6. 先行研究の内容についてまとめる					興味のある先行研究を選び、レポートする。								
7. 先行研究の内容について報告し，討論する。					選んだ先行研究についてレジュメを作成する。								
8. 実験の準備（質問紙，教材，課題などの作成）					選んだ先行研究に基づいて実験計画を立てる。								
9～11. 実験の準備（実験で使う冊子のチェックと印刷）					実験で使う冊子を作成し，必要な部数印刷する。								
12～14. 実験の実施					いつ，どこで，誰に実験を行うのか計画する。								
15～16. エクセルにデータを入力する					記入済みの冊子を回収し，データを入力する。								
17～20. エクセルを使ってデータを分析し，表や図を作成する					平均値や正答者数（率）を算出し，図表を作る。								
21～25. ワードによる研究論文の作成					仮説が支持されたかどうかを検証しておく。								
26～29. 発表の準備（パワーポイントの画像，発表原稿の作成）					口頭発表の原稿とパソコンの画像を照合する。								
30. 研究発表					前もって発表のリハーサルをしておく。								
履修上の注意													
毎回，休まず出席すること。欠席する場合は必ず連絡を入れること。先行研究を熟読し，積極的に学び，作業を自主的に進めること。わからない点は相談すること。報告・連絡・相談を忘れずに。必修であるための義務感から取り組むのではなく，指導教官との共同研究として，お互いに議論や意見交換しながら，熱心に取り組むこと。とりわけ日本における学校教育のあり方を少しでも良いものに改善するための実証的研究を目指して取り組むこと。													
成績評価方法・基準 ：研究に対する取り組み 30%，論文の内容 30%，研究発表の準備と当日のパフォーマンス 40%。取り組みや論文については，その都度フィードバックしながら指導します。													
教科書 必要に応じて授業前に資料（プリント）を配布する。													
参考書 研究課題に応じて指示する。													
備考 質問等については，いつでもお答えします。各セッションの中で，または終了時に，あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。													

授業科目名	専門研究Ⅰ（被服科学）				単位（総授業時間＋自習時間）				4(60+60)				
担当者	井上 美紀	必・選	必	形態	演習	学期	通年	対象	服専3年				
授業概要													
被服科学分野では、被服整理・染色加工・被服材料に関連する研究課題を相談して決定し、課題に応じて文献調査と実験を行う。本研究分野では科学的な実験による手法を用いて行い、このための研究手法を教授する。特に、研究の進め方、課題設定方法、研究計画方法、文献調査方法を解説し、実験手法を教授する。課題に対する成果は論文にまとめ、専門研究Ⅰの発表会でプレゼンテーションするとともに、専門研究Ⅱへの土台づくりを行う。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
自己管理能力、倫理観、課題解決能力、応用力等を身につける。										○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. はじめに：専門研究の進め方（3年担任：植松）					過去の研究内容を調べる。								
2. 研究室の割り振り・研究倫理（3年担任：植松）					過去の研究内容を調べる。								
3. 研究課題の設定（以下全コマ、井上）					研究課題案を考える。								
4. 研究計画 計画案の策定と修正立案					研究の計画案を練る。								
5. 文献調査1 文献の検索					文献資料を収集する。課題に取り組む。								
6. 文献調査2 内容の整理					課題に取り組む。								
7. 文献調査3 まとめ					課題に取り組む、完成させる。								
8. 実験計画1 試料準備					研究計画を振り返り、計画し準備する。								
9. 実験1 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
10. 実験2 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
11. 実験3 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
12. 実験4 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
13. 実験5 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
14. 実験データの整理と考察1					データ整理とディスカッションの準備。								
15. ディスカッション1 実験1～5					考察を完成させる。								
16. 実験計画2 試料準備					前期の内容を振り返り、計画する。								
17. 実験6 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
18. 実験7 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
19. 実験8 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
20. 実験データの整理と考察2					データ整理とディスカッションの準備。								
21. ディスカッション2 実験6～8					考察を完成させる。								
22. 論文の構成、構成案の策定					課題に取り組む。								
23. 論文作成1					課題に取り組む。								
24. 論文作成2					課題に取り組む。								
25. 論文作成3と校正					論文を完成させる。								
26. 抄録作成					課題に取り組む。								
27. 抄録作成、プレゼンテーション資料作成1					課題に取り組み抄録を完成させる。								
28. プレゼンテーション資料作成2 発表練習					課題に取り組みプレゼン資料を完成。								
29. プレゼンテーション					プレゼン内容を振り返る。								
30. おわりに 課題研究のまとめ					内容を振り返り今後の課題を見出す。								
履修上の注意 実験は安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねる。指定の実験ノートを準備する。													
成績評価方法・基準													
事前準備をし、実験やディスカッションに取り組みデータを適切にまとめている事に対し50%													
論文・プレゼンテーションに対し50%													
教科書 研究課題に応じて指示する。													
参考書 必要に応じて紹介します。													
備考													
実験内容、作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間の変更と延長等を行う場合がある。質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。評価や進め方は1回目の授業で説明する。課題は、授業中にフィードバック、または後日添削して返却する。課題が未提出、実施されない等の際には、評価の対象としないことがある。													

授業科目名	専門研究 I (染色学)				単位 (総授業時間+自習時間)				4(60+30)				
担当者	川又 勝子	必・選	必	形態	演習	学期	通年	対象	服専 3年				
授業概要													
2年次までに習得した服飾文化に関する知識や技術の中から、特に、服飾史と染織学に関する知識・技術をもとに、各種資料についての調査研究を行う。研究対象は、本学をはじめとする東北地方に残されている染織関連資料とする。各自が設定したテーマに合わせて、研究計画を立て、調査・分析方法について指導する。さらに、研究の成果をまとめるレポート作成と専門研究発表会に向けてのプレゼンテーション法についても指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
文献調査や資料調査など研究の進め方の基本を身につける											○		
これまでに習得した知識・技術を応用できるようになる													○
計画的に研究を進める能力を身につける									○				
レポートやプレゼンテーション資料作成の基本を身につける												○	
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1. はじめに：専門研究の進め方 (3年担任：植松)					過去の研究内容を調べる								
2. 研究室の割り振り・研究倫理 (3年担任：植松)					過去の研究内容を調べる								
3. 専門研究の設定 (以下全コマ、川又勝子)					専門研究課題案考える								
4. テーマの決定					配布資料を熟読し、研究テーマについて検討								
5. 文献の調べ方					図書館等で文献検索を行う								
6. 文献調査：各自で文献の収集と調査 ①					図書館等で文献検索を行う								
7. " : 各自で文献の収集と調査 ②					図書館等で文献検索を行い、文献を読み進める								
8. " : 文献調査のまとめ ①					文献を読み進める								
9. " : 文献調査のまとめ ②					文献を読み進める								
10. " : 文献調査のまとめ ③					収集した文献をまとめ、報告資料を作成する								
11. " : 文献調査の報告					報告資料の修正、研究計画について検討する								
12. 今後の計画策定					研究計画を修正し、研究計画書を完成させる								
13. 研究指導：個別に調査等の指導 ①					時間内に終わらなかった調査等を進める								
14. " : 個別に調査等の指導 ②					時間内に終わらなかった調査等を進める								
15. " : 個別に調査等の指導 ③					時間内に終わらなかった調査等を進める								
16. " : 個別に調査等の指導 ④					時間内に終わらなかった調査等を進める								
17. " : 個別に調査等の指導 ⑤					時間内に終わらなかった調査等を進める								
18. レポート指導：レポートの書き方					これまでの成果をまとめたレポート作成する								
19. " : 個別にレポート作成の指導 ①					レポート作成を進める								
20. " : 個別にレポート作成の指導 ②					レポート作成を進める								
21. " : 個別にレポート作成の指導 ③					レポート作成を進める								
22. " : 個別にレポート作成の指導 ④					レポート作成を進める								
23. 抄録作成指導：抄録の書き方					抄録原稿を作成する								
24. " : 個別に抄録原稿の修正					抄録を修正し、プレゼンテーション資料の素案を作る								
25. 発表資料作成指導：プレゼンテーション資料の作り方					プレゼンテーション資料を作成する								
26. " : 個別にプレゼン資料の作成指導					プレゼンテーション資料を作成する								
27. " : 個別にプレゼン資料の作成指導と発表練習					プレゼンテーション資料を完成させる								
28. 研究室での発表練習会					プレゼンテーション資料の修正と自主トレ								
29. 専門研究発表会					発表内容について省みる								
30. 専門研究発表会の反省、レポート完成					発表会での指摘内容を論文に反映させる								
履修上の注意 日頃から伝統染織に関する情報を収集するように心掛けてください。文献や資料の調査、レポート作成などについては、各自で積極的に進め、意欲的に取り組んでください。													
成績評価方法・基準 平常の取り組みによる評価 (研究ノート等) を 50% とし、調査の成果・レポート・発表会でのプレゼンテーションを 50% として評価します。研究ノートや作成資料については個別指導時に添削・指導します。													
教科書 各自のテーマに沿って指示する。													
参考書 各自のテーマに沿って指示する。													
備考 ：質問等は、オフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) 時にも受け付けます。													

授業科目名	専門研究Ⅰ（商品学）			単位（総授業時間＋自習時間）					4(60+60)			
担当者	水谷 浩	必・選	必	形態	演習	学期	通年	対象	服専3年			
授業概要（目的）												
<p>本演習は、消費生活協同組合や民間シンクタンクなどでの実務経験や『消費生活コンサルタント(第46期)』の経歴を踏まえ「身体の不自由なヒトの生活の質と衣生活」という視点から、フィールド調査および商品特性に関する研究を指導する。また、専門的な学びを深めるため『色彩検定 UC 級』の資格取得を推奨します。</p> <p>具体的には、①身体の不自由なヒトの身体的・感覚的・認知的特性を学び②彼らの衣生活に関してのフィールド調査、③アクセシブルデザイン（Accessible Design: 身体の不自由なヒトの更衣動作への工夫や配慮）の研究を通じて、人間中心設計（Human Centered Design:HCD）の考え方に基づく、被服観の修得をめざす。</p>												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
・商品学的な視点で、被服の商品特性を理解できる									○	○	○	○
・身体の不自由なヒトの困難さについて共感的に理解できる									○	○	○	○
・アクセシブルデザインの意義を理解し、説明できる									○	○	○	○
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）								
1 はじめに：専門研究のすすめ方（3年担任：植松）				クラス担任により事前・事後学習実施								
2 研究室の割り振り・研究倫理（3年担任：植松）												
3 研究課題の設定にむけて（以下、全コマ水谷） 研究の社会的意義を踏まえ、問題意識を明らかにする				<p>研究の社会的意義（問題意識）を明確にした上で、自らの仮説にもとづき、それを解決するための先行研究や統計調査をすすめる。</p> <p>次に、フィールド調査を実施し、そこから得られたデータを整理・図表化することにより、これらデータの意味について考察する。</p>								
4-6 身体の不自由なヒトたちの暮らし 色覚特性の理解を通じて、色づかいの学びを深める												
7-8 視覚情報のユニバーサルデザイン 「誰もが見やすい配慮や工夫」について学ぶ												
9-10 研究の企画・立案 先行研究を調査し、新たな課題（テーマ）を見つける												
11 研究Ⅰ(個別テーマ) 研究目的を明確化し、基礎統計資料を収集・分析する												
12 研究Ⅱ(個別テーマ) 仮説(調査内容)を検討する												
13 研究Ⅲ(個別テーマ) フィールド調査(アンケート・インタビュー)を実施する												
14-15 課題制作Ⅰ（試作） 課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める												
16 実証実験 実証実験を通じて、課題発見力を学ぶ												
17-25 課題制作Ⅱ（改良・改善） 改善改良を通じて、問題解決力を学ぶ												
26-28 論文執筆 研究成果を論文にまとめる				フィールド調査および課題制作の結果を論文にまとめ、それらを簡潔に説明するための発表資料を作成する。								
29 報告会準備 報告会のための発表資料をまとめる												
30 まとめ（報告会）												
履修上の注意												
<p>自主的な調査・研究には、知識と経験の積み重ねが不可欠となる。毎日最低1時間以上、文献・資料調査、もしくは課題の制作など、予習・復習を継続すること。2/3以上の出席がない場合には、単位取得できない。</p>												
成績評価方法・基準												
<p>平常点・授業への参加態度(5%)+制作物・論文(50%)+報告会での研究発表(45%)にもとづき評価する。</p> <p>なお、制作物・論文・発表資料のフィードバックについては、適時、行います。</p>												
教科書 各自の自主研究のテーマや専門分野に応じて指示する。												
参考書 授業中に適宜指示する。												
備考(「消費生活研究室(水谷ゼミ)」希望者は、以下の条件を満たすこと)												
① 「消費者力検定」の有資格者であり「色彩検定 UC 級」の資格取得に意欲的な学生												
② フィールド調査は、授業の空き時間や休日に実施します。また、課題制作費は自己負担となります。												
※質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。												

授業科目名	専門研究 I			単位 (総授業時間+自習時間)				4(60+30)					
担当者	宮前 理	必・選	必	形態	演習	学期	通年	対象	服専3年				
授業概要													
臨床心理学ではいわゆる「心の病」に対する心理アセスメントや心理療法などの心理的支援の実践を通して、人間の心身の健康について研究する。人間にとって幸せとは何かという問い、さらに人間とはそもそも如何なる存在かという問いと直面する研究領域でもある。この分野の研究論文や著書の精読と発表を積み重ね、臨床心理学の基本的研究方法と考え方を教授する。論文の書き方、プレゼンテーションの手法も指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
研究目的を理解し文献購読の取り組み方が身につく。										○	○	○	○
臨床心理学の基本的研究方法とその内容を理解できる。										○	○	○	○
研究成果をまとめ論文として発表できるようになる。										○	○	○	○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1.はじめに：専門研究の進め方 (3年担任：植松)					過去の研究内容を調べる。								
2.研究室の割り振り・研究倫理 (3年担任：植松)					過去の研究内容を調べる。								
3. 4. 5. 6.研究課題の設定 (以下全コマ：宮前理)					文献検索を通して研究領域を知る。								
7. 8. 臨床心理学領域の研究論文1を読み発表する					研究論文を熟読する								
9. 10. 臨床心理学領域の研究論文2を読み発表する					研究論文を熟読する								
11. 12. 臨床心理学領域の研究論文3を読み発表する					研究論文を熟読する								
13. 14. 文献購読の総合的なまとめと発表					論文1~3を総合的に理解する。								
15.16. 臨床心理学の研究書を読み発表する1					研究書を章ごとに熟読する1								
17.18. 臨床心理学の研究書を読み発表する2					研究書を章ごとに熟読する2								
19.20. 臨床心理学の研究書を読み発表する3					研究書を章ごとに熟読する3								
21.22. 臨床心理学の研究書を読み発表する4					研究書を章ごとに熟読する4								
23.24. 臨床心理学の研究書を読み発表する5					研究書を章ごとに熟読する5								
25.26. 臨床心理学の研究書を読み発表する6					研究書を章ごとに熟読する6								
27.28. 研究書の総合的なまとめと論文作成					研究書を総合的に理解する。								
29.30. 課題研究発表					発表資料の作成								
履修上の注意													
受講者は原則として中高教員免許取得見込み学生に限ります。													
研究論文や研究書の熟読、そのまとめと発表が1年間続きます。相当な自習時間が必要です。													
成績評価方法・基準													
資料の事前の熟読と発表資料の準備 30%と毎回の発表 30%、最後の研究発表会 40%とします。													
課題・レポート等については講義の中でフィードバックします。													
教科書 ：購読する論文は資料を配布する。研究書は演習時に指定する。													
参考書 ：必要に応じて配布する。													
備考 ：質問等は講義時、あるいはオフィスアワーに受け付けます。													
受講人数等の事情により授業計画の修正を行う場合があります。													

授業科目名	専門研究 I				単位 (総授業時間+自習時間)	4							
担当者	宮澤 孝子	必・選	必	形態	演習	学期	通年	対象	服専 3年				
授業概要													
教育の法、制度、政策に関する研究主題 (問い) を選定し、それについての応答を探求する。3年前期においては、基本的な文献および資料を読解する力を養うことを目的とし、参考文献の熟読と解説を行う。後期には、各自の問題関心に近い文献や論文を収集・報告し、研究主題を決定する。演習時の報告担当者は、論理の展開が一目でわかるレジュメを作成するように努めること。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 基本的な文献を読解し、それをまとめる力を身につける。										○	○	○	○
2. 研究に要する文献・論文・資料を選定する力を身につける。										○	○	○	○
3. オリジナルの問いを設定し、研究方法を決定する。										○	○	○	○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1.はじめに：専門研究の進め方 (3年担任：植松)					過去の研究内容を調べる。								
2.研究室の割り振り・研究倫理 (3年担任：植松)					過去の研究内容を調べる。								
3.研究課題の設定 (以下、担当：宮澤)、文献読解 1-1					自らの課題意識を話せるようにする。課題意識に関わる簡単な文献を読んでまとめてくる。								
4.レジュメの作成方法について、文献読解 1-2					まとめた内容を報告、レジュメの作成方法について学ぶ。								
5~9.文献読解 2、報告					基礎的な文献を読み、レジュメにまとめ、その都度フィードバックを行う。								
10~15.文献読解 3、報告					基礎的な文献を読み、レジュメにまとめ、その都度フィードバックを行う。								
16.問題意識の整理					夏休み期間中に問題意識に関わる文献を選定し、精読した上で、問題意識をレジュメにまとめてくる。								
17~25. 文献・論文の選定、読解、資料収集					問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジュメにまとめ、報告する。								
26~29.中間まとめと報告の準備					論文の概要を A4×4 枚にまとめ、それをもとに報告内容を作成する。								
30.専門研究 I 発表会					パワーポイントあるいはレジュメ作成のいずれか研究テーマに適した方法で成果をまとめる。								
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許 (中・高・栄) 取得のために必要とされる教職科目を全て履修していることを履修条件とする。 ・専門研究 I を履修する者は、専門研究 II も継続して履修することが望ましい。 ・自ら考え、自らの設定する研究課題に取り組む、意欲的な姿勢を歓迎する。 													
成績評価方法・基準													
演習時に作成するレジュメ、報告内容をもって評価する。													
教科書：指定なし													
参考書：兼子仁 (1976) 『入門教育法』エイデル研究所、堀尾輝久 (2019) 『人権としての教育』岩波書店													
備考													
<ul style="list-style-type: none"> ・演習の曜日および時限については、履修生の時間割を考慮して設定する。 ・教員と履修生の都合上、演習日程に変更を要する場合は、柔軟に対応する。 													

授業科目名	課題研究Ⅱ（教授学習心理学）			単位（総授業時間＋自習時間）				4（60＋60）					
担当者	植松 公威	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服専4年				
授業概要													
課題研究Ⅰで得られた課題や問題点を見つけ出し、再度、方法を工夫したり、改善したりすることを通して新たな実験を試みることが重要である。このようなプロセスによって今まで誰も発見できなかった新たな知見を見出すことができるように教授する。課題研究Ⅰの延長として、より高次の教育目標を達成するために、前回の分析と反省に基づき、新たな仮説の検証ができるように教授する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
課題研究Ⅰの課題を見つけ、実験方法を改善する問題解決力を身につける										○	○	○	○
丁寧に関わりやすく論文をまとめる思考力や生涯学習力を身につける										○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 課題研究Ⅱの目的（研究継続の必要性）					課題研究Ⅰの結果を振り返る								
2. 課題研究Ⅱに向けての創造的思考を使う					ブレインストーミングを活用する								
3. 新しい仮説を生み出すために方法の改善や修正を考える					納得できるまで議論する								
4. 方法の改善と仮説の設定					新たな実験の構想を立てる								
5. 実験の準備					冊子の原案を作る								
6. 実験の準備					改善点・修正箇所の検討								
7. 実験の準備					研究倫理に配慮する								
8. 実験の準備					冊子の印刷								
9. 実験の実施					表紙を読み上げ、注意点を述べる								
10. データの集計					エクセルを使い、データを入力する								
11. データの集計					エクセルを使い、図や表を作成する								
12. データの集計					仮説の適否について検討する								
13. データの分析					色々な観点からデータを分析する								
14. 論文の作成					問題と目的の検討								
15. 論文の作成					方法の検討								
16. 論文の作成					結果についてまとめる								
17. 論文の作成					結果の表や図を挿入する								
18. 論文の作成					考察の検討								
19. 論文の作成					全体を通して点検する								
20. 抄録の作成					研究成果の要点をまとめる								
21～25. プレゼンテーション資料作成					パワーポイントを使って発表資料を作成								
26～28. プレゼンテーション原稿作成					わかりやすく発表原稿をまとめる								
29～30. プレゼンテーション予行練習					自信をもってわかりやすく伝える練習								
履修上の注意													
指導教官との共同研究として、お互いに議論や意見交換しながら、熱心に取り組むこと。													
成績評価方法・基準 ：研究に対する取り組み 30%，論文の内容 30%，研究発表の準備と当日のパフォーマンス 40%。取り組みや論文については、その都度フィードバックしながら指導します。													
教科書 必要に応じて授業前に資料を配付する													
参考書 研究課題に応じて指示する													
備考 質問等については、いつでもお答えします。各セッションの中で、または終了時に、あるいはオフィスアワーを利用して質疑応答をすることも可能です。													

授業科目名	課題研究Ⅱ（被服科学）				単位（総授業時間＋自習時間）				4(60+60)				
担当者	井上 美紀	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服専4年				
授業概要													
被服科学分野では、課題研究Ⅰから引き続き、家政学を基本として、被服整理・染色加工・被服材料に関連する分野の研究課題を設定して取り組む。授業では、課題に応じて文献調査と実験を行う。さらに課題に対する成果は論文にまとめ、発表（課題研究発表会でのプレゼンテーション、課題研究展でのポスター展示）する。このための研究課題の設定、文献調査の手法、実験方法、論文のまとめ方、発表方法等、研究の手法を教授する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
自己管理能力、倫理観、課題解決能力、応用力等を身につける。										○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. はじめに：課題研究Ⅱの進め方					課題研究Ⅰの内容を見直す。								
2. 研究計画Ⅰでの成果と課題					課題研究Ⅰの内容を見直す。								
3. 研究計画 計画案の策定と修正立案					課題に取り組む。								
4. 文献調査1 文献の検索					文献資料を収集する。課題に取り組む。								
5. 文献調査2 内容の整理					課題に取り組む。								
6. 文献調査3 まとめ					文献調査を完成させる。								
7. 実験計画1 試料準備					研究計画を振り返り、計画する。								
8. 実験1 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
9. 実験2 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
10. 実験3 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
11. 実験4 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
12. 実験5 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
13. 実験6 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
14. 実験データの整理と考察1					データ整理とディスカッションの準備。								
15. ディスカッション① 実験1～6					考察を完成させる。								
16. 実験計画2 試料準備					前期の内容を振り返り、計画する。								
17. 実験7 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
18. 実験8 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
19. 実験9 課題に応じた内容					課題に取り組む。								
20. 実験データの整理と考察2					データ整理とディスカッションの準備。								
21. ディスカッション② 実験7～9					考察を完成させる。								
22. 論文の構成					課題に取り組む。								
23. 論文作成1					課題に取り組む。								
24. 論文作成2					課題に取り組む。								
25. 論文作成3					論文を完成させる。								
26. 抄録作成					課題に取り組み抄録を完成させる。								
27. プレゼンテーション資料作成、発表練習					課題に取り組みプレゼンに備える。								
28. プレゼンテーション					課題に取り組む。								
29. ポスターセッション資料作成					ポスターを完成させる。								
30. おわりに 課題研究のまとめ					課題研究ⅠとⅡを振り返る。								
履修上の注意													
実験は安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねる。 課題研究Ⅰと同じ指定の実験ノートを準備する。													
成績評価方法・基準													
事前準備をし、実験やディスカッションに取り組みデータを適切にまとめている事に対し50% 論文・プレゼンテーションに対し50%													
教科書 研究課題に応じて指示する。													
参考書 必要に応じて紹介します。													
備考													
実験内容、作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間の変更と延長等を行う場合がある。 質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。 評価や進め方は1回目の授業で説明する。 課題は、授業中にフィードバック、または後日添削して返却する。 課題が未提出、実施されない等の際には、評価の対象としないことがある。													

授業科目名	課題研究Ⅱ（商品学）			単位（総授業時間＋自習時間）				4(60+60)				
担当者	水谷 浩	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服専4年			
授業概要（目的）												
<p>本演習は、消費生活協同組合や民間シンクタンクなどでの実務経験や『消費生活コンサルタント(第46期)』としての経歴を踏まえ『課題研究Ⅰ』での知見をさらに深めるため、フィールド調査や商品特性に関する研究などを指導する。</p> <p>具体的には「あなたの研究は、どのように社会の役に立つのか?」という視点から、社会的意義をより明確にし、フィールド調査や被服の商品特性に関する研究成果の<u>学会発表（日本家政学会もしくは日本商品学会）</u>を通じて、課題発見力や問題解決力に加えて、総合的な専門知識・技能修得をめざす。</p>												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
・商品学的視点から、研究の社会的意義を理解し、説明できる									○	○	○	○
・課題解決のための研究方法を立案し、計画的に実行できる									○	○	○	○
・研究成果（制作物）を論文にまとめ、効果的に発表できる									○	○	○	○
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）								
1 オリエンテーション（授業のすすめ方・評価など）				課題Ⅰの振り返り								
2 今年度の研究計画（昨年度の振り返り） 昨年度の研究成果を踏まえ、研究計画を作成する												
3-4 研究の社会的意義（問題認識）について明確化 課題や現況について、自らの問題認識を明らかにする				<p>研究の社会的意義（問題意識）を明確にした上で、自らの仮説にもとづき、それを解決するための先行研究や統計調査をすすめる。</p> <p>次に、フィールド調査を実施し、そこから得られたデータを整理・図表化することにより、これらデータの意味について考察する。</p>								
5-6 文献研究 研究テーマにそって、先行研究の調査・分析をすすめる												
7-8 統計調査 研究テーマにそって、統計資料の調査・分析をすすめる												
9-10 仮説の検討 自らの研究について、結論（仮説）を検討する												
11 フィールド調査の事前指導 対外的な研究協力の要請方法・マナーを学ぶ												
12 フィールド調査の実施 アンケート調査やインタビューなどを実施する												
13 フィールド調査の振り返り 研究の方向性や内容（仮説）を再検討する												
14-15 課題制作Ⅰ（試作） 課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める												
16 実証実験 実証実験を通じて、課題発見力を学ぶ												
17-25 課題制作Ⅱ（改良・改善） 改善改良を通じて、問題解決力を学ぶ												
26-28 論文執筆 研究成果を論文にまとめる				フィールド調査および課題制作の結果を論文にまとめ、それらを簡潔に説明するための発表資料を作成する。								
29 報告会準備 報告会のための発表資料をまとめる												
30 まとめ（報告会）												
履修上の注意												
自主的な調査・研究には、知識と経験の積み重ねが不可欠となる。毎日最低1時間以上、文献・資料調査、もしくは課題の制作など、予習・復習を継続すること。2/3以上の出席がない場合には、単位取得できない。												
成績評価方法・基準												
平常点・授業への参加態度(5%)+制作物・論文(50%)+ <u>学会での研究発表(45%)</u> にもとづき評価する。 なお、制作物・論文・発表資料のフィードバックについては、適時、行います。												
教科書 各自の自主研究のテーマや専門分野に応じて指示する。												
参考書 授業中に適宜指示する。												
備考												
フィールド調査は、授業の空き時間や休日に実施します。また、課題制作費などは、自己負担となります。なお、質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。												

健康栄養学専攻専攻科目

授業科目名	社会福祉論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	伊藤 常久	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専1年					
授業の概要														
<p>国民が健康で自立した安心できる生活を送ることができるよう支援することは、社会福祉の目的の一つである。講義では、日本や諸外国における社会福祉の歴史と発展について取り上げながら、社会福祉の理念や考え方について紹介する。また、少子高齢化が一層進みつつある我が国の高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉の仕組み（法・制度）と現状と合わせ、現在生じているさまざまな課題等について、私たちの生活と関連付けて解説する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
社会福祉の理念や概念について理解する。						○	○		○					
社会福祉に関連する法・制度を理解する。						○	○		○					
社会福祉の現状や課題について考える力を身につける。						○	○		○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出									
2. 日本における社会福祉の歴史と発展					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出									
3. 諸外国における社会福祉の歴史					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出									
4. 諸外国における社会福祉の現状とその制度（VTR）					VTRの内容をまとめ、感想と共に次回提出									
5. 社会福祉のニーズとは					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出									
6. 社会福祉に携わる専門職					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出									
7. ボランティア					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出									
8. 社会福祉援助技術					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出									
9. 障害者福祉①概念とその歴史					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出									
10. 障害者福祉②身体障害者補助犬法					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出									
11. 高齢者福祉					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出									
12. 児童福祉					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出									
13. 子どもの権利条約					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出									
14. 貧困問題と社会福祉					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出									
15. これからの社会福祉、まとめ、授業評価アンケート					配布プリントの復習と講義内容の振り返り									
16. 試験					筆記試験に向けた復習									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。 講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> 期末試験（70%）、受講態度：主としてミニットペーパーの提出状況より判断する（30%）。 各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。 試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。 														
教科書 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。														
参考書〔新版 社会福祉概論〕〔金子光一編著〕〔建帛社〕〔2,484円〕														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。 														

授業科目名	公衆衛生学 I			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)							
担当者	伊藤 常久	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専3年						
授業の概要															
生活における健康をどのように捉え、どう考えるのか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを科学的な角度から紹介する。公衆衛生学 I では、主に公衆衛生の概念や歴史といった概要の他、疾病と予防対策、保健衛生統計等の意義と役割、及び社会と健康について概説する。また、医学や疫学をはじめとする諸科学と公衆衛生との関係、そして各ライフステージにおける公衆衛生活動とその現状についても合わせて説明する。															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
公衆衛生の概念や歴史について理解する。							○	○		○					
ライフステージ・分野毎の公衆衛生活動を理解する。							○	○		○					
公衆衛生の状況や課題を把握する力を身につける。							○	○		○					
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス、公衆衛生概要：健康の概念						教科書の復習とミニットペーパーの提出									
2. 公衆衛生概要：公衆衛生の概念と歴史						教科書の復習とミニットペーパーの提出									
3. 主要疾患の疫学と予防対策：生活習慣病の概念						教科書の復習とミニットペーパーの提出									
4. 主要疾患の疫学と予防対策：主要部位のがん、その他						教科書の復習とミニットペーパーの提出									
5. 公衆衛生に関する統計資料：保健統計						教科書の復習とミニットペーパーの提出									
6. 公衆衛生に関する統計資料：人口動態統計、その他						教科書の復習とミニットペーパーの提出									
7. 健康・疾病の測定と評価：疫学の概念						教科書の復習とミニットペーパーの提出									
8. 健康・疾病の測定と評価：疫学の応用						教科書の復習とミニットペーパーの提出									
9. 環境と健康：生態系と人間生活						教科書の復習とミニットペーパーの提出									
10. 環境と健康：環境汚染と健康						教科書の復習とミニットペーパーの提出									
11. 国民健康づくり対策						教科書の復習とミニットペーパーの提出									
12. 学校保健						教科書の復習とミニットペーパーの提出									
13. 母子保健						教科書の復習とミニットペーパーの提出									
14. 産業保健						教科書の復習とミニットペーパーの提出									
15. 高齢者保健、まとめ						教科書の復習と講義内容の振り返り									
16. 試験						筆記試験に向けた復習									
履修上の注意															
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。 講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。 															
成績評価方法・基準															
<ul style="list-style-type: none"> 期末試験（70%）、受講態度：主としてミニットペーパーの提出状況より判断する（30%）。 各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。 試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。 															
教科書 〔衛生・公衆衛生学〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,024円〕															
参考書 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。															
備考															
<ul style="list-style-type: none"> 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。 															

授業科目名	公衆衛生学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	伊藤 常久	必・選	管栄(必)	形態	講義	学期	後期	対象	健専3年					
授業の概要														
生活における健康をどのように捉え、どう考えるのか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを科学的な角度から紹介する。公衆衛生学Ⅱでは、健康状態・疾病の測定の評価をはじめ、生活習慣の現状とその対策、保健・医療・福祉・介護等の制度、日本や海外の公衆衛生の取り組み、そして、国際的な健康戦略であるヘルスプロモーションの概念等について説明を行う。また、生命と安全に関わる防災対策と公衆衛生との関連についても概説する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
公衆衛生に関する法・制度を理解する。						○	○		○					
公衆衛生行政・事業と人々の健康状態について理解する。						○	○		○					
公衆衛生の状況や課題を把握し、考える力を身につける。						○	○		○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 健康・疾病の測定と評価：疫学調査・デザインの解釈					教科書の復習とミニットペーパーの提出									
2. 健康・疾病の測定と評価：リスクアナリシス					教科書の復習とミニットペーパーの提出									
3. 健康・疾病の測定と評価：疫学研究と倫理					教科書の復習とミニットペーパーの提出									
4. 生活習慣の現状と対策：保健行動の概念とモデル					教科書の復習とミニットペーパーの提出									
5. 生活習慣の現状と対策：保健行動のグループワーク					教科書の復習とミニットペーパーの提出									
6. 公衆衛生の法規・制度（衛生行政）					教科書の復習とミニットペーパーの提出									
7. 保健と医療：社会保障の概念					教科書の復習とミニットペーパーの提出									
8. 保健と医療：医療制度と保健					教科書の復習とミニットペーパーの提出									
9. 福祉と介護：介護保険制度					教科書の復習とミニットペーパーの提出									
10. 福祉と介護：保健・医療・福祉・介護の連携					教科書の復習とミニットペーパーの提出									
11. 環境保健、国際保健					教科書の復習とミニットペーパーの提出									
12. 精神保健					教科書の復習とミニットペーパーの提出									
13. 災害と公衆衛生					教科書の復習とミニットペーパーの提出									
14. ヘルスプロモーション					教科書の復習とミニットペーパーの提出									
15. まとめ					教科書の復習と講義内容の振り返り									
16. 試験					筆記試験に向けた復習									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。 講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> 期末試験（70%）、受講態度：主としてミニットペーパーの提出状況より判断する（30%）。 各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。 試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。 														
教科書〔衛生・公衆衛生学〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,024円〕														
参考書 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。 														

授業科目名	健康管理概論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	伊藤 常久	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専1年					
授業概要														
現在の日本が世界的にもトップクラスの長寿国となった実情を踏まえ、今後の健康管理のあり方について教授する。具体的には、これまでの日本における疾病構造の変遷について学習すると共に、特に近年における悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、肥満といったいわゆる非感染性疾患（生活習慣病）が増加している現実及びその主な要因等について解説する。また、各種疾病を含む健康現象についても概説し、私たちの健康度を維持増進させるための学習と実践の意義について述べる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
「健康とは何か」を説明できる基礎的知識を身につける。					○	○								
平均寿命より健康寿命こそが重要であることを認識する。					○	○								
健康寿命の延伸には自助努力が重要であることを認識する。							○							
健康情報の利用・管理法等についても学び、専門的職業人になるための実力を身につける。									○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 「健康管理概論」概説（ガイダンス）					今後の「自身の抱負」をまとめ、次回提出									
2. 「健康的痩身方法についての実証的研究」について					学習内容（感想を含む）をまとめ、次回提出									
3. 「日本人の平均寿命延長の主な要因」について					教科書・配布プリントの復習、及び次回の予習									
4. 「少子高齢化の日本の姿」について					教科書・配布プリントの復習、及び次回の予習									
5. 「現代の日本における健康の姿」について					教科書・配布プリントの復習、及び次回の予習									
6. 「日本人に多い疾病及び死因の今昔」について					教科書・配布プリントの復習、及び次回の予習									
7. 「ライフスタイルの現状と課題」について					教科書・配布プリントの復習、及び次回の予習									
8. 「メタボリックシンドロームとその予防」について					教科書・配布プリントの復習、及び次回の予習									
9. 「ロコモティブシンドロームとその予防」について					教科書・配布プリントの復習、及び次回の予習									
10. 「転ばぬ先の杖（骨）づくり」について					学習内容（感想を含む）をまとめ、次回提出									
11. 「総合保健活動としての第一次～第三次予防」について					教科書・配布プリントの復習、及び次回の予習									
12. 「性と健康」（STD 及び HIV/AIDS 等を含む）について					教科書・配布プリントの復習、及び次回の予習									
13. 「冬場に多いヒートショックとその予防」について					教科書・配布プリントの復習、及び次回の予習									
14. まとめ、「今後の栄養・運動・休養」について					筆記試験に向けた復習									
15. 期末試験					自己採点による反省・評価と講義内容の振り返り									
16. 試験問題の解説及び総括					授業に対する自己評価及び授業評価									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。 講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> 期末試験（60%）、受講態度：主としてミニットペーパーの提出状況より判断する（40%）。 各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。 試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。 														
教科書：〔衛生・公衆衛生学〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,024円〕														
参考書：資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。 														

授業科目名	解剖生理学 I				単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)										
担当者	曾根 正彦	必・選	必修	形態	講義	学期	後期	対象	健専 1年										
授業概要 生命現象をなすヒトの体の構造 (解剖学) と機能 (生理学) とは表裏一体である。つまり生命現象を理解するには、解剖学と生理学を統合的に関連付けて学習する事が望ましい。この授業では臨床医としての経験から、実践的な医療現場での事例や最新医学の話題なども紹介して、健康と栄養に関連する基礎的な知識の修得を目指す。解剖生理学は領域が広範であるため、1年後期の解剖生理学 I と2年前期の解剖生理学 II に分けてある。解剖生理学 I では総論、感覚器系、運動器系、神経系、尿路・生殖器系について解説する。																			
授業の到達目標					学位授与の方針との関連														
					1	2	3	4	5	6	7	8	9						
・解剖生理学の基本的知識を学び身につける。					○	○	○												
・人体の構造と機能が破綻した病気との関連を理解できる。					○	○	○												
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。						○													
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)														
1. オリエンテーション、人体の基本構造					第1章 A をよく読み、不明点は質問														
2. 人体の基本構造 (細胞・組織など)					第1章 BCD をよく読み、不明点は質問														
3. 感覚器系 (総論・各論)					第9章 AB をよく読み、不明点は質問														
4. 感覚器系 (各論)					第9章 CD をよく読み、不明点は質問														
5. 感覚器系 (各論)					第9章 EF をよく読み、不明点は質問														
6. 運動器系 (総論、骨格など)					第10章 AB をよく読み、不明点は質問														
7. 運動器系 (骨格筋～体幹部など)					第10章 CD をよく読み、不明点は質問														
8. 運動器系 (上下肢、頭頸部など)					第10章 EFG をよく読み、不明点は質問														
9. 神経系 (総論、中枢神経)					第8章 ABC をよく読み、不明点は質問														
10. 神経系 (末梢神経)					第8章 D～G をよく読み、不明点は質問														
11. 自律神経系 (総論・各論)					第7章 AB をよく読み、不明点は質問														
12. 尿路系、生殖器系 (総論)					第5章 C 第11章 A を読み不明点は質問														
13. 生殖器系 (各生殖器など)					第11章 BC をよく読み、不明点は質問														
14. 生殖器系 (乳腺、発生など)					第11章 DE をよく読み、不明点は質問														
15. 筆記試験					講義の復習および誤答箇所の事後学修														
16. 後期講義の補足説明および試験問題の説明					誤答を確認し、解答説明で知識を整理														
履修上の注意 解剖生理学の学習のためには生物学の知識が重要である。 事前に生物学の知識を十分に整理しておくことが望ましい。																			
成績評価方法・基準 期末試験 (90%程度) とミニットペーパー提出等の受講状況 (10%程度) で評価する。また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。																			
教科書 [なるほどなっとく! 解剖生理学 改訂2版] [多久和典子 多久和 陽 著] [南山堂] [3,200円]																			
参考書 「無し」																			
備考 都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。 質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。																			

授業科目名	解剖生理学 II				単位 (総授業時間+自習時間)	2(30+60)			
担当者	曾根 正彦	必・選	管栄 (必)	形態	講義	学期	前期	対象	健専2年
授業概要	生命現象をなすヒトの体の構造 (解剖学) と機能 (生理学) とは表裏一体である。つまり生命現象を理解するには、解剖学と生理学を統合的に関連付けて学習する事が望ましい。この授業では臨床医師としての経験から実践的な医療現場での事例や最新医学の話題なども紹介して、健康と栄養に関連する基礎的な知識の修得を目指す。解剖生理学は領域が広範であり解剖生理学 I と解剖生理学 II に分けてある。解剖生理学 II は循環器系、呼吸器系、消化器系、腎・尿路系、血液・免疫系、内分泌系などを解説する。								
授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・解剖生理学の基本的知識を学び身につける。	○	○	○						
・人体の構造と機能が破綻した「病気」との関連を理解できる。	○	○	○						
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。		○							
授業計画の内容	自習 (事前・事後学修の内容)								
1. オリエンテーション、循環器系 (循環、心臓)	第2章 ABC をよく読み、不明点は質問								
2. 循環器系 (血管系、血圧調節)	第2章 DE をよく読み、不明点は質問								
3. 循環器系 (リンパ管系、微小循環)、呼吸器系 (総論)	第2章 FG および第3章 A をよく読み 不明点は質問								
4. 呼吸器系 (呼吸器系の構造)	第3章 BCD をよく読み、不明点は質問								
5. 呼吸器系 (呼吸器系の機能など)	第3章 EFG をよく読み、不明点は質問								
6. 消化器系 (総論、口、咽頭、食道)	第4章 AB をよく読み、不明点は質問								
7. 消化器系 (胃、小腸、大腸)	第4章 B をよく読み、不明点は質問								
8. 消化器系 (肝臓、胆嚢、膵臓など)	第4章 CD をよく読み、不明点は質問								
9. 腎・尿路系 (総論、腎臓の構造)	第5章 A をよく読み、不明点は質問								
10. 腎・尿路系 (腎臓の機能)	第5章 B をよく読み、不明点は質問								
11. 血液 (血液総論、血漿、血液細胞など)	第6章 A~E をよく読み不明点は質問								
12. 血液・免疫系 (自然免疫、獲得免疫など)	第6章 FG をよく読み不明点は質問								
13. 内分泌系 (総論)	第7章 C をよく読み、不明点は質問								
14. 内分泌系 (各論)	第7章 D をよく読み、不明点は質問								
15. 筆記試験	講義の復習および誤答箇所の事後学修								
16. 第2-7章の補足説明および試験問題の説明	誤答を確認し、解答説明で知識を整理								
履修上の注意	解剖生理学の学習のためには生物学の知識が重要である 事前に生物学の知識を十分に整理しておくことが望ましい。								
成績評価方法・基準	期末試験 (90%程度) とミニットペーパー提出等の受講状況 (10%程度) で評価する。 また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。								
教科書	〔なるほどなっとく! 解剖生理学 改訂2版〕〔多久和典子 多久和 陽 著〕〔南山堂〕〔3,200円〕								
参考書	「無し」								
備考	都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。 質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。								

授業科目名	運動生理学				単位(総授業時間+自習時間)	2(30+60)											
担当者	川俣 幸一	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専2年								
授業概要																	
<p>本授業では、運動に伴う生理的な諸現象について学習すると共に、現代人の多くが罹患する可能性がある各種生活習慣病の予防及び要介護予防等に必要運動処方を作成するための基礎的知識について教授する。そして、対象者(運動実施者)の身体的特性等に応じた適切な運動処方を作成できるまでの能力を身につけさせる。加えて受講者個々人に対しても、自分に合った運動やスポーツを積極的・継続的に実践していく人材に成長していけるよう指導する。</p>																	
授業の到達目標					学位授与の方針との関連												
					1	2	3	4	5	6	7	8	9				
「運動生理学」についての基礎的知識を身につける。					○		○										
運動と健康・体力との関連性に関する認識を深める。						○	○										
科学的・合理的な運動処方を作成できる能力を身につける。									○								
今後の健康・体力の維持増進への意欲と実践力を身につける。									○								
授業計画の内容					自習(事前・事後学修の内容)												
1. 概論/暑熱環境①(気温・汗)					復習、及び次回の予習												
2. 暑熱環境②(水分補給)					同上												
3. 運動とエネルギー代謝					同上												
4. 呼吸循環器系と持久力①(理論)					同上												
5. 呼吸循環器系と持久力②(実際)					同上												
6. 骨格筋の種類と筋力①(理論)					同上												
7. 骨格筋の種類と筋力②(実際)					同上												
8. 前半のまとめ回					ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと												
9. 健康づくりのための身体活動基準 2013					復習、及び次回の予習												
10. スポーツと栄養学①(理論)					同上												
11. スポーツと栄養学②(実際)					同上												
12. 糖尿病の運動療法					同上												
13. ライフステージ別の運動①(幼児期～成人期)					同上												
14. ライフステージ別の運動②(高齢期)					同上												
15. 後半のまとめ回					ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと												
履修上の注意																	
<p>応用栄養学、基礎栄養学、生化学、解剖生理学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの問題行為が判明した学生は受講態度が一律0点となるので、単位の認定を行うことがほぼ出来なくなります。</p>																	
成績評価方法・基準																	
小テスト・・・60% 受講態度・・・40%																	
教科書 : 適宜プリントを配布する																	
参考書 : なし																	
備考																	
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。小テストは採点をして返却する。																	

授業科目名	微生物学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	黒川 優子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専2年					
授業の概要														
<p>私たちの身の回りには病原性の細菌やウイルスが存在し、日常の生活に有害な作用を示すが、その一方で、味噌、納豆、酒類など私たちの日常生活に役立つ微生物も少なくない。人間と微生物の関わりを理解するために、微生物の種類と特徴、微生物による疾患、微生物を用いた食品などについて学ぶ。さらに、病原性微生物の場合、感染および発症機構や免疫機構等についても理解を深める。また、環境中の微生物の単離方法、合成化学物質の微生物分解等、これまでの実務経験を反映させた講義を行う。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
それぞれの微生物の特徴を習得する。					○	○	○		○					
微生物と人間との関わり方を理解する。					○	○	○		○					
微生物に関する分野で興味を持った内容について調べ、レポートを提出する。					○	○	○		○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 微生物学の歴史① 人間と微生物の関わり					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
2. 微生物学の歴史② 感染症と治療					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
3. 微生物学の基礎① 微生物の種類と性質					関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。									
4. 微生物学の基礎② 原虫・寄生虫・真菌					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
5. 微生物学の基礎③ 細菌の大きさと性質・染色法					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
6. 微生物学の基礎④ 細菌の形・構造					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
7. 微生物学の基礎⑤ ウイルス・微生物の生理と代謝					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
8. 食品微生物学① 微生物と食品					関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。									
9. 食品微生物学② 食品の腐敗・変敗と食品の保存					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
10. 食品微生物学③ 微生物を利用した食品					関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。									
11. 病原性微生物学① 細菌・真菌・ウイルス・原虫					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
12. 病原性微生物学② 新興感染症・再興感染症・抗生物質					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
13. 滅菌・消毒					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
14. 免疫学 免疫機構・免疫の種類・ワクチン・アレルギー					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
15. 微生物を利用したバイオテクノロジー					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
16. 試験					授業内容を総復習して試験に臨むこと。									
履修上の注意														
微生物の理解には生物学の知識が必要となるので、高等学校での生物科目を復習して授業に臨むこと。														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み（30%）、調査とレポートへの取り組み（30%）、試験（40%） ・提出されたレポートは、後日、添削して返却する。 														
教科書														
<ul style="list-style-type: none"> ・[エキスパート微生物学] [小林秀光編] [化学同人] [2,500円] ・必要に応じて資料を配布する。 														
参考書														
授業時間内に適宜、参考書を紹介する。														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。 														

授業科目名	生化学 I		単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)							
担当者	鈴木 裕行	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専 1 年					
授業概要														
ヒトの生体を構成する、細胞の構造と細胞内に存在する細胞内小器官の種類と機能について説明する。また、生体構成分子であるとともに食品の主たる構成成分で主要栄養素でもあるタンパク質・糖質・脂質の構造と化学的性質について詳説する。さらに、生体内の物質変化であり、栄養素の体内での機能発現の機構である代謝を理解する最初の段階として、代謝反応を司る酵素とはどのようなものであるか、また、酵素の種類・性質と機能について説明する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
細胞の構成の概要を説明できるようにする					○	○	○							
タンパク質・脂質・糖質等の種類、構造と化学的性質を説明できるようにする					○	○	○							
酵素とは何か、およびその性質を説明できるようにする					○	○	○							
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 生化学とは、細胞の構造					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㉠									
2. 細胞内小器官の機能、生体構成成分														
3. アミノ酸とは、アミノ酸の種類														
4. アミノ酸の性質、タンパク質とは														
5. タンパク質の高次構造、タンパク質の種類														
6. 糖質とは														
7. 単糖類・オリゴ糖類の種類と性質					㉠に加え、これまでの授業内容 (練習問題) を全て復習する。									
8. [中間試験]、多糖類の種類・構造と性質					㉠に加え、試験でできなかったところをよく復習する									
9. 試験の解説、脂質とは、脂質の種類														
10. 脂肪酸の特徴と種類、単純脂質の種類・構造と性質					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㉠									
11. 複合脂質の種類・構造と性質														
12. 誘導脂質の種類・構造と性質														
13. 酵素とは														
14. 酵素の 補因子					㉠に加え、これまでの授業内容 (練習問題) を全て復習する									
15. [期末試験]、酵素の分類と性質					㉠に加え、試験でできなかったところをよく復習する									
16. 試験の解説、酵素活性の調節														
履修上の注意														
基礎栄養学の内容と関連が深いので、学習内容を対比して理解を深めること。														
成績評価方法・基準														
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点 (受講態度・提出物)・・・10%														
教科書 わかりやすい生化学、林寛 他、三共出版、2,400 円+税														
参考書 栄養の生化学 1-2-3 改訂第 3 版、遠藤克己、南江堂、2,000 円+税														
備考														
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。														

授業科目名	生化学Ⅱ		単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)											
担当者	鈴木 裕行	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専2年										
授業概要																			
生化学Ⅰでの学習内容を基礎として、糖質・脂質・アミノ酸のヒト体内での様々な代謝を、エネルギー代謝を中心に詳説する。さらに、これらの物質から生体で利用できるエネルギーを取り出す機構について説明する。また、様々な生命現象の基本となる遺伝情報を担う情報高分子の構造と機能および遺伝情報の発現の仕組みについて説明する。加えて、ヒトの身体の生理機能の維持の基本となる生体内の情報伝達と恒常性維持の機構について説明する。																			
授業の到達目標					学位授与の方針との関連														
					1	2	3	4	5	6	7	8	9						
糖質・脂質・タンパク質の代謝および生体エネルギーの利用の仕組みを説明できる。					○	○	○												
情報高分子の構造と機能を説明できる					○	○	○												
生体内の情報伝達と生体の恒常性を説明できる。					○	○	○												
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）														
1. 解糖系					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㊶														
2. クエン酸回路																			
3. グリコーゲン合成経路、ペントースリン酸経路																			
4. 生体内の酸化還元反応とエネルギー																			
5. 電子伝達系																			
6. 脂肪酸のβ酸化、ケトン体の生成																			
7. 脂肪酸生合成、TG・リン脂質の合成					㊶に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。														
8. [中間試験]、コレステロール代謝、					㊶に加え、試験でできなかったところをよく復習する														
9. 試験の解説、血漿リポタンパク質																			
10. アミノ酸代謝の概要、尿素サイクル					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㊶														
11. アミノ酸代謝各論																			
12. エネルギー分子の代謝の相互関係																			
13. 核酸と遺伝子																			
14. タンパク質の生合成					㊶に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する														
15. [期末試験]、細胞間・細胞内の情報伝達					㊶に加え、試験でできなかったところをよく復習する														
16. 試験の解説、生体内の恒常性の維持																			
履修上の注意																			
基礎栄養学の内容と関連が深いので、学習内容を対比して理解を深めること。																			
成績評価方法・基準																			
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%																			
教科書 わかりやすい生化学、林寛 他、三共出版、2,400円＋税																			
参考書 栄養の生化学1-2-3改訂第3版、遠藤克己、南江堂、2,000円＋税																			
備考																			
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。																			

授業科目名	病理学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)		
担当者	曾根 正彦	必・選	管栄・栄(必)	形態	講義	学期	後期	対象	健専2年	
授業概要	<p>病理学は医学を正しく理解するために、基本となる重要な学問である。現代医療が専門化・細分化する中、次年度に履修する臨床医学概論をより深く理解するために、病理学を学習して大局的に疾病の全体像を把握する事が求められる。主に病理学の総論としての病因、細胞の異常、循環障害、代謝異常、感染症、免疫、炎症、腫瘍について、ヒトの病気の成り立ちに興味を持ちながら、体系立てて理解できることを目指す。授業は内科医の立場から実際の臨床現場での事例を紹介し、最新医学の話題を解説しながら幅広く学習し、健康と栄養に関連する専門的な基礎知識を修得できるように講義を行う。</p>									
授業の到達目標	学位授与の方針との関連									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・病理学の基本的知識を学び身につける。		○	○							
・ヒトの病気の成り立ちを体系的に理解できるようになる。		○	○					○		
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。								○		
授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）									
1. オリエンテーション、病気と病理学（内因、外因）	第1章をよく読み、不明点は質問									
2. 細胞の異常（細胞構造と細胞傷害、新陳代謝）	第2章 AB をよく読み、不明点は質問									
3. 細胞の異常（正常細胞の新陳代謝、再生・修復など）	第2章 CD をよく読み、不明点は質問									
4. 循環器系の働き	第4章 A をよく読み、不明点は質問									
5. 循環障害と主な疾患	第4章 BC をよく読み、不明点は質問									
6. 代謝異常（総論、糖尿病）	第5章 A～C をよく読み、不明点は質問									
7. 代謝異常（脂質・核酸・蛋白など）	第5章 D～H をよく読み、不明点は質問									
8. 感染（原因となる病原体、感染防御能など）	第7章 A～C をよく読み、不明点は質問									
9. 感染発症（感染源、感染経路、日和見感染・院内感染）	第7章 D をよく読み、不明点は質問									
10. 免疫（免疫機構、免疫監視機構、免疫のしくみと働き）	第8章 A をよく読み、不明点は質問									
11. 免疫異常（アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全など）	第8章 B～F をよく読み、不明点は質問									
12. 炎症（炎症の正体、原因、基本病変、分類など）	第9章 A～C をよく読み、不明点は質問									
13. 炎症（全身反応）、腫瘍（癌の正体、分類）	第9章 D 第10章 AB をよく読み、質問									
14. 腫瘍（癌の特性、癌の診断）	第10章 CD をよく読み、不明点は質問									
15. 腫瘍（癌の治療）、先天異常、老化など	第10章 E、第3・6章をよく読み、質問									
16. 筆記試験	講義の復習および誤答箇所事後学修									
履修上の注意	<p>以前に学習した生物学、解剖生理学に関連する分野を復習しておくことが望ましい。 授業は教科書に沿って講義を進める。</p>									
成績評価方法・基準	<p>期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。試験・レポート等についてはフィードバックを行う。</p>									
教科書	[なるほどなっとく！病理学 改訂2版] [小林正伸 著] [南山堂] [2,200円＋税]									
参考書	「無し」									
備考	<p>都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。 質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。</p>									

授業科目名	解剖生理学実験				単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+45)					
担当者	川俣幸一・曾根正彦	必・選	管栄・栄(必)	形態	実験	学期	後期	対象	健専3年					
授業概要														
解剖生理学や栄養学で学んだ知識を基に、確認・体験する事を目的とする。具体的には、身体計測、尿・血液に関する実験、味覚に関する実験について説明し、基本的な実験手技を取得できるように指導する。尿・血液の健康に関する指標や、栄養素の代謝に関する指標を測定する事により、病態時と健康時の指標を理解させる。また、人体の解剖生理に関して、循環器系や消化器系をはじめとして、身体を構成する組織の構造・機能を説明し、理解させる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1) 身体のしくみについての理解を深める					○				○					
2) 実験の基本的な手技を習得する						○		○						
3) 尿・血液に関する指標を知ることができる							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. はじめに／人体スケッチの実験（川俣）					事前学習は解剖生理学ⅠⅡの概論回の予習。事後学習としてレポート作成。									
2. 脳・神経・感覚に関する実験（川俣）					事前学習は解剖生理学ⅠⅡの脳・神経回の予習。事後学習としてレポート作成。									
3. 味覚に関する実験（川俣）					事前学習は解剖生理学ⅠⅡの味覚回の予習。事後学習としてレポート作成。									
4. 体表面積・基礎代謝に関する実験（川俣）					事前学習は解剖生理学ⅠⅡの体表面積回の予習。事後学習としてレポート作成。									
5. 呼吸・循環器に関する実験（川俣）					事前学習は解剖生理学ⅠⅡの呼吸循環器回の予習。事後学習としてレポート作成。									
6. 運動器に関する実験（川俣）					事前学習は解剖生理学ⅠⅡの運動器回の予習。事後学習としてレポート作成。									
7. 体温・疲労に関する実験（川俣）					事前学習は解剖生理学ⅠⅡの体温回の予習。事後学習としてレポート作成。									
8. 血液に関する実験（血糖値測定）（川俣）					事前学習は解剖生理学ⅠⅡの血液回の予習。事後学習としてレポート作成。									
9. 尿に関する実験①（定性試験）（川俣）					事前学習は解剖生理学ⅠⅡの腎臓回の予習。事後学習としてレポート作成。									
10. 尿に関する実験②（クレアチニンの定量）（川俣）					事前学習は解剖生理学ⅠⅡの腎臓回の予習。事後学習としてレポート作成。									
11. 尿に関する実験③（尿酸の定量）（川俣）					事前学習は解剖生理学ⅠⅡの腎臓回の予習。事後学習としてレポート作成。									
12. 組織（筋肉など）に関する実験①（生体内ビタミンの局在）（川俣）					事前学習は解剖生理学ⅠⅡの組織回の予習。事後学習としてレポート作成。									
13. 組織（筋肉など）に関する実験②（生体内グリコーゲンの局在）（川俣）					事前学習は解剖生理学ⅠⅡの組織回の予習。事後学習としてレポート作成。									
14. 人体の解剖生理 1 循環器系等：DVD等を供覧し、レポートを作成（曾根）					解剖生理学ⅠⅡを復習し、授業時の記録ノートから詳細なレポートを作成する									
15. 人体の解剖生理 2 消化器系等：DVD等を供覧し、レポートを作成（曾根）					解剖生理学ⅠⅡを復習し、授業時の記録ノートから詳細なレポートを作成する									
履修上の注意														
実験のため、出席して体験し、実験記録（ノート）を取ることを。														
成績評価方法・基準														
課題レポート・・・90%、受講態度・・・10%（真摯に学ぶ態度） 提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。														
教科書 適宜プリントを配布する														
参考書 なし														
備考														
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する														

授業科目名		生化学実験			単位 (総授業時間+自習時間)				1(45+15)				
担当者	鈴木 裕行	必・選	管栄(必)・選	形態	実験	学期	前期	対象	健専3年				
授業概要													
<p>生体情報高分子であるタンパク質と核酸の性質・機能を理解させるため、牛乳に含まれる各種タンパク質の分離・分析実験を通して、タンパク質の精製法・分析法の基礎を指導する。また、酵素アミラーゼの諸性質の解析および酵素の反応速度解析の基礎的な手法を指導する。さらに生体試料からのゲノム DNA の抽出法と PCR による遺伝子増幅を用いた遺伝子多型の解析法や、大腸菌を用いた基礎的な遺伝子組換え (形質転換) 実験の手法を指導する。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
タンパク質の精製・分離の基本的方法を習得する					○	○	○	○	○		○		
酵素活性の測定と反応速度の解析法を習得する					○	○	○	○	○		○		
生体試料からの DNA 抽出と遺伝子解析の基礎を習得する					○	○	○	○	○		○		
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1. 実験の概要説明					配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。								
2. 牛乳中のカゼイン・乳清タンパク質の分離：等電点沈殿					学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「タンパク質実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。								
3. 牛乳中のカゼイン・乳清タンパク質の分離：硫安分画													
4. SDS ポリアクリルアミドゲル電気泳動：ゲル作製・泳動													
5. 電気泳動パターンの解析													
6. アミラーゼ活性の測定													
7. 酵素反応の最適 pH の決定					学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「酵素実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。								
8. 基質濃度と反応速度の解析													
9. 遺伝子実験の概要説明・DNA の基本的性質					学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。								
10. 植物試料からのゲノム DNA の抽出													
11. ヒトゲノム DNA の抽出													
12. PCR での遺伝子増幅													
13. PCR による遺伝子多型の解析													
14. プラスミド DNA 導入による大腸菌の形質転換													
15. 大腸菌の形質転換の評価													
履修上の注意													
実験レポート作成に備え、実験記録をできるだけ綿密に取ること。													
成績評価方法・基準													
<p>実験レポート (80%) および平常点 (受講状況・実施状況; 20%)・・・詳細はルーブリック参照 成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。レポートへのフィードバックとして後日コメントを提示する。</p>													
教科書 無し (プリントを配布)													
参考書 無し													
備考													
オフィスアワーは掲示・配布資料参照。													

授業科目名	臨床医学概論 I				単位 (総授業時間+自習時間)	2(30+60)								
担当者	曾根 正彦	必・選	管栄 (必)	形態	講義	学期	前期	対象	健専3年					
授業概要 栄養学の専門家として求められるのは種々の患者の栄養治療だけでなく、一次予防を中心とした健康増進・疾病予防まで多岐にわたってきている。そのため、臨床医学概論の授業では疾患診断・治療などの基礎知識を学び主要疾患の知識を身につける必要がある。ただ臨床医学の領域は広範であり、前期の臨床医学概論 I と後期の臨床医学概論 II に分けてある。臨床医学概論 I では、疾患診断・検査・治療及び栄養・代謝障害、消化器疾患、循環器疾患系などの基礎知識を修得し、臨床現場や健康管理における栄養学的な指導が可能となる事を目指す。この授業では、臨床医としての経験から実践的な健康管理や医療現場で行われている事例などを紹介し、最新医学の話題を解説しながら講義を行なう。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・主要疾患それぞれの基礎知識を学び身につける。						○	○							
・疾患の成因、病態から診断、治療まで体系的に理解できる。						○	○							
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。						○								
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. オリエンテーション、疾患診断の概要 (問診と診察)					2-AB をよく読み、不明点は質問									
2. 疾患診断の概要 (主な症候)					2-BC をよく読み、不明点は質問									
3. 疾患診断の概要 (臨床検査)					2-C をよく読み、不明点は質問									
4. 疾患診断の概要 (臨床検査)					2-C をよく読み、不明点は質問									
5. 疾患治療の概要 (総論)					3-AB をよく読み、不明点は質問									
6. 疾患治療の概要 (治療方法)					3-BC をよく読み、不明点は質問									
7. 栄養障害と代謝疾患 (総論)					4-AB をよく読み、不明点は質問									
8. 栄養障害と代謝疾患 (各論)					4-CD をよく読み、不明点は質問									
9. 消化器系 (構造と機能)					5-AB をよく読み、不明点は質問									
10. 消化器系 (成因・病態・診断・治療)					5-B をよく読み、不明点は質問									
11. 消化器系 ((成因・病態・診断・治療)					5-B をよく読み、不明点は質問									
12. 循環器系 (構造と機能)					6-AB をよく読み、不明点は質問									
13. 循環器系 (成因・病態・診断・治療)					6-B をよく読み、不明点は質問									
14. 循環器系 (成因・病態・診断・治療)					6-B をよく読み、不明点は質問									
15. 加齢・疾患に伴う変化、固体の死					1-ABC をよく読み、不明点は質問									
16. 筆記試験					講義の復習および誤答箇所の後学修									
履修上の注意 臨床医学の学習のためには解剖生理学、病理学の知識が重要である。 事前にこれらの知識を十分に整理しておくことが望ましい。														
成績評価方法・基準 期末試験 (90%程度) とミニットペーパー提出等の受講状況 (10%程度) で評価する。また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。														
教科書 〔臨床医学—人体の構造と機能及び疾病の成り立ち〕 〔医薬基盤・健康・栄養研究所 監修〕 〔南江堂〕〔3,100円+税〕														
参考書 「無し」														
備考 都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。 質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。 今年度から教科書が変更になるので、注意すること。														

授業科目名	臨床医学概論Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)				
担当者	曾根 正彦	必・選	管栄(必)	形態	講義	学期	後期	対象	健専3年
授業概要	<p>医学の進歩が著しい現代において、栄養学の専門家として求められるのは種々の患者の栄養管理だけでなく、一次予防を中心とした健康増進・疾病予防まで多岐にわたってきている。臨床医学概論の授業では、疾患の診断・治療の基礎知識を学び、主要疾患の知識の修得が求められる。後期の臨床医学概論Ⅱでは前期に引き続いて、腎・尿路系、内分泌系、神経精神系、呼吸器系、運動器系、血液系、免疫・アレルギー、感染症、悪性腫瘍の基礎知識を修得し、臨床現場や健康管理における栄養学的な指導が可能となる事を目指す。この授業では、臨床医師としての経験から実践的な健康管理や医療現場で行われている事例などを紹介し、最新医学の話題などを解説しながら講義を行なう。</p>								
授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・主要疾患それぞれの基礎知識を学び身につける。		○	○						
・疾患の成因、病態から診断、治療まで体系的に理解できる。		○	○						
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。		○							
授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）								
1. 腎・尿路系（腎・尿路の構造と機能および症候）	7-A をよく読み、不明点は質問								
2. 腎・尿路系（腎炎、腎不全、ネフローゼなど）	7-AB をよく読み、不明点は質問								
3. 腎・尿路系（糖尿病性腎症、CKD、透析など）	7-B をよく読み、不明点は質問								
4. 内分泌系（総論）	8-AB をよく読み、不明点は質問								
5. 内分泌系（各論）	8-AB をよく読み、不明点は質問								
6. 神経・精神系	9-ABC をよく読み、不明点は質問								
7. 呼吸器系（総論）	10-AB をよく読み、不明点は質問								
8. 呼吸器系（各論）	10-AB をよく読み、不明点は質問								
9. 運動器系	11-AB をよく読み、不明点は質問								
10. 血液（総論）	13-AB をよく読み、不明点は質問								
11. 血液（各論）	13-AB をよく読み、不明点は質問								
12. 免疫・アレルギー（総論）	14-AB をよく読み、不明点は質問								
13. 免疫・アレルギー（各論）	14-AB をよく読み、不明点は質問								
14. 感染症	15章をよく読み、不明点は質問								
15. 生殖器系、悪性腫瘍	12章、16章をよく読み、不明点は質問								
16. 筆記試験	講義の復習および誤答箇所の事後学修								
履修上の注意	<p>臨床医学の学習のためには解剖生理学、病理学の知識が重要である。 事前にこれらの知識を十分に整理しておくことが望ましい。</p>								
成績評価方法・基準	<p>期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。</p>								
教科書	<p>〔臨床医学—人体の構造と機能及び疾病の成り立ち〕 〔医薬基盤・健康・栄養研究所 監修〕 〔南江堂〕〔3,100円＋税〕</p>								
参考書	「無し」								
備考	<p>都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。 質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。 今年度から教科書が変更になるので、注意すること。</p>								

授業科目名	食品学総論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）					
担当者	八巻 美智子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専2年					
授業概要														
食品はヒトの生活にとって必須のものであり、食品について正しい情報を持つことは食品を利用するうえで重要である。そこで、化学、生化学、基礎栄養学などの知識を基礎として、食品を構成する各成分の化学的特性と食品における役割、栄養と健康とのかかわりについて講義する。また、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのか解説する。食品学を学ぶことで関連する他分野への興味関心も高められる重要性を理解させる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
食品を構成する各種成分について理解する					○	○	○							
食品の各成分の栄養特性と物理特性についての知識を習得する					○	○	○							
美味しく栄養バランスのとれた食事について科学的に考える力を身に付ける。					○	○	○			○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.食品の定義および分類、食品の成分と機能、食品と環境					事前：教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。（以下の回も同様）									
2.水分 水の構造と性質、食品中での役割、食品成分表について					事後：教科書、ノートを見直して講義内容を理解し、									
3.炭水化物 糖の構造と種類					理解が不十分な点については教員に質問するなど									
4.炭水化物 糖の性質、糖の反応と炭水化物としての糖					して問題点を解決する。（以下の回も同様）									
5.脂質 脂肪酸の構造と性質					小テストに向けて学修する									
6.脂質 油脂の酸化、油脂の栄養					教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。									
7.タンパク質 タンパク質の構造と構成アミノ酸					教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。									
8.タンパク質 タンパク質の性質と栄養価					小テストに向けて学修する									
9.脂溶性ビタミン					教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。									
10.水溶性ビタミン					教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。									
11.ミネラル					教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。									
12.食品の呈味成分、色素、香気成分					小テストに向けて学修する									
13.食品の官能評価					教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。									
14.食品の機能性成分、食品の物性と美味しさ					試験に向けて学修する									
15.これまでのまとめ					試験に向けて学修する									
16.試験					試験に向けて学修する									
履修上の注意														
遅刻、欠席は厳禁（遅刻3回で欠席1回とする）。講義に集中し、ノートを作製する。予習で生じた疑問点について解決できるようにする。														
成績評価方法・基準														
授業態度、小テストの成績等（20%）、試験（80%）の割合で評価する。 小テスト、試験については解答例を配布することでフィードバックとする。														
教科書〔食品学総論〕〔著者名：森田潤司、成田宏使 編〕〔出版社名：化学同人〕〔価格：2800円＋税〕														
参考書〔講義時に指示する〕														
備考														
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。 講義の順番や内容は前後または変更する可能性があります。														

授業科目名	食品学各論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)						
担当者	佐藤 靖子	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専2年						
授業概要															
食品材料である植物性食品、動物性食品その他食品について、図鑑および写真等の資料を実物投影機を用いることにより、食品の外観および内部構造の特徴を理解しやすいようにする。さらに、食品材料の生産上および生物学上の特徴による分類、食材に含まれる成分および旬を含む食材の成長による成分変化等についての基礎知識を学修することにより、食品に対する選択能力を高めるとともに、食生活と健康との関連を習得できるようにする。															
授業の到達目標					学位授与の方針との関連										
					1	2	3	4	5	6	7	8	9		
1 食品材料の特徴を知る					○		○								
2 食品材料の分類ができる						○	○								
3 食品の選択能力を身につける					○		○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）										
1.ガイダンス 食品の分類・スローフードについて					授業の進め方、ノートのとめ方を知る										
2.植物性食品の特徴					教科書をよく読み授業に臨む										
3.穀類：コメ、コムギの特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する										
4.穀類：トウモロコシ、ソバの特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する										
5.イモ類の種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する										
6.マメ類：乾燥豆および野菜としての種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する										
7.野菜類：葉菜類の種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する										
8.野菜類：茎菜類の種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する										
9.野菜類：根菜類の種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する										
10.野菜類：果菜類・花菜類の種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する										
11.果実類：種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する										
12.動物性食品の特徴					教科書をよく読み授業に臨む										
13.魚介類の種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する										
14.畜肉類の種類と特徴・成分					授業内容を教科書・ノートで確認する										
15.その他の食品について					教科書をよく読み分類・特徴を把握する										
16.試験															
履修上の注意 ：出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で1回の欠席とする ミニットペーパーを課した場合は、提出確認後返却して加点対象とする。															
成績評価方法・基準															
期末試験 70%、受講態度・提出物 30%															
試験問題は、教科書およびノートからの出題です。解答は掲示にて行います。															
教科書 書名：品学各論 著者名：瀬口正晴・八田 一 出版社：化学同人 価格 2,400 円															
参考書 書名：原色食品図鑑 著者名：井上四郎・菅原龍吉 出版社名：建帛社 価格：2,900 円															
備考 配布プリントは、講義ノートに張り付けるか転載しておくこと。 都合（出張等）により授業計画が変更されることがある。 質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。															

授業科目名	食品学実験 I				単位 (総授業時間+自習時間)				1 (45+45)				
担当者	八巻 美智子	必・選	必	形態	実習	学期	前期	対象	健専1年				
授業概要													
食品学実験では、さまざまな食品からそれぞれの栄養素を分離しその特性を理解するとともに、化学実験を行うにあたっての基本的な認識、態度や基礎的な知識、技術を習得する。すなわち、器具の取り扱い方、測定器具の使用法、データのまとめ方、レポートの書き方について習得することを目指す。管理栄養士養成課程に設置されている実験科目を習得する上での基礎的な技術と心がまえを身につける。また、実験を通して食品を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面において、定量的な考えが応用できることを目標とする。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・化学実験を行うにあたっての基本的な態度や基礎的な技術を習得する							○		○		○		
・データのまとめ方、レポートの書き方について科学的視点から考察する力を習得する							○		○		○		
・食物を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面において、定量的な考えが応用できることを目標とする							○		○		○	○	
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1. 授業の概要、実験実施上の注意					事前：実験書を読んでくる。								
2. じゃがいもからデンプンの分離					事前：実験書を読んでくる。 事後：ノート整理								
3. 光学顕微鏡によるデンプン粒の観察					実験書を読みノート整理・結果をまとめレポート作成								
4. 糖質の定性反応1：原理、呈色反応					事前：実験書を読んでくる。 事後：ノート整理								
5. 糖質の定性反応2：呈色反応、還元反応					実験書を読みノート整理・結果をまとめレポート作成								
6. 小麦粉からグルテンの分離					小麦粉からグルテンの分離について実験書を読む								
7. グルテンからグリアジンの分離					グルテンとグリアジンについて理解を深める								
8. 蛋白質の定性反応					タンパク質についてテキストを読んでくる								
9. 蛋白質の加水分解					実験書を読みノート整理・結果をまとめレポート作成								
10. アミノ酸の定性反応					実験書を読みノート整理・結果をまとめレポート作成								
11. 油脂のケン化と脂肪酸とグリセリンの分離					事前の実験書を読む、事後にノート整理・作成、								
12. 脂肪酸のエステル化 (ガスクロマトの前処理)					事前の実験書を読む、事後にノート整理・作成、								
13. ガスクロマトグラフによる脂肪酸の測定					実験書を読みノート整理・結果をまとめレポート作成								
14. 中和滴定1：食酢中の酢酸の定量 (原理、ビュレットの使い方等)					実験書を読みノート整理・結果をまとめレポート作成								
15. 中和滴定2：食酢中の酢酸の定量 (試料の測定、計算等)					実験の総括とレポート作成								
履修上の注意													
白衣を着用し踵の低いスニーカー系を着用。グループで協力し、安全に注意して行うこと (特に薬品や火気の使用)。実験室には不必要なものは持ち込まないこと。長髪の方は髪を束ねること (詳細はプリント配布)													
成績評価方法・基準													
授業参加状況 (50%、積極性、協力性等) とレポート・小試験 (50%) で総合的に評価する。レポート等については授業中にフィードバックを実施。履修上の注意が守れない場合は減点、遅刻3回で欠席1回とする。													
教科書 ：[新しい食品学実験] [三共出版] [2,300円]													
参考書 ：随時プリント配布、日本食品成分表													
備考 講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) に受け付けます。													

授業科目名	食品学実験Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（45+45）				
担当者	八巻 美智子	必・選	必	形態	実習	学期	後期	対象	健専1年				
授業概要													
食品学実験Ⅰで修得した化学実験における基本的手法をもとに様々な食品からそれぞれの栄養素を分離しその特性を理解する。日本食品成分表に記載されている食品中の栄養素の数値の算出方法を理解する為、水分、灰分、脂質、タンパク質等の各成分を抽出して定量分析を行う。この中で測定器具の使用法、化学実験における実験の原理、データのまとめ方、レポートの書き方について指導する。管理栄養士養成課程に設置されている実験科目を習得する上での基礎的な技術と心がまえを身につけ、食生活のさまざまな場面において定量的な考えが応用できることを目標とする。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・化学実験を行うにあたっての基本的な態度や基礎的な技術を習得する。特に定量分析の基本操作と理論を理解する。							○		○		○		
・データのまとめ方、レポートの書き方について科学的視点から考察する力を習得する							○		○		○		
・食品成分表に記載されているデータについて測定方法や原理について理解し食物を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面で、定量的な考えが応用できることを目標とする							○		○		○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 食品中の一般栄養成分分析の説明、濃度計算小テスト					事前：一般成分分析についてテキストを読む。								
2. 恒量測定、ケルダール法（タンパク質の酸分解）					事前：実験書を読んでくる。事後：ノート整理								
3. 水分の定量、灰分の定量					事前：実験書を読んでくる。事後：ノート整理								
4. 脂質の定量：ソックスレー法による脂質の抽出					事前：実験書を読んでくる。事後：ノート整理								
5. 脂質の定量：ソックスレー法による脂質の抽出後、乾燥、重量測定）					実験書を読みノート整理・結果をまとめレポート作成								
6. 水蒸気蒸留の説明とブランク値の測定					実験書を読みノート整理・結果をまとめレポート作成								
7. 水蒸気蒸留（試料中の窒素分析）					実験書を読みノート整理・結果をまとめレポート作成								
8. これまでのまとめ計算方法など					事前：実験書を読んでくる。事後：ノート整理								
9. 原子吸光分析1：無機質の測定 方法、原理について					実験書を読みノート整理・結果をまとめレポート作成								
10. 原子吸光分析2：無機質の測定					事前：実験書を読んでくる。事後：ノート整理								
11. 炭水化物の定量 食物繊維算出方法					実験書を読みノート整理・結果をまとめレポート作成								
12. 食品による味覚の変化（官能評価）					事前：実験書を読んでくる。事後：ノート整理								
13. 嗜好成分の定量（原理、試料調製など）					実験書を読みノート整理・結果をまとめレポート作成								
14. 嗜好成分の定量（測定、結果まとめ等）					実験書を読みノート整理・結果をまとめレポート作成								
15. GC-MSによる食品中の臭気物質の検出					実験の総括とレポート作成								
履修上の注意													
白衣を着用し踵の低いスニーカーを着用。グループで協力し、安全に注意して行うこと（特に薬品や火気の使用）。実験室には不必要なものは持ち込まないこと。長髪の方は髪を束ねること（詳細はプリント配布）													
成績評価方法・基準													
授業参加状況（50%、積極性、協力性等）とレポート・小試験（50%）で総合的に評価する。レポート等については授業中にフィードバックを実施。履修上の注意が守れない場合は減点、遅刻3回で欠席1回とする。													
教科書 ：[新しい食品学実験] [三共出版] [2,300円]													
参考書 ：随時プリント配布、日本食品成分表													
備考 講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。実験の内容により並行して行う場合もあります。質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名	食品機能学				単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)					
担当者	村本 光二	必・選	管栄(必)	形態	講義	学期	後期	対象	健専3年					
授業概要														
健康維持には栄養バランスのとれた健全な食生活が必要であり、さらに健康寿命の延伸には食品がもつ生体調節機能、すなわち三次機能性を積極的に利用することが期待される。一方、グローバル化したわが国の食生活は、資源・環境や安全・安心といった課題とも密接に関連している。授業では、このような我われの食生活を取り巻く状況を俯瞰しながら、食品に含まれる機能成分の理解を深めるとともに、それらの利用と効果の科学的評価について考え、食環境のさらなる向上に取り組む姿勢を養う。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・保健機能に関わる食品成分の基礎知識を身につける。						○	○		○					
・食品機能に関する情報を科学的に評価する能力を高める。						○	○		○					
・学修した知識を食環境の向上に応用する力を身につける。						○	○		○					
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1.食品機能学の概要:我々を取り巻く食に関わる課題を俯瞰し、食品の機能性とは何か、その背景と利用の目的を理解する。					授業内容に関連する小テストの確認を行う。課題のレポートを次回提出する。									
2.大豆食品をモデルとして、たんぱく質の栄養性・嗜好性・体調節などの食品機能性を学ぶ。					小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。									
3.大豆食品の構成成分と食品機能性との関連について学び、現代の食生活における役割を考える。					小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。									
4.機能性分子の構造と物理化学的特性の関係を学び、機能性との関連について考える。					小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。									
5.大豆たんぱく質の消化によって派生するアミノ酸とペプチドの食品機能性とその測定法について学ぶ。					小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。									
6.現代の食生活と生活習慣病との関連を理解し、安全・安心な食生活のための食品表示制度について学ぶ。					小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。									
7.保健機能食品制度 1~2:特定保健用食品・栄養機能食品・機能性表示食品について学ぶ、健康食品との違いを考える。					小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。									
8.保健機能食品制度 1~2:特別用途食品や健康食品・健康補助食品・栄養補助食品・栄養強化食品などについて学ぶ。					小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。									
9.食品素材に含まれる脂肪酸やビタミンなどの機能性成分の作用機構をニュートリゲノミクスの観点から理解する。					小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。									
10.食品機能団子の科学的評価に用いられる疫学研究などの多様な試験方法を学び、それらの利点と欠点を考える。					小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。									
11.ヒト介入試験による食品機能性の評価法の手順、ならびに大規模疫学調査結果の具体例を学ぶ。					小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。									
12.農作物の食品機能性評価の具体例から生活習慣病への予防効果の疫学調査と実証試験を学ぶ。					小テストの確認と復習を行う。									
13.食品機能性の分子機構 1~2:生活習慣病の予防に重要な抗酸化性・免疫賦活作用の分子機能について学ぶ。					小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。									
14.食品機能性の分子機構 1~2:今後の開発が期待される脳機能調節や抗老化に関わる食品成分の役割を考える。					小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。									
15.保健機能食品の品質と安全性:多様な健康情報をどのように処理するか、また安全・安心な製品の生産と利用について考える。					小テストの確認と復習を行う。									
16. 試験														
履修上の注意: 講義内容を十分に理解するためには、栄養学・生理学・生化学等で学んだことが基盤になるので、それらの科目も授業の前後に復習すること。														
成績評価方法・基準: 期末に行う試験 (60%)、レポートと小テストの結果 (20%)、受講態度 (20%) で評価します。レポートと小テストは採点后、返却してフィードバックを行います。														
教科書: 授業前にプリントを配布します。														
参考書: [改訂食品機能学 (第2版)] [建帛社] [2,310円] [大豆の機能と科学] [朝倉書店] [4,300円]														
備考: 質問等については、授業終了時に受付けます。														

授業科目名	食品加工学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	佐藤 靖子	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専3年				
授業概要													
加工食品は、安全性、貯蔵性、嗜好性、嗜好性等の付与により、生活の利便性や経済性の向上に関与するものであり、食品の加工方法、保存方法の学修により、加工原理に対する理解を深める。食品が製品化されるまでの食品成分の変化（物性的、化学的、栄養学的）に対する基礎知識を身につけるよう指導する。加工された食品の規格、表示および包装に関する学修を通して商品化される要因を理解する。食品の加工について総合的な理解力が深まるようにさせる。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1.食品の物理的、化学的、生物的加工方法が理解できる				○									
2 食品加工の規格、表示が理解できる				○									
3 食品の製品化に伴う工程が理解できる					○	○							
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）									
1.食品加工の目的				目的を教科書・ノートで確認する									
2.食品加工方法：物理的加工：粉碎、濃縮、ろ過等				物理的方法を確認する									
3.食品加工方法：物理的加工：乾燥、冷凍等				教科書・ノートを読み返す									
4.食品加工方法：化学的加工				化学的方法を確認する									
5.食品加工方法：生物的加工				生物的方法を確認する									
6.食品保存方法：水分活性等				授業内容を教科書・ノートで確認する									
7.食品保存方法：CA貯蔵等				授業内容を教科書・ノートで確認する									
8.食品保存方法：浸透圧利用等				授業内容を教科書・ノートで確認する									
9.食品保存方法：加熱、冷蔵等				授業内容を教科書・ノートで確認する									
10.食品の包装：材料				包装の素材について確認する									
11.食品の包装：特徴				教科書・ノートを読み返す									
12.食品の規格				授業内容を教科書・ノートで確認する									
13.食品の表示				授業内容を教科書・ノートで確認する									
14.農産食品の加工				授業内容を教科書・ノートで確認する									
15.畜産・水産食品の加工				授業内容を教科書・ノートで確認する									
16.試験													
履修上の注意													
出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で1回の欠席とする。 ミニットペーパーを課した場合は、提出確認後に返却し加点対象とする。													
成績評価方法・基準													
期末試験 70%、受講態度 30% 試験問題は、教科書およびノートからの出題です。試験後確認すること。													
教科書 〔書名：食品加工学〕〔著者名：西村公雄、松井徳光〕〔出版社名：化学同人〕〔価格：2,100円〕													
参考書 なし													
備考 食品学各論の内容を復習しておく 質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。													

授業科目名	食品加工実習			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+30)					
担当者	佐藤 靖子	必・選	必	形態	実習	学期	後期	対象	健専3年				
授業概要													
食品材料を物理的、化学的、生物的方法により変化させて、加工工程を経て製品を製造し、素材から製品までの過程を理解させる。加工工程による食品の様々な変化を良く観察させ、それらの現象を科学的に考察できる能力の向上を図る。製品の貯蔵中の変化を経時的に観察させ貯蔵・保蔵の理解を深める。加工した製品について、保存に適した容器を選択し、安全に留意して保存できる方法を修得する。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1.食品の加工目的を原理が理解できる						○							
2.食品の加工方法を身につける						○	○						
3.食品の加工工程と貯蔵・保蔵が理解できる						○		○		○			
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス 安全・衛生、レポート作成など				実習の事前準備や容器等を確認する									
2.グミ				レポート作成・提出									
3.トリ味噌				レポート作成・提出									
4.小麦加工品（パンまたはパスタ）				レポート作成・提出									
5.ラーメン				レポート作成・提出									
6.ヨーグルト				レポート作成・提出									
7.コンニャク				レポート作成・提出									
8.きな粉飴				レポート作成・提出									
9.佃煮				レポート作成・提出									
10.豆腐				レポート作成・提出									
11.甘酒				レポート作成・提出									
12.さつま揚げ				レポート作成・提出									
13.塩辛				レポート作成・提出									
14.ジャム				レポート作成・提出									
15.ラムネ				レポート作成・提出									
履修上の注意：レポートは次回の授業開始前までに指定の場所へ提出すること。遅れた場合は遅刻提出となり1点減点とする。													
身支度が整わない学生の入室はできない（欠席扱い）。実習中の安全・衛生に十分注意すること。													
成績評価方法・基準													
レポート提出85%（実習回数で割った積み重ね点とする）、授業態度（身支度を含む）15%。提出されたレポートは確認後返却する。未提出のレポートがある場合は、評価なしとする。他者と同内容のレポートが提出された場合は、評価なしとする。提出されたレポートは後日返却する。ルーブリックについて1回目の授業で説明します。													
教科書 なし：配布プリント使用													
参考書 食品学各論、食品加工学、調理科学、イラスト調理 Book 等													
備考													
学生の校外実習または教員の出張等の都合により授業計画の順番・内容が変更することがある。学外実習で欠席する場合のレポート提出は、ガイダンスにて説明する。質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。													

授業科目名	食品衛生学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	黒川 優子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専3年					
授業の概要														
近年、食品の安全性について多くの問題が社会的に注目されており、消費者の関心も高まっている。ここでは食品の腐敗や食中毒、寄生虫とその疾患、食品添加物、さらに身の回りに存在する各種合成化学物質や重金属などによる食品や水の汚染が健康にどのような影響を及ぼすかについて学び、食品の安全性確保に関する法律と安全性確保のための具体的な方法を解説する。また、飲料水や食品中に含まれる農薬などの合成化学物質の分析方法、天然および養殖魚介類における寄生虫の検査方法等、これまでの実務経験を反映させた講義を行う。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
食品の安全性を脅かすものについて学ぶ。					○	○	○		○					
食品の安全性確保に関する基礎知識を身につける。					○	○	○		○					
食品衛生に関する分野で興味を持った内容について調べ、レポートを提出する。					○	○	○		○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 食品衛生とは、食品衛生と法規					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
2. 食品と微生物					関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。									
3. 食品の変質とその防止					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
4. 食中毒の定義と概念、食中毒の発生状況					関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。									
5. 細菌性食中毒① 感染侵入型食中毒・感染毒素型食中毒					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
6. 細菌性食中毒② 毒素型食中毒細菌					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
7. ウイルス性食中毒、マイコトキシン中毒					関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。									
8. 自然毒による食中毒－動物性自然毒・植物性自然毒					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
9. 寄生虫とその疾患① 野菜・飲料水・魚介類からの感染					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
10. 寄生虫とその疾患② 食肉類等からの感染					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
11. 有害金属・動物用医薬品・飼料添加物による食品汚染					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
12. 農薬・その他の有害物質による食品汚染					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
13. 食品添加物の概念、安全性評価					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。									
14. おもな食品添加物の種類と特徴					関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。									
15. 食品の器具・容器包装、食品衛生対策					関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。									
16. 試験					授業内容を総復習して試験に臨むこと。									
履修上の注意														
他の食品に関する学科目と関連性が高いので、履修済みの科目をよく理解して講義に臨むこと。また、身近な食品に関する事項が多いので、日頃から食品に対して関心・興味を持つことが講義内容の理解につながる。														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組み（30%）、調査とレポートへの取り組み（30%）、試験（40%） 提出されたレポートは、後日、添削して返却する。 														
教科書														
<ul style="list-style-type: none"> ・[エキスパート食品衛生学] [白石淳編] [化学同人] [2,700円] ・必要に応じて資料を配布する。 														
参考書														
授業時間内に適宜、参考書を紹介する。														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。 														

授業科目名	食品衛生学実験			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+15)					
担当者	鈴木 裕行	必・選	管栄・栄(必)	形態	実験	学期	後期	対象	健専3年				
授業概要													
<p>管理栄養士の業務において重要な、食品安全性の重要性の認識と衛生管理方法の理解のために、代表的な微生物の性質を説明するとともに微生物の基本的な培養・観察の方法を指導する。それを基にして食品の細菌汚染検査、手指やふきん等の衛生試験の手技を指導する。また、市販の各種の加工食品を試料として、使用されている保存料・着色料・発色剤といった食品添加物の検出試験の手技を指導する。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
食中毒原因菌の性質を理解しその検査方法を習得する					○	○	○	○	○		○		
食品中の食品添加物の役割を理解し分析方法を習得する					○	○	○	○	○		○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 実験の概要説明・微生物実験の基礎知識と基本操作					配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。								
2. 微生物の取扱い・植菌操作													
3. コロニーの観察・グラム染色法													
4. 細菌の顕微鏡観察													
5. 細菌の顕微鏡観察（つづき）													
6. 手洗いの効果、各種衛生試験①：菌の採取													
7. 手洗いの効果、各種衛生試験②：菌数計測・菌体観察													
8. 手洗いの効果、各種衛生試験③：菌体観察													
9. 食品中の生菌数の測定①：段階希釈法での生菌数測定													
10. 食品中の生菌数の測定②：食品中の細菌の観察													
11. 保存料の検出①：試料からのソルビン酸の抽出													
12. 保存料の検出②：ソルビン酸の定量					学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「食品添加物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。								
13. 着色料の検出：食品中のタール色素の検出													
14. 発色剤の検出①：試料からの亜硝酸塩の抽出													
15. 発色剤の検出②：亜硝酸の定量													
履修上の注意													
実験レポート作成に備え、実験記録をできるだけ綿密に取ること。													
成績評価方法・基準													
<p>実験レポート（80%）および平常点（受講状況・実施状況；20%）・・・詳細はルーブリック参照 成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。レポートへのフィードバックとして後日コメントを提示する。</p>													
教科書 新版 明解食品衛生学実験、加納碩雄 他、三共出版、2,300円＋税													
参考書 無し													
備考													
オフィスアワーは掲示・配布資料参照。													

授業科目名	調理科学論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	佐藤 靖子	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専2年					
授業概要														
食品材料は、生食および加熱など様々な調理操作を経て食される。調理操作の種類や方法の確認を行いながら、食品素材の色調変化、組織の軟化、香りの発現などについて基礎的な知識を学習する。さらに基本的な調理方法の役割および食品の物理的・化学的变化について科学的視点を身につける。また、主菜・副菜の調理で使用される香辛料や香草については、可能な限り実物を用意して風味を学修する機会を与え、利用性について理解する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1 基本的調理操作を理解できる					○	○								
2 調味料の種類と特徴を理解できる					○	○								
3 食品の調理特性を科学的に理解する能力を身につける							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス、調理科学の定義					ノートを整理しておく									
2. 調理と嗜好性					教科書をよく読み授業に臨む									
3. 調理操作 非加熱調理					授業内容を教科書・ノートで確認する									
4. " 加熱調理 煮る・蒸す					授業内容を教科書・ノートで確認する									
5. " 加熱調理 揚げる・焼く					授業内容を教科書・ノートで確認する									
6. 調味料の種類と特徴					授業内容を教科書・ノートで確認する									
7. 香辛料の種類と特徴					授業内容を教科書・ノートで確認する									
8. スパイスの風味を体験する					次週の授業開始までにスパイス、ハーブに関する特徴・献立のレポート提出する									
9. ハーブおよび食塩の風味を体験する														
10. 油脂・油脂性食品の調理特性					授業内容を教科書・ノートで確認する									
11. 炭水化物質性食品の調理特性					授業内容を教科書・ノートで確認する									
12. タンパク質性食品の調理特性：食肉、魚介類					授業内容を教科書・ノートで確認する									
13. " : 卵、牛乳					授業内容を教科書・ノートで確認する									
14. 成分抽出性食品の調理特性：デンプン					授業内容を教科書・ノートで確認する									
15. " : ゼラチン、寒天その他					授業内容を教科書・ノートで確認する									
16. 試験														
履修上の注意 出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で1回の欠席とする ミニットペーパーを課した場合は、採点後に返却し加点对象とする。														
成績評価方法・基準 期末試験 65%、受講態度・レポート提出 35% 試験問題は、教科書およびノートからの出題です。試験後解答例を掲示する。 レポートは、提出後返却します														
教科書 書名：調理科学 著者名：森高初恵、佐藤恵美子 出版社：建帛社 価格：2,500円														
参考書 調理のためのベーシックデータ（他の授業で購入済み）														
備考 ：出張等の都合により授業計画が変更されることがある 質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける														

授業科目名	調理科学実験				単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+30)					
担当者	佐藤 靖子	必・選	管栄(必)	形態	実験	学期	前期	対象	健専3年					
授業概要														
食品素材は、切る・潰すなどの調理操作により形態が変化して調味料等の浸透性が異なり風味に影響する。また、様々な加熱方法により色調の変化、組織の軟化、香りの発現などその状態が変化して嗜好性や消化性に影響することを指導する。さらに調理操作による食品材料の物理的・化学的变化を観察を通して、目的、方法、結果および考察をまとめる能力を身につけさせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1 実験方法に従って進めることができる					○	○								
2 食品の調理による変化を観察する					○	○								
3 調理による食品の変化を科学的に理解することができる							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス：安全・衛生・レポート作成など					レポート作成方法を図書館で確認する									
2. 講義：食品の重量・容量、炊飯					授業内容を良くまとめて班で話し合う									
3. 食品の重量と容量に関する実験					レポート作成・提出									
4. 炊飯に関する実験					レポート作成・提出									
5. 講義：出汁の材料、卵					授業内容を良くまとめて班で話し合う									
6. 出汁に関する実験					レポート作成・提出									
7. 卵に関する実験					レポート作成・提出									
8. 講義：砂糖、飲み物					授業内容を良くまとめて班で話し合う									
9. 砂糖に関する実験					レポート作成・提出									
10. 飲み物に関する実験					レポート作成・提出									
11. 講義：小麦、野菜					授業内容を良くまとめて班で話し合う									
12. 小麦に関する実験					レポート作成・提出									
13. 野菜に関する実験					レポート作成・提出									
14. 講義：動物性食品					授業内容を良くまとめて班で話し合う									
15. 動物性食品の実験（食肉予定）					レポート作成・提出									
履修上の注意：レポートは次回の授業開始前までに指定の場所へ提出すること。遅れた場合は遅刻提出となり1点減点とする。 身支度が整わない学生の入室はできない（欠席扱い）。実験中の安全・衛生に十分注意すること。														
成績評価方法・基準														
レポート提出 85%（実験回数で割った積み重ね点で評価する）、授業態度（身支度を含む）15% 提出されたレポートは確認後返却する。未提出のレポートがある場合は、評価なしとする。 他者と同内容のレポートが提出された場合は、評価なしとする。 ルーブリック評価について1回目の授業で説明します。														
教科書 [書名：イラスト調理 Book] [著者名：安部サト他] [出版社名：実教出版] [価格：770円]														
参考書 成分表など														
備考：学生の校外実習または教員の出張等の都合により授業計画の順番・内容が変更することがある 学外実習で欠席する場合のレポート提出は、ガイダンスにて説明する 質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける														

授業科目名	基礎調理学実習 I				単位 (総授業時間+自習時間)				1 (15+30)					
担当者	平本福子・深澤律子	必・選	必	形態	実習	学期	前期	対象	健専1年					
授業概要														
1. 基礎調理技術 (食材や調理法についての知識を整理し、調理操作のポイントを科学的に理解する能力とそれらの知識を活用して実際に調理ができる技術を教授する。 2. 栄養、試行、食文化、食環境などの多様な側面から、食べる人にとって望ましい食事を計画し、実際に食事として作りあげる技術を教授する。 3. 授業で習得した調理の知識や技術を自分の生活の中で実践するための力を養った上で、実際に行い、振り返り、自己評価と課題を整理し、考察する方法を指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
食材や調理法についての基礎的な知識を修得する。					○									
修得した知識をもとに、実際の調理技術を習得する。					○			○						
食事構成の要点を理解し、献立を立てることができる。					○			○						
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. オリエンテーション 計量、調味パーセントの基礎 (平本・深澤)					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
2. 基礎調理技術 (1) 切る (平本・深澤)					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
3. 基礎調理技術 (2) だしをとる、汁を仕立てる (平本・深澤)					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
4. 基礎調理技術 (3) 焼く、炒める (平本・深澤)					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
5. 基礎調理技術 (4) 煮る (平本・深澤)					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
6. 基礎調理技術 実技試験 (平本・深澤)					課題の練習と振り返りを行い、レポート提出。									
7. 食事計画の基礎 (平本・深澤)					実際に献立を作成する。									
8. 献立調理 (食事単位での調理技術) (1) 卵を主菜に (平本・深澤)					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
9. 献立調理 (食事単位での調理技術) (2) 肉を主菜に (平本・深澤)					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
10. 献立調理 (食事単位での調理技術) (3) 魚を主菜に (平本・深澤)					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
11. 献立調理 (食事単位での調理技術) (4) 豆腐を主菜に (平本・深澤)					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
12. 献立調理 (食事単位での調理技術) (5) 麺を主食に (平本・深澤)					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
13. 献立調理 実技試験 (献立作成から調理まで) (平本・深澤)					課題の練習と振り返りを行い、レポート提出。									
14. 調理技術に関する知識の確認 (筆記試験) (平本・深澤)					教科書をよく読み、課題を整理する。									
15. 生活実習 (実生活での応用) (平本・深澤)					課題を確認し、実践した上でレポートを提出。									
16. フィードバック (実技試験・筆記試験を振り返り) (平本・深澤)					ポートフォリオ評価表を記入してくる。									
履修上の注意														
実習なので出席することが重要である。また、調理技術の習得のためには授業時間だけでなく、自宅などでの実践が必要である。														
成績評価方法・基準														
基礎点 (授業に取り組む態度と実際の行動) 60 点、実技試験 25 点、筆記試験 15 点を基準として評価する。試験のフィードバックについては、実技試験では結果の講評と今後の課題について説明する。また、筆記試験では回答例を提示するとともに、口頭でも説明する。														
教科書														
〔調理学 (健康・栄養・調理)〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2700 円〕 〔調理のためのベーシックデータ第 5 版〕〔松本伸子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1800 円〕														
参考書 〔7 訂食品成分表 2018〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1400 円〕 〔食品の栄養とカロリー事典 改訂版〕〔女子栄養大学出版部〕〔1500 円〕														
備考														
都合により、授業計画の順番などが変更する時がある。ルーブリック評価については第 1 回の授業で説明する。質問等は授業終了時に受け付ける。														

授業科目名		基礎調理学実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1（15+30）					
担当者	平本福子・深澤律子	必・選	必	形態	実習	学期	後期	対象	健専1年					
授業概要														
1. 調理器具や加工食品などの調理の簡便化、食事の食塩量・エネルギー量を調理方法により調節するなど、現代の食生活における課題解決に向けての知識と技術を教授する。 2. 栄養教育のツールとして、人々に1食分の適量や栄養バランスを伝えるための方法（3・1・2弁当箱法）についての知識と技術を教授する。 3. 食文化の観点から、和洋華の食事様式、行事食、郷土食などについての知識や技術を教授する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
調理の簡便化、調理による栄養量についての知識を修得する。							○	○	○					
食事を用いた栄養教育についての知識と技術を習得する。								○	○	○	○			
栄養面、食文化面も含めて、献立を立てることができる。								○			○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.生活実習報告会、3・1・2弁当箱法についての講義（平本・深澤）					配布プリントをよく読む。レポート提出。									
2.栄養教育ツール（3・1・2弁当箱法）の実習（平本・深澤）					配布プリントをよく読む。レポート提出。									
3.調理の簡便化①（調理器具）切る、蒸す（平本・深澤） ※調理時間、食味などをまとめて発表する。					配布プリントをよく読む。レポート提出。									
4.調理の簡便化②（加工食品）主食（五目ごはん）、主菜（真麻婆豆腐） ※調理時間、食味などをまとめて発表する。（平本・深澤）					配布プリントをよく読む。レポート提出。									
5.調理の簡便化③（加工食品）合わせ調味料 胡麻和え（平本・深澤）※調理時間、食味等の結果をまとめ、発表する					配布プリントをよく読む。レポート提出。									
6.様式別料理（日本料理）赤飯、サバの竜田揚げ、ほうれん草のくるみ和え、茶わん蒸し、茶まんじゅう（平本・深澤）					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
7.様式別料理（西洋料理）ビーフシチュー、サラダ、スポンジケーキ（平本・深澤）					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
8.様式別料理（中華料理）前菜、酢豚、スープ、中華クッキー（平本・深澤）					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
9.郷土食 東北6県に分かれて、各県の郷土食を調べ、作り、伝統を伝える方法等について発表する（平本・深澤）					配布プリントをよく読み、レポート提出。									
10.行事食（クリスマス）（平本・深澤） 前菜、ローストチキン、スープ、プラムケーキ					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
11. 行事食（正月）南蛮漬け、きんとん、根菜の煮物、椀物（平本・深澤）					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
12. 調理による塩分量の変化（平本・深澤） 料理レベル、食事レベルでの減塩について					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
13. 調理によるエネルギー量の変化（平本・深澤） エネルギー量を増減させる調理法について					配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。									
14. 実技試験（平本・深澤）					課題の練習と振り返りを行い、レポート提出。									
15. 筆記試験（平本・深澤）					教科書をよく読み、課題を整理する。									
16. フィードバック（平本・深澤）（実技試験・筆記試験の振り返り）					ポートフォリオ評価表を記入してくる。									
履修上の注意														
実習なので出席することが重要である。また、調理技術の習得のためには授業時間だけでなく、自宅などでの実践が必要である。														
成績評価方法・基準														
基礎点（授業に取り組む態度と実際の行動）60点、実技試験25点、筆記試験15点を基準として評価する。試験のフィードバックについては、実技試験では結果の講評と今後の課題について説明する。また、筆記試験では回答例を提示するとともに、口頭でも説明する。														
教科書 ※調理学実習Ⅰで使用したもの 〔調理学（健康・栄養・調理）〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2700円〕 〔調理のためのベーシックデータ第5版〕〔松本伸子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1800円〕														
参考書 〔7訂食品成分表2018〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1400円〕 〔食品の栄養とカロリー事典 改訂版〕〔女子栄養大学出版部〕〔1500円〕														
備考														
都合により、授業計画の順番などが変更する時がある。ルーブリック評価については第1回の授業で説明する。質問等は授業終了時に受け付ける。														

授業科目名		応用調理学実習 I			単位 (総授業時間+自習時間)				1 (15+30)					
担当者	宮地洋子・深澤律子	必・選	管栄必	形態	実習	学期	前期	対象	健専2年					
授業概要														
基礎調理学の知識をもとに、18～29歳の食事摂取基準を食品構成に展開できるように、食事摂取基準を活用し、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるように、春・夏の出盛りの食材を理解し、季節感のある行事食や郷土料理も取り入れた具体的な実習献立を通して教授する。献立一食あたりの食品の使用量を学び、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるよう指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
修得した知識をもとに、一日の摂取カロリーから食品構成を展開することが理解できる。					○	○	○							
グループで話し合い、献立一食あたりの食品の使用量が理解でき、献立を立てる技術を習得する。					○	○	○		○		○			
グループで話し合い、一日（朝・昼・夕）の献立を立てる技術を習得する。					○	○	○		○		○			
修得した調理技術をもとに、さまざまな野菜の切り方を習得する。					○	○	○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.オリエンテーション 食事摂取基準、食品構成から献立作成について（宮地・深澤）					配布プリントをよく読み、食品構成を理解し、まとめを2回目に提出。									
2.春の献立 西洋料理（宮地・深澤）					実習のまとめレポートを3回目に提出。									
3.春の献立 日本料理（宮地・深澤）					実習のまとめレポートを4回目に提出。									
4.春の献立 中国料理（宮地・深澤）					実習のまとめレポートを5回目に提出。									
5.春の献立 西洋料理（アフタヌーンティー）（宮地・深澤）					実習のまとめレポートを6回目に提出。									
6.行事食・七夕献立（宮地・深澤）					実習のまとめレポートを7回目に提出。									
7.夏の献立 西洋料理（宮地・深澤）					実習のまとめレポートを8回目に提出。									
8.夏の献立 中国料理（宮地・深澤）					実習のまとめレポートを9回目に提出。									
9. 演習・食品構成を考えた夏の献立（1）日本料理の献立作成（宮地・深澤）					作成した献立を10回目に提出。									
10. 演習・食品構成を考えた夏の献立（2）日本料理の栄養価計算（宮地・深澤）					作成した献立の栄養価計算を11回目に提出。									
11. 食品構成を考えた夏の献立（3）日本料理の実習（宮地・深澤）					実習のまとめレポートを12回目に提出。									
12. 演習・食品構成を考えた夏の献立（1）西洋料理の献立作成（宮地・深澤）					作成した献立を13回目に提出。									
13. 演習・食品構成を考えた夏の献立（2）西洋料理の栄養価計算（宮地・深澤）					作成した献立の栄養価計算を14回目に提出。									
14. 食品構成を考えた夏の献立（3）西洋料理の実習（宮地・深澤）					実習のまとめレポートを15回目に提出。									
15.講義、前期まとめ（宮地・深澤）					前期に学んだ内容を復習する。									
16.筆記試験（宮地・深澤）														
履修上の注意														
前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子、タオルハンカチを準備する。調理室内ではボールペン使用。調理室に入室したら手洗い消毒を済ませ、配布資料をファイルに保管する。出席することが重要である。調理技術の習得のためには、自宅で実践する。														
成績評価方法・基準														
実技試験 30点、実習レポート提出 30点、筆記試験 30点、授業態度 10点（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等）で評価する。提出されたレポートは後日添削して返却する。課題については授業中にフィードバックする。														
教科書 〔調理学（健康・栄養・調理）〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2700円〕 〔調理のためのベーシックデータ第5版〕〔松本伸子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1800円〕 〔調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子、森美奈子〕〔化学同人〕〔1650円〕														
参考書 〔一品料理 500選〕〔宗像伸子編著〕〔医歯薬出版〕〔5800円〕														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示する。 ・季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがある。 ・ルーブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照する。 ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。 														

授業科目名		応用調理学実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1（15+30）					
担当者	宮地洋子・深澤律子	必・選	管栄必	形態	実習	学期	後期	対象	健専2年					
授業概要														
基礎調理学の知識をもとに、18～29歳の食事摂取基準を食品構成に展開できるように、食事摂取基準を活用し、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるように、秋・冬の出盛りの食材を理解し、季節感のある行事食や郷土料理も取り入れた具体的な実習献立を通して教授する。グループ活動を通して、献立一食あたりの食品の使用量を学び、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるよう指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
修得した知識をもとに、一日の摂取カロリーから食品構成を展開することが理解できる。					○	○	○							
グループで話し合い、献立一食あたりの食品の使用量が理解でき、献立を立てる技術を習得する。					○	○	○		○		○			
グループで話し合い、一日（朝・昼・夕）の献立を立てる技術を習得する。					○	○	○		○		○			
修得した調理技術をもとに、さまざまな野菜の切り方を習得する。					○	○	○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.夏休みの課題「家族への食事作りのレポート」発表。（宮地・深澤）					レポートにまとめ、発表の準備を行う。レポート提出。									
2.秋の献立 日本料理（宮地・深澤）					実習のレポートを3回目までに提出。									
3.秋の献立 日本料理（豆の展開調理）（宮地・深澤）					実習のレポートを4回目に提出。									
4.秋の献立 西洋料理（宮地・深澤）					実習のレポートを5回目に提出。									
5.秋の献立 中国料理（飲茶）（宮地・深澤）					実習のレポートを6回目に提出。									
6.冬の献立 日本料理（宮地・深澤）					実習のレポートを7回目に提出。									
7.冬の献立 西洋料理（宮地・深澤）					実習のレポートを8回目に提出。									
8. 演習・食品構成を考えた冬の献立①日本料理の献立作成（宮地・深澤）					実習の献立を9回目に提出。									
9. 演習・食品構成を考えた冬の献立①日本料理の栄養価計算（宮地・深澤）					実習の栄養価計算を10回目に提出。									
10.食品構成を考えた冬の献立①日本料理の実習（宮地・深澤）					実習のレポートを11回目に提出。									
11.演習・食品構成を考えた冬の献立②西洋料理の献立作成（宮地・深澤）					実習の献立を12回目に提出。									
12. 演習・食品構成を考えた冬の献立②西洋料理の栄養価計算（宮地・深澤）					実習の栄養価計算を13回目に提出。									
13. 食品構成を考えた冬の献立②西洋料理の実習（宮地・深澤）					実習のレポートを15回目に提出。									
14.テーブルマナー（宮地・深澤）					テーブルマナーのレポートを15回目に提出。									
15.講義、後期まとめ（宮地・深澤）					後期に学んだ内容を復習する。									
16.筆記試験（宮地・深澤）														
履修上の注意														
前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子、タオルハンカチを準備する。調理室内ではボールペン使用。調理室に入室したら手洗い消毒を済ませ、配布資料をファイルに保管する。出席することが重要である。調理技術の習得のためには、自宅で実践する。														
成績評価方法・基準														
夏休みの課題レポート30点、実習レポート提出30点、筆記試験30点、授業態度10点（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等）で評価する。提出されたレポートは後日添削して返却する。課題については授業中にフィードバックする。														
教科書〔調理学（健康・栄養・調理）〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2700円〕 〔調理のためのベーシックデータ第5版〕〔松本伸子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1800円〕 〔調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子、森美奈子〕〔化学同人〕〔1650円〕														
参考書〔一品料理500選〕〔宗像伸子編著〕〔医歯薬出版〕〔5800円〕														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示する。 ・季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがある。 ・ルブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照する。 ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。 														

授業科目名	食文化論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30-60)					
担当者	宮地 洋子	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専2年					
授業概要														
日本の自然環境と社会環境の中で形成されてきた食文化について、古代から現代までどのように変遷してきたかを学修する。また、各時代の特徴と大陸、南蛮、欧米などの異文化と係わり、どのように取り入れて日本独特の食文化を発展したかも学修する。さらに、年中行事や儀礼食及び郷土料理の学修を通じて食文化の伝承と継承の大切さを理解する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
食文化の定義およびその変遷を理解できる。						○	○		○					
各時代の特徴と異文化との係わりを理解できる。						○	○		○					
行事食・儀礼食を理解し各自の食体験を整理できる。							○		○					○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 「和食」：日本人の伝統的な食文化					教科書序章を読んでおくこと。									
2. 食文化の定義、食に関する思想					教科書食文化の定義、食に関する思想を読んでおくこと。									
3. 世界の食文化形成①世界の食文化類型とその特徴					教科書世界の食文化類型とその特徴を読んでおくこと。									
4. 世界の食文化形成③粉食文化と粒食文化					教科書粉食文化と粒食文化を読んでおくこと。									
5. 日本の食文化形成と展開					教科書日本の食文化形成と展開を読んでおくこと。									
6 異文化接触と受容.					教科書異文化接触と受容をよんでおくこと。									
7. 主食の文化①木の実といも類、米					教科書木の実といも類、米を読んでおくこと。									
8. 主食の文化②大麦と小麦、雑穀					教科書大麦と小麦、雑穀を読んでおくこと。									
9. 副食の文化					教科書副食の文化を読んでおくこと。									
10. 行事と地域の文化 授業内課題について					教科書行事と地域の文化を読んでおくこと。									
11. 日本料理の形成と発展①日本料理の系譜と本膳料理 和食のマナー(DVD)					教科書日本料理の系譜と本膳料理を読んでおくこと。									
12. 日本料理の形成と発展②懐石料理、会席料理、精進料理					教科書懐石料理、会席料理を読んでおくこと。									
13. 台所、食器、食卓の文化 洋食のマナー(DVD)					教科書台所、食器、食卓の文化を読んでおくこと。									
14. 日常の食、授業内課題の提出					教科書日常の食、授業内課題をまとめておくこと。									
15. 非常の食 講義全体のまとめ 災害食(DVD)					非常の食を読んでおくこと。									
16. 筆記試験														
履修上の注意														
1. 事前に講義予定の教科書内容を熟読して受講してください。														
2. 教科書及びスライドで提示された専門用語のうち、わからないものについては調べておいてください。														
3. 授業内課題については提出期限を守ってください。														
成績評価方法・基準														
期末試験（60%）、授業内課題（30%）提出された課題は後日添削して返却する。受講態度（10%）。試験は問題と解答例をまとめたレジュメを配布し、フィードバックとする。														
教科書 授業前にプリントを配布する 〔新版 日本の食文化「和食」の継承と食育〕〔江原絢子・石川尚子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2,500円＋税別〕														
参考 なし														
備考 毎回、講義終了後にオフィスアワーを用意します。														

授業科目名	基礎栄養学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	鈴木 裕行	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専1年					
授業概要														
ヒトをはじめ生物が外界の物質を体内に取り入れ、それをエネルギー源や体構成の材料として利用する「栄養」という現象は生命維持に不可欠である。ヒトの食欲を調節するしくみ、摂取した食物の消化と栄養素の吸収に携わる消化器官系の各臓器の構造と機能、消化（食品成分の分解反応）・吸収の機構、また、栄養素の種類と各栄養素の化学構造・性質、体内での代謝・機能と欠乏症・過剰症、および栄養素同士の関わりについて説明する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
健康の保持・増進における栄養の役割を説明できる					○	○	○							
消化・吸収における各消化器官の役割を説明できる					○	○	○							
各栄養素の代謝とその生理的意義を説明できる					○	○	○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 栄養とは、遺伝形質と栄養					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㉠									
2. 食欲の調節、食事のタイミング														
3. 消化器の構造														
4. 消化器の機能														
5. 消化吸収率、たんぱく質の消化吸収、														
6. たんぱく質・アミノ酸の体内代謝														
7. たんぱく質の量と質の評価														
8. [中間試験]、糖質の消化吸収、糖質代謝の概要					㉠に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。									
9. 試験の解説、食後・食間の糖質代謝														
10. 血糖の調節、エネルギー源としての作用					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㉠									
11. 脂質の消化吸収、脂質代謝の概要														
12. 脂質のエネルギー代謝、コレステロール代謝														
13. 脂質の量と質の評価														
14. ビタミンの分類・構造と機能					㉠に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する									
15. [期末試験]、ミネラルの種類と体内分布														
16. 試験の解説、ミネラルの機能					㉠に加え、試験でできなかったところをよく復習する									
履修上の注意														
他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。														
成績評価方法・基準														
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%														
教科書 基礎栄養学、駒井三千夫 他、アイ・ケイコーポレーション、2,400円＋税														
参考書 栄養の生化学 1-2-3 改訂第3版、遠藤克己、南江堂、2,000円＋税														
備考														
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。														

授業科目名	栄養生化学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	鈴木 裕行	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専2年				
授業概要													
メタボリック・シンドロームはその患者数の多さから現代の社会問題とも言えるが、いずれもその発症と進行に食生活が大きく関与する疾患群である。それに含まれる肥満症・糖尿病・脂質異常症・高血圧症・骨粗鬆症・および癌といった各疾患について、発症や病態の背景となる各種栄養素（特にエネルギー分子）の代謝とその調節機構、および発症と症状の進行の分子生物学的・細胞生物学的機構について講義する。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
メタボリック・シンドロームの病態を生化学的に説明できる				○	○	○							
メタボリック・シンドロームの予防・治療への栄養に役割を説明できる				○	○	○							
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）									
1. メタボリック・シンドロームとは				教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㉠									
2. 肥満症													
3. 脂肪細胞の機能													
4. 肥満遺伝子													
5. 血糖調節機構と糖尿病の分類													
6. 糖尿病の発症機序と代謝													
7. 糖尿病関連遺伝子、食事療法				㉠に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。									
8. [中間試験]、リポタンパク質とその受容体				㉠に加え、試験でできなかったところをよく復習する									
9. 試験の解説、動脈硬化症の発症機序と代謝													
10. 動脈硬化症の治療と関連遺伝子				教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㉠									
11. 血圧調節機構													
12. 高血圧症の発症機序													
13. カルシウム代謝調節機構													
14. 骨粗鬆症の発症機序と治療				㉠に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する									
15. [期末試験]、発癌の分子機構				㉠に加え、試験でできなかったところをよく復習する									
16. 試験の解説、発癌と食事													
履修上の注意													
他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。													
成績評価方法・基準													
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%													
教科書 無し（資料を配布する）													
参考書 栄養の生化学 1-2-3 改訂第3版、遠藤克己、南江堂、2,000円＋税													
備考													
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。													

授業科目名		栄養学実験		単位（総授業時間＋自習時間）					1(45+15)				
担当者	鈴木 裕行	必・選	必	形態	実験	学期	前期	対象	健専2年				
授業概要													
糖質・脂肪・たんぱく質のそれぞれの消化酵素による消化実験を行い、それぞれの消化酵素の性質や酵素活性の測定法、脂肪の消化における胆汁酸の機能等を説明する。また、食品に含まれるビタミンB ₁ およびビタミンCの定量法を指導する。さらに、ダグラスバッグを用いて収集した呼気のガス分析を行い、間接法によるエネルギー消費量の測定を指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
各栄養素の消化の仕組みを説明できる					○	○	○	○	○		○		
食品中のビタミンが定量できる						○	○	○	○		○		
呼気分析によりエネルギー消費量が測定できる						○	○	○	○		○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 授業の概要説明・実験実施上の注意					配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。								
2. 糖質の消化実験①吸光度分析法					学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「糖質の消化実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。								
3. 糖質の消化実験②マルトースの定量													
4. 糖質の消化実験③唾液アミラーゼによるデンプンの消化													
5. 糖質の消化実験④酵素活性の求め方（タンパク質量）					学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「たんぱく質の消化実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。								
6. たんぱく質の消化実験①プロテアーゼによるたんぱく質の消化													
7. たんぱく質の消化実験②アミノ酸の検出					学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「脂肪の消化実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。								
8. 脂肪の消化実験①リパーゼによる脂肪の消化													
9. 脂肪の消化実験②酸度の滴定					学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「ビタミンの定量実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。								
10. ビタミンB ₁ の定量①：試料調製													
11. ビタミンB ₁ の定量②：測定													
12. ビタミンCの定量①：試料調製													
13. ビタミンCの定量②：測定					学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「エネルギー消費量の測定実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。								
14. エネルギー消費量の測定①：測定の原理													
15. エネルギー消費量の測定②：測定・計算													
履修上の注意													
実験レポート作成に備え、実験記録をできるだけ綿密に取ること。基礎栄養学・生化学等の科目の内容と関連が深いのでそれぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。													
成績評価方法・基準													
実験レポート（80%）および平常点（20%；受講状況・実施状況）・・・詳細はループリック参照 成績評価に関しては、授業はじめにループリックを提示する。レポートへのフィードバックとして後日コメントを提示する。													
教科書 無し（プリントを配布）													
参考書 無し													
備考													
オフィスアワーは掲示・配布資料参照。													

授業科目名	応用栄養学 I				単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)					
担当者	川俣 幸一	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専 2年					
授業概要														
<p>各ライフステージにおける栄養状態や心身機能に応じた栄養管理の基本的な考え方を基準に、食事摂取基準への当てはめ方や、栄養マネジメントの方法について理解する。</p> <p>具体的な内容としては、栄養マネジメントではスクリーニング・アセスメント・栄養ケアプラン・実行・モニタリング・評価からなる 6 項目を、基本的な概念理解を中心に学習する。ライフステージ別の栄養管理の分野では、成人期、妊娠期、授乳期、新生児期、乳児期の 5 分野を取り扱う。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
各ライフステージの栄養状態や心身機能、ケアすべき問題点を理解することができるようになる。						○								
栄養マネジメントを各世代ごとに体系的に考えることができるようになる。							○							
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. ライフサイクルの概要 / 栄養マネジメントの概要					事前学習として教科書の栄養マネジメント回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
2. 成人期①：生理的特徴					事前学習として教科書の成人期の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
3. 成人期②：栄養アセスメント					〃									
4. 成人期③：栄養ケア					〃									
5. 妊娠期①：生理的特徴					事前学習として教科書の妊娠期の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
6. 妊娠期②：栄養アセスメント					〃									
7. 妊娠期③：栄養ケア					〃									
8. 前半のまとめ回					ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと									
9. 授乳期①：生理的特徴					事前学習として教科書の授乳期の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
10. 授乳期②：栄養アセスメント					〃									
11. 授乳期③：栄養ケア					〃									
12. 新生児期・乳児期①：生理的特徴					事前学習として教科書の新生児期・乳児期の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
13. 新生児期・乳児期②：栄養アセスメント					〃									
14. 新生児期・乳児期③：栄養ケア					〃									
15. 後半のまとめ回					ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと									
履修上の注意														
<p>応用栄養学実習、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの問題行為が判明した学生は受講態度が一律 0 点となるので、単位の認定を行うことがほぼ出来なくなります。</p>														
成績評価方法・基準														
小テストの点数・・・60% 受講態度・・・40%														
教科書 [応用栄養学 改訂第 5 版] [渡邊令子・他] [南江堂] [3,456 円]														
参考書 なし														
備考														
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。小テストは採点をして返却する。														

授業科目名	応用栄養学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	川俣 幸一	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専2年				
授業概要													
<p>応用栄養学Ⅰに引き続き、各ライフステージにおける栄養状態や心身機能に応じた栄養管理の基本的な考え方を基準に、食事摂取基準への当てはめ方や、それぞれ特徴的な栄養マネジメントの方法（スクリーニング・アセスメント・栄養ケアプラン・実行・モニタリング・評価）について理解する。</p> <p>具体的な内容としては、ライフステージ別の栄養管理の分野では、幼児期、学童期、思春期、高齢期、運動・スポーツ期と栄養、ストレス・特殊環境と栄養の6分野を取り扱う。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
各ライフステージの栄養状態や心身機能、ケアすべき問題点を理解することができるようになる。						○							
栄養マネジメントを各世代ごとに体系的に考えることができるようになる。							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 幼児期①：生理的特徴					事前学習として教科書の幼児期の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと								
2. 幼児期②：栄養アセスメント					〃								
3. 幼児期③：栄養ケア					〃								
4. 学童期・思春期①：生理的特徴					事前学習として教科書の学童期・思春期の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと								
5. 学童期・思春期②：栄養アセスメント					〃								
6. 学童期・思春期③：栄養ケア					〃								
7. 前半のまとめ回					ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと								
8. 高齢期①：生理的特徴					事前学習として教科書の高齢期の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと								
9. 高齢期②：栄養アセスメント					〃								
10. 高齢期③：栄養ケア					〃								
11. 運動・スポーツと栄養					事前学習として教科書の運動・スポーツと栄養の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと								
12. ストレスと栄養					事前学習として教科書のストレスと栄養の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと								
13. 特殊環境と栄養					事前学習として教科書の特殊環境と栄養の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと								
14. 災害時の栄養					事前学習として教科書の災害時栄養の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと								
15. 後半のまとめ回					ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと								
履修上の注意													
<p>応用栄養学実習、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの問題行為が判明した学生は受講態度が一律0点となるので、単位の認定を行うことがほぼ出来なくなります。</p>													
成績評価方法・基準 小テスト・・・60% 受講態度・・・40%													
教科書 〔応用栄養学 改訂第5版〕〔渡邊令子・他〕〔南江堂〕〔3,456円〕													
参考書 なし													
備考													
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。小テストは採点をして返却する。													

授業科目名	栄養管理論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	川俣 幸一	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専2年					
授業概要														
主として健康な人間を対象とした栄養管理業務において基本となる日本人の食事摂取基準について、その基本的な考え方や、科学的根拠ならびに活用する方法を教授する。食事摂取基準を用いた栄養管理を理解できるようになるため、具体的には成人期を基準としたそれぞれの栄養素（34種類）についての考え方を学び、それをライフステージ別（妊婦、授乳婦、乳児、小児、高齢者、軽度生活習慣病患者など）に当てはめて考えていく作法を学ぶ。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
日本人の食事摂取基準（2020年版）の数値や科学的根拠を理解できるようになる。						○								
食事摂取基準を用いた栄養管理の考え方や方法を理解できるようになる							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 概論 / 食事摂取基準について					事前学習として食事摂取基準の策定回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
2. 食事摂取基準の各指標について					事前学習として食事摂取基準の活用回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
3. エネルギー（算定の科学的根拠・BMIとの関係）					事前学習として食事摂取基準のエネルギー回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
4. たんぱく質（算定の科学的根拠）					事前学習として食事摂取基準のたんぱく質回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
5. 脂質（算定の科学的根拠）					事前学習として食事摂取基準の脂質回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
6. 前半のまとめ回					ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと									
7. 水溶性ビタミン（算定の科学的根拠）					事前学習として食事摂取基準の水溶性ビタミン回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
8. 脂溶性ビタミン（算定の科学的根拠）					事前学習として食事摂取基準の脂溶性ビタミン回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
9. 多量ミネラル（算定の科学的根拠）					事前学習として食事摂取基準の多量ミネラル回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
10. 微量ミネラル（算定の科学的根拠）					事前学習として食事摂取基準の微量ミネラル回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
11. ライフステージ別の栄養管理①（妊婦・授乳婦）					事前学習として食事摂取基準の妊婦・授乳婦回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
12. ライフステージ別の栄養管理②（乳児・小児）					事前学習として食事摂取基準の乳児・小児回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
13. ライフステージ別の栄養管理③（高齢者）					事前学習として食事摂取基準の高齢者回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
14. 生活習慣病とエネルギー・栄養素との関連					事前学習として食事摂取基準の生活習慣病回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと									
15. 後半のまとめ回					ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと									
履修上の注意														
応用栄養学実習、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの問題行為が判明した学生は受講態度が一律0点となるので、単位の認定を行うことがほぼ出来なくなります。														
成績評価方法・基準 小テスト・・・60% 受講態度・・・40%														
教科書 〔日本人の食事摂取基準2020年版〕〔菱田明・他〕〔第一出版〕〔2,916円〕														
参考書 なし														
備考 質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。小テストは採点をして返却する。														

授業科目名		応用栄養学実習 I			単位 (総授業時間+自習時間)				1(45+45)					
担当者	川俣 幸一	必・選	管栄・栄(必)	形態	実習	学期	前期	対象	健専 2年					
授業概要														
各自の身体状況、食物摂取状況の調査などを通じて、自分の食生活状況をアセスメントする。自分自身に適した推定エネルギー必要量の算出や食事摂取基準の設定を行い、それらの結果を基に栄養診断を行う。最終的に栄養ケアプランやモニタリングシートを作成する。更には食品構成から献立作成までの実践的な栄養管理能力の取得を目指す。本実習での対象は自分自身 (18-29 歳女性 or 男性) であるが、基本を学びそれ以外の世代においても対応できるようになることを目標とする。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
1) 自分の食生活の現状についてアセスメントを行う能力を身につける							○					○	○	
2) 自分の身体に合う食事についての栄養管理法を総合的に理解できるようになる。										○				
授業計画の内容						自習 (事前・事後学修の内容)								
1. ガイダンス/スクリーニング						事前学習は配布プリントのスクリーニング回の予習。事後学習としてレポート作成。								
2. 身体活動量の計算						事前学習は配布プリントの身体活動量回の予習。事後学習としてレポート作成。								
3. 体格測定						事前学習は教科書の体格測定回の予習。事後学習としてレポート作成。								
4. 食事調査 (練習)						事前学習は教科書の食事調査回の予習。事後学習としてレポート作成。								
5. 栄養価計算 (練習)						事前学習はこれまでの栄養価計算法の復習。事後学習としてレポート作成。								
6. 食事調査 (3 日間の食事記録法)						事前学習として 3 日間の食事記録法の課題レポートが出ます。事後学習として食事記録を完成させてください。								
7. 栄養価計算 (3 日間の食事記録法)						事前学習として 3 日間の食事記録法の課題レポートが出ます。事後学習として栄養価計算を完成させてください。								
8. アセスメントシートの作成						事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。								
9. 栄養ケア計画の作成① (問題点の抽出)						事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。								
10. 栄養ケア計画の作成② (栄養診断、栄養目標量の設定)						事前学習は配布プリントの食事摂取基準回の予習。事後学習としてレポート作成。								
11. 栄養ケア計画の作成③ (食品構成)						事前学習は配布プリントの食品構成回の予習。事後学習としてレポート作成。								
12. 栄養ケア計画の作成④ (献立作成)						事前学習は配布プリントの献立作成回の予習。事後学習としてレポート作成。								
13. モニタリング① (チェックシートの作成)						事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。								
14. モニタリング② (再計画について)						事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。								
15. 評価 (構造評価・経過評価・総合評価) / まとめ						事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。								
履修上の注意														
応用栄養学・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学・公衆栄養学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。														
成績評価方法・基準														
課題レポート・・・90%、受講態度・・・10% (真摯に学ぶ態度) 提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。														
教科書 [応用栄養学 改訂第5版] [渡邊令子・他] [南江堂] [3,456 円] その他、適宜プリントを配布する														
参考書 [食品成分表] [女子栄養大学出版部] [1,512 円] [調理のためのベーシックデータ] [女子栄養大学出版部] [1,890 円] [日本人の食事摂取基準 [2015 年版]] [第一出版] [2,916 円]														
備考														
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する														

授業科目名	応用栄養学実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+45)					
担当者	川俣 幸一	必・選	管栄・栄(必)	形態	実習	学期	後期	対象	健専2年				
授業概要													
<p>応用栄養学Ⅰ・Ⅱで学んだ各ライフステージの生理現象や生活をふまえ、より良く生きるための栄養とそれに適した献立について、実際に献立調理、観察、試食などを行う。本実習での対象期は、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、妊娠期、成人期、老年期、災害時とする。また応用栄養学実習Ⅰで学んだ栄養管理の方法を踏まえて、各ライフステージに適した献立作成などを行いながら、栄養補給計画の前提となる考え方を学ばせる。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
1) 各ライフステージに適している献立がどのように作成されているかを理解できるようになる。						○					○	○	
2) 各ライフステージに適した栄養管理の考え方と方法を総合的に理解できるようになる。									○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 新生児期・乳児期栄養①（乳汁栄養）					事前学習は教科書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。ルーブリックを配布する。								
2. 新生児期・乳児期栄養②（離乳食前期～中期）					事前学習は教科書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。								
3. 新生児期・乳児期栄養③（離乳食後期～完了期）					事前学習は教科書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。								
4. 幼児期栄養①（アレルギー：除去食・代替食）					事前学習は教科書の幼児期の予習。事後学習としてレポート作成。								
5. 幼児期栄養②（アレルギー：対応食材）					事前学習は教科書の幼児期の予習。事後学習としてレポート作成。								
6. 幼児期栄養③（アレルギー：発展調理法）					事前学習は教科書の幼児期の予習。事後学習としてレポート作成。								
7. 学童期栄養①（地域食材・食育）					事前学習は教科書の学童期の予習。事後学習としてレポート作成。								
8. 学童期栄養②（行事・麺食）					事前学習は教科書の学童期の予習。事後学習としてレポート作成。								
9. 成人期栄養①（更年期の食事：高カルシウム食）					事前学習は教科書の成人期の予習。事後学習としてレポート作成。								
10. 成人期栄養②（更年期の食事：薬膳食）					事前学習は教科書の成人期の予習。事後学習としてレポート作成。								
11. 妊娠期栄養①（つわりを考えた食事）					事前学習は教科書の妊娠期の予習。事後学習としてレポート作成。								
12. 妊娠期栄養②（アセスメントに基づいた調理実習①：食事調査を参考にした献立）					事前学習は教科書の妊娠期の予習。事後学習としてレポート作成。								
13. 思春期栄養（アセスメントに基づいた調理実習②：貧血調査を参考にした献立）					事前学習は教科書の思春期の予習。事後学習としてレポート作成。								
14. 老年期栄養（アセスメントに基づいた調理実習③：適正なBMIを目指す献立）					事前学習は教科書の老年期の予習。事後学習としてレポート作成。								
15. 特殊環境と栄養（災害時の食事）					事前学習は教科書の災害時の栄養の予習。事後学習としてレポート作成。								
履修上の注意													
<p>応用栄養学・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学・公衆栄養学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。</p>													
成績評価方法・基準													
<p>課題レポート・受講態度（ルーブリックで評価）・・・100% 提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。</p>													
教科書 〔応用栄養学 改訂第5版〕〔渡邊令子・他〕〔南江堂〕〔3,456円〕 その他、適宜プリントを配布する													
参考書 〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,512円〕 〔調理のためのベーシックデータ〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,890円〕 〔日本人の食事摂取基準〔2020年版〕〕〔第一出版〕〔2,916円〕													
備考													
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する													

授業科目名	食生活論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)										
担当者	小野 真実	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専1年									
授業概要																		
管理栄養士・栄養士等，栄養・食に関わる専門職になるための専門教科を学習することに先立ち，食の成り立ち，健康的な食生活（食生活と健康の関連），食育の推進，食と環境の関わり，食生活の歴史や文化など，その多様かつ広範な側面について，理解を深めることをねらいとする。また，それらを通じ，管理栄養士・栄養士等，栄養・食に関わる専門職の役割や重要性を理解するとともに，自身の健康的な食生活を営む基礎的知識および能力を身につける。																		
授業の到達目標						学位授与の方針との関連												
						1	2	3	4	5	6	7	8	9				
食生活と健康の関連について理解できる。						○	○	○	○									
自身の食生活を見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を身につける。						○	○	○			○							○
食生活の歴史や文化とともに現状の課題について理解できる。						○	○	○										
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）												
1. ガイダンス，食生活の概念						事前学習は教科書の該当箇所を読むこと。事後学習は学習内容を整理すること。												
2. 健康的な食生活とは						//												
3. “食生活指針”による自身の食生活の見直し						//												
4. 食物の階層構造						//												
5. 食事バランスガイド						//												
6. 食品成分表と食品群						//												
7. 食生活と健康（子ども）						//												
8. 食生活と健康（思春期・若年期）						//												
9. 食生活と健康（生活習慣病）						//												
10. 食生活と社会環境						//												
11. 食育の推進						//												
12. 食生活と安全						//												
13. 日本の食文化・日本型食生活						//												
14. 健康・食情報を読み解くポイント						//												
15. まとめ						//												
履修上の注意																		
<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から健康・栄養情報を収集し、積極的に知識を深めること。 ・遅刻，早退は慎むこと。遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・印刷に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自用意すること。 																		
成績評価方法・基準																		
<ul style="list-style-type: none"> ・期末レポート（40%），課題・ミニットペーパー・小テスト（40%），受講態度（20%）で評価する。 ・授業内での課題，小テスト等は当日，もしくは後日の授業内でフィードバックする。 																		
教科書 〔栄養科学シリーズNEXT 食育・食生活論〕〔山本茂，他〕〔講談社サイエンティフィック〕〔2,400円〕その他，適宜資料を配布する。																		
参考書 〔七訂食品成分表2020〕〔香川明夫〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,512円〕																		
備考																		
<ul style="list-style-type: none"> ・都合により授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。 																		

授業科目名	栄養教育論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)										
担当者	小野 真実	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専2年									
授業概要																		
労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした授業を行う。対象者の健康・栄養状態，食行動，食環境等に関する情報を収集・分析し，それらを総合的に評価・判定し，健康やQOLの向上につながる，主体的な実践力形成の支援に必要な栄養教育の理論と方法の基礎を修得する。栄養教育の目的・目標の概念をはじめとし，行動科学の理論とモデル，行動変容技法などの栄養教育のための理論的基礎と，栄養教育マネジメントについて具体的事例を通して学ぶ。																		
授業の到達目標						学位授与の方針との関連												
						1	2	3	4	5	6	7	8	9				
栄養教育の概念について理解できる。						○	○	○										
栄養教育のための理論的基礎（行動科学理論・モデル，行動変容技法等）について理解できる。						○	○	○		○								
栄養教育マネジメントの流れについて理解できる。						○	○	○		○								
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）												
1. ガイダンス，栄養教育の概念						事前学習は教科書の該当箇所を読むこと。事後学習は学習内容を整理すること。												
2. 栄養教育の対象と機会，栄養教育の歴史						〃												
3. 栄養教育と行動科学						〃												
4. 行動科学の理論とモデル① （刺激-反応理論，ヘルスブリーフモデル，トランスセオレティカルモデル，計画的行動理論，社会的認知理論）						〃												
5. 行動科学の理論とモデル② （ソーシャルサポート，コミュニティオーガニゼーション，イノベーション普及理論，ヘルスリテラシー）						〃												
6. 行動変容技法と概念① （刺激統制，反応妨害・拮抗，行動置換，オペラント強化，認知再構成，意思決定バランス，目標宣言，行動契約）						〃												
7. 行動変容技法と概念② （セルフモニタリング，自己効力感，ストレスマネジメント，ソーシャルスキルトレーニング，ナッジ）						〃												
8. 組織づくり・地域づくりへの展開						〃												
9. 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル						〃												
10. 栄養教育マネジメント①アセスメント						〃												
11. 栄養教育マネジメント②目標設定，計画立案						〃												
12. 栄養教育マネジメント③教材の選択と作成，学習形態						〃												
13. 栄養教育マネジメント④実施						〃												
14. 栄養教育マネジメント⑤評価						〃												
15. まとめ						〃												
16. 期末試験						事前学習は15回までのノート，配布資料の復習をしておくこと。												
履修上の注意																		
<ul style="list-style-type: none"> ・「食生活論」，「健康管理概論」を復習のうえ，「応用栄養学」，「栄養管理論」，「臨床栄養学」との関連を理解しつつ臨むこと。 ・遅刻，早退は慎むこと。遅刻3回で欠席1回とみなす。 																		
成績評価方法・基準																		
<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験（70%），ミニットペーパー・小テスト（20%），受講態度（10%）で評価する。 ・授業内での課題，小テスト等は当日，もしくは後日の授業内でフィードバックする。 																		
教科書 [栄養科学シリーズNEXT 栄養教育論 第4版] [笠原賀子，他] [講談社サイエンティフィク] [2,800円] その他，適宜資料を配布する。																		
参考書 [管理栄養士講座 栄養教育論 第2版] [中村丁次，他] [建帛社] [3,800円]																		
備考																		
<ul style="list-style-type: none"> ・都合により授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。 																		

授業科目名	栄養指導論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	小野 真実	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専2年					
授業概要														
労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした授業を行う。ライフステージ・ライフスタイル別の特性に応じた栄養教育の要点を理解し、対象者の健康やQOLの向上につながる、主体的な実践力形成の支援に必要な栄養教育の理論と方法、およびそれらの活用について学ぶ。本講義では、対象者自身による栄養・食生活上の課題解決、食行動の変容への支援の基礎となる栄養カウンセリングについて修得するとともに、具体的な事例を通して、個人・集団への栄養教育マネジメントシステムの活用に対する理解を深める。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
栄養カウンセリングの基本、および基礎的技法について理解できる。					○	○	○		○	○				
ライフステージ・ライフスタイル別の特性に応じた栄養教育の要点を理解できる。					○	○	○		○					
各事例における栄養教育マネジメントシステムの具体的活用について理解できる。					○	○	○		○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス、栄養教育の目的、対象と場（「栄養教育論」の復習）					事前学習は教科書の該当箇所を読むこと。事後学習は学習内容を整理すること。									
2. 栄養カウンセリングの基本					//									
3. 栄養カウンセリングの技術					//									
4. 栄養カウンセリングの実施					//									
5. 妊娠・授乳期の栄養教育					//									
6. 乳児期の栄養教育					//									
7. 幼児期の栄養教育					//									
8. 学童期の栄養教育					//									
9. 思春期の栄養教育					//									
10. 成人期の栄養教育					//									
11. 高齢期の栄養教育					//									
12. 傷病者の栄養教育					//									
13. 障がい者の栄養教育					//									
14. 栄養教育と健康づくり対策					//									
15. まとめ					//									
16. 試験					事前学習は15回までのノート、配布資料の復習をしておくこと。									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・「栄養教育論」、「社会福祉論」、「応用栄養学」、「臨床栄養学」を復習のうえ、それらの科目との関連を理解しつつ臨むこと。 ・遅刻、早退は慎むこと。遅刻3回で欠席1回とみなす。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験（70%）、ミニットペーパー・小テスト（20%）、受講態度（10%）で評価する。 ・授業内での課題、小テスト等は当日、もしくは後日の授業内でフィードバックする。 														
教科書 〔栄養科学シリーズNEXT 栄養教育論 第4版〕〔笠原賀子，他〕〔講談社サイエンティフィク〕〔2,800円〕その他、適宜資料配布。														
参考書 〔管理栄養士講座 栄養教育論 第2版〕〔中村丁次，他〕〔建帛社〕〔3,800円〕 「応用栄養学」の教科書														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・都合により授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。 														

授業科目名	保健栄養学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	栗山 孝雄	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専3年						
授業概要															
<p>本科目では、人間の健康面や栄養面に関する現状や問題点について、事例を交えて紹介する。具体的には、わが国の食環境やライフステージごとの特徴や問題点などを取り上げる。その上で健康・栄養教育を交えた対策について、食生活や栄養摂取の視点を交えて解説する。内容によっては、授業テーマに関する提出課題を出題し、履修者自身の立場で健康面や栄養面に関する現状や問題を把握し、それらについての対策や教育手法などを考えさせる。</p>															
授業の到達目標					学位授与の方針との関連										
					1	2	3	4	5	6	7	8	9		
① 授業のテーマに関する現状や問題点を把握することができる。						○	○	○	○	○					
② その対策について、様々な視点で考える習慣を身につける。						○	○	○	○	○					
③ ①、②に関して、健康面や栄養面に関する教育方法を身につける。						○	○	○	○	○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）										
1. 健康・予防・QOLに関する栄養教育と健康教育					予防医学について復習する。										
2. わが国の食環境と栄養教育①：食生活の変化と問題点					日本人の健康面も交えて考える。										
3. わが国の食環境と栄養教育②：食生活の改善と行動変容					日本人の健康面も交えて考える。										
4. わが国の食環境と栄養教育③：食に関する情報へのアクセス					情報の内容の吟味について考える。										
5. わが国の食環境と栄養教育④：食品ロスを減らすための栄養教育					食品ロスの原因を理解する。										
6. 健康栄養面に関する指針の活用①：食生活指針					食生活指針の内容を復習する。										
7. 健康・栄養面に関する指針の活用②：身体活動・休養・睡眠指針					各種指針の特徴を理解する。										
8. わが国の健康・栄養問題と栄養教育①：妊娠・授乳期、乳幼児期					ライフステージ別の問題点を確認する。										
9. わが国の健康・栄養問題と栄養教育②：学童・思春期					ライフステージ別の問題点を確認する。										
10. 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容①：食生活の乱れと亜鉛欠乏					食生活の内容も交えて考える。										
11. 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容②：ストレスとその対処方法					食生活を交えて対処方法を考える。										
12. 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容③：飲酒がもたらす問題					食生活や健康面を交えて対処方法を考える。										
13. 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容④：特定保健指導による行動変容					特定保健指導の初回面接の内容を確認する。										
14. 諸外国の健康・栄養問題①：現状と課題					教科書の該当箇所を確認する。										
15. 諸外国の健康・栄養問題②：対策と栄養教育					教科書の該当箇所を確認する。										
16. 試験					学習した内容全体を復習する。										
履修上の注意															
①遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。															
②本科目は卒業必修科目である。															
成績評価方法・基準															
<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験（60%）、提出課題（30%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。 ※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中の私語や、授業と関係ない行為を行うなど、受講態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。 ・ 提出物、試験については、適宜フィードバックを行う。 															
教科書 〔公衆栄養学〕〔荒巻礼子ほか〕〔化学同人〕〔2,600円〕															
参考書 なし。授業内で適宜紹介する。															
備考															
質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。															

授業科目名		栄養情報処理演習			単位（総授業時間＋自習時間）			1(30+15)						
担当者	小野 真実	必・選	必	形態	演習	学期	2年(後期)・ 3年(前期)	対象	健専2・3年					
授業概要														
栄養管理プロセスにおいて、栄養評価（アセスメント）を適切に行うために必要な収集情報の整理やまとめ、処理手法、それらを用いたレポート作成・表現方法について修得する。本演習では食事調査による栄養計算ソフトを用いた食事摂取量の測定（栄養素摂取状況）等の実践的情報処理手法とともに、それらを活用した具体的な表現方法等を身につけることをねらいとする。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
栄養評価に必要な情報を収集・整理できる。						○		○	○	○	○	○	○	
食事調査の結果についてまとめることができる。						○		○	○	○	○	○	○	
演習に用いた各種ソフトを活用できる。						○	○		○		○	○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス 基本的なパソコン操作について						事前にパソコン操作に慣れておくこと。								
2. 栄養計算ソフトを用いた食事調査演習 ①基本操作（食事1食分使用）						基本的操作方法の復習と課題準備。								
3. ②栄養計算と評価方法（食事1日分使用）						前回操作の反復と修得内容の確認。								
4. ③食品群別分類方法（食事1日分使用）						〃								
5. ④栄養評価票の作成方法						〃								
6. 質問票の作成方法						Word 操作の復習と学習内容の確認。								
7. 表計算ソフトの活用 ①データ入力と集計（表作成、ピボットテーブル）						Excel 操作の復習と学習内容の確認。								
8. ②集計結果のまとめ（グラフ作成等）						前回操作の反復と修得内容の確認。								
9. ③分析ツールの活用（ヒストグラム等）						〃								
10. ④分析ツールの活用（検定）						〃								
11. レポート作成のための基本操作						Word 操作の復習と学習内容の確認。								
12. レポート作成の応用						前回操作の反復と修得内容の確認。								
13. プレゼンテーションソフトの基本操作						PowerPoint 操作の復習と学習内容の確認。								
14. プレゼンテーションソフトの活用方法						前回操作の反復と修得内容の確認。								
15. まとめ						学習内容の振り返り。								
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・「統計学」を復習のうえ、臨むこと。 ・「情報基礎学」履修者は復習のうえ、臨むこと。それ以外のものもパソコンの基本操作に慣れておくこと。 ・遅刻、早退は慎むこと。遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・印刷に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自用意すること。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> ・課題提出（80%）、受講態度（20%） ・提出された課題等は確認後、後日フィードバックする。 														
教科書 なし。適宜資料配布。														
参考書 [栄養科学シリーズNEXT 公衆栄養学実習] [金田雅代, 他] [講談社サイエンティフィク] [2,600円]														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・都合により授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。 														

授業科目名	栄養情報処理演習				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	栗山 孝雄	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	健専4年				
授業概要													
本演習では、栄養士や管理栄養士が業務を行う上で必要となる栄養や健康に関する情報の検索や収集、データの入力やまとめに関する手法、それらを踏まえて行うレポート、リーフレット、プレゼンテーション資料の作成、発表方法について教授する。また、情報を扱う作業に必要な研究倫理についても教授する。演習の大半はパソコンでの作業となる。作業を通じて、教授する内容のポイントを学修する。本演習で習得する内容は、臨地実習や将来の職場での実践活動に結びつくものである。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
栄養評価に必要な情報を収集・整理できる。						○	○	○	○	○	○		
演習に用いた各種ソフトを活用できる。						○	○	○	○		○		
資料の作成、発表方法を習得できる。										○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス 演習の進め方、研究倫理					研究倫理の復習。								
2.文献検索①：キーワードの設定、情報収集					必要な情報について考える。								
3.文献検索②：文献の入手と記載内容の確認					扱った内容の復習。								
4.表計算ソフトの活用①：データ入力、集計					正確にデータを入力すること。								
5.表計算ソフトの活用②：グラフ作成等					グラフ作成法を理解する。								
6.1回目～5回目のまとめと確認					内容の確認、不明な点の対応。								
7.プレゼンテーションソフトの活用①：スライド作成					見やすいスライドを目指す。								
8.プレゼンテーションソフトの活用②：スライドの修正					見やすいスライドを目指す。								
9.プレゼンテーションソフトの活用③：発表方法について					発表方法のポイントを理解する。								
10.7回目～9回目のまとめと確認					内容の確認、不明な点の対応。								
11.表計算ソフトの活用③：検定					検定方法を体得する。								
12.リーフレットの作成①：課題提示、作業					見やすい資料を目指す。								
13.リーフレットの作成②：作業、印刷					見やすい資料を目指す。								
14.リーフレットの作成③：発表					資料作成のポイントを確認する。								
15.11回目～14回目のまとめと確認					内容の確認、不明な点の対応。								
履修上の注意													
① 受講者と相談の上、状況によっては空き時間に授業を行う場合もある。													
② 授業の進行状況等により、授業の順序を変更する場合がある。													
③ 遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。													
④印刷に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自で用意すること。													
⑤演習課題によっては、授業時間外に作業を行うこともある。													
成績評価方法・基準													
・提出物 80%（内容、提出期限の順守）、受講態度 20%（積極的な態度、欠席や遅刻の状況）													
・提出物は、適時フィードバックを行う。													
教科書 なし。配布資料を準備する。													
参考書 [栄養士科学シリーズ NEXT 公衆栄養学実習] [金田雅代、他] [講談社サイエンティフィック] [2,600円+税] (※)3年次に購入した者は持参すること。													
備考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。													

授業科目名	栄養指導論実習			単位（総授業時間＋自習時間）					1(45+15)				
担当者	小野 真実	必・選	必	形態	実習	学期	前期	対象	健専3年				
授業概要													
<p>本実習は、「栄養教育論」、「栄養指導論」、「応用栄養学」等で修得した基礎的知識および技術について、ライフステージ・ライフスタイル別に個人・集団に対する栄養教育のロールプレイングを通して、より理解を深め、栄養教育における管理栄養士としての専門性を身につけるものである。対象者の特性に応じた栄養教育マネジメント（栄養アセスメント、教育計画の立案、実施、評価、改善）の一連のシステムを、実習を通して実践的に修得することをねらいとする。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
ライフステージ・ライフスタイル別の特性に応じ、解決すべき栄養課題を明確にできる。							○		○		○	○	
個人・集団に対する栄養教育をマネジメントシステムに沿って実施できる。							○		○		○	○	
栄養教育に必要なコミュニケーション能力を身につけることができる。									○		○	○	
グループ内で協力し合って、作業を進めることができる。											○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス、対象集団の実態把握のための情報収集					事前にライフステージ・ライフスタイル別の特性について復習。								
2. 対象集団の実態把握、アセスメントおよび課題の明確化					事前に収集情報を整理。								
3. 集団栄養教育の目標設定、栄養教育計画の立案					明確化した課題を目標設定に展開。								
4. 集団栄養教育の教材作成					栄養教育指導案の検討。教材の適切性確認。								
5. 集団栄養教育の予行演習、見直し					発表内容の確認。								
6. 集団栄養教育のロールプレイング、振り返り（前半）					改善案への展開。								
7. 集団栄養教育のロールプレイング、振り返り（後半）					改善案への展開。								
8. 対象者（個人）の栄養アセスメント、課題の明確化					事前に個人の課題を事前に読み込む。								
9. 食事調査の実践（24時間思い出し法）					事前に食事調査方法の復習。								
10. 栄養カウンセリングの実践					事前にカウンセリングの基礎的技法を復習。								
11. 個人に対する栄養教育計画の立案					個人の優先課題が適切かの確認。								
12. 個人に対する栄養教育の教材作成					指導案の内容は目標に沿っているかの確認。								
13. 個人に対する栄養教育のシナリオ作成					カウンセリング等の技法の確認。								
14. 栄養カウンセリングのロールプレイング予行演習、見直し					シナリオが計画・指導案に沿っているか確認。								
15. 栄養カウンセリングのロールプレイング、振り返り					改善案への展開。								
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> ・「栄養教育論」、「栄養指導論」、「食文化論」、「栄養管理論」、「応用栄養学」、「臨床栄養学」を復習のうへ、それらの科目および「公衆衛生学」、「公衆栄養学」との関連を理解しつつ臨むこと。 ・グループワーク中心のため、欠席、遅刻、早退は厳に慎むこと。遅刻3回で欠席1回とみなす。授業開始後30分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・実習内容によっては、授業時間外での作業が必要となる場合もあるため、各自積極的に、かつ班内で協力のうへ、臨むこと。 ・印刷に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自用意すること。 													
成績評価方法・基準													
<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート・受講態度（ルーブリックで評価）・・・100% ・提出された課題等は確認後、後日フィードバックする。 													
教科書 [管理栄養士講座 栄養教育論 第2版] [中村丁次, 他] [建帛社] [3,800円] [栄養科学シリーズ NEXT 栄養教育論 第4版] [笠原賀子, 他] [講談社サイエンティフィク] [2,800円] その他、適宜資料を配布する。													
参考書 「応用栄養学」の教科書													
備考													
<ul style="list-style-type: none"> ・都合により授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については授業内および終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。 													

授業科目名	臨床栄養学 I		単位 (総授業時間+自習時間)					2(30+60)				
担当者	高橋 文	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専 2 年			
授業概要												
<p>本科目では、病院および高齢者施設における管理栄養士としての実務経験を活かし、臨床栄養学に対する基礎的な知識の修得に加え、傷病者および要介護者の病態や栄養状態の特性に基づいた、適切な栄養管理ができることを目的に講義を行う。内容については、臨床栄養学の意義と目的について理解し、栄養アセスメント、計画の作成、実施、評価に関する栄養管理の考え方について指導を行う。加えて、食物と薬剤の相互関係、疾患および病態に対する栄養食事療法についても指導を行う。</p>												
授業の到達目標			学位授与の方針との関連									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1. 傷病者への適切な栄養管理を実施するための、基本的な病態の知識を修得できる。			○		○							
2. 栄養アセスメント、栄養管理計画の作成、実施および評価の方法について理解できる。			○		○		○					
3. 個々人に適した栄養食事療法のあり方を理解できる。			○		○		○					
授業計画の内容			自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 臨床栄養学の意義と目的			教科書での範囲を予習・復習する									
2. 医療と臨床栄養、医療制度の基本			教科書での範囲を予習・復習する									
3. 福祉・介護と臨床栄養、栄養ケア・マネジメントの概要			教科書での範囲を予習・復習する									
4. 栄養アセスメント① (臨床診査、食事調査)			教科書での範囲を予習・復習する									
5. 栄養アセスメント② (臨床検査、身体計測)			教科書での範囲を予習・復習する									
6. 栄養状態の判定、栄養介入			教科書での範囲を予習・復習する									
7. 栄養補給法① (経口栄養法)			教科書での範囲を予習・復習する									
8. 栄養補給法② (経腸栄養法、静脈栄養法)			教科書での範囲を予習・復習する									
9. 栄養教育			教科書での範囲を予習・復習する									
10. モニタリングと評価、栄養管理記録			教科書での範囲を予習・復習する									
11. 食物と薬剤の相互関係			教科書での範囲を予習・復習する									
12. 代謝・内分泌疾患の栄養食事療法① (肥満症、るいそう)			教科書での範囲を予習・復習する									
13. 代謝・内分泌疾患の栄養食事療法② (糖尿病)			教科書での範囲を予習・復習する									
14. 代謝・内分泌疾患の栄養食事療法③ (脂質異常症、高尿酸血症・痛風)			教科書での範囲を予習・復習する									
15. まとめ			講義の内容をまとめておく									
16. 期末試験			試験範囲をまとめておく									
履修上の注意												
<ul style="list-style-type: none"> ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。 												
成績評価方法・基準												
<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験 70%、小テスト 20%、受講態度 10% (積極的な態度、目的意識、遅刻) を総合的に判断して評価する。 ・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。 												
教科書 [エッセンシャル臨床栄養学 第8版] [佐藤和人 他] [医歯薬出版] [4,070円]												
参考書 [適宜プリント配布]												
備考												
<ul style="list-style-type: none"> ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。 												

授業科目名	臨床栄養学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)											
担当者	高橋 文	必・選	管栄(必)	形態	講義	学期	後期	対象	健専2年										
授業概要																			
<p>本科目では、臨床栄養学Ⅰで学修した基礎的な栄養管理の手法に加え、さらに多様な疾患に対する栄養治療を行うための実践能力を身につけることを目的に、病院栄養士としての実務経験時の事例を交えながら講義を行う。各疾患における治療ガイドラインを基に、病態、症候、治療に対応した適切な栄養食事療法の指導を行う。さらに、栄養食事療法の効果に対する客観的な観察に加え、疾患ごとの栄養食事療法の基本的な知識を基に、臨床栄養学実習および臨床栄養学指導論へ実践的な応用に結びつけることを目的とする。</p>																			
授業の到達目標					学位授与の方針との関連														
					1	2	3	4	5	6	7	8	9						
1. 各疾患における、病因・病態、臨床検査値および治療全般について説明できる。					○		○												
2. 各疾患および病態における栄養管理法を理解できる。					○		○		○										
3. 各疾患および病態に対応した、適切な栄養食事療法の選択ができる。					○		○		○										
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）														
1. 消化器疾患の栄養食事療法①（上部消化管疾患）					教科書での範囲を予習・復習する														
2. 消化器疾患の栄養食事療法②（下部消化管疾患）					教科書での範囲を予習・復習する														
3. 肝臓・胆嚢・膵臓疾患の栄養食事療法					教科書での範囲を予習・復習する														
4. 循環器疾患の栄養食事療法					教科書での範囲を予習・復習する														
5. 腎臓疾患の栄養食事療法①（慢性腎臓病、ネフローゼ症候群）					教科書での範囲を予習・復習する														
6. 腎臓疾患の栄養食事療法②（糖尿病性腎症、人工透析）					教科書での範囲を予習・復習する														
7. 呼吸器疾患、血液疾患の栄養食事療法					教科書での範囲を予習・復習する														
8. 免疫・アレルギー疾患の栄養食事療法					教科書での範囲を予習・復習する														
9. 骨・関節疾患の栄養食事療法					教科書での範囲を予習・復習する														
10. 癌、術前・術後の栄養食事療法					教科書での範囲を予習・復習する														
11. 小児疾患の栄養食事療法					教科書での範囲を予習・復習する														
12. 妊産婦・授乳婦の栄養食事療法					教科書での範囲を予習・復習する														
13. 高齢者疾患の栄養食事療法①（褥瘡、摂食・嚥下障害）					教科書での範囲を予習・復習する														
14. 高齢者疾患の栄養食事療法②（認知症）					教科書での範囲を予習・復習する														
15. 事例紹介					事例をまとめておく														
16. 期末試験					試験範囲をまとめておく														
履修上の注意																			
<ul style="list-style-type: none"> ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。 																			
成績評価方法・基準																			
<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験 70%、小テスト 20%、受講態度 10%（積極的な態度、目的意識、遅刻）を総合的に判断して評価する。 ・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。 																			
教科書 [エッセンシャル臨床栄養学 第8版] [佐藤和人 他] [医歯薬出版] [4,070円]																			
参考書 [適宜プリント配布]																			
備考																			
<ul style="list-style-type: none"> ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。 																			

授業科目名		臨床栄養指導論 I		単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)						
担当者	高橋文	必・選	管栄・栄(必)	形態	講義	学期	前期	対象	健専3年					
授業概要														
<p>実本科目では、実際に栄養指導に携わってきた経験を活かし、臨床現場における基本的な疾患についての栄養教育および栄養食事指導法について学修することを目的に講義を行う。臨床栄養指導は、傷病者および要介護者の個人または集団を対象とするもので、必要に応じた適切な栄養指導が実施できるよう、疾患だけではなく年齢・性差・生活状況なども考慮し、栄養食事指導を行わなければならない。そのため、模擬栄養指導および媒体などを作成し、栄養食事指導をどのように進めていくのか、また、患者の立場においてはどのような指導が理解しやすいかなどの指導を行う。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1. 栄養食事指導を行うための、知識および方法の基礎について理解できる。					○		○							
2. 傷病者が正しい知識と行動を起こすことができるための、栄養食事指導の方法および技術の修得ができる。							○		○		○			
3. 疾患および病態に応じた、栄養指導計画書を立案できる。							○		○		○			
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 臨床栄養指導とはなにか					臨床栄養指導とはなにかについて調べる									
2. 医療における管理栄養士の役割					チーム医療について調べる									
3. 栄養管理について					栄養管理について復習する									
4. 栄養指導の種類と特徴					教科書での範囲を予習・復習する									
5. 診療記録の見方・書き方					教科書での範囲を予習・復習する									
6. 自分の栄養カルテを作成する①基礎データ・問題リスト					基礎データ・問題リストをまとめる									
7. 自分の栄養カルテを作成する②食事調査・初期計画					食事調査・初期計画を作成する									
8. 食事調査を用いて栄養指導を行う					栄養指導内容をまとめる									
9. 栄養指導法の紹介					栄養指導内容をまとめる									
10. 肥満症の栄養指導について					肥満症について復習する									
11. 症例検討と栄養指導計画書の作成					症例検討内容をまとめる									
12. 高尿酸血症の栄養指導について					高尿酸血症について復習する									
13. 高血圧症の栄養指導について					高血圧症について復習する									
14. 高血圧症の模擬栄養指導① (媒体・資料作成)					栄養指導媒体を作成する									
15. 高血圧症の模擬栄養指導② (発表)					栄養指導方法についてまとめる									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。 ・疾患については臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで学んでいるため、復習をしておく。また、栄養食事指導を行う際の多様な場面や背景について考えておくこと。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> ・演習 50%、小テスト 20%、受講態度 10% (積極的な態度、目的意識、遅刻)、レポート 20% (提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。) を総合的に判断して評価する。 ・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。 ・レポートについては、適宜フィードバックを行う。 														
教科書 [症例から学ぶ 臨床栄養教育テキスト 第3版] [川崎英二 他] [医歯薬出版] [2,860円]														
参考書 [エッセンシャル臨床栄養学 第8版] [佐藤和人 他] [医歯薬出版] [4,070円]														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。 														

授業科目名		臨床栄養指導論Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	高橋文	必・選	管栄(必)	形態	講義	学期	後期	対象	健専3年				
授業概要													
<p>本科目では、臨床栄養指導論Ⅰと同様、実務経験を活かした媒体作成および模擬栄養指導などを行い、症例検討における事例から、適切な栄養食事指導の方法について学修する講義を行う。疾患だけではなく年齢・性差・生活状況なども考慮した栄養食事指導を行うため、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで学修したことをふまえ、栄養食事療法を必要とする患者の状態に合わせた献立を作成できるよう指導を行う。併用して学修している身体計測についても傷病者の状態を把握し、その患者に適した食事内容について説明できるよう指導を行う。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 傷病者が正しい知識と行動を起こすことができるための、栄養食事指導の方法および技術の修得ができる。							○		○		○		
2. 疾患および病態に応じた栄養指導計画書を立案できる。							○		○		○		
3. 栄養指導計画書に基づいた栄養食事指導ができる。							○		○		○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 糖尿病の栄養指導について					糖尿病について復習する								
2. 症例検討と栄養指導計画書の作成					症例検討内容をまとめる								
3. 糖尿病の模擬栄養指導（媒体・資料作成）					栄養指導媒体を作成する								
4. 脂質異常症の栄養指導について					脂質異常症について復習する								
5. 脂質異常症の模擬栄養指導①（媒体・資料作成）					栄養指導媒体を作成する								
6. 脂質異常症の模擬栄養指導②（発表）					栄養指導方法についてまとめる								
7. 心臓疾患の栄養指導について					心臓疾患について復習する								
8. 腎臓疾患及び透析療法の栄養指導について					腎臓疾患及び透析療法について復習する								
9. 症例検討と栄養指導計画書の作成					症例検討内容をまとめる								
10. 肝臓疾患の栄養指導について					肝臓疾患について復習する								
11. 消化器疾患の栄養指導について					消化器疾患について復習する								
12. 鉄欠乏性貧血の栄養指導について					鉄欠乏性貧血について復習する								
13. 高齢者疾患の栄養指導について					高齢者疾患について復習する								
14. 高齢者疾患の模擬栄養指導①（媒体・資料作成）					栄養指導媒体を作成する								
15. 高齢者疾患の模擬栄養指導②（発表）					栄養指導方法についてまとめる								
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。 ・疾患については臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで学んでいるため、復習をしておく。また、栄養食事指導を行う際の多様な場面や背景について考えておくこと。 													
成績評価方法・基準													
<ul style="list-style-type: none"> ・演習 50%、小テスト 20%、受講態度 10%（積極的な態度、目的意識、遅刻）、レポート 20%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）を総合的に判断して評価する。 ・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。 ・レポートについては、適宜フィードバックを行う。 													
教科書 〔症例から学ぶ 臨床栄養教育テキスト 第3版〕〔川崎英二 他〕〔医歯薬出版〕〔2,860円〕													
参考書 〔エッセンシャル臨床栄養学 第8版〕〔佐藤和人 他〕〔医歯薬出版〕〔4,070円〕													
備考													
<ul style="list-style-type: none"> ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。 													

授業科目名		臨床栄養学実習 I		単位 (総授業時間+自習時間)				1(45+45)						
担当者	高橋 文	必・選	管栄・栄(必)	形態	実習	学期	前期	対象	健専3年					
授業概要														
<p>本科目は、治療食の献立作成および食事提供を行ってきた経験を活かし、臨床栄養学Ⅱで学修した栄養食事療法を基に、疾患別の献立作成について指導する。一般食の食品構成および献立作成の基礎から、疾患別の治療食献立への展開方法について学び、作成した献立を調理し供食を通じて評価と検討を行う。献立作成には疾患についての知識が必須であり、調理実習ではグループで行うため、コミュニケーションが必要とされる。この一環の流れを通して、治療食の特色を学び、多様化する病態に対応できる実践能力とチームとしての役割について修得する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1. 治療食の種類および特徴について理解し、説明できる。							○		○					
2. 疾患および病態に応じた適切な治療食の献立作成ができる。							○		○					
3. 献立表を基に、調理、盛付、供食を行い、治療食の評価ができる。							○		○		○			
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 臨床栄養学と食事療法について					『臨床栄養学』で学んだ知識は必須のため、復習を十分に行うこと									
2. 一般治療食と特別治療食について					教科書を読んでくること									
3. 一般治療食の献立作成					教科書での範囲を予習・復習する									
4. 調理実習 (一般治療食)					調理実習の内容をまとめておく									
5. 塩分制限食の献立作成					教科書での範囲を予習・復習する									
6. 調理実習 (塩分制限食)					調理実習の内容をまとめておく									
7. エネルギーコントロール食の献立作成					教科書での範囲を予習・復習する									
8. 調理実習 (エネルギーコントロール食)					調理実習の内容をまとめておく									
9. 脂質コントロール食の献立作成					教科書での範囲を予習・復習する									
10. 調理実習 (脂質コントロール食)					調理実習の内容をまとめておく									
11. たんぱく質コントロール食の献立作成					教科書での範囲を予習・復習する									
12. 調理実習 (たんぱく質コントロール食)					調理実習の内容をまとめておく									
13. 糖尿病食品交換表の活用方法、献立作成					食品交換表を用いて単位計算し、献立作成を行う									
14. 嚥下調整食および食事介助について					教科書での範囲を予習・復習する									
15. 症例検討 (摂食・嚥下障害)					症例検討内容をまとめる									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> 調理実習の際には清潔な調理衣 (白衣・調理ズボン) を着用し、身支度・衛生管理を徹底すること。 献立作成および栄養価計算等を行うため、食品成分表、電卓を持参すること。 実習に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> 課題献立・レポート 80% (提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。)、受講態度 20% (積極的な態度、作業の進め方、チームへの協力度など) を総合的に判断して評価する。 課題献立およびレポートについては、適宜フィードバックを行う。 														
教科書 [臨床栄養学実習書 第12版] [玉川和子 他] [医歯薬出版] [2,970円] [糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版] [日本糖尿病学会] [文光堂] [990円]														
参考書 [適宜プリント配布]														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。 														

授業科目名	臨床栄養学実習Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+45)				
担当者	高橋文	必・選	管栄・栄(必)	形態	実習	学期	後期	対象	健専3年				
授業概要													
<p>本科目は、今まで学修した臨床栄養学の知識を医療機関等で実践するため、疾患および病態に応じた、適切な栄養管理が実施できる実践能力を修得する実習である。身体計測の実技を中心に種々のアセスメント指標より、傷病者の病態および栄養状態の特徴を把握し、適切な栄養補給法の選択および栄養管理計画書の作成方法について、実務経験を活かした指導を行う。さらに、疾患別の症例検討を実施し、病態生理を理解したうえで、個々人に適した栄養食事療法を行うため方法および技術を修得する。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 身体計測の目的や意義について理解し、正確に計測ができる。					○						○		
2. 傷病者の病態や栄養状態に基づいた、適切な栄養補給法の知識を修得できる。							○		○				
3. 症例検討を実施することにより、実践に活かすための手法を修得できる。							○		○		○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 栄養アセスメントについて、身体計測実習の説明					身体の測定方法について調べておく								
2. 身体計測①身体構成成分の測定					測定の必要性について調べておく								
3. 身体計測②仰臥位身長、Knee-Height 計測					測定の必要性について調べておく								
4. 身体計測③上腕周囲長、上腕三頭筋皮下脂肪厚					測定の必要性について調べておく								
5. エネルギー必要量の算出					教科書での範囲を予習・復習する								
6. 栄養補給法①経口栄養法、経腸栄養法					教科書での範囲を予習・復習する								
7. 栄養補給法②経静脈栄養法					教科書での範囲を予習・復習する								
8. 栄養管理計画書の作成					教科書での範囲を予習・復習する								
9. 症例検討①動脈硬化、2型糖尿病					各疾患の病態生理について復習する								
10. 症例検討②非代償性肝硬変、慢性腎不全					各疾患の病態生理について復習する								
11. 症例検討③嚥下障害、褥瘡					各疾患の病態生理について復習する								
12. 症例検討④クローン病、慢性閉塞性肺疾患、直腸癌					各疾患の病態生理について復習する								
13. 症例検討⑤肺癌、熱傷、在宅症例					各疾患の病態生理について復習する								
14. 症例発表					症例検討内容をまとめておく								
15. 症例発表					症例検討内容をまとめておく								
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> ・身体計測の必要性について調べておく。 ・実習に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。 													
成績評価方法・基準													
<ul style="list-style-type: none"> ・レポート 50%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）、小テスト 20%、受講態度 30%（積極的な態度、作業の進め方、チームへの協力度など）を総合的に判断して評価する。 ・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。 ・レポートについては、適宜フィードバックを行う。 													
教科書 〔臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理〕〔中村富予 他〕〔建帛社〕〔2,860 円〕													
参考書 〔エッセンシャル臨床栄養学 第 8 版〕〔佐藤和人 他〕〔医歯薬出版〕〔4,070 円〕													
備考													
<ul style="list-style-type: none"> ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。 													

授業科目名	公衆栄養学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	栗山 孝雄	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専3年				
授業概要													
公衆栄養学は、日常の生活圏である地域や市町村、都道府県、国などの住民レベル、学校や職域などの様々な集団に所属する人々を対象に、健康面や栄養面の現状を把握し、問題点の改善、健康の維持・増進、疾病の予防をはかることを目的とする。その際、食生活や栄養面の観点から検討を行う。本講義では、以上の内容に関する事項として、地域住民や各種集団の健康・栄養に関する現状や問題点、関係する法規や政策、公衆栄養活動の流れ等について解説する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
公衆栄養活動に関連する法規を理解する。						○	○	○	○	○			
公衆栄養活動の企画から評価までの流れを理解する。						○	○	○	○	○			
公衆栄養活動を展開するために必要な知識や考え方を身につける。						○	○	○	○	○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 公衆栄養の概念					公衆衛生学を復習の上、受講する。								
2. 公衆栄養活動					過去と現在の活動を理解する。								
3. 日本の栄養行政					栄養行政について理解を深める。								
4. 公衆栄養関連法規①：地域保健法、健康増進法					教科書の該当箇所を確認する。								
5. 公衆栄養関連法規②：食育基本法、その他の関連法規					教科書の該当箇所を確認する。								
6. 日本の管理栄養士・栄養士制度					栄養士法の内容を確認の上、受講する。								
7. 国民健康・栄養調査					調査の実施全般について確認する。								
8. 中間試験、公衆栄養マネジメント					PDCA サイクルの流れを確認する。								
9. 公衆栄養アセスメント					調査方法の特徴を理解する。								
10. 公衆栄養活動における目標設定					目標設定、優先順位の決定を確認する。								
11. 公衆栄養活動の計画・実施					活動の実施に関する事項を復習する。								
12. 公衆栄養活動の評価					評価の具体例を交え、理解を深める。								
13. 健康・食生活の危機管理と食支援①：事例と対策					震災発生時の食支援を理解する。								
14. 健康・食生活の危機管理と食支援②：栄養士による震災時の対応					震災発生時の栄養士の役割を理解する。								
15. 栄養疫学の指標					疫学を復習の上、受講する。								
16. 期末試験					学習した内容全体を復習する。								
履修上の注意													
①遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。													
②本科目の単位を取得できないと、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。													
③本科目は卒業必修科目である。													
成績評価方法・基準													
・中間試験（40%）、期末試験（50%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。													
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中に私語や授業と関係ない行為を行うなど受講態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。													
・提出物、試験については、適宜フィードバックを行う。													
教科書 [公衆栄養学] [荒巻礼子ほか] [化学同人] [2,600円]													
参考書 なし。授業内で適宜紹介する。													
備考													
質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。													

授業科目名		公衆栄養学実習			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+15)				
担当者	栗山 孝雄	必・選	選 管栄・栄(必)	形態	実習	学期	後期	対象	健専3年				
授業概要													
<p>本実習では、「公衆栄養学」で学習した内容をもとに、保健所や市町村保健センターの行政栄養士、地域での健康・栄養活動に携わる管理栄養士や栄養士が扱う健康や栄養に関する事業を中心に、公衆栄養活動を展開する上で必要な知識や手法を教授する。具体的には、公衆栄養活動の企画から評価までの一連の流れ、地域住民へのポピュレーションアプローチの実際などを扱う。</p> <p>本実習の内容は、公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱでの実践活動に結びつくものである。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
公衆栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。						○	○	○	○	○	○		
ポピュレーションアプローチについて理解する。						○	○	○	○	○	○		
公衆栄養活動の企画から評価までの流れを理解する。						○	○	○	○	○	○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 「栄養まつり」(8/23(日)開催 主催：宮城県栄養士会) ①：参加（学外で実施）					公衆栄養活動の事例を体験する。								
2. 「栄養まつり」②：振り返り					ポピュレーションアプローチを理解する。								
3. 健康問題に関する状況判断の実際					物事のポイントとなる点を検討する。								
4. 地方自治体の健康増進計画について					健康日本21を復習の上、受講する。								
5. 食生活改善に関する実習①：課題の提示、企画・準備					PDCAサイクルの計画について理解を深める。								
6. 食生活改善に関する実習②：課題に対する健康・栄養教育の実施					計画の実施に必要なことを確認する。								
7. 食生活改善に関する実習③：健康・栄養教育の評価、改善の検討					PDCAサイクルの改善について理解を深める。								
8. 食生活改善に関する実習④：改善を施した健康・栄養教育の実施					計画の実施に必要なことを確認する。								
9. 実習課題に関する評価のまとめ					5～9回の実習全体を復習する。								
10. 公衆栄養活動に関する実習①：地域の実態把握					地域の健康面の課題を考える。								
11. 公衆栄養活動に関する実習②：情報収集					公的情報を中心に学習する。								
12. 公衆栄養活動に関する実習③：課題の確認					地域住民の健康課題を理解する。								
13. 公衆栄養活動に関する実習④：目標の確認					目標の優先順位を考える。								
14. 公衆栄養活動に関する実習⑤：健康事業の計画					事業の実施に必要な事項を考える。								
15. 公衆栄養活動に関する実習⑥：まとめ					10～15回の実習全体を復習する。								
履修上の注意													
<p>①遅刻は、始業時から30分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。</p> <p>②内容によっては実習時間外、集中講義期間等に行うものもある。</p> <p>③1回目は8月23日(日)(夏季休業中)の実施となる。ガイダンスについては、夏休み前に時間を設けて実施する。</p> <p>④本科目の単位を取得できないと、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。</p> <p>⑤本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。</p>													
成績評価方法・基準													
<p>・グループワークでの作業状況(40%)、提出物(50%)、受講態度(10%)で成績評価を行う。</p> <p>※受講態度については、①遅刻が多い、②実習と関係ない行為を行うなどの問題がある場合、状況に応じて減点する。</p> <p>・提出物については、適宜フィードバックを行う。</p>													
教科書 [公衆栄養学][荒牧礼子ほか][化学同人][2,600円]													
参考書 なし。授業内で適宜紹介する。													
備考													
質問等については、授業終了時またはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受付ける。													

授業科目名	地域栄養活動演習Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)					
担当者	栗山 孝雄	必・選	選・管栄(必)	形態	演習	学期	前期	対象	健専4年					
授業概要														
本演習では、「公衆栄養学」や「公衆衛生学」等で学習した人間の生活圏である地域、市町村、都道府県のレベルを中心に、そこで展開される「地域栄養活動」に関して、以下の点を扱う。														
【1】地域における健康面や栄養面、食生活に関する事例や課題より、現状や問題点を把握する。その上で、対策や関連する政策などについて、食生活や栄養摂取、栄養改善の視点から検討する。														
【2】「地域栄養活動」に関連する時事問題について解説する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
地域が抱える健康・栄養に関する課題の対処方法、解決方法を身につける。						○	○	○	○	○	○			
地域栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。						○	○	○	○	○	○			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 地域社会における健康・栄養に関する現状と問題点の把握					健康日本 21 を復習の上、受講する。									
2. 公的情報の検索①：国レベル					公的情報の種類、内容を理解する。									
3. 食事摂取基準 2020 年版について					特徴、要点を理解する。									
4. 地域の栄養問題への対応①：課題の提示、情報検索					課題のポイントとなる点を検討する。									
5. 地域の栄養問題への対応①：検討、まとめ					情報検索した内容を確認する。									
6. 公的情報の検索②：自治体レベル					公的情報の種類、内容を理解する。									
7. 地域の栄養問題への対応②：課題の提示、情報検索					課題のポイントとなる点を検討する。									
8. 地域の栄養問題への対応②：検討、まとめ					情報検索した内容を確認する。									
9. 公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題①：食品ロス					問題の原因、現状、対策を考える。									
10. 公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題②：子ども食堂					問題の原因、現状、対策を考える。									
11. 公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題③：経済格差					問題の原因、現状、対策を考える。									
12. 公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題④：災害関係					問題の原因、現状、対策を考える。									
13. 「栄養まつり」（8/23（日）開催 主催：宮城県栄養士会） ①ガイダンス					「栄養まつり」全体の内容を確認する。									
14. 「栄養まつり」②：各種準備					準備すべき点の確認と事前学習。									
15. 「栄養まつり」③：準備状況の確認					準備すべき点の確認と事前学習。									
履修上の注意														
① 遅刻は、始業時から 15 分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。														
② 状況等により、授業の順序を変更する場合がある。														
③ 内容によっては授業時間外、集中講義期間等に行うものもある。														
④ 13.～15.で扱う「栄養まつり」は、8月23日（日）（夏季休業中）開催である。「栄養まつり」への参加は、「地域栄養活動演習Ⅱ」（後期開講）の授業1回分とする。														
⑤ 本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。														
成績評価方法・基準														
・提出課題（50%）、受講態度（50%）を総合して、成績評価を行う。														
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③演習中に演習とは関係ない行為を行うなど、問題のある者は、状況に応じて減点する。														
・提出物については、適宜フィードバックを行う。														
教科書 [ウエルネス公衆栄養学] [前大道教子ほか] [医歯薬出版] [2,800 円] (※) 3 年次に購入済み														
参考書 なし。授業内で適宜紹介する。														
備考														
質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。														

授業科目名	地域栄養活動演習Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)					
担当者	栗山 孝雄	必・選	選・管栄(必)	形態	演習	学期	後期	対象	健専4年					
授業概要														
本演習では、「公衆栄養学」や「公衆衛生学」等で学習した人間の生活圏である地域、市町村、都道府県のレベルを中心に、そこで展開される「地域栄養活動」に関して、以下の点を扱う。														
【1】地域における健康面や栄養面、食生活に関する事例や課題より、現状や問題点を把握する。その上で、対策や政策などについて、食生活や栄養摂取、栄養改善の視点から検討する。														
【2】「地域栄養活動」を展開する上で必要となる情報の検索や社会資源の把握などについて解説する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
地域が抱える健康・栄養に関する課題の対処方法、解決方法を身につける。						○	○	○	○	○	○			
地域栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。						○	○	○	○	○	○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 「栄養まつり」(8/23(日)開催 主催：宮城県栄養士会) ①：参加（学外で実施）					ポピュレーションアプローチの実際を学ぶ。									
2. 「栄養まつり」②：振り返り					体験したことを振り返り、復習する。									
3. 健康づくりに関する普及・啓発活動①：キャッチコピーの作成					健康に関する情報発信について考える。									
4. 東京栄養サミット 2020 について					扱われた内容を理解する。									
5. 持続可能な開発目標と地域栄養活動					ポイントとなる点を考える。									
6. 地域の栄養問題への対応①：課題の提示、情報検索					情報検索した内容を確認する。									
7. 地域の栄養問題への対応①：検討、まとめ					問題点の対策を考える。									
8. 健康づくりに関する普及・啓発活動②：キャッチコピーの発表、まとめ					健康に関する情報発信のポイントを理解する。									
9. 国民健康・栄養調査① 最近の動向について					特徴を把握する。									
10. 国民健康・栄養調査② 所得との関連性					特徴を把握する。									
11. ワーク・ライフ・バランスと食生活					事例を交え、対策や課題を考える。									
12. 災害発生時の公衆栄養・公衆衛生に関する活動					事例より、現状の把握、課題を考える。									
13. 各種組織・団体による地域栄養活動の展開について①：食品関係の企業・団体					活動の展開について理解する。									
14. 各種組織・団体による地域栄養活動の展開について②：健康関係の企業・団体					活動の展開について理解する。									
15. 地域栄養活動の今後について					学習した内容全体を復習する。									
履修上の注意														
① 遅刻は、始業時から 15 分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。														
② 内容によっては授業時間外、集中講義期間等に行うものもある。														
③ 1 回目は 8 月 23 日（日）（夏季休業中）の実施となる。ガイダンスや準備等については、前期開講の「地域栄養活動演習Ⅰ」で実施済みである。														
④ 状況等により、授業の順序を変更する場合がある。														
⑤ 本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。														
成績評価方法・基準														
・提出課題（50%）、受講態度（50%）を総合して、成績評価を行う。														
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③演習中に演習とは関係ない行為を行うなど、問題のある者は、状況に応じて減点する。														
・提出物については、適宜フィードバックを行う。														
教科書 [ウエルネス公衆栄養学] [前大道教子ほか] [医歯薬出版] [2,800 円] (※) 3 年次に購入済み														
参考書 なし。授業内で適宜紹介する。														
備考														
質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。														

授業科目名		給食管理学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	半澤 真喜子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専2年				
授業概要													
<p>特定かつ多数の者に継続的に食事を供給する特定給食施設では、給食運営を計画から評価まで総合的に判断し、栄養面、安全面、経営面全般をマネジメントする能力が必要となる。</p> <p>特定給食施設での管理栄養士としての実務経験を活かし、以下の点を教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定給食施設の定義、目的、法的根拠について学習させる。 ・給食を運営する上で管理栄養士・栄養士に必要な各管理業務の目的、方法、評価について理解させる。 ・喫食者の栄養アセスメント、献立作成および大量調理のポイントについて実践的に学ばせる。 													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
特定給食施設の定義、給食の目的や特徴を理解できる。						○	○		○				
給食を運営する上で必要な知識や技術を身につける。						○	○		○				
対象者に応じた給食の立案を身につける。						○	○		○				
給食の管理業務を理解し説明できるようになる。						○	○		○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 給食の概要、給食システム					第1章1～2を熟読し用語の理解に努める。								
2. 給食を提供する施設と関連法規					第1章3を熟読し用語の理解に努める。								
3. 経営管理の概要、給食とマーケティング					第2章1～2を熟読し用語の理解に努める。								
4. 給食経営と組織、給食経営管理の評価					第2章3～4を熟読し用語の理解に努める。								
5. 栄養・食事管理①概要、栄養・食事アセスメント					第3章1～2を熟読し用語の理解に努める。								
6. 栄養・食事管理②栄養・食事計画と実施					第3章3～4を熟読し用語の理解に努める。								
7. 給食の品質の標準化					第4章を熟読し用語の理解に努める。								
8. 給食の生産：原価、食材、生産					第5章を熟読し用語の理解に努める。								
9. 給食の安全・衛生①HACCPの運用、事故災害時対策					第6章を熟読し用語の理解に努める。								
10. 施設・設備管理					第7章を熟読し用語の理解に努める。								
11. 給食の人事・事務					第8章を熟読し用語の理解に努める。								
12. 施設別給食経営管理①病院、高齢者・介護保険施設					(事後学修) ・2～15回の授業開始時に前回の授業の理解度を確認するためミニテストを実施する。 ・板書ノートを見直して復習すること。 ・教科書の各章の問題、記述式ノートを解いておくこと（授業中に指示する）。 ・授業で関わった給食関連法規の理解を確実にすること。 ・ミニテストの間違い箇所を見直すこと。								
13. 施設別給食経営管理②児童福祉施設、障害者福祉施設													
14. 施設別給食経営管理③学校給食、事業所給食													
15. 施設別給食経営管理④外食・中食・配食と給食の概念													
16. 期末試験													
履修上の注意													
①理解できない点は質問したり調べたりして、解決に努めること。													
②遅刻3回で欠席1回とする。													
成績評価方法・基準													
<ul style="list-style-type: none"> ・ミニテスト（40%）、期末試験（40%）、課題提出・時間厳守（10%）、授業態度（遅刻、私語、途中退場、授業とは関係のない行為を行う等）（10%） ・ミニテスト、期末テストについては、解答を授業中にフィードバックする。 ・課題については、後日添削して返却する。 													
教科書													
[給食経営と管理の科学] [井川聡子ほか] [理工図書] [3,240円] [給食経営管理用語辞典] [日本給食経営管理学会監修] [第一出版] [2,700]													
参考書 適宜紹介する。													
備考													
<ul style="list-style-type: none"> ・質問は授業時間内、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受付ける。 ・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照のこと。 													

授業科目名		給食経営学		単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	半澤 真喜子	必・選	管栄（必）	形態	講義	学期	前期	対象	健専4年				
授業概要													
特定給食施設での管理栄養士としての実務経験を活かし、以下の点を教授する。 ・特定給食施設の定義、目的、法的根拠など基本的かつ重要な項目について学習させる。 ・給食運営を計画から評価まで総合的に判断し、栄養面、安全面、経営面全般のマネジメントを解説する。 ・給食を運営する上で管理栄養士に必要な各管理業務の目的、方法、評価について理解させる。 ・給食に関連するビジネスの動向や、マーケティングの原理や応用、システム構築などの手法を取り入れたマネジメントをより具体的に、給食施設の経営管理のあり方を理論と事例をもとに解説する。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
給食施設の給食実務、経営管理、給食計画について説明できる。					○	○		○					
給食のマネジメントについて経営管理の理念に基づき説明できる。					○	○		○					
給食のシステムについて経営管理の理念に基づき説明できる。					○	○		○					
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）									
1.給食のマネジメントの基本①：給食のマネジメント				第2章1～2を熟読し用語を理解する。									
2.給食のマネジメントの基本②：給食における経営管理				第2章3～4を熟読し用語を理解する。									
3.給食のマネジメントの基本③：情報管理				資料1を熟読し用語を理解する。									
4.給食のマネジメントの展開①：栄養・食事管理				第3章1～2を熟読し用語を理解する。									
5.給食のマネジメントの展開②：メニュー管理				第3章3～4を熟読し用語を理解する。									
6.給食のマネジメントの展開③：食材管理				第5章1～2を熟読し用語を理解する。									
7.給食のマネジメントの展開④：生産管理				第5章3を熟読し用語を理解する。									
8.給食のマネジメントの展開⑤：食事サービス管理				資料2を熟読し用語を理解する。									
9.給食のマネジメントの展開⑥：リスクマネージメント				第6章を熟読し用語を理解する。									
10.給食のマネジメントの展開⑦：施設設備管理				第7章を熟読し用語を理解する。									
11.給食のマネジメントの実際①：病院給食				11～14 資料3、第9章を熟読する。									
12.給食のマネジメントの実際②：学校給食				（事後学修） ・2～15回の授業開始時に前回の授業の理解度を確認するためミニテストを実施する。 ・板書ノート、配布資料を見直して復習すること。 ・教科書の各章の問題、記述式ノートを解いておく ・授業で関わった給食関連法規の理解を確実にする ・ミニテストの間違い箇所を見直すこと。									
13.給食のマネジメントの実際③：児童福祉施設給食													
14.給食のマネジメントの実際④：高齢者福祉施設給食													
15.期末試験													
16.給食のマネジメントの実際⑤：事業所給食、配食サービス													
履修上の注意													
①理解できない点は質問したり調べたりして、解決に努めること。													
②遅刻3回で欠席1回とする。													
成績評価方法・基準													
・ミニテスト（40%）、期末試験（50%）、授業態度（遅刻、授業とは関係のない行為を行う等）（10%） ・ミニテストについては、解答を授業中にフィードバックする。 ・本科目は、管理栄養士養成課程の必須科目である。単位が取得できないと管理栄養士国家試験受験資格は取得できなくなる。													
教科書 [給食経営管理用語辞典] [日本給食経営管理学会監修] [第一出版] [2,700] 2年次購入済 [給食経営と管理の科学] [井川聡子ほか] [理工図書] [3,240円] 2年次購入済 資料を配布する。													
参考書 給食の関連法規（授業で指示、ホームページから印刷して持参すること）													
備考													
・質問は授業時間内、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受付ける。 ・ルーズリークを授業中に配布するので、学習目標として参照のこと。													

授業科目名		給食管理実習 I			単位 (総授業時間+自習時間)					1(45+45)			
担当者	半澤 真喜子	必・選	必	形態	実習	学期	後期	対象	健専 2年				
授業概要													
<p>特定給食施設での給食業務の目的は、給食対象者に合った食事を提供し、対象者の疾病治癒、健康維持・増進を図るとともに、より良い食習慣を作り、生活習慣病予防ができるように指導することである。特定給食施設での実務経験を活かし、以下の点を教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定給食施設の基準に基づき、学内で学んだ栄養学、調理学、衛生学などの基礎知識を活かして、学生を対象とした 100 食以上の給食の運営方法、計画のたて方、栄養・食事管理、作業管理、衛生管理、品質管理、事務管理、大量調理、評価までを PDCA サイクルに準じて実施し、給食に関する方法、技術を習得する。 ・実習は栄養士班、調理師班、事務班と担当を決めグループに分かれて学生自身が進める。 ・グループで協力し意欲的に実習を行うことにより、栄養士・管理栄養士の実践力を習得させる。 													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
特定給食施設における給食の運営・給食経営管理能力を身につける。						○		○	○		○	○	
対象集団の食事の計画と提供のための技術を身につける。						○		○	○		○	○	
給食運営の PDCA サイクルについて基礎的な内容を理解し説明できる。						○		○	○		○	○	
栄養面・安全面・経済面を統合したマネジメントを理解し自ら実行できる。						○		○	○		○	○	
HACCP の概念を基に調理作業行程表を作成し、調理する力を身につける。						○		○	○		○	○	
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1. 実習の意義・目的・内容・日程・役割分担、給食業務の流れ					[給食管理・経営管理実習の手引き] P.6～P.30 を熟読してくること								
2. 食事管理：対象集団の栄養アセスメント、給与栄養目標量、食品群別荷重平均成分表の作成					次週まで完成品で持参すること								
3. 献立計画：栄養食事計画に基づいた献立作成					次週まで完成品で持参すること								
4. 作業計画：調理行程・調理作業計画の作成					次週まで完成品で持参すること								
5. 衛生管理・品質管理計画：試作、検討、各種書類作成					グループごと試作の材料を持参すること グループごと試作の検討をし、献立表を完成させる								
6. 材料管理：食材料の購入計画書作成					グループごと献立表、作業行程表を完成品で提出								
7～14 食事提供サービス					(事前学修)								
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士班・調理師班・事務班に役割を分担し、業務を交代で体験する。 ・栄養士班役割：検収、調理指導、味付け決定、盛り付け指導、点検表の記録、後片付け、清掃、残食・残菜調査、材料費の算出、帳票整理など。終了後、実際に調理作業従事した立場から、評価を行う。 ・調理師班役割：栄養士班の指示に従い、下処理、裁断、調理、供食サービス、後片付け、清掃、食器洗浄作業などを行う。終了後、実際に調理作業従事した立場から、評価を行う。 ・事務班の役割：掲示用献立表作成、アンケート用紙作成、アンケート集計、指導案・指導教材の作成、栄養指導など。実際に従事した立場から、評価を行う。 					<ul style="list-style-type: none"> ・大量調理施設衛生管理マニュアル、授業時配布の資料、教科書の内容を完全に習得してくること ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、シュミレーションをしてから実習に臨むこと 								
15. 期末試験					(事後学修)								
16. 施設・機器管理：機材の整備、評価、まとめ					・実習ノートのまとめをしっかりと行い、実習内容の理解を深めること								
履修上の注意													
<p>①実習はグループで行うため、原則的に遅刻・無断欠席は認めない。</p> <p>②食品構成表・給与栄養目標量から季節ごとの献立作成・栄養価計算ができること。</p> <p>③大量調理施設衛生管理マニュアルを完全に習得していること。</p> <p>④グループ内で報告、連絡、相談をしっかりと行い、常にコミュニケーションを図ること。</p> <p>⑤授業計画の準備時は、グループごとに実習時間外および空き時間に行なうこともあるので、事前に相談し出席すること。</p> <p>⑥調理時は実習で定めた、非汚染地域・汚染地域専用の調理服上下、ネット帽、エプロン、シューズを着用する。衛生については、大量調理施設衛生管理マニュアル通りとする。体調管理には十分留意すること。</p> <p>⑦分からないことは必ず聞き、勝手な行動はしないこと。</p>													
成績評価方法・基準													
<p>・期末試験 (30%)、学習意欲及び積極的な態度 (30%)、課題提出 (10%)、実習ノート完成度 (30%)</p> <p>※提出物は時間厳守とし、未提出の場合は評価の対象としない。授業態度不良、期末試験欠席の場合、単位は認めない。</p> <p>・課題、実習ノートは、後日添削して返却する。・期末試験については、解答を授業中にフィードバックする。</p>													
教科書													
<p>[給食管理・経営管理実習の手引き 5 版] [西川貴子他] [医歯薬出版] [2,052 円] [衛生管理&調理技術マニュアル] [文部科学省学校健康教育課] [学建書院] [1,080 円] 大学オリジナル「給食管理実習ノート」(授業開始後購入) [500 円]</p>													
参考書													
<p>[給食経営と管理の科学] [井川聡子ほか] [理工図書] [3,240 円]、[給食経営管理用語辞典] [日本給食経営管理学会監修] [第一出版] [2,700 円] [調理のためのベーシックデータ] [女子栄養大学出版] [1,890 円]、[日本人の食事摂取基準 (2015 年版)] [第一出版] [2,916 円]、[食品成分表] [女子栄養大学出版部] [1,512 円]、[給食経営管理用語辞典] [日本給食経営管理学会監修] [第一出版] [2,700 円] 1.2 年時購入済み</p>													

授業科目名		給食管理実習Ⅱ		単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+45)						
担当者	半澤 真喜子	必・選	管栄・栄(必)	形態	実習	学期	後期	対象	健専2年					
授業概要														
<p>特定給食施設での給食業務の目的は、給食対象者に合った食事を提供し、対象者の疾病治癒・健康維持・増進を図るとともに、より良い食習慣を作り、生活習慣病予防ができるように指導することである。特定給食施設での実務経験を活かし、以下の点を教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定給食施設の基準に基づき、学内で学んだ栄養学、調理学、衛生学などの基礎知識を活かして、学生を対象とした100食以上の給食を実施し、給食に関する方法、技術を習得する。 ・実習の計画（Plan）から、実施（Do）、検証（Check）、改善（Act）に至るすべてを学生自身が進める。 ・調理・供食計画に基づきグループで各管理業務、栄養教育、実験調査、品質評価、情報処理と実務管理を行い課題について検討する。 														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
給食運営のための知識・技術を習得する。						○		○	○		○	○		
給食施設の種類の給食経営管理の特徴を理解できる。						○		○	○		○	○		
食事提供を計画・実施・評価できるようになる。						○		○	○		○	○		
HACCPの概念を基に、調理する力が身につくようになる。						○		○	○		○	○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 食事計画：対象者・喫食者数の把握					教科書P.6～P.30を熟読してくること									
2. 食事計画：食品構成表の作成、予定献立表の作成					次週まで完成品で持参すること									
3. 栄養教育計画：栄養教育媒体・アンケート調査内容計画の作成					次週まで完成品で持参すること									
4. 衛生管理計画：各種帳票作成					次週まで完成品で持参すること									
5. 品質管理計画：各種帳票作成					次週まで完成品で持参すること									
6. 食材料の発注、計画内容の確認、計画発表					<p>（事前学修）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品構成表・給与栄養目標量から季節ごとの献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。 <p>（事後学修）</p> <p>実習ノートのまとめをしっかり行い、実習内容の理解を深めること。</p>									
7. 調理供食サービス①：和食														
8. 調理供食サービス②：洋食														
9. 調理供食サービス③：中華														
10. 調理供食サービス④：郷土料理														
11. 調理供食サービス⑤：郷土料理														
12. 調理供食サービス⑥：弁当食														
13. 調理供食サービス⑦：行事食														
14. 調理供食サービス⑧：選択食														
15. 給食の情報処理と事務管理（クックチルの給食、災害時の給食、冷凍食品の流通）、評価とまとめ														
履修上の注意														
<p>①原則的に全出席とし、遅刻・無断欠席は認めない。</p> <p>②適度な速さで包丁が使えること。</p> <p>③検便検査は決められた日時まで提出すること。未提出の場合、実習はできない。</p> <p>④指示されて行動するのではなく、自ら考えて行動できること。</p> <p>⑤グループ内もしくはクラス内で報告、連絡、相談をしっかりと行い、常にコミュニケーションが図れること。</p> <p>⑥授業計画の準備時は、グループごとに実習時間外および空き時間に行なうこともあるので、事前に相談し出席すること。</p> <p>⑦調理時は実習で定めた服装（非汚染地域・汚染地域を区別）、衛生については大量調理施設衛生管理マニュアル通りとする。</p> <p>⑧衛生については、学生同士で注意しあい、確認してから行動すること。</p> <p>⑨体調管理には十分留意すること。実習当日、下痢・嘔吐・吐き気・手指にけが等ある場合は速やかに担当教員に申し出ること。</p> <p>⑩分からないことは必ず確認し、勝手な行動はしないこと。</p>														
成績評価方法・基準														
<p>・大量調理施設衛生管理マニュアルミニテスト（30%）、学習意欲及び積極的な態度（30%）、課題提出（10%）実習ノート完成度（30%）授業態度不良、課題およびノート未提出、大量調理施設衛生管理マニュアルミニテスト欠席の場合、単位は認めない。</p> <p>・課題、実習ノートは、後日添削して返却する。</p>														
教科書														
〔改訂新版 大量調理〕〔殿塚婦美子〕〔学建書院〕〔2,916円〕														
参考書参考書														
<p>〔給食経営と管理の科学〕〔井川聡子ほか〕〔理工図書〕〔3,240円〕、〔給食経営管理用語辞典〕〔日本給食経営管理学会監修〕〔第一出版〕〔2,700円〕〔調理のためのベーシックデータ〕〔女子栄養大学出版〕〔1,890円〕、〔日本人の食事摂取基準（2015年版）〕〔第一出版〕〔2,916円〕、〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,512円〕 1、2年時購入済み</p>														
備考														
<p>・食物アレルギーがある場合は担当教員まで速やかに申し出ること。</p> <p>・質問は授業時間内、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受付ける。</p> <p>・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照のこと。</p>														

授業科目名		健康栄養学総合演習Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	栗山孝雄・半澤真喜子・高橋文			必・選	管栄・栄(必)	形態	演習	学期	前期	対象	健専3年	
授業概要												
<ul style="list-style-type: none"> ・3年次における給食管理臨地実習Ⅰ・Ⅱをおこなうための事前指導の授業である。 ・校外実習や臨地実習の目的・目標・実習内容・実習の心構え・事前学習等を教授する。 ・実習記録の記入のしかた、適切な文章表現、社会人としての話し方、マナーについて教授する。 ・実習施設の栄養士・管理栄養士の講義では、各給食施設の概要や実習に必要な知識などを説明する。 ・さまざまな給食施設における栄養士・管理栄養士の職務について教授する。 												
授業の到達目標						学位授与の方針との関連						
						1	2	3	4	5	6	7
実習に必要な知識や技術が身につくようになる。							○	○		○	○	
給食施設の特徴を理解できるようになる。							○	○		○	○	
給食施設の管理栄養士・栄養士の業務と役割を理解できるようになる。							○	○		○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. 実習の目的・目標・実習内容・準備・心得・態度 (全教員)						・教科書P.12～P.21を熟読してくる。 ・「実習テキスト」の重要な個所をまとめておく。						
2. 実習関係の書類、日誌の記入方法について (全教員)						・「実習テキスト」の重要な個所をまとめておく。						
3. 会話表現①：話し方・挨拶の基本、敬語の使い方、自己紹介の仕方 (高橋)						・教科書P.24～P.62を熟読してくる。 ・学習した内容をまとめておく。						
4. 会話表現②：社会人としての話し方、栄養指導での話し方、電話のマナー (高橋)						・教科書P.24～P.62を熟読してくる。 ・学習した内容をまとめておく。						
5. 文章表現①：文章作成上の留意事項、基本的な書き方 (栗山)						・教科書P.64～P.130を熟読してくる。 ・学習した内容をまとめておく。						
6. 文章表現②：実習日誌の書き方、礼状の書き方、レポートの書き方、給食だよりの書き方 (栗山)						・教科書P.64～P.130を熟読してくる。 ・学習した内容をまとめておく。						
7. 実習施設の概要、実習内容の確認 (全教員)						・施設の概要や知識の整理、研究課題の準備をしてから授業に臨むこと。						
8. 施設事例①：障がい者施設の実際と栄養士の職務（学外講師） (全教員)						・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。						
9. 施設事例②：高齢者施設の実際と栄養士の職務（学外講師）（全教員）						・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。						
10. 施設事例③：自衛隊給食の実際と栄養士の職務（学外講師） (全教員)						・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。						
11. 施設事例④：事業所給食の実際と栄養士の職務（学外講師） (全教員)						・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。						
12. 施設事例⑤：委託給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（全教員）						・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。						
13. 実習のねらいや課題、疑問等の事前準備 (全教員)						・実習ノートの下書きをしてくること。						
14. 実習のまとめと資料作成 (半澤)						・学内で学習したことと、臨地実習で経験したことを結び付け、今後の課題を検討する。						
15. 報告会準備 (半澤)						・学内で学習したことと、臨地実習で経験したことを結び付け、今後の課題を検討する。						
履修上の注意												
<p>①本科目は、給食管理臨地実習Ⅰ・Ⅱの事前学習、事後学習の役割も担う。</p> <p>②各実習の実習目的、目標と関連法規を理解してから授業に臨むこと。</p> <p>③臨地実習の事前準備、事後のまとめに重要な演習であるため真剣に取り組むこと。</p> <p>④遅刻・無断欠席不可。</p> <p>⑤施設事例の特別講義を欠席した場合は、病気の罹患や入院等、やむを得ない事由でない限り、実習を辞退したものとみなす。</p> <p>なお、やむを得ない事由で欠席する際は、必ず教員または助手室に連絡を入れること。</p>												
成績評価方法・基準												
<ul style="list-style-type: none"> ・出欠状況と受講態度（質問など積極的な態度、目的意識、受講中に居眠りしない等）50%、提出物（決められた日時まで必ず提出すること。未提出の場合は、評価の対象としない。）50%などにより総合的に評価する。 ・提出物については、後日添削して返却する。 												
教科書												
[管理栄養士・栄養士になるための 国語表現] [田上貞一郎] [萌文書院] [1,944円]												
[イラストで学ぶ 栄養士・管理栄養士の世界] (末永美雪) (学建書院) [1,944円] 1年生で購入済み												
参考書 授業内で適宜紹介する。												
備考												
質問等については、授業中、授業後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。												

授業科目名		健康栄養学総合演習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1 (30＋15)				
担当者	栗山孝雄・川俣幸一・	必・選	選 管栄（必）	形態	演習	学期	後期	対象	健専3年				
	小野真実・半澤真喜 子・高橋文												
授業概要													
本演習では、これまでに学習した健康の維持・増進、食生活の現状や栄養摂取状況の把握と改善などに関する内容を踏まえ、人間の健康面や栄養面の課題の把握、確認、対応について扱う。具体的には、人間の健康面や栄養面に関する課題を提示し、情報検索や意見交換などを交え、まとめる技法を教授する。本演習を通じて、管理栄養士が業務を行う上で必要な能力、技術の獲得を目指す。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
健康や栄養に関する調査、測定、教育の方法を身につける。						○	○		○		○	○	○
栄養評価や栄養教育に関する能力、技術を身につける。						○	○		○		○	○	○
授業計画の内容（※全教員：栗山、川俣、小野、半澤、高橋）					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス：演習内容の説明（全教員）					健康面、栄養面の評価について学習する。								
2. 健康面・栄養面の課題① 課題提示、情報検索（全教員）					健康や栄養に関する事項を学習する。								
3. 健康面・栄養面の課題① 検討、まとめ（全教員）					情報検索した内容を確認する。								
4. 健康面・栄養面の課題② 課題提示、情報検索（全教員）					健康や栄養に関する事項を学習する。								
5. 健康面・栄養面の課題② 検討、まとめ（全教員）					情報検索した内容を確認する。								
6. 健康面・栄養面の課題③ 課題提示、情報検索（全教員）					健康や栄養に関する事項を学習する。								
7. 健康面・栄養面の課題③ 検討、まとめ（全教員）					情報検索した内容を確認する。								
8. 健康面・栄養面の課題④ 課題提示、情報検索（全教員）					健康や栄養に関する事項を学習する。								
9. 健康面・栄養面の課題④ 検討、まとめ（全教員）					情報検索した内容を確認する。								
10. 健康面・栄養面の課題⑤ 課題提示、情報検索（全教員）					健康や栄養に関する事項を学習する。								
11. 健康面・栄養面の課題⑤ 検討、まとめ（全教員）					情報検索した内容を確認する。								
12. 健康面・栄養面の課題⑥ 課題提示、情報検索（全教員）					健康や栄養に関する事項を学習する。								
13. 健康面・栄養面の課題⑥ 検討、まとめ（全教員）					情報検索した内容を確認する。								
14. 健康面・栄養面の課題⑦ 課題提示、情報検索（全教員）					健康や栄養に関する事項を学習する。								
15. 健康面・栄養面の課題⑦ 検討、まとめ（全教員）					情報検索した内容を確認する。								
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、管理栄養士養成課程の必修科目である。単位が取得できないと管理栄養士国家試験受験資格を取得できなくなる。 ・開講時期の都合上、3年次で単位が取得できない場合、管理栄養士国家試験受験資格の取得は困難になる。 													
成績評価方法・基準													
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 50%、提出物 50%等により、総合的に評価する。 <p>※授業態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業に関係のない行為がみられるなど、態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物は、後日フィードバックを行う。 													
教科書 なし。配布資料を準備する。													
参考書 授業内で適宜紹介する。													
備考													
質問は授業時間内、またはオフィスアワーで受付ける。													

授業科目名		健康栄養学総合演習Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）					1 (30＋15)			
担当者	栗山孝雄・川俣幸一・ 小野真実・半澤真喜 子・高橋文	必・選	選 管栄（必）	形態	演習	学期	後期	対象	健専4年				
授業概要													
本演習では、これまでに学習した健康の維持・増進、食生活の現状や栄養摂取状況の把握と改善などに関する内容を踏まえ、人間の健康面や栄養面の課題の把握、確認、対応について扱う。具体的には、人間の健康面や栄養面に関する課題を提示し、情報検索や意見交換などを交え、まとめる技法を教授する。本演習を通じて、管理栄養士が業務を行う上で必要な能力、技術の獲得を目指す。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
健康や栄養に関する調査、測定、教育の方法を身につける。						○	○		○		○	○	○
栄養評価や栄養教育に関する能力、技術を身につける。						○	○		○		○	○	○
授業計画の内容（※全教員：栗山、川俣、小野、半澤、高橋）					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス：演習内容の説明（全教員）					健康面、栄養面の評価について学習する。								
2. 健康面・栄養面の課題① 課題提示、情報検索（全教員）					健康や栄養に関する事項を学習する。								
3. 健康面・栄養面の課題① 検討、まとめ（全教員）					情報検索した内容を確認する。								
4. 健康面・栄養面の課題② 課題提示、情報検索（全教員）					健康や栄養に関する事項を学習する。								
5. 健康面・栄養面の課題② 検討、まとめ（全教員）					情報検索した内容を確認する。								
6. 健康面・栄養面の課題③ 課題提示、情報検索（全教員）					健康や栄養に関する事項を学習する。								
7. 健康面・栄養面の課題③ 検討、まとめ（全教員）					情報検索した内容を確認する。								
8. 健康面・栄養面の課題④ 課題提示、情報検索（全教員）					健康や栄養に関する事項を学習する。								
9. 健康面・栄養面の課題④ 検討、まとめ（全教員）					情報検索した内容を確認する。								
10. 健康面・栄養面の課題⑤ 課題提示、情報検索（全教員）					健康や栄養に関する事項を学習する。								
11. 健康面・栄養面の課題⑤ 検討、まとめ（全教員）					情報検索した内容を確認する。								
12. 健康面・栄養面の課題⑥ 課題提示、情報検索（全教員）					健康や栄養に関する事項を学習する。								
13. 健康面・栄養面の課題⑥ 検討、まとめ（全教員）					情報検索した内容を確認する。								
14. 健康面・栄養面の課題⑦ 課題提示、情報検索（全教員）					健康や栄養に関する事項を学習する。								
15. 健康面・栄養面の課題⑦ 検討、まとめ（全教員）					情報検索した内容を確認する。								
履修上の注意													
・本科目は、管理栄養士養成課程の必修科目である。単位が取得できないと管理栄養士国家試験受験資格を取得できなくなる。													
成績評価方法・基準													
・授業態度 50%、提出物 50%等により、総合的に評価する。 ※授業態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業に関係のない行為がみられるなど、態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。 ・提出物は、後日フィードバックを行う。													
教科書 なし。配布資料を準備する。													
参考書 授業内で適宜紹介する。													
備考													
質問は授業時間内、またはオフィスアワーで受付ける。													

授業科目名		給食管理臨地実習 I (給食の運営 校外実習)			単位 (総授業時間+自習時間)				1(45+60)				
担当者	半澤 真喜子	必・選	管栄・栄 (必)	形態	実習	学期	前期	対象	健専3年				
授業概要													
<p>特定給食施設での管理栄養士の実務経験を活かし、以下の点を教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に実習担当教員が実習施設と日程調整を行い、十分に協議し施設ごとの課題や実習内容を調整する。 ・事前学習では、実習に関する心構え、社会人として常識的な行動をとるように指導する。 ・実習に必要な専門知識や技術の確認、助言を行う。 ・受託給食会社が運営する施設で実習する場合は、委託側と受託側の関係を理解させる。 ・学生が、実習施設の栄養士・管理栄養士と事前の打ち合わせを行い、可能な範囲で給食経営管理に関する実習を行う。 ・実習先からの課題、自主研究については、事前準備時に指導を行う。 ・実習終了後のまとめを行う。 													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
栄養士が果たす専門領域に関する基本的な能力を養う。						○	○	○	○	○	○	○	○
知識、技能、態度および考え方の総合的な能力を身につける。						○	○	○	○	○	○	○	○
栄養の指導や給食の運営を行うために必要な能力を養う。						○	○	○	○	○	○	○	○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 実習施設: 下記の特設給食施設のうちから1カ所を選択する。 ①学校 ②児童福祉施設 ③障害者福祉施設 ④給食センター ⑤事業所</p> <p>3～14 実習 事前訪問: 事前に施設を訪問し実習計画を確認する。 自主研究の計画書を作成し、指導を受ける。</p> <p>実習内容: ①給食全般のマネジメントの理解と特定の業務を深く探求する。喫食者訪問、調理作業の分析、食材料の重点管理、栄養士業務の分析、衛生管理、従業員への衛生教育、食事のオーダーリングシステム、経営分析等を通して課題を発見し、問題解決策を検討する。なお具体的な内容は各施設の実習計画に沿って実施する。 ②日々のねらいや学んだこと、課題、疑問などを実習記録に記入し、考察するとともに評価表で自己評価する。</p> <p>15. 実習のまとめと報告; 実習を振り返り、実習で学んだことを通し、これからの課題をまとめる。</p>					<p>(事前学修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など関連分野の教科書および臨地実習マニュアルを熟読する。 ・実習施設の対象者、給食の意義・特性、関係法規を把握したうえで、実習施設の栄養士・管理栄養士の指導のもと、十分な準備を行う。 ・実習先からの事前課題に取り組む。 <p>(事後学修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返りと報告会の準備 ・お礼状の投函 								
履修上の注意													
<p>①給食管理学、給食管理実習 I・II の単位を取得していないと、本実習は履修できない。</p> <p>②食品構成表・給与栄養目標量から各ライフステージの献立作成および展開食ができること。</p> <p>③適度な速さで包丁が使える、ライフステージごとの調理ができること。</p> <p>④大量調理施設衛生管理マニュアルに従った衛生管理 (個人衛生含む) ができること。</p> <p>⑤指導案 (略案) と指導教材の作成、PC による調査集計ができること。</p> <p>⑥健康栄養学総合演習 I を履修すること。</p> <p>⑦日常生活の態度 (自ら相手に伝わる挨拶・返事を含む) や実習への取り組み姿勢 (目的意識をもって臨む、事前学習をしっかりと行う。実習施設からの課題は指定された日時まで完成品で作成する等) が不可の場合は、実習を取り止めることもある。</p> <p>⑧学内の事前・事後教育は空き時間に行う。日時は事前に指示する。</p> <p>⑨実習施設の都合により、実習学期が後期になることもある。</p> <p>⑩栄養士・管理栄養士の免許取得のための必須科目である。定められた時間数 (45 時間) を実習しなければ単位は取得できない。実習期間中は遅刻、早退、体調不良による時間欠勤、欠勤は認められない。</p> <p>⑪実習先では施設のスタッフとして、施設職員や通園・通学者、入居者および地域住民に接すること。</p>													
成績評価方法・基準													
<ul style="list-style-type: none"> ・実習先からの評価 (50%)、実習記録 (15%)、報告会の内容 (20%)、実習態度 (15%) により総合的に評価する。実習態度には、事前、事後の教育も含む。 ・報告会欠席の場合は評価の対象としない。 ・実習先からの課題、自主研究については、事前準備時に確認する。 ・実習先からの評価、実習記録ノートは後日添削して返却する。 													
教科書													
<p>[給食実務必携] [実践給食実務研究会編] [第一出版] [2,700 円]</p> <p>[給食経営と管理の科学] [井川聡子ほか] [理工図書] [3,240 円] [管理栄養士、栄養士になるための国語表現] [萌文書林] [1,944 円]</p> <p>2・3 年次購入済み</p>													
参考書													
<p>大量調理施設衛生管理マニュアル、健康増進法、 大学オリジナル [臨地実習マニュアル] (臨地栄養学演習授業時に配布済み)</p>													
備考													
<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーがある場合は担当教員まで速やかに申し出ること。 ・質問は授業時間内、あるいはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) で受付ける。 ・ルーズリックを授業中に配布するので、学習目標として参照のこと。 													

授業科目名		給食管理臨地実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+60)				
担当者	半澤 真喜子	必・選	管栄・栄（必）	形態	実習	学期	前期	対象	健専3年				
授業概要 特定給食施設での管理栄養士の実務経験を活かし、以下の点を教授する。 ・事前に実習担当教員が実習施設と日程調整を行い、十分に協議し施設ごとの課題や実習内容を調整する。 ・事前学習では、実習に関する心構え、社会人として常識的な行動をとるように指導する。 ・実習に必要な専門知識や技術の確認を行う。 ・受託給食会社が運営する施設で実習する場合は、委託側と受託側の関係を理解させる。 ・学生が、実習施設の管理栄養士と事前の打ち合わせを行い、可能な範囲で給食経営管理に関する実習を行う。 ・実習先からの課題、自主研究については、事前準備時に指導を行う。 ・実習終了後のまとめを行う。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
管理栄養士が果たす専門領域に関する基本的な能力を養う。						○	○	○	○	○	○	○	○
知識、技能、態度および考え方の総合的な能力を身につける。						○	○	○	○	○	○	○	○
栄養の指導や給食の運営を行うために必要な能力を養う。						○	○	○	○	○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス 2. 実習施設：下記の特設給食施設のうちから1カ所を選択する。 ①学校 ②児童福祉施設 ③障害者福祉施設 ④給食センター ⑤事業所 3～14 実習 事前訪問：事前に施設を訪問し実習計画を確認する。 自主研究の計画書を作成し、指導を受ける。 実習内容：①給食全般のマネジメントの理解と特定の業務を深く探求する。喫食者訪問、調理作業の分析、食材料の重点管理、管理栄養士業務の分析、衛生管理、従業員への衛生教育、食事のオーダーリングシステム、経営分析等を通して課題を発見し、問題解決策を検討する。なお具体的な内容は各施設の実習計画に沿って実施する。 ②日々のねらいや学んだこと、課題、疑問などを実習記録に記入し、考察するとともに評価表で自己評価する。 15. 実習のまとめと報告；実習を振り返り、実習で学んだことを通し、これからの課題をまとめる。					（事前学修） ・応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など関連分野の教科書および臨地実習マニュアルを熟読する。 ・実習施設の対象者、給食の意義・特性、関係法規を把握したうえで、実習施設の管理栄養士の指導のもと、十分な準備を行う。 ・実習先からの事前課題に取り組む。 （事後学修） ・実習の振り返りと報告会の準備 ・お礼状の投函								
履修上の注意 ①給食管理学、給食管理実習Ⅰ・Ⅱの単位を取得していないと、本実習は履修できない。 ②食品構成表・給与栄養目標量から各ライフステージの献立作成および展開食ができること。 ③適度な速さで包丁が使える、ライフステージごとの調理ができること。 ④大量調理施設衛生管理マニュアルに従った衛生管理（個人衛生含む）ができること。 ⑤指導案（略案）と指導教材の作成、PCによる調査集計ができること。 ⑥健康栄養学総合演習Ⅰを履修すること。 ⑦日常生活の態度（自ら相手に伝わる挨拶・返事を含む）や実習への取り組み姿勢（目的意識をもって臨む、事前学習をしっかりと行う。実習施設からの課題は指定された日時まで完成品で作成する等）が不可の場合は、実習を取り止めることもある。 ⑧学内の事前・事後教育は空き時間に行う。日時は事前に指示する。 ⑨実習施設の都合により、実習学期が後期になることもある。 ⑩栄養士・管理栄養士の免許取得のための必須科目である。定められた時間数（45時間）を実習しなければ単位は取得できない。実習期間中は遅刻、早退、体調不良による時間欠勤、欠勤は認められない。 ⑪実習先では施設のスタッフとして、施設職員や通園・通学者、入居者および地域住民に接すること。													
成績評価方法・基準 ・実習先からの評価（50%）、実習記録（15%）、報告会の内容（20%）、実習態度（15%）により総合的に評価する。実習態度には、事前、事後の教育も含む。 ・報告会欠席の場合は評価の対象としない。 ・実習先からの課題、自主研究については、事前準備時に確認する。 ・実習先からの評価、実習記録ノートは後日添削して返却する。													
教科書 [給食実務必携] [実践給食実務研究大会編] [第一出版] [2,700円] [給食経営と管理の科学] [井川聡子ほか] [理工図書] [3,240円] [管理栄養士、栄養士になるための国語表現] [萌文書林] [1,944円] 2・3年次購入済み													
参考書 大量調理施設衛生管理マニュアル、健康増進法 大学オリジナル [臨地実習マニュアル] (臨地栄養学演習授業時に配布済み)													
備考 ・食物アレルギーがある場合は担当教員まで速やかに申し出ること。 ・質問は授業時間内、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受付ける。 ・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照のこと。													

授業科目名	臨床栄養学臨地実習 I			単位 (総授業時間+自習時間)				1(45+15)					
担当者	高橋文	必・選	管栄(必)	形態	実習	学期	前期	対象	健専4年				
授業概要													
<p>本科目では、病院および施設栄養士としての実務経験を活かし、実習の計画および指導を行う。事前教育として実習に関する準備も含まれ、実習先の指導管理栄養士から説明を受け、実際の臨床における管理栄養士の仕事を把握できるよう指導する。また、実習先の医療機関に関する機能性および特色についての調査、臨地実習先との連絡調整など、充実した実習とするための具体的な事前準備について指導を行う。実習終了後には、事後教育指導として、担当教員や巡回教員への終了報告、実習のまとめ、報告会の準備および発表を行う。</p>													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1. 臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習などで学んだ知識・技術を、実際の臨床現場で実践することができる。				○		○				○			
2. 臨地実習を通して、社会で実践していくために必要な自己管理能力、社会的倫理観、および責任感を修得することができる。				○		○		○		○			○
3. 臨地実習で得た知識や、講義を通して得たものを伝えるプレゼンテーション能力を修得することができる。										○			○
授業計画の内容				自習 (事前・事後学修の内容)									
1. ガイダンス				臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習、応用栄養学の復習をする									
2. 実習配属先との事前打ち合わせ				実習先の要求する提出物の準備・作成 交通手段について調べる									
3. 実習：病院または老人保健施設で行う				医療施設について調べる									
・施設における栄養食事療法、運営管理業務について				実際に実習させて頂く施設について調べる									
・栄養管理全般について				栄養管理について復習する									
・傷病者の栄養指導・教育について				栄養指導について復習する									
・チーム医療における管理栄養士の役割および活動について				チーム医療における管理栄養士について									
・衛生管理、危機管理の実際について				危機管理について復習する									
4. 実習担当教員および巡回教員への終了報告				資料を整理する									
5. 実習のまとめ、報告会の準備および発表				実習で得た知識と経験を整理する									
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> 臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養指導論Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。 家政特別講義Ⅳを履修すること。 実習先に通う方法について、自家用車の使用は原則認めない。無断で使用した場合、実習の即刻中止、単位取得無効とする。 清潔な調理衣(白衣・調理ズボン)を着用すること。 マニキュア、イヤリング、ピアス、つけまつ毛、ネックレス、指輪、香水等の使用は認めない。 実習先では施設スタッフとして、施設職員や患者・入居者に接すること。 臨地実習報告会には、自分の発表以外においても聴講し、最後の発表まで参加すること。 													
成績評価の方法・基準													
<p>実習態度 70%、臨地実習記録 30% (提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。)などを総合的に判断して評価する。</p> <p>※実習態度：欠席・遅刻・早退の状況、巡回担当者および配属先の担当者からの報告など</p>													
教科書 [エッセンシャル臨床栄養学 第8版] [佐藤和人 他] [医歯薬出版] [4,070円] [臨床栄養学実習書 第12版] [玉川和子 他] [医歯薬出版] [2,970円]													
参考書 [適宜プリント配布]													
備考													
質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける													

授業科目名	臨床栄養学臨地実習Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+15)					
担当者	高橋文	必・選	管栄(必)	形態	実習	学期	後期	対象	健専4年					
授業概要														
<p>本科目では、病院および施設栄養士としての実務経験を活かし、実習の計画および指導を行う。事前教育として実習に関する準備も含まれ、実習先の指導管理栄養士から説明を受け、実際の臨床における管理栄養士の仕事を把握できるよう指導する。また、実習先の医療機関に関する機能性および特色についての調査、臨地実習先との連絡調整など、充実した実習とするための具体的な事前準備について指導を行う。実習終了後には、事後教育指導として、担当教員や巡回教員への終了報告、実習のまとめ、報告会の準備および発表を行う。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1. 臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習などで学んだ知識・技術を、実際の臨床現場で実践することができる。					○		○				○			
2. 臨地実習を通して、社会で実践していくために必要な自己管理能力、社会的倫理観、および責任感を修得することができる。					○		○		○		○			○
3. 臨地実習で得た知識や、講義を通して得たものを伝えるプレゼンテーション能力を修得することができる。											○			○
4. これまでに獲得した知識・技能などを総合的に活用し、新たな課題に取り組むことができる。					○		○		○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス					臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習、応用栄養学の復習をする									
2. 実習配属先との事前打ち合わせ					実習先の要求する提出物の準備・作成をする。疑問点について確認をする									
3. 実習：病院または老人保健施設で行う					医療施設について調べる									
・施設における栄養食事療法、運営管理業務について					食事療法について復習する									
・栄養管理全般について					栄養管理について復習する									
・傷病者の栄養指導・教育について					栄養指導について復習する									
・チーム医療における管理栄養士の役割および活動について					チーム医療における管理栄養士について復習する 実習先のチーム医療の特徴についてまとめる									
・衛生管理、危機管理の実際について					危機管理について復習する。									
4. 実習担当教員および巡回教員への終了報告					実習先の状況説明ができるようまとめておく									
5. 実習のまとめ、報告会の準備および発表					資料を整理する 実習で得た知識と経験を整理する									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養学臨地実習Ⅰの単位を修得していること。 ・臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養指導論Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。 ・家政特別講義Ⅳを履修すること。 ・実習先に通う方法について、自家用車の使用は原則認めない。無断で使用した場合、実習の即刻中止、単位取得無効とする。 ・清潔な調理衣（白衣・調理ズボン）を着用すること。 ・マニキュア、イヤリング、ピアス、つけまつ毛、ネックレス、指輪、香水等の使用は認めない。 ・実習先では施設スタッフとして、施設職員や患者・入居者に接すること。 ・臨地実習報告会には、自分の発表以外においても聴講し、最後の発表まで参加すること。 														
成績評価の方法・基準														
<p>実習態度 70%、臨地実習記録 30%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）などを総合的に判断して評価する。 ※実習態度：欠席・遅刻・早退の状況、巡回担当者および配属先の担当者からの報告など</p>														
教科書 [エッセンシャル臨床栄養学 第8版] [佐藤和人 他] [医歯薬出版] [4,070円] [臨床栄養学実習書 第12版] [玉川和子 他] [医歯薬出版] [2,970円]														
参考書 [適宜プリント配布]														
備考 質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。														

授業科目名	公衆栄養学臨地実習 I				単位 (総授業時間+自習時間)				1(45+15)					
担当者	栗山 孝雄	必・選	管栄 (必)	形態	実習	学期	通年	対象	健専4年					
授業概要														
<p>本実習では、保健所や市町村保健センターに所属する行政栄養士の役割や業務について、保健所または市町村保健センターに赴き、学習する。具体的には、以下の内容を扱う。</p> <p>【1】実習前に、本学実習担当教員が実習日程や課題の確認を行い、実習に必要な知識や技術の確認、助言を行う。</p> <p>【2】実習施設の行政栄養士やスタッフが、地域住民の適正な栄養管理と健康実現を目指すための政策や手法を教授する。</p> <p>【3】実習終了後に、本学実習担当教員が終了後のまとめに関する指導、助言を行う。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
保健所や市町村保健センターの行政栄養士の役割を理解する。						○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域住民への栄養や健康に関する情報発信の方法を習得する。						○	○	○	○	○	○	○	○	○
公衆栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。						○	○	○	○	○	○	○	○	○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. ガイダンス					教科書の該当箇所を確認する。									
2. 実習配属先との事前の打合せ					実習内容について理解する。									
3. 実習：保健所または市町村で行う					施設の特徴を確認する。									
【1 保健所で実習を行う場合】														
(1) 保健所スタッフによる講話：保健所の業務・役割について、スタッフの業務・役割について					教科書を利用して、実習先の業務・役割を確認する。									
(2) 保健所栄養士による講話：保健所栄養士の業務、役割について					教科書を利用して、保健所栄養士の業務・役割を確認する。									
(3) 保健所活動の実際：保健所栄養士に係る広域的・専門的な業務の体験、理解					活動の内容を理解する。									
【2 市町村で実習を行う場合】														
(1) 市町村スタッフによる講話：市町村の業務、役割について、スタッフの業務・役割について					教科書を利用して、実習先の業務・役割を確認する。									
(2) 市町村栄養士による講話：市町村栄養士の業務、役割について					教科書を利用して、市町村栄養士の業務・役割を確認する。									
(3) 市町村活動の実際：市町村栄養士に係る地域的・一般的な業務の体験、理解					活動の内容を理解する。									
4. 実習後のまとめ					学習した内容全体を復習する。									
5. 公衆栄養学臨地実習報告会での報告					実習内容をまとめ、報告の準備をする。									
6. 公衆栄養学臨地実習報告会の聴講					公衆栄養活動の実際を理解する。									
履修上の注意														
<p>①公衆栄養学、公衆栄養学実習の単位を取得していないと、本実習は履修できない。</p> <p>②家政特別講義Ⅳを履修すること。</p> <p>③本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。</p> <p>④実習以前の生活態度や学習態度に問題があり、指導しても良くならない場合は、実習を取り止めることがある。その点を十分注意すること。</p> <p>⑤実習の配属先ならびに実習の時期は、他の実習の実施時期、履修者の学習状況を参考に、担当教員が実習施設の担当者と協議して決定する。</p> <p>⑥実習先では学生ではなく、施設のスタッフとして施設職員や地域住民と接することになる。その点を十分に自覚すること。</p> <p>⑦公衆栄養学臨地実習報告会は、自分の報告がない会にも出席し、他施設の実習内容について学習する。</p>														
成績評価方法・基準														
<p>・実習態度 (50%)、提出物の内容 (30%)、実習報告 (20%) などを総合的に評価する。</p> <p>※実習態度とは遅刻・早退の状況、巡回担当者の報告、配属先の担当者からの報告などを指す。</p> <p>・提出物については、適宜フィードバックを行う。</p>														
教科書 [臨地実習テキスト] [大学オリジナル] [無料]														
教科書 [ウエルネス公衆栄養学] [前大道教子ほか] [医歯薬出版] [2,800円] (※) 3年次に購入済み														
教科書 [管理栄養士・栄養士になるための国語表現] [田中貞一郎ほか] [萌文書林] [1,800円+税]														
参考書 なし。授業内で適宜紹介する。														
備考														
質問等については、授業終了時またはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) に受付ける。														

授業科目名	公衆栄養学臨地実習Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+15)				
担当者	栗山 孝雄	必・選	管栄（必）	形態	実習	学期	通年	対象	健専4年				
授業概要													
<p>本実習は、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ」を履修した者のみが履修できる。</p> <p>本実習は、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ」とは異なる施設に赴き、現場の行政栄養士の役割や業務について学習する。具体的には、以下の内容を扱う。</p> <p>【1】実習前に、本学実習担当教員が実習日程や課題の確認を行い、実習に必要な知識や技術の確認、助言を行う。</p> <p>【2】実習施設の行政栄養士やスタッフが、地域住民の適正な栄養管理と健康実現を目指すための政策や手法を教授する。</p> <p>【3】実習終了後に、本学実習担当教員が終了後のまとめに関する指導、助言を行う。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
保健所や市町村保健センターの行政栄養士の役割を理解する。						○	○	○	○	○	○	○	○
地域住民への栄養や健康に関する情報発信の方法を習得する。						○	○	○	○	○	○	○	○
公衆栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。						○	○	○	○	○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス					教科書の該当箇所を確認する。								
2. 実習配属先との事前の打合せ					実習内容について理解する。								
3. 実習：保健所または市町村で行う					施設の特徴を確認する。								
【1 保健所で実習を行う場合】													
(1) 保健所スタッフによる講話：保健所の業務・役割について、スタッフの業務・役割について					教科書を利用して、実習先の業務・役割を確認する。								
(2) 保健所栄養士による講話：保健所栄養士の業務、役割について					教科書を利用して、保健所栄養士の業務・役割を確認する。								
(3) 保健所活動の実際：保健所栄養士に係る広域的・専門的な業務の体験、理解					活動の内容を理解する。								
【2 市町村で実習を行う場合】													
(1) 市町村スタッフによる講話：市町村の業務、役割について、スタッフの業務・役割について					教科書を利用して、実習先の業務・役割を確認する。								
(2) 市町村栄養士による講話：市町村栄養士の業務、役割について					教科書を利用して、市町村栄養士の業務・役割を確認する。								
(3) 市町村活動の実際：市町村栄養士に係る地域的・一般的な業務の体験、理解					活動の内容を理解する。								
4. 実習後のまとめ					学習した内容を復習する。								
5. 公衆栄養学臨地実習報告会での報告					実習内容をまとめ、報告の準備をする。								
6. 公衆栄養学臨地実習報告会の聴講					公衆栄養活動の実際を理解する。								
履修上の注意													
<p>①公衆栄養学、公衆栄養学実習の単位を取得していないと、本実習は履修できない。</p> <p>②公衆栄養学臨地実習Ⅰを履修していないと、本実習は履修できない。</p> <p>③家政特別講義Ⅳを履修すること。</p> <p>④本科目の履修者は、本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。</p> <p>⑤実習以前の生活態度や学習態度に問題があり、指導しても良ならない場合は、実習を取り止めることがある。その点を十分注意すること。</p> <p>⑥実習の配属先ならびに実習の時期は、他の実習の実施時期、履修者の学習状況を参考に、担当教員が実習施設の担当者と協議して決定する。</p> <p>⑦実習先では学生ではなく、<u>施設のスタッフとして施設職員や地域住民と接することになる</u>。その点を十分に自覚すること。</p> <p>⑧公衆栄養学臨地実習報告会は、自分の報告がない会にも出席し、他施設の実習内容について学習する。</p>													
成績評価方法・基準													
<p>・実習態度（50%）、提出物の内容（30%）、実習報告（20%）などを総合的に評価する。</p> <p>※実習態度とは遅刻・早退の状況、巡回担当者の報告、配属先の担当者からの報告などを指す。</p> <p>・提出物については、適宜フィードバックを行う。</p>													
教科書 [臨地実習テキスト] [大学オリジナル] [無料]													
教科書 [ウエルネス公衆栄養学] [前大道教子ほか] [医歯薬出版] [2,800円] (※) 3年次に購入済み													
教科書 [管理栄養士・栄養士になるための国語表現] [田中貞一郎ほか] [萌文書林] [1,800円+税]													
参考書 なし。授業内で適宜紹介する。													
備考													
質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。													

授業科目名		被服学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	菊地 紗代	必・選	必	形態	講義	学期		前期		対象	健専1年			
授業概要														
被服は人間の生活に大きな役割を果たしてきた。私たちを取り巻く社会環境は変化していくため、対応できるように被服について考えていく必要がある。そこで本講義では、健康・安全・快適性をキーワードに衣生活について概説する。人間の着用を中心におきながら、社会性、素材、品質と管理について取り上げる。さらに、消費、環境についても触れ、これからの衣生活を向上させるために必要な知識を習得させ、実践能力が高められるよう指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
衣服の機能について理解できる。					○									
社会と被服の関係について理解できる。						○								
環境に配慮した衣生活を送るために必要な知識を身につける。							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.被服学とは、人はなぜ装うのか					装いの機能についてまとめる。									
2.気候風土と装い					民族服についてまとめる。									
3.衣服のかたちの変遷①洋装					洋装についてまとめる。									
4.衣服のかたちの変遷②和装					和装についてまとめる。									
5.装いと健康					快適性についてまとめる。									
6.装いによる気候調節					温度調節についてまとめる。									
7.動きやすさと衣服					動きやすさについてまとめる。									
8.衣服の素材					素材についてまとめる。									
9.衣服の加工、品質					性能・加工、表示についてまとめる。									
10.衣服の管理					洗濯、管理についてまとめる。									
11.人の成長とからだつき、アパレル産業と既製服					体型、既製服についてまとめる。									
12.装いのコミュニケーション					色、流行、個性についてまとめる。									
13.ユニバーサルデザインと装い					ユニバーサルデザインについてまとめる。									
14.装いと生活環境					再利用についてまとめる。									
15.まとめ					レポートを作成する。									
履修上の注意														
遅刻・欠席をしないこと。 日頃から被服に関することに興味関心を持つこと。														
成績評価方法・基準														
提出物（ワークシート・レポート）60%，受講状況（ミニットペーパー等）40%で評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。） 提出物については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。														
教科書 [ビジュアル衣生活論] [岡田宣子編著] [建帛社] [2,530円]														
参考書 無し（適宜、プリントを配布する）														
備考														
ルーブリック評価については、第一回目の授業で説明する。 質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。														

授業科目名	被服造形実習 I			単位 (総授業時間+自習時間)				1(45+30)						
担当者	菊地 紗代	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	健専2年					
授業概要														
被服造形のための知識と、縫製技術の基礎・基本について習得させる。縫製に使われる用具、布地の扱い方、手縫いの基礎、ミシン・アイロンの使い方などについて取り上げる。課題として綿のシャツブラウスを製作する。採寸、デザインに合った布地の選択、裁断、印付け、布地・副資材の取り扱い方などについて学び、製作を通して衣服の基本的構造の理解を深めさせる。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
服飾造形分野の基礎的知識と技術、実践力を身につける。					○		○		○					
自己管理能力、論理観、課題解決能力を身につける。											○			
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 被服製作の基礎知識、用具確認、練習用布地裁断					教科書に目を通す。復習する。									
2. 基礎縫い：手縫い① (並縫い、しつけ)					指定箇所まで作業を終わらせる。									
3. 手縫い② (まつり、留め具付け)					指定箇所まで作業を終わらせる。									
4. ミシン縫い (直線・ロックミシンの使い方)					基礎縫いを完成させる。									
5. 課題制作：採寸、型紙作成 (シャツブラウス)、用布の見積もり					材料の準備をする。プリントをまとめる。									
6. 型紙カット・確認、表地：地直し					指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。									
7. 表地：裁断、印付け					指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。									
8. 芯：裁断・接着、印付け、縫製工程確認					指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。									
9. 本縫い①ポケット作り・付け、肩					指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。									
10. ②衿作り					指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。									
11. ③衿付け					指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。									
12. ④袖付け					指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。									
13. ⑤脇・裾					指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。									
14. ⑥ボタンホール・ボタン付け、仕上げ、提出					課題・プリント完成。									
15. 試着、発表					全行程を振り返る。									
履修上の注意														
遅刻・欠席をしないこと。授業に必要な裁縫用具一式を毎回持参すること。課題制作の材料費は各自負担。														
成績評価方法・基準														
提出物 60%、受講状況 (作業状況、制作ノート) を 40%として評価する。(未提出がある場合は評価対象としないことがある。) 課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。														
教科書 なし プリント配布														
参考書 [文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎/③ ブラウス・ワンピース 文化服装学院編] [文化出版局] [2,850 円/1870 円]														
備考 演習内容や課題は、作業の進行状況等により、変更する場合がある。ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。														

授業科目名	被服造形実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+30)					
担当者	菊地 紗代	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	健康2年				
授業概要													
<p>衣服製作の一連の工程を通し、衣服の基本的構造、制作過程を学び、縫製の専門的な知識・技術の習得を目指す。課題として綿素材のスカートを作成する。基本形のスカートの作図に取り組み、自分の体型に合ったスカートを製作するための仮縫い・補正、パターンの修正ができるようにする。2種類のファスナーの付け方、ベルトの付け方など専門的技術について取り上げ、理解を深めさせる。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が指導する。</p>													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
基本のスカートの製図ができる。						○		○					
専門的な縫製知識・技術を身につける。						○		○					
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）									
1. スカートについて、製図：標準寸法（1/4）				課題を完成させる。復習する。									
2. 採寸、製図：各自サイズ（実寸）提出、用布の見積もり				課題を完成させる。材料の準備をする。									
3. 製図：カット・確認、表地：地直し				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
4. 表地：裁断・印付け				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
5. 仮縫い				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
6. 試着・補正				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
7. 縫い代整理、縫製工程確認				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
8. 本縫い①ダーツ・後ろ中心ミシン				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
9. 部分縫い①コンシールファスナー付け				部分縫いを完成させる。									
10. 本縫い②コンシールファスナー付け				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
11. ③脇ミシン、裾始末				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
12. ④ベルト作り・付け				指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。									
13. ⑤前カン付け、仕上げ 提出				課題を完成させる。制作ノート作成。									
14. 部分縫い②エフロンファスナー付け（ポーチ製作）提出				課題制作・制作ノート完成。									
15. 試着、発表				全行程を振り返る。									
履修上の注意													
<p>被服実習Ⅰを履修していることが望ましい。授業に必要な裁縫用具一式を毎回持参すること。遅刻欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、次回までに終わらせておくこと。材料費は各自負担。</p>													
成績評価方法・基準													
<p>提出物 60%、受講状況（作業状況、制作ノート）を 40%として評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。）課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。</p>													
教科書 〔文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座②スカート・パンツ〕〔文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔1,870 円〕													
参考書 無し（適宜プリント配布）													
備考 演習内容や課題は、作業の進行状況等により、変更する場合がある。ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。													

授業科目名	住居学（製図を含む。）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	崎山 俊雄	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	健専3年					
授業概要														
住居は、人間生活の基本的な空間であると同時に、社会環境や生活様式、それが建つ地域の風土や文化とも密接に関係している。本講義では、住居や住生活に関する基礎的知識を習得し、文化的・社会的観点から、住宅や住生活についての理解を深める。前半は、住まいについて、風土・機能・空間・生活などの観点を設定して論じ、後半は、前半で身につけた考え方を応用して、独立住宅を設計する。後半の設計演習は、学生の考えや理解度を確認しながら対話型の形式で進めていく。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
住居や住生活を考える上で必要な基礎知識を身につける。					○	○		○						
よりより住空間について自ら考え、表現し、自分の考えを他者に説明する技術を身につける。								○		○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 授業内容と進め方、評価方法の説明、住生活に関する概説					住居や建築を、その構成や成り立ちを意識して観察する。									
2. 住宅の構成要素					同上									
3. 家族生活と住宅					同上									
4. 風土と住宅					同上									
5. 日本の住まいの特徴					同上									
6. 独立住宅の計画					配布資料を参考にして、事例を収集する									
7. 集合住宅の計画					同上									
8. 図面表現					繰り返し練習して図面表現を習得する									
9. 住宅の計画（1）必要な室と広さ					設計案を練り、授業時に持参する									
10. 住宅の計画（2）室の配置と動線計画					授業を踏まえて、設計案を改良する									
11. 住宅の計画（3）空間構成					同上									
12. 製図（1）配置図・平面図					配置図・平面図を完成させる									
13. 製図（2）立面図・断面図					立面図・断面図を完成させる									
14. プレゼンテーション技術					プレゼンテーションを仕上げる									
15. 課題の提出、プレゼンテーションと講評、まとめ					授業を通して得た内容をまとめる									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・講義中の指示にしたがい、必要な予習・復習を確実に行って、知識の定着に努めること。 ・後半の設計演習では、毎回、設計案を持参すること。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> ・制作物（60%）、プレゼンテーション（20%）、および受講態度（20%）により評価する。 ・持参した設計案や提出物、プレゼンテーションに対しては、授業中にフィードバックする。 														
教科書														
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて資料を配布する。 														
参考書														
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で紹介する。 														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー：授業終了後 														

授業科目名	保育学(実習及び家庭看護を含む。)			単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)				
担当者	香曾我部 琢	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	健専3年			
授業概要												
<p>本科目では、まず、家庭科教育の「A 家族生活と家族」分野の内、保育領域に焦点を当て、その指導に必要とされる基本的な知識と技能を身につける。次に、基本的な知識と技能を基盤として、生涯発達の視点に立ち、最新の脳神経科学や大規模縦断研究の知見をもとに、人の発達や生活における諸様相とその特徴を理解した上で、現代社会において求められる適切な保育者・養育者の援助や環境構成の在り方について検討を行い、専門的知識と技能の修得を目指す。また、これらの専門的知識や技能を身につける際に、アクティブラーニングを実施し、他者や社会との相互作用の中で、自律的にそれらの知識や技能を適応させて問題解決する力を身につける。</p>												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
「A 家族生活と家族」分野における保育領域の指導に必要とされる基本的な知識と技能を習得する。				○								
生涯発達の視点に立ち、人の発達や生活における諸様相とその特徴を理解することで、専門的知識と技能を学ぶ。					○		○					
身につけた知識と技能を、他者や社会との相互作用の中で総合的、適応的に用いる能力を身につける。							○		○		○	
授業計画の内容				自習 (事前・事後学修の内容)								
1. オリエンテーション：発達とは何か・保育とは何か				教科書の目次を読んで、授業の概要について把握する。								
2. 新生児、乳児期の発達と発育の特徴				教科書をよく読み、新生児から乳児までの発達の概要を把握する。								
3. 幼児期の発達と発育の特徴				教科書をよく読み、幼児期までの発達の概要を把握する。								
4. 児童期～成人期の発達、生涯発達とは				教科書をよく読み、児童期から青年、成人までの発達の概要を把握する。								
5. 言語と概念の発達				教科書をよく読み、新生児から乳児までの言語と概念発達の概要を把握する。								
6. 社会的認知の発達				教科書をよく読み、新生児から乳児までの社会的認知に関する発達の概要を把握する。								
7. 他者との関係発達				教科書をよく読み、発達における社会の相互作用の影響について概要を把握する。								
8. 生涯発達の視点から捉える自己形成のプロセス				教科書をよく読み、生涯発達の概念について理解する。								
9. 五感の発達：共感覚の発達を知る				教科書をよく読み、共感覚について知る。								
10. 脳神経科学の視点で発達を捉える				教科書をよく読み、脳神経科学の最新の知見について把握する。								
11. 社会・文化心理学の視点で発達を捉える				教科書をよく読み、社会・文化心理学における発達の概念の特徴を知る。								
12. 比較行動学・進化心理学の視点で発達を捉える				教科書をよく読み、ヒト以外の動物の学習や認知の発達について、その概要を把握する。								
13. 発達理論の歴史的変遷				教科書をよく読み、ヒトの発達を捉える概念の歴史的変遷を把握する。								
14. 遊びの発達				教科書をよく読み、遊びが幼児の心身の発達に与える影響を把握する。								
15. 生活習慣の育ちを知る				教科書をよく読み、乳幼児期に生活習慣を身につける意義を把握する。								
履修上の注意												
遅刻3回で欠席1回とする。												
成績評価方法・基準												
授業ごとのリアクションペーパー (40%)、基礎的な知識に関する小テスト(30%)、平常点(30%) リアクションペーパーと小テストの未提出は評価の対象としないことがある。 リアクションペーパーや小テストについては後日添削して返却する。												
教科書 [子ども理解のメソドロジー] [中坪史典] [ナカニシヤ出版] [2,160円]												
参考書 [発達心理学をアクティブに学ぶ] [山本真由美] [北大路書房] [2,376円]												
備考												
<ul style="list-style-type: none"> ループリック評価については、第1回目の授業で説明します。 質問等については、授業終了後に受け付けます。 												

授業科目名	家庭電気・機械				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	門田 和雄	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	健専3年					
授業概要														
日常生活では多種多様な家庭電気機器が利用されている。そして、これらの機械的しくみ及び電気回路、制御方法などを理解し、合理的、創造的な生活態度を身につけることが現代人にとって不可欠となっている。本講義では家庭電気・機械の理解に必要な機械工学（機械の動くしくみであるリンク機構やカム機構、また代表的な機械要素であるねじや歯車など）と電気工学（電気回路や電子回路、制御回路など）の基礎的事項を学ぶとともに、身の回りの家庭電気機械の保守点検についても学ぶ。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
機械工学の基礎知識を身につける。					○	○								
電気工学の基礎知識を身につける。					○	○								
家庭電気機器の簡単な保守・点検ができる。					○	○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.エネルギー変換に関する技術					エネルギーとは何か									
2.機械エネルギーと熱エネルギー					機械とは何か，熱とは何か									
3.電気エネルギーを作るしくみ：さまざまな発電方式					発電方式の種類について									
4.電気エネルギーを供給するしくみ：送電・配電					直流と交流について									
5.電気回路の基礎：オームの法則，直列・並列					オームの法則について									
6.家庭電気機器のしくみ1：アイロン，照明器具					熱エネルギー，光エネルギーの利用									
7.家庭電気機器のしくみ2：炊飯器，電子レンジ					電磁波のエネルギー									
8.家庭電気機器のしくみ3：洗濯機，掃除機，ミシン					電気モータの種類について									
9.電気機器の安全な使い方：ブレーカ，アース					電気部品の定格									
10.電気機器の保守・点検：テスターの使い方					テスターとは									
11.機械要素とそのはたらき1：ねじ					家庭電気機器に用いられるねじ									
12.機械要素とそのはたらき2：歯車，ベルト，チェーン					家庭電気機器に用いられる歯車									
13.機械要素とそのはたらき3：軸受，軸接手，ばね					家庭電気機器に用いられるばね									
14.機械要素とそのはたらき4：リンク機構，カム機構					家庭電気機器に用いられるリンク機構									
15.まとめ					全体的な復習									
16.試験														
履修上の注意														
毎回，小テストを実施する。														
成績評価方法・基準														
期末試験（60%），小テスト（20%），事前・事後学習を含む授業姿勢（20%） 提出された課題は、後日添削して返却する。														
教科書 授業時にプリントを配布する														
参考書 [新しい技術・家庭] [技術分野] [東京書籍] [価格]														
備考														
質問等は、授業終了後受け付けます。														

授業科目名	情報処理 I			単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)				
担当者	水谷 浩	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	健専3年			
授業概要 (目的)												
<p>栄養士や管理栄養士の業務は、さまざまな統計資料を利用するだけでなく、実践活動のなかで収集されたデータを正確に処理・分析し、そこから得られた結果 (有用な情報) を発信していくことが求められる。</p> <p>本授業では、民間シンクタンクの研究者やシステム担当者としての実務経験を活かし、ビジネス文書作成や PC を用いたプレゼンテーション技法に加え、栄養素の摂取量や栄養状態などの調査結果を解析するための知識や技能を教授することにより、栄養改善の提案に役立つ情報リテラシーの取得をめざしている。</p>												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
・ソフトウェアを利・活用し、文章表現や統計計算ができる								○	○	○		
・情報倫理に配慮し、情報の収集・加工・表現・発信ができる								○	○	○		
・ICT の仕組みと原理を理解し、説明できる								○	○	○		
授業計画の内容				自習 (事前・事後学修の内容)								
1.オリエンテーション (授業のすすめ方・評価, 情報倫理)				<p>学生便覧の「ソーシャルメディア利用のガイドライン」および「OA 実習室・OA 教室利用案内」を必ず熟読しておくこと。</p> <p>授業計画やテキストを参考にして、Word の諸機能を確認 (予習) すること。テキストや講義ノートを読み直し、Word の諸機能について振り返り (復習) を行うこと。</p> <p>授業計画やテキストを参考にして、Excel の諸機能を確認 (予習) すること。テキストや講義ノートを読み直し、Excel の諸機能について振り返り (復習) を行うこと。</p> <p>授業計画やテキストを参考にして、Power Point の諸機能を確認 (予習) すること。テキストや講義ノートを読み直し、Power Point の諸機能について振り返り (復習) を行うこと。</p> <p>5分以内に発表できるように練習する</p>								
2.日本語文書処理 I Microsoft Word の基本 (入力・書式変更) を学ぶ												
3.日本語文書処理 II Microsoft Word の応用① (見やすい文書作成) を学ぶ												
4.日本語文書処理 III Microsoft Word の応用② (画像・グラフ挿入) を学ぶ												
5.日本語文書処理 IV Microsoft Word の応用③ (描画機能) を学ぶ												
6.日本語文書処理 V これまでの授業の振り返り (課題作成)												
7.表計算 I Microsoft Excel の基本 (表・グラフの作成) を学ぶ												
8.表計算 II Microsoft Excel の応用① (表・グラフの加工) を学ぶ												
9.表計算 III Microsoft Excel の応用② (データベース機能) を学ぶ												
10.表計算 IV Microsoft Excel の応用③ (関数の使い方) を学ぶ												
11.表計算 V これまでの授業の振り返り (課題作成)												
12.プレゼンテーション I Microsoft PowerPoint の基本 (スライド作成) を学ぶ												
13.プレゼンテーション II Microsoft PowerPoint の応用 (オブジェクト作成) を学ぶ												
14.プレゼンテーション III これまでの授業の振り返り (課題作成) を行う												
15.まとめ (課題発表)												
履修上の注意												
2/3 以上の出席がない場合には、単位を取得することはできない。												
成績評価方法・基準												
平常点・授業への参加態度(35%)+課題の提出状況(30%)+課題発表(35%)にもとづき評価する。												
なお、課題については、授業中にフィードバックをします。また、実習費 (1,000 円) を徴収します。												
教科書 [Windows10・Office2016 による情報処理入門] [高橋敏夫監修] [実教出版] [2,200 円]												
参考書 授業中に適宜指示する。												
備 考												
質問などは、オフィスアワー (日時は掲示で確認のこと) に受けつけます。												

授業科目名		消費生活論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	水谷 浩		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	健専2年				
授業概要（目的）														
<p>私たちは、誰もが「消費者」である。さまざまな商品やサービスを購入し、それらを利用（消費）し、暮らしている。そうしたなか「経済的に効率良く、地球環境にも配慮し、暮らしていくためには、合理的な意思決定を行うための智慧（消費者力）が求められる。</p> <p>本講義では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし、消費者問題の歴史的変遷を解説するとともに、消費者・行政・企業の事例研究を通じて「現代社会を生きていくために知っておくべきこと、暮らしに役立つこと（消費者力）」の修得をめざしている。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・現代社会に欠かせない智慧として、消費者問題を理解できる					○	○								
・全ての人に関わる問題と認識し、消費者問題を説明できる					○	○								
・今後の消費者・行政・企業のあるべき姿について説明できる					○	○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.オリエンテーション（授業のすすめ方・評価、消費者力） 現代社会を生きていくための智慧とは？					授業計画やテキストなどを参考にして、予習すること。 講義ノートを読み直し、学習内容の振り返り（復習）を行うこと。									
2.消費者政策の歴史 消費者保護基本法から消費者基本法へ転換した理由は？														
3.消費者政策の理念と歴史 消費者の4つの権利から6つの権利へ発展した理由は？					「消費者の4つの権利」と「消費者の6つの権利」についてA4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめ提出。									
4.消費者行政と消費者関係法 消費者に役立つ様々な法律を学ぶ														
5.消費生活の安全の確保 消費生活相談員の役割を学ぶ														
6.広告・表示の適正化 景品表示法関連法令と事例について学ぶ					インターネット取引における広告・表示規制について調べ、A4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめ提出。									
7.消費者契約の適正化 消費者契約法と重要説明事項を学ぶ														
8.企業と業界団体の責務 消費者・顧客志向の経営を学ぶ					東北地域の企業・業界団体の消費者対応を調べ、その概要をまとめるとともに、その取り組みに対する所感についてA4用紙2枚（1,600字以上）のレポートを作成し、提出。ただし、取り上げる企業・業界団体は3社以上とする。									
9.消費者対応部門の役割と機能 企業の消費者対応を学ぶ														
10.業界団体の消費者対応 通販110番や訪問販売110番などの事例について学ぶ														
11.消費者教育 国民生活センターや日本消費者協会を事例について学ぶ					「現代社会を生きていくために知っておくべきこと、暮らしに役立つこと」の視点から、これまでの授業のなかで、最も印象に残ったことについて要約し、考察を加え、A4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめ提出。									
12.消費生活における情報の重要性 合理的な意思決定とは？														
13.消費生活情報の現況Ⅰ 暮らしに役立つ情報を見極めるには？														
14.消費生活情報の現況Ⅱ 賢い消費行動の実践に向けて														
15.まとめ（消費者力検定の紹介）														
履修上の注意 2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできない。														
成績評価方法・基準 平常点・授業への参加態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価する。 なお、課題については、授業中にフィードバックをします。														
教科書 〔消費生活論〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔1,600円〕														
参考書 授業中に適宜指示する。														
備考 質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。														

授業科目名	学校栄養指導論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）					
担当者	深澤 律子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	健専3年					
授業概要 栄養教諭として児童生徒に合わせた指導を行うため、より広い知識と教養を身につけ実際に指導案を作成し、栄養指導の模擬授業を行いながら修得する。そのために、児童生徒の心理や発達段階を踏まえた上での指導案の作成、教材づくりを指導する。また、各教科との食に関連する指導の関わり方を考え、他教科の先生方と連携し総合的な学びにつながるよう広い視野で考察し、栄養指導を実践する方法を解説する。その他、食教育を行うための学校内外関係者との地域連携についても理解し、地域における児童生徒の栄養教育について実践を通して指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
栄養教諭の役割や食育について理解する。					○	○	○							
指導案の作成、栄養指導を実施し、食育の授業ができる力を身につける。								○	○		○	○	○	
栄養だよりの作成、指導後の発表、レポート作成ができる。								○	○		○	○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 栄養教諭の配置・身分・職務、学校給食の意義、その他					テキスト、学習指導要領を読む。									
2. 食に関する指導の展開1（既存の指導案を基に指導する）					既存の指導案を調べ、班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。ひらがな・カタカナの書き順を書き写し、3回目に提出。									
3. 食に関する指導の展開1（既存の指導案を基に指導する）					既存の指導案を調べ、班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。小学校1・2年生で学ぶ漢字をレポートに書いて4回目に提出。									
4. 食に関する指導の展開1（発表・見学・班ごと）①					班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。小学校3年生で学ぶ漢字をレポートに書いて5回目に提出。									
5. 食に関する指導の展開1（発表・見学・班ごと）②					班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。小学校4年生で学ぶ漢字をレポートに書いて6回目に提出。									
6. 食に関する指導の展開1（発表・見学・班ごと）③					班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。小学校5年生で学ぶ漢字をレポートに書いて7回目に提出。									
7. 食に関する指導の展開2（指導案を考え、指導、班ごと）④					班ごとに指導案を考え、教育媒体の作成・発表練習を行う。小学校6年生で学ぶ漢字をレポートに書いて8回目に提出。発表者に対して評価、感想を書く。発表者は、授業の改善点についてレポートに書き提出。									
8. 食に関する指導の展開2（発表・見学・班ごと）①					班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。発表者に対して評価、感想を書く。発表者は、授業の改善点についてレポートに書き提出。									
9. 食に関する指導の展開2（発表・見学・班ごと）②					班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。発表者に対して評価、感想を書く。発表者は、授業の改善点についてレポートに書き提出。									
10. 食に関する指導の展開2（発表・見学・班ごと）③					班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。発表者に対して評価、感想を書く。発表者は、授業の改善点についてレポートに書き提出。									
11. 食に関する指導の展開3（個人で指導案を考え指導を行う）①					個人で発表準備、教育媒体の作成・発表練習を行う。発表者に対して評価、感想を書く。発表者は、授業の改善点についてレポートに書き提出。									
12. 食に関する指導の展開3（発表・見学・個人）②					個人で教育媒体の作成・発表練習を行う。発表者に対して評価、感想を書く。発表者は、授業の改善点についてレポートに書き提出。									
13. 食に関する指導の展開3（発表・見学・個人）③					個人で教育媒体の作成・発表練習を行う。発表者に対して評価、感想を書く。発表者は、授業の改善点についてレポートに書き提出。									
14. 食に関する指導の展開3（発表・見学・個人）④					個人で教育媒体の作成・発表練習を行う。発表者に対して評価、感想を書く。発表者は、授業の改善点についてレポートに書き提出。									
15. 給食だよりの発表 まとめ					給食だよりを作成し、提出する。									
履修上の注意 栄養教諭免許取得予定者は必ず受講する。来年度の栄養教育実習にむけて、発表や模擬授業など実践を主体とした授業とする。受講人数によって授業計画が変更される場合がある。テキストや学習指導要領を読み、対象者に合わせた指導案を考える。発表に向けて各自教育媒体の準備や練習をする。小学生の親子クッキング、地域の子ども食堂、児童センターでの食育のボランティア活動等を随時案内するので積極的に参加し、学ぶ姿勢が望ましい。食育ボランティア活動の経験も取り組む姿勢として評価に加える。														
成績評価方法・基準 指導案、レポートなど提出物が60%、模擬授業の取り組み40%で評価。模擬授業の未実施、未提出レポートがある場合は評価しないことがある。レポートは後日添削して返却する。課題については授業中にフィードバックを行う。														
教科書 [栄養教諭論Ⅱ 実践研究] [金田雅代編著] [建帛社] [2592円]、[食に関する指導の手引] [東山書房] [1296円] [小学校学習指導要領（平成29年告示）] [東洋館出版社] [217円]														
参考書 授業内に適宜紹介														
備考 ・都合により授業計画の順番等を変更することがある。ルーブリック評価については1回目の授業で説明する。質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付ける。														

授業科目名	学校食育概論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)						
担当者	大槻 友子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	健専3年					
授業概要														
<p>栄養教諭としての実務経験を生かし、次の内容を教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国が食育を推進するにあたり法律を定めたこと、それに伴い学校での食育を進めるために様々な法律の改正などが行われたことを理解させる。 ・児童・生徒の食に関わる現代的課題をふまえ、学校給食及び食に関する指導において栄養教諭が果たす役割及び職務内容について理解を深めさせる。 ・食に関する指導の計画、実施、評価に関する知識を習得させる。 ・栄養教諭が行う食に関する具体的な指導を知り、4年時の栄養教諭の教育実習に結びつくような知識、技能を身につけ実践できるようにさせる。 														
授業の到達目標				学位授与の方針との関連										
				1	2	3	4	5	6	7	8	9		
学校の食に関する指導の基礎的事項を習得する				○			○							
教育実習に必要な指導の実践力を身につける				○			○							
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）										
1. ガイダンス、食に関する現代的課題				現代的課題を考え、まとめておく										
2. 食育基本法・食育推進基本計画の推進				教科書を読む p3～										
3. 学校における食育推進と栄養教諭の役割、食に関する指導の全体計画				教科書を読む p5～										
4. 学校・家庭・地域が連携した食育の推進				教科書を読む p26～										
5. 給食時間における食に関する指導				教科書を読む p218～										
6. 給食時間における食に関する指導(教材研究)				教科書を読む p218～										
7. 学校給食におけるリスクマネジメント				教科書を読む p229～										
8. 教科等における食に関する指導の展開(総論)				教科書を読む p74～										
9. 社会・理科・生活科における食に関する指導				教科書を読む p77～										
10. 家庭科・技術家庭科における食に関する指導				教科書を読む p103～										
11. 体育科、保健体育科における食に関する指導				教科書を読む p120～										
12. 総合的な学習の時間における食に関する指導				教科書を読む p144～										
13. 特別活動における食に関する指導の展開				教科書を読む p157～										
14. 個別的な相談指導の進め方				教科書を読む p234～										
15. 学校における食育の推進の評価・まとめ				教科書を読む p252～										
履修上の注意														
講義記録ノートを準備し、配布プリントは整理しファイルする。														
成績評価方法・基準														
受講態度 50% レポートなど 50%														
提出されたレポートは、後日、添削して返却する。														
教科書 [食に関する指導の手引き（第二次改訂版）] [文部科学省] [健学社] [1,300円]														
参考書 随時プリント配布														
備考 質問等については授業終了時に受けつける。 都合により授業計画の順番等を変更することがある。														

授業科目名	セミナー I				単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+30)									
担当者	健康栄養学専攻教員	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	健専3年									
授業概要																		
<p>本科目は、3年次の管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。</p> <p>①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。</p> <p>②出題分野（科目）ごとに出題範囲、頻出事項について解説する。</p>																		
授業の到達目標					学位授与の方針との関連													
					1	2	3	4	5	6	7	8	9					
国家試験受験に必要な知識を身につける。					○	○	○											
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）													
1. 社会・環境と健康（伊藤）①					予習・復習を行い、知識を整理する。													
2. 社会・環境と健康（伊藤）②					不得意箇所の克服に努める。													
3. 社会・環境と健康（伊藤）③					学習した内容全体を復習する。													
4. 公衆栄養学（栗山）①					予習・復習を行い、知識を整理する。													
5. 公衆栄養学（栗山）②					不得意箇所の克服に努める。													
6. 公衆栄養学（栗山）③					学習した内容全体を復習する。													
7. 臨床栄養学（高橋）①					予習・復習を行い、知識を整理する。													
8. 臨床栄養学（高橋）②					不得意箇所の克服に努める。													
9. 臨床栄養学（高橋）③					学習した内容全体を復習する。													
10. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（曽根、鈴木）①					予習・復習を行い、知識を整理する。													
11. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（曽根、鈴木）②					不得意箇所の克服に努める。													
12. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（曽根、鈴木）③					学習した内容全体を復習する。													
13. 栄養教育論（小野）①					予習・復習を行い、知識を整理する。													
14. 栄養教育論（小野）②					不得意箇所の克服に努める。													
15. 栄養教育論（小野）③					学習した内容全体を復習する。													
16. ミニテスト・（※）模擬試験（栗山、川俣）					学習した内容全体を復習する。													
履修上の注意																		
<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士国家試験受験を希望する者は履修すること。 ・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席や遅刻がないように注意すること。 																		
成績評価方法・基準																		
<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 50%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する）、ミニテスト 50%の結果で評価する。（※）模擬試験は2～3月中に実施予定。 ・提出物等は、後日フィードバックを行う。 																		
教科書 〔管理栄養士国家試験 問題集〕〔大学作成〕 〔クエスチョンバンク 2020〕〔メディックメディア〕（7月発売予定）																		
参考書 各授業で使用した教科書など（各担当の教員が指示する）。																		
備考																		
質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。																		

授業科目名		セミナーII			単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+30)				
担当者	健康栄養学専攻教員	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	健専4年				
授業概要													
<p>本科目は、4年次の管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。</p> <p>①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。</p> <p>②応用問題のように、出題分野（科目）を横断する内容の問題について、特徴や要点を説明する。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
国家試験受験に必要な知識を身につける。					○	○	○					○	
授業計画の内容 （全教員：鈴木、伊藤、佐藤、曾根、栗山、川俣、小野、半澤、深澤、高橋、八巻）					自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス、問題解説（栗山、川俣）					学習目標を確認する。								
2.模擬試験①（栗山、川俣）					知識の修得状況を把握する。								
3.問題解説（全教員）①					予習・復習を行い、知識を整理する。								
4.問題解説（全教員）②					予習・復習を行い、知識を整理する。								
5.問題解説（全教員）③					不得意箇所の克服に努める。								
6.問題解説（全教員）④					不得意箇所の克服に努める。								
7.模擬試験②（栗山、川俣）					知識の修得状況を把握する。								
8.問題解決（全教員）⑤					予習・復習を行い、知識を整理する。								
9.問題解説（全教員）⑥					予習・復習を行い、知識を整理する。								
10.問題解説（全教員）⑦					不得意箇所の克服に努める。								
11.問題解説（全教員）⑧					知識の修得状況を把握する。								
12.模擬試験③（栗山、川俣）					知識の修得状況を把握する。								
13.問題解説（全教員）⑨					予習・復習を行い、知識を整理する。								
14.問題解説（全教員）⑩					予習・復習を行い、知識を整理する。								
15.問題解説（全教員）⑪					不得意箇所の克服に努める。								
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。 ・模擬試験の開催日時、問題解説の内容については、掲示で連絡する。 													
成績評価方法・基準													
<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 50%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する）、模擬試験の結果 50%で評価する。 ・提出物や模擬試験は、後日フィードバックを行う。 													
教科書 〔管理栄養士国家試験 問題集〕〔大学作成〕													
〔クエスチョンバンク 2019〕〔メディックメディア〕※3年次に購入済み													
参考書 各授業で使用した教科書など（各担当の教員が指示する）。													
備考													
質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。													

授業科目名	家政特別講義 I				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	川俣幸一・高橋文	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	健専1年				
授業概要													
<p>管理栄養士の使命および社会における役割や活動分野について理解させる。管理栄養士としての基本的な態度を身に付けさせるとともに、食品、調理、栄養に関する基礎知識および食の安全や衛生を含む食生活について学修し、日常生活においても実践できるようにする。栄養士・管理栄養士の仕事について総合的に理解できるよう指導する。また付随した内容にて1年次から学生生活を円滑に過ごすためのグループワークなどを必要に応じて行う。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
栄養士・管理栄養士の役割について理解できる					○	○	○				○		
食品・調理・栄養素について理解できる					○	○	○				○		
栄養士・管理栄養士の活動分野について理解できる					○	○	○				○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1－2. ガイダンス（川俣・高橋）					テキスト1章の予習								
3－4. 栄養士・管理栄養士の仕事についての情報整理とまとめ（川俣・高橋）					テキスト1章の復習、2章の予習								
5－6. 学生生活に必要なことについての情報整理とまとめ（川俣・高橋）					テキスト2章の復習、3章の予習								
7－8. 食生活についての情報整理とまとめ（川俣・高橋）					テキスト3章の復習、4章の予習								
9－10. 栄養と食品のかかわりについて情報整理とまとめ（川俣・高橋）					テキスト4章の復習、5章の予習								
11－12. 人体の構造とはたらきについて情報整理とまとめ（川俣・高橋）					テキスト5章の復習、6章の予習								
13－14. 安全な食事、環境にやさしい食生活について情報整理とまとめ（川俣・高橋）					テキスト6章の復習、7章の予習								
15－16. 調理と献立について情報整理とまとめ（川俣・高橋）					テキスト7章の復習、8章の予習								
17－18. レポートの書き方について情報整理とまとめ（川俣・高橋）					テキスト8章の復習、9章の予習								
19－20. 授業で使える基礎知識について情報整理とまとめ（川俣・高橋）					テキスト9章の復習、10章の予習								
21－22. 臨地実習・校外実習について情報整理とまとめ（川俣・高橋）					テキスト10章の復習、11章の予習								
23－24. 栄養士の一日について情報整理とまとめ（川俣・高橋）					テキスト11章の復習								
25－26. 家政特別講義の聴講とまとめ（川俣・高橋）					質問等の準備、感想の記入								
27－28. 課題研究発表会の聴講とまとめ（川俣・高橋）					質問等の準備、感想の記入								
29－30. 一年間を振り返って（前期・後期）（川俣・高橋）					自己評価等								
履修上の注意													
<p>学事への参加および外部講師などによる内容の場合は、日時や場所が変更になるため掲示を確認してください。授業計画はやむを得ず順不同になる場合があります。</p>													
成績評価方法・基準													
受講態度（参加状況など）50%、提出物50%													
教科書 [イラストで学ぶ栄養士・管理栄養士の世界] [松永美雪] [学健書院] [1,944円]													
参考書 学生便覧（必要に応じて紹介する）													
備考													
<p>講義の順番や内容は前後する場合や変更する場合があります。フィードバックとして提出物は確認・返却します。質問などはオフィスアワーにて受け付けます。</p>													

授業科目名		家政特別講義Ⅲ（臨地栄養学演習）			単位（総授業時間＋自習時間）			2（30+60）					
担当者	栗山孝雄・半澤真喜子・高橋文	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	健専3年				
授業概要													
<p>・給食管理臨地実習終了後のまとめに関する指導、助言と、4年次における公衆栄養学臨地実習および臨床栄養学臨地実習を実践するための準備とする授業である。</p> <p>・給食管理臨地実習のまとめでは、各施設の発表により給食経営管理運営の理解をさらに深め実力がつくよう教授する。お互いの経験を共有することで、今後の取り組むべき課題を意識させ、自ら解決方法を立案できるよう指導、確認を行う。</p> <p>・4年次における公衆栄養学臨地実習および臨床栄養学臨地実習に必要な知識や技術の助言を行う。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
報告会を通し、お互いの経験を共有できる。						○	○		○			○	
自ら解決方法を立案できる。						○	○		○			○	
管理栄養士・栄養士としての必要な知識と技術を身につける。						○	○		○			○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 報告会①：学校・給食センター（全教員）					（事前学修） ・実習を振り返り、報告の準備、練習を行う。								
2. 報告会②：福祉施設（全教員）													
3. 報告会③：障害者福祉施設・介護福祉施設（全教員）					（事後学修） ・聴講した内容を施設ごとに整理し、まとめる。 ・今後の実習の課題を考えておく。								
4. 報告会④：事業所・陸上自衛隊（全教員）													
5. 報告会⑤：自主研究紹介（全教員）					（事前学修） ・保健所、保健センター、病院など、実習施設の特徴を調べておく。 （事後学修） ・聴講した内容を施設ごとに整理し、まとめる。 ・今後の実習の目標を考えておく。								
6. 公衆栄養学・臨床栄養学について（配属先の希望調査を含む）（全教員）													
7. 報告会聴講①：病院（全教員）													
8. 報告会聴講②：病院（全教員）													
9. 報告会聴講③：病院（全教員）													
10. 報告会聴講④：保健所（全教員）													
11. 報告会聴講⑤：保健所（全教員）													
12. 報告会聴講⑥：保健所（全教員）													
13. 臨地実習関連事項の説明（全教員）													
14. 臨地実習関連事項の説明（全教員）													
15. 4年時の臨地実習に向けて（全教員）													
履修上の注意													
<p>①施設ごとの特色や特徴をよく調べ、まとめておく。</p> <p>②3年次の校外・臨地実習の事後のまとめ、4年次の臨地実習の事前準備となる重要な演習であるため、遅刻や無断欠席は認めない。</p>													
成績評価方法・基準													
<p>・受講態度（積極的な態度、目的意識、質問をする、授業中に居眠りしない等）50%</p> <p>・提出物の内容・提出期限の順守 50%</p> <p>・提出物については、後日添削して返却する。</p>													
教科書 [管理栄養士・栄養士になるための 国語表現] [田上貞一郎] [萌文書院] [1,944円]													
参考書 授業内で適宜紹介する。													
備考													
質問等については、授業中、授業後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。													

授業科目名	家政特別講義Ⅳ（臨地栄養学演習）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	栗山孝雄・高橋文	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	健専4年				
授業概要													
<p>公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ、ならびに臨床栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱの実習前、ならびに実習後に必要な事項を教授する。具体的な内容は、次の通りである。</p> <p>（１）実習前の授業 ①実習施設の特徴、管理栄養士・栄養士の業務や役割について解説する。実際に、実習施設の管理栄養士による特別講義も行う。②実習を行うために必要な準備、注意事項などについて説明する。③事前課題に関する指導、助言を行う。</p> <p>（２）実習後の授業：実習のまとめ、実習報告について、適宜指導、助言を行う。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
実習先の施設の特徴を理解できるようになる。						○	○		○			○	
実習先の管理栄養士の業務、役割を理解できるようになる。						○	○		○			○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス：実習の目的・目標の説明（栗山、高橋）					実習の目的・目標を確認する。								
2.保健所栄養士の業務と役割（栗山、保健所栄養士）					保健所栄養士の業務と役割を確認する。								
3.市町村栄養士の業務と役割（栗山、市町村栄養士）					市町村栄養士の業務と役割を確認する。								
4.病院栄養士の業務と役割（高橋、病院栄養士）					病院栄養士の業務と役割を確認する。								
5.老健施設栄養士の業務と役割（高橋、老健施設栄養士）					老健施設栄養士の業務と役割を確認する。								
6.実習施設に関する注意事項の説明（栗山、高橋）					復習し、注意事項を理解する。								
7.実習関係の書類、日誌の記入方法について（栗山、高橋）					記入に関する要点を理解する。								
8.実習施設の特徴の把握（栗山、高橋）					実習施設の特徴を調べる。								
9.実習施設ごとの事前課題の確認（栗山、高橋）					実習先に事前課題の問合せを行う。								
10.事前課題の作業・打合せ（栗山、高橋）					事前課題をまとめ、授業に臨む。								
11.事前課題の作業状況の確認・打合せ（栗山、高橋）					事前課題の内容を見直し、確認する。								
12.事前課題の発表練習（栗山、高橋）					発表条件を確認の上、練習を行う。								
13.臨地実習のまとめ（栗山、高橋）					実習を振り返り、要点をまとめる。								
14.実習報告の内容確認・打合せ（栗山、高橋）					報告内容を検討する。								
15.実習報告の準備（栗山、高橋）					報告準備に取り組む。								
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> ・公衆栄養学と臨床栄養学の臨地実習を履修する者は、本科目を履修すること。 ・積極的な姿勢で学習に取り組むこと。 ・実習課題によっては、授業時間外に作業を行うこともある。 													
成績評価方法・基準													
<ul style="list-style-type: none"> ・受講態度 50%（積極的な態度、目的意識、遅刻状況）、提出物 50%（内容、提出期限の順守） ・提出物、事前課題は、適時フィードバックを行う。 													
教科書 〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕〔無料〕													
参考書 〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1,800円＋税〕													
備考													
質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。													

授業科目名		課題研究				単位（総授業時間＋自習時間）			6					
担当者	鈴木 裕行	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年					
授業概要														
食品・栄養学分野でこれまでの学習を基にした課題発見、課題解明に関連する資料や文献の調査、課題を解明するための研究方針の立案・必要とされる実験技術の習得・実験実施、実験や調査で得られたデータの解析と整理・図表化、得られた結果からの考察を行う。さらに、それらをまとめた論文執筆、さらにスライドプレゼンテーションを作成し、最終的に発表会でのプレゼンテーションを実施する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
これまでの学修を基に課題発見できる								○		○	○	○	○	○
課題解決のための研究方法を立案し実行できる								○		○	○	○	○	○
研究成果を取りまとめた論文を作成し、プレゼンテーションができる								○		○	○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1～5：テーマ選定						・自身の持つ問題意識に関連の文献・資料を検索し熟読することで深め、具体的な研究課題（テーマ）を考える。								
6～37：研究指導						・課題を解決するための研究（実験・調査）方法を、先行研究を参考にして設定する。 ・実験・調査を実施して得られたデータを整理し、図表に取りまとめ、データから考えられる事をまとめる。								
38・39：課題研究発表プレゼンテーション作成						・課題・一連の研究手法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。								
40：課題研究発表														
41～43：課題研究論文作成														
44・45：課題研究発表ポスター作成														
履修上の注意														
研究テーマに関連する文献を数多く熟読して研究方針の立案、論文作成の参考にする。 （2単位分を3年次後期・4単位分を4年次通年で実施する）														
成績評価方法・基準														
論文、プレゼンテーション、研究への取り組み・・・評価の割合等、詳細はルーブリック参照 成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。 提出物・提示案等に対するフィードバックとして、その都度、授業内で添削・コメント等を行う。														
教科書 無し（適宜、資料を配布する）														
参考書 これから研究を始める高校生と指導教員のために、酒井聡樹、共立出版、2,600円＋税														
備考														
オフィスアワーは掲示・配布資料参照。														

授業科目名		課題研究					単位（総授業時間＋自習時間）			6					
担当者	佐藤 靖子	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年						
授業概要															
3年次では、興味のある食品について関連する研究論文を検索し、食品に対する情報を収集させ、研究テーマを決定させる。また、研究しようとする食品の組織構造を見るための標本作成を行う。															
4年次では、決定した研究内容について、食品の標本を作製し、光学顕微鏡による観察資料の評価を行う。研究結果を討論しながら目的・方法・結果のまとめ方および観察能力の向上を目指す。さらに、研究成果に対するプレゼンテーション力を身につけられるよう指導する。															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1.研究に関連する情報の収集ができる								○		○					
2.実験計画・実施ができる								○		○					
3.結果に対する考察力、プレゼンテーション力を身につける								○		○	○	○	○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス：目的など						研究目的を達成できるよう準備する									
2～6 テーマの選定および情報収集						研究目的を達成できるよう準備する									
7～10 基礎実験計画						研究目的を達成できるよう準備する									
11～15 基礎実験						研究目的を達成できるよう準備する									
16.～34 研究指導						研究目的を達成できるよう準備する									
35～39 論文作成						研究目的を達成できるよう準備する									
40～42 プレゼンテーション準備.						研究目的を達成できるよう準備する									
43 研究発表						研究発表準備と自己評価を行う									
44 論文提出.						論文提出の準備をする									
45.ポスター作成						ポスター作成の準備をする									
履修上の注意															
研究課題の情報収集を行う。欠席連絡は速やかに行い特に実験に支障が無いようにする。															
成績評価方法・基準															
受講態度 50%、論文・プレゼンテーション 50%															
計画・実験の前後に十分な話し合いを行い、学生の理解度を確認しながら進めていく。															
課題提出期限の厳守、プレゼンテーション準備、発表態度およびポスター制作の取り組みにより評価する。															
教科書 なし															
参考書 ガイダンスにて紹介する															
備考															
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける															

授業科目名		課題研究				単位（総授業時間＋自習時間）			6					
担当者	曾根 正彦	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年					
授業の概要 臨床医学概論で学んだ疾患診断・治療などの基礎知識や主要疾患の知識を基礎にして、医学・栄養学分野に関連する研究テーマを設定する。そのテーマに関する文献を検索して知識を整理する。テーマに関するアンケート調査などを行い、その結果について解析を進め考察を深める。最終的に研究論文を作成し、またオーラルプレゼンテーションを実施する。 テーマの研究と併行しながら、実際の臨床や健康管理の現場において栄養学的な指導ができる事を目指し、医学・栄養学の知識を修得する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
・研究課題を展開し解析する能力を身につける。								○		○	○	○	○	○
・資料調査や文献検索の方法を身につける。								○		○	○	○	○	○
・論文作成とプレゼンテーションの能力を身につける。								○		○	○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1～2. ガイダンス						自主的に研究を進める。								
3～6. 研究テーマの設定・情報収集						自主的に研究を進める。								
7～26. 参考論文検索・研究指導						自主的に研究を進める。								
27～31. データの集計・整理～結果の分析						自主的に研究を進める。								
32～37. 課題研究論文作成①						文献をまとめて論文の作成開始。								
38～41. 研究発表準備						自主的に発表準備を進める。								
42. 課題研究発表会にてプレゼンテーション						発表準備および研究の問題点整理。								
43～44. 課題研究論文作成②						研究結果と考察をまとめる。								
45. 課題研究ポスター作成・発表						ポスター形式で研究結果の発表準備。								
履修上の注意 研究テーマに関連する文献を数多く検索して、研究を展開する上で参考にする。														
成績評価方法・基準 研究に取り組む姿勢（50%）および課題研究発表・論文作成（50%）。研究精度を上げるため、課題・レポートに関するフィードバックをその都度行う。														
教科書 「無し」														
参考書 適宜、文献など参考資料を紹介する。														
備考 質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。														

授業科目名		課題研究				単位（総授業時間＋自習時間）			6					
担当者	小野 真実	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期~4年通年	対象	健専3年					
授業概要														
<p>栄養教育分野に関連した課題研究を行う。ライフステージ・ライフスタイル別など自身の興味ある対象を設定し、栄養・食教育、栄養カウンセリング、ヘルスプロモーションなど、健康増進および生活習慣病予防対策等における栄養・食生活支援方法に関する課題を検討する。研究成果は論文作成とともに、課題研究発表会と課題研究展で報告する。労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした指導を行う。</p>														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
これまでの学修から興味ある分野での研究課題を設定できる。								○		○	○	○	○	○
課題に関連する文献の検索方法等、情報収集・吟味能力を身につける。								○		○	○	○	○	○
研究（調査）計画・実施・考察と論文をまとめる力を身につける。								○		○	○	○	○	○
研究成果を発表する力を身につける。								○		○	○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス						自身の興味ある分野に関する考えをまとめておくこと。								
2.～6. 研究課題の検討・情報収集・決定						課題決定に向けて関連の文献検索等、情報収集を行い、読み込み、整理する。								
7.～11. 研究（調査）計画の検討・立案						研究の目的、対象、方法等について計画を立案する。								
12.～21. 研究（調査）計画の実施（準備含む）						計画に基づいて調査等の準備をし、実施する。								
22.～31. 情報の解析・結果のまとめ						実施から得られた情報を解析し、結果をまとめ、考察する。								
32.～38. 論文作成						論文のまとめ方を学びながら作成する。								
39.～41.課題研究発表会の準備と発表練習						研究成果のプレゼンテーションの方法を習得する。								
42.課題研究発表会						発表および質疑応答の振り返りを行う。								
43.論文修正・提出						成果発表を踏まえ、論文内容の確認・修正を行う。								
44.課題研究展の準備						課題研究展に向けたポスター作成を行う。								
45.課題研究展						成果発表に対するフィードバックを確認する。								
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> 自身の興味ある課題に関し、日頃から情報収集を積極的に行い、自主的に取り組み、考えをまとめる習慣をつけること。 パソコンの基本操作スキル（Word, Excel, PowerPoint 等）が必要である。 状況により授業時間外で行う可能性があるが、積極的に取り組むこと。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> 研究態度(40%)、研究発表(20%)論文の内容(40%)を総合して成績評価を行う。 提出物については適宜フィードバックを行う。 														
教科書 なし														
参考書 [栄養科学シリーズ NEXT 公衆栄養学実習] [金田雅代, 他] [講談社サイエンティフィク] [2,600円] 他、適宜紹介する。														
備考 質問等については、授業中または終了時、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。														

授業科目名		課題研究					単位（総授業時間＋自習時間）			6				
担当者	栗山 孝雄	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年後期		対象	健専3年				
授業概要														
本研究では、衛生学、公衆衛生学、公衆栄養学分野に関連する研究テーマを扱う。これらの学問分野の中で、近年社会的に取り上げられることの多い食品ロス、こども食堂、貧困問題などを中心に、研究テーマを設定する。研究を行う際には、教員と履修者で意見交換の上、具体的な研究テーマを設定する。その上で、履修者が設定した研究テーマに取り組むための研究方法、論文の執筆、発表方法等について教授する。なお、研究成果は、課題研究発表会と課題研究展で報告する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
研究テーマを設定し、研究を展開する能力を身につける。								○		○	○	○	○	○
研究に関する情報や文献を収集し、内容を吟味する力を身につける。								○		○	○	○	○	○
論文をまとめ、研究発表する力を身につける。								○		○	○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.～5. 研究テーマの検討、情報収集、決定						研究テーマに関する情報を検討する。								
6.～10. 研究内容・方法の検討						研究手法について考え、提案する。								
11.～20. データ・情報の収集						データや情報の収集について検討する。								
21.～30. データ・情報の分析、検討						収集したデータや情報を吟味し、分析する。								
31.～40. 論文作成						文献等から論文のまとめ方を理解し、作業する。								
41. 課題研究発表会の準備・発表練習						所定時間内での発表する技術を習得する。								
42.課題研究発表会：研究発表						発表の要点、質疑応答の対応を確認する。								
43.論文修正、提出						研究内容を見直し、適宜修正を行う。								
44.課題研究展の準備：ポスター作成						研究報告をポスターにまとめる。								
45.課題研究展						研究・報告内容を確認する。								
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマは教員より提示される。その内容について、学生と相談のうえ、テーマを決める。 研究テーマに関する情報や論文などを積極的に収集する意欲が必要である。 データを集計、処理するためのパソコン操作能力が必要である。 研究テーマの設定と研究発表、論文やポスターの作成は個人ごとに行う。 状況によっては、時間割の時間外で行う場合もある。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> 研究態度（30%）、研究発表（20%）論文の内容（50%）を総合して、成績評価を行う。 提出物については、適宜フィードバックを行う。 														
教科書 なし。														
参考書 適宜紹介する。														
備考														
質問等については、授業中や終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。														

授業科目名		課題研究			単位（総授業時間＋自習時間）			6						
担当者	半澤 真喜子	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4通年	対象	健専3年					
授業概要														
<p>特定給食施設での管理栄養士の実務経験を活かし、3年次では給食経営管理学の知識を基にして、給食施設における安全・安心な食の提供に関連するテーマを設定させる。テーマに関する関連文献を収集し、論文の講読をおこなう。4年次では、食事調査、各種アンケート調査の統計解析、対象者に適したメニュープランニングおよび生産・提供をおこない評価方法を学ぶ。課題研究の授業を通して、各自が主体性を持って研究テーマの内容を追求し論文として論理的に展開し、書き上げることを学習する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
研究計画、調査、研究能力を身につける。							○		○	○	○	○	○	○
文献や情報を収集し、考察する力を身につける。							○		○	○	○	○	○	○
論文をまとめる力を身につける							○		○	○	○	○	○	○
基礎的なプレゼンテーション力を身につける。							○		○	○	○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス					<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関連した論文を収集し、熟読する。 研究テーマを考える。 研究方法を考える。 									
2. テーマの設定														
3～5 資料の収集														
6. 研究計画の立案					<ul style="list-style-type: none"> データ種類は量的データか質的データか考える。 調査票を作る時は、どのようなデータを取るか考える。 									
7. 調査票の立案														
8～9 調査票の作成					<ul style="list-style-type: none"> 本調査をする前、10人位にやってもらい修正する。 データの整理をおこなう。 									
10～12 調査の実施														
13～15 データ入力														
16～34 研究指導					<ul style="list-style-type: none"> 論文の構成を考える。 手本となる論文を探す。 本文の書き方を学ぶ。 発表準備を自主的におこなう。 									
35～38 成果、結果のまとめ、考察。														
39～42 課題研究論文作成														
43～44 課題研究発表準備														
45. 課題研究発表														
履修上の注意														
<p>①大学における研究活動の成果を集大成し、総括する科目である認識をもって、積極的な取り組みをすること。 ②今後の業務にどのように活かしていくか考えること。 ③時間割の時間外でおこなうこともある。</p>														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> 学習態度や研究活動（40%）、中間報告（20%）、論文の内容（40%）について総合的に評価する。 作業中に確認しながら次に進む。 提出物については、後日添削して返却する。 														
教科書 〔初めての栄養学研究論文〕〔稲山貴代他〕〔第一出版〕〔2,160円〕														
参考書														
適宜紹介する														
備考														
質問等については、授業内あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。														

授業科目名		課題研究					単位(総授業時間+自習時間)		6				
担当者	川俣 幸一	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年				
授業概要													
<p>スポーツ栄養学分野または応用栄養学分野、薬と栄養の分野において自ら学び、そこから湧き出たリサーチクエストの解決を目指す。研究の充実を図るため、最初の半年はスポーツ栄養学の特別講義ならびに統計学の基礎を学ぶ。加えてJ-stageかcinii、pubmedなどにて文献を検索し、スポーツ栄養の最新論文の読み合わせ会も行う。知識が身についたところで、それぞれ個人の研究課題を实践するため、一人あたり一箇所の研究フィールドにて全国レベル(論文発表レベル・学会発表レベル)を前提とした研究活動を行う。</p>													
授業の到達目標						学位授与の方針との関連							
						1	2	3	4	5	6	7	8
課題発見、研究計画の立案・実施、集計作業などを通じて情報処理能力を高める								○		○	○	○	
発表会でのプレゼンテーション、課題研究の論文提出を通じて総合能力を高める													○
授業計画の内容						自習(事前・事後学修の内容)							
1. ガイダンス						事前学習として、おおまかで良いので自分のやりたい事を頭の中で整理してきて下さい。ルーズリーフを配布します。							
2～15. スポーツ栄養学特別講義+統計学講義+文献勉強会						事前学習は配布プリントの予習。事後学習としてレポート作成。							
16～40. 研究指導						事前学習はそれぞれのテーマの文献整理。事後学習として結果集計・考察のドラフト作成など。							
41～43. 課題研究発表の準備						事前学習は結果集計。事後学習としてパワーポイントの原稿作成。							
44～45. 課題研究論文の作成						事前学習は結果集計。事後学習として論文作成。							
履修上の注意													
<p>研究活動では全員がフィールドに出て学外の第三者から学びますが、その全てが信頼関係に基づいています。研究室内では、礼儀や礼節、親や教員・先輩への感謝の気持ち、真摯に学ぶ態度を何より大切にしています。したがって1-2年次の出席状況、応用栄養学分野の成績、課題研究発表会の参加状況、教員へのこれまでの態度などを鑑みた上で、学生の履修(入門)をお断りする場合があります。第一希望の研究室に入門できるよう、真面目で礼儀正しい学生生活をお送りください。</p>													
成績評価方法・基準													
課題研究発表会の内容・・・30%													
課題研究論文の内容・・・30%													
取り組み状況・・・40%													
提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。													
教科書 なし													
参考書 なし													
備考													
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する													

授業科目名		課題研究				単位（総授業時間＋自習時間）			6					
担当者	深澤 律子	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年					
授業概要 日本の食文化、食物学、調理学に関する研究テーマを設定し、文献検索を行い、先行研究を調べる。先行研究を読み込み、研究方法を考え、調査研究、アンケート調査研究、レシピ開発研究、実験研究など研究内容を絞込み、春休みから試作や予備実験、プレアンケート等を行い、研究計画を立て、研究方法等の修正を行う。実験や調査結果からデータの解析やデータの整理、論文執筆を行い、パワーポイント等でプレゼンテーションを作成し、研究成果は課題研究発表会と課題研究展で報告するまでの指導を行う。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
① 研究テーマを設定し、研究をすすめる基礎知識を修得する。								○			○	○		
② 研究に関する文献や先行研究を収集し、自分の研究では、何を明らかにしたいのかを考える能力を修得する。										○				○
③ 学修した情報を整理し、論文にまとめ、発表する技術を修得する。											○	○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.～5. ガイダンス、研究テーマの検討、情報収集、決定				図書館で日本調理科学会、栄養改善学会誌等から研究テーマを調べる。										
6.～10. 研究内容・方法の検討				研究テーマの先行研究・文献収集を行い、方法を考える。										
11.～20. 研究の試作、実験を行い、検討				プレ実験やプレ試作を行い、改善する。										
21.～30. 研究の本実験を行い、データ・情報の分析、検討				実験や試作の結果を評価し、改善点を考え、研究ノートにまとめる。										
31.～40. 研究結果の考察、論文作成				論文のまとめ方を理解し、論文を作成する。										
41. 課題研究発表資料作成				課題研究発表にむけて、要旨をまとめ、発表の準備を行う										
42. 課題研究発表会				発表の時間に合わせて内容を確認し、質疑応答の対応を確認。										
43. 論文修正、提出				研究発表を振り返り、研究内容を見直し、適宜修正を行う。										
44. 課題研究展にむけて				研究報告をポスターにまとめ、作成する。										
45 課題研究展				ポスターを見ながら、研究内容を確認する。										
履修上の注意 研究に必要なものはその都度指示する。調理や試作もすることを踏まえ、常に体調管理、衛生管理、清潔な身だしなみに気を配る。春休みや夏休み期間中に実験や論文作成のため一週間程度集中して課題研究の時間を設ける。この期間に取り組めない者、課題研究予定日に連絡なしに欠席する者は履修させないこととする。必ず事前に連絡、相談することを心掛ける。														
成績評価方法・基準 論文 40%、研究に取り組む姿勢（文献収集、参考資料の収集、課題の取り組み、ゼミ生同士の良好なコミュニケーション等） 30%、パワーポイントでのプレゼンテーション資料作成・発表 30%で総合評価する。提出物については適宜フィードバックを行う。														
教科書 なし														
参考書 参考資料はその都度紹介する														
備考 ・課題研究の内容、作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間の変更等を行う場合がある。 ・ルーブリック評価については第1回の授業で説明する。提出物等については適宜フィードバックを行う。 ・質問等についてはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）に受け付ける。														

授業科目名		課題研究				単位（総授業時間＋自習時間）			6					
担当者	八巻 美智子	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年					
授業概要														
食品学や栄養学分野に関連する学修を基礎として研究課題についてテーマを決め、文献調査方法、研究方法、実験技術などについて指導する。研究課題達成の為にはどのような文献調査が必要で、またどのような実験方法を用いるのがベストなのかについて検討しながら進める。さらに得られた結果のデータを解析、考察し、論文作成を実施する。また、スライドプレゼンテーションの作成とよりよいプレゼンテーションについて指導し、ポスター作製（作成）を実施する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
研究に関する情報や文献を収集し、理解する能力を修得する。								○		○	○	○	○	○
実験技術の修得 論文をまとめ、研究発表する能力を身に付ける。								○		○	○	○	○	○
自ら学び研究する意義を見出す。								○		○	○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. 研究ガイダンス文献調査方法						事後：文献調査方法を理解する								
2. 文献調査方研究テーマについて						事後：テーマに関することについて調べる								
3. 研究テーマについて						事後：テーマに関することについて調べる								
4. 実験計画						事後：研究計画について自分なりに考える								
5～15.基礎実験(実験技術修得)						事前、事後：実験技術を修得できるよう努力する								
16～37.研究指導						事前、事後：研究について理解する								
38～40.論文作成						事前、事後：論文作成を行う								
41～42.研究発表会準備(パワーポイント作成)						事前、事後：発表会準備を行う								
43.研究発表						事後：発表会の反省会、論文修正を行う								
44.論文修正						論文修正とポスター作成を行う								
45.ポスター作製						ポスター作成								
履修上の注意														
自ら進んで研究に取り組む意欲が必要。無断欠席はしない。教員等からの指導アドバイスに従う事。状況によっては時間割の時間外で行う場合がある。														
成績評価方法・基準														
研究態度（50%）、研究発表（25%）、論文の内容（25%）を総合して成績評価を行う。課題等については研究中にフィードバックをする。														
教科書 なし														
参考書 適時紹介する														
備考														
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名		課題研究					単位（総授業時間＋自習時間）		6					
担当者	宮澤 孝子	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年					
授業概要														
教育の法、制度、政策に関する研究主題（問い）を選定し、それについての応答を探求する。3年次においては、基本的な文献および資料を読解する力を養う。その過程で得られた知識をもとに、4年次においては各自の研究主題を設定する。卒業論文には一次資料を用い、4万字から5万字を目処に論文をまとめることが望まれる。演習時の報告担当者は、論理の展開が一目でわかるレジュメを作成するように努めること。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1. 基本的な文献を読解し、それをまとめる力を身につける。					○	○		○						
2. 研究に要する文献・論文・資料を選定する力を身につける。					○	○	○	○	○	○	○			
3. 自ら設定した問いへの応答を、卒業論文としてまとめる。												○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. オリエンテーション、文献読解 1-1					自らの課題意識を話せるようにする。課題意識に関わる簡単な文献を読んでまとめてくる。									
2. レジュメの作成方法について、文献読解 1-2					まとめた内容を報告、レジュメの作成方法について学ぶ。									
3~9. 文献読解 2、報告					基礎的な文献を読み、レジュメにまとめてくる。									
10~15. 文献読解 3、報告					基礎的な文献を読み、レジュメにまとめてくる。									
16. 問題意識の整理					春休み期間中に問題意識に関わる文献を選定し、精読した上で、問題意識をレジュメにまとめてくる。									
17~29. 文献・論文の選定、読解、資料収集					問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジュメにまとめ、報告する。									
30. 研究テーマ決定、構成の草案					研究テーマ案と論文構成を考えてくる。									
31~36. 資料収集および報告					構成を踏まえ、更に必要な文献および資料の収集、分析を行う。									
37. 中間まとめ					論文の概要をA4×4枚にまとめる。									
38~42. 資料収集および執筆、執筆内容の検討					各章毎に論文を作成してくる。作成してきた章ごとに、内容を検討する。									
43~45. 報告の準備					パワーポイントあるいはレジュメ作成のいずれか研究テーマに適した方法で成果をまとめる。卒業論文は発表会の後、加筆修正し、提出する。									
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許（中・高・栄）取得のために必要とされる教職科目を全て履修していることを履修条件とする。 ・自ら考え、自らの設定する研究課題に取り組む、意欲的な姿勢を歓迎する。 														
成績評価方法・基準														
演習時に作成するレジュメ（30%）、報告内容（30%）、卒業研究（40%）をもって評価する。														
教科書：指定なし														
参考書：														
兼子仁（1976）『入門教育法』エイデル研究所、堀尾輝久（2019）『人権としての教育』岩波書店														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・演習の曜日と時限については、履修生の時間割を考慮して設定する。 ・教員と履修生の都合上、演習日程に変更を要する場合は、柔軟に対応する。 ・質問等については、原則、演習の時間前後あるいはオフィスアワーにて対応するが、柔軟に対応する。 														

生活美術学科専攻科目

授業科目名	洋画Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)						
担当者	北折 整	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	生美3年					
授業概要														
<p>主体的に洋画表現を深めるために必要となる専門的技術及び美的創造力を身に付けさせる。写生表現の他に、個人の内面的なテーマによる着彩等を課す。洋画における絵画空間を意識した上で、洋画Ⅰ・Ⅱで修得した技術を深化させた主題及びコンセプトの具現化を目指して指導する。また、テーマの明確化・醸成をはかるためにドローイングを複数制作させる。さらに、社会と自己の洋画表現との関係性について説明を求め、表現行為の意義を考察させる。</p>														
授業の到達目標				学位授与の方針との関連										
				1	2	3	4	5	6	7	8	9		
・洋画表現の理論を理解し、基礎的・専門的な表現方法・技術を身に付ける。				○										
・社会との関わりにおいて、美術表現の有効性を理解し、これに係る自己の課題を発見することができる。						○		○		○				○
・表現を通して社会の中での自己実現について考えることができる。								○				○		
・自己表現の精度、説得力を意識し、生涯にわたって美術活動を行う力・態度を身に付ける。									○	○				
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）／任意										
1. 導入(科目・成績評価・画材等の説明)、制作Ⅰドローイング(課題の説明)				課題に使用する画材の準備										
2. 制作Ⅰドローイング(1、2)				課題の継続制作										
3. 〃 ドローイング(3、4)				〃										
4. 〃 ドローイング(5、6)				〃										
5. 〃 (講評会)				次回課題に使用する画材の準備										
6. 制作Ⅱ自由制作(制作の意図・エスキース・構図・下地)				課題の継続制作										
7. 〃 (全体的な把握)				〃										
8. 〃 (部分的な描きこみ)				〃										
9. 〃 (部分的な描きこみ)				〃										
10. 〃 (全体を踏まえた仕上げ)(講評会)				次回課題に使用する画材の準備										
11. 制作Ⅲ自由制作(制作の意図・エスキース・構図・下地)				課題の継続制作										
12. 〃 (全体的な把握)				〃										
13. 〃 (部分的な描きこみ)				〃										
14. 〃 (部分的な描きこみ)				〃										
15. 〃 (全体を踏まえた仕上げ)(講評会)														
履修上の注意														
<ul style="list-style-type: none"> 制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。 講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。 														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> 課題(90%)と授業態度(10%) 課題については、授業中にフィードバックを行う。 														
教科書 ：特に指定しない。														
参考書 ：随時参考となる画集等を紹介する。														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。 														

授業科目名		日本画Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	安住 英之	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	生美3年					
授業概要														
日本画の基礎的な知識・技法を踏まえた上で、より高度な美術表現を目指す授業。作品のテーマを意識し、その制作意図を鑑賞者への確に伝えるための思考法や技術を指導する。画材（墨・岩絵具など）や支持体（和紙など）の選定段階から個々のテーマに即して吟味させるなど、材料特性への意識を高め、その特性を効果的に活かした制作を行うことによって、表現の幅を広げさせる。その成果を20号以上の作品に仕上げ課題を提出させる。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
自己や社会と向き合い、制作のテーマを見いだすことができる。								○		○		○	○	
テーマの表現に必要な知識・技法を習得し、使いこなすことができる。								○		○				○
より良い表現を目指し、技法を工夫・開発する力をつけることができる。										○		○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. 導入 科目の説明						日本画Ⅱでの経験をふまえ日本画Ⅲで目指す抱負を言葉にしてまとめておく。								
2. 構想						モチーフやテーマの模索。								
3. デッサン						出来るだけ対象を観察し描写をする。								
4. デッサンからエスキース（小下図）作成						観察出来ていないと気づいたところを丁寧に描き込んでおく。								
5. 大下図の制作 開始						デッサンを常に見返しておくこと。								
6. 大下図の制作 仕上げ 水張り						仕上がりイメージをイメージし、構図とともに細部も確認する。								
7. タブロー（本画）制作 トレース 骨描き						骨描きのため線の引き方を練習する。								
8. タブロー（本画）制作 墨にて陰影を施す						墨のぼかしの練習をする。								
9. タブロー（本画）制作 墨での陰影仕上げ						墨の陰影の適確さと美しさの確認。								
10. タブロー（本画）制作 下塗り、下地作り						備品の技法書等で下地について下調べをしておく。								
11. タブロー（本画）制作 水干及び、岩絵具での大まかな描き込み						備品の技法書等で水干と岩絵の具について下調べをしておく。								
12. タブロー（本画）制作 水干及び、岩絵具での各部分の描き込み						出来るだけ制作を進める。膠の管理。								
13. タブロー（本画）制作 水干及び、岩絵具での細部の描き込み						出来るだけ完成度を高めるべく制作する。膠の管理。								
14. タブロー（本画）制作 仕上げ						描き始めのイメージを思い起こし、現状をよく認識する。								
15. 講評						難しかった点、努力した点をまとめておく。								
履修上の注意														
丹念に対象を観察すること。必要な知識、技法を積極的に習得すること。 毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。														
成績評価方法・基準														
課題作品70%（完成度50% 意図・発想20%） 授業態度30%（出席数。創作意欲や、創作の自主性等） 講評会等でフィードバックを行う。														
教科書 無し														
参考書 無し														
備考														
授業日 12時半から13時までをオフィスアワーとする。スケッチブック、鉛筆、練り消しを常備すること。														

授業科目名		版画Ⅲ			単位(総授業時間+自習時間)				2(60)					
担当者	大堀 恵子	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	生美3年					
授業概要														
版画Ⅰ、Ⅱで経験した版種の基礎的な制作工程を踏まえて、「版」による多様な表現を試みる。「版」の重要な基本的性質のひとつである複数性を利用し、受講生全員による版画集を制作することを目標とし協働して物事に取り組む力を養う実学学習を实践する。版画は、直接筆や鉛筆を使って描いていく絵画と違い、版という間接的な素材と製版工程、印刷工程を経ることによって絵画表現とは異なった表現効果がある。これらの試行錯誤を自身の制作ノートの中に記録として残し、制作の充実がはかれるように指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
版の基礎的な技法と工程を理解し身につけることができる。							○							
展覧会を見て得た情報を整理し制作に生かす手法を習得する									○					
皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。										○				
授業計画の内容					自習(事前・事後学修の内容)									
1. ガイダンスー授業内容の説明					記録するための制作ノートを用意する。									
2. 制作Ⅰ テーマ・エスキース					2回作業内容をまとめ次回提出。									
3.Ⅰ 版制作・製版					3回作業内容をまとめ次回提出。									
4.Ⅰ 試刷り					4回作業内容と課題をまとめ次回提出。									
5.Ⅰ 本刷り					5回作業内容と課題をまとめ次回提出。									
6. 制作Ⅱ 版制作・製版					6回作業内容をまとめ次回提出。									
7.Ⅱ 試刷り					7回作業内容と課題をまとめ次回提出。									
8.Ⅱ 本刷り					8回作業内容と課題をまとめ次回提出。									
9. 制作Ⅲ 版制作・製版					9回作業内容と課題をまとめ次回提出。									
10.Ⅲ 試刷り					10回作業内容と課題をまとめ次回提出。									
11.Ⅲ 本刷り					11回作業内容と課題をまとめ次回提出。									
12. 版画集制作・表紙のデザイン検討・印刷					12回作業内容をまとめ次回提出。									
13. 版画集制作・中表紙のデザイン検討・印刷					13回作業内容をまとめ次回提出。									
14. 版画集にまとめる					14回作業内容をまとめ次回提出。									
15. 講評会					講評会の内容をまとめること。半期の授業の感想を400字でまとめて、制作ノートといっしょに提出する。									
履修上の注意														
制作ノートにそれぞれの制作の試行錯誤をまとめ記録する。														
成績評価方法・基準														
ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。														
課題と作業内容のまとめは、授業中にフィードバックをします。提出されたレポートは、後日添削し返却する。														
1 課題作品(50%) 2 制作ノート(30%) 3 受講態度(積極的に参加している 20%)														
教科書 授業前にプリントを配布する														
参考書 画集等を紹介する。														
備考														
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日と時間は掲示)で受け付けます。														

授業科目名	壁画Ⅲ			単位（授業時間＋自習時間）				2(60)						
担当者	森 敏美	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	生美3年					
授業概要														
<p>建築アートとしての壁画(モザイク・ステンドグラス・フレスコ)の技法を活かし、実際の建築物或いは造形物に取り付けることを想定し、その取り付ける場所の環境、状況を把握する論理的思考力と創造力の育成、表現力を身につけ、地域の学校や施設に壁画の設置を想定し、エスキースやマケットを制作させる。場合によっては地域の関係者とともに話し合い様々な問題点に柔軟に対応し、解決する事ができるコミュニケーション能力を身につけさせる。</p>														
授業の目的(到達目標)					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・壁画Ⅰ,Ⅱで学んだ各技法の応用力を高められる。					○		○							
・空間演出としての、壁画の認識を深めることが出来る。					○		○							
・地域との様々なコミュニケーション能力を高められる。									○	○	○	○	○	
授業計画の内容					事前・事後学修の内容									
1. ガイダンス：個々で行う技法を選択し申告する					メモを取ること									
2. 制作：エスキース・マケット・材料研究等					図書館等を利用し資料収集									
3. 実際に設置する場合と、応用制作の緒問題を検討する					必要と有れば設置希望現場を見ておく									
4. 本制作（パネル製作等）					予め使う材料等調べておく									
5. 材料準備					材料を精査する									
6. 作業1 制作に入る					制作にあたってメモ、ノートを作る									
7. 作業2 制作過程を確認					わからない所は聞くこと									
8. 作業3 全体像を把握する					計画を見直すことも									
9. 作業4 全体像の作りこみ					中間チェックに向けた準備									
10. 作業5 各部位の作りこみ 中間チェック					足りない時間は各自補う									
11. 作業6 各部位の確認					丁寧に見直す									
12. 作業7 詳細の作りこみに入る					必要が有れば時間外も制作する									
13. 作業8 詳細のバランス確認					引き続き、時間外も有効に活用する									
14. 作業9 仕上げ、完成					講評会に向けたチェック									
15. 作業10 講評会（作品に関するフィードバック）					反省点等メモをとる									
履修上の注意														
時間に遅れないこと。授業で補えないときは空き時間を利用し制作を行う。														
成績評価方法・基準														
課題（制作）90%、平常点10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）														
課題に関しては、講評会を通して学生と相互に、作品に関するフィードバックを行う														
教科書 資料配布(壁画制作の手引き)														
参考書 図書館、壁画工房内の壁画関連の図書														
備考														
オフィスアワーを有効に活用する（授業終了時）														

授業科目名	彫刻Ⅲ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	佐藤 淳一	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	生美3年					
授業概要														
2年生までの基礎的造形思考、技術をさらに発展させて自己の造形思考を磨き、作品として完成させて公募展で発表し、野外アート展を企画させながら彫刻の可能性を研究させる。場と空間を意識するために身体感覚を活用し彫刻的感覚を鍛える。野外彫刻の基礎的造形要素である、場と空間、量感、動勢、表面をマケットにより試行し研究する。アイデアスケッチやデッサンを重視し創造力を鍛える。自己に合った素材を見出しその良さをどのように引き出せば良いか研究させ、アイデアから展覧会企画までの作業を教授する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
実材彫刻による造形を展開できる							○			○				
場と空間に対して意識し彫刻を設置できる							○	○						
作業や企画・実施を他と協働して行うことができる											○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.授業内容、注意事項、評価方法説明、					シラバスを読む。課題提出									
2.作品研究（ブランクーシ、ミシュトロビッチ等）					各作家作品集研究、課題提出									
3.作品研究（ジャコメッティ、イサムノグチ等）					各作家作品集研究、デッサン									
4.素材研究（石材、木材、金属、その他）					素材研究継続									
5.テーマ研究（野外彫刻展、現代日本彫刻展）					彫刻論、造形論研究、彫刻展研究									
6.デッサン、マケット制作					制作継続									
7.制作1（素材荒作り）					制作継続									
8.制作2（面、塊と量感）					制作継続									
9.制作3（動勢）					制作継続									
10.制作4（全体と部分、空間）					制作継続									
11.制作5（細部、密度）					制作継続									
12.制作6（表面、密度）					作業到達目標まで進める									
13.制作7（地肌、密度）					作業到達目標まで進める									
14.制作8（作品と場）					作業到達目標まで進める									
15.野外彫刻展、公募展出品想定講評会（プレゼン）					制作のまとめ作成									
履修上の注意														
各種美術展の見学レポートの提出、時間外も自習する事。自分だけでなく他の人の作業の安全にも充分留意してください。														
成績評価方法・基準														
作品評価 40%、授業態度（集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%）提出レポート 20%（評価してフィードバックします）														
教科書 授業前に資料配布														
参考書 彫刻をつくる（美術出版社）ジャコメッティ（みすず書房）														
備考 1回目から作業します。汚れてもよい作業できる服装で来てください。準備、清掃まで全員で行います。それもすべて彫刻の大切な内容になります、協力して作業してください。授業外の質問はオフィスアワーで対応します。														

授業科目名		陶芸Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)								
担当者	立花 布美子	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	生美3年								
授業概要																	
陶芸Ⅰで修得した石膏型の技術を応用した「鑄込み成形」による制作に取り組む授業である。機能的且つ美的デザインであり、鑄込みに適した原型作りを指導する。石膏の扱い方の復習、泥漿づくりから攪拌機の操作、泥漿の保存法を教授する。学生同士協働するためのコミュニケーションを図りながら効率良く制作ができるよう指導し、成形から焼成までの全体的な流れの中で問題を発見、解決する能力を身につけるよう教授する。完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションを行うことで、発想の展開力を追求させる。																	
授業の到達目標						学位授与の方針との関連											
						1	2	3	4	5	6	7	8	9			
鑄込み成形、泥漿について基礎知識を含めた専門技術を身につけることができる。						○	○	○									
「型」を使用した制作についての意味を理解できる。									○								
制作、プレゼンを通しての展開力、判断力を身につけることができる。											○						○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）											
1. ガイダンス 石膏の扱い方復習 泥漿鑄込みとは						泥漿鑄込みについて予習											
2. 鑄込み成形①デザイン																	
3. ②原型づくり																	
4. ③石膏型づくり（凹型）																	
5. ④石膏型づくり（凸型）						珪酸ソーダ（水ガラス）について予習											
6. ⑤泥漿づくり（攪拌機、珪酸ソーダの扱い方）																	
7. ⑥泥漿づくり（泥漿の保存法）						攪拌機の取り扱いについて予習											
8. ⑦鑄込み 型外し																	
9. ⑧鑄込み 型外し バリ取り						各自の計画表の見直し、修正											
10. ⑨鑄込み 型外し バリ取り仕上げ																	
11. ⑩鑄込み 型外し バリ取り仕上げ(ヤスリがけ)																	
12. ⑪仕上げ（ヤスリがけ）																	
13. 加飾 釉掛け（掛け分けも可）																	
14. 加飾、釉掛け（掛け分けも可）																	
15. 窯出し 講評						まとめ											
履修上の注意。																	
<ul style="list-style-type: none"> ・各自の計画表に沿って作業を進めること。 ・遅刻・欠席のルールとして、遅刻3回で欠席1回とする。 																	
成績評価方法・基準																	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加状況 50%（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品 50% ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。 																	
教科書 授業前にプリントを配布する																	
参考書 〔陶芸を学ぶ①〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7,480円〕																	
備考																	
<ul style="list-style-type: none"> ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。 ・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。 																	

授業科目名	漆芸Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	井上 直美	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	生美3年			
授業概要												
漆芸の中でも高度とされる乾漆技法を学び、造形としても展開できる漆の特性と可能性を追求する能力を身に付け、漆芸における個性的な表現を楽しみながら展開出来る能力を身に付けられる様に指導する。前期は素地政策を中心に乾漆の作品を2点以上制作させる。制作する物を決め粘土で形を起こし、石膏で原型を制作させる。和紙や麻布、木綿などを用いて漆で厚みを付けていく。強度や使用目的に合わせて素地の材料や厚みを工夫しながら進めるように指導する。作家としてエンドユーザーの使用目的や強度なども考えた作品制作の指導をする。												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
乾漆の性質に合った原型を作れるようになる。				○		○			○		○	
布を貼り重ねていく工程を理解出来る。				○		○			○		○	
乾漆の技法を理解し、身に付けられる。				○		○			○		○	○
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）								
1.乾漆の説明・ビデオ鑑賞イメージを図面におこす				作品のスケッチをしておく								
2.原型作り（器・オブジェなど自由）原型の細部調整				細部のデザインを決定しておく								
3.石膏型制作 石膏型の調整				粘土を完成させておく								
4.型に剥離剤を塗る 剥離剤の表面を整える				石膏の工程を終了させておく								
5.麻布を貼る 1枚目				剥離材の研ぎを終了させておく								
6.空研ぎ・錆付け				のりを煮ておく								
7.麻布を貼る 2枚目				研ぎを終了させておく								
8.空研ぎ・錆付け				のりを煮ておく								
9.麻布を貼る 3枚目				研ぎを終了させておく								
10.空研ぎ・錆付け				のりを煮ておく								
11.麻布を貼る 4枚目				研ぎを終了させておく								
12.空研ぎ・錆付け				錆付けを追加しておく								
13.空研ぎ・固め・黒中				研ぎと固めを終了させておく								
14.縁の始末・固め				縁の始末の追加								
15.黒中				色、模様などを考慮しておく								
履修上の注意 作業着を着用の上、授業に臨む。漆かぶれに注意しながらすすめる。(工芸基礎Ⅰ・Ⅱ(漆芸)を履修していなくても受講可)												
成績評価方法・基準												
授業態度(50%) → 意欲、積極性、理解度など												
作品進度(50%) → 完成度、デザイン、センス、個性の表現												
講評会でフィードバックする。												
教科書 授業中に、適宜資料を配布する。												
参考書 [やさしく身に付くうるしのはなし3] [日本漆工協会] [2,160円]												
備考 質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーに受付けます。 工芸基礎、漆芸Ⅰ・Ⅱを選択していなくても履修可能です。												

授業科目名		染織Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	佐々木 輝子	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	生美3年					
授業概要														
<p>染織Ⅰ、Ⅱの実習を踏まえ、高機を使用した格子タペストリーの織物制作を行う。各自の計画に基づき、糸の浸染実習を実施し、デザイン性を高めた作品制作ができるよう指導する。織機の構造、タイアップ方法、糸量の計算等について理解し、使用目的に応じた素材選択ができるよう教授する。多様な織機の種類、構造について理解を深め、自身に適した技法を探り、各自の設定するテーマに沿って作品展開できる創造的実践力を養うことができるよう指導する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
織り実習を学習する上で必要な知識を身につける。					○									
織の工程・高機の構造及び使用手順を身につける。					○		○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス 授業概要					作品に関する資料収集・制作ノートのとまとめ									
2. 織機の構造について 織物計画					下図に関する資料収集・制作ノートのとまとめ									
3. 下図に関する調査 下図作成					下図作成・制作ノートのとまとめ									
4. 下図作成					下図作成・制作ノートのとまとめ									
5. 原寸拡大					素材研究・制作ノートのとまとめ									
6. 素材の選定 糸量の計算					素材研究・制作ノートのとまとめ									
7. 糸巻き 整経					素材研究・制作ノートのとまとめ									
8. 整経					材料準備・制作ノートのとまとめ									
9. 箆通し					材料準備・制作ノートのとまとめ									
10. 綜統通し					素材研究・制作ノートのとまとめ									
11. 織り①（下部）					作品に関する資料収集・制作ノートのとまとめ									
12. 織り②（中央部）					作品に関する資料収集・制作ノートのとまとめ									
13. 織り③（上部）					作品に関する資料収集・制作ノートのとまとめ									
14. 端糸の始末 仕上げ					講評会用備品準備・制作ノートのとまとめ									
15. 講評会					講評会準備・制作ノートを完成させる									
履修上の注意														
<p>染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。 作品に使用する糸は各自購入すること。 糸染め・織りの基礎知識を要するため、染織Ⅰ、染織Ⅱを履修していること。</p>														
成績評価方法・基準														
<p>提出課題（80%）、授業態度（20%）で評価します。 作品課題については、授業中にフィードバックします。</p>														
教科書 授業前にプリントを配布する。														
参考書 〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4,200円〕														
備考														
<p>受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。 質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。</p>														

授業科目名	視覚デザインⅢ				単位 (総授業時間+自習時間)				2(60)					
担当者	三上 秀夫	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	生美3年					
授業概要														
幾何学的な図形やパターンを用いた構成について「歴史」「表現方法」「制作方法」について実技をとおして体験させる授業である。作例や表現方法、制作方法について示し、その構造や仕組みについて掘り下げる。構成における比率や数、配色における数量的な割合に注目した指導をする。また、材料や道具の具体的な使い方についても指導する。作品評価は平常の授業態度に加えプレゼンテーション時での作者の発言内容と他学生の意見を重視する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
自らが立てた課題を主体的に解決する能力を身につける。									○		○			
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. ガイダンス (授業の進め方、課題の発表、評価方法について)					次回の課題について情報を集める。									
2. テーマ「抽象」 制作1 課題説明 機材、用具、材料の説明					テーマに沿って情報を集め調べる。									
3. テーマ「抽象」 制作2 アイディアの検討 ラフスケッチ 計画 下描き					各自のテーマに沿って調べる。									
4. テーマ「抽象」 制作3 作業 機材、道具、材料の確認					必要な用具を準備する。									
5. テーマ「抽象」 制作4 作業 進行具合の確認					予定を見直し制作を進める。									
6. テーマ「抽象」 制作5 細部の修正					制作を進める。									
7. テーマ「抽象」 制作6 仕上げ 完成					経過を整理する。									
8. 講評・まとめ					制作を完成させ、まとめる。									
9. テーマ「イラスト」 制作1 課題説明 用具、材料の説明					課題について情報を集める。									
10. テーマ「イラスト」 制作2 アイディア ラフスケッチ 計画 下描き					テーマに沿って情報を集め調べる。									
11. テーマ「イラスト」 制作3 作業 機材、道具、材料の確認					材料等必要なものを事前に準備する。									
12. テーマ「イラスト」 制作4 作業 進行具合の確認					制作を進める。									
13. テーマ「イラスト」 制作5 細部の修正					予定を見直し制作を進める。									
14. テーマ「イラスト」 制作6 細部の確認 完成					制作を進め完成させる。									
15. 講評・まとめ					完成させ提出する。									
履修上の注意														
用具、材料については授業でその都度指示する。														
成績評価方法・基準														
提出課題 (60%)、講評での発表の内容 (40%) で評価する。課題については、講評会でフィードバックを行う。														
教科書 無し 授業時にプリントを配布する														
参考書 無し														
備考														
授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー (曜日日時は掲示で確認) に受け付けます。														

授業科目名	情報デザインⅢ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	鶴巻 史子	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	生美3年					
授業概要														
<p>情報と関わる人びとの活動や経験を可視化し、その原理を見つけ、ユーザーが価値を感じる出来事や経験をデザインすることは、情報デザインにおいて重要な課題である。情報デザインⅢでは、グラフィックソフトとアニメーションソフトを用いた「動的表現による情報の可視化 (movie infographics)」演習に取り組み、情報を正確に、わかりやすく伝えるための知識・技法・スキルを修得する。情報デザインの専門的な考え方を理解し、表現力を身につけられるよう指導する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
情報デザインの専門的な考え方を理解し表現できる									○					
アニメーションソフトを用いて、情報の可視化ができる									○					
情報を正確にわかりやすく伝える表現ができる										○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス					ソフトについての調査・制作準備									
2. 情報デザイン概論（応用）					制作準備・制作プロセスまとめ									
3. 課題1 動画表現による情報の可視化基礎演習					制作技法の調査・課題のまとめ									
4. 課題2 動的表現による情報の可視化① 情報収集					情報の収集・制作プロセスまとめ									
5. 情報整理・分類、テーマ設定					情報の整理・制作プロセスまとめ									
6. アイデアスケッチ、ヴィジュアル化					制作準備・制作プロセスまとめ									
7. デザイン検討					デザインの調査・制作プロセスまとめ									
8. 制作					制作技法の調査・制作プロセスまとめ									
9. プレゼン、講評、リフレクション					プレゼン準備・課題のまとめ									
10. 課題3 動的表現による情報の可視化② 情報収集					情報の収集・制作プロセスまとめ									
11. 情報整理・分類、テーマ設定					情報の整理・制作プロセスまとめ									
12. アイデアスケッチ、ヴィジュアル化					制作準備・制作プロセスまとめ									
13. デザイン検討					デザインの調査・制作プロセスまとめ									
14. 制作					制作技法の調査・制作プロセスまとめ									
15. プレゼン、講評、リフレクション					プレゼン準備・課題のまとめ									
履修上の注意														
<p>情報デザインⅡを履修していること。または、Illustrator、Photoshop、Animate を用いた作品制作経験があること。授業開始時に重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がける。制作データはUSBメモリ等に保存し持参する。教材・材料費（500円）を徴収する。</p>														
成績評価方法・基準														
<p>課題（制作物、プレゼンテーション）70%、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢、リフレクションシート等）30%、課題作品については、授業中にフィードバックする。</p>														
教科書 適宜指示する														
参考書 プリントを配布する														
備考														
<p>質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。</p>														

授業科目名	地域工芸論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	今林 直樹	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	生美3年					
授業概要														
日本各地に残る地域工芸について講義する。具体的には、前半で「焼物」に焦点をあて、関西の焼物を中心に中部・中国・九州の代表的な焼物を紹介する。技法の解説というよりは、焼物の特徴や地域的、歴史的、文化的背景などを講義する予定である。後半は「沖縄」を取り上げ、沖縄に残る地域工芸である焼物、漆器、染物、織物、ガラス工芸について講義する。なお、各講義では授業の感想を提出させる。その解説は次の回の授業で行う。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
地域工芸について理解できる。					○		○							
地域工芸としての焼物に関する知識を身につける。					○		○							
沖縄の地域工芸に関する知識を身につける。					○		○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 地域工芸概説					地域工芸について調べる									
2. 関西の焼物（京焼）特徴					京焼の特徴について整理する									
3. 関西の焼物（京焼）歴史					京焼の特徴について整理する									
4. 関西の焼物（京焼）歴史					京焼の特徴について整理する									
5. 関西の焼物（京焼）作家					京焼の特徴について整理する									
6. 関西の焼物（京焼）作家					京焼の特徴について整理する									
7. 関西の焼物（京焼以外）					京焼以外の関西の焼物について調べる									
8. 中部の焼物					中部の焼物について調べる									
9. 中国焼物					中国の焼物について調べる									
10. 九州の焼物					九州の焼物について調べる									
11. 沖縄の地域工芸（焼物）					沖縄の焼物について整理する									
12. 沖縄の地域工芸（漆器）					沖縄の漆器について整理する									
13. 沖縄の地域工芸（染物）					沖縄の染物について整理する									
14. 沖縄の地域工芸（織物）					沖縄の織物について整理する									
15. 沖縄の地域工芸（ガラス工芸）					沖縄のガラス工芸について整理する									
履修上の注意														
必要のない私語は慎むこと。														
成績評価方法・基準														
期末考査 80%、課題（授業時提出）20%によって評価する。課題等については翌週の授業の際にコメントする。														
教科書 授業時に資料を配布する。														
参考書 なし														
備考 質問等については授業終了時に受け付ける。														

授業科目名	ガラスアートⅢ				単位(総授業時間+自習時間)				2(60)					
担当者	山口 綾子	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	生美3年					
授業概要														
<p>ガラス工芸の中でも“バーナーワーク”という分野から“トンボ玉”を中心に制作を指導する。主に、軟質ガラス(佐竹ガラス)とエアバーナーを使用する。この授業では、ガラスアートⅠ・Ⅳで扱うガラスと器具が異なる。ガラスアートⅡで学んだ基礎技法をもとに、各自に技法の研鑽と活用を促す。さらに、トンボ玉の技法の応用を紹介しながら、表現技法の幅を広げられるようにしたい。ガラス造形に携わる者として、作品の活用方法も、合わせて指導する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
ガラスと炎の特性を知ることができる。					○									
素材の扱い方の工夫により、技法の習熟度を高めることができる。							○		○			○		
広い視野でデザインを考えられるものづくりができるようになる。										○	○			○
授業計画の内容					自習(事前・事後学修の内容)									
1.オリエンテーション 授業内容の説明					制作主題を設定し計画表の作成をする。									
2.課題Ⅰ 表面加飾 ① 点打ち														
3. 表面加飾 ② ひっかき														
4. 表面加飾 ③ コーティング					資料収集									
5.課題Ⅰ 表面加飾 ①～③を使用した作品制作														
6.課題Ⅱ 玉の形の工夫 ねじり玉・勾玉														
7.課題Ⅲ パーツを使った加飾 ① レース					収集した資料をまとめ、10回目の授業に提出。									
8. パーツを使った加飾 ② パーツ														
9.課題Ⅱ・Ⅲの技法を使った作品制作														
10.課題Ⅳ 自由制作 ①デザイン決定					制作の進捗に応じて課題の考察・まとめを行う。完成形を考慮し、仕上げの工夫・その他の付属品の準備をする。									
11. ②試作・練習 (テストピース作成)														
12. ③試作・練習 (プレゼンテーションを考える)														
13. ④試作・練習 (まとめ)														
14. ⑤完成 (仕上げ)														
15. ⑥講評会														
履修上の注意														
習熟度に応じて応用技法も追加する。ガラスアートⅡを履修することが望ましい。														
成績評価方法・基準														
課題達成 30%														
作品の完成度 30%														
制作への取組 40%(出席・作業に対する姿勢・進捗状況)														
課題については講評会の時にフィードバックします。														
教科書 事前にプリントなどを配布する。														
参考書 [トンボ玉][小暮紀一][ほるぷ出版][2,808円]														
備考 材料費の徴収、ガラス棒・消耗品は自己負担があります。 質問などは、授業後にオフィスアワーを設けます。 都合により、授業計画等を変更することがあります。														

授業科目名	人形Ⅲ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	福田 一実	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	生美3年				
授業概要													
<p>創作人形作家として会得した技術などをもとに人形と人間について考え、より「リアル」な人形について思考させ、球体関節人形の仕組みを学び、オリジナルの球体関節人形を制作させる。人体の造形についても追求し作品としての完成度をあげるよう指導する。作品は人体の形をモデルとし、イメージをふくらませて実寸大でデッサンをさせ、設計図を作り、人と人形について考えながら人形を制作できるようにする。人形Ⅲでは頭部 8cm の 6 頭身の人形を制作させる。関節は腕、脚のカットやドールアイを使用し、全関節人形を完成させる。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
人形の造形について研究しながら学ぶことができる。							○		○	○			
球体関節人形を制作するための技法を理解することができる。							○		○				
オリジナルな人形を完成できる。									○	○	○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。					完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。								
2. 下図を元に型紙をつくり、心材にあててカッター等で削り形をつくる。					解剖学の本などを参考にし、人体の研究をする。								
3. 芯を削り、形を作る。													
4. 粘土を練り芯材に 3～5mm 厚さに粘土を巻く。					しっかり乾燥させてくる。								
5. ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。					顔の造形、表情について観察してくる。								
6. 手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。					やすりがけ								
7. 足、脚の造形。					やすりがけ								
8. 乾燥させ、すべてを磨く。間接部を切断。					やすりがけ								
9. 芯材を抜き、頭部に瞳を入れ、頭部に耳を造形する。球を作る。					やすりがけ								
10. 球を磨き、各関節に固定する。頭部を閉じる。					穴を開ける場所をしっかりと確認する。								
11. 球に対する受けを作る。各球に穴を開け、ステンレス線を頭、手、足に固定する。					全体のバランス確認。								
12. 仮組をし、やすりをかけ、調整する。					細かなキズなどをチェックする								
13. 塗装する。着色、メイク。					メイクのイメージ、資料集め								
14. 髪を貼る。					ヘアスタイルのイメージ、資料集め								
15. 組み立て完成させる。講評。													
履修上の注意													
人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。													
成績評価方法・基準													
課題作品 50%、授業態度 50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）講演会でフィードバックします。													
教科書 〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2,880〕													
参考書 〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2,700〕													
〔はじめて作る球体関節人形〕〔アイミ〕〔秀和システム〕〔2,000〕													
〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3,200〕													
備考													
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明します。 質問等については授業終了時にオフィスアワーで受け付けます。													

授業科目名	マンガⅢ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	安孫子 三和	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	生美3年				
授業概要 漫画家歴 25 年の経験と実績をふまえて、マンガⅡの基礎編から発展させたストーリーマンガやカラー作品の作り方を指導する。既存の風景（背景）写真を使い、必要な線と省略する線の区別の仕方や、その画面に人物（キャラクター）を入れ込む時の注意点や効果的な見せ方を実践形式で身につけさせる。また、ストーリー作品制作ではアイデア、プロット、ネーム、下絵、ペン入れ、仕上げと順に追って各人と対話して進め、実際のマンガ編集者との打ち合わせに近い形式を体感してもらいつつ、各人の作画個性にあった、より豊かな表現の作品完成を目指させる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
マンガの基礎的な技術習得と考え方を身につける					○		○			○	○	○	○
学修した内容を深めて発展した表現を身につける							○		○	○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.授業説明 キャラクタートレーニング・記憶スケッチ					マンガⅡでやったキャラトレをもう一回。背景をテーマに設けて記憶だけでラフスケッチ（鉛筆可）								
2.背景トレース+人物（1）下絵					背景に人物を配置する作画。資料の背景写真を2～3種類セレクトしてコピー持参。人物に合わせて背景拡大ありアナログ制作								
3. "（2）ペン入れ					人物が目立つように主線を強く、背景は細線で陰影も考えて表現する								
4. "（3）ペン入れ完成					トーン処理はフリー <完成提出>								
5.オリジナルショートストーリー制作 （1）プロット・ネーム					4～8 ページ自由選択。ネタは考えておく。授業開始に即あらずじプロットが書き出せるように。ネームは2～3回修正が入るのが普通								
6. "（2）ネーム修正					ネーム・コマ割り・セリフもチェックあり								
7. "（3）ネーム完成・下絵					ネームチェック OK の者は下絵原稿に入る。（環境がある者は原稿デジタル制作可）								
8. "（4）下絵人物					背景資料なども準備して作画								
9. "（5）下絵背景					トレス台使用可								
10. "（6）ペン入れ人物													
11. "（7）ペン入れ背景効果					デジタルも進行チェックする								
12. "（8）トーン・仕上げ					<完成提出>デジタルはプリントアウト提出。								
13.カラー作画（1）					カラー用紙 B5 画材ともに各自準備。人物・背景入れて彩色（デジタル可）								
14. "（2）					彩色								
15. "（3）まとめ講評会					<完成提出>デジタルはプリントアウト提出。コメント票配布。1作品ごとに全員でコメント記入する。								
履修上の注意 授業の始まりにその回の説明をするのできちんと定刻に来る。時間厳守。（遅刻は45分単位で0.25欠席とする。）制作に遅れの出た者は自宅制作に努める。													
成績評価方法・基準 出席、課題などから総合的に評価。 課題作品:アイデア 40%（発想・視点・キャラクター・ストーリー構成） 絵 40%（画力・丁寧さ・仕上げ） 受講態度 20%（準備物・集中度・進行速度） 提出された課題は、期末後コメントとフィードバックを記して返却します。													
教科書 必要に応じて、そのつど資料を配布する													
参考書 とくに無し													
備考 オフィスアワーは授業後にも受付けますが、各人ごとに席を回って制作指導に努めるので、極力時間内に質問疑問は申し出てください。													

授業科目名	図学Ⅰ（図学基礎・製品・室内）			単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+15)						
担当者	湯目 俊彦	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	生美3年					
授業概要														
透視図法の原理と種類を理解し、各点の違いを理解させる。透視図法の基礎を習得させる。 透視図法の基礎である立方体を、1点2点3点透視図法でそれぞれ作図させ、それぞれの違いを理解させる。 分割・増殖の仕方を理解し、課題に反映させる応用力を習得させる。 また円柱・円錐の図法も合わせて作図習得させる。正確な円弧の描き方を習得させる。 製品化された商品や2年時習得した製図課題を各点透視図法で作図習得させる。 簡単な室内インテリアの透視図を1点透視図法で作図させ、カラーリングし表現力も習得させる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
透視図法の原理と種類、それぞれの基礎を習得する					○				○					
立体の透視図法のプロセス、技術表現力を習得する					○				○					
室内空間の透視図法を理解しプロセス技術表現力を習得					○				○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス,透視図法の原理と種類					透視図法の名称を復習する									
2.立方体を1点透視図法で描く					VP位置の違いを復習する									
3.立方体を2点透視図法で描く					2点のVP位置の違いを復習する									
4.立方体を3点透視図法で描く					3点のVP位置の違いを復習する									
5.立方体を透視図法で陰影を描く					事前に陰影の描き方を予習しておく									
6.円と円柱、円錐を透視図法で描く					正確な円弧の描き方を予習しておく									
7.透視図法での増殖と分割					各増殖分割の仕方を復習しておく									
8.コップを1点透視図法で描く					正確な円弧の描き方を予習しておく									
9.ソファを1点透視図法で描く					配布した資料を事前に予習しておく									
10.ソファを2点透視図法で描く					1点透視との違いを予習しておく									
11.リビングAを1点透視図法で描く					授業中に未完了は事後完成する									
12.リビングAを2点透視図法で描く					1点透視との違いを予習しておく									
13.おもちゃの家を等角図法で描く					事前に資料を予習しておく									
14.おもちゃの家を2点透視図法で描く					授業中に未完了は事後完成する									
15.リビングBを1点透視図法で描く					授業中に未完了は事後完成する									
履修上の注意 指定された製図用具を用意する。0,3mm/0,5mm シャープペン、墨入れペン 三角スケール、三角定規、分度器、コンパス円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ														
成績評価方法・基準														
課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり（40%）授業態度(遅刻・居眠り)（30%）意欲(20%)														
教科書 授業前にプリントを配布														
参考書 なし														
備考														
質問等については、授業内あるいはオフィスアワーにて受け付ける。 期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を自習まで会議室まで取りにくる事。														

授業科目名	図学Ⅱ (インテリア・建築)			単位 (総授業時間+自習時間)				1(15+15)						
担当者	湯目 俊彦	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	生美3年					
授業概要														
<p>前期で習得した透視図法の基礎をもとに、インテリア空間の1点・2点透視図法により作図させる。分割・増殖の応用を使用し、作図時間を短縮する技法を習得する。</p> <p>また作図した完成図に着色させ、表現力も習得させる。インテリア空間の2点透視図法で作図し、視覚調整の知識・技術を習得させ表現力を向上させる。実際に講師が関わった作品も参考で見せる。</p> <p>建築物の1点2点透視図法を習得し、実際の大学内建物を透視図法により作図し、着色を施し表現力を習得させる</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
室内を透視図法で作図しインテリア空間の表現力を習得									○					○
透視図法で作図した物に着色を施し表現力を身につける									○					○
建物の透視図法を習得する事により絵画等に影響させる									○					○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1.ダイニングキッチンAを1点透視図法で描く(足線下書き)					授業中に未完了は次回まで完成する									
2.ダイニングキッチンAを1点透視図法で描く(実線着色)					授業中に未完了は事後完成する									
3.ダイニングキッチンBを2点透視図法で描く(下書き,足線)					授業中に未完了は次回まで完成する									
4.ダイニングキッチンBを2点透視図法で描く(視覚調整)					視覚調整の仕上がりを再確認する									
5.和室をD点図法で描く(下書き)					授業中に未完了は次回まで完成する									
6.和室をD点図法で描く(実線着色)					授業中に未完了は事後完成する									
7.寝室を2点透視図法で描く(下書き)					事前に配布資料を予習しておく									
8.寝室を2点透視図法で描く(実線着色)					授業中に未完了は事後完成する									
9.建物Aを1点透視図法で描く					授業中に未完了は事後完成する									
10.建物Bを2点透視図法で描く					授業中に未完了は事後完成する									
11.建物Cを2点透視図法で描く(下書き)					授業中に未完了は次回まで完成する									
12.建物Cを2点透視図法で描く(実線)					授業中に未完了は事後完成する									
13.大学建物を2点透視図法で描く(下書き)					授業中に未完了は事後完成する									
14.大学建物を2点透視図法で描く(実線)					授業中に未完了は次回まで完成する									
15.大学建物を2点透視図法で描く(拡大着色)					授業中に未完了は事後完成する									
履修上の注意 指定された製図用具を用意する。0,3mm/0,5mm シャープペン、墨入れペン 三角スケール、三角定規、分度器、コンパス円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ														
成績評価方法・基準														
課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり(40%) 授業態度(遅刻・居眠り)(30%) 意欲(20%)														
教科書 授業前にプリント配布														
参考書 なし														
備考														
期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を自習まで会議室まで取りにくる事。														

授業科目名	写真 I				単位 (総授業時間+自習時間)	1(15+15)							
担当者	飯沢 耕太郎	必・選	選	形態	集中講義	学期	前期	対象	生美 3 年				
授業概要													
写真評論家、写真史家としての活動を踏まえ、写真という表現媒体のあり方を考察する。特に現代日本の写真表現を重視し、写真家たちの活動を DVD や写真集などを参考にして幅広く紹介したい。具体的には、まず「写真とは何か」を幅広く考察し、写真集、写真コレクション、写真展などについて事例を挙げて詳述する。次に、「現代日本写真の展開」について、戦後写真史の流れに添って講義していく。あわせて、ここ数年の最新のトピックにも目配りしていきたい。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
写真の表現としての面白さ、魅力について理解を深め、写真家たちからその表現の姿勢を学びとり、自らの創作活動に活かしていく。レポート作成を通じて、その理解を確認する。					1	2	3	4	5	6	7	8	9
写真の歴史に憑いて基本的な知識を得る。					○	○	○						
写真家たちの表現の姿勢について学ぶ。									○				
写真家たちの活動のあり方を今後の活動に活かす。											○		
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1.写真とは何か (I) 原点としてのダイアン・アーバス					アーバスの作品について予備知識を得る。								
2.写真とは何か (2) 写真の発明とその展開					写真史の本などで予備知識を得る。								
3.写真とは何か (3) 写真集の成立、『自然の鉛筆』					写真史の本などで予備知識を得る。								
4.写真とは何か (4) 写真集の展開					写真史の本などで予備知識を得る。図書館等で写真集を実際に閲覧する。								
5.写真とは何か (5) 写真作品のコレクション					「オリジナル・プリント」等の概念について、ネット等で検索する。								
6.写真とは何か (6) 写真美術館と写真ギャラリー					美術館、ギャラリー等で写真展を鑑賞する。								
7.写真とは何か (7) 写真集の鑑賞					図書館等で写真集を鑑賞する。								
8.現代日本写真の展開 (1) 戦後写真の始まり					土門拳等の写真家たちの活動について調べてみる。								
9.現代日本写真の展開 (2) 「PROVOKE」の写真家たち					中平卓馬、守山大道等の活動について調べてみる。								
10.現代日本写真の展開 (3) 「私写真」について					荒木経惟、深瀬昌久、牛腸茂雄等の活動について調べてみる。								
11.現代日本写真の展開 (4) 90年代以降の新たな潮流					杉本博司、森村泰昌らの作品をチェックしてみる。								
12.現代日本写真の展開 (5) 女性写真家たちの活動					石内都、長島有里枝らの作品をチェックしてみる								
13.現代日本写真の展開 (6) 震災以後の写真表現					志賀理江子、畠山直哉らの作品をチェックしてみる。								
14.現代日本写真の展開 (7) 最近の動向					植田正治作品集、「TOKYO BEFORE/AFTER」展などについてチェックしてみる								
15.まとめとレポート作成					レポートを作成、事前チェックする。								
履修上の注意													
最新の情報をフォローしたいので、授業の内容は適宜変更する可能性がある。													
成績評価方法・基準													
レポートを提出してもらって評価する (80%)。授業の取り組みに対する意欲と姿勢 (20%)。基本的に全講義に出席することを前提とする。提出されたレポートは添削して返却する。													
教科書 なし													
参考書													
『写真を愉しむ』飯沢耕太郎、岩波新書、740円 『キーワードで読む現代日本写真』飯沢耕太郎、フィルムアート社、3,800円													
備考 質問等については、授業終了時または終了後に受け付ける。													

授業科目名	写真Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）	1(15+15)									
担当者	飯沢 耕太郎	必・選	選	形態	集中講義	学期	後期	対象	生美3年						
授業概要															
写真作品(基本的に自分で撮影、プリントしたもの)をポートフォリオに仕上げ、そのプロセスを経験する。写真を選び、最終的にブック形式、あるいはファイル形式のポートフォリオを作成し、それを参加者全員で鑑賞しながら、講評を加える。ポートフォリオ作成を通じて、作品のプレゼンテーションの仕方を実践的に学ぶことができる。並べるやり方を学ぶことで、複数の写真によって、どのようにメッセージを伝えるかを身につけていく。参考として、現代写真家たちの写真集、ポートフォリオなどを鑑賞する時間も設けたい。															
授業の到達目標					学位授与の方針との関連										
					1	2	3	4	5	6	7	8	9		
写真表現の基礎を身につける。					○	○	○								
写真を編集、装丁して提示することを体験する。								○	○		○	○	○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）										
1日目：写真によるポートフォリオとはどんなものなのか、どのような特徴を備えているのか、どこに注意して制作すればよいのかをガイダンスする。現代写真家の写真集、ポートフォリオを鑑賞し、参考にしながら、準備を整える。					ポートフォリオのための写真を用意する。事前に写真集などを鑑賞して予備知識を得る。										
2日目：実際にポートフォリオを作成する。できあがったらポートフォリオによる、プレゼンテーションをおこない、それについて講評する。					ポートフォリオ作成のための台紙、ファイル等を用意する。必要ならば、ノリ、ハサミ、カッター等も準備する。										
履修上の注意															
あらかじめポートフォリオ作成のための材料を準備する。集中講義のため遅刻、欠席は認めない。															
成績評価方法・基準															
ポートフォリオを提出してもらって評価する（80％）授業の取組みへの意欲と姿勢（20％）ポートフォリオは添削して返却する。															
教科書 なし。															
参考書 [写真を愉しむ][飯沢 耕太郎][岩波新書][740円]															
備考															
質問等については、授業終了時または終了後に受け付ける。															

授業科目名	美術教諭試験対策講座 I			単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)												
担当者	佐々木 晃	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	生美3年											
授業概要																				
<p>公立学校教員採用試験（中・高美術）対策として過去問題を中心に筆記、実技、面接、模擬授業のそれぞれについて体系的に理解を深めるとともに出題傾向、出題意図、出題の視点および解答への道筋を解説する。採用試験に向けた学習指導案の作成方法とそれに基づいた授業の実際について指導する。これらのことを教授する中で美術教師になるための基本的な素養を身に付けさせ、実践的指導力、使命感、幅広い知見を育てていくことを目的とする。本講座は美術教諭試験対策講座Ⅱの基礎となる内容である。</p>																				
授業の到達目標						学位授与の方針との関連														
						1	2	3	4	5	6	7	8	9						
授業を学修する中で美術教師として必要なものを理解する																				○
学修した内容を咀嚼反芻して整理要約できるようにする										○										
確かな知見と豊かな人間性を持った基本的素養を身に付ける																				○
授業計画の内容						自習 (事前・事後学修の内容)														
1. 筆記試験対策 1. 教職教養						過去問題に取組み躰いた所を調べておく														
2. // 2. 教育法規 I						教育にかかわる法規の体系を理解する														
3. // 3. 教育法規 II						教員採用試験に関係する法規の内容理解														
4. // 4. 面接						質問に正対する回答のあり方を調べる														
5. // 5. 集団討議						課題を受けてまとめていくことの理解														
6. 教員採用試験実技について						実技試験の目的と留意点を調べて提出														
7. 実技試験対策 1 画材						画材の違いによる表現できる工夫の調査														
8. // 2 主題						主題の具現化を図る上での工夫を調べる														
9. // 3 時間配分						完成に至る望ましい時間配分のあり方														
10. 小論文対策 1 今日課題に正対する教師の役割の自覚						教員採用試験論文の書き方の留意点調査														
11. // 2 専門職としての意識の育成と発展						教員志望者に求められるものの理解														
12. 学習指導案作成演習 1						学習指導案の目的と作成の留意点調べ														
13. // 2						授業のイメージづくりと各種指導案調べ														
14. 総合演習 1 近年の動向を踏まえた課題						基本的問題の確実な把握と新傾向の対策														
15. // 2 まとめのレポート						採用試験対策講座関係プリント読み返し														
履修上の注意																				
<p>受講の際は配布するプリントを持参すること。必要な用具等準備して臨むこと。</p>																				
成績評価方法・基準																				
<ul style="list-style-type: none"> ・平常点30% (平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する) レポート70% (必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。) ・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。 																				
教科書 [中学校学習指導要領解説書 美術編] [日本文教出版] [96円]																				
参考書 なし																				
備考																				
<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。 ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) に受け付けます。 																				

授業科目名	美術教諭試験対策講座Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)												
担当者	佐々木 晃	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	生美4年											
授業概要																				
<p>公立学校教員採用試験（中・高美術）対策として過去問題を中心に筆記、実技、面接、模擬授業のそれぞれについて体系的に理解を深めるとともに出題傾向、出題意図、出題の視点および解答への道筋を解説する。採用試験に向けた学習指導案の作成方法とそれに基づいた授業の実際について指導する。これらのことを教授する中で美術教師になるための基本的な素養を身に付けさせ、実践的指導力、使命感、幅広い知見を育てていくことを目的とする。本講座は美術教諭試験対策講座Ⅰをさらに発展継承させた内容となる。</p>																				
授業の到達目標					学位授与の方針との関連															
					1	2	3	4	5	6	7	8	9							
授業を学修する中で美術教師として必要なものを理解する																				○
学修した内容を咀嚼反芻して整理要約できるようにする									○											
確かな知見と豊かな人間性を持った基本的素養を身に付ける																				○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）															
1.筆記試験対策 1. 教職教養					過去問題に取り組み躰いた所を調べておく															
2. // 2. 教育法規Ⅰ					教育にかかわる法規の体系を理解する															
3. // 3. 教育法規Ⅱ					教員採用試験に関係する法規の内容理解															
4. // 4. 面接					質問に正対する回答のあり方を調べる															
5. // 5. 集団討議					課題を受けてまとめていくことの理解															
6.教員採用試験実技について					実技試験の目的と留意点を調べて提出															
7.実技試験対策 1 画材					画材の違いによる表現できる工夫の調査															
8. // 2 主題					主題の具現化を図る上での工夫を調べる															
9. // 3 時間配分					完成に至る望ましい時間配分のあり方															
10.小論文対策 1 今日課題に正対する教師の役割の自覚					教員採用試験論文の書き方の留意点調査															
11. // 2 専門職としての意識の育成と発展					教員志望者に求められるものの理解															
12.学習指導案作成演習 1					学習指導案の目的と作成の留意点調べ															
13. // 2					授業のイメージづくりと各種指導案調べ															
14.総合演習 1 近年の動向を踏まえた課題					基本的問題の確実な把握と新傾向の対策															
15. // 2 まとめのレポート					採用試験対策講座関係プリント読み返し															
履修上の注意																				
受講の際は配布するプリントを持参すること。必要な用具等準備して臨むこと。																				
成績評価方法・基準																				
<ul style="list-style-type: none"> ・平常点30%（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する） レポート70%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。） ・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。 																				
教科書 〔中学校学習指導要領解説書 美術編〕〔日本文教出版〕〔96円〕																				
参考書 なし																				
備考																				
<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。 ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。 																				

授業科目名	アート支援 I			単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)						
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選	形態	集中講義	学期	前期	対象	生美 3年					
授業概要														
①ボランティア精神の原点、ボランティア活動の歴史について概説する。②ボランティア活動における成功例と失敗例に触れ、それぞれの事例について検証させ、それぞれの要因について考察を促す。③国内で私自身が企画／実戦した美術による社会貢献の事例を紹介し、課題発見を促す。④美術による社会貢献に関する実態調査を支援する。⑤ボランティア活動への参画を支援し、活動報告の方法を指導する。⑥美術によるボランティア活動への参画を課し、その総括を支援する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
ボランティア活動の理念/基本原則/歴史を説明できる。					○	○								
美術をツールとして、他者と関係を構築できる。					○	○		○	○	○	○			○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1.オリエンテーション (ボランティアリズムのロマン)					ワークシート①作成									
2.ボランティア活動の理念/基本原則/歴史					ワークシート②作成									
3.事例紹介-ボランティア活動一般					ワークシート③作成									
4.事例紹介-美術による活動(震災関連)					ワークシート④作成									
5.組織的活動の事例/ODA					ワークシート⑤作成									
6.組織的活動の事例/NGO					ワークシート⑥作成									
7.情報提供/収集-一般					ボランティアのニーズ状況調査 (一般)									
8.情報提供/収集-文化・教育					ボランティアのニーズ状況調査 (文化)									
9.情報提供/収集-美術系					ボランティアのニーズ状況調査 (美術)									
10.ボランティア活動参画(一般)					活動計画/報告書作成									
11.ボランティア活動参画(文化/教育)					活動計画/報告書作成									
12.ボランティア活動参画(美術)					活動計画/報告書作成									
13.活動報告プレゼン準備指導					データ作成									
14.活動報告プレゼン内容の修正指導					データ修正									
15.活動報告					ワークシート⑦作成									
履修上の注意														
対象:生活美術学科アートインストラクターコース生 授業時間:時間割の空き時間を利用して授業を行う。														
成績評価方法・基準														
ワークシート(7回分):35%(フィードバックを行う) 活動計画/報告書:30%(フィードバックを行う) 活動報告:35%(フィードバックを行う)														
教科書 その都度、資料を配布する。														
参考書 その都度、参考資料を配布する。														
備考 オフィスアワー:2時間/1週(曜日/時間については、初回授業の際に連絡する)														

授業科目名	アート支援Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)					
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選	形態	集中講義	学期	後期	対象	生美3年					
授業概要														
①ボランティア活動の現状に関する調査を課す。②ボランティア活動の現状を踏まえ、そこに介在する課題について考察を促す。③海外で私自身が参画／企画／実践した美術による社会貢献の事例を紹介し、問題発見を促す。④美術によるボランティア活動への参画を課し、その総括を支援する。⑤美術による社会貢献の企画立案を指導する。⑥「アートボランティア」としての活動記録の提出と活動記録に関するプレゼンテーションと自己評価を課す。														
授業の到達目標				学位授与の方針との関連										
				1	2	3	4	5	6	7	8	9		
ボランティア活動の意義を説明できる。				○	○									
美術をツールとして、他者との関係を構築できる。				○	○		○	○	○	○				○
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）										
1.オリエンテーション(ボランティアの可能性)				ワークシート①作成										
2.ボランティア活動の現状-調査のポイントについて				ワークシート②作成										
3.現状に関する評価と課題について				レポート筆記										
4.美術による活動事例の紹介／ザンビア共和国での活動事例				ワークシート③作成										
5.美術による活動の企画（ニーズの把握）				ワークシート④作成										
6.美術による活動の企画（立案）				プレゼン準備										
7.美術による活動の企画（プレゼン）				プレゼン準備										
8.フィールドワーク-活動の趣旨に関する理解				報告書作成										
9.フィールドワーク-活動の内容に関する理解				報告書作成										
10.フィールドワーク-活動の効果分析				報告書作成										
11.フィールドワーク-課題発見				報告書作成										
12.フィールドワーク-課題解決				報告書作成										
13.活動報告(プレゼン)準備				データ作成										
14.活動報告(プレゼン)内容の修正				データ作成										
15.活動報告				ワークシート⑤作成										
履修上の注意														
対象:生活美術学科アートインストラクターコース生 授業時間:時間割の空き時間を利用して授業を行います。														
成績評価方法・基準														
ワークシート(レポート):30%(フィードバックを行う) 活動報告書:40%(フィードバックを行う) プレゼン:30%(フィードバックを行う)														
教科書 その都度、資料を配布する。														
参考書 その都度、参考資料を配布する。														
備考 オフィスアワー:2時間/1週(曜日/時間については、初回授業の際に連絡する)														

授業科目名	技法研究Ⅰ - a				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	生活美術学科全教員	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美3年					
授業概要														
2年次で修得した各分野の様々な素材・技法による表現方法を踏まえ、3年次からコース制に移行し前期に各自が選択履修する科目の中から、卒制を1番に考えているジャンルの内容を深め、素材研究や各種技法の研鑽に努めさせる。そのことにより、後期技法研究Ⅱa,b,cを選択するにおいて卒業研究に向かう選択肢の精査を助長させる。各自、今までに修得した技法をより主体的に深く掘り下げ、研究・制作に取り組めるよう指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・卒制に繋がる科目の素材研究、技法研究が深められる。					○									
・より主体的に物事を捉え研究・制作に打ち込められる。							○							
・横断的にジャンルを越えた制作も視野に考えられる。							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス					事前に各授業科目Ⅲの中で詳細を話す。									
2.課題制作Ⅰ 課題の説明 素材・技法・テーマ設定					課題は各教科によって異なる。									
3. 材料準備・アイデア検討					準備物も各教科で異なる。									
4. 試作					試作の有無も各教科で異なる。									
5. 制作					制作方法も各教員の指示に従う。									
6. 修正					修正の有無も指示に従う。									
7 仕上げ・完成.					時間の足りない者は、空き時間を活用。									
8. 講評会					講評会で教員からフィードバック有り。									
9.課題制作Ⅱ 課題の説明 素材・技法・テーマ設定					課題は各教科によって異なる。									
10. 材料準備・アイデア検討					準備物も各教科で異なる。									
11. 試作					試作の有無も各教科で異なる。									
12. 制作					制作方法も各教員の指示に従う。									
13. 修正					修正の有無も指示に従う。									
14. 仕上げ・完成					時間の足りない者は、空き時間を活用。									
15. 講評会・プレゼンテーション					講評会で教員からフィードバック有り。									
履修上の注意														
非常勤講師担当科目を履修する学生は、生活美術学科教員より指導を仰ぐこととする。														
成績評価方法・基準														
課題作品50% 平常点(授業態度、取り組みの姿勢等)50%														
教科書 事前にプリント配布														
参考書 随時紹介する														
備考														
オフィスアワーを利用し、各教科の教員に質問等を積極的に行うこと。														

授業科目名	技法研究Ⅱ(洋画)			単位(総授業時間+自習時間)				2(60)							
担当者	北折 整	必・選	選必	形態	実技	学期	後期	対象	生美3年						
授業概要															
洋画Ⅲの学修を踏まえ、主体的に洋画表現を深め、個人の課題を十分意識した制作を指導する。従って3課題のすべてを自由制作とし、使用する画材料なども任意とする。そして、これまで学んできた専門的技術及び表現材料を活用した、個人の内面的なテーマ及びコンセプトの表現を実現させる。また、洋画表現の構成要素(作品の造形性、制作行為、発表活動、自己及び社会に及ぼす影響等)への包括的な理解を促がし、表現行為の意義を理解させる。															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・洋画表現の意義を社会・文化等との関係において理解することができる。								○							
・主体的・専門的な表現方法・技術による美術表現を自己実現につなげていくことができる。								○							
・美術活動(制作)を行うことで、社会の諸相に対する多様な視点を獲得することができる。								○							
授業計画の内容						自習(事前・事後学修の内容)／任意									
1. 授業の導入(科目・成績評価・画材等の説明)						課題に使用する画材の準備									
2. 制作Ⅰ自由制作(制作意図・エスキース)						課題の継続制作									
3. 〃 (全体的な把握)						〃									
4. 〃 (部分的な描きこみ)						〃									
5. 〃 (全体を踏まえた仕上げ)(講評会)						次回課題に使用する画材の準備									
6. 制作Ⅱ自由制作(制作意図・エスキース)						課題の継続制作									
7. 〃 (全体的な把握)						〃									
8. 〃 (部分的な描きこみ)						〃									
9. 〃 (部分的な描きこみ)						〃									
10. 〃 (全体を踏まえた仕上げ)(講評会)						次回課題に使用する画材の準備									
11. 制作Ⅲ自由制作(制作意図・エスキース)						課題の継続制作									
12. 〃 (部分的な描きこみ全体的な把握)						〃									
13. 〃 (部分的な描きこみ)						〃									
14. 〃 (全体を踏まえた仕上げ)						〃									
15. 〃 (全体を踏まえた仕上げ)(講評会)															
履修上の注意															
<ul style="list-style-type: none"> 制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。 講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。 															
成績評価方法・基準															
<ul style="list-style-type: none"> 課題(90%)と授業態度(10%) 課題については、授業中にフィードバックを行う。 															
教科書 ：特に指定しない。															
参考書 ：随時参考となる画集等を紹介する。															
備考															
<ul style="list-style-type: none"> ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。 															

授業科目名	技法研究Ⅱ（彫刻）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	佐藤 淳一	必・選	選必	形態	実技	学期	後期	対象	生美3年				
授業概要													
3年生前期までの造形思考、技術をさらに深化させて自己の造形思考を磨き、作品として完成させて公募展、グループ展、個展等で発表し、彫刻の可能性を研究させる。場と空間を意識するために身体感覚を活用し彫刻的感覚を鍛える。彫刻の造形要素である、場と空間、量感、動勢、表面をさらに研究し、アイデアスケッチやデッサンを重視し彫刻的造形力を鍛える。自己に合った素材を見出しその良さを場や空間にどのように活かせば良いのか研究させる。アイデアから展覧会実施までの作業を教授する。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
実材彫刻による造形を展開できる				○									
場と空間を活かして彫刻を設置できる					○		○					○	
作業や企画・実施を他と協働して行うことができる											○	○	○
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）									
1.授業内容、注意事項、評価方法説明、				シラバスを読む。課題提出									
2.作例研究（仙台市彫刻のある街づくり）				各作家作品集研究、課題提出									
3.作例研究（台原森林公園設置の彫刻）				各作家作品集研究、デッサン									
4.素材研究（石材、木材、金属、その他）				素材研究継続									
5.テーマ研究（現代日本の環境造形）				彫刻論、造形論研究、彫刻展研究									
6.場の研究1（デッサン、マケット制作）				制作継続									
7.場の研究2（設置空間研究）				制作継続									
8.制作1（面、塊と量感）				制作継続									
9.制作2（動勢）				制作継続									
10.制作3（全体と部分、空間）				制作継続									
11.制作4（細部、密度）				制作継続									
12.制作5（表面、密度）				作業到達目標まで進める									
13.制作6（地肌、密度）				作業到達目標まで進める									
14.制作7（作品と場）				作業到達目標まで進める									
15.講評会（プレゼン）				制作のまとめ作成									
履修上の注意													
各種美術展の見学レポートの提出、時間外も自習する事。自分だけでなく他の人の作業の安全にも充分留意してください。													
成績評価方法・基準													
作品評価 40%、授業態度（集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%）提出レポート 20%（評価して返却します）													
教科書 授業前に資料配布													
参考書 〔彫刻をつくる〕〔美術出版社〕、〔ジャコメッティ〕〔みすず書房〕													
備考													
1回目から作業します。汚れてもよい作業できる服装で来てください。準備、清掃まで全員で行います。それもすべて彫刻の大切な内容になります、協力して作業してください。授業外の質問はオフィスアワーで対応します。													

授業科目名	技法研究Ⅱ(壁画)				単位 (総授業時間+自習時間)				2(60)					
担当者	森 敏美	必・選	選必	形態	実技	学期	後期	対象	生美3年					
授業概要														
壁画Ⅰ.Ⅱ.Ⅲで修得したモザイク・ステンドグラス・フレスコ等の技法を核に、各自がどの壁画のジャンルで応用して制作できるのか模索させる。場合によっては横断的に技法を組み合わせることも視野に入れさせる。また、建築アートとして制作、設置にあたる際は現場調査、様々な部署における手続き等のコミュニケーション力や状況に応じた倫理的思考力、創造力等を身につけさせる。卒業制作を視野に入れ素材の吟味、制作過程の確認、完成への道筋等を話し合い個々の制作ノートを作成させる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・壁画Ⅰ,Ⅱ,Ⅲで学んだ各技法の応用力を高められる。							○							
・壁画の具体的な制作認識を深めることが出来る。							○							
・様々な状況下でのコミュニケーション能力を高められる。							○							
授業計画の内容					自習(事前・事後学修の内容)									
1.ガイダンス:今まで取得した技法の中から選択し申告。					予め、何を選択するか検討する									
2.個々の計画表に従い、材料等の準備に入る。					予め材料等の用意発注を行う									
3.パネル等の準備および制作。					材料、用具を準備する									
4.下絵、マケット等の制作。					図書館等で資料をそろえておく									
5.本制作に入る前に教員との打ち合わせ。					制作ノートは準備しておく									
6.本制作に入る。					各技法書等を調べておく									
7.壁画制作における材料の吟味。					材料を予め精査する									
8.材料の加工。					各材料の量、大きさをそろえておく									
9.制作を進めてゆく。					制作ノートのチェック									
10.中間チェック。					制作における問題点等を挙げておく									
11.全体を見てゆく。					見直し部分の確認									
12.終盤に入る。					必要有れば制作時間の延長も									
13.詳細のチェック。					全体像の把握									
14.完成に入る。					講評会に向けたチェック									
15.講評会。					反省点、総括をメモ取りしておく									
履修上の注意														
壁画Ⅲ、研究授業Ⅰを履修しておくことが望ましい。														
成績評価方法・基準														
課題(制作)90%、平常点10%(平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する)														
課題に関しては、講評会を通して学生と相互に、作品に関するフィードバックを行う。														
教科書 資料配布(壁画制作の手引き)														
参考書 図書館、壁画工房内の壁画関連の図書														
備考														
空き時間を利用し制作を行う。オフィスアワー(授業終了時)の時間も有効に活用し質問等を行うこと。														

授業科目名	技法研究Ⅱ（視覚デザイン）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	三上 秀夫	必・選	選必	形態	実技	学期	後期	対象	生美3年				
授業概要													
デザインによる卒業制作を意識した素材研究・技法研究を行う授業である。個別指導を中心に、各自テーマを設定し取材・調査を通してデザイン制作を行う。課題制作の中間発表と最終プレゼンテーションはグループで行う。これまで獲得したデザインの知識・技能を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力と課題を主体的に解決する能力が身につくよう指導を行う。作品評価は平常の授業態度に加えプレゼンテーション時での作者の発言内容と他学生の意見を重視する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
知識・技能・態度を総合的に活用し活用することができる												○	
自らが立てた課題を主体的に解決する能力を身につける。													○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス 課題1「各自テーマを設定」テーマ設定					調査、資料収集を行う。								
2. 「各自テーマを設定」情報収集 技法・素材研究					資料を整理し、まとめる。								
3. 完成予想（図やマケット） 制作 材料準備					材料の購入を済ませておく。								
4. 制作 基本構造 制作 中間構造					制作を進める。								
5. 制作 細部・表面 制作 仕上げ					制作を進め、完成させる。								
6. 制作 設置計画					発表の手順等、準備をする。								
7. 発表 手直し 講評・まとめ					発表後の手直しをする。								
8. 課題2「各自テーマを設定」課題説明 「各自テーマを設定」テーマ設定					調査、資料収集を行う。								
9. 「各自テーマを設定」情報収集 技法・素材研究					資料を整理し、まとめる。								
10. 完成予想（図やマケット） 制作 材料準備					材料の購入を済ませておく。								
11. 制作 基本構造 制作 中間構造					制作を進める。								
12. 制作 細部・表面 制作 仕上げ					制作を進める。								
13. 制作 設置計画 制作 設置					制作を進め、完成させる。								
14. 発表 手直し					発表の手順等、準備をする。								
15. 講評・全体のまとめ					発表後の手直しをする。								
履修上の注意													
用具、材料については授業でその都度指示する。													
成績評価方法・基準													
提出課題（60%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。課題については、講評会でフィードバックを行う。													
教科書 無し 授業時にプリントを配布する													
参考書 無し													
備考													
授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名	技法研究Ⅱ(論文)			単位 (総授業時間+自習時間)				2(60)						
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美3年					
授業概要														
①複数の対象に関する調査を促す。②調査した内容に関する報告を課す。③調査のまとめが示唆することについて考察を促し、仮説の構築と立証を支援する。④主体的にテーマを選択させ、結論までの推論を支援する。⑤設定したテーマと結論までの推論について検証させ、論旨の適正について自己評価を促す。⑥エッセーの基本的要素と構成について教授する。⑦アウトラインを基に、エッセーの執筆を指導する。⑧エッセーに関するプレゼンと質疑応答の機会を設ける。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
論文のテーマを設定できる。									○					
論文を構成できる。														○
論旨を的確に展開できる。											○			○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. オリエンテーション:「レポートから論文へ」					エッセーテーマの列記									
2. (仮) テーマ設定					エッセー結論の推論 (レポート)									
3. 結論推論					テーマと推論の自己評価 (レポート)									
4. テーマと推論の評価					ワークシート記入									
5. テーマ決定					アウトライン (案) 作成									
6. アウトライン (作成)					ワークシート記入									
7. トピック (事例)					序章 (トピックパラグラフ案) の作成									
8. トピック (作成)					ワークシート記入									
9. ボディ (事例)					ボディ (ドラフト) 作成									
10. ボディ (作成)					ワークシート記入									
11. コンクルージョン (事例)					結論 (案) の作成									
12. コンクルージョン (作成)					ワークシート記入									
13. リファレンスの書き方					参考文献一覧の作成									
14. アブストラクトの書き方					要旨の作成									
15. まとめ (プレゼン)					ワークシート記入									
履修上の注意														
毎回、課題を提示します。														
成績評価方法・基準														
提出課題の内容:70%(フィードバックを行う) プレゼンテーション:30%(フィードバックを行う)														
教科書 その都度、資料を配布する。														
参考書 その都度、資料を配布する。														
備考 オフィスアワー:2時間/1週 (曜日/時間については、初回授業の際に連絡する)														

授業科目名	技法研究Ⅱ（情報デザイン）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	鶴巻 史子	必・選	選必	形態	実技	学期	後期	対象	生美3年					
授業概要														
<p>技法研究Ⅱ（情報デザイン）では、情報デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲで修得した技法を応用し、生活の中や身の回りにある課題を見つけ、デザインによって問題を解決する力を身につける。情報デザインによる卒業制作を見据え、各自で課題を設定し、主体的に調査、研究、制作に取り組めるよう指導する。情報の収集、分析、選別、再構築というプロセスを通して、社会へ向けたデザイン価値の創出について包括的に学修し、実践する意義を理解させる。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
主体的に課題に取り組むことができる									○					
デザイン価値を創出し表現することができる							○			○				
プレゼンを通して他者に制作意図を伝えることができる														○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス					調査・制作準備									
2. 調査 情報収集					調査準備・情報収集まとめ									
3. 情報整理、課題を見つける					情報整理・課題のまとめ									
4. 解決方法、テーマ設定					解決方法に関する調査・テーマのまとめ									
5. 課題 アイデアスケッチ					アイデア整理・スケッチのまとめ									
6. デザイン検討					デザイン調査・デザインのまとめ									
7. 制作					制作準備・制作プロセスのまとめ									
8. 修正					制作技法の調査・制作プロセスのまとめ									
9. 中間プレゼンテーション					中間プレゼン準備・課題のまとめ									
10. デザイン再検討					デザイン調査・デザインのまとめ									
11. 制作					制作準備・制作プロセスのまとめ									
12. 修正					制作技法の調査・制作プロセスのまとめ									
13. 仕上げ					制作技法の調査・制作プロセスのまとめ									
14. プレゼンテーション準備					プレゼンに関する調査・課題のまとめ									
15. プレゼンテーション、リフレクション					プレゼン準備・課題のふりかえり									
履修上の注意														
<p>技法研究Ⅰ（情報デザイン）を履修していること。制作データはUSBメモリ等に保存し持参する。教材・材料費（500円）を徴収する。</p>														
成績評価方法・基準														
<p>課題（制作物、プレゼンテーション）70%</p> <p>出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢等）30%</p> <p>課題作品については、授業中にフィードバックする。</p>														
教科書 適宜指示する														
参考書 適宜指示する														
備考														
<p>受講人数等の状況により課題内容を変更することがある。</p> <p>質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。</p>														

授業科目名	技法研究Ⅱ（版画）			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)				
担当者	大堀 恵子	必・選	選必	形態	実技	学期	後期	対象	生美3年				
授業概要													
<p>版画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学修した版の技法を基に、各自の制作方法を実技を通して確立することが目標である。版画は、版という間接的な素材と製版工程、印刷工程を経ることによって絵画表現とは異なった表現効果がある。これらの試行錯誤を自身の制作ノートの中に記録として残し、学内外への展示を通して自己の作品を客観視できる能力と、より専門分野についての深い理解力と、作品制作における創造的思考力を総合的に活用し、制作の充実がはかれるように指導する。</p>													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
版の基礎的な技法と工程を理解し身につけることができる。						○							
展覧会を見て得た情報を整理し制作に生かす手法を習得する						○							
皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。						○							
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス				記録するための制作ノートを用意する。									
2. 学内外用作品制作－テーマ・エスキース				2回作業内容をまとめ次回提出。									
3. 版制作				3回作業内容をまとめ次回提出。									
4. 製版				4回作業内容をまとめ次回提出。									
5. 試刷り				5回作業内容と課題をまとめ次回提出。									
6. 本刷り				6回作業内容と課題をまとめ次回提出。									
7. プレゼンテーション				7回作業内容をまとめ次回提出。									
8. 学内外用作品制作－テーマ・エスキース				8回作業内容をまとめ次回提出。									
9. 版制作				9回作業内容をまとめ次回提出。									
10. 製版				10回作業内容をまとめ次回提出。									
11. 試刷り				11回作業内容と課題をまとめ次回提出									
12. 本刷り				12回作業内容と課題をまとめ次回提出									
13. 本刷り－支持体検討				13回作業内容と課題をまとめ次回提出									
14. プレゼンテーション				14回作業内容をまとめ次回提出。									
15. 講評会				講評会の内容をまとめること。半期の授業の感想を400字でまとめて、制作ノートといっしょに提出する。									
履修上の注意													
制作ノートにそれぞれの制作の試行錯誤をまとめ記録する。													
成績評価方法・基準													
ループリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。													
課題と作業内容のまとめは、授業中にフィードバックをします。提出されたレポートは、後日添削し返却する。													
1 課題作品（50％） 2 制作ノート（30％） 3 受講態度（積極的に参加している 20％）													
教科書 授業前にプリントを配布する。													
参考書 画集等を紹介する。													
備考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。													

授業科目名		技法研究Ⅱ（染織）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)						
担当者	佐々木 輝子	必・選	選必	形態	実技	学期	後期	対象	生美3年						
授業概要															
<p>染織Ⅰ～Ⅲの染織実習から習得した技法を選択し、綿密に作業計画を立て、イメージを具現化して制作を行う。4年次の卒業研究を踏まえ、技法・材料研究を行い、制作過程に必要なプロセスを確認し、論理的展開力を身に付けられるよう指導する。授業形態はアクティブラーニングを導入し、提案・検討を重ね、活発な意見交換を通じて協働して学ぶ態度を養い、社会に即応できる能力の向上を図る。ポートフォリオの作成・発表を行い、各自のテーマ、デザイン性を深めると共に、表現に必要な課題を発見・解決できるよう指導する。</p>															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
制作過程に必要なプロセスを理解し、技術を身につける。						○		○							
染色及び織に関する専門的な知識・技術を身につける。						○		○							
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス 授業概要						作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ									
2. 研究内容の設定						作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ									
3. 参考資料収集① 技法について						技法に関する研究・制作ノートのまとめ									
4. 参考資料収集② 素材について						素材に関する研究・制作ノートのまとめ									
5. 下図作成						下図作成・制作ノートのまとめ									
6. 下図原寸拡大						下図作成・制作ノートのまとめ									
7. 染料・素材の決定						素材に関する資料準備・制作ノートのまとめ									
8. 整経						制作準備・制作ノートのまとめ									
9. 箆通し						制作準備・制作ノートのまとめ									
10. 綜統通し						制作準備・制作ノートのまとめ									
11. 織り①（下部）						作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ									
12. 織り②（中央部）						作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ									
13. 織り③（上部）						作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ									
14. 端糸の始末 仕上げ						講評会用備品準備・制作ノートのまとめ									
15. 講評会						講評会準備・制作ノートを完成させる									
履修上の注意															
<p>染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。 作品に使用する材料は、各自購入すること。 染織Ⅰ、染織Ⅱ、染織Ⅲを履修していること。</p>															
成績評価方法・基準															
<p>提出課題（80%）、授業態度（20%）で評価します。 作品課題については、授業中にフィードバックします。</p>															
教科書 授業前にプリントを配布する。															
参考書 〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4,200円〕															
備考															
<p>受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。 質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。</p>															

授業科目名		技法研究Ⅱ（陶芸）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)						
担当者	立花 布美子	必・選	選必	形態	実技	学期	後期	対象	生美3年						
授業概要															
前半の課題として、ろくろ成形において更に高度な技術を修得するため、大物水挽きを反復練習し、様々な表現ができるよう指導する。後半の課題として、様々な素材による制作方法（ろくろ制作、オブジェ）、装飾を試み、卒業研究へとつなげていく授業である。大物課題の窯詰め方法を教授し、卒業研究時には各自が窯詰め作業をスムーズに行えるよう判断力を身につけ、これまでに習得した陶芸の知識を活かしながら研究計画を立てられるよう指導していく。															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
ろくろ制作において高度な技術の修得、知識理解を深めることができる。								○							
大物制作における表現、想像力を身につけ、意欲的に取り組むことができる。								○							
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス 菊練り練習（3～5kg）						様々な大物ろくろ挽き法について予習									
2. 電動ろくろ成形（亀板使用）大物土殺し練習						道具(ダンゴ、亀板)について予習									
3. 各自粘土の種類を選択 大物土殺し練習															
4. 大物土殺し練習 ダンゴの使用															
5. ①-1 中鉢・大鉢 制作						様々な形の名称を予習									
6. ①-2 削り仕上げ															
7. ②-1 大皿・ドラ鉢 制作															
8. ②-2 削り仕上げ															
9. ③-1 壺 制作															
10. ③-2 削り仕上げ 卒業研究制作内容のディスカッション						様々な素材、装飾法など資料収集しておく									
11. ①各卒業研究内容に応じた制作															
12. ②各卒業研究内容に応じた制作															
13. ③各卒業研究内容に応じた制作、仕上げ															
14. ④各卒業研究内容に応じた制作、仕上げ															
15. 窯出し 講評 卒業研究内容の検討等						まとめ									
履修上の注意															
<ul style="list-style-type: none"> ・各自の計画表に沿って作業を進めること。 ・遅刻・欠席のルールとして、遅刻3回で欠席1回とする。 															
成績評価方法・基準															
<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加状況 50%（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品 50% ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。 															
教科書 授業前にプリントを配布する															
参考書 〔新技法シリーズ 102 陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3,080円〕 〔陶芸を学ぶ②〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7,480円〕															
備考															
<ul style="list-style-type: none"> ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。 ・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。 															

授業科目名	技法研究Ⅱ（日本画）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)							
担当者	安住 英之	必・選	選必	形態	実技	学期	後期	対象	生美 3年						
授業概要															
<p>展示・発表の段階までを視野に入れた企画立案、および作品制作の実習を行わせる。個々のテーマを効果的に伝えるための展示空間を想定し、空間演出の観点によって作品点数やサイズ、配置方法などを計画した上で制作を行わせる。複数作品の組み合わせ、または 20 号サイズ以上の作品 1 点の制作を課題とさせる。日本の生活・文化・建築などと深く関わりながら進化を遂げた様式美としての日本画を念頭に置き「現代の表現としてその技法をどう活かすか」という視点を養わせる。</p>															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
「現代における日本画」の意味を考察できる。								○							
自己のスタイルを模索できる。								○							
展示空間を意識する感覚を養うことができる。								○							
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）									
1. 導入 科目の説明						東洋、日本の絵画の鑑賞。									
2. 構想						モチーフやテーマの模索。									
3. 展示図面作成						出来るだけ対象を観察し描写をする。									
4. エスキース（小下図）制作開始						観察出来ていないと気づいたところを丁寧に描き込んでおく。									
5. エスキース（小下図）制作仕上げ						デッサンを常に見返しておくこと。									
6. 意図と計画の説明 水張り						仕上がりイメージし、構図とともに細部も確認する。									
7. トレース						骨描きのため線の引き方を練習する。									
8. タブロー（本画）骨描き						墨のぼかしの練習をする。									
9. タブロー（本画）墨による陰影描き込み						墨の陰影の適確さと美しさの確認。									
10. タブロー（本画）墨による陰影仕上げ						備品の技法書等で下地について下調べをしておく。									
11. タブロー（本画）下地作り・下塗り						備品の技法書等で水干と岩絵の具について下調べをしておく。									
12. タブロー（本画）水干及び岩絵の具による制作開始						出来るだけ制作を進める。膠の管理。									
13. タブロー（本画）水干及び岩絵の具による描き込み						出来るだけ完成度を高めるべく制作する。膠の管理。									
14. タブロー（本画）水干及び岩絵の具による仕上げ						描き始めのイメージを思い起こし、現状をよく認識する。									
15. 講評						難しかった点、努力した点をまとめておく。									
履修上の注意															
<p>丹念に対象を観察すること。必要な知識、技法を積極的に習得すること。 毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。</p>															
成績評価方法・基準															
<p>課題作品 70%（完成度 50% 意図・発想 20%） 授業態度 30%（出席数。創作意欲や、創作の自主性等） 講評会等でフィードバックを行う。</p>															
教科書 無し															
参考書 無し															
備考															
<p>授業日 12 時半から 13 時までをオフィスアワーとする。スケッチブック、鉛筆、練り消しを常備すること。</p>															

授業科目名	技法研究Ⅱ（漆芸）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	井上 直美	必・選	選必	形態	実技	学期	後期	対象	生美 3年					
授業概要														
漆芸の中でも高度とされる乾漆技法を学ばせ、造形としても展開できる漆の特性と可能性を追求させる。個性の表現を楽しみながら表現出来る力を身に付けさせる為に、後期は前期に制作した作品の塗りや加飾、仕上げを指導する。乾漆の素地を脱乾し、整えながら表と裏を塗り重ねて行く。黒塗りが完成したら色漆塗りや色漆を使った変わり塗り、蒔き絵（螺鈿、卵殻も含む）、漆絵などで施色や加飾をさせる。加飾は自由課題とし、漆による様々な表現と意匠力を養わせる。作家としてエンドユーザーのニーズにあった表現が出来ているかを指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
脱乾を正確に出来る。							○							
曲面など柔軟な面に対して研ぎと塗りを完成させる事が出来る。							○							
作品に対して効果的な加飾が出来る。							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.脱乾・縁の調整・固め・黒中					脱乾出来る様に縁の始末を終了させておく									
2.捨て塗り					脱乾を終了させておく									
3.研ぎ 黒中 1 内					脱乾面を固めておく									
4.研ぎ 黒中 1 外					外側の捨て塗りを終了させる									
5.研ぎ 黒中 2 内					内側の捨て塗りを終了させる									
6.研ぎ 黒中 2 外					捨て 塗り 研ぎを追加しておく									
7.色漆塗り 内 1					黒中の塗りと研ぎを追加しておく									
8.色漆塗り 外 1					色漆を決定しておく									
9.貝 卵殻 貼り					色漆を練って濾しておく									
10.塗り込み 1					貝、卵殻、貼りを完成させておく									
11.研ぎ出し 述べ摺り					研ぎ出しを終了させておく									
12.生摺り 1					述べ摺りの追加をしておく									
13.生摺り 2					生摺りの追加をしておく									
14.磨き 蒔き絵 銀粉 金粉					蒔き絵を完成させておく									
15.仕上げ					仕上げ工程を終了させる									
履修上の注意														
作業着を着用の上、授業に臨む。漆かぶれに注意しながらすすめる。														
成績評価方法・基準														
授業態度（50%）→意欲、積極性、理解度など														
作品進度（50%）→完成度、デザイン、センス、個性の表現														
講評会でフィードバックする。														
教科書 授業中に適宜資料を配布します。														
参考書 〔やさしく身に付くうるしのはなし 1-4〕〔日本漆工協会〕〔2,160 円〕														
備考														
質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーに受付けます。														

授業科目名	技法研究Ⅱ（グラスアート）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	森合 暢子	必・選	選必	形態	実技	学期	後期	対象	生美3年					
授業概要														
<p>グラスアートⅠで得た耐熱ガラスの知識と講師が理化学ガラス製作の実務経験で得た基礎的な酸素バーナーワークの技術を習得し、よりステップアップした、色の組み合わせや耐熱ガラスの副資材を使った高度な技術を教える。講師が生徒の要望に沿った実演をすることで具体的なイメージが湧き、生徒が自分の世界観を耐熱ガラスで自由に表現できるように指導する。また電気炉を使った徐冷方法や、フュージングというガラス制作技法も教える。さらに下に敷く布の素材やアクリル展示台など展示方法のアドバイスをし、ガラスの安全で美しい見せ方も指導する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
①安全確実なバーナーの取り扱いが出来るようになる。							○							
②高度なバーナーワーク技法を習得する。							○							
③自分でイメージした世界観をガラスで作れるようになる。							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス 授業の流れの説明 製作実演					指定する参考書かガラス関連の本に目を通しておく。									
2. 安全な作業の手順（復習）ガラスを溶かす。					配布したプリントを読んでおく。									
3. ガラスを溶かし自由造形をする					事前に参考書籍やプリントを読む。									
4. 基本動作の確認					事前に参考書籍やプリントを読む。									
5. リクエストの実演 上級テクニック					事前に作りたい物の絵や資料を用意する。									
6. " (例) 立体花					“									
7. " (例) ウミウシ					“									
8. " (例) ペンギン					“									
9. " (例) マンボウ					“									
10. " (例) プードル					“									
11. " (例) 雪の結晶					“									
12. " (例) ガラスビーズ					“									
13. " (例) タツノオトシゴ					“									
14. 自由制作					事前に展示方法を考える									
15. 講評会					授業後、皆の作品と自分の作品の違いを見て、まとめる									
履修上の注意														
安全のため、服装や髪型（結ぶ）など講師の指示に従うこと。														
成績評価方法・基準														
授業中の態度（50%） 制作への姿勢（50%） 講評会での作品はその日のうちに返却します。講評会でフィードバックを行います。														
教科書 プリント配布														
参考書 〔家庭ガラス工房バーナーワーク〕〔松村潔〕〔ぽるぷ出版〕〔2,800円〕														
備考														
<ul style="list-style-type: none"> ・材料費を徴収。 ・質問等は授業中に受け付けます。 														

授業科目名	技法研究Ⅱ（人形）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	福田 一実	必・選	選必	形態	実技	学期	後期	対象	生美3年					
授業概要														
<p>創作人形作家として会得した技術などをもとに「人形」とのかかわりについて深く探求させ、人形Ⅰ～Ⅲで習得した技術を基に、オリジナルの創作人形を制作させる。また、人体の造形についても追求し作品としての完成度をあげられるよう指導する。作品はイメージをふくらませて実寸大でデッサンをさせ、設計図を作り、人形のキャラクター、人形の在り方について考えながら、球の分割も含めて自分の表現が出来るように指導する。サイズは50cm以上を1体か50cm以内の自由なサイズ2体のいずれかの創作人形を完成させる。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
人形の造形について研究しながら学ぶことができる。							○							
球体関節人形を制作するための技法を理解することが出来る。							○							
オリジナルな人形を完成させる。							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。					完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。									
2.下図を元に型紙をつくり、心材にあててカッター等で削り形をつくる。					解剖学の本などを参考にし、人体の研究をする。									
3.芯を削り、形を作る。														
4.粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。					しっかり乾燥させてくる。									
5.ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。					顔の造形、表情について観察してくる。									
6.手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。					やすりがけ									
7.足、脚の造形。					やすりがけ									
8.乾燥させ、すべてを磨く。間接部を切断。					やすりがけ									
9.芯材を抜き、頭部に瞳を入れ、頭部に耳を造形する。球を作る。					やすりがけ									
10.球を磨き、各関節に固定する。頭部を閉じる。					穴を開ける場所をしっかりと確認する。									
11.球に対する受けを作る。各球に穴を開け、ステンレス線を頭、手、足に固定する。					全体のバランス確認。									
12.仮組をし、やすりをかけ、調整する。					細かなキズなどをチェックする									
13.塗装する。着色、メイク。					メイクのイメージ、資料集め									
14.髪を貼る。					ヘアスタイルのイメージ、資料集め									
15.組み立て完成させる。講評。														
履修上の注意														
人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。														
成績評価方法・基準														
課題作品 50%、授業態度 50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）講評会でフィードバックします。														
教科書 〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2,880〕														
参考書 〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2,700〕														
〔はじめて作る球体関節人形〕〔アイミ〕〔秀和システム〕〔2,000〕														
〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3,200〕														
備考 ルーブリック評価については第一回目の授業で説明します。 質問等については授業終了時にオフィスアワーで受け付けます。														

授業科目名	技法研究Ⅱ (マンガ)				単位 (総授業時間+自習時間)				2(60)					
担当者	鹿野 明子	必・選	選必	形態	実技	学期	後期	対象	生美3年					
授業概要 読者に与える感情効果を的確に行うための指導を行う。その為に先人の漫画家の諸先生達が築き上げたマンガの幅広い技術とよりよい表現を修得する為、例を挙げて示し自ら考え実践できるよう指導する。マンガを構成する重要な要素「画力」「ストーリー」「ロジック」のスキルアップをねらった課題を課す。画力を上げる為のデッサンやイラスト力の基礎の大切さを理解させる。ストーリーを作成するための方法を指導する。マンガにおけるロジックの実例を示し説明する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
マンガ作品を制作する事で他者を楽しませ、社会と関わることが出来る。							○							
主題が伝わる技術と表現を考察試行し身につけられる。							○							
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1.ガイダンス 技法研究1 人体と表情					映画やテレビ等でさまざまな表情とポーズをクロッキーする。人体の構造を調べできる限り覚える。									
2.技法研究2 パースペクティブ					写真などを用い、透視法を用いる風景を数多くスケッチする。									
3.技法研究3 質感とオブジェクト					描画ツールの特性を理解し生かすために、できるだけ多くの事物を描き研究する。									
4.制作Ⅰ 構想 (ストーリー)					興味のある題材やモチーフ等について、調査と資料収集をしておく。									
5.制作Ⅱ シナリオ					何度も読み直す。特に台詞を、短くてもたくさんのがわかりやすく伝わるようによく練る。									
6.制作Ⅲ シナリオのチェックと修正 ネーム①					次回講義で修正できるよう、ネームを完成させておく。									
7.制作Ⅳ ネーム②														
8.制作Ⅴ ネームのチェックと修正					主題が伝わるか、全体のメリハリに着目し修正を加える。									
9.制作Ⅵ ペン入れ① 枠線、ふきだし、人物-1					毎回丁寧な作業を心がける。									
10.制作Ⅶ ペン入れ② 人物-2、背景-1														
11.制作Ⅷ 背景-2														
12.制作Ⅸ 演出 (ロジックの導入)														
13.制作Ⅹ 仕上げ①														
14.制作Ⅺ 仕上げ②														
15.まとめ、講評会 (学生にフィードバックを行う)					自身の作品を客観的にとらえ、これからの制作に経験をどう生かしていくか考える。									
履修上の注意 自身に合った画材を用意する。必須ではないが、デザイン・絵画・製図の知識と技術は課題の作成の大きな力となる。興味のある分野の研究をし、深い知識を得られること。制作に必要な事象の調査取材ができること。遅刻3回で欠席1とする。														
成績評価方法・基準 課題作品 70% 授業態度 30% 課題提出の際、フィードバックを行なう。														
教科書 なし														
参考書 なし														
備考 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。オフィスアワーはガイダンスにて公表する。														

授業科目名	卒業研究Ⅰ(洋画)				単位(総授業時間+自習時間)				6				
担当者	北折 整	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美4年				
授業概要													
<p>大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した卒業制作(洋画)の予備的な制作を指導する。洋画Ⅲ及び技法研究(洋画)の履修を踏まえ、個人の課題に沿って主体的に制作を進めさせ、特に課題発見から構想、制作までのプロセスや計画性を重要視する。従って、都度制作上の問題点を明確に整理するために、「制作ノート」の作成を課す。また、制作にはある程度の完成度が要求されるが、卒業研究Ⅱに繋がることを意識させ、美術表現の意義についても十分に理解させる。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・これまでの総ての学修を統合し、洋画表現の意義を社会・文化等との関係において十分理解することができる。							○					○	
・主体的に専門的な表現方・技術による美術表現を自己実現につなげていくことができる。							○						○
・美術活動(制作)を行うことで、生活文化の諸相に対する多様な視点を理解することができる。							○						
授業計画の内容					自習(事前・事後学修の内容)								
1～3.授業の説明					過去課題等のまとめ								
4～6.過去学修の振り返り、資料収集、計画立案等					関係資料等のまとめ								
7～9.ドローイング制作(テーマ設定)					課題の継続制作(ドローイング)								
10～12. 〃 (表現技術の確認)					〃 (画材の選択)								
13～15.制作Ⅰ(エスキース制作等)					課題の継続制作・制作ノート作成(制作Ⅰ)								
16～18. 〃 (描画)					〃 (全体・部分描写)								
19～21. 〃 (描画/仕上げ/講評会)					〃 (仕上げ)								
22～24.制作Ⅱ(エスキース制作等)					課題の継続制作・制作ノート作成(制作Ⅱ)								
25～27. 〃 (描画)					〃 (全体描写)								
28～30. 〃 (描画)					〃 (部分描写)								
31～33. 〃 (描画/仕上げ/講評会)					〃 (仕上げ)								
34～36.制作Ⅲ(エスキース制作等)					課題の継続制作・制作ノート作成(制作Ⅲ)								
37～39. 〃 (描画)					〃 (全体描写)								
40～42. 〃 (描画)					〃 (部分描写)								
43～45. 〃 (描画/仕上げ/講評会)					〃 (仕上げ)								
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> 制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。 講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。 													
成績評価方法・基準													
<ul style="list-style-type: none"> 課題(90%)と授業態度(10%) 課題については、授業中にフィードバックを行う。 													
教科書 ：特に指定しない。													
参考書 ：随時参考となる画集等を紹介する。													
備考													
<ul style="list-style-type: none"> ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。 													

授業科目名	卒業研究 I (彫刻)			単位 (総授業時間+自習時間)				6					
担当者	佐藤 淳一	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美 4 年				
授業概要													
3 年間で修得した造形思考、技術をさらに深化・発展させて自己の造形思考を磨かせる。彫刻作品として今までの研究成果を完成させ、卒業制作展で発表させる。そのなかで現代彫刻としての可能性を研究させる。彫刻の基礎的造形要素や空間を意識した、場と空間、量感、動勢、表面、をマケットにより試行し研究する。アイデアスケッチやデッサンを重視し十分に自己のイメージを制作ノートに展開する中で、創造力を鍛える。自己に合った素材を見出しその良さをどのように引き出せば良いか試行し、研究させる。アイデアから制作までの作業を教授する。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
実材彫刻による造形を発想し展開できる						○							○
設置場所に対して意識し彫刻を構想できる						○		○		○	○	○	○
作業を他と協働して行うことができる												○	○
授業計画の内容				自習 (事前・事後学修の内容)									
1～3 回.授業内容、卒制の動機付け、評価方法説明、				シラバスを読む。課題提出									
4 回.意識の確立、地域と自己作品の関係性、制作ノート				各作家作品集研究、課題提出									
5～8 回.テーマ研究 (現在までの卒業制作、彫刻)				各作品集研究、デッサン (制作ノート)									
9～12 回.テーマ研究 (他の卒業研究)				各作品集研究、デッサン (制作ノート)									
13～15 回.テーマ設定 (自己作品の振り返り)				彫刻論、造形論研究、彫刻展研究									
16～18 回.テーマ設定 (空間研究、場)				彫刻作品研究、アートプロジェクト研究									
19 回.テーマ確認 デッサン、構想				制作継続、制作ノート作成									
20～22 回.素材研究 粘土				制作継続、制作ノート作成									
23～25 回.素材研究 FRP				制作継続、制作ノート作成									
26～28 回.素材研究 テラコッタ				制作継続、制作ノート作成									
29～33 回.素材研究 石材				制作継続、制作ノート作成									
34～38 回.素材研究 木材				制作継続、制作ノート作成									
39～41 回.素材研究 鉄材				制作継続、制作ノート作成									
42～44 回.素材研究 その他				制作継続、制作ノート作成									
45 回.講評、中間審査				制作のまとめと今後の展開作成									
履修上の注意													
各種美術展の見学レポートの提出、時間外も制作する事。充分担当と打ち合わせし、自分だけでなく他の人の安全にも留意して制作すること。													
成績評価方法・基準													
作品評価 40%、授業態度 (集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%) 制作ノート (提出レポート含む) 20% (評価して返却します)													
教科書 授業前に資料配布													
参考書 授業前に資料配布													
備考 4年間の制作のまとめとして充分準備を行うこと。質問はオフィスアワーでも受け付けます。													

授業科目名	卒業研究Ⅰ（壁画）				単位（総授業時間＋自習時間）				6				
担当者	森 敏美	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美４年				
授業概要													
<p>４年間の集大成として、卒業研究Ⅱに向け個々の取り組むべき課題を整理し十分なディスカッションを通して、明確な方向性を示させる。制作ノートを作成することにより、主観的、客観的に卒制のあり方を見ることが出来るのでコンセプトをしっかりとノートを作り確認させる。個々の世界観を醸し出せるよう、資料収集を念入りに行い、エスキースやマケットを何度も練り、技法の吟味を行い、場合によっては適切な下地を施し、マチエールの確認等も含め数点の小作品の制作をさせる。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・４年間の集大成を意識することで課題を浮き彫りにできる。							○					○	○
・制作ノートの中で、作品と社会の関わりを認識できる。												○	○
・エスキース・マケット制作により、技術的に向上できる。							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1～3回	導入:科目・課題の説明				計画表の作成(制作ノートを作る)								
4～6回	資料収集・エスキース・マケット研究				工房の書籍、ネット等の利用								
7～9回	支持体・材料研究				パネル材料等の準備								
10～12回	エスキース・マケット作成				日付等の記録をつける								
13～15回	ディスカッション				反省点、改善点等の確認								
16～18回	支持体・材料作成				パネル材料等の準備								
19～21回	エスキース・マケット作成				日付等の記録をつける								
22～24回	制作				全体を捉えてゆく								
25～27回	仕上げ				詳細部の確認								
28～30回	ディスカッション				反省点、改善点等の確認								
31～33回	支持体・材料作成				パネル材料等の準備								
34～36回	エスキース・マケット作成				日付等の記録をつける								
37～39回	制作				全体を捉えてゆく								
40～42回	仕上げ				詳細部の確認								
43～45回	講評会（フィードバックを行う）				卒業研究Ⅱに向けて総括する								
履修上の注意													
アトリエに各自のスペースが確保されているので、時間を有効に活用し、環境保全に努めること。													
成績評価方法・基準													
提出課題90%（テーマ性、表現力、計画性、完成度等）、平常点10%（授業態度、主体性等）制作等でフィードバックを行う。													
教科書 特に無し													
参考書 壁画工房等の資料、画集													
備考													
オフィスアワー（授業終了時）を有効活用し、卒制に関するを中心にわからないことは質問すること。													

授業科目名	卒業研究 I (視覚デザイン)				単位 (総授業時間+自習時間)				6				
担当者	三上 秀夫	必・選	選必	形態	実技	学期	前期	対象	生美 4年				
授業概要													
<p>これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用し、卒業制作に向けた新たな課題に自らが主体的に取り組む授業である。4年間の集大成に相応しい作品を完成させることを目的とし、作品づくりのための一連の計画の流れを確認し、情報収集、計画、材料の確認、加工をとおした制作について個別に指導を行う。最終的には、展覧会場(卒業制作展)での発表という外に向けた発信を意識した内容で進めるが、まず卒業研究 I では中間提出を目指して指導する。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
知識・技能・態度を総合的に活用し活用することができる												○	
自らが立てた課題を主体的に解決する能力を身につける。													○
授業計画の内容						自習 (事前・事後学修の内容)							
1~3. ガイダンス (授業の進め方、課題の発表、評価方法について)						過去の作品を整理する。							
4~6. テーマ設定 (調査方法、情報収集) 検討 作業						関係資料等のまとめをする。							
7~9. 完成予想 (図やマケット) 制作 材料準備						制作の継続 (準備)							
10~12. 完成予想 制作 基本構造 中間構造 細部・表面						(材料、道具の検討)							
13~15. 完成予想 制作 仕上げ 設置方法 サイズ確認 発表						制作の継続・制作ノート作成							
16~18. 完成予想から実際の作業、制作 テーマ設定 調査						(全体・部分制作)							
19~21. テーマ設定 情報収集						(仕上げ)							
22~24. テーマ発表 制作						制作の継続・制作ノート作成							
25~27. 制作 進行・日程 (発表) 制作ノート確認						(全体制作)							
28~30. 制作 技法研究 (技法確認)						(構造の確認)							
31~33. 制作 材料準備 (材料確認)						(色彩の確認)							
34~36. 制作 材料準備 (色彩計画)						制作の継続・制作ノート作成							
37~39. 制作 基本構造 (計画)						(全体制作)							
40~42. 発表 手直し						(部分制作) 発表の準備							
43~45. まとめ プレゼンテーション 卒業研究 I 提出						(仕上げ)							
履修上の注意													
用具、材料については授業でその都度指示する。													
成績評価方法・基準													
提出課題 (60%)、講評での発表の内容 (40%) で評価する。													
教科書 無し 授業時にプリントを配布する													
参考書 無し													
備考													
授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー (曜日日時は掲示で確認) に受け付けます。													

授業科目名		卒業研究Ⅰ(論文)			単位 (総授業時間+自習時間)					6			
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美4年				
授業概要													
①「卒業論文」の意味と目的について考察を促す。②複数の対象について調査と報告を課す。③調査のまとめが示唆することから、仮説の構築方法を指導し、その立証を支援する。④主体的にテーマを選択させ、結論までの推論を支援する。⑤設定したテーマと結論までの展開について検証させ、論旨の適正について自己評価を課す。⑥アウトラインを基に、卒業論文の執筆を支援する。⑦卒業論文に関するプレゼンと質疑応答の機会を設ける。⑧対話を重視し、課題発見から解決策の提案まで指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
問題を探求し、その問題に沿ったテーマを設定することができる。						○							
必要な参考資料等を収集/活用することができる。						○							
問題の分析及び、そのことに関する論理的な推論と考察ができる。									○				
テーマを的確に表現することができる。													○
論旨を論理的に展開することができる。											○	○	○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1. テーマ案-1 確認する内容：テーマ設定の背景について					課題：テーマ設定								
2. テーマ案-1 確認する内容：予想される論旨の展開について					課題：論旨の展開予想								
3. テーマ案-1 確認する内容：予想される結論について					課題：結論の予想								
4. テーマ案-1 評価する対象：背景					課題：テーマ設定の背景に関する評価								
5. テーマ案-1 評価する対象：論旨					課題：予想される論旨の展開に関する評価								
6. テーマ案-1 評価する対象：結論					課題：予想される結論に関する評価								
7. テーマ案-1に基づくドラフト(序章)の作成					課題：評価に基づく修正								
8. テーマ案-1に基づくドラフト(本文)の作成					課題：評価に基づく修正								
9. テーマ案-1に基づくドラフト(結論)の作成					課題：評価に基づく修正								
10. テーマ案-2 確認する内容：テーマ設定の背景について					課題：テーマ設定								
11. テーマ案-2 確認する内容：予想される論旨の展開について					課題：論旨の展開予想								
12. テーマ案-2 確認する内容：予想される結論について					課題：結論の予想								
13. テーマ案-2 評価する対象：背景					課題：テーマ設定の背景に関する評価								
14. テーマ案-2 評価する対象：論旨					課題：予想される論旨の展開に関する評価								
15. テーマ案-2 評価する対象：結論					課題：予想される結論に関する評価								
16. テーマ案-2に基づくドラフト(序章)の作成					課題：評価に基づく修正								
17. テーマ案-2に基づくドラフト(本文)の作成					課題：評価に基づく修正								
18. テーマ案-2に基づくドラフト(結論)の作成 テーマ決定					課題：評価に基づく修正								
19. 論文全体の構成案の作成(序章)					課題：序章構成案作成								
20. 論文全体の構成案の作成(本文)					課題：本文構成案作成								
21. 論文全体の構成案の作成(結論)					課題：結論構成案作成								
22. 論文全体の構成案の評価(序章)					課題：序章構成案評価								
23. 論文全体の構成案の評価(本文)					課題：本文構成案評価								
24. 論文全体の構成案の評価(結論)					課題：結論構成案評価								
25. 論文全体の構成案の修正(序章)					課題：序章構成案修正								

26. 論文全体の構成案の修正（本文）	課題：本文構成案修正
27. 論文全体の構成案の修正（結論）	課題：結論構成案修正
28. 論文全体の構成案の確定（序章）	課題：序章構成案作成
29. 論文全体の構成案の確定（本文）	課題：本文構成案作成
30. 論文全体の構成案の確定（結論）	課題：結論構成案作成
31. 序章の執筆指導（トピックパラグラフ）	課題：序章最初の段落の執筆
32. 序章の執筆指導（ボディー）	課題：序章 2 段落目以降の執筆
33. 序章の執筆指導（結論）	課題：序章最終段落の執筆
34. 序章の修正指導（トピックパラグラフ）	課題：序章最初の段落の修正
35. 序章の修正指導（ボディー）	課題：序章 2 段落目以降の修正
36. 序章の修正指導（結論）	課題：序章最終段落の修正
37. 序章の確認指導（トピックパラグラフ）	課題：序章最初の段落の確認
38. 序章の確認指導（ボディー）	課題：序章 2 段落目以降の確認
39. 序章の確認指導（結論）	課題：序章最終段落の確認
40. 全体のアウトライン（作成指導）	課題：全体のアウトラインの作成
41. 全体のアウトライン（修正指導）	課題：全体のアウトラインの修正
42. 全体のアウトライン（確認指導）	課題：全体のアウトラインの確認
43. 中間提出準備 1-提出書類作成	課題：提出書類作成
44. 中間提出準備 2-提出書類確認	課題：提出書類確認
45. 中間提出準備 3-プレゼン予行	課題：プレゼンのリハーサル
履修上の注意	
対象：生活美術学科アートインストラクターコース生 テーマ：美術教育に関する内容（原則）	
成績評価方法・基準	
テーマのオリジナリティー：30%、執筆過程：10% 内容：40%、プレゼンテーション：20%（フィードバックを行う）	
教科書 その都度、資料を配布する。	
参考書 その都度、参考資料を配布する。	
備考 オフィスアワー：2 時間 / 1 週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）	

授業科目名	卒業研究Ⅰ（情報デザイン）				単位（総授業時間＋自習時間）				6				
担当者	鶴巻 史子	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美4年				
授業概要													
卒業制作Ⅰ（情報デザイン）では、1～3年次に学んだ基礎科目・専門科目・応用科目の集大成としてさらなる発展を目的とし、個別に対話しながら研究と作品制作に取り組む。個々に制作計画を立案し、作業プロセスを組み立てながら実践することによって自己管理能力を養う。現代社会におけるデザインの役割について考察し、問題点を見つけ、自ら解決策を導き出し、デザインを構築する力を身につける。中間審査会に向けて、正確に、わかりやすく伝えるための表現やプレゼンテーションができるよう指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
デザインの役割について考察し、表現できる										○		○	
問題点を見つけ、解決策を導き出し、デザインを構築できる									○				○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1回：ガイダンス					研究に関する調査、制作プロセスまとめ								
2～5回：研究テーマ設定					研究テーマの調査、制作プロセスまとめ								
6～10回：研究テーマに関する調査					研究テーマの調査、制作プロセスまとめ								
11～15回：研究計画の作成					研究テーマの調査、制作プロセスまとめ								
16～20回：デザインスケッチ制作					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
21～25回：モックアップ制作					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
26～30回：デザイン検討					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
31～39回：本制作					制作技法の調査、制作プロセスまとめ								
40～42回：プレゼンテーション準備					プレゼン準備、制作プロセスまとめ								
43～44回：プレゼンテーション、講評、リフレクション					プレゼン準備、制作プロセスまとめ								
45回：中間審査会					制作プロセスをデータにまとめる								
履修上の注意													
技法研究Ⅱ（情報デザイン）を履修していること。制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。													
成績評価方法・基準													
課題（制作物、プレゼンテーション）80%													
出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢、リフレクションジャーナル等）20%													
作品課題については、授業中にフィードバックする。													
教科書 適宜指示する													
参考書 適宜指示する													
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		卒業研究Ⅰ（版画）			単位（総授業時間＋自習時間）				6					
担当者	大堀 恵子	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美4年					
授業概要														
日本又は、諸外国の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べる。美術館、図書館を効果的に活用し日本の版画の伝統と文化に対する美術文化の理解を深め思考力、創造的実践力を高めることを目標とする。これまでに版画Ⅰ～Ⅲで獲得した知識、技能、を総合的に活用し、作品のコンセプト、技法、支持体についての試作を重ね制作ノートに記録し、制作の充実が図れる能力を修得する。卒業制作をとおして、社会の一員としての責任を果たす生涯学習力が身につけられるように指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
版の総合的な技法と工程を理解し身につけることができる。							○							
展覧会を見て得た情報を整理し制作に生かす手法を習得する														○
皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。												○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1回 ガイダンス					記録するための制作ノートを用意する。									
2～5回 テーマ設定・年間計画表作成（事前ポートフォリオを参考）					各作業ごとに内容をまとめ次回提出。									
6～10回 制作・技法研究試作					技法の試作内容をまとめ次回提出。									
11～15回 制作・支持体研究試作					支持体の試作内容をまとめ次回提出。									
16～23回 制作・原寸大イメージへ展開					イメージの内容をまとめ次回提出。									
24～34回 制作・版表現へ展開・描写					作業ごとに内容をまとめ次回提出。									
35～40回 制作・版表現へ展開・印刷					作業ごとに内容をまとめ次回提出。									
41～44回 制作ノートのまとめ（計画表、コンセプト、大きさ、版種、技法、支持体）					制作ノートのまとめを行ない、プレゼンテーションの準備をする。									
45回 中間審査														
履修上の注意														
ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。														
作業内容のまとめは、授業中にフィードバックをします。														
1.提出課題（技法、計画性、創意工夫、完成度80%） 2.制作ノート又はポートフォリオ（20%）														
成績評価方法・基準														
作業内容のまとめは、授業中にフィードバックをします。														
1.提出課題（技法、計画性、創意工夫、完成度80%） 2.制作ノート又はポートフォリオ（20%）														
教科書 授業前にプリントを配布する。														
参考書 画集等を紹介する。														
備考														
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。														

授業科目名	卒業研究Ⅰ（染織）			単位（総授業時間＋自習時間）				6			
担当者	佐々木 輝子	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美4年		
授業概要											
技法研究Ⅰ・Ⅱで設定した研究テーマを基に材料研究・試作等を行う。制作意図を明確にし、綿密な計画をたて、4年間の集大成として完成度の高い作品を制作できるよう指導する。制作のみに留まらず、必要に応じて繊維製品関連施設の課外研修等を実施し、社会に即応した実践力を身に付け、地域社会に貢献できる能力の習得・向上も図ることができるよう指導する。これまでに獲得した染織に関する知識・技能等を総合的に活用し、自らが立てた計画を適用し、その課題を主体的に解決する能力を養えるよう指導する。											
授業の到達目標				学位授与の方針との関連							
				1	2	3	4	5	6	7	8
染織に関する高度な専門知識を身につける。						○				○	○
制作計画を適用し、自ら主体的に課題を解決する能力を身につける。						○					○
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）							
1回：ガイダンス 課題説明				作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ							
2回～3回：研究内容の設定				作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ							
4回～10回：参考資料収集				参考資料収集・制作ノートのまとめ							
11回～12回：年間計画				年間計画案の作成・制作ノートのまとめ							
13回～18回：エスキース				エスキース案作成・制作ノートのまとめ							
19回～22回：下図作成				下図案の作成・制作ノートのまとめ							
23回～28回：下図 原寸拡大				下図制作・制作ノートのまとめ							
29回～30回：材料実験① 素材の検討				制作準備・制作ノートのまとめ							
31回～32回：材料実験② 染料の検討				制作準備・制作ノートのまとめ							
33回～34回：染料・素材の決定				材料の準備・制作ノートのまとめ							
35回～38回：材料準備				制作準備・制作ノートのまとめ							
39回～42回：試作制作				制作準備・制作ノートのまとめ							
43～44回：中間審査準備 記録整理				作品提出準備・制作ノートのまとめ							
45回：作品提出				作品提出準備・制作ノートを完成させる							
履修上の注意											
染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。 作品に使用する材料は、各自購入すること。											
成績評価方法・基準											
提出課題（80%）、授業態度（20%）で評価します。 作品課題については、授業中にフィードバックします。											
教科書 適宜指示する。											
参考書 〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4,200円〕											
備考											
質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。											

授業科目名	卒業研究Ⅰ（陶芸）			単位（総授業時間＋自習時間）				6												
担当者	立花 布美子	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美4年											
授業概要																				
<p>これまでに修得した技法・技術を駆使し、独創性のある完成度の高い作品を制作するため、様々な素材において技法研究を充分に行った上で、作品のテーマ設定をし、綿密な計画性を持って中間提出までの制作に取り組めるよう指導する。研究テーマに関連した参考文献、参考資料の収集、展覧会鑑賞に勉めディスカッションを重ねる。また、焼成は各自が責任を持って行うため、制作ノート（テストピース等の焼成データ、グラフ作成）の指導を行い、プレゼンテーションまでを想定した本制作に入らせる。</p>																				
授業の到達目標				学位授与の方針との関連																
				1	2	3	4	5	6	7	8	9								
卒業研究において自己管理能力を高めることができる。																			○	
卒業研究における独創的、創造的思考力を高めることができる。																				○
これまでに修得した技法・技術の高度な専門知識を、美術を学ぶ意味と関連付けて表現することができる。						○														
授業計画の内容							自習（事前・事後学修の内容）													
1回：ガイダンス		27回：釉薬原料の微調整		制作ノート確認時に各自設定した計画表の見直し、修正を行い研究を進めていく。																
2回：年間計画の打ち合わせ 計画表作成		28回：釉薬原料の微調整 制作ノート確認③																		
3回～4回：テーマ、デザイン、 プレゼン等の打合せ		29回～30回：完成した釉薬の調合																		
5回～9回：資料収集		31回～34回：マケット制作																		
10回：テストピース生地制作 制作ノート確認①		35回：マケット制作 焼成 制作ノート確認④		粘土・釉薬原料の発注、 を各自で行うようにする。 焼成実験を含め、他学生 と協力して行うよう、焼 成日程を組む。																
11回～14回：テストピース生地制作		36回～39回：マケット制作 焼成																		
15回～19回：釉薬原料の調合 釉掛け 焼成		40回：本制作 制作ノート確認⑤																		
20回：釉薬原料の調合 釉掛け 焼成 制作ノート確認②		41回～44回：本制作																		
21回～24回：釉薬原料の調合 釉掛け 焼成		45回：中間審査打合せ 制作ノート確認⑥																		
25回～26回：安定した釉薬が出来次第、 実際の器に釉掛けを行う																				
履修上の注意																				
・各自の計画表に沿って作業を進めること。																				
成績評価方法・基準																				
<ul style="list-style-type: none"> ・作品制作の過程、内容などの総合的評価70%（制作ノートの記入内容も含む）、制作意欲、自主性等30% ・制作ノート確認時にフィードバックを行う。 																				
教科書 授業前にプリントを配布する																				
参考書 〔新技法シリーズ102 陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3,024円〕 〔陶芸を学ぶ②〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7,344円〕 〔混ぜておぼえるはじめての釉薬づくり〕〔野田耕一〕〔誠文堂新光社〕〔3,024円〕																				
備考																				
<ul style="list-style-type: none"> ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。 ・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。 																				

授業科目名	卒業研究Ⅰ（木工）				単位（総授業時間＋自習時間）				6											
担当者	落合 里麻	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美4年											
授業概要																				
卒業研究は4年間の集大成として位置付ける。コンセプトをしっかりと立て、デザイン面や技術面において完成度の高い作品を制作させる。本制作の前段階として、木製品の調査や取材、木工作品の鑑賞を行い、その中で自分の作品に活かせる要素（デザイン、素材、使い方等）を探させる。そして、完成時のイメージや使い方、展示の際の見せ方など、制作意図を明確にした上でデザインを展開させる。模型や各種図面の作成、塗装実験等を取り入れ、段階を踏んで計画的に進められるよう指導する。																				
授業の到達目標					学位授与の方針との関連															
					1	2	3	4	5	6	7	8	9							
木材の加工・接合技術を目的に応じて使い分けができる。																				○
コンセプトをしっかりと立て、矛盾のない作品制作ができる。							○													
木の特徴や塗装方法を理解し、見た目の美しさだけでなく日常生活での使用に耐える設計を行い、完成度を高めることができる。							○													
計画性や提案力を身につけ、社会的実践力に繋げることができる。																				○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）															
1.ガイダンス、コンセプト立案					学外や図書館等で調査・取材を行う															
2～4.コンセプト立案					〃															
5～9.アイディアスケッチ					デザインを考え、模型を複数制作する															
10～12.模型の制作					〃															
13～14.塗装実験					手板を複数制作して比較する															
15～16.デザインの確定					必要に応じて立体図を描く															
17～21.制作図を描く					制作図を仕上げる															
22～26.部材図を描く					部材図を仕上げる															
27～29.木取り図を描く					木取り図を仕上げる、材料を用意する															
30～32.部材取りの計画					計画的に部材取りをする															
33～34.部材取り					〃															
35～43.墨付け、加工					制作を進め、道具の刃を研いでおく															
44.講評					制作を振り返り、ポイント等を整理する															
45.中間審査準備					中間審査に向けて準備を行う															
履修上の注意																				
<ul style="list-style-type: none"> 作業に適した服装で履修すること。 材料を各自で購入する必要があるため、その点を考慮して履修すること。 授業外に制作を進めておくこと。 																				
成績評価方法・基準																				
課題作品 70%、授業態度（材料、道具の準備、整頓、清掃等を含む） 30%で評価する。授業中、講評会にてフィードバックを行う。																				
教科書 特に定めない。																				
参考書 [デザインを学び始めた人のためのデザイン製図] [青木英明 他] [(株) ボーンデジタル] [2,500円＋税] [木材工芸用語辞典（増補版）] [成田壽一郎] [理工学社] [2,600円＋税]																				
備考																				
質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。																				

授業科目名	卒業研究Ⅰ（洋画）				単位（総授業時間＋自習時間）				6				
担当者	鈴木 専	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美4年				
授業概要													
<p>これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用し、卒業制作に向けた新たな課題に自らが主体的に取り組む授業である。4年間の集大成に相応しい作品を完成させることを目的とし、作品づくりのための一連の計画の流れを確認する。卒業研究Ⅰ（洋画）では、洋画Ⅲや技法研究（洋画）で培った知識や技法を活かして計画や制作の手順を踏まえ、情報収集、画材の確認をしながら制作・研究の指導をする。制作上の課題や問題点の整理、記録のために「制作ノート」の作成を課す。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
これまでの制作の成果を統合し、洋画表現の意義を社会・文化等と繋げて理解することができる。							○					○	
主体的に専門的な表現方・技術による美術表現を自己実現につなげていくことができる。							○						○
美術活動(制作)を行うことで、生活文化の諸相に対する多様な視点を理解することができる。							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1～3.ガイダンス					過去課題等のまとめ								
4～6.資料収集、計画立案					関係資料等のまとめ								
7～9.ドローイング制作(テーマ設定)					制作の継続（ドローイング）								
10～12. (表現技術の確認)					(画材の検討)								
13～15.制作Ⅰ(エスキース制作等)					制作の継続・制作ノート作成								
16～18. (描画)					(全体・部分描写)								
19～21. (描画／仕上げ／講評会)					(仕上げ)								
22～24.制作Ⅱ(エスキース制作等)					制作の継続・制作ノート作成								
25～27. (描画)					(全体描写)								
28～30. (描画)					(部分描写)								
31～33. (描画／仕上げ／講評会)					(仕上げ)								
34～36.制作Ⅲ(エスキース制作等)					制作の継続・制作ノート作成								
37～39. (描画)					(全体描写)								
40～42. (描画)					(部分描写) 講評会の準備								
43～45. (描画／仕上げ／講評会)					(仕上げ)								
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> 制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。 講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。 													
成績評価方法・基準													
<ul style="list-style-type: none"> 課題(90%)と授業態度(10%) 課題については、授業中にフィードバックを行う。 													
教科書 ：特に指定しない。													
参考書 ：随時参考となる画集等を紹介する。													
備考													
<ul style="list-style-type: none"> ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。 													

授業科目名	卒業研究 I (日本画)			単位 (総授業時間+自習時間)				6												
担当者	安住 英之	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美 4 年											
授業概要																				
<p>本学で学び研究したことの集大成として、卒業制作 (日本画) 作品の制作を行う。卒業制作展への出品を前提に、展示・発表の段階までを視野に入れた企画立案、および作品制作をトータルプロセスで指導・支援する。年間を通して見た場合、中間審査を経て「卒業研究監」に至る「前期」に該当するため、個々の履修者と綿密に相談しつつ、テーマ設定やエスキース (作品の構想や構図などを練る下図) 作成、制作スケジュール計画などを重点的に行う。</p>																				
授業の到達目標						学位授与の方針との関連														
						1	2	3	4	5	6	7	8	9						
これまで培った知識・技法に基づく卒業研究のテーマの設定。								○											○	
これまで培った知識・技法を駆使し、作品制作に取り組む。								○												○
追究してきた自己のテーマを、集大成としてまとめる。								○											○	
授業計画の内容						自習 (事前・事後学修の内容)														
1. 導入 科目の説明						東洋、日本の絵画の鑑賞。														
2. テーマの探求						モチーフやテーマの模索。														
3～5. 構想						出来るだけ対象を観察し描写をする。														
6～10. デッサン、資料研究						観察出来ていないと気づいたところを丁寧に描き込んでおく。														
11～19. エスキース (小下図)						デッサンを常に見返しておくこと。														
20. テーマの探究						仕上がりをイメージし、構図とともに細部も確認する。														
21. 制作計画とテーマの相談						骨描きのため線の引き方を練習する。														
22～30. 大下図制作						墨のぼかしの練習をする。														
31～35. タブロー (本画) 制作準備						墨の陰影の適確さと美しさの確認。														
36～42. タブロー (本画) 制作 トレースから骨描き						備品の技法書等で下地について下調べをしておく。														
43. コンセプト及び展示計画の確認と制作記録のまとめ						備品の技法書等で水干と岩絵の具について下調べをしておく。														
44. 中間審査作品提出準備、確認						出来るだけ制作を進める。膠の管理。														
45. 中間審査作品提出						出来るだけ完成度を高めるべく制作する。膠の管理。														
履修上の注意																				
<p>丹念に対象を観察すること。基本技法を素直な気持ちで習得すること。 毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。</p>																				
成績評価方法・基準																				
<p>課題作品 70% (完成度 50% 意図・発想 20%) 授業態度 30% (出席数。創作意欲や、創作の自主性等)</p>																				
教科書 無し																				
参考書 無し																				
備考																				
<p>授業日 12 時半から 13 時までをオフィスアワーとする。古今東西の美術作品を多く鑑賞し、制作の参考とすること。</p>																				

授業科目名	卒業研究 I (漆芸)				単位 (総授業時間+自習時間)				6				
担当者	井上 直美	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美 4 年				
授業概要													
漆芸作品の集大成として材料と形体を追求し、素地の完成を目指す為に模型制作をさせた上で、作品に合った技法を用いての素地制作を指導する。まず、エスキースを基に、粘土などで形を起こし、考察させる。用途に合わせて形や素材を再考察し、図面を完成させる。その後、図面を基に粘土型を完成させ、粘土型を基に石膏で形を起こして行く。石膏型をペーパーや刃物などで整え、剥離剤を塗り、和紙や麻布を貼り重ねながら空研ぎをして整え丁寧に進める。作家の視点からも用途によって貼る物の素材選択や強度に注意し進める様に指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
粘土で形を正確に起こせるようになる							○					○	○
用途に対しての形や素材の選択が出来るようになる							○					○	○
石膏型を正確に作る技術を身に付ける							○					○	○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1 回	作品のエスキース 1				何点かスケッチしておく								
2 回	作品のエスキース 2 確認				2~3 点に作品を絞れる様にしておく								
3,4 回	エスキースの細部調整				エスキースを完成させる								
5,6 回	模型作成				模型作成を進めておく								
7,8 回	模型修正				模型を完成させる								
9,10 回	図面作製				図面を完成させる								
11,12 回	材料と技法の考察				材料を揃えておく								
13,14 回	原型制作				原型制作を進めておく								
15,16 回	原型の調整				原型を完成させる								
17,18 回	石膏型制作				石膏型の制作を進めておく								
19,20 回	石膏型調整				石膏型を完成させる								
21 回	型に剥離剤 1 層目を塗る				何層か塗り重ねておく								
22 回	型に剥離剤 2 層目を塗る				研いでも石膏が出ない様にしておく								
23,24 回	剥離剤の表面を整える				石膏が出た部分をカバーしておく								
25,26 回	和紙を貼る				のりを煮ておく								
27,28 回	麻布を貼る 1 枚目				必要に応じて和紙を貼り重ねておく								
29 回	空研ぎ、錆付け				錆は布目が埋まるまで重ねておく								
30,31 回	麻布を貼る 2 枚目				布を貼り終えておく								
32 回	空研ぎ、錆付け				布目が埋まるまで錆を重ねておく								
33,34 回	麻布を貼る 3 枚目				布を貼り終えておく								
35 回	空研ぎ、錆付け				錆を重ねておく								
36,37 回	麻布を貼る 4 枚目				布の厚みが足りない場合は重ねておく								
38 回	空研ぎ、錆付け				錆を重ねておく								
39 回	空研ぎ、固め、黒中				黒中まで終わらせておく								
40 回	空研ぎ、黒中 2				黒中まで終わらせておく								
41 回	縁の始末、固め、黒中				縁の始末を終わらせておく								
42 回	空研ぎ、黒中 2				黒中まで終わらせておく								
43 回	高温乾燥				途中、高温乾燥機の確認をする								
44 回	制作過程の確認				ファイルの書き込みをしておく								
45 回	中間審査				プレゼンの準備をしておく								
履修上の注意 計画通りに進める。													
成績評価方法・基準													
適切な技術を選択できたか、出欠状況や意欲					30%								
作品の完成度、デザイン、センス、個性の表現					70%								
講評会でフィードバックする。													
教科書 授業中に適宜資料を配布する													
参考書 [やさしく身に付くうるしのはなし 1~4] [日本漆工協会] [2,160 円]													
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付けます。													

授業科目名	卒業研究Ⅰ（ガラスアート）				単位（総授業時間＋自習時間）				6				
担当者	森合 暢子	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美4年				
<p>ガラスアートⅠ、技法研究Ⅱで得たガラスの知識と、講師が理化学ガラス製作の実務経験から得た、酸素バーナーワークの高度な技術を駆使し、耐熱ガラスの特徴を生かした完成度の高い作品を制作するために中間審査までに計画的に制作に取り組めるように指導する。製作ノートを週一回は確認し、材料の選び方、展示方法なども確認し、自分の世界観をガラスで表現出来るようにアドバイスする。講師の過去の作品やガラス工芸家の作品集を参考にし、安全な展示方法や光の当て方なども指導する。展示台はアクリルやガラス、布などを使い、作品の見せ方まで指導する。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
① バーナーワークの特徴を生かした完成度の高いガラス作品を制作する。							○					○	○
②中間審査までにしっかりと作品をイメージし、作品の半分は完成させる。													○
② 作品の展示方法、展示素材まで考える													○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1～4.テーマを考える①制作ノート確認					制作ノートにテーマや構想を書き提出								
5 資料集め "					資料を用意								
6～8 資料研究 "					"								
9 作りたい物の形状を把握する					"								
10～12 デッサン ②制作ノートの確認					制作したい物のデッサンを制作ノートにする								
13 全体のイメージを描く（配置）					イメージを制作ノートに描く								
14 全体のイメージを描く（土台）					"								
15 全体のイメージを描く（色）					"								
16 材料を選ぶ ③制作ノート確認					ガラスの色や素材を決めて制作ノートに書く。								
17～26 バーナーワーク技術練習（今までの復習）					参考書籍やガラス関係の本を読んでおく。								
27～44. テーマ作品の練習					"								
45.中間審査打ち合わせ ④制作ノート確認					制作ノートを見直し、まとめておく。								
履修上の注意													
安全のため、服装や髪型（結ぶ）など講師の指示に従うこと。													
成績評価方法・基準													
制作への姿勢（40％）作品の完成度（60％）													
講評会でフィードバックを行います。													
教科書 適宜指示します。													
参考書 〔家庭ガラス工房バーナーワーク〕〔松村潔〕〔ぽるぷ出版〕〔2,800円〕													
備考・質問等は授業中に受け付けます。													

授業科目名	卒業研究 I (人形)			単位 (総授業時間+自習時間)				6											
担当者	福田 一実	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美 4年										
授業概要																			
4年間で習得した技術を基に、オリジナルの人形を制作させる。作品のテーマを設定し、展示空間を考えながら人形のキャラクターや人形の在り方について研究させ、人体の造形についても深く追求し、完成度の高い作品を制作できるよう指導する。誰にどこに作品を発信するのかしっかり考え、完成する作品、空間すべてを含め、綿密な計画を立てさせる。4年間の集大成の作品を見せる意義について考えさせると共に制作記録を付けさせるようにする。																			
授業の到達目標					学位授与の方針との関連														
					1	2	3	4	5	6	7	8	9						
自分の世界の創作人形を完成させる。																			○
人形を通して展示の仕方も含め表現方法を考える。							○												○
人形との向き合い方を深める。							○												
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)														
1. ガイダンス					完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。														
2. 年間計画の打ち合わせ。計画表制作。テーマを決める。					解剖学の本などを参考にし、人体の研究をする。														
3～4. 原寸大の下図を描き、型紙を作る。																			
5～6. 芯材に下図をあててカッターなどで削り、形を作る。																			
7～9. 粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。					しっかり乾燥させてくる。														
10～12. 顔の造形をする。					顔の造形、表情について観察してくる。														
13～14. 胴の造形をする。					やすりがけ														
15～17. ステンレスの針金で手の芯を作り、手の造形をする。					やすりがけ														
18～19. 腕の造形をし、手とのバランスもチェックする。					やすりがけ														
20～25. 脚を造形し、足も作る。必要であれば芯も入れる。					やすりがけ														
26～29. 乾燥後、全てを磨き、関節を切断し、芯を抜く。					やすりがけ														
30～33. 関節の球を作り、磨く。途中経過確認。					やすりがけ														
34～38. 球を各関節に固定し、球に対する受けを作る。					穴を開ける場所をしっかりと確認する。														
39～44. 各球に穴を開け、ステンレス線を頭、手、足に固定する。					細かなキズなどをチェックする														
45. 中間審査打ち合わせ、途中経過確認。																			
履修上の注意																			
人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。																			
成績評価方法・基準																			
課題作品 50%、授業態度 50% (出席率、忘れ物の有無、創作意欲など) 課題作品提出時にフォードバックします。																			
教科書 [吉田式球体関節人形制作技法書] [吉田良] [ホビージャパン] [2,880]																			
参考書 [美術解剖図ノート] [視覚デザイン研究所] [2,700]																			
[はじめて作る球体関節人形] [アイミ] [秀和システム] [2,000]																			
[人形論] [金森 修] [平凡社] [3,200]																			
備考																			
解剖学の資料は必ず用意すること。 質問等については授業終了後、オフィスアワーを受け付けます。																			

授業科目名	卒業研究 I (マンガ)				単位 (総授業時間+自習時間)				6										
担当者	鹿野 明子	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美 4 年										
授業概要																			
<p>どんなマンガを描きたいか、作品テーマの設定をさせる。ディスカッションを通し、テーマやそれに伴う世界観を明確にさせる。それに関わる資料の収集、場合によっては取材をさせる。</p> <p>前期卒業制作 I 提出までの計画表を立てさせ、日誌を含む制作ノートを作らせる。マンガの要となるネームの指導をする。登場人物の設定を決める為、キャラクター表を作成させる。卒業制作のマンガ作成に必要な画力や構成力を付けるために小編作品を作らせる。</p>																			
授業の到達目標					学位授与の方針との関連														
					1	2	3	4	5	6	7	8	9						
作品完成までの計画を立てることができる																			○
マンガの要素をよく検討し読みやすく魅力あるネームをつくる ことができる。							○												○
業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)														
1.ガイダンス・年間計画の確認					予め制作ノート・日誌を準備しておく														
2.テーマ・プレゼンの打ち合わせ					卒制に向けて何を描きたいか考えておく														
3～5.プロット作成、資料収集、取材					取材先、収集方法を考えておく														
6～8.ネーム・キャラクター表作成・プロット確認					ノートチェック①														
9.ネーム・キャラクター表チェック					ノートチェック②														
10～14.ネーム修正					ノートチェック③														
15.ネームチェック					ノートチェック④														
16～17.プレゼン試作					ノートチェック⑤														
18～20.背景作画、					ノートチェック⑥														
21.プレゼン監修					ノートチェック⑦														
22～23.ネーム最終修正					ノートチェック⑧														
24～40.小編(試作)作品作成・ペン入れ					ノートチェック⑨														
41～43.仕上げ					ノートチェック⑩														
44.小編(試作)作品完成					ノートチェック⑪														
45.総評 フィールドバックを行う					ノートチェック⑫														
履修上の注意																			
技法研究 II を履修していることが望ましい。																			
成績評価方法・基準																			
課題 80% (アイデア 40%、絵 (丁寧さ、画力、仕上げ) 40%) 授業態度 (創作意欲や創作の自主性等) 20%																			
教科書 なし																			
参考書 なし																			
備考																			
授業のあとオフィスアワーを設ける。																			

授業科目名		卒業研究Ⅰ（マンガ）			単位（総授業時間＋自習時間）				6					
担当者	安孫子 三和	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	生美4年					
授業概要														
漫画家歴 25 年の経験と実績をふまえて、本学で学んだ事の集大成としての作品作りと発表に至るまでの創意工夫を、順を追って学ばせる。アイデアの打ち合わせと提案、プロット作り、ネーム制作、練り直しをへて作画に入ることを自覚させ、また背景、原稿用紙へのペン入れ、仕上げと各段階の締め切り日を自らの設定を守り、情熱を持って制作し続けるように指導応援し、自己満足だけで終わらない作品作りをさせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
完成までの計画を想像ゆたかに立てることが出来る							○							○
実践し、締め切りを守る							○							○
必要資料を揃え制作に生かす							○		○					○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス・年間計画の設定					予め制作ノート・日誌を準備しておく									
2. 年間計画の確認と打ち合わせ・テーマの決定					卒制にむけて描きたいものを決める									
3～5. あらすじプロット制作の打ち合わせ(1)					キャラクター一覧を作る 世界感の設定資料、プロットの起承転結に振分け考える									
6～8. " (2)														
9～11. " (3)														
12～15. ネーム制作 (1)					1日に何ページ進めれば良いか計算しながら着実に進める									
16～18. " (2)														
19～21. " (3)														
22～25. " (4) 1回目のネーム提出チェック														
26～28. " (5)					修正ネームに入る ここまでにネーム完成必要									
29～31. " (6)														
32～35. " (7) 2回目のネーム提出チェック														
36～38. 下絵制作 1-(1)					下絵用紙使用する									
39～44. " 1-(2) 下絵完成チェック														
45. 中間審査作品提出					ノートチェック、プレゼン準備									
履修上の注意														
マンガⅡ・Ⅲを履修している事が望ましい（未受講は要相談）														
成績評価方法・基準														
出席・課題提出によって総合的に評価。作品 50%（アイデア、ストーリー構成、キャラクター魅力、画力など）・作品進行度合い 30%・出席受講態度 20%														
制作ノートは毎回チェックをするので必ず持参すること。														
提出期限ごとの進行作品に対し都度フィードバックします。														
教科書 なし														
参考書 なし														
備考 質問等は授業内に受け付けます														

授業科目名	卒業研究Ⅱ(洋画)				単位(総授業時間+自習時間)				6				
担当者	北折 整	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年				
授業概要													
<p>大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した、4年間の集大成に相応しい卒業制作(洋画)を指導する。卒業研究Ⅰ(洋画)と同様に個人の課題に沿って主体的に制作を進め、特に課題発見から構想・計画から実作業のプロセス、コンセプトの醸成、表現材料の適正等を確認・立案させる。都度制作上の問題点を明確に整理するために「制作ノート」の作成を課す。また、完成作品については自己表現の到達度合や作品の存在意義・価値等の視点から振り返りを行わせる。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
<ul style="list-style-type: none"> これまでの総ての学修を統合し、自分自身の洋画表現の意義を社会・文化等との関係において十分理解することができる。 							○					○	
<ul style="list-style-type: none"> 主体的に専門の表現力・技術力を身に付けるとともに、持続的な制作態度により、美術表現による自己実現を行うことができる。 							○						○
<ul style="list-style-type: none"> 美術活動(制作)を行うことで、生活文化の諸相に対する多様な視点を獲得することができる。 							○						
授業計画の内容					自習(事前・事後学修の内容)								
1～3. 授業の説明					過去課題等のまとめ								
4～6. 過去学修の振り返り、資料収集、計画立案等					関係資料等のまとめ								
7～9. 試作Ⅰ(エスキース制作/描画)					支持体の準備及び制作の継続(試作Ⅰ)								
10～12. // (描画/講評会)					//								
13～15. 試作Ⅱ(エスキース制作/描画)					支持体の準備及び制作の継続(試作Ⅱ)								
16～18. // (描画/講評会)					//								
19～21. 本制作(エスキース制作/描画:主にテーマに留意)					支持体の準備及び制作の継続(本制作)								
22～24. // (描画:主に形体に留意)					制作の継続(主に形体に留意)								
25～27. // (描画:主に色彩に留意)					// (主に色彩に留意)								
28～30. // (描画及び講評会:作業の確認及び他者意見の聴取)					// (主に講評会に留意)								
31～33. // (描画:主に空間に留意)					// (主に空間に留意)								
34～36. // (描画:主にアクセントに留意)					// (主にアクセントに留意)								
37～39. // (描画:主にマチエールに留意)					// (主にマチエールに留意)								
40～42. // (描画:主に完成度に留意)					// (主に完成度に留意)								
43～45. // (描画及びプレゼンテーション/講評会)					制作の振り返り等(レポート作成)								
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> 制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。 													
成績評価方法・基準													
<ul style="list-style-type: none"> 課題(90%)と授業態度(10%) 課題については、授業中にフィードバックを行う。 													
教科書 : 特に指定しない。													
参考書 : 随時参考となる画集等を紹介する。													
備考													
<ul style="list-style-type: none"> ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。 													

授業科目名	卒業研究Ⅱ（彫刻）			単位（総授業時間＋自習時間）				6						
担当者	佐藤 淳一	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年					
授業概要														
3年間で修得した造形思考、技術をさらに深化・発展させて自己の造形思考を最高の地点まで到達させる。彫刻作品として今までの研究成果を完成させ、卒業制作展で発表させる。そのなかで現代彫刻としての可能性を研究させる。彫刻の基礎的造形要素や空間を意識した、場と空間、量感、動勢、表面、を制作により試行し研究する。自己の造形力を重視し十分に自己のイメージを制作ノートに展開しながら、創造力さらに深化発展させる。素材の良さを十分に引き出し、研究させる。アイデアから制作完成までの作業を教授する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
実材彫刻による造形を発想し展開できる							○							○
設置場所に対して意識し彫刻を構想できる							○		○				○	○
作業を他と協働して行うことができる										○			○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1～3回.授業内容、卒制の構想研究、評価方法説明、					シラバスを読む。課題提出									
4回.意識の確立、地域と自己作品の関係性確認、制作ノート					アートプロジェクト研究									
5～8回.テーマ確認（自己の独自性、地域、公募展研究）					各作品集研究、デッサン(制作ノート)									
9～12回.制作研究1（素材研究）					彫場、木場見学、デッサン(制作ノート)									
13～15回.制作研究2（素材加工法研究）					造形論研究、彫刻展研究、作家取材									
16～18回.制作研究3（荒作り）					制作継続、制作ノート作成									
19回.テーマ確認（制作ノート評価）					制作継続、制作ノート作成									
20～22回.制作材研究 4（面と空間）					制作継続、制作ノート作成									
23～25回.制作研究 5（塊と量感）					制作継続、制作ノート作成									
26～28回.制作研究 6（動勢）					制作継続、制作ノート作成									
29～33回.制作研究 7（空間と量）					制作継続、制作ノート作成									
34～38回.制作研究 8（密度）					制作継続、制作ノート作成									
39～41回.制作研究 9（表面と密度）					制作継続、制作ノート作成									
42～44回.制作研究 10（地肌）					制作継続、制作ノート作成									
45回.講評、卒業制作審査					制作のまとめと今後の展開作成									
履修上の注意														
各種美術展の見学レポートの提出、時間外も制作する事。充分担当と打ち合わせし、自分のみでなく他の人の安全にも留意して作業すること。制作ノートを活用しデッサンし完成のイメージを磨くこと。														
成績評価方法・基準														
作品評価 40%、授業態度（集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%） 制作ノート（提出レポート含む） 20%（評価して返却します）														
教科書 授業前に資料配布														
参考書 授業前に資料配布														
備考														
4年間の制作のまとめとして完成に向かい充分準備を行うこと。質問はオフィスアワーでも受け付けます。														

授業科目名	卒業研究Ⅱ（壁画）				単位（総授業時間＋自習時間）				6				
担当者	森 敏美	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年				
授業概要													
4年間の集大成として、卒業研究Ⅰに引き続き個々の取り組むべき課題を整理し十分なディスカッションを通して臨ませる。制作ノートを完成させることにより、卒制の流れを見ることが出来るのでコンセプトに合わせ確認させる。卒業研究Ⅰで醸し出した世界観を、資料に基づき、精査した技法で、適切な大きさや設置方法を話し合い、プレゼンテーションも視野に入れ制作に向かわせる。予め作られた計画表に則り進めてゆくが、常に状況を見て修正しながら期日に間に合うよう万全を尽くさせる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・4年間の集大成を意識することで美術と社会との諸問題等を認識できる。							○					○	○
・制作ノートと併せて制作を進めることで計画性を身につけることが出来る。												○	○
・作品や表現を他者により良く見せるスキルを身につけることにより、プレゼン能力を身に付けることができる。												○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1～3回 導入:科目・課題の説明					計画表の作成(制作ノートの確認)								
4～6回 制作ノート・エスキース精査					制作ノートの続行								
7～9回 支持体・素材加工					卒制のパネル材料等の準備								
10～12回 卒制制作に入る					制作ノート、日誌等をつける								
13～15回 ディスカッション					方向性等の確認								
16～18回 制作 全体を捉える					作業工程を確認								
19～21回 制作 形態確認					形の修正を施す								
22～24回 制作					全体を捉えてゆく								
25～27回 細部作成					詳細部の確認								
28～30回 ディスカッション					修正点の確認								
31～33回 制作					徐々に作業を進めてゆく								
34～36回 部分修正					微調整								
37～39回 詳細制作					全体も捉えてゆく								
40～42回 仕上げ					詳細部の確認								
43～45回 卒制講評会（フィードバックを行う）					卒業研究の総括								
履修上の注意													
工房に卒制のスペースが確保されているので、時間を有効に活用し、環境保全に努めること。													
成績評価方法・基準													
提出課題90%（テーマ性、表現力、計画性、完成度等）、平常点10%（授業態度、主体性等）													
教科書 特に無し													
参考書 特に無し													
備考													
オフィスアワー（授業終了時）を有効活用し、卒制に関するを中心にわからないことは質問すること。													

授業科目名	卒業研究Ⅱ(視覚デザイン)				単位(総授業時間+自習時間)				6				
担当者	三上 秀夫	必・選	選必	形態	実技	学期	後期	対象	生美4年				
授業概要													
<p>これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用し、卒業制作に向けた新たな課題に自らが主体的に取り組む授業である。4年間の集大成に相応しい作品を完成させることを目的とし、作品づくりのための一連の計画の流れを確認し、情報収集、計画、材料の確認、加工をとおした制作について個別に指導を行う。</p> <p>具体的な展示方法、展示効果を確かめながら作品研究を進める。展覧会場(卒業制作展)での発表という外に向けた発信を意識した指導を行う。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
知識・技能・態度を総合的に活用し活用することができる												○	
自らが立てた課題を主体的に解決する能力を身につける。													○
授業計画の内容					自習(事前・事後学修の内容)								
1~3. ガイダンス(授業の進め方、課題の発表、評価方法について)					過去の作品を整理する。								
4~6. 制作 基本構造 構造計画					関係資料等のまとめをする。								
7~9. 制作 基本構造 中間発表(進行状況、今後の予定)					制作の継続(準備)								
10~12. 制作 中間構造 色彩計画					(材料、道具の検討)								
13~15. 発表 手直し まとめ					制作の継続・制作ノート作成								
16~18. 制作 日程確認 全体構造 構造計画					(全体・部分制作)								
19~21. 制作 全体構造 色彩計画					(仕上げ)								
22~24. 制作 全体構造 全体計					制作の継続・制作ノート作成								
25~27. 制作 日程・計画発表 制作ノート確認					(全体制作)								
28~30. 制作 細部の制作					(構造の確認)								
31~33. 制作 仕上げ					(色彩の確認)								
34~36. 制作 設置計画					制作の継続・制作ノート作成								
37~39. 制作 制作 手直し 完成					(全体制作)								
40~42. 発表 手直し					(仕上げ)発表の準備								
43~45. まとめ プレゼンテーション 卒業研究Ⅱ提出					発表後の整理、まとめをする。								
履修上の注意													
用具、材料については授業でその都度指示する。													
成績評価方法・基準													
提出課題(60%)、講評での発表の内容(40%)で評価する。													
教科書 無し 授業時にプリントを配布する													
参考書 無し													
備考													
授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー(曜日日時は掲示で確認)に受け付けます。													

授業科目名	卒業研究Ⅱ(論文)			単位(総授業時間+自習時間)					6				
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年				
授業概要													
①「卒業論文」の意味と目的について考察を促す。②複数の対象について調査と報告を課す。③調査のまとめが示唆することから、仮説の構築方法を指導し、その立証を支援する。④主体的にテーマを選択させ、結論までの推論を支援する。⑤設定したテーマと結論までの展開について検証させ、論旨の適正について自己評価を課す。⑥アウトラインを基に、卒業論文の執筆を支援する。⑧卒業論文に関するプレゼンと質疑応答の機会を設ける。⑨対話を重視し、課題発見から解決策の提案まで指導する。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
問題を探求し、その問題に沿ったテーマを設定することができる。					○								
必要な参考資料等を収集/活用することができる。					○								
問題の分析及び、そのことに関する論理的な推論と考察ができる。								○					
テーマを的確に表現することができる。													○
論旨を論理的に展開することができる。										○	○		○
授業計画の内容				自習(事前・事後学修の内容)									
1. 第2章の執筆指導(トピック)				課題: 第2章最初の段落の執筆									
2. 第2章の執筆指導(ボディー)				課題: 第2章2段落目以降の執筆									
3. 第2章の執筆指導(まとめ)				課題: 第2章最終段落の執筆									
4. 第2章の修正指導(トピック)				課題: 第2章最初の段落の修正									
5. 第2章の修正指導(ボディー)				課題: 第2章2段落目以降の修正									
6. 第2章の修正指導(まとめ)				課題: 第2章最終段落の修正									
7. 第2章の確認指導(トピック)				課題: 第2章最初の段落の確認									
8. 第2章の確認指導(ボディー)				課題: 第2章2段落目以降の確認									
9. 第2章の確認指導(まとめ)				課題: 第2章最終段落の確認									
10. 第3章の執筆指導(トピック)				課題: 第3章最初の段落の執筆									
11. 第3章の執筆指導(ボディー)				課題: 第3章2段落目以降の執筆									
12. 第3章の執筆指導(まとめ)				課題: 第3章最終段落の執筆									
13. 第3章の修正指導(トピック)				課題: 第3章最初の段落の修正									
14. 第3章の修正指導(ボディー)				課題: 第3章2段落目以降の修正									
15. 第3章の修正指導(まとめ)				課題: 第3章最終段落の修正									
16. 第3章の確認指導(トピック)				課題: 第3章最初の段落の確認									
17. 第3章の確認指導(ボディー)				課題: 第3章2段落目以降の確認									
18. 第3章の確認指導(まとめ)				課題: 第3章最終段落の確認									
19. 第4章の執筆指導(トピック)				課題: 第4章最初の段落の執筆									
20. 第4章の執筆指導(ボディー)				課題: 第4章2段落目以降の執筆									
21. 第4章の執筆指導(まとめ)				課題: 第4章最終段落の執筆									
22. 第4章の修正指導(トピック)				課題: 第4章最初の段落の修正									
23. 第4章の修正指導(ボディー)				課題: 第4章2段落目以降の修正									
24. 第4章の修正指導(まとめ)				課題: 第4章最終段落の修正									
25. 第4章の確認指導(トピック)				課題: 第4章最初の段落の確認									

26. 第4章の確認指導（ボディー）	課題：第4章2段落目以降の確認
27. 第4章の確認指導（まとめ）	課題：第4章最終段落の確認
28. 第5章～最終章の執筆指導（トピック）	課題：第5章～最終章の最初の段落の執筆
29. 第5章～最終章の執筆指導（トピック以降）	課題：第5章～最終章の2段落目以降の執筆
30. 第5章～最終章の執筆指導（最終段落）	課題：第5章～最終章の最終段落の執筆
31. 第5章～最終章の修正指導（トピック）	課題：第5章～最終章の最初の段落の修正
32. 第5章～最終章の修正指導（トピック以降）	課題：第5章～最終章の2段落目以降の修正
33. 第5章～最終章の修正指導（最終段落）	課題：第5章～最終章の最終段落の修正
34. 第5章～最終章の確認指導（トピック）	課題：第5章～最終章の最初の段落の確認
35. 第5章～最終章の確認指導（トピック以降）	課題：第5章～最終章の2段落目以降の確認
36. 第5章～最終章の確認指導（最終段落）	課題：第5章～最終章の最終段落の確認
37. アブストラクト（要旨）作成指導	課題：要旨作成
38. アブストラクト（要旨）修正指導	課題：要旨修正
39. アブストラクト（要旨）確認指導	課題：要旨確認
40. 参考文献一覧 作成指導	課題：参考文献一覧作成
41. 参考文献一覧 修正指導	課題：参考文献一覧修正
42. 参考文献一覧 確認指導	課題：参考文献一覧確認
43. 表紙、目次作成確認指導	課題：表紙、目次作成
44. 最終提出準備 内容確認指導	課題：最終確認
45. プレゼン予行	課題：プレゼンリハーサル
履修上の注意	
対象：生活美術学科アートインストラクターコース生 履修条件：論文Ⅰ既履修者 テーマ：美術教育に関する内容（原則）	
成績評価方法・基準	
テーマのオリジナリティ：30%、執筆過程：10% 内容：40%、プレゼンテーション：20%（フィードバックを行う）	
教科書 その都度、資料を配布する。	
参考書 その都度、参考資料を配布する。	
備考 オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）	

授業科目名	卒業研究Ⅱ（情報デザイン）				単位（総授業時間＋自習時間）				6				
担当者	鶴巻 史子	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年				
授業概要													
卒業制作Ⅱ（情報デザイン）では、1～3年次に学んだ基礎科目、専門科目、応用科目の集大成としてさらなる発展を目的とし、個別に対話しながら研究と作品制作に取り組む。個々に制作計画を作成し、作業プロセスを組み立てながら実践することによって、自己管理能力を養う。学外での作品発表や卒業制作作品展等の企画、運営を通してデザインの全プロセスを修得すると共に、実践的なプレゼンテーションスキルを磨き、社会に貢献できる力と文化創造力を身につけられるよう指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
プレゼンを通して他者へ制作意図を伝えることができる										○		○	
デザインの全プロセスを習得し、社会に貢献できる									○				○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1回：研究テーマの確認					研究テーマの調査、制作プロセスまとめ								
2～5回：研究計画の作成					研究計画の調査、制作プロセスまとめ								
6～10回：研究テーマに関する調査					研究テーマの調査、制作プロセスまとめ								
11～15回：デザインスケッチ制作					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
16～20回：デザイン検討					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
21～37回：本制作					制作技法の調査、制作プロセスまとめ								
38～42回：プレゼンテーション準備					プレゼン準備、制作プロセスまとめ								
43～44回：プレゼンテーション、講評、リフレクション					プレゼン準備、制作プロセスまとめ								
45回：本審査会					制作プロセスをデータにまとめる								
履修上の注意													
技法研究Ⅱ（情報デザイン）を履修していること。制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。													
成績評価方法・基準													
課題（制作物、プレゼンテーション）80%													
出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢、リフレクションジャーナル等）20%													
作品課題については、授業中にフィードバックする。													
教科書					適宜指示する								
参考書					適宜指示する								
備考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名	卒業研究Ⅱ（版画）				単位（総授業時間＋自習時間）				6					
担当者	大堀 恵子	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年					
授業概要														
<p>これまでに学んだ自然や社会を含む人間生活と美術の関係を学び、研究し、版画に関する知識技能、創造的思考力を総合的に活用する。完成度の高い卒業制作になるようにさまざまな素材や技法、いろいろな考え方にふれ、自己表現の手法を探求確立することを目標とする。卒業制作をとおして、地域社会の発展に貢献できる力と文化創造力を身につけ、美術、工芸、デザイン分野に関する職業や創造活動に従事出来る能力が身に付けられるように指導する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
版の総合的な技法と工程を理解し身につけることができる。							○							
展覧会を見て得た情報を整理し制作に生かす手法を習得する														○
皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。												○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1回 ガイダンス、後期作業の確認					記録するための制作ノートを用意する。									
2～11回 本制作、部分					作業ごとに内容をまとめ次回提出。									
12～22回 本制作、細部					作業ごとに内容をまとめ次回提出。									
23～31回 本制作、仕上げ					作業ごとに内容をまとめ次回提出。									
32～34回 プレゼンテーション（検討）					プレゼンの検討内容をまとめ次回提出。									
35～40回 プレゼンテーション（完成）					プレゼンの完成までの内容をまとめ次回提出。									
41～44回 制作ノートのまとめ （完成写真、プロセスのまとめ）					制作ノートのまとめを行ない、最終的なプレゼンを行なう。									
45回 本審査														
履修上の注意														
制作ノートに、それぞれの制作の試行錯誤をまとめ記録する。ポートフォリオ作成のための文章能力、PCの技術を習得する。														
成績評価方法・基準														
ルーズリーフを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。														
作業内容のまとめは授業中にフィードバックをします。														
1.提出課題（技法、計画性、創意工夫、完成度 80%） 2.制作ノート又はポートフォリオ（20%）														
教科書 授業前にプリントを配布する。														
参考書 画集等を紹介する。														
備考														
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。														

授業科目名	卒業研究Ⅱ(染織)			単位 (総授業時間+自習時間)					6				
担当者	佐々木 輝子	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年				
授業概要													
技法研究Ⅰ・Ⅱ、卒業研究Ⅰで実施した研究テーマを基に卒業研究本制作に取り組む。制作意図をより明確化し、4年間の集大成としてふさわしい完成度の高い作品を制作できるよう指導する。制作のみに留まらず、必要に応じて繊維製品関連施設の課外研修等を実施し、社会に即応した実践力を身に付け、地域社会に貢献できる能力の習得・向上も図ることができるよう指導する。これまでに獲得した染織に関する知識・技能等を総合的に活用し、自らが立てた計画を適用し、その課題を主体的に解決する能力を養えるよう指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
染織に関する高度な専門知識を身につける。							○					○	○
制作計画を適用し、自ら主体的に課題を解決する能力を身につける。							○						○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1回：ガイダンス					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
2回～3回：年間計画					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
4回～39回：本制作 (計画に基づいた染織作品の制作)					作品に関する収集・制作ノートのまとめ								
40回～41回：仕上げ					展示備品等の準備・制作ノートのまとめ								
42回～44回：プレゼンテーション準備 資料整理					プレゼン準備・制作ノートのまとめ								
45回：作品提出 審査					展示準備・制作ノートの完成								
履修上の注意													
染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。													
作品に使用する材料は、各自購入すること。													
成績評価方法・基準													
提出課題 (80%)、授業態度 (20%) で評価します。													
作品課題については、授業中にフィードバックします。													
教科書 適宜指示する。													
参考書 〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4,200円〕													
備考													
質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) に受け付けます。													

授業科目名		卒業研究Ⅱ（陶芸）			単位（総授業時間＋自習時間）				6											
担当者	立花 布美子	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年											
授業概要																				
<p>中間提出の結果より進捗状況を確認、計画表の再検討をし、本提出まで綿密な計画性をもって制作に取り組むよう指導する。常に研究テーマに関連した参考文献、参考資料の収集、展覧会鑑賞に勉め、制作ノートをまとめさせる。また、焼成は各自が責任を持って行うため、制作意欲、自主性を持って望むよう指導する。また、本制作（最終焼成）後、最終プレゼンテーションの確認も含め、集大成に相応しい卒業研究となるよう指導していく。</p>																				
授業の到達目標					学位授与の方針との関連															
					1	2	3	4	5	6	7	8	9							
卒業研究において自己管理能力を高めることができる。																				○
卒業研究における問題解決能力を高めることができる。																				○
これまでに修得した技法・技術の高度な専門知識を、美術を学ぶ意味と関連付けて表現することができる。							○													
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）															
1回～9回：本制作					制作ノート確認時に各自設定した計画表の見直し、修正を行い研究を進めていく。															
10回：本制作 制作ノート確認① 材料追加発注																				
11回～19回：本制作																				
20回：本制作 制作ノート確認② 進捗状況の確認、調整																				
21回～29回：本制作					プレゼンテーションについて、最終作品数、大きさと合わせて打ち合わせを行うよう準備する。															
30回：本制作 制作ノート確認③ プレゼン材料打合せ																				
31回～40回：本制作																				
41回：本制作 最終焼成 窯出し																				
42回～44回：プレゼンテーション確認 修正																				
45回：制作ノート確認④ 最終プレゼンテーション確認																				
履修上の注意																				
各自の計画表に沿って作業を進めること。																				
成績評価方法・基準																				
<ul style="list-style-type: none"> 作品制作の過程、内容などの総合的評価 70%（制作ノートの記入内容も含む）、制作意欲、自主性等 30% 制作ノート確認時にフィードバックを行う。 																				
教科書 授業前にプリントを配布する																				
参考書 [新技法シリーズ 102 陶芸の基本] [東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座] [美術出版] [3,080円] [陶芸を学ぶ②] [京都造形芸術大学編] [角川書店] [7,480円] [混ぜておぼえるはじめての釉薬づくり] [野田耕一] [誠文堂新光社] [3,080円]																				
備考																				
<ul style="list-style-type: none"> 作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。 質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。 ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。 																				

授業科目名	卒業研究Ⅱ（木工）				単位（総授業時間＋自習時間）				6										
担当者	落合 里麻	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年										
授業概要																			
卒業研究は4年間の集大成として位置付ける。卒業研究Ⅰにおける準備を基に、デザイン面や技術面において完成度の高い作品を制作させる。基礎的な課題では経験することのなかった複雑なつくりや加工技術が必要となることが予想され、それらについて適宜指導する。卒業研究Ⅰで制作した模型や制作図、部材図、木取り図等を常に確認し、計画的に進めさせる。制作と並行して展示方法や展示空間におけるバランスを検討させ、作品を通して自分の考えや制作意図を伝える力を身につけさせる。																			
授業の到達目標					学位授与の方針との関連														
					1	2	3	4	5	6	7	8	9						
目的や状況に応じて木材の加工・接合技術の使い分けができる。																			○
コンセプトに沿った作品を完成させられる。							○												
木の特徴や塗装方法を理解し、見た目の美しさだけでなく日常生活での使用に耐える設計を行い、完成度を高めることができる。							○												
展示会場で美しく見せる方法を検討し、自分の考えや制作意図を相手に伝える力ができる。																			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）														
1.ガイダンス					制作を進める。道具の刃を研いでおく														
2～10.墨付け、加工（大きい材、広い面を中心に）					〃														
11～15.墨付け、加工（穴加工や溝加工を中心に）					〃														
16～20.墨付け、加工（ほぞ加工を中心に）					〃														
21～25.墨付け、加工（細部を中心に）					〃														
26～27.仮組み					〃														
28～30.全体のバランスの確認					〃														
31～33.微調整					〃														
34～35.接着					接着の手順や必要な道具類を確認する														
36～37.接着後の加工、微調整.					細かいところまで確認する														
38～39.仕上げの研磨					〃														
40.面取り、微調整					塗装の手順や時間を確認する														
41～43.塗装					最終調整を行い、作品を完成させる														
44.講評					制作を振り返り、ポイント等を整理する														
45.審査準備					審査に向けて準備・確認を行う														
履修上の注意																			
<ul style="list-style-type: none"> ・作業に適した服装で履修すること。 ・授業外に制作を進めておくこと。 																			
成績評価方法・基準																			
課題作品 70%、授業態度（材料、道具の準備、整頓、清掃等を含む） 30%で評価する。授業中、講評会にてフィードバックを行う。																			
教科書 特に定めない。																			
参考書 [デザインを学び始めた人のためのデザイン製図] [青木英明 他] [(株) ボーンデジタル] [2,500円＋税] [木材工芸用語辞典（増補版）] [成田壽一郎] [理工学社] [2,600円＋税]																			
備考 質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。																			

授業科目名	卒業研究Ⅱ（洋画）				単位（総授業時間＋自習時間）				6				
担当者	鈴木 専	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年				
授業概要													
<p>これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用し、卒業制作展に向けた新たな課題に自らが主体的に取り組む授業である。4年間の集大成に相応しい作品を完成させることを目的とし、作品展という外部への発信を目指した制作・研究の指導を行う。特にこの授業では、卒業研究Ⅰ（洋画）で準備した知識や技法を活かし、自己表現と作品の存在意義・価値等を意識した制作・研究の指導をする。制作上の課題や問題点の整理、記録のために「制作ノート」の作成を課す。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
これまで学んできたことを統合し、自分自身の洋画表現の意義を社会・文化等との関係において十分理解することができる。							○					○	
主体的に専門の表現力・技術力を身に付けるとともに、持続的な制作態度により、美術表現による自己実現を行うことができる。							○						○
美術活動(制作)を行うことで、生活文化の諸相に対する多様な視点を獲得することができる。							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1～3. ガイダンス					資料収集とそのまとめ								
4～6. 資料収集、計画立案等					関係資料等のまとめ								
7～9. 試作Ⅰ(エスキース制作／描画)					準備及び制作・制作ノート作成								
10～12. (描画／講評会)					制作の継続（試作Ⅰ）								
13～15. 試作Ⅱ(エスキース制作／描画)					準備及び制作・制作ノート作成								
16～18. (描画／講評会)					制作の継続（試作Ⅱ）								
19～21. 本制作(エスキース制作／描画：主にテーマに留意)					準備及び制作（本制作）								
22～24. (描画：主に形体に留意)					制作の継続（主に形体）								
25～27. (描画：主に色彩に留意)					(主に色彩)講評会の準備								
28～30. (描画及び講評会：作業の確認及び他者意見の聴取)					講評会の内容を振り返りまとめる								
31～33. (描画：主に空間に留意)					制作の継続（主に空間）								
34～36. (描画：主にアクセントに留意)					(主にアクセント)								
37～39. (描画：主にマチエールに留意)					(主にマチエール)								
40～42. (描画：主に完成度に留意)					(主に完成度に留意)								
43～45. (描画及びプレゼンテーション／講評会)					制作の振り返り等（レポート作成）								
履修上の注意													
<ul style="list-style-type: none"> 制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。 講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。 													
成績評価方法・基準													
・課題(90%)と授業態度(10%) ・課題については、授業中にフィードバックを行う。													
教科書 ：特に指定しない。													
参考書 ：随時参考となる画集等を紹介する。													
備考													
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。													

授業科目名	卒業研究Ⅱ（日本画）			単位（総授業時間＋自習時間）				6												
担当者	安住 英之	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年											
授業概要																				
<p>本学で学び研究したことの集大成として、卒業制作（日本画）作品の制作を行う。卒業制作展への出品を前提に、展示・発表の段階までを視野に入れてトータルプロセスで指導・支援する。年間を通して見た場合「卒業研究Ⅰ」と中間審査を経た「後期」に該当するため、より高い完成度を目指して方向性の再検討やブラッシュアップ、制作スケジュール計画の調整などを重点的に行う。最終的に最高のパフォーマンスを引き出せるよう、履修者個別に臨機応変な指導を行う。</p>																				
授業の到達目標						学位授与の方針との関連														
						1	2	3	4	5	6	7	8	9						
卒業研究Ⅰで得た気づきを作品に反映し、磨きをかける。								○												○
日本画の伝統に基づきつつ、既成概念にとらわれない制作姿勢を貫く。								○												○
自由な発想により、自己の表現の可能性を最大限に広げる。																			○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）															
1～8. タブロー（本画）制作 骨描き等					墨や支持体の種類、各特性を研究する。															
9. 制作及び展示計画の確認1					制作の意図についてまとめておく。															
10～22. タブロー（本画）制作 下塗り、墨の濃淡					下地の研究をしておく。															
23. 制作及び展示計画の確認2					制作が計画通りに進んでいるか見直し、改善、変更点はまとめておく。															
24～30. タブロー（本画）制作 墨、水干絵具での制作等					作画の方針を確認する。															
31. 卒業作品展に向けての展示の準備					具体的に展示をイメージし、額装や表装についての研究。															
32～38. タブロー（本画）制作 墨、岩絵具での制作等					常に作品を見直し、全体像を把握する。															
39. 制作記録のまとめ					伝わりやすい記録になっているか確認。															
40～44. タブロー（本画）制作 描き込み～完成					絵の核となる部分の描き込みを見直す。															
44. 卒業制作提出準備					作品の側面の処理や展示道具の確認。															
45. 卒業制作提出					制作意図と実際の仕上がりについて比較し、自身の制作のあり方を認識する。															
履修上の注意																				
<p>丹念に対象を観察すること。基本技法を素直な気持ちで習得すること。 毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。</p>																				
成績評価方法・基準																				
<p>課題作品70%（完成度50% 意図・発想20%）課題提出の際、フィードバックを行なう。 授業態度30%（出席数。創作意欲や、創作の自主性等）</p>																				
教科書 無し																				
参考書 無し																				
備考																				
<p>授業日 12時半から13時までをオフィスアワーとする。古今東西の美術作品を多く鑑賞し、制作の参考とすること。</p>																				

授業科目名		卒業研究Ⅱ（漆芸）			単位（総授業時間＋自習時間）				6						
担当者	井上 直美	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年						
授業概要															
漆芸作品制作の集大成として、制作した乾漆素地に、色彩、加飾を施し、今まで学んだ技術を表現出来る能力を身に付けられる様に作家としての視点を踏まえた上で指導する。前期に制作した乾漆の素地を高温乾燥し、表と裏両面のその後脱乾し、塗りと研ぎを繰り返し、形と塗りを完成させる。加飾は手板などを用いて、色見本、加飾見本を制作し、実験した上で作品に色や加飾を施す様に指導する。色は木地呂漆と顔料を練り合わせ自分で色漆を用いた変わり塗りの他に、蒔き絵、螺鈿、卵殻、彫漆などを指導する。															
授業の到達目標					学位授与の方針との関連										
					1	2	3	4	5	6	7	8	9		
塗りと研ぎを追求し、より高度な形の表現が出来るようになる							○								○
作品に対して、より効果的な加飾を行い、自己の表現が出来る							○								○
全体的に仕上げを綿密にし、完成度を上げる							○								○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）										
1,2回	脱乾				内側をよく洗い、乾燥させておく										
3,4回	縁の調整				縁の調整を終わらせておく										
5回	固め、黒中				必要に応じて黒中を重ねておく										
6回	捨て塗り				少し研ぎを進めておく										
7,8,9回	水研ぎ				水研ぎを終わらせておく										
10回	黒中1 内				黒中が塗れる様にしておく										
11,12回	水研ぎ				水研ぎを終わらせる										
13回	黒中1 外				黒中が塗れる様にしておく										
14,15回	水研ぎ				水研ぎを終わらせる										
16回	黒中2 内				黒中が塗れる様にしておく										
17,18回	水研ぎ				水研ぎを終わらせる										
19回	黒中2 外				黒中が塗れる様にしておく										
20,21回	水研ぎ				水研ぎを終わらせる										
22回	黒中3 内				色を考えておく										
23回	色漆練り・見本板制作				手板の塗りをしておく										
24回	色漆調整・見本研ぎ出し				見本板を完成させておく										
25回	色漆塗り 内1				ムコの湿度を調整しておく										
26回	色漆塗り 外1				ムコの湿度を調整しておく										
27,28回	水研ぎ				水研ぎを終わらせておく										
29回	色漆塗り 内2				色漆塗りを終わらせておく										
30回	色漆塗り 外2				乾漆の台を考えておく										
31,32回	水研ぎ				水研ぎを終わらせておく										
33回	貝、卵殻貼り				段差に錆を入れておく										
34回	塗り込み				平らになるまで塗り込んでおく										
35,36回	研ぎ出し				少しずつ研ぎ出しておく										
37,38回	述べ摺り				何回かに分けて延べ摺りしておく										
39,40,41回	生摺り				摺りを重ねておく										
42,43回	蒔絵・漆絵				加飾を進めておく										
44回	磨き、プレゼン確認				磨きを終わらせておく										
45回	審査				ファイルの確認をする										
履修上の注意 計画通りに進める。															
成績評価方法・基準															
適切な技術を選択できたか、出欠状況や意欲					30%										
作品の完成度、デザイン、センス、個性の表現					70%										
講評会でフィードバックする。															
教科書 授業中に適宜資料を配布する。															
参考書 〔やさしく身に付くうるしのはなし1~4〕〔日本漆工協会〕〔2,160円〕															
備考 質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーに受け付けます。															

授業科目名	卒業研究Ⅱ（グラスアート）			単位（総授業時間＋自習時間）				6												
担当者	森合 暢子	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年											
<p>グラスアートⅠ、技法研究Ⅱで得たガラスの知識と、講師が理化学ガラス製作の実務経験で得た酸素バーナーワークの高度な技術を駆使し、耐熱ガラスの特徴を生かした作品を制作するために最終審査までに計画的に制作に取り組めるように指導する。</p> <p>制作ノートを週一回は確認し、展示方法なども確認し、自分の世界観をガラスで表現した完成度の高い卒業制作が出来るように指導する。講師の過去の作品やガラス工芸家の作品集を参考にし、安全な搬入方法や展示方法、光の当て方なども指導する。展示台はアクリルやガラス、布などを使い、作品の見せ方まで指導する。</p>																				
授業の到達目標					学位授与の方針との関連															
					1	2	3	4	5	6	7	8	9							
① バーナーワークの特徴を生かした完成度の高い卒業制作を作る							○												○	
②最終審査までに、見せ方、展方法も工夫し自分の世界観を表現する。																				○
③会場での光の当て方など展示方法を考える																				○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）															
1～10 制作実演を見て、本制作をする					実演してもらいたい物の絵や写真を用意する															
11～29 仕上げの形作り（素材感・色・強度） ①制作ノート確認					行程を制作ノートに書いておく。															
30 各パーツの完成確認					各パーツを確認しておく。 "															
30～33 展示方法を考える②制作ノート確認					展示方法を制作ノートに記入しておく。															
33～35 展示台作り					展示台の設計図を描いておく。															
36 配置を決定する（光の当て方）③制作ノート確認					配置を制作ノートに描く															
37～43 最終手直し																				
44 写真撮影④制作ノート確認					写真撮影用の布など用意しておく。															
45 完成確認 最終打ち合わせ⑤制作ノート確認					制作ノートを見直しておく。															
履修上の注意																				
安全のため、服装や髪型（結ぶ）など講師の指示に従うこと。																				
成績評価方法・基準																				
制作への姿勢（40%）																				
作品の完成度（60%）																				
講評会でフィードバックを行います。																				
教科書 なし																				
参考書 [家庭ガラス工房バーナーワーク] [松村潔] [ぽるぷ出版] [2800円]																				
備考・質問等は授業中に受け付けます。																				

授業科目名	卒業研究Ⅱ(ガラスアート)				単位(総授業時間+自習時間)				6					
担当者	山口 綾子	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年					
授業概要														
<p>今までの授業で身に付けた“バーナーワーク”技法の集大成として、卒業制作を指導する。着実に技法の研鑽を積み上げ、表現を深められるように指導する。ガラス造形に携わる仕事において、展示空間を想定しながら、作品制作を支援する。制作計画・エスキースなどは、個々にコミュニケーションを取りながら進めていく。制作記録を付けることにより、常に改善点や改良点を確認させる。中間審査の結果をふまえ、進捗状況を確認し、作品の「質」をさらに向上させるべく、計画を進めて行けるように指導する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
習得した技法の習熟度をさらに錬成することができる							○							
主題に応じ、計画性、自主性をもって制作に取り組めるようになる。												○	○	
授業計画の内容					自習(事前・事後学修の内容)									
1～5. 中間審査の内容確認・修正や改善					<ul style="list-style-type: none"> 卒業制作ノートを作成し、制作計画を確認する。 制作に必要な資料の収集と、まとめを常に行う。 必要に応じ、各種展覧会に赴き、制作計画に反映させる。 									
6～35. 本制作 (随時、制作ノートの確認)														
36～40. 仕上げ														
41～44. 展示方法の仕上げ														
26. 制作ノート確認														
27～40. テーマ作品の練習														
45. 本審査前確認・打合せ														
履修上の注意														
積極的に参考になる展覧会鑑賞をすること。作品以外の環境(展示方法・設置)についても考察すること。														
成績評価方法・基準														
<ul style="list-style-type: none"> 制作への取組 30% (作業姿勢・進捗状況・制作ノート) 作品 70% (完成度・習熟度・目標達成において総合的に判断する) 制作ノートを通じて、常にフィードバックして行きます。 														
教科書 事前にプリントなどを配布する。														
参考書 [トンボ玉][小暮紀一][ほるぷ出版][2,808円]														
備考 質問などは、授業内 または 授業後オフィスアワーを設けます。														

授業科目名	卒業研究Ⅱ（人形）				単位（総授業時間＋自習時間）				6										
担当者	福田 一実	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年										
授業概要																			
4年間で習得した技術を基に、オリジナルの人形を制作させる。作品のテーマを設定し、展示空間を考えながら人形のキャラクターや人形の在り方について研究させ、人体の造形についても深く追求し、完成度の高い作品を制作できるよう指導する。誰にどこに作品を発信するのかしっかり考え、完成する作品、空間すべてを含め、綿密な計画を立てさせる。4年間の集大成の作品を見せる意義について考えさせると共に制作記録を付けさせる。																			
授業の到達目標					学位授与の方針との関連														
					1	2	3	4	5	6	7	8	9						
自分の世界の創作人形を完成できる。																			○
人形を通して展示の仕方も含め表現方法を考えることができる。							○												○
人形との向き合い方を深めることができる。							○											○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）														
1～3.仮組をし、バランスチェック。塗装が出来るようしっかりヤスリをかける。					全体のバランス確認。														
4～8.塗装をし、磨く。					細かなキズなどをチェックする。														
9～12.塗装したものに着色する。																			
13～14.メイクする。・					メイクのイメージ、資料集め														
15～18.かさを作り、髪を貼る。					ヘアスタイルのイメージ、資料集め														
19.組み立てる。																			
20～32.衣装を作る。					衣装の資料集め。														
33～44.背景、展示方法。																			
45.完成。講評。																			
履修上の注意																			
人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。																			
成績評価方法・基準																			
課題作品 50%、授業態度 50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）																			
講評会の際、フィードバックを行う																			
教科書 〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2880〕																			
参考書 〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2700〕																			
〔はじめて作る球体関節人形〕〔アイミ〕〔秀和システム〕〔2000〕																			
〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3200〕																			
備考																			
解剖学の資料は必ず用意すること。																			
質問等については授業終了後、オフィスアワーを受け付けます。																			

授業科目名	卒業研究Ⅱ (マンガ)				単位 (総授業時間+自習時間)				6					
担当者	鹿野 明子	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年					
授業概要														
前期卒制研究Ⅰの審査結果をふまえ、本提出に向けた計画の見直しやプレゼンテーション、制作ノートの指導を行う。提出にあたり最低限の画力は必要だが、卒制〆切までの時間で個人の持つ技量と構合力、ストーリー性等の要素をバランスよく取り入れた作品になるよう指導する。また、作品の中にどれだけ作者の世界観を取り入れて、それを第三者にもわかり易く示せるか、トータルで卒制課題としてのクオリティを醸し出せるように指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
丁寧で綺麗な仕上げを行い、クオリティの高い画面にできる。							○							○
妥協せず完成度の高い内容に仕上げることができる。							○							○
作品のよさが伝わる展示方法を実践できる。							○					○		
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1.前期からの計画を見直し修正する					前期製作ノートをチェックしておく									
2～4.ネームの見直しチェック：ノートチェック①					内容、構成等を吟味しておく									
5～7.構図等の見直しチェック：ノートチェック②					構図や枠取り等の作業を進めておく									
8～10.ペン入れ：ノートチェック③					用具のチェックも行っておく									
11～13.ペン入れ：ノートチェック④					毎回丁寧な作業を心がける									
14～15.ペン入れ：ノートチェック⑤														
16～19.ペン入れ：ノートチェック⑥														
20～21.ペン入れ：ノートチェック⑦														
22～25.ペン入れ：ノートチェック⑧														
26～28.ペン入れ：ノートチェック⑨														
29～31.ペン入れ：ノートチェック⑩														
32～34.プレゼンテーション1,2：ノートチェック⑪					パネル展示、印刷、製本、原面の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく									
35～36.プレゼンテーション3,4：ノートチェック⑫														
37～39.プレゼンテーション5,6：ノートチェック⑬														
41～42.プレゼンテーション7,8														
43～44.プレゼンテーションの確認、修正														
45.本提出前の確認：ノートチェック⑭					製作ノート、日誌を確認する									
履修上の注意														
マンガⅠ、Ⅱ、Ⅲ、技法研究Ⅱa(マンガ)を履修していることが望ましい。														
成績評価方法・基準														
課題提出でフィードバックを行なう。 課題 80% (アイデア 40%、絵 (丁寧さ、画力、仕上げ) 40%) 授業態度 (創作意欲や創作の自主性等) 20%														
教科書 なし														
参考書 なし														
備考 授業の後にオフィスアワーを設ける。														

授業科目名	卒業研究Ⅱ (マンガ)				単位 (総授業時間+自習時間)				6					
担当者	安孫子 三和	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	生美4年					
授業概要														
漫画家歴 25 年の経験と実績をふまえて、本学で学んだ事の集大成としての作品作りと完成させ発表に至るまでの創意工夫の順を追って学ばせる。前期でネームは終了し下絵に入っているため、コマや人物位置のチェック、背景、ペン入れの効果的な入れ方、雰囲気や間の取り方など、作画中心に丁寧に指導応援し、自己満足だけで終わらない作品にさせる。また発表に向けて見る側の立場を考えさせて、より面白い展示になるよう努めさせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
完成までの計画を守り実行出来る							○							○
発表を踏まえての見せ方に創意工夫を考え実行する							○		○			○		○
業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. 後期年間計画の確認					制作ノートの修正などチェック									
2~4. 下絵トレース制作 2-(1)					原稿用紙への下絵開始 (トレース)									
5~8. " 2-(2) トレース下絵完成チェック					(デジタルならば即ペン入れに入る)									
9~11. ペン入れ (1)					丁寧に人物主線から始める									
12~15. " (2)					作画中にも展示に必要なパネル、印刷物、製本など適宜準備や申し込みを進める									
16~18. " (3)														
19~21. " (4)														
21~24. " (5) 原稿ペン入れ完成チェック														
25~28. 仕上げ・効果・トーン(1)					アナログでも仕上げのみのデジタル可									
29~31. " (2)					ペン入れの進度チェック									
32~35. " (3) 仕上げ原稿全完成チェック					原稿完成									
36~38. プレゼンテーション(1)					展示の方法をイメージ通りに表せるか確認チェック									
39~41. " (2)														
42~44 " (3) 完成														
45. 作品提出・最終チェック・ノートチェック					最終確認									
履修上の注意														
マンガⅡ・Ⅲを履修している事が望ましい (未受講は要相談)														
成績評価方法・基準														
出席・課題提出によって総合的に評価。作品 50% (アイデア、ストーリー構成、キャラクター魅力、画力など)・作品進行度合い 30%・出席受講態度 20%														
制作ノートは毎回チェックをするので必ず持参すること。														
提出期限ごとの進行作品に対し都度フィードバックします。														
教科書 なし														
参考書 なし														
備考														
質問等は授業内に受け付けます														

授業科目名	卒業研究特別講義 I				単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+30)				
担当者	立花 布美子・落合 里麻	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	生美 4 年				
授業概要													
<p>これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用した、卒業制作または卒業論文の準備のための授業である。研究のための一連の流れを確認し、情報収集や調査、執筆または制作の計画、取材、材料の確認、加工の手段等を検討し、テーマに沿った制作または執筆のための指導をする。また、外部の会場を借りて卒業制作作品展を行うことを想定した準備計画についての指導を行う。この授業の最後に卒業研究 I 提出として、作品または論文の進行状況と今後の計画等の発表を行う。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
卒業研究を進めていく上で基本となる考え方およびスキルを学ぶことで、4年間の学修の集大成としての課題を解決する能力を身につけることができる					○	○	○		○		○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 卒業研究の概要（履修登録確認）					シラバスを熟読すること。								
2. 卒業研究の成果と課題					シラバスに沿って各自検討する。								
3. 卒業研究の年間計画					計画のための情報収集をする。								
4. 卒業研究の立案と制作ノートについて					制作ノートを記入する。								
5. 卒業瀬作品展について（ファイル参考）					制作ノート日程（計画表）の作成								
6. 卒業制作展について（係分担）					係ごとに仕事内容を確認しておく。								
7. 材料・技法検討					材料、技法の情報を収集。								
8. 材料準備					材料研究を行う。								
9. エスキース制作（支持体）					制作ノート（取材・調査）の作成								
10. エスキース制作（大きさ）					制作ノート（材料・技法）の作成								
11. エスキース制作（技法）					制作ノートを進める。								
12. 本制作（下地）					制作ノートをまとめる。								
13. 本制作（全体）					係ごとの仕事内容の報告と確認。								
14. 本制作（全体）					発表の順番、場所時間の確認。								
15. 卒業研究 I 提出について					各自発表場所の準備。								
履修上の注意													
授業内でその都度指示する。													
成績評価方法・基準													
授業参加状況 50% レポートの内容 50%													
制作ノートに関しては授業時にフィードバックを行う。													
教科書 事前に資料を配布する。													
参考書 特になし													
備考													
質問については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日 日時は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名	卒業研究特別講義Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+30)				
担当者	立花 布美子・落合 里麻	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	生美4年				
授業概要													
<p>これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用した、卒業制作または卒業論文に主体的に取り組む授業である。4年間の集大成にふさわしい作品または論文を完成させる。研究のための一連の流れを確認し、情報収集や調査、執筆または制作の計画、取材、材料の確認、加工の手段等を検討し、テーマに沿って制作または執筆のための指導をする。また、外部の会場を借りて卒業制作作品展を開催するための具体的な準備についての指導を行う。この授業の最後に卒業研究Ⅱ提出として、作品または論文の提出、発表を行う。</p>													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
卒業研究を進めていく上で基本となる考え方およびスキルを学ぶことで、4年間の学修の集大成としての課題を解決する能力を身につけることができる					○	○	○		○		○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 学生相互の情報交換（履修登録確認）					情報交換（履修）のための準備。								
2. 学生相互の情報交換（進路確認）					情報交換（進路）のための準備。								
3. 学生相互の情報交換（卒業制作展・展示計画）					情報交換（展示計画）のための準備。								
4. 学生相互の情報交換（卒業制作展・広報）					情報交換（広報）のための準備。								
5. 学生相互の情報交換（卒業制作展・搬入計画）					情報交換（搬出入計画）のための準備。								
6. 本制作（全体）					係ごとに仕事内容を確認。								
7. 本制作（部分）					材料、技法の確認。								
8. 本制作（細部）					制作ノート（制作過程）の作成。								
9. 本制作（仕上げ）					制作ノート（仕上げ）の作成。								
10. 本制作（完成）					制作ノート（展示計画）の作成。								
11. 本制作（手直し）					制作ノート担当教員による確認。								
12. プレゼンテーション案について					制作ノートをまとめる。								
13. プレゼンテーション手直し					係ごとの仕事内容の報告と確認。								
14. プレゼンテーション完成					発表の順番、場所時間の確認。								
15. 卒業研究Ⅱ提出について					各自発表場所の準備。								
履修上の注意													
授業内でその都度指示する。													
成績評価方法・基準													
授業参加状況 50% レポートの内容 50%													
制作ノートに関しては授業時にフィードバックを行う。													
教科書 事前に資料を配布する。													
参考書 特になし													
備考													
質問については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日 日時は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名	生活美術特別講義Ⅴ				単位（総授業時間＋自習時間）	1(15+15)								
担当者	佐藤寛和・鶴巻史子	必・選	選	形態	集中講義	学期	前期	対象	生美3年					
授業概要														
<p>特別講義Ⅴでは、デザイン・プロデュースについて学び、グッズやサービスを企画するワークショップを通して発想力と応用力を身につける。事前学習をもとに「自分が欲しいグッズやサービスを考える」「キャラクターデザインとその展開を考える」ことをテーマとして、企画立案・ブラッシュアップ・プレゼンテーション・ふりかえりというデザインプロセスを繰り返しながら、主体的に学び課題を解決する能力を身につけられるよう指導する。</p>														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
キャラクターデザイン・プロデュースの基礎を理解する							○							
企画を立案し、プレゼンテーションができる										○				
主体的に課題を解決する能力を身につける														○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 生活美術特別講義Ⅴ：3年次開講					事前学習のまとめ									
2. 商品・サービスの企画と展開について					商品・サービス企画の調査									
3. 課題1：デザイン基礎 デザイン素案					デザイン素案まとめ、発表準備									
4. 発表					発表まとめ									
5. ブラッシュアップ					ブラッシュアップまとめ									
6. 企画改善					企画改善まとめ、フィードバック準備									
7. フィードバック					フィードバックまとめ									
8. ふりかえり					ふりかえりまとめ									
9. 課題2：デザイン応用 デザイン素案					デザイン素案まとめ、発表準備									
10. 発表					発表まとめ									
11. ブラッシュアップ					ブラッシュアップまとめ									
12. 企画改善					企画改善まとめ、フィードバック準備									
13. フィードバック					フィードバックまとめ									
14. ふりかえり					ふりかえりまとめ、プレゼン準備									
15. プレゼンテーション					制作プロセスまとめ									
履修上の注意														
<p>毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がける。</p>														
成績評価方法・基準														
<p>出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50%、課題制作とプレゼン50%で評価する。</p>														
教科書 ワークシートを配布する														
参考書 プリントを配布する														
備考														
<p>美術表現学科、生活美術学科全学年が受講可能。質問等は授業終了時に受け付ける。</p>														

授業科目名	生活美術特別講義VI				単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+15)					
担当者	小野寺 良枝	必・選	選	形態	集中講義	学期	後期	対象	生美3年					
授業概要														
臨床美術の沿革、臨床美術の実際の効果、臨床美術アートプログラムの仕組みやアートを媒体としたコミュニケーションなど、臨床美術に関する基礎的な知識を学ぶことができる。また、臨床美術の基本画材であるオイルパステルを使用して、臨床美術のアートプログラムを体験し、創造の楽しさを味わうことができる。美術が本来持っている創造力を発揮し臨床美術を用いて様々な地域の課題を克服し、社会の変化に対応しながら、文化を主体的に創造してゆける態度を養えるよう指導をする。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
臨床美術の基礎的知識や学習態度を身につけることができる。					○									
臨床美術の専門知識とその技能体系を社会と関連付けて理解することができる。							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 授業の概要と流れについて					情報を集める。									
2. 課題の設定とその展開について					調査をする。									
3. 課題1 課題説明 調査内容を発表					修正を加え再提出する。									
4. 検討・制作					プリントを完成させ提出する。									
5. 発表、提出					課題を完成させ提出する。									
6. フィードバック					プレゼンの準備をする。									
7. プレゼンテーション					授業を振り返り、ポイント等を整理する。									
8. まとめ					調査をする。									
9. 課題2 課題説明 調査内容を発表					修正を加え再提出する。									
10. 検討・制作					プリントを完成させ提出する。									
11. 発表、提出					課題を完成させ提出する。									
12. フィードバック					内容を復習し、課題を進める。									
13. 検討・制作					課題を完成させる。									
14. プレゼンテーション					プレゼンの準備をする。									
15. プレゼンテーション 今後の展開とまとめ					授業を振り返り、ポイント等を整理する。									
履修上の注意														
実施時期・講義内容の詳細について掲示で知らせる。各自内容を確認し履修登録を行うこと。また、必要な材料等の準備物についても掲示にて知らせる。必ず提出すること。														
成績評価方法・基準														
授業態度、取り組みの姿勢など 50%、課題とプレゼンテーションの内容 50%で評価する。 課題については、授業内でフィードバックを行う。														
教科書 授業時に資料を配布する。														
参考書 適宜指示する。														
備考 質問については、授業時、授業終了後に受け付ける。														

教職に関する科目

授業科目名	教育原理				単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)	
担当者	宮澤 孝子・山沢 智樹	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家政・美表 2 年
授業概要									
<p>本講義ではまず教育の本質を理解するために、教育の目的や意味、家庭教育や学校教育などの基礎理念を整理する。次に、子ども観や教育観の変遷とともに教育の起源や歴史を包括的にとり上げ、日本と諸外国でどのように教育が起こり広がっていったのかを解説する。また、教育に関するさまざまな思想を取り上げ、代表的な教育思想家や現代の教育思想を幅広く紹介する。最後に戦後の日本が直面してきた諸課題を歴史的に吟味し、今日の教育理念を幅広く紹介する。講義中には自らの考えを発表し他の学生と討論する時間を設けることで、学生自身が自らの教育観や子ども観を捉え直し、実践の基盤として据えられるようにしたい。</p>									
授業の到達目標									
1. 教育の本質・目的・概念に関する基礎的な知識を習得する。									
2. 教育の歴史的変遷や現代社会における教育課題を理解する。									
3. 日本と諸外国の教育思想について理解する。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1. オリエンテーション（宮澤・山沢）					シラバスの確認、学習内容を見通す				
2. 教育の本質と意義：教育とは何か（山沢）					辞書で「教育」を調べる／復習				
3. 教育の目的と目標（山沢）					人間形成とは何かを考える／復習				
4. 教育の場と内容：家庭と学校教育（山沢）					自分の教育観を考える／復習				
5. 教育の歴史（1）教育のはじまり（山沢）					教育の起源を考える／復習				
6. 教育の歴史（2）子どもの発見（山沢）					配布資料を読んでくる／復習				
7. 教育思想（1）16～18世紀欧米の教育思想（山沢）					配布資料を読んでくる／復習				
8. 教育思想（2）18～19世紀欧米の教育思想（山沢）					教育思想家について調べてくる／復習				
9. 教育思想（3）20世紀欧米の教育思想（山沢）					教育思想家について調べてくる／復習				
10. 教育思想（4）日本の教育思想（山沢）					教育思想家について調べてくる／復習				
11. 教育の歴史（3）近代教育制度以前の学び（宮澤）					教育思想家について調べてくる／復習				
12. 教育の歴史（4）近代教育制度の成立（宮澤）					教育思想家について調べてくる／復習				
13. 戦後教育改革（1）教育理念（宮澤）					配布資料を読んでくる／復習				
14. 戦後教育改革（2）教育制度（宮澤）					配布資料を読んでくる／復習				
15. 歴史的課題と今日の教育理念（宮澤）					配布資料を読んでくる／復習				
16. 試験									
履修上の注意									
授業中の課題をしっかりと行うこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。									
成績評価方法・基準									
平常点 40%（リアクションペーパーの内容、課題、参加態度）、期末試験 60%									
各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。試験については、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。									
教科書 事前にレジュメ等を配布する。									
参考書 〔教育思想史〕〔今井康雄 編〕〔有斐閣アルマ〕〔2,376 円〕									
備考									
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。									

授業科目名	教職概論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)	
担当者	笠間 賢二	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	家政・美表1年
授業概要									
<p>教師という職業（教職）の意義・職務・課題について学修を進め、自分の将来の進路として、教職を選択することの適否について考えることができるようになること、これを授業の目的とする。</p> <p>(1) 教職に対する社会的期待（教職観）がどのような変遷を辿って今日に至っているのか、(2) 教職に関する法制や制度がどのような仕組みと構造になっているのか、(3) 教職の現実を教員が実際に出くわすと思われる場面を想定しながら理解できるようにする、以上を学修内容とする。</p>									
授業の到達目標									
(1) 教師という職業の変遷について、その概略を理解できるようになる。									
(2) 教師という職業に関する法制や制度について、その概略を理解できるようになる。									
(3) 教師という職業の実際について、その難しさも含めて理解できるようになる。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1. ガイダンス					<p>予習の部分で定型的な作業は求めません。ただし、これまでの自分の被教育体験をしっかりと振り返って整理してみてください。教育や教師のあり様を考える糧になるはずです。</p> <p>復習することは、毎回、必須です。ただしその際、授業内容を記憶に留めるための学習ではなく、それをより膨らませる学習（例えば、関連する事項を図書館で調べることなど）を心がけてください。</p>				
2. 教師のしごとの実際（VTR 併用）									
3. 教職観の変遷：聖職者 ⇄ 労働者 ⇄ 専門職									
4. 専門職としての教師：他の専門職との比較									
5. 公教育と教師：公共的使命、身分保障と服務									
6. 教師の職能成長：研修をめぐる諸問題									
7. カリキュラム編成と教師									
8. 授業づくりと教師									
9. 子どもの権利と教師									
10. 児童・生徒の懲戒（1）：教育作用としての懲戒									
11. 児童・生徒の懲戒（2）：とくに体罰をめぐる									
12. 受講者の報告（被教育体験）とグループ討議①：いま教師に求められる力量について									
13. 受講者の報告（被教育体験）とグループ討議②：いま教師に求められる力量について									
14. 「チーム学校」という考え方									
15. 「教員文化」をめぐる諸問題									
16. 最終試験									
履修上の注意									
「私語」「内職」は慎むこと、欠席は事前に届け出ること、課題の提出は期限を守ること。これらは常識です。									
成績評価方法・基準									
おさらいレポート、グループ討議の報告内容（12～13回）、定期試験、これらを勘案して評価します。レポートは後日フィードバックします。									
教科書 教科書は使用しません。毎回授業前にレジュメを配布します。									
参考書 参考書は随時紹介します。									
備考									
(1) 資格要件に関する情報 ⇒ 教育職員免許状の取得に必要な授業科目です。									
(2) 特別な配慮を要する学生に対する扱い ⇒ 申し出てください。									
(3) 質問等については、授業終了時に受け付けます。									

授業科目名	教育心理学				単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)			
担当者	宮前 理	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家政・美表 2年
授業概要									
<p>児童・生徒の心身の発達の過程（運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達等）及び学習の理論（動機づけ・集団づくり・学習評価など）について概説し、それぞれの発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導について概説する。</p>									
授業の到達目標									
1. 児童・生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。									
2. 児童・生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.オリエンテーション（授業の概要説明）					授業概要と到達目標を理解する				
2.教育心理学とは（教育心理学の意味と課題）					教育における心理学の役割を理解する				
3.発達とは（発達とその要因）					発達について心理学的に理解できること				
4.発達の原理と段階					発達段階とその理論を理解できること				
5.身体・運動機能の発達					講義内容について次回レポート提出				
6.言語機能の発達					講義内容について次回レポート提出				
7.認知機能の発達					講義内容について次回レポート提出				
8.社会的能力の発達					講義内容について次回レポート提出				
9.学習とは（学習とその様式）					学習について心理学的に理解できること				
10.学習の諸相（学習の方法と環境）					教育心理学的実践例を通して理解できる				
11.学習指導とは（学習指導とその方法）					教育心理学的実践例を通して理解できる				
12.学習指導と動機づけ					学習における動機づけの役割を理解する				
13.学級集団とは（学級集団とその発達、学級集団の指導）					学級集団に関する心理学理論を理解する				
14.学習の評価とは（評価とその方法、能力と行動の評価）					評価の具体的指標と方法を理解する				
15.主体的な学習活動を支える指導					近年の教育心理学の知見を理解する				
16. 定期試験									
履修上の注意									
第1回目に講義の進め方と注意事項を説明する。									
成績評価方法・基準									
レポート課題 30%、試験 70% 課題については後日、講義の中でフィードバックする。									
教科書 授業の中で資料（プリント）を配布する。									
参考書									
〔中学校学習指導要領 平成29年〕〔高等学校学習指導要領 平成31年〕 その他講義時に指定する。									
備考									
受講人数等の事情により授業計画の修正を行う場合があります。 質問等は、講義終了時あるいはオフィスアワーで受け付けます。									

授業科目名	教育制度論				単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)			
担当者	宮澤 孝子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家政・生美3年
授業概要									
<p>本講義では現代の学校教育を取り巻く制度を理解するため、主に次の3つの内容を取り扱う。第一に、日本と諸外国の学校教育の制度を原理的、歴史的、構造的に解説する。第二に、学校教育制度を構成している教育関係の法規や、教育制度を実行に移す主体としての教育行政の仕組みについて講義する。その際、学校教育における課題と近年の教育政策とを関連付けながら解説する。第三に、学校と地域の連携ないし協働に対する意義を、学校安全に関する法律にも触れながら紹介する。</p>									
授業の到達目標									
1. 学校教育に関する制度的な基礎知識を習得する。									
2. 社会と学校教育の結びつきを理解し、教育政策の動向を理解する。									
3. 学校と地域の連携および学校安全への対応に関する知識を身につける。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.オリエンテーション					教育制度を学ぶ意味について				
2.公教育の原理・理念					公教育の意味について/復習				
3.公教育制度の構造（1）戦前					教育勅語、義務教育について/復習				
4.公教育制度の構造（2）戦後					教育を受ける権利について/復習				
5.教育関係の法規①：日本国憲法と教育基本法					新旧教育基本法の比較/復習				
6.教育関係の法規②：学校教育法と関係法令					近年の教育関係法令について/復習				
7.教育行政の理念					教育行政の条件整備義務について/復習				
8.教育行政の仕組み					教育行政の権限と組織について/復習				
9.教育委員会制度					教育委員会の役割について/復習				
10.学校を巡る状況と指導上の課題					教育評価について/復習				
11.近年の教育政策の動向					教師の働き方改革について/復習				
12.学校と地域の連携①：地域と親と学校					教育の自治、PTAについて/復習				
13.学校と地域の連携②：開かれた学校づくり					各地域の取り組みについて/復習				
14.学校安全への対応①：学校保健安全法					学校安全に関わる今日の問題、出来事について/復習				
15.学校安全への対応②：安全教育の取り組み									
16.まとめと試験									
履修上の注意									
<p>試験を受けるにあたっては、3/2以上の授業出席を条件とする。 全ての講義回において、講義形式とグループワーク・ディスカッション形式にて授業を進める。 積極的な発言、参加を期待します。</p>									
成績評価方法・基準									
<p>平常点 50%（リアクションペーパー、レポート課題）、試験 50% 各回でのリアクションペーパー、課題については、後続の授業冒頭においてフィードバックをする。</p>									
教科書 各授業前にレジュメ・資料を配布します。									
参考書 〔教育小六法 2020年版〕〔市川須美子他 編〕〔学陽書房〕〔2,970円〕									
備考									
<p>個人での勉強（復習）方法については、初回授業にて提案します。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。 都合により、授業計画を変更する場合があります。</p>									

授業科目名	教育課程論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	中島 夏子・宮澤 孝子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家政・美表 2年
授業概要									
本講義は教育課程とその編成方法について学ぶことを目的とする。各授業では、学習指導要領の位置づけやその内容、教育課程の編成の原理、カリキュラム・マネジメント等の教育課程の基礎的な知識を、関連資料の読解やグループワーク等を通して理解する。また、指導計画を立てることを通して、指導計画と教育課程の編成の仕方を習得する。									
授業の到達目標									
1. 学校教育において教育課程が有する意義を理解する。 2. 教育課程編成の原理及び方法を理解する。 3. カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1. 教育課程の社会における役割と機能（中島、宮澤）					教育課程について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。				
2. 教育課程の基本構造（中島、宮澤）					教育課程の基本構造について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。				
3. 学習指導要領の位置づけと教育課程編成の目的 （中島、宮澤）					学習指導要領の制度について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。				
4. 学校における教育課程と授業の指導計画 （中島、宮澤）					学校における教育課程と授業の指導案について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。				
5. 教育課程編成の原理（中島、宮澤）					教育課程編成の原理について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。				
6. 学習指導要領の変遷（中島、宮澤）					教育課程の歴史について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。				
7. 現行学習指導要領の特質（中島、宮澤）					学習指導要領の特質について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。				
8. 教科横断的な教育課程とカリキュラム・マネジメント（中島）					カリキュラム・マネジメントについて調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。				
9. 教育評価とカリキュラム評価（中島）					教育評価とカリキュラム評価について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。				
10. 中間まとめと試験（中島、宮澤）					これまでに学んだ事を配布資料を中心に復習する。				
11. 教育課程の編成の方法（宮澤）					教育課程の編成方法について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。				
12. 指導計画を編成する（グループ活動）（宮澤）					指導計画を作成し、グループ活動に備える。				
13. 指導計画を編成する（グループ報告会）（宮澤）					グループの報告の準備を行う。報告を踏まえて教育課程の修正を行う。				
14. 指導計画を編成する（個人活動）（宮澤）					グループ活動で学んだ事を振り返り、教育課程を作成する。				
15. まとめ（中島、宮澤）					これまでに学んだ事を配布資料を中心に復習する。				
履修上の注意									
授業の進行状況によって授業計画の順番が前後することがある。									
成績評価方法・基準									
各授業で課すレポート（40%）、中間試験（30%）、指導計画およびその発表内容（30%） *各授業で課すレポートは、授業中にフィードバックを行う。 *中間試験は、その場で採点し、解説を行う。 *指導計画については、添削を行う。									
教科書 自作資料を準備する。授業前に配布する。									
参考書									
〔中学校学習指導要領（平成29年3月告示）〕〔文科省〕〔352円〕 〔高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）〕〔文科省〕 *学習指導要領は文部科学省のウェブサイトからダウンロードも可能 〔ワークで学ぶ教育課程論〕〔尾崎博美・井藤元編著 2018年〕〔ナカニシヤ出版〕〔2,808円〕									
備考 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等は、授業終了後受け付ける。									

授業科目名	家庭科教育法 I			単位 (総授業時間+自習時間)				4(60+120)	
担当者	佐藤 郷美	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	家政3年
授業概要									
家庭科教育における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科教育の学習内容 (A 家族・家庭生活, B 衣食住の生活, C 消費生活・環境) について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法とともに学習指導案の作成や模擬授業を通して、指導技術の向上を図る。 テーマ ～家庭科教育の理解と指導技術の向上を目指して～									
授業の到達目標									
・家庭科教育に関する学習指導要領に示された目標や内容を身に付ける。									
・家庭科教育に関する具体的な学習指導理論を身に付ける。									
・家庭科における具体的な授業場面を想定した授業設計を身に付ける。									
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)				
1. 家庭科教育とは 家庭科で育てる資質・能力について					学習指導要領の基本方針を読む				
2. 家庭科教育の歴史とその変遷					家庭科教育の変遷について調べる				
3. 家庭科教育の意義とその展望					最近のニュース等で家庭科記事の収集				
4. 小学校における家庭科教育の内容について					小学校での学びのまとめ				
5. 中学校における家庭科教育の内容について					中学校での学びのまとめ				
6. 高等学校における家庭科教育の内容について					高校での学びのまとめ				
7. ホームプロジェクト・家庭クラブと技能検定					教科書関連部分を読む				
8. 教科、道徳及び総合的な学習などとの関連・教育課程					学習指導要領、関連部分を読む				
9. 情報機器の操作と活用					学習指導要領、関連部分を読む				
10. 学習指導計画① 作成の意義、留意点、等					学習指導要領、関連部分を読む				
11. 学習指導計画② 年間指導計画案と題材指導計画案					学習指導要領、関連部分を読む				
12. 学習指導案の作成 (その形式と留意点)					今までの家庭科授業の学びのまとめ				
13. 学習指導過程の作成① (導入・展開)					指導案の作成				
14. 学習指導過程の作成② (展開・終結)					指導案の作成				
15. 学習指導案過程の作成に関するまとめ					今までの学びの復習				
16. 試験									
17. 家庭科教育に関する施設・設備の必要性と管理運営					学習指導要領、関連部分を読む				
18. 学習指導方法① 学習類型と指導形態					学習指導要領、関連部分を読む				
19. 学習指導方法② 実験・実習の指導と家庭科の特質					学習指導要領、関連部分を読む				
20. 家庭科教育における教材研究① 教材作成上留意点					家庭科食と衣の教材調べ				
21. 家庭科教育における教材研究② 教材づくりと授業の実際					教材づくりと発表準備				
22. 評価について 評価方法とその実際					評価について調べる				
23. 学習指導案の作成① (前段)					学習指導案の題材を決める				
24. 学習指導案の作成② (本時の指導)					学習指導案、本時の指導を構想する				
25. 学習指導案作成発表					学習指導案づくりと発表準備				
26. 模擬授業① ～主に導入					模擬授業の準備、まとめ (導入)				

27. 模擬授業② ～展開	模擬授業の準備, まとめ (展開)
28. 模擬授業③ ～板書・学習カード	模擬授業の準備, まとめ (板書, カード)
29. 模擬授業④ ～教材・教具	模擬授業の準備, まとめ (教材教具)
30 模擬授業⑤ ～まとめの工夫	模擬授業の準備, まとめ (まとめの工夫)
31. これまでの学習のまとめと教育実習について	これまでの学びをまとめる
32. 試験	
履修上の注意	
・出席を重視する (遅刻禁)。提出物は期限厳守で必須。	
成績評価方法・基準	
講義と共に実践的・体験的な学びに対する真摯な取組と出席を重視する。 講義への出席と取組状況 40% 定期考査 30% 学習指導案及び模擬授業 30% 次回の授業内でフィードバックをします。	
教科書	
中学校 教科書 技術・家庭 (家庭分野) 開隆堂 643 円 高等学校 教科書 家庭総合 開隆堂 778 円	
参考書	
小学校学習指導要領解説 家庭編 東洋館 95 円 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 文部科学省/編 教育図書 82 円 高等学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省 (著) 288 円	
備考	
授業終了時に質問を受け付けます。	

授業科目名	家庭科教育法Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				4(30+60)	
担当者	深澤 律子	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	家政4年
授業概要									
家庭科および家庭科教育を理解し、中学校「技術・家庭科」の家庭分野及び高等学校家庭科の授業のための実践力を修得する。そのために学習指導計画・指導法・評価・教材研究の進め方・教材教具の作成等演習を重視して、総合的・実践的な学習を深め、教育実習をより効果的に行う能力と態度を育成する。中学（高校）生の現代の生活課題について理解し、生徒がその課題を解決するための教材を考え、生徒が主体的に学ぶ家庭科の授業を作るための実践力を身につける。高等学校家庭科教員の経験を生かしてこの授業を進めていく。									
授業の到達目標									
① 中学（高等学校）家庭科の指導要領を理解した上で指導案を計画することができる。									
② 中学（高等学校）家庭科の指導要領を理解した上で教材研究、教材教具の作成を行うことができる。									
③ 中学（高等学校）家庭科の教育実習にむけて、自分の家庭生活の自立ができる。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.ガイダンス：教育実習について 模擬授業実践計画					学習指導要領をよく読み、教育実習で行う学校（中・高）の学習指導要領をまとめ、次回提出。				
2.教育実習：教育実習事前指導 教材研究・指導案					教育実習で行う学校（中・高）の教材研究・指導案を調べてまとめ、次回提出。				
3.教員採用試験に向けて・指導細案作成方法					前回まとめた教材研究・指導案を更に詳しくまとめ、次回提出。				
4.学習指導：模擬授業実践に向けて（教材研究の要点）					教材研究について資料を集め、具体的に教材を作成し、次回提出。				
5.情報機器の操作と活用法					情報機器の操作と活用法について、具体的な活用法を調べ、次回提出。				
6. 模擬授業Ⅰ：模擬授業実践①（導入の工夫・展開の山場）					模擬授業内容のタイムテーブルを作成し、次回提出。				
7. " : 模擬授業実践②（まとめの工夫）					模擬授業内容のポイントとまとめをレポートにまとめ、次回提出。				
8. " : 模擬授業実践③（板書の工夫）					模擬授業内容の板書すべきことをレポートにまとめ、次回提出。				
9. " : 模擬授業実践④（評価の研究）					模擬授業内容の評価について、ルーブリック評価法をレポートにまとめ、次回提出。				
10. " : 模擬授業実践⑤（教材教具の工夫と掲示）					模擬授業内容の教材教具について作成し、次回発表できるよう準備。				
11.教育実習のまとめ：教育実習の反省・評価・まとめ					模擬授業内容についてのアンケート用紙を作成し、次回提出。				
12.教育実習研究授業実践発表会・評価①					教育実習研究授業内容について自分で準備し、練習し、授業に備える。（課題1）				
13. " ②					教育実習研究授業内容について自分で準備し、練習し、授業に備える。（課題2）				
14. " ③					教育実習研究授業内容について自分で準備し、練習し、授業に備える。（課題3）				
15. 模擬授業実践の反省・評価 教員採用試験に向けて					模擬授業を行っての反省・評価をまとめ、教員採用試験にむけての決意を800字にまとめ次回提出。				
16.学習指導計画：体験・実習・実験学習実践指導法					教科書をよく読み、体験・実習・実験の事例をレポートにまとめ、次回提出。				
17.実践学習指導：実践学習の進め方（シニア体験学習）					体験学習の感想をレポートにまとめ、次回提出。				
18. " : "（家庭看護）					実践学習の感想をレポートにまとめ、次回提出。				
19.実験・実習学習指導の進め方：（食物分野）					教科書をよく読み、食物分野の実習・実				

	験の事例をレポートにまとめ、次回提出。
20. 実験・実習学習指導の進め方：(衣生活分野)	教科書をよく読み、衣生活分野の実習・実験の事例をレポートにまとめ、次回提出。
21. 模擬授業の計画：模擬授業指導案作成（食物分野）	教科書をよく読み、食物分野の模擬授業指導案を作成し、次回提出。
22. 模擬授業Ⅱ：食物分野実験学習指導①（導入の工夫）	授業内容のタイムテーブルを作成し、次回提出。
23. " : " ②展開の山場)	授業内容のタイムテーブルに補足を加え、次回提出。
24. " : " ③(板書・学習プリント)	教科書をよく読み、食物分野の実習の学習プリントを作成し、次回提出。
25. " : " ④(教材教具の工夫)	教科書をよく読み、食物分野の実習の教材を作成又は試作し、まとめたものを次回提出。
26. 模擬授業Ⅲ：衣生活分野実習学習指導①（導入の工夫）	授業内容のタイムテーブルを作成し、次回提出。
27. " : " ②展開の山場)	授業内容のタイムテーブルに補足を加え、次回提出。
28. " : " ③(板書・学習プリント)	教科書をよく読み、衣生活分野の実習の学習プリントを作成し、次回提出。
29. " : " ④(教材教具の工夫)	教科書をよく読み衣生活分野の教材を作成し、レポートにまとめ、次回提出。
30. まとめ：模擬授業のまとめと評価、反省	実習の模擬授業の感想をレポートにまとめ、次回提出。
31. 試験.	
履修上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・受講は、自分が教育実習で授業を行うことを想定し、家庭科の教科書（中・高）・指導要領の精読を心がける。模擬授業の教材研究は、自主的にニュースや新聞、関連図書等で下調べを行い資料収集し、教材作成や試作を行うなど、積極的に取り組む態度を望みます。家庭科の内容（家族・家庭生活、衣・食・住・環境・消費者教育・情報）について、自分の日常生活の中で考え、実践する態度が重要です。 	
成績評価方法・基準	
定期試験 50%、レポート・提出物 25%、模擬授業の実践 25%（学習指導計画案、指導技術、態度等） 提出されたレポートは、後日添削して返却する。課題については授業中にフィードバックする。	
教科書 家庭科教育法Ⅰで使用したものを継続使用する。	
参考書 無し	
備考	
<ul style="list-style-type: none"> ・就職関連で休む場合、事前にわかっている場合は、前もって連絡してください。 ・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。 ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。学習目標として参照してください。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。 	

授業科目名	美術科教育法 I			単位（総授業時間＋自習時間）				4(60+120)	
担当者	加美山 裕子	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	生美3年
授業概要									
<p>中学校美術科・高等学校美術科の教員に必要とされる基礎的な指導理論の修得を図る。美術教育の時代的変遷を学び、学習指導要領の内容・構造の理解を図るとともに、基礎的な指導方法や造形的表現技術の指導方法について修得させる。中学校美術科の教科書を使った教材研究や模擬授業を行い、4年次での教育実習に向けての準備としていきたい。</p>									
授業の到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの題材に含まれる教材としての価値・内容を把握、理解する。 ・個々の学習内容を分析して、指導する上での留意点を理解し、創造的・造形的視点での授業が展開できる力を身につける。 ・基礎的な学習指導理論を理解し、具体的授業を想定した授業計画を立てて学習指導案の作成がスムーズにできる。 									
(ア) 模擬授業を通して学習指導案の具体的実践を体験し、授業改善の視点を理解する。									
(イ) 4年次での教育実習における基本的・実践的な学習指導方法の基礎を養う。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.オリエンテーション，美術教育とは何か。					配布されたレジュメによく目を通し，ファイリングを始める。				
2.学びの基礎とはⅠ（学校教育の意義）					学校教育の意義について，講義内容を理解・把握し，次回実施のレポートに備える。				
3.学びの基礎とはⅡ（学びと評価，指導の手立て）					レジュメを熟読しておく。				
4.美術教育の確立Ⅰ（教科としての美術教育）					レジュメを熟読しておく。				
5.美術教育の確立Ⅱ（①美術教育の目指すもの）					レジュメを熟読しておく。				
6.美術教育の確立Ⅱ（②基礎・基本の指導の重要性）					課題として人間の発達段階について考え，配布されたプリントに記入。				
7.美術教育の確立Ⅲ （①発達課題と美術教育のかかわり）					レジュメを熟読しておく。				
8.美術教育の確立Ⅲ （②パートナーシップを生かした美術学習）					レジュメを熟読し，その活用について考えをまとめる。				
9.学校の役割と美術教育Ⅰ（①学校の教育役割）					レジュメを熟読しておく。				
10.学校の役割と美術教育Ⅰ （②美術における発展的学習について）					レジュメを熟読しておく。				
11.学校の役割と美術教育Ⅰ （③表現の学習に関する指導）					レジュメを熟読しておく。				
12.学校の役割と美術教育Ⅱ （教員養成から考察した造形教育指導上の課題）					レジュメを熟読しておく。				
13.学習指導要領の研究（①学習指導要領について）					レジュメを熟読しておく。				
14.学習指導要領の研究 （②指導計画の作成と内容の取り扱い）					ここまで学修した内容を復習しまとめ，次回のレポート作成に備える。				
15.美術教育の指導（指導と評価の一体化）					レジュメを熟読しておく。				
16.美術教育での評価Ⅰ（①評価の種類）					レジュメを熟読しておく。				
17.美術教育での評価Ⅰ（②評価の観点）					レジュメを熟読しておく。				

18.美術指導での改革 (美術指導を改革していく7つのポイント)	レジュメを熟読しておく。
19.学習指導案の作成について	指導案の参考資料等に目を通し、形式や記入すべき内容について理解・把握しておく。
20.指導内容・題材の分析	指導内容や題材についてまとめ、次回活用。
21.学習指導案作成 ①	授業で使用する資料や参考作品の準備を行う。
22.学習指導案作成 ②	自作の参考作品づくり等を進める。
23.学習指導案作成 ③	指導案を完成させ、次回提出。
24.模擬授業実践 ①	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
25.模擬授業実践 ②	自己の模擬授業の準備や練習。
26.模擬授業実践 ③	自己の模擬授業の準備や練習。
27.模擬授業実践 ④	模擬授業から学んだ事をまとめておく。
28.模擬授業の講評とまとめ	模擬授業から学んだ事を自己の授業実践に生かせる手立てを考えていく。
29.指導計画について(年間指導計画の作成)	模擬授業を通して学んだ事についてまとめ、次回レポート記入。
30.美術科指導理論のまとめと教育実習に向けて	配布された全レジュメのファイリングを確認。
履修上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・講義時に適宜配布するレジュメを順次ファイリングしていき、受講の際は必ず持参すること。 ・自主的、意欲的に受講し、講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め、提出物は期限厳守で提出すること。 	
成績評価方法・基準	
<p>レポート・提出物(学習指導案 他)(60%)、 模擬授業(30%)、 受講態度(10%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出されたレポート等は、後日添削して返却する。 ・模擬授業演習は、授業でのフィードバックと紙面による講評および意欲づけ(個々に)を行う。 	
教科書	
<ul style="list-style-type: none"> ・〔中学校学習指導要領美術編〕〔平成30年 文部科学省〕〔100円前後〕 〔高等学校学習指導要領芸術編〕〔文部科学省〕〔350円前後〕 ・授業毎に適宜、テキストに代わるプリント(レジュメ)を配布する。 	
参考書	
<ul style="list-style-type: none"> ・〔中学校美術科教科書〕〔日文出版〕〔1,000円前後〕,〔中学校美術資料集〕〔秀学社編〕〔780円〕 	
備考	
<ul style="list-style-type: none"> ・質問等については、授業終了時に受付けます。 	

授業科目名	美術科教育法Ⅱ			単位(総授業時間+自習時間)				4(60+120)	
担当者	加美山 裕子	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	生美4年
授業概要									
<p>教育実習の持つ意義等について理解を深め、授業実践への意欲を高める。模擬授業の展開にあたり、教材の分析や指導案作成の手順を具体例に即して把握させ美術指導の実践力を養いたい。題材の展開や授業の進め方などを模擬授業の中で理解させるとともに、美術指導における「指導と評価のあり方」や美術教育の意義やねらいについての自己の考えをしっかりと持つことができるようにしていきたい。</p>									
授業の到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> ・美術科における効果的指導力の向上を目指し学習指導要領についてその全体構造を理解、把握している。 ・子どもの発達段階における思考力や学力等の実態を考慮した授業計画を立案できる。 ・美術科の特性に応じた教材の選択や情報機器の活用法について理解し、自己の授業設計に活用していくことができる。 ・美術科の指導理論の理解、把握の下に学習指導案の作成がスムーズにできて、それに基づいた模擬授業の実践を充実させることができる。 ・美術科における学習の評価について理解し、授業計画に取り入れて活用することができる。 ・美術教育の持つ意義と目標を理解、把握し、そこから学校現場における実践感覚を育み、自己の指導力の向上に努めることができる。 									
授業計画の内容					自習(事前・事後学修の内容)				
1.オリエンテーション, 美術教育について					配布されたレジュメによく目を通し, ファイリングを始める。				
2.教育実習での留意事項と心得①					実習校訪問時のあいさつ等の練習をしておく。				
3.教育実習での留意事項と心得②					レジュメを熟読し, 実習時のイメージを持つ。				
4.学習指導案の書き方(確認)					復習と確認を行う。				
5.美術教育の確立①(義務教育の目指すもの)					レジュメを熟読しておく。				
6.美術教育の確立②(美術教育の持つ教育力)					レジュメを熟読しておく。				
7.中学校での美術の授業①(美術教育の特色)					レジュメを熟読しておく。				
8.中学校での美術の授業②(題材について)					レジュメを熟読しておく。				
9.年間指導計画の実際について					基本的な考え方を理解し, 次回の作成に生かせるようにする。				
10.年間指導計画案作成①					指導計画案の作成を進める。				
11.年間指導計画案作成②					指導計画案を完成させ, 次回提出。				
12.教育実習報告①					自己の報告書をまとめる。				
13.教育実習報告②					自己の報告書をまとめる。				
14.教員採用試験に向けて・諸注意					自己の模擬授業の準備や練習を行う。				
15.教育実習時の指導案による模擬授業①					自己の模擬授業の準備や練習を行う。				
16.教育実習時の指導案による模擬授業②					模擬授業から学んだことをまとめておく。				
17.教育実習の講評とまとめ.					教育実習の反省とまとめをし, 報告書を提出できるように準備する。				
18.美術の授業の特色(授業づくりの基本的留意点)					レジュメを熟読しておく。				
19.美術教育の評価と指導①(学びと評価)					レジュメを熟読しておく。				

20.美術教育の評価と指導②（絶対評価と指導の実際）	レジュメを熟読しておく。
21.学習指導案の作成について	レジュメを熟読し、題材について考えておく。
22.題材分析と評価をふまえた指導計画	題材の分析表を完成させ次回提出。
23.学習指導案の作成①	授業で使用する資料や参考作品の準備を始める。
24. " ②	授業で使用する資料の調達，自作参考作品の準備を進める。
25. " ③	指導案を完成させる。
26.模擬授業発表 ①	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
27. " ②	自己の模擬授業の準備や練習。
28. " ③	自己の模擬授業の準備や練習。
29. " ④	自他の模擬授業から学んだことを振り返り，美術科の指導の基本やポイントについてまとめておく。
30.模擬授業の講評，美術科指導理論のまとめ	配布された全レジュメのファイリングを確認。
履修上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・講義時に適宜配布するレジュメを順次ファイリングしていき，受講の際は必ず持参すること。 ・自主的，意欲的に受講し，講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め，提出物は期限厳守で提出すること。 	
成績評価方法・基準	
<p>レポート・提出物（学習指導案，年間計画，題材分析 他）（50%）， 模擬授業 （40%）， 受講態度 （10%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出されたレポート等は，後日添削して返却する。 ・模擬授業演習は，授業でのフィードバックと紙面による講評および意欲づけ（個々に）を行う。 	
教科書	
<ul style="list-style-type: none"> ・〔中学校学習指導要領美術編〕〔文科省〕〔100 円前後〕 〔高等学校学習指導要領芸術編〕〔文科省〕〔350 円前後〕 * 3 年次に購入のものを継続して使用する。 <p>* 授業毎に適宜，テキストに代わるプリント（レジュメ）を配布する。</p>	
参考書	
<ul style="list-style-type: none"> ・〔中学校美術科教科書〕〔日文出版〕〔1,000 円前後〕，〔中学校美術資料集〕〔秀学社編〕〔780 円〕 <p>* 3 年次に購入のものを継続して使用する。</p>	
備 考	
<ul style="list-style-type: none"> ・質問については，授業終了時に受け付けます。 	

授業科目名	工芸科教育法			単位（総授業時間＋自習時間）					4(60+120)
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	生美3年
授業概要									
①「人間」、「教育」、「芸術」の定義について考察を促す。②教育の意味及び、教育における芸術科の役割について理解を促す。③「高等学校学習指導要領解説・芸術」に記載された「美術」と「工芸」の関係について理解を促す。④美術科と工芸科の違いと工芸科の特長について考察を促す。⑤学習指導要領解説（工芸科）に関する理解を促し、教材開発能力を育成する。⑥模擬授業の実践をとおして、学習指導案の作成力と授業実践の力を高める。⑦工芸科教育の可能性について示唆を与える。									
授業の到達目標									
学校教育における工芸科の意味と重要性について説明できる。									
学習指導要領解説（工芸科）に示された教科の目的や内容を理解する。									
基礎的な学習指導論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。									
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）			
1.オリエンテーション-工芸科教育の現状と可能性について						ワークシート①による復習			
2.人間と教育について①-林竹二の教育論をとおして						ワークシート②による復習・予習			
3.人間と教育について②-授業の役割 教師の役割						ワークシート②による復習・予習			
4.人間と教育について③-芸術教育と工芸科の役割について						ワークシート②による復習・予習			
5.人間と教育について④-シュタイナー教育の原点をとおして（子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性について）						ワークシート③による復習・予習			
6.人間と教育について⑤-能動的学習の意味と工芸科における応用について						ワークシート③による復習・予習			
7.教育と表現教育-国家と経済と精神性に関する考察をとおして						ワークシート④による復習・予習			
8.鑑賞教育の意味とあり方について						ワークシート⑤による復習・予習			
9.鑑賞教育と道徳教育について-ピアジェの「三つの山問題」をとおして						ワークシート⑤による復習・予習			
10.工芸科における社会的視点について①-バウハウスに至るまで						ワークシート⑥による復習・予習			
11.工芸科における社会的視点について②-バウハウスのコンセプト						ワークシート⑥による復習・予習			
12.工芸科における社会的視点について③-バウハウスにおける実験						ワークシート⑥による復習・予習			
13.工芸科における社会的視点について④-バウハウスの遺産-製品デザインに与えた影響をとおして						ワークシート⑥による復習・予習			
14.工芸科における社会的視点について⑤-バウハウスの遺産-建築デザインに与えた影響をとおして						ワークシート⑥による復習・予習			
15.工芸科における社会的視点について⑥-バウハウスの遺産-教育に与えた影響をとおして						ワークシート⑥による復習・予習			
16.学習指導要領解説（工芸科）の概要について						ワークシート⑦による復習・予習			
17.学習指導要領解説（工芸科）における工芸Ⅰの位置づけについて-「工芸Ⅰ」（文部科学省認定済教科書）の概要について						ワークシート⑦による復習・予習			
18.学習指導要領解説（工芸科）における工芸Ⅱの位置づけについて-「工芸Ⅱ」（文部科学省認定済教科書）の概要について						ワークシート⑦による復習・予習			
19.学習指導要領解説（工芸科）における工芸Ⅲの位置づけについて						ワークシート⑦による復習・予習			
20.「工芸Ⅰ」（文部科学省認定済教科書）の具体的な応用について						ワークシート⑦による復習・予習			

21.「工芸 II」(文部科学省認定済教科書)の具体的応用について	ワークシート⑦による復習・予習
22.授業における工芸 III の具体的展開について-学習指導要領解説(工芸科)に沿って	ワークシート⑦による復習・予習
23.学習指導要領解説(工芸科)に即した評価方法について	ワークシート⑧による復習・予習
24.学習指導要領解説(工芸科)における「A 表現」に係る学習指導案の作成	ワークシート⑨による復習・予習
25.学習指導要領解説(工芸科)における「A 表現」に係る模擬授業の実践と振り返り	ワークシート⑨による復習・予習
26.学習指導要領解説(工芸科)における「B 鑑賞」に係る学習指導案の作成について(授業における情報機器等の効果的活用方法を含む)	ワークシート⑩による復習・予習
27.学習指導要領解説(工芸科)における「B 鑑賞」に係る模擬授業の実践と振り返り(授業における情報機器等の効果的活用方法を含む)	ワークシート⑩による復習・予習
28.学習指導要領解説(工芸科)における「共通事項」に係る学習指導案の作成について(授業における情報機器等の効果的活用方法を含む)	ワークシート⑪による復習・予習
29.学習指導要領解説(工芸科)における「共通事項」に係る模擬授業の実践と振り返り(授業における情報機器等の効果的活用方法を含む)	ワークシート⑪による復習・予習
30.工芸科の可能性と工芸科教育における応用について(発展的な学習内容に関する探求と授業実践の事例をとおして)	ワークシート⑫による復習
履修上の注意 無断遅刻/欠席をしないこと	
成績評価方法・基準 ワークシート：60%(フィードバックを行う) 指導案：20%(フィードバックを行う) 模擬授業：20%(フィードバックを行う)	
教科書 〔高等学校学習指導要領解説〕(データ版：無料)	
参考書 〔工芸 I〕〔工芸 II〕〔日本文京出版株式会社〕	
備考 オフィスアワー：2時間/1週(曜日/時間については、初回授業の際に連絡する)	

授業科目名	道徳教育の指導法				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	加美山 裕子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家政・生美3年
授業概要									
<p>道徳性の涵養は、人間性発達の根幹をなすものである。道徳性を培い道徳的実践力の育成のためには、学校における「道徳科」の時間だけでなく教育活動全体を通して行われる必要がある。その基盤となるのはしっかりとした指導計画に沿った計画的な指導の実践である。ここでは道徳の意義・本質の把握や道徳教育の歴史の理解、道徳教材の分析などを通して、学校における「道徳科」の指導方法の修得を図りたい。</p>									
授業の到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の本質について理解し、道徳教育の歴史と時代や社会との関係について説明できる。 ・学習指導要領の道徳教育及び道徳科の目標や内容を理解し、子どもの道徳性の発達と道徳教育の担う役割について把握し、その重要性を受け止めることができる。 ・学校における道徳教育の指導計画や学校教育活動全体を通じた指導の重要性について理解、把握している。 ・道徳科の教材への理解をふまえて授業計画を立てることができ、授業のねらいを明確にした学習指導案を作成することができる。 ・道徳科の特性をふまえた学習評価の在り方について理解する。 ・模擬授業の実践を通して道徳の授業の実際を学び、そこから授業改善の視点を身に付ける。 									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.オリエンテーション、道徳の定義					配布されたレジュメを精読し、ファイリングを始める。				
2.道徳教育の基礎Ⅰ（学校における道徳教育の充実）					配布されたプリントで予習をし、次回の講義で使用。				
3.道徳教育の基礎Ⅱ（指導要領改訂の歩から見る道徳教育の歴史・道徳教育の目標）					指示された課題について調べ、次回のレポート作成に備える。				
4.道徳教育の基礎Ⅲ（生き方教育としての道徳教育）					レジュメを熟読し、復習とまとめをしていく。				
5.道徳教育の基本的あり方①（内容項目と主題について）					配布されたレジュメの熟読と復習。				
6.道徳教育の基本的あり方②（道徳教育の基本的あり方）					〃				
7.道徳教育の基本的あり方③（道徳性の発達と道徳教育）					〃				
8.道徳性の具体的把握①（道徳的判断力とは）					〃				
9.道徳性の具体的把握②（ピアジェ・コールバーグ等の理論）					次回のレポート作成に備え、復習とまとめをしておく。				
10.道徳性の具体的把握③（道徳的実践意欲とは・道徳性を育む家庭教育の役割）					配布されたレジュメを熟読し、理解・把握に努める。				
11.道徳科の学習評価について					〃				
12.学習指導案の内容と作成（教材分析と指導案の作成について）					レジュメを熟読し、指導案作成に生かせるようにする。				
13.道徳科指導案の作成					道徳学習指導案を完成させ次回提出。				
14.道徳の授業の実際（模擬授業①）					模擬授業から学んだことを自己の授業実践に生かせる手立てを考える。				
15.道徳の授業の実際（模擬授業②）、講評とまとめ					道徳指導の基本や本質について復習とまとめを行い試験に備える。				
16.定期試験									
履修上の注意									
<ul style="list-style-type: none"> ・講義時に配布するレジュメを順次ファイリングし、受講の際は必ず持参すること。 ・自主的、意欲的に受講し、講義中は進んでメモをとる等、自己の学修の積み重ねに努めること。 ・指示された提出物は、提出期限を守って必ず提出すること。 									
成績評価方法・基準									
<p>レポート等の提出物・学習指導案・模擬授業（40%）、 期末試験（50%）、 受講態度（10%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出されたレポート等は、後日添削して返却する。 ・試験は、後日答案用紙に解答例の添削とコメントを加えて返却する。 									
教科書									
<p>〔中学校学習指導要領道徳科編〕〔平成30年10月 文部科学省〕〔150円前後〕</p> <p>*講義時に適宜、テキストに代わるプリント（レジュメ）を配布する。</p>									
参考書 *必要な資料等は適宜、プリントにして配布する。									
備考 ・質問等については、授業終了時に受け付けます。									

授業科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)		
担当者	須藤 由子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家政・美表 2年
授業概要									
総合的な学習の時間及び特別活動の意義や教育課程における位置付け，目標，内容を理解する。テーマ学習，横断的な学習，集団活動の指導方法について理解し，模擬授業等を通して実践的指導力を育成する。実際におこなわれている授業実践について知り，評価ができる。									
授業の到達目標									
総合的な学習の時間及び特別活動の意義や教育課程における位置付け，目標や内容について具体的に理解することができる。									
総合的な学習の時間及び特別活動の具体例を題材に，生徒の実態に応じた指導・支援の在り方を考え，表現できる。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1. 総合的な学習の時間の背景と実践の現状把握					解説書総合的な学習の時間編のプリントを読んてくる				
2. 総合的な学習の時間の目標と意義					解説書総合的な学習の時間編のプリントを読んてくる				
3. 総合的な学習の時間の教育課程への位置付け					解説書総合的な学習の時間編のプリントを読んてくる				
4. 総合的な学習の時間の計画・実践・評価のプロセス					解説書総合的な学習の時間編のプリントを読んてくる				
5. 総合的な学習の時間のテーマ設定と各教科・他領域との関連					解説書総合的な学習の時間編のプリントを読んてくる				
6. 総合的な学習の時間の単元構成の実際					解説書総合的な学習の時間編のプリントを読んてくる				
7. 総合的な学習の時間における指導技術					解説書総合的な学習の時間編のプリントを読んてくる				
8. 特別活動の目標と内容					解説書特別活動編 P11～P22 を読んてくる				
9. 特別活動の歴史と変遷					解説書特別活動編 P23～P31 を読んてくる				
10. 学級活動の目標と内容・指導の在り方					解説書特別活動編 P40～P73 を読んてくる				
11. 生徒会活動の目標と内容・指導の在り方					解説書特別活動編 P74～P91 を読んてくる				
12. 学校行事の目標と内容・指導の在り方					解説書特別活動編 P92～P108 を読んてくる				
13. 部活動の意義と指導の在り方					解説書特別活動編 P109～P112 を読んてくる				
14. 年間指導計画の作成 学習指導案の作成					解説書特別活動編 P113～P124 を読んてくる				
15. 模擬授業					指導案を作成しててくる				
16. 試験									
履修上の注意									
20分遅刻の場合は，欠席とみなします。									
成績評価方法・基準									
<ul style="list-style-type: none"> ・小論文（20%），期末試験（50%），講義中の議論への貢献度合い（30%）を総合して評価する。 ・授業中に発表する機会があります。発表後その場でコメントします。 									
教科書 〔中学校学習指導要領解説 特別活動編、総合的な学習の時間編〕									
参考書 〔新しい特別活動指導論〕〔高旗 正人・倉田 侃司〕〔ミネルヴァ書房〕									
備考 東北生活文化大学高等学校入試広報室にいます。									

授業科目名	教育方法論				単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)	
担当者	清水 禎文・松尾 広	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	家政・美表 2年
授業概要									
<p>教育方法に関する基本的視点を確認した上で、教育方法の基礎的概念（時間と空間、教材・教具）、教育方法の諸類型、教育評価などについて学び、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法について講義する。</p> <p>また学校教育においても ICT 化が急速に進む今日において、教育を行う上での教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を理解し、身につけられるよう具体的な事例を踏まえて紹介する。</p>									
授業の到達目標									
<p>1 教育方法の基礎的な理論と実践を理解する。</p> <p>2 教育の目標に適した指導技術を理解し、身につける。</p> <p>3 視覚的なコミュニケーションの意義と視聴覚機器の特徴を理解する。</p>									
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）			
1.オリエンテーション(目標・内容と方法・評価など) 教育方法を学ぶ意義 教育方法は技術に還元されない(担当:清水)						ワークシート・ふり返しシート			
2.教育方法の先行研究 戦後日本における教育方法とその理論(デューイ、ブルーナー、スキナー、ブルーム)(担当:清水)						プリント予習とワークシート(以下WS)による復習			
3.教育課程の編成と教科の関連性 デューイとブルーナーの教育課程論から教科の意義へ(担当:清水)						プリント予習とWSによる復習			
4.学習指導要領と「主体的・対話的で深い学び」キー・コンピテンシー論から「資質・能力」論へ(担当:清水)						プリント予習とWSによる復習			
5.教育方法における人的環境と物的環境 教育方法を規定する物理的要素 学びの時間と空間(担当:清水)						プリント予習とWSによる復習			
6.授業展開における教材の役割 授業の構成要素と教材・教具の意義(担当:清水)						プリント予習とWSによる復習			
7.教材開発の方法 生活の中にある教材と教具(担当:清水)						プリント予習とWSによる復習			
8.授業の設計と教材分析 授業の中での教材・教具の活用法(担当:清水)						プリント予習とWSによる復習			
9.授業改善のための授業分析 授業プロトコルとその分析方法(担当:清水)						プリント予習とWSによる復習			
10.指導方法と指導技術 教育の「技術」と教育の「わざ」(担当:清水)						プリント予習とWSによる復習			
11.教師の指導力 教育の「わざ」の形成と教師たちの学び合い 教育方法における熟達(担当:清水)						プリント予習とWSによる復習			
12.教育評価論の発展と類型 教育評価の歴史と類型 絶対評価(目標準拠型評価)の特徴(担当:清水)						プリント予習とWSによる復習			
13.授業改善に役立つ評価方法 診断的評価から対話的・協働的・形成的評価の手法(担当:清水)						プリント予習			
14.教育機器の特性(担当:松尾)									
15.コンピュータを使った効果的な教育方法(担当:松尾)									
16.定期試験									
履修上の注意									
<p>基本的に講義で使用する資料は前回に配布するので、予習時に概略を確認してくる。また、毎回配布するふり返しシートとワークシートを活用して、復習時に基本的知識の定着をはかること。</p>									
成績評価方法・基準									
<p>レポート課題 20%、試験 80%</p> <p>(レポート課題や試験等についてはフィードバックを行う。)</p>									
教科書 授業前に資料(プリント)を配布する。									
参考書 [中学校学習指導要領][文部科学省][326円][高等学校学習指導要領][文部科学省][666円]									
備考 質問等については、授業終了後受け付ける。									

授業科目名	生徒指導の理論と方法 A (進路指導の理論及び方法を含む。)				単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)
担当者	沼山 博・佐々木 晃	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	家政・生美 3年
授業概要									
一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、適切かつ組織的に生徒指導を進めていくための資質、能力を身につけるための知識や考え方などについて講義する。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日的課題を理解し、望ましい生徒指導の進め方を学修する。生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとして学びあい、そのために必要な知識・技能の習得を図ることを目指す。進路指導 (キャリア教育含む) の意義・理論・指導の在り方についても取り上げる。									
授業の到達目標									
1) 生徒指導・生徒指導の意義や原理を理解する。									
2) 生徒指導・生徒指導における集団指導・個別指導の進め方を理解する。									
3) 学修した内容を活用して新たな問題への対応策を考えることができる。									
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)				
1. オリエンテーション 生徒指導の意義と課題 (沼山)					生徒指導提要第1章第1節を読む				
2. 教育課程における生徒指導の位置づけ (沼山)					生徒指導提要第1章第2節を読む				
3. 集団指導と個別指導の方法原理 (沼山)					生徒指導提要第1章第4節を読む				
4. 進路指導の意義と課題 (沼山)					資料 (参考書第2章) を読む				
5. キャリアカウンセリングの考え方 (沼山)					資料 (参考書第2章) を読む				
6. キャリア教育の視点とカリキュラムマネジメント (沼山)					資料 (参考書第2章) を読む				
7. 生徒理解と生徒指導・進路指導①: 生徒理解の方法 (沼山)					生徒指導提要第3章を読む				
8. 生徒理解と生徒指導・進路指導②: 発達の理解 (沼山)					生徒指導提要第3章を読む				
9. 生徒指導・進路指導の指導体制 (佐々木)					生徒指導提要第4章を読む				
10. 校則・懲戒・体罰等に関する法令の理解 (佐々木)					生徒指導提要第7章を読む 12に関する資料を踏まえて発表準備する				
11. 個別の課題を抱える児童生徒への指導 (1) : 暴力行為・いじめへの対応 (佐々木)					13に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第6章IIを読む				
12. 個別の課題を抱える児童生徒への指導 (2) : 不登校への対応 (佐々木)					14に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第6章IIを読む				
13. 個別の課題を抱える児童生徒への指導 (3) : SNS や性に関する課題・児童虐待への対応 (佐々木)					生徒指導提要第6章IIを読む				
14. 生徒指導・キャリア教育と家庭・地域との連携 (佐々木)					生徒指導提要第8章を読む				
15. まとめ (佐々木)					課題レポートを作成する				
履修上の注意									
教員を目指す者としての自覚を持って講義に臨んで下さい。									
成績評価方法・基準									
授業内の課題とレポート (70%)、発表会での発表内容 (30%) 授業内課題については、授業中にフィードバックします。 レポートについては、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとします。									
教科書 [はじめて学ぶ生徒指導・進路指導] [広岡義之] [ミネルヴァ書房] [2,376円] [生徒指導提要] [文部科学省] [298円]									
参考書 [カウンセリングを教育に生かす] [宮前理編著] [八千代出版] [2,160円]									
備考									
1) 都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。 2) 質問等については授業終了時に受け付けます。									

授業科目名	生徒指導の理論と方法B			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)	
担当者	沼山 博・佐々木 晃	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	健専3年
授業概要									
一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、適切かつ組織的に生徒指導を進めていくための資質、能力を身につけるための知識や考え方などについて講義する。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日的課題を理解し、望ましい生徒指導の進め方を学修する。生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとして学びあい、そのために必要な知識・技能の習得を図ることを目指す。									
授業の到達目標									
1) 生徒指導・生徒指導の意義や原理を理解する。									
2) 生徒指導・生徒指導における集団指導・個別指導の進め方を理解する。									
3) 学修した内容を活用して新たな問題への対応策を考えることができる。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1. オリエンテーション（沼山）					生徒指導提要第1章第1節を読む				
2. 生徒指導の意義と課題（沼山）					生徒指導提要第1章第1節を読む				
3. 教育課程における生徒指導の位置づけ（沼山）					生徒指導提要第1章第2節を読む				
4. 教科・道徳・総合的学習の時間・特別活動と生徒指導 （沼山）					生徒指導提要第2章を読む				
5. 集団指導と個別指導の方法原理（沼山）					生徒指導提要第1章第4節を読む				
6. 教育相談と生徒指導（沼山）					生徒指導提要第5章第1節を読む				
7. 生徒理解と生徒指導・進路指導①：生徒理解の方法 （沼山）					生徒指導提要第3章を読む				
8. 生徒理解と生徒指導・進路指導②：発達の理解（沼山）					生徒指導提要第3章を読む				
9. 生徒指導の指導体制（佐々木）					生徒指導提要第4章を読む				
10. 校則・懲戒・体罰等に関する法令の理解（佐々木）					生徒指導提要第7章を読む 12に関する資料を踏まえて発表準備する				
11. 個別の課題を抱える児童生徒への指導① ：暴力行為・いじめへの対応（佐々木）					13に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第6章IIを読む				
12. 個別の課題を抱える児童生徒への指導② ：不登校への対応（佐々木）					14に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第6章IIを読む				
13. 個別の課題を抱える児童生徒への指導③ ：SNSや性に関する課題・児童虐待への対応 （佐々木）					生徒指導提要第6章IIを読む				
14. 生徒指導と家庭・地域との連携（佐々木）					生徒指導提要第8章を読む				
15. まとめ（佐々木）					課題レポートを作成する				
履修上の注意									
教員を目指す者としての自覚を持って講義に臨んで下さい。									
成績評価方法・基準									
授業内の課題とレポート（70%）、発表会での発表内容（30%）									
授業内課題については、授業中にフィードバックします。									
レポートについては、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとします。									
教科書 [はじめて学ぶ生徒指導・進路指導] [広岡義之] [ミネルヴァ書房] [2,376円] [生徒指導提要] [文部科学省] [298円]									
参考書 [カウンセリングを教育に生かす] [宮前理編著] [八千代出版] [2,160円]									
備考									
1) 都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。									
2) 質問等については授業終了時に受け付けます。									

授業科目名	教育相談				単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)			
担当者	宮前 理	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	家政・生美3年
授業概要									
<p>現在、学校では多くの教員がいじめ、不登校、虐待、非行など、児童・生徒の生命や健康にかかわる問題に直面しそれらへの対処方法に苦慮している。これらの諸問題について概説し、そこから学ぶべきこと、その対応のあり方について教授する。教育相談の具体的手法として不可欠であるカウンセリングの基礎的な理論を講義した上でその具体的技法を指導する。</p>									
授業の到達目標									
1. 学校における教育相談の意義と理論を理解する。									
2. 教育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解する。									
3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.オリエンテーション（授業の概要説明）					本講義の全体の流れを把握し復習する				
2.学校における教育相談の意義と課題					教科書の当該部分の予習復習をする				
3.教育相談に関わる心理学の理論					教科書の当該部分の予習復習をする				
4.生徒理解の方法（心理テスト法、観察法、面接法等）					教科書の当該部分の予習復習をする				
5.カウンセリングマインド					教科書の当該部分の予習復習をする				
6.カウンセリングの基礎的な知識					教科書の当該部分の予習復習をする				
7.カウンセリングの基礎的な姿勢や技法					教科書の当該部分の予習復習をする				
8.教育相談を行う際の目標の立て方や進め方					教科書の当該部分の予習復習をする				
9.教育相談の進め方①：不登校の特徴とその対応					事例を通して学び次回レポート提出する				
10.教育相談の進め方②：いじめの特徴とその対応					事例を通して学び次回レポート提出する				
11.教育相談の進め方③：虐待の特徴とその対応					事例を通して学び次回レポート提出する				
12.教育相談の進め方④：非行の特徴とその対応					事例を通して学び次回レポート提出する				
13.教育相談の組織的な取り組み①：（教育相談の計画の作成）					教科書の当該部分の予習復習をする				
14.教育相談の組織的な取り組み②：（構内体制の整備）					教科書の当該部分の予習復習をする				
15.地域の専門機関との連携（医療・福祉・心理等）					教科書の当該部分の予習復習をする				
16. 定期試験									
履修上の注意									
第1回目に講義の進め方と注意事項を説明する。									
成績評価方法・基準									
レポート課題 30%、試験 70% 課題については後日、講義の中でフィードバックする。									
教科書 講義開始前に指定する。									
参考書									
〔生徒指導提要 平成 22 年〕〔中学校学習指導要領 平成 29 年〕〔高等学校学習指導要領 平成 31 年〕									
備考									
受講人数等の事情により授業計画の修正を行う場合があります。									
質問等は、講義終了時あるいはオフィスアワーで受け付けます。									

授業科目名	教職実践演習(中・高)				単位 (総授業時間+自習時間)			2(30+45)	
担当者	宮前 理・植松 公威・宮澤 孝子	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	家政・生美4年
授業概要									
<p>教職課程の総まとめとして、中学・高校の教科教育の教員として求められる基本的な資質・能力を育む。教育実習をはじめ教職専門科目の成果を踏まえ、教科指導、生徒指導、教育方法、学級経営に関する諸問題について講義と討議を行う。また教職経験者による現在の学校教育の諸問題について指導を受ける。教育実習時の研究授業等を再検討の上教育実習報告会で発表する。</p>									
授業の到達目標									
1)教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができる。									
2)生徒理解を基盤として適切な生徒指導や学級経営ができる。									
3)学習指導の基礎的知識・基本的方法を習得している。									
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)				
1. 授業全般に関する履修上の諸注意 (宮前、植松、宮澤)									
2. 教職課程履修科目の確認と省察等 (宮前、植松、宮澤)					既学習の教職専門科目を復習しておく				
3. 教職の意義、教員の使命、教員の職務等について(講義、討議) (宮前、植松、宮澤)					「教職概論」の授業内容を復習すること				
4. 教科指導の諸問題(講義、討議) (宮前、植松、宮澤)					授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。				
5. 教育方法の諸問題(講義、討議) (宮前、植松、宮澤)									
6. 教育実習における教科指導の諸問題(討議(ロールプレイングを含む)) (宮前、植松、宮澤)									
7. 教育実習における生徒指導の諸問題(討議(ロールプレイングを含む)) (宮前、植松、宮澤)									
8. 教職経験者による講義(主として教科指導、道徳教育について) (ゲストスピーカー)									
9. 教職経験者による講義(主として生徒指導、学級経営について) (ゲストスピーカー)									
10. 教育実習研究授業の学習指導案の作成 (宮前、植松、宮澤)									
11. 題材を決めての学習指導案の作成 (模擬授業を含む) (宮前、植松、宮澤)									
12. 学級経営、学級経営案について(講義)、教育実習時の学級での活動状況(討議) (宮前、植松、宮澤)					教科指導、生徒指導に関する教育実習時の諸問題を把握しておくこと。				
13. 教員間、保護者、地域の人々との連携、協力のあり方について(講義) (宮前、植松、宮澤)					資料を読んでおくこと。				
14. 教育実習報告会の発表資料の作成 (宮前、植松、宮澤)									
15. 教育実習報告会(発表)と教員の講評 (宮前、植松、宮澤)									
履修上の注意									
第1回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について説明する。									
成績評価方法・基準									
授業への参加状況(発表、発言、討議の状況)30%、レポート課題の内容 40%、実習報告会の発表 30%によって総合的に評価する。課題については授業で講評を行う。									
教科書 授業前に資料を配布する。									
参考書 [中学校、高等学校学習指導要領及びその解説(総則編)] [文部科学省]									
備考									
質問等は授業終了後やオフィスアワーで受け付けます。受講人数等の事情により授業計画の修正を行う場合があります。									

授業科目名	教職実践演習（栄養教諭）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+45)	
担当者	宮前 理・植松 公威・宮澤 孝子	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	健専4年
授業概要									
<p>教職課程の総まとめとして、学校給食をはじめとする食育に関する講義と討議から栄養教諭に求められる基本的な資質・能力を育む。栄養教諭実習をはじめ教職専門科目の成果を踏まえ、教科指導、生徒指導、教育方法、学級経営に関する諸問題について講義と討議を行う。また教職経験者による現在の学校教育の諸問題について指導を受ける。栄養教諭実習時の研究授業等を再検討の上栄養教諭実習報告会で発表する。</p>									
授業の到達目標									
1) 教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができる。									
2) 学校給食をはじめ食育に必要な基本的知識・技術を指導できる。									
3) 学校という教育機関の一員として他の教職員と協力し職務を遂行できる。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.授業全般に関する履修上の諸注意（宮前、植松、宮澤）									
2.教職課程履修科目の確認と省察等（宮前、植松、宮澤）					既学習の教職専門科目を復習しておく				
3.栄養教諭の意義、教員の使命、職務等について(講義) (宮前、植松、宮澤)					「教職概論」の授業内容を復習すること				
4.食育に関する諸問題(学校給食を中心に)について(講義) (ゲストスピーカー)					授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。				
5.食育に関する諸問題(食生活に関して)について(講義) (ゲストスピーカー)									
6.学校給食の歴史と実情、給食指導について(講義)									
7.生徒指導に関する諸問題(講義、討議)（宮前、植松、宮澤）									
8.教職経験者による講義(教科指導、道徳教育について) (ゲストスピーカー)									
9.教職経験者による講義(生徒指導、学級経営について) (ゲストスピーカー)					教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること。				
10.学習指導案の作成法、それを踏まえた題材を決めての指導案の作成(講義・実習) (宮前、植松、宮澤)									
11.各自の教育実習研究授業指導案の検討（宮前、植松、宮澤）					子どもの「食」について調べておくこと				
12.子どもの「食」に関する諸問題(討議)（宮前、植松、宮澤）					資料を読んでおくこと。				
13.特別支援教育、チーム学校(講義)（宮前、植松、宮澤）									
14.栄養教諭実習報告会の発表資料の作成（宮前、植松、宮澤）									
15.教育実習報告会（発表）と教員の講評（宮前、植松、宮澤）									
履修上の注意 第1回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について説明する。									
成績評価方法・基準									
授業への参加状況(発表、発言、討議など)30%、レポート課題の内容 40%、実習報告会の発表 30%により総合的に評価する。課題については授業で講評を行う。									
教科書 授業前に資料を配布する。									
参考書 〔食に関する指導の手引〕〔文部科学省〕〔東山書房〕〔1,260円〕他									
備考									
質問等は授業終了後やオフィスアワーで受け付けます。 受講人数等の事情により授業計画の修正を行う場合があります。									

博物館に関する科目

授業科目名	生涯学習概論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)	
担当者	伊藤 優	必・選	学（必）	形態	講義	学期	後期	対象	服専・美表1年
授業概要									
我が国の社会教育の歴史を辿りながら、生涯学習と社会教育、学校教育との関係性を明らかにする。また、「生涯学習論」やリカレント教育の思潮、生涯学習の多様な内容や方法、学習プランニング、プログラムの様々なあり方を解説することにより、生涯学習の基礎的理論を示す。その上で、生涯学習を推進する多様な主体の役割を示すとともに、博物館と学芸員の社会的位置付けを明らかにする。さらに、生涯各期にみられる生涯学習に係る現代的な課題と今後の展望を示す。									
授業の到達目標									
生涯学習に関する歴史・方法・計画等の基礎的知識を習得する。									
生涯学習社会における博物館の使命を学び、学芸員の役割を検討する思考を身につける。									
学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.ガイダンス：講義の進め方・生涯学習と社会教育					身近にある生涯学習施設を確認しておく				
2.生涯学習と社会教育の歴史①（近代から現代）					仙台市の市民センターの歴史を調べて授業に臨む				
3.生涯学習と社会教育の歴史②（現代）									
4.「生涯学習論」					ユネスコの概要を調べる				
5.リカレント教育					OECDの概要を調べる				
6.生涯学習と学校教育					生涯学習と学校教育の相違を調べる				
7.生涯学習の方法と内容					身近な生涯学習施設の学習プログラムに参加し、その内容をレポートする				
8.生涯学習と社会教育の計画									
9.学習プログラムの編成①（学習プログラムの多様性）									
10.学習プログラムの編成②（学習プログラム編成の視点）					身近な社会教育関連団体等を調べる				
11.生涯学習関連行政の仕組み①（行政の役割と組織）									
12.生涯学習関連行政の仕組み②（社会教育関連団体）									
13.生涯学習と博物館・学芸員					博物館の役割と機能を調べる				
14.生涯各期の教育課題					少子高齢化社会の課題を調べる				
15.講義のまとめ 生涯学習社会の課題とこれから					これまでの学修内容を復習する				
16.試験									
履修上の注意									
意欲的な学修姿勢を重視する。社会教育プログラム等に積極的に参加すること。 自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。									
成績評価方法・基準									
事前事後学修を含む受講態度（50%）、期末試験（50%）で評価する。試験については、問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。									
教科書 なし 必要に応じて講義中に資料を配布する。									
参考書 〔生涯学習論 第1次改訂版〕〔佐藤晴雄〕〔学陽書房〕〔2,500円＋税〕									
備考									
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。									

授業科目名	博物館概論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	伊藤 優	必・選	学（必）	形態	講義	学期	前期	対象	服専・美表1年
授業概要									
<p>仙台・宮城ミュージアムアライアンス加盟館等の身近な博物館の紹介を導入として、博物館の多面的な魅力を伝える。また、ICOM 規約や博物館法に依拠しながら、博物館の定義・目的・分類等の概要を示す。博物館機能の資料収集・整理保管、調査、展示、教育の特色と役割を詳述しながら、そこにみられる多様な課題も示す。その上で、博物館の歴史を辿り、日本における現状を示し、関係法令や文化政策、地域社会との関係性を解説する。これらを通して、博物館や学芸員が担うべき社会的役割の全体像を示す。</p>									
授業の到達目標									
博物館の目的・機能・社会的役割等に関する基礎的知識を習得する。									
博物館や学芸員の役割を知り、直面する多様な課題を検討する思考を身につける。									
学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.ガイダンス：講義の進め方・学芸員資格について					自身のこれまでの博物館体験や、身近な博物館施設を確認する				
2.身近な博物館（SMMA、歴ネット等）									
3.博物館の定義・目的					ICOM、ユネスコの概要を調べる				
4.博物館の分類・施設・設備					博物館法を調べる				
5.博物館の機能①（資料収集・整理保管）					博物館データベースを調べる				
6.博物館の機能②（調査研究）					博物館研究紀要等を調べる				
7.博物館の機能③（展示）					博物館展示情報を調べる				
8.博物館の機能④（教育普及）					博物館教育プログラムを調べる				
9.博物館史①（博物館の誕生）					欧米の博物館情報と、日本の博物館情報を調べ、レポートする				
10.博物館史②（近代）									
11.博物館史③（日本の博物館史）									
12.博物館の現状									
13.博物館関係法令と政策					社会教育法、文化財保護法を調べる				
14.地域社会と博物館					博物館ボランティアを調べる				
15.講義のまとめ 博物館・学芸員の課題とこれから					これまでの学修内容を復習する				
16.試験									
履修上の注意									
<p>意欲的な学修姿勢を重視する。積極的に博物館を訪問すること（授業中にプレゼンする）。 自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。</p>									
成績評価方法・基準									
<p>事前事後学修を含む受講態度（50%）、試験（50%）で評価する。試験については、問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。</p>									
教科書 なし									
参考書 [博物館学Ⅰ] [大堀哲・水嶋栄治編] [学文社] [2,300円＋税]									
備考									
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。									

授業科目名	博物館経営論				単位（総授業時間＋自習時間）	2（30＋60）			
担当者	笠原 信男	必・選	学（必）	形態	講義	学期	前期	対象	服専・生美3年
授業概要									
博物館は児童・生徒だけでなく、一般の青少年や成人をも対象にした教育活動を行う、社会教育施設の一つである。博物館経営論では、博物館が社会教育施設として、そのあるべき姿を見定めながら、設立の使命や目的を実現し、どのように博物館組織を運営するか、について多面的に解説する。具体的には、博物館の設置者・学芸員・利用者など、様々な視点から、博物館経営についての基本的な考え方・知識・動向を、それぞれの講義テーマに合わせて、時に図・表・写真等の資料・データを用いて解説する。また、博物館を訪れて、経営論の観点から実地の学習も行う。									
授業の到達目標									
1. 博物館経営についての基本的な考え方・知識を学ぶ。									
2. 博物館を多角的に観覧・考察する姿勢が身に付く。									
3. 社会教育施設としての博物館の地域社会へ役割を学ぶ。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1. 博物館と博物館学及び博物館経営論					博物館を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
2. 博物館の設置と使命					設置と使命を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
3. 博物館経営の考え方					経営論的思考を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
4. 博物館の経営手法					経営手法を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
5. 博物館の運営方針					運営方針を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
6. 博物館の組織					組織を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
7. 博物館の中長期計画と予算					中長期計画等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
8. 博物館の広報活動と来館者サービス					広報を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
9. 博物館の危機管理					危機管理を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
10. 博物館経営の実際（1）現地学習（施設の構造）					訪問先の博物館の施設情報を調べ、訪問後に作成するレポートに活かす。				
11. 博物館経営の実際（2）現地学習（展示活動等）					訪問先の博物館の諸活動を調べ、訪問後に作成するレポートに活かす。				
12. 経営論から見た博物館の展示活動					展示活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
13. 経営論から見た博物館の教育普及活動					教育普及活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
14. 経営論から見た博物館の資料管理、調査研究活動					資料管理等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
15. 経営論から見た市民参画と地域社会との連携及びまとめ					地域との連携を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
履修上の注意									
成績評価方法・基準									
<ul style="list-style-type: none"> ・受講態度(20%)とレポート(80%)で評価します。レポートは必ず提出してください。 ・レポートは最終講義で、記述内容の要点をまとめたレジюмеを用いて、フィードバックします。 									
教科書 なし									
参考書 〔新時代の博物館学〕〔全国大学博物館学講座協議会西日本部会〕〔芙蓉書房出版〕〔2,090円〕									
備考									
<ul style="list-style-type: none"> ・現地学習は訪問先の博物館の事情等の都合により、授業計画の順番を変更することがあります。 ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。 ・質問等については授業終了時に受け付けます。 									

授業科目名	博物館資料論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	菊地 逸夫	必・選	学(必)	形態	講義	学期	後期	対象	服専・美表 2年
授業概要									
<p>本科目は学芸員資格取得における文部科学省令の定める博物館に関する科目「博物館資料論」である。授業は博物館における資料の意義と資料の活用方法について学ぶもので、学芸員に必要な博物館資料に関する基礎知識(博物館資料の収集・整理・保存などに関する知識や技術、調査研究の意義や内容)について講座・実習を通して理解・習得する。</p>									
授業の到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料の基礎的な知識を身に着ける。 ・博物館資料の整理・保存・活用について理解できる。 ・レプリカの作成や博物館資料の基本的な取り扱いができるようになる。 									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.ガイダンス 授業の概要説明 博物館資料とは					博物館を見学し、展示資料の特徴を理解する				
2.博物館資料の意義と種類					配布資料から資料の意義や種類を復習する				
3.博物館資料の理念と心構え					配布資料から資料の理念や心構えを復習する				
4.博物館資料の収集 収集と整理					配布資料から資料収集や整理を復習する				
5.博物館におけるレプリカの意義					配布資料からレプリカの意義を復習する				
6.博物館とコレクション資料					配布資料でコレクション資料を復習する				
7.博物館資料の輸送・保険					博物館資料の輸送や保険について復習する				
8.資料の展示					資料の展示方法をまとめてみる				
9.自然科学系博物館の資料					自然科学系博物館資料について復習する				
10.資料の修復					修復の仕方について復習する				
11.美術資料の見方(絵巻や浮世絵から歴史を読む)					資料からわかった事をまとめる(レポート)				
12.考古資料の整理と資料化 実技(土器と鏡の拓本)					実技の成果を整理する				
13.文書資料の整理と修復 実技(古文書の修復)					実践した内容をまとめる(レポート)				
14.レプリカの製作①					レプリカの製作方法をまとめる				
15.レプリカの製作②					レプリカの製作方法をまとめる(レポート)				
履修上の注意									
資格教科であるため出席を重視する。レポートの提出は必須。									
成績評価方法・基準									
授業に対する意欲と姿勢(特に出席状況は重視)50%、レポート 50%									
教科書 なし									
参考書 なし									
備考									
授業の際に資料を配布する。資料準備のため授業順は変更する場合がある。									

授業科目名	博物館資料保存論				単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)	
担当者	及川 規	必・選	学(必)	形態	講義	学期	前期	対象	服専・美表 2年
授業概要									
<p>文化財は貴重な“国民的財産”であり、それを後世に伝えることは、博物館の重要な責務である。本授業では、文化財が現在に守り伝えられてきた歴史を振り返りながら、博物館資料を将来にわたって保存し、活用できるようにするための、温度・湿度、光、空気、生物などの保存環境管理や考古資料をはじめとする博物館資料の保存処理の方法についての基礎的知識・技術を学修する。</p> <p>それらについて、担当者が長年歴史博物館で当該業務に従事した経験を生かして、実際の資料保存活動を例示しながら、現状の課題や問題点も含めて解説する。</p>									
授業の到達目標									
① 博物館における資料保存について基礎的知識を獲得できる。									
② 資料の保存・展示環境および収蔵環境を科学的に捉えることができる。									
③ またそれらに基づいて、実際に資料を良好な状態で保存していけるなどの基礎的なスキルを身につける。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1. 博物館における資料保存の意義					後:意義について自分で考えをまとめる				
2. 資料保存の歴史・体系					前:文化財保護法の概要を調べる				
3. 資料劣化の要因と対策 1 a (温・湿度:基礎・影響・測定)					後:温度湿度の基本と測定法を復習する				
4. 資料劣化の要因と対策 1 b (温・湿度:管理と制御)					後:温湿度の管理・制御法を復習する				
5. 資料劣化の要因と対策 2(光)					後:光の影響をその管理について復習する				
6. 資料劣化の要因と対策 3 a (生物:生物被害の概要と調査)					後:加害生物例と調査法について復習する				
7. 資料劣化の要因と対策 3 b (生物:生物被害の対策)					後:IPM と生物被害の対処法について復習する				
8. 資料劣化の要因と対策 4 a (空気質:影響と調査)					後:汚染因子の種類と影響について復習する				
9. 資料劣化の要因と対策 4 b (空気質:管理と対策)					後:空気汚染の対策について復習する				
10. 資料の輸送					後:輸送における影響とその対策を復習する				
11. 資料の防災					後:災害・防犯対策について復習する				
12. 資料の科学的調査					後:科学的調査の特性・方法について復習する				
13. 資料の保存処理					後:出土遺産の保存処理法について復習する				
14. 資料保存の総合演習					前:これまでの学修事項を項目ごとに整理しておく				
15. 本講義のまとめと博物館資料保存における最近の話題					後:資料の保存と活用について各自考えをまとめる				
履修上の注意									
要点をまとめた資料を配布するが、ポイントだけでなく、疑問に思ったこと、さらに詳しく知りたいこと、自分のアイデア等をメモするなど、より主体的な取り組み努めること。									
成績評価方法・基準									
授業期間中に実施する課題[テスト・レポート](60%)、取組み状況[学習意欲、質問、ミニットペーパー等](40%)等から読み取れる授業目標の達成度について総合的に評価する(課題については観点ごとの配点を授業時に明示する)。ミニットペーパーについては授業内でフィードバックを行う。									
教科書 使用しない。講義前にプリントを配布する。									
参考書 [博物館資料保存論] [石崎武志] [講談社] [2,200 円]									
備考									
<ul style="list-style-type: none"> ・配布された資料はファイルして以降の授業にも携帯すること。 ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については随時受け付けます。 									

授業科目名	博物館展示論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	笠原 信男	必・選	学(必)	形態	講義	学期	後期	対象	服専・生美3年
授業概要									
<p>展示は博物館の様々な事業の中で、中心に位置づけられており、その内容は博物館の社会的な評価にも多大な影響を与える。そのため、展示には多面的な知識や多角的な技術が求められることを踏まえ、博物館展示論では、博物館の展示を制作者の視点でアプローチするのに必要な観点を提示しながら、展示を企画し、運営するのに必要な事項を各講義で説明する。大きくは、展示の理論、展示の技術、展示の装置の3つに分けて進め、展示の役割・歴史等、展示の企画の立て方、展示の道具等の概要を、それぞれの講義テーマに合わせて、時に図・表・写真等の資料・データを用いて解説する。</p>									
授業の到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> ・展示を通して博物館の基本的な考え方・知識を学ぶ。 ・展示を通して博物館を多角的に観覧する姿勢が身に付く。 ・展示を通して社会教育施設としての博物館の役割を学ぶ。 									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1. 展示の理論1－博物館における展示の役割					展示の役割を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
2. 展示の理論2－展示の歴史					展示の歴史を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
3. 展示の理論3－展示の諸類型、視点と運用					展示の諸類型等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
4. 展示の理論4－生涯学習・学校教育と展示					生涯学習・学校教育と展示を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
5. 展示の理論5－ユニバーサルミュージアムと展示					ユニバーサルミュージアムを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
6. 展示の理論6－展示の評価					展示の評価を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
7. 展示の技術1－展示のプロセス(企画から撤収)					展示のプロセスを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
8. 展示の技術2－動線計画					展示の動線計画を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
9. 展示の技術3－展示環境(リスクマネジメント等)					展示環境を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
10. 展示の技術4－照明					展示の照明を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
11. 展示の技術5－解説システム					展示の解説システムを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
12. 展示の技術6－グラフィック					展示のグラフィックを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
13. 展示の技術7－広報					展示の広報を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
14. 展示の装置1－展示ケース					展示ケースを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
15. 展示の装置2－レプリカとジオラマ及びまとめ					レプリカ等の役割を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。				
履修上の注意									
成績評価方法・基準									
<ul style="list-style-type: none"> ・受講態度(20%)とレポート(80%)で評価します。レポートは必ず提出してください。 ・レポートは最終講義で、記述内容の要点をまとめたレジュメを用いて、フィードバックします。 									
教科書 なし									
参考書 [博物館展示論] [黒澤 浩] [講談社] [2,640円]									
備考									
<ul style="list-style-type: none"> ・都合により授業計画の順番等を変更することがあります。 ・ループリック評価については第1回目の授業で説明します。 ・質問等については授業終了時に受け付けます。 									

授業科目名	博物館情報・メディア論				単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)			
担当者	佐藤 泰美	必・選	学(必)	形態	講義	学期	後期	対象	服専・美表 2年
授業概要									
<p>教育・コミュニケーションツールとして情報・メディアの基本特性を、人と人とのコミュニケーションの諸相や文明的な観点を交えて概観しつつ、博物館があつかう情報の種類や意義、それらを正しく伝え普及するためのメディアの活用方法や情報発信の手法について、博物館での具体的事例、さらにネットワーク上に流通する博物館にとどまらない多様な主体からの情報発信を参照しつつ、みずから博物館の情報発信を試みるなどの体験を試みるなどの体験を交えながら学ぶ。</p>									
授業の到達目標									
情報コミュニケーションの基本原理と歴史を理解する									
博物館における情報メディアの活用の実際を理解する									
社会に向けた多様な文化情報の発信力を身につける									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.博物館における情報・メディアとはなにか					博物館等を利用する際は、情報メディア				
2.教育・コミュニケーションツールとしてのメディアの理論					の活用について観察すること				
3.教育・コミュニケーションツールとしてのメディアの歴史					博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ				
4.教育・コミュニケーションツールとしての博物館					発信できるか自分なりに考えること。				
5.展示のなかの情報メディアの活用									
6.教育・普及・広報のなかの情報メディアの活用									
7.研究・保存その他における情報メディアの活用									
8.メディアテークにおける情報メディアの活用									
9.アーカイブの作成・運用と課題									
10.視覚など障がいのある利用者のためのメディアの活用									
11.地域の文化資源を活かすミュージアム都市とメディア									
12.仙台宮城ミュージアムアライアンス（SMMA）の取り組み									
13.情報リテラシーと博物館									
14.博物館の魅力を発信するための提案作成実習									
15.博物館の魅力を発信するための提案の評価									
履修上の注意									
各自、博物館や美術館での見学とレポート提出が必要です。									
成績評価方法・基準									
学習意欲を含む授業態度 50%、課題レポート 50%									
教科書 講義のなかでそのつど資料を配布します									
参考書 講義のなかでそのつど資料を配布します									
備考									
質問等については授業終了時に受け付けます									

授業科目名	博物館教育論				単位（総授業時間＋自習時間）	2（30＋60）			
担当者	伊藤 優	必・選	学（必）	形態	講義	学期	後期	対象	服専・美表1年
授業の概要									
博物館教育活動の変遷を明らかにし、現代社会において博物館教育が求められている実情を、歴史的・社会的背景をもとに示す。また、博物館教育の特徴と可能性を学校教育・市民活動・生涯学習との関連から解説する。これらを踏まえた上で、博物館の諸活動にみられる教育プログラムの形態や方法を具体的に挙げ、教育プログラムの特色を館種別に紹介する。博物館教育には様々な課題も見出されることから、博物館評価システムをはじめとして、その解決の方策に対する理解を深める。									
授業の到達目標									
学芸員に必要な博物館教育の基礎的知識を習得する。									
博物館教育の多様な課題を知り、その解決方を検討する思考を身につける。									
学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.ガイダンス：講義の進め方・博物館教育の諸形態					博物館概論の学修内容を復習しておく				
2.博物館での学び①					自身の経験をもとに「分かる」ことの事例を確認して授業に臨む				
3.博物館での学び②									
4.博物館教育と市民活動					博物館と市民活動の事例を調べる				
5.博物館の教育活動①（教育プログラムの立案）					博物館と学校教育の相違を調べる				
6.博物館の教育活動②（教育プログラムの実施）					博物館教育に関わる教材等を入手し、授業中に報告する				
7.博物館の教育活動③（ワークシートについて）									
8.博物館の教育活動④（ユニバーサルデザイン）					ユニバーサルデザインの事例を調べる				
9.博物館教育とボランティア活動①					博物館ボランティアの事例を調べる				
10.博物館教育とボランティア活動②									
11.美術館・文学館・歴史博物館等の博物館教育					博物館の教育プログラムに参加して、その内容を授業中に報告する				
12.ギャラリートークの事例									
13.ワークショップの事例									
14.博物館教育プログラムの評価					評価のPDCAサイクルを調べる				
15.講義のまとめ 博物館教育の課題とこれから					これまでの学修内容を復習する				
16.試験									
履修上の注意									
意欲的な学修姿勢を重視する。積極的に博物館教育プログラムに参加すること（授業中にプレゼンする）。自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。									
成績評価方法・基準									
事前事後学修を含む受講態度（50%）、試験（50%）で評価する。試験については、問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。									
教科書 なし 必要に応じて講義中に資料を配布する。									
参考書 〔博物館教育論〕〔黒沢浩 編〕〔講談社〕〔2,400円＋税〕									
備考									
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。									

授業科目名	博物館実習 I (学内・見学実習を含む。)			単位 (総授業時間+自習時間)	2(30+60)				
担当者	菊地 逸夫	必・選	学 (必)	形態	講義	学期	通年 (前)	対象	服専・生美 3 年
授業概要									
<p>博物館学芸員として必要な幅広い知識と基礎的な技術を身に着けることを目標とする。</p> <p>具体的なテーマは、「資料の取り扱いに対する心構えや基本的な取り扱い方法、梱包の方法を身に着けるための講義や実習」「展示のできるまでを学び、模擬的な展示を企画する学習」「博物館で行われている教育普及活動(教育プログラム)を実践や講義を通して学び、自らプログラムを企画する学習」の以上3点で、これらの一連の学習を通して学芸員としての基本的知識・技術を習得する。</p>									
授業の到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> ・資料の取り扱いの基礎的な技術を身に着ける。 ・模擬的な展示を企画する力を身に着ける。 ・博物館での教育普及活動(教育プログラム)を企画できるようになる。 									
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)				
1.ガイダンス 授業の概要説明									
2.博物館資料の取り扱いについて					配布資料を読み、取り扱いについて復習する				
3.考古資料の取り扱いと梱包					配布資料を読み、取り扱いについて復習する				
4.刀剣の見方と取り扱い(手入れ方法)					配布資料を読み、取り扱いについて復習する				
5.展示品の地震への対策(地震に対応する展示法)					県内の地震災害の歴史を調べておく				
6.特別展示ができるまで					配布資料で特別展示ができるまでを復習する				
7.シナリオ作成の方法、資料選択の方法					自分が関心のある展示を考えておく(事後)				
8.展示環境、展示プランについて					展示のシナリオをまとめておく(事後)				
9.展示のプラン作成、企画書作成					発表にむけて企画書をまとめておく(事後)				
10.展示プラン発表					企画書を元に発表する				
11.博物館の教育普及活動の紹介					博物館で行われている教育活動イベントについて調べておく				
12.施設見学 1 (教育普及施設の見学)					見学先の施設についてまとめる(レポート)				
13.施設見学 2 (施設での教育プログラム実践)					実践したプログラムをまとめる(レポート)				
14.教育普及活動(教育プログラム)のプラン作成					自分が関心のあるプログラムを考えておく				
15.活動プラン発表					企画書を元に発表する				
履修上の注意									
資格教科であるため出席を重視する。企画書の提出、発表は必須。									
成績評価方法・基準									
授業に対する意欲と姿勢(特に出席状況は重視)50%、レポート(企画書)50%									
教科書 なし									
参考書 なし									
備考									
授業の際に資料を配布する。施設見学先の都合により、授業順は変更がある。									

授業科目名	博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む）				単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)			
担当者	三上 秀夫	必・選	学（必）	形態	講義	学期	通年（後）	対象	服専・生美3年
授業概要									
博物館実習は、学芸員養成教育において学んだ知識・技術や理論を生かして、館園での実体験や実技を通して、学芸員として必要とされる知識・技術等の基本を修得することを目標とする。博物館実習Ⅰでは、講義、学内実習、見学実習の三つからなる。講義では、展示企画書を作成し展示資料を展示する一連の流れを指導する。学内実習では、博物館資料の収集、整理、保管、調査研究、資料の取り扱い方法、展示などの基本事項の理解と実務実習を行う。見学実習では、一定地域の博物館を数日間見学し、利用者、学芸員の双方の立場に立って博物館の活動状況を知り博物館の現状と問題点を把握する。									
授業の到達目標									
学芸員養成教育において学んだ知識・技術や理論を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につける。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1. ガイダンス 授業の概要説明					便覧（学芸員資格）を良く読んでおく。				
2. 学外実務実習のための説明会 1 実習先希望調査					希望する実習先について調べる。				
3. 収集、整理、保管、調査の対象となる資料について 顕彰館、短大資料室見学					プリントをよく読み込み実践に備える。資料についてまとめておく。				
4. 資料の取り扱い1 短大資料の取り扱い（着物その他）					資料についてまとめておく。				
5. 外部講師 掛軸の歴史					プリントをよく読み込み実践に備える。				
6. 外部講師 表具の取り扱い 屏風 刷毛 道具					プリントをよく読み込み実践に備える。				
7. 外部講師 学芸員の仕事					プリントをよく読み込み実践に備える。				
8. 資料の取り扱い2 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）					服装について確認を行う。				
9. 資料の取り扱い3 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）					必要な用具について確認を行う。				
10. 資料の取り扱い4 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）					記録を整理する。				
11. 資料の取り扱い5 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）					記録を整理する。				
12. 展示計画1（概要説明） 学外実務実習のための説明会 2 実習先希望調査結果 調整 実習記録下書き					グループで話し合った内容をまとめる。				
13. 展示計画2（動線計画） 実習先希望調査 調整					実習先博物館等の特徴を調べる。				
14. 展示計画3（展示器具） 実習先希望調査結果 調整					実習先を調べる。				
15. 展示計画4（発表） 学外実務実習について 諸注意他					清書、証明写真を準備する。				
履修上の注意									
資格科目のため欠席のないよう望む。課題（レポート、実技）作成、発表、提出あり。									
成績評価方法・基準									
授業の取り組みに対する意欲と姿勢（40%）、見学レポート（30%）、実務実習評価（30%）で評価する。									
参考書 無し									
備考									
授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。									